

富山県南砺市

高 畠 遺 跡 宗 守 II 遺 跡

— 県営ほ場整備事業北山田中部東地区に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告 —

2012年3月
南砺市教育委員会

富山県南砺市

高 畠 遺 跡
宗 守 II 遺 跡

— 県営ほ場整備事業北山田中部東地区に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告 —

2012年3月
南砺市教育委員会

序

南砺市の中北部に位置する北山田中部東地区は、山田川左岸の河岸段丘上に位置します。県営ほ場整備事業に伴い平成19年度から試掘調査を行った結果、縄文時代から近世までの様々な遺跡を発見し、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。遺跡の大半は盛土により現地保存が図られましたが、一部の水田削平部分については平成20年度から本調査を実施し、記録保存を行ってきました。

当地区の埋蔵文化財本発掘調査は市教育委員会と民間会社で調査を実施しました。調査の結果、奈良・平安時代、中世の遺構が確認されました。また、当時の生活に用いられた土器も数多く出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。

終わりに、この調査の実施にあたり、富山県農林水産部、南砺市シルバー人材センター、ほ場整備事業北山田中部東地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大なご協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成24年3月

南砺市教育委員会

教育長 浅田 茂

例　　言

1. 本書は、県営は場跡整備事業北山山中東地区に伴う発掘調査概要である。
2. 調査は、宮山県農林水産部の委託を受け、南砺市教育委員会が実施した。地元負担金については、南砺市教育委員会が国庫補助金・県費補助金を受けた。
3. 調査事務局は南砺市教育委員会文化課においていた。年度別・調査別の各担当は以下のとおりである。

年度別	総括	調査事務	調査担当	遺跡名	地区名	調査面積
20年度	文化課長 吉田 鈴代	主幹 北島 清 主任 佐藤 圭子	文化課主任 佐藤 圭子	高畠遺跡	1地区	1,470m ²
21年度	文化課長 溝 由記男	主幹 野村 和善 主任 佐藤 圭子 主任 宮崎 順一郎	日本海航測綱 小川 韶太	宗守Ⅱ遺跡	1地区 2地区	2,116m ² 1,116m ²
			文化課主任 佐藤 圭子	宗守Ⅱ遺跡	3地区	1,450m ²
			鷹太陽測地社 吉田 寿	宗守Ⅱ遺跡	4地区	2,424m ²
			鶴エイ・テック 宮脇 満	高畠遺跡	2地区 3地区	1,062m ² 767m ²
22年度	文化課長 浦辺 一成	主幹 野村 和善 主任 宮崎順一郎	鶴エイ・ソク 内田 真一郎	宗守Ⅱ遺跡	5地区	2,046m ²
			文化課主任 宮崎順一郎	宗守Ⅱ遺跡	6地区 7地区	430m ² 880m ²
23年度	文化課長 浦辺 一成	係長 山田 修弘 主任 宮崎順一郎	文化課主任 宮崎順一郎	高畠遺跡	4地区	1,064m ²

4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表す。

株式会社森組・太崎建設株式会社・富山県砺波農林振興センター・野村清典・福田孝洋・向井作平・宗守自治会（敬称略・五十音順）

5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次の通りである。

南砺市教育委員会

浅地徹・石崎佳子・井口清・井口麗子・上田信治・置田勝子・置田保治・奥野勝子・片山行儀・高下久義・瀧山君子・道順優吉・中井達雄・中沢昭夫・中島昌治・中田暁子・中山政義・橋本滋子・林長敏・水口一義・水口則夫・水口善嗣・清口日出夫・森利通・山田きみ子・山田澄乃・山田博・吉井代枝子（現地作業員）

河合陽子・西川和美（現地調査補助及び遺物整理作業）

日本航測株式会社

荒岡健一・荒木祐子・上島勝枝・大西好夫・川向由一・久保寿中・坂下弘・滝谷昂・田中清文・田中稔・棚田賢造・谷場幸正・谷山幸男・道順優吉・中山政義・西村敏・林長敏・溝口浩・宮丸登喜雄・山田哲治・山田敏之・山村美喜子・米倉良策（現地作業員）・村上裕也・竹中庸介（調査補助員）

耕谷品・鈴木和子・鈴見徳子・田口順子・中西芳恵・中村洋子・橋本一恵・村島一美・山口美和子（遺物整理作業員）

株式会社太陽測地社

上田信治・鶴野芳隆・大川清・置田保治・片山行儀・木下実・窪田敏・高下久義・竹川定男・長沢一正・長沢健三・中島昌治・平川義久・吉田愛子・水口善嗣・清口日出夫・清口昌俊・宮川修・向川博造・矢留博・吉田一男（現地作業員）

織田山里・重原美代子（現地調査補助員）・谷野喜代子（遺物整理作業員）

株式会社エイ・テック

青能種光・荒井笑子・荒木稻子・今川孝司・上山義雄・大出賢一・小川和夫・神田道子・北川靖大・久保寿中・西庭美恵子・佐々木たつえ・沢田正夫・谷田昇平・谷崎幸正・田原弘昭・平野重則・藤井和子・松原秀雄・柳原義雄・山田和男・湯浅雅・米倉良策・伊藤敏雄・加藤弘・川口正城・川西武・久保勝義・橋本廣・橋本博・前田健次・山下昭二・山田友一
(現地作業員) 千々石直美・林衛・松本義昭 (現地調査補助員)

上山恵子・三島幸代・渡辺悦子 (遺物整理作業員)

株式会社イビズク

天池秋大・川向由一・木戸実・工藤富二・竹川定男・櫛山賢進・種部年子・得能薰・中川靖二・中川敏正・長沢一正・西村敏・溝口清・守山賢二・箭原澄子・山田敏之 (現地作業員) 斎藤亮房 (現地調査補助員) 棚瀬規子・渡辺英美子・池田心・太田美奈・片山幸恵・河合聖子・高橋智子・田所みゆき・広瀬みどり・山田里美 (遺物整理作業員)

目 次

I 位置と環境	1	図版凡例
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第19図 高畠遺跡1地区平面図
II 調査に沿る軌跡と経過	2	第20図 高畠遺跡1地区の遺構(1)
第1表 調査経過	2	第21図 高畠遺跡1地区の遺構(2)
III 調査の概要	3	第22図 高畠遺跡1地区の遺構(3)
1 調査の方法	3	第23図 高畠遺跡1地区の遺構(4)
第2表 遺跡の概要	3	第24図 高畠遺跡1地区の遺構(5)
第2図 遺跡範囲と調査区位置図	4	第25図 高畠遺跡1地区の遺構(6)
2 高畠遺跡1地区的概要	5	第26図 高畠遺跡1地区の遺構(7)
第3図 高畠遺跡1地区の基本層序	5	第27図 高畠遺跡1地区の遺構(8)
第4図 高畠遺跡1・2・3地区の調査区割	5	第28図 高畠遺跡1地区の遺構(9)
3 高畠遺跡2地区的概要	12	第29図 高畠遺跡1地区の遺構(10)
第5図 高畠遺跡2地区的基本層序	12	第30図 高畠遺跡1地区の遺構(11)
4 高畠遺跡3地区的概要	19	第31図 高畠遺跡2地区平面図
第6図 高畠遺跡3地区的基本層序	19	第32図 高畠遺跡2地区的遺構(1)
5 高畠遺跡4地区的概要	22	第33図 高畠遺跡2地区的遺構(2)
第7図 高畠遺跡4地区的基本層序	22	第34図 高畠遺跡2地区的遺構(3)
第8図 高畠遺跡4地区的調査区割	23	第35図 高畠遺跡2地区的遺構(4)
6 宗守II遺跡1地区的概要	25	第36図 高畠遺跡3地区平面図
第9図 宗守II遺跡1地区的基本層序	25	第37図 高畠遺跡3地区的遺構(1)
第10図 宗守II遺跡1地区的調査区割	26	第38図 高畠遺跡3地区的遺構(2)
7 宗守II遺跡2地区的概要	43	第39図 高畠遺跡3地区的遺構(3)
第11図 宗守II遺跡2地区的基本層序	43	第40図 高畠遺跡3地区的遺構(4)
第12図 宗守II遺跡2・3・4地区的調査区割	44	第41図 高畠遺跡3地区的遺構(5)
8 宗守II遺跡3地区的概要	48	第42図 高畠遺跡4地区平面図
第13図 宗守II遺跡3地区的基本層序	48	第43図 高畠遺跡4地区的遺構(1)
9 宗守II遺跡4地区的概要	54	第44図 高畠遺跡4地区的遺構(2)
第14図 宗守II遺跡4地区的基本層序	54	第45図 宗守II遺跡1地区平面図
10 宗守II遺跡5地区的概要	58	第46図 宗守II遺跡1地区的遺構(1)
第15図 宗守II遺跡5地区的基本層序	58	第47図 宗守II遺跡1地区的遺構(2)
第16図 宗守II遺跡5・6・7地区的調査区割	59	第48図 宗守II遺跡1地区的遺構(3)
11 宗守II遺跡6地区的概要	64	第49図 宗守II遺跡1地区的遺構(4)
第17図 宗守II遺跡6地区的基本層序	64	第50図 宗守II遺跡1地区的遺構(5)
12 宗守II遺跡7地区的概要	66	第51図 宗守II遺跡1地区的遺構(6)
第18図 宗守II遺跡7地区的基本層序	66	第52図 宗守II遺跡1地区的遺構(7)
IV まとめ	70	第53図 宗守II遺跡1地区的遺構(8)
参考文献	74	第54図 宗守II遺跡1地区的遺構(9)

- 第55図 宗守II遺跡1地区の遺構 (10)
 第56図 宗守II遺跡1地区の遺構 (11)
 第57図 宗守II遺跡1地区の遺構 (12)
 第58図 宗守II遺跡1地区の遺構 (13)
 第59図 宗守II遺跡1地区の遺構 (14)
 第60図 宗守II遺跡1地区の遺構 (15)
 第61図 宗守II遺跡1地区の遺構 (16)
 第62図 宗守II遺跡1地区の遺構 (17)
 第63図 宗守II遺跡2地区平面図
 第64図 宗守II遺跡2地区の遺構 (1)
 第65図 宗守II遺跡2地区の遺構 (2)
 第66図 宗守II遺跡2地区の遺構 (3)
 第67図 宗守II遺跡2地区の遺構 (4)
 第68図 宗守II遺跡2地区の遺構 (5)
 第69図 宗守II遺跡3地区平面図
 第70図 宗守II遺跡3地区的遺構 (1)
 第71図 宗守II遺跡3地区的遺構 (2)
 第72図 宗守II遺跡3地区的遺構 (3)
 第73図 宗守II遺跡3地区的遺構 (4)
 第74図 宗守II遺跡3地区的遺構 (5)
 第75図 宗守II遺跡3地区的遺構 (6)
 第76図 宗守II遺跡3地区的遺構 (7)
 第77図 宗守II遺跡3地区的遺構 (8)
 第78図 宗守II遺跡3地区的遺構 (9)
 第79図 宗守II遺跡4地区平面図
 第80図 宗守II遺跡4地区的遺構 (1)
 第81図 宗守II遺跡4地区的遺構 (2)
 第82図 宗守II遺跡4地区的遺構 (3)
 第83図 宗守II遺跡4地区的遺構 (4)
 第84図 宗守II遺跡4地区的遺構 (5)
 第85図 宗守II遺跡4地区的遺構 (6)
 第86図 宗守II遺跡5地区平面図
 第87図 宗守II遺跡5地区的遺構 (1)
 第88図 宗守II遺跡5地区的遺構 (2)
 第89図 宗守II遺跡5地区的遺構 (3)
 第90図 宗守II遺跡5地区的遺構 (4)
 第91図 宗守II遺跡5地区的遺構 (5)
 第92図 宗守II遺跡5地区的遺構 (6)
 第93図 宗守II遺跡6・7地区平面図
 第94図 宗守II遺跡6地区的遺構 (1)
 第95図 宗守II遺跡6地区的遺構 (2)
 第96図 宗守II遺跡7地区的遺構 (1)
 第97図 宗守II遺跡7地区的遺構 (2)
 第98図 高畠遺跡1地区的遺物 (1)
 第99図 高畠遺跡1地区的遺物 (2)
 第100図 高畠遺跡1地区的遺物 (3)
 第101図 高畠遺跡1地区的遺物 (4)
 第102図 高畠遺跡1地区的遺物 (5)
 第103図 高畠遺跡1地区的遺物 (6)
 第104図 高畠遺跡1地区的遺物 (7)
 第105図 高畠遺跡1地区的遺物 (8)
 第106図 高畠遺跡1地区的遺物 (9)
 第107図 高畠遺跡1地区的遺物 (10)
 第108図 高畠遺跡1地区的遺物 (11)
 第109図 高畠遺跡2地区的遺物 (1)
 第110図 高畠遺跡2地区的遺物 (2)
 第111図 高畠遺跡2地区的遺物 (3)
 第112図 高畠遺跡2・3地区的遺物
 第113図 高畠遺跡4地区的遺物 (1)
 第114図 高畠遺跡4地区的遺物 (2)
 第115図 高畠遺跡4地区的遺物 (3)
 第116図 高畠遺跡4地区的遺物 (4)
 第117図 宗守II遺跡1地区的遺物 (1)
 第118図 宗守II遺跡1地区的遺物 (2)
 第119図 宗守II遺跡1地区的遺物 (3)
 第120図 宗守II遺跡1地区的遺物 (4)
 第121図 宗守II遺跡2地区的遺物
 第122図 宗守II遺跡3地区的遺物 (1)
 第123図 宗守II遺跡3地区的遺物 (2)
 第124図 宗守II遺跡3地区的遺物 (3)
 第125図 宗守II遺跡3地区的遺物 (4)
 第126図 宗守II遺跡3地区的遺物 (5)
 第127図 宗守II遺跡3地区的遺物 (6)
 第128図 宗守II遺跡3地区的遺物 (7)
 第129図 宗守II遺跡4地区的遺物 (1)
 第130図 宗守II遺跡4地区的遺物 (2)
 第131図 宗守II遺跡4地区的遺物 (3)
 第132図 宗守II遺跡5地区的遺物 (1)
 第133図 宗守II遺跡5地区的遺物 (2)
 第134図 宗守II遺跡6地区的遺物 (1)
 第135図 宗守II遺跡6地区的遺物 (2)
 第136図 宗守II遺跡7地区的遺物 (1)
 第137図 宗守II遺跡7地区的遺物 (2)
 図版1 高畠遺跡1地区的遺構 (1)
 図版2 高畠遺跡1地区的遺構 (2)
 図版3 高畠遺跡1地区的遺構 (3)
 図版4 高畠遺跡1地区的遺構 (4)
 図版5 高畠遺跡1地区的遺構 (5)
 図版6 高畠遺跡1地区的遺構 (6)
 図版7 高畠遺跡1地区的遺構 (7)
 図版8 高畠遺跡1地区的遺構 (8)
 図版9 高畠遺跡2・3地区的遺構
 図版10 高畠遺跡2地区的遺構
 図版11 高畠遺跡3地区的遺構
 図版12 高畠遺跡2地区的遺構 (1)
 図版13 高畠遺跡2地区的遺構 (2)
 図版14 高畠遺跡2地区的遺構 (3)
 図版15 高畠遺跡2地区的遺構 (4)
 図版16 高畠遺跡2地区的遺構 (5)
 図版17 高畠遺跡2地区的遺構 (6)

- 図版18 高畠遺跡3地区の遺構（1）
図版19 高畠遺跡3地区の遺構（2）
図版20 高畠遺跡3地区的遺構（3）
図版21 高畠遺跡3地区的遺構（4）
図版22 高畠遺跡3地区的遺構（5）
図版23 高畠遺跡3地区的遺構（6）
図版24 高畠遺跡3地区的遺構（7）
図版25 高畠遺跡4地区の遺構（1）
図版26 高畠遺跡4地区の遺構（2）
図版27 宗守II遺跡1地区的全景
図版28 宗守II遺跡1地区的遺構（1）
図版29 宗守II遺跡1地区的遺構（2）
図版30 宗守II遺跡1地区的遺構（3）
図版31 宗守II遺跡1地区的遺構（4）
図版32 宗守II遺跡1地区的遺構（5）
図版33 宗守II遺跡1地区的遺構（6）
図版34 宗守II遺跡1地区的遺構（7）
図版35 宗守II遺跡1地区的遺構（8）
図版36 宗守II遺跡1地区的遺構（9）
図版37 宗守II遺跡1地区的遺構（10）
図版38 宗守II遺跡1地区的遺構（11）
図版39 宗守II遺跡1地区的遺構（12）
図版40 宗守II遺跡1地区的遺構（13）
図版41 宗守II遺跡1地区的遺構（14）
図版42 宗守II遺跡2地区的全景
図版43 宗守II遺跡2地区的遺構（1）
図版44 宗守II遺跡2地区的遺構（2）
図版45 宗守II遺跡2地区的遺構（3）
図版46 宗守II遺跡2地区的遺構（4）
図版47 宗守II遺跡3地区的遺構（1）
図版48 宗守II遺跡3地区的遺構（2）
図版49 宗守II遺跡3地区的遺構（3）
図版50 宗守II遺跡3地区的遺構（4）
図版51 宗守II遺跡3地区的遺構（5）
図版52 宗守II遺跡3地区的遺構（6）
図版53 宗守II遺跡3地区的遺構（7）
図版54 宗守II遺跡3地区的遺構（8）
図版55 宗守II遺跡4地区的遺構（1）
図版56 宗守II遺跡4地区的遺構（2）
図版57 宗守II遺跡4地区的遺構（3）
図版58 宗守II遺跡4地区的遺構（4）
図版59 宗守II遺跡4地区的遺構（5）
図版60 宗守II遺跡4地区的遺構（6）
図版61 宗守II遺跡5地区的遺構（1）
図版62 宗守II遺跡5地区的遺構（2）
図版63 宗守II遺跡5地区的遺構（3）
図版64 宗守II遺跡5地区的遺構（4）
図版65 宗守II遺跡5地区的遺構（5）
図版66 宗守II遺跡5地区的遺構（6）
図版67 宗守II遺跡5地区的遺構（7）
図版68 宗守II遺跡5地区的遺構（8）
図版69 宗守II遺跡6地区的全景
図版70 宗守II遺跡6地区的遺構（1）
図版71 宗守II遺跡6地区的遺構（2）
図版72 宗守II遺跡7地区的全景
図版73 宗守II遺跡7地区的遺構（1）
図版74 宗守II遺跡7地区的遺構（2）
図版75 高畠遺跡1地区的遺物（1）
図版76 高畠遺跡1地区的遺物（2）
図版77 高畠遺跡1地区的遺物（3）
図版78 高畠遺跡1地区的遺物（4）
図版79 高畠遺跡1地区的遺物（5）
図版80 高畠遺跡1地区的遺物（6）
図版81 高畠遺跡1地区的遺物（7）
図版82 高畠遺跡1地区的遺物（8）
図版83 高畠遺跡2地区的遺物（1）
図版84 高畠遺跡2地区的遺物（2）
図版85 高畠遺跡2地区的遺物（3）
図版86 高畠遺跡2・3地区的遺物（4）
図版87 高畠遺跡4地区的遺物（1）
図版88 高畠遺跡4地区的遺物（2）
図版89 高畠遺跡4地区的遺物（3）
図版90 高畠遺跡4地区的遺物（4）
図版91 宗守II遺跡1地区的遺物（1）
図版92 宗守II遺跡1地区的遺物（2）
図版93 宗守II遺跡1地区的遺物（3）
図版94 宗守II遺跡1地区的遺物（4）
図版95 宗守II遺跡1地区的遺物（5）
図版96 宗守II遺跡1地区的遺物（6）
図版97 宗守II遺跡1地区的遺物（7）
図版98 宗守II遺跡2地区的遺物（1）
図版99 宗守II遺跡2地区的遺物（2）
図版100 宗守II遺跡3地区的遺物（1）
図版101 宗守II遺跡3地区的遺物（2）
図版102 宗守II遺跡3地区的遺物（3）
図版103 宗守II遺跡3地区的遺物（4）
図版104 宗守II遺跡4地区的遺物（1）
図版105 宗守II遺跡4地区的遺物（2）
図版106 宗守II遺跡4地区的遺物（3）
図版107 宗守II遺跡4地区的遺物（4）
図版108 宗守II遺跡5地区的遺物（1）
図版109 宗守II遺跡5地区的遺物（2）
図版110 宗守II遺跡6地区的遺物（1）
図版111 宗守II遺跡6地区的遺物（2）
図版112 宗守II遺跡6地区的遺物（3）
図版113 宗守II遺跡7地区的遺物（1）
図版114 宗守II遺跡7地区的遺物（2）
図版115 宗守II遺跡7地区的遺物（3）

I 位置と環境

南砺市は富山県の西南部端に位置する。市の西側には養老3年(719)、泰澄大師によって開山されたと言われる靈峰医王山をはじめとする山脈が連なる。市の南側に位置し石川県白山市との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縱横に走り、それらを利用した田地が広がる。高畠遺跡・宗守II遺跡は、山田川左岸の緩やかな傾斜を持つ洪積台地上に位置し、標高約77~84mを測る。現況は主に田地・畑地である。分布調査や試掘調査から縄文・古代・中世の散布地および集落であることが知られている。

周辺の遺跡には宗守城跡・宗守寺屋敷遺跡・宗守遺跡・神成遺跡・梅原胡摩堂遺跡・東殿II遺跡・東殿III遺跡などがある。近年の調査で、古墳時代・奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また墨書き器や製塙土器なども出土しており、一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が礪波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。



1. 高畠遺跡
2. 宗守II遺跡
3. 梅原加賀坊遺跡
4. 在房遺跡
5. 梅原落戸遺跡
6. 久戸II遺跡
7. 久戸遺跡
8. 久戸東遺跡
9. 梅原胡摩堂遺跡
10. 神成遺跡
11. 安楽寺跡
12. 宗守遺跡
13. 宗守III遺跡
14. 宗守城跡・宗守寺屋敷遺跡
15. THJ-15遺跡
16. 鐵治三十三塚
17. 鐵治遺跡
18. 東殿II遺跡
19. 東殿IV遺跡
20. 東殿III遺跡
21. 東殿遺跡
22. 德成II遺跡

第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1/125,000)

II 調査に至る経緯と経過

平成16年度、県営担い手育成基盤整備事業が南砺市高畠、鐵治、宗守地区を中心とする北山田中部地区において策定された。この事業は、農業の生産性向上を目的として、その生産基盤であるほ場条件を整備し、農地の条積化、農地の担い手育成を図ることを併せて、農村集落の活性化を目指したものであった。ほ場は、すでに昭和30年代に団体営耕地整備事業が実施され、10a区画(50m×20m)が主となっていたところを、今回の事業で標準区画1.0ha(150m×70m)に再区画する計画となっていた。しかしながら、事業対象地区に隣接する北山田北部地区、北山田南部地区や近隣の梅原地区では、同様のほ場整備事業が実施された際に多数の遺跡を確認していたため、同地区にも遺跡が多く存在する可能性があった。このことから、南砺市教育委員会では平成16年12月に地区内の詳細分布調査を実施したところ、広範囲で遺物の散布を確認し、新たに4遺跡を発見した。この結果を受け、市教委と富山県で取扱について協議を行い、試掘調査を実施し、遺跡の遺存状況確認及びほ場整備事業での田面計画調整のための資料として遺跡遺存高を標高で把握する作業を行った。試掘調査は、平成19年度から実施した。調査対象地区の大部分で遺跡が遺存していたことから、南砺市と富山県砺波農地林務事務所(現砺波農林振興センター)が協議し、施工の際は遺跡の大多数は盛土により保存し、やむを得ず削平する田面部分について本調査を行い、幅員狭小の用排水路、表面直下の浅い箇所に遺跡が存在する箇所等については工事立会対応とした。中途で、事業の便宜上、北山田中部地区は地区の中央を流れる権現堂川を境とし、東側を北山田中部東地区、西側を北山田中部西地区とした。対象地区本調査は、ほ場整備施工計画に合わせ平成20年度から実施し、平成23年度に終了した。

北山田中部東地区に所在する遺跡の、これまでの調査面積は次のとおりである。

第1表 調査経過

	遺跡名	試掘調査対象面積	本調査面積	備考
平成19年度	高畠遺跡	約16.8ha	—	
	東殿Ⅲ遺跡	約1.4ha	—	
平成20年度	宗守Ⅱ遺跡	約15.0ha	—	
	高畠遺跡		1,470m ²	
平成21年度	高畠遺跡	約1.3ha	1,829m ²	民間委託
	宗守遺跡	約0.5ha		
平成22年度	宗守Ⅱ遺跡	約7.8ha	7,106m ²	うち5,656m ² 民間委託
平成23年度	高畠遺跡	—	3,356m ²	うち2,046m ² 民間委託
			1,064m ²	

III 調査の概要

1. 調査の方法

調査区域の設定後、試掘調査の結果に基づき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回は場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

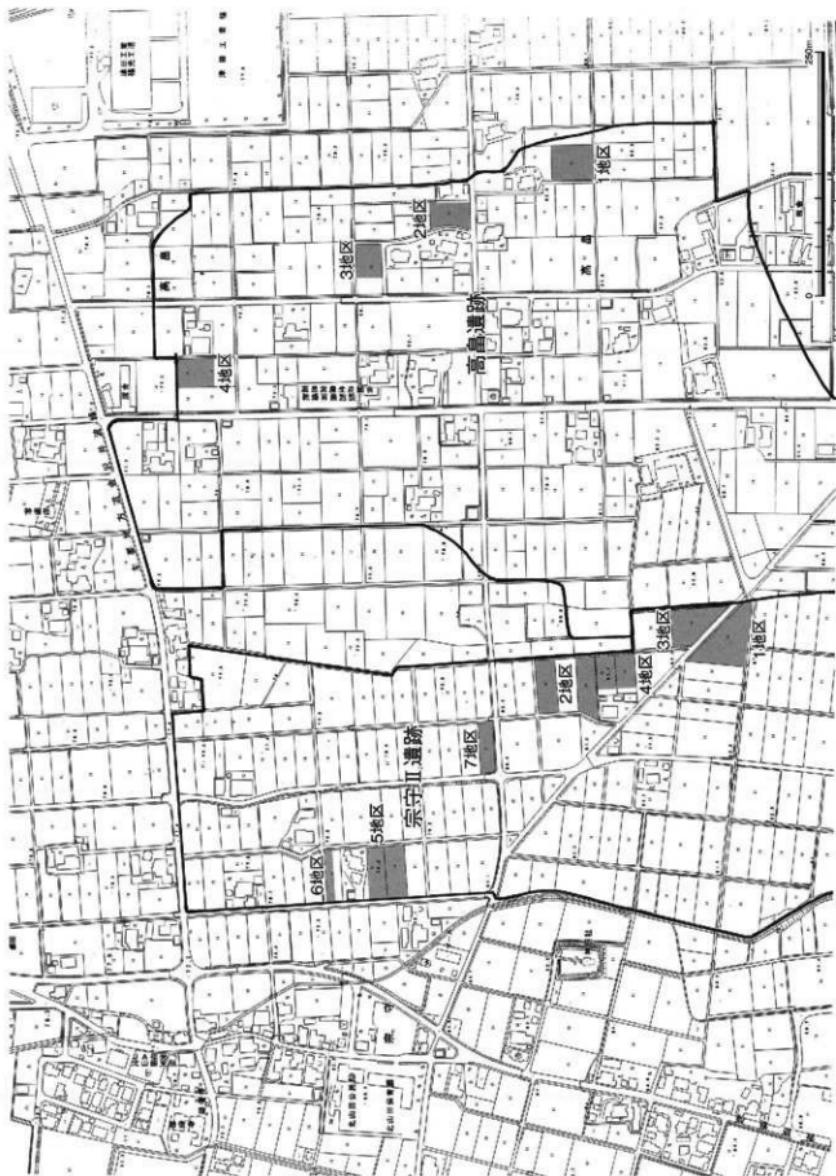
調査区に合わせてサブトレーナーを設定し、地表面まで掘り下げる層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半載するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、土層の記録作業が終わりしだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は、調査員と調査補助員が手実測により1:20で図化した。各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構完掘終了後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。遺物実測やトレース等は基準を統一し、調査員と整理員で図版を作成した。写真や図面は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリット毎にならべて整理箱に収めた。

第2表 遺跡の概要

遺跡名	所属時代	発見された遺構	発見された遺物
東殿Ⅲ遺跡	縄文時代後期、古代、中世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、須恵器、土師器、叩石、越前、珠洲、中世土師器
宗守遺跡	縄文時代中・晩明、中世、近世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、石斧、土師器、須恵器、中世土師器
宗守Ⅱ遺跡	縄文時代晚期、古代、中世	柱穴、土坑、溝	縄文土器、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸、越前
高島遺跡	縄文時代晚期、弥生、古代、中世	竪穴住居、掘立柱建物、柱穴、土坑、溝	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、瀬戸、青磁、越前、越中瀬戸



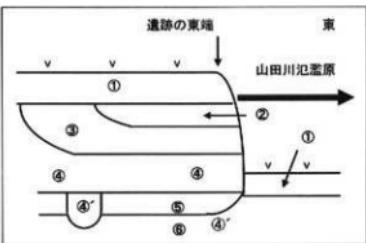
第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1/5,000)

2 高畠遺跡1地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第2・3図)

本調査区は、山田川左岸河岸段丘上の尖端、遺跡の南東部端に位置する。地形は、西側から東側に向けて緩やかに傾斜する。標高は約79.80～80.10mを測る。

基本層序は、①耕作土、②灰褐色粘質土（盛土）、③黒褐色粘質土（中世の遺物包含層）、④黒色粘土（古代以前の遺物包含層）、⑤黄褐色粘質土（地山1）、⑥黄褐色砂礫土（地山2）である。③の層は調査区内北側に存在するものの、本調査区では中世の遺物出土量は極めて少なく、中世の遺構も無い。④の古代遺構は、調査区北側では④の古代遺物包含層から掘り込んでおり、南側では上面を後世に削平され耕土



第3図 高畠遺跡1地区の基本層序



第4図 高畠遺跡1・2・3地区の調査区割 (S=1/2,000)

直下で確認できる。昭和30年代に実施されたは場整備等で削平された箇所が多く、調査区内南側では②、③、④の層がなく、⑥の地山層が広範囲で露出している。

(2) 遺構の概要 (第19~30図、図版1~8)

本地区では、古代の堅穴建物（堅穴住居）跡約10棟、掘立柱建物跡1棟、人溝1条、小溝2条、土坑約10基、畝状造構、その他小穴等を確認した。遺構の帰属時期は、概ね8世紀中頃から後半、9世紀前半の二時期となる。

SI01 (第20図、図版2)

調査区の北西側、X 15~17、Y 1.5~3.5に位置する。長軸が南北方向に3.5m、短軸が東西方向に3.2m、深さ0.24mを測る。遺構の軸方向は、N-16°-Wである。壁面の立ち上がりはゆるやかで、床面は平坦である。南東隅にかまどを有する。遺構の南東側をSB01に切られる。埋土は黒褐色土に地山土がブロック状に混じる。出土遺物には、須恵器・甕、杯、杯蓋、壺、土師器・甕、鍋がある。これらの遺物から、遺構は8世紀後半に存在したと考えられる。

SI02・03 (第21図、図版2・3)

調査区北側、X 17~19、Y 4.5~9に位置する。SI02は長軸が東西方向に4.3m以上、短軸が南北方向に2.1m以上、深さ0.06m、SI03は長軸が南北方向に4.3m、短軸が東西方向に4.0m、深さ0.18~0.22mを測る。SI02、03とも遺構は北側の調査区外へ伸びている。2基とも、上面に後世のかく乱を受けている。遺構の軸方向は、2基ともほぼ真北である。壁面の立ち上がりはゆるく、床面は平坦である。埋土は黒褐色土に黄褐色土が混じり、床面は固く締まっている。SI03はSI02を切っている。SI02の出土遺物には、須恵器・甕、土師器・甕、内面黑色土器・碗がある。SI03では、須恵器・蓋、杯、土師器・甕、碗、鉄製品（釘）が出土している。これらの遺物から、SI02、SI03とも9世紀前半から中頃に存在し、SI02が先に存在したと考えられる。

SI04・05・06 (第23・24図、図版3・4)

調査区中央のやや北側、X 13~16、Y 6~9に位置する。3基が切りあっている。SI04は長軸が東西に約2.7m以上、短軸が南北方向に約2.7m、深さ約0.18~0.24m、SI05は長軸が東西方向に約4.5m、短軸が南北方向に約3.4m、深さ約0.28~0.3m、SI06は長軸が南北方向に約2.8m以上、短軸が東西方向に3.6m、深さ0.3mを測る。遺構の軸方向は、SI04がN-11°-Wで、SI05がN-22°-Wである。SI06の軸方向は、その北側2.0mに位置するSI03と同様で、ほぼ真北を向いている。SI05、SI06は南東隅にかまどを有する。SI05のかまどは、焚口であろう箇所に焼土があり、煙道が南側に伸びる。SI06のかまどは、焼土、袖石を残す。3基とも壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦であり、数基の小穴を持つ。埋土は、SI04が黒褐色粘質土にオリーブ褐色土、鉄分を含み、SI05は黒褐色土にオリーブ褐色土が少量混じる。SI06は黒褐色土にオリーブ褐色土、炭、鉄分が混じる。出土遺物には、SI04には土師器・甕の口縁部、須恵器・杯蓋、SI05からは須恵器・甕、杯、蓋、土師器・甕、鍋、碗（赤彩）が出土している。SI06には、須恵器・杯、甕、杯蓋、壺、土師器・甕、小梨甕、長胴甕があり、数点は遺構内北側から完形もしくは完形に近い形で出土している。またSI06からは、小刀状の金属製品が出土している。金属製品は、遺構内南西隅に土師器・小型甕とともに配置されていた。埋土の状況から、切り合はSI04 < SI05 < SI06となる。出土遺物、切り合の状況から、SI04は8世紀中頃、SI05は8世紀後半、SI06は9世紀前半に存在したと考えられる。

SI07 (第22・25図、図版5)

調査区の北側、X 17.5～19、Y 9.5～11に位置する。長軸が南北方向に3.5m、短軸が東西方向に3.2m、深さ0.26mを測る。遺構の軸方向は、N-5°-Wである。南東隅にかまどを有する。遺構外には、南北約1.5m、東西約0.5mの煙道口がある。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。埋土は黒褐色土に黄褐色土が混じり、炭、鉄分を含む。出土遺物には、須恵器・杯、壺、土師器・壺、鍋、鉢がある。これらの遺物から、遺構は9世紀前半に存在したと考えられる。

SI08 (第25・27図、図版5)

調査区の北西側、X 13～15、Y 0～1に位置する。南北方向に3.5m、東西方向に1.2m以上、深さ0.6mを測る。遺構の軸方向は、N-9°-Wである。南東隅遺構外に、埋土に焼土、炭を含む煙道らしき溝が伸びる。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は丸味を帯びる。遺構の大半は、調査区外西側にある。埋土は黒褐色粘質土に黄褐色土がブロック状に大量に混じる。炭を大量に含む。出土遺物には、須恵器・杯、杯蓋、壺、弥生土器・壺、土師器・壺、鍋がある。これらの遺物から、遺構は8世紀末前後に存在したと考えられる。

SI09 (第26図、図版6)

調査区中央やや東側、X 9～12、Y 10.5～12.5に位置する。一辺約4.0mの方形を呈し、深さ0.1mを測る。遺構の軸方向は、N-5°-Eである。遺構の南側0.3～0.5mは、SD01に切られている。北東隅には焼土、炭が広範囲に広がり、袖石らしき石も残ることから、かまと跡と考えられる。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦であるが砂砾層の地山が目立つ。埋土は黒褐色土に黄褐色土が混じる。出土遺物には、須恵器・壺、杯、土師器・壺、碗、土師質・杯がある。

SI12 (第26図、図版6)

調査区やや北東側、X 15～17.5、Y 11～13に位置する。北東から南西方向に長軸5.5m以上、北西から南東方向に短軸4.4m以上、深さ0.14mを測る。平面形は不整形である。遺構の軸方向は、N-16.5°-Wである。壁面の立ち上がりは急で、床面は平坦である。埋土は黒褐色土に暗オリーブ褐色土、鉄分が混じる。出土遺物には、須恵器・壺、杯、土師器・壺、碗、土師質・杯がある。

SB01 (第28図、図版7)

調査区北西側、X 13.5～17、Y 3～6に位置する。桁行5.3m、梁行4.4mの側柱建物である。柱穴は、直径0.4～0.7mの円形を呈しており、深さ0.2～0.5mを測る。遺構の軸方向は、N-11°-Wである。これは、SI01、SI04と同様である。SI01を切っている。埋土は黒褐色土に黄褐色土、炭が混じる。抜取痕から、柱は直径約0.14～0.2mと考えられる。出土遺物には、須恵器・壺、壺、土師器・壺、土師質・杯がある。これらの遺物から、遺構は8世紀後半から9世紀初頭に存在したと考えられる。

SD01 (第19・30図、図版1・6)

調査区南側中央から西側中央、X 0～13、Y 0～12に位置する。溝は調査区中央で西側にクランクする。幅5.0m～11.5m、深さ0.3～0.6mを測り、断面形は緩やかなすり鉢状を呈する。埋土は黒褐色土に鉄分、炭が混じる。流れは、調査区外の南から調査区外の北西に向かっている。出土遺物には、須恵器・壺、杯、蓋、碗、壺、弥生土器・高杯、壺、土師器・壺、紡錘車があり、この調査区での出土遺物の約4分の1がこの遺構から出土している。これらの遺物から、遺構は8世紀後半から9世紀に存在したと考えられる。弥生土器等の遺物出土量は少量であることから、混入と考える。

SD02 (第19・30図、図版1・8)

調査区東側、X 0～10、Y 14～15.5に位置する。幅0.4m～0.8m、深さ0.18～0.2mを測り、断面形は緩やかなすり鉢状を呈する。埋土は黒褐色土に黄褐色土が混じる。流れは、調査区外の南から調査区外の北東に向かっている。出土遺物には、弥生土器・壺、高杯、土師器・壺、椀がある。

SK03（第19・30図、図版1・8）

調査区北東側、X 13～19、Y 12.5～15に位置する。幅1.5m～1.8m、深さ0.22～0.44mを測り、断面形は緩やかなすり鉢状を呈する。埋土は黒褐色土に黒褐色土が混じり、一部大量に炭、焼土を含む箇所がある。流れは、南から北西に向かっている。出土遺物には、須恵器・杯、蓋、壺、土師器・壺、皿、皿、赤彩椀、高杯、鉄釘がある。これらの遺物から、遺構は9世紀代に存在したと考えられる。

SK01（第19・30図、図版1）

調査区西側中央、X 12～14、Y 2.5～3.5に位置する。直径約1.5mのほぼ円形の土坑である。深さは約0.45mを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は丸い。埋土は黒褐色土に暗灰黄色土が混じり、炭、鉄分を含む。SD01を切っている。出土遺物には、須恵器・蓋、土師器・壺がある。遺物が少ないものの、切り合い状況から、遺構は9世紀前後に存在したと考えられる。

SK03（第29図、図版1）

調査区北東側、X 13～15、Y 12～14に位置する。長軸が東西方向に約2.0m、短軸が南北方向に約1.4m、深さ0.2mを測り、東西に長い方形を呈する。壁面の立ち上がりは緩やかで、床面は平坦である。埋土は黒褐色土が主体である。出土遺物には、土師器・椀、内面黒色土器・椀がある。

SK04（第29図、図版1）

調査区北東側、X 15～16.5、Y 9.5～11に位置する。長軸が南北方向に約3.0m、短軸が東西方向に約2.5m、深さ約0.4mを測る。方形を呈する。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。床面には、7の小穴を持つ。埋土は黒褐色土に黄褐色土を大量に含み、炭も混じる。出土遺物には、須恵器・杯、蓋、土師器・壺、椀、赤彩椀があり、これらの遺物から、遺構は9世紀前半に存在したと考えられる。

SK06（第29図、図版6）

調査区中央、X 15.5～17、Y 8.5～9.5に位置する。長軸が南北方向に約3.0m、短軸が東西方向に約2.5m、深さ0.16～0.2mを測る。不整形の土坑である。位置関係から、SI06に付属する施設と考えられる。壁面の立ち上がりはゆるやかで、床面は平坦で、小穴が数基確認できる。埋土は黒褐色粘質土、暗オリーブ褐色粘質土に炭が混じる。出土遺物には、須恵器・壺、蓋、杯、土師器・壺、椀、鉢があり、これらの遺物から、遺構は9世紀前半に存在したと考えられる。

SK08（第29図、図版1）

調査区中央東寄り、X 13～14.5、Y 11.5～12.5に位置する。長軸が南北方向に約2.8m、短軸が東西方向に約1.4m、深さ0.16～0.18mを測る。不整形の土坑である。壁面の立ち上がりはゆるやかで、床面は平坦で、小穴が数基確認できる。埋土は黒褐色土に鉄分を含む。出土遺物には、土師器・壺、椀があり、これらの遺物から、遺構は9世紀前半に存在したと考えられる。

SK01・02・03・04（第19・30図、図版8）

調査区中央から南側にかけて広がる小溝群である。X 0～9、Y 0～14に位置する。小溝の規模は、幅0.2～0.3m、深さ0.1～0.2mを測る。断面形は緩やかなすり鉢状を呈する。溝群の軸方向は、N-22°-Eである。細長い溝が、7、8本単位で直交している畝状遺構であり、占める面積は、約350m²となる。埋土は黒褐色土にオリーブ褐色土が少量混じる。出土遺物には、土師器・壺、高杯、赤彩椀があり、

これらの遺物、SD01に切られていることから、遺構は8世紀中頃から後半に存在したと考えられる。

(3) 遺物の概要（第98～108図、図版75～82）

弥生時代終末期の弥生土器、古代の土師器、須恵器、鉄製品（小刀状）、越前・唐津（中世以降）が整理箱で32箱出土した。古代の遺物は、概ね8世紀前半から9世紀に属する。以下、図化したものについて記述する。

S101（第98図、図版75）

1は須恵器・壺の体部である。丸い体部に外面は平行線状、内面は同心円状のタタキを施す。2は須恵器・杯である。焼成状態が悪く、胎土は黄褐色を呈する。3～5は土師器・壺の口縁部である。いずれも口縁部が大きく外反し、4は口縁端部を大きく面取りする。頸部に炭化物の付着がある。6、7は土師器・壺の底部である。いずれも胎土に2mm大の石英が多く混じる。

S102（第98図、図版75）

8は内面黒色土器・椀の口縁部である。内面にミガキを施す。

S103（第98図、図版75）

9～14、17・18は、土師器・壺である。9～12は口縁部から体部にかけての破片である。9、10は口径20～23cmを測る。9は口縁端部がやや内側を向き、内外面の広範囲に煤が付着している。10は口縁端部を内側に折り込んでいる。11、12は口径約12.5cmを測る小型の壺である。口縁端部は直立し、頸部は「く」の字状に屈曲する。13、14は底部である。13は外面をケズり、内面をハケで調整している。18は体部である。外面はケズり、内面には同心円状のタタキを施す。17は外面に平行線状のタタキを施す。15、16は須恵器である。15は杯蓋で、胎土には2mm大の石英が多く混じる。16は無高台の杯である。口縁はやや外反し、罐部は丸い。焼成状態が悪く、胎土は乳白色を呈す。

S104（第99図、図版76）

19は土師器・壺の口縁部である。口縁端部は大きく外反する。焼成状態が悪く、内面はハケメを施す。

S105（第99図、図版76）

20～23、26は土師器である。20は鉢である。体部から口縁は球形を呈する。ハケメを施したのちナデしている。21は壺の底部である。22、23は壺の口縁部である。22は口縁端部を外に折り曲げて丸めている。23は頸部が「く」の字状を呈し、内外面にハケメを施す。26は鍋である。外反した口縁の端部を厚く面取りする。丸い体部の外面上方にケズり、下方にはタタキを施す。内面には炭化物がある。24・25・27・28は須恵器である。24は杯蓋である。つまみは比較的小さく、丸く膨らむ。25は高台付きの杯であり、高台はやや内傾する。24、25とも2、3mmの石英を多く含む。27、28は無高台の杯であり、27は焼成状態が悪く、胎土は茶褐色を呈し、5mm大の石を含む。28は口縁がやや外反し、底面に回転ヘラキリ痕を残す。

S106（第99・100図、図版76・78）

29、30、32、38～41は土師器である。29は壺である。頸部から体部はやや丸く広がる。体部外面中央はケズり、口縁端部内面には沈線が一条ある。30は土師器・鉢の口縁部である。32は土師器・壺の底部である。38は壺の口縁部である。口縁直下で大きく屈曲する。39～41は口径12～14cmを測る小型の壺である。内外面をハケメで調整したのちナデを施す。40は口縁がやや長めに外反する。41は丸い体部を持ち、球状にちかい。31、33、34～37は須恵器である。31、36、37は無高台の杯である。ともに焼成状態が悪く、胎土は黄褐色を呈する。36、37は底面に回転ヘラキリ痕がある。33は杯蓋である。つまみは直径約3cmを測り、上に大きく突き出る。口縁端部は丸くおさめる。34は高台付きの杯である。口径約10cm

とやや小ぶりであり、焼成状態が悪い。見込みにはヘラケズリがある。42は小刀状鉄製品である。

S107 (第100図、図版77)

43～50は土師器である。43、45～49は壺の口縁部である。43は短い口縁がやや外反し、体部は垂直におちる。体部外面には炭化物が付着する。45は頸部下で器壁に厚みを持ち、内外面にはっきりしたハケメ調整を残す。46、47は口縁から頸部が「く」の字状を呈し、内外面にハケメを施す。48は外面にケズリを施す。44は鍋である。口縁は大きく外反し、外面はミガキ、内面に當て具痕がある。50は土師器・鉢である。外面下半をケズリ、内面はハケメ調整である。51は須恵器・杯である。無高台であり、胎土は橙色を呈する。

S108 (第101・102図、図版77・78・80)

52～55、57～60は土師器である。52、53は壺の口縁部である。52は口縁が大きく外反し、外面をケズリ、ハケで調整している。54は壺である。大きく外反する口縁に球形の体部を持つ。内外面はケズリのちハケメ調整であり、体部中央外面には炭化物が付着する。55は大型壺の底部である。57、58は長胴壺である。いずれも短い口縁がやや外反し、底面まで22、23cmの長い体部が垂直に伸びる。内外面をケズリのちハケメ調整している。59は壺の底部である。60は鉢である。外面にミガキを施す。

56、61～67は須恵器である。56は壺の底部である。61～63は杯蓋である。61はつまみが平坦で、肩部で器壁が厚みをもつ。62、63は5mm大の石英を多く含み、口縁端部をやや丸くおさめる。64、66は高台付きの杯である。64はやや焼成状態が悪く、66は高台が内傾する。いずれも、見込みにはヘラケズリ痕がある。65、67は無高台の杯である。いずれも口縁がやや外に直線的に開き、底面にはヘラケズリ痕がある。

S109 (第102図、図版79)

68～75、79は土師器である。68は長胴壺である。短い口縁部は外反し、内外面をハケメで調整したのち、撫でている。69、70は小型の壺である。69の口縁部の内外面には炭化物が付着する。70は口縁端部に厚みを持つ。71、72は壺である。71は内外面をハケメで調整し、口縁端部を面取りする。72は口縁端部を丸く内側に折り込んでいる。73、74は壺の底盤である。73は胎土に小石が混じり、粗雑な作りである。75は内外面に赤彩を施した碗である。79は壺の体部破片である。体部上方の内外面にはハケメ、体部下方の外面は平行線状、内面に同心円状のタキを施す。76～78は須恵器である。いずれも焼成状態が悪い。76は無高台の杯であり、体部中央で段を持つ。底面を回転ヘラケズリで切り離している。77、78は杯である。器壁は底面近くで厚みを持ち、口縁は直線的に外反する。

S111 (第102図、図版76)

80は土師器・鉢である。内外面に赤彩を施し、ミガキを施す。81は須恵器・杯である。口縁は大きく外反する。

S110 (第103・104図、図版79・80)

82～95、97は土師器である。82～85は高杯である。82は内面にハケメを施し、口縁端部を赤彩する。83は頸部に4条の沈線を施し、約6mmの穴を持つ。86は鍋・把手である。87は内面黒色土器・碗である。口縁端部をつまみ、やや外に開く。内外面にミガキを施す。88～90は壺の口縁部である。89は口縁直下で段を持つ。91、92は壺の底部である。91は底面近くで屈曲する。胎土には石英を多く含む。92はハケメ調整のちナデ消している。93～95、97は壺の口縁部である。94は口縁端部が内側に向く。95は口縁端部を外側に丸めている。97は口縁端部を大きく面取りする。98は須恵器・杯蓋である。96は土師質の紡

錘車である。中心に直径約1cmの穴を持つ。

99～117は須恵器である。99～105は蓋で、内100～102、105は、つまみを持つ。99はつまみが残存していないものの、痕跡が残っている。100はつまみの直径は小さいものの上に突き出しており、山状に盛り上がっている。102は平坦なつまみを持ち、口縁端部は丸めている。104は石英を多く含む。99～101、103、105は焼成状態が悪く、胎土は乳白色を呈している。106は壺の口縁部である。口縁端部の断面は三角形を呈し、内面には自然釉がかかる。107～110は無高台の杯である。107、110は口縁がやや外反し、底面に回転ヘラケズリ痕がある。108は底面からの立ち上がりが厚みを持ち、口縁をやや外につまみ出している。109は口縁が大きく外反する。112～114は高台付の杯である。112は口縁端部が外につまみ出され、高台は内傾する。113は焼成状態が悪い。114は高台端面が幅3.5mmを測り薄い。115は台付壺の底部である。116、117は小型の壺である。116は丸い体部、117は算盤玉状の体部を持つ。

SD02 (第104図、図版80)

118～122は土師器である。118は壺の口縁部であり、直立する口縁の外面に擬凹線がある。内面を削っている。119は高杯である。120は椀である。体部はやや丸く広がり、底面に糸切痕がある。121、122は椀、皿の底部である。122は細くつまみ出して高台を形成している。見込みは菊状に押された後、撫で消している。

SD03 (第104・105図、図版81)

123～143は土師器である。123～125は壺の口縁部である。123、124は口縁端部を直立させている。125は口縁端部内面に沈線を持つ。内外面にハケメ調整を施す。126は体部、127は底部である。126は内外面にハケメ、127は外面に平行線状のタタキを施す。128～130は椀、131は鉢、132は壺の底部である。131は内外面に赤彩を施す。132は石英が混じり、粗雑な作りである。133は小型壺の底部、134は椀の底部である。133は焼成状態が悪く、134には底部に糸切痕を残す。135～138は皿である。いずれも糸切痕がある。135は頸部で大きくくびれる。138は口縁がやや内側を向く。139～143は椀の底部である。いずれも高台を持ち、139～142は見込みを削りだしている。141は高台を細く作り出し、見込みに菊状の押された跡を残す。142は太い高台に見込みに菊状の押された跡を残す。143は柱状高台で、底面の直径は約4.5cmを測る。144～151は須恵器である。144～147は杯蓋で、144、146、147は口縁端部がやや外反する。144、147は2mm大の石英を多く含む。148は高台付きの杯である。149は無高台の杯である。底面に回転ヘラケズリ痕がある。150、151は高台付き杯の底部である。150は高台が内傾している。

SK01 (第107図)

166は須恵器・杯蓋である。厚い器壁を持ち、外面には自然釉がかかる。

SK03 (第107図)

167、168は土師器・椀である。167、168とも口縁端部を外につまみ出している。168は内面黒色土器である。

SK04 (第107図、図版82)

169～176は土師器である。169は椀の口縁部であり、外面に煤が付着する。170、171は椀の底部である。170は柱状高台が付く。いずれも糸切痕を残す。172～176は壺の口縁部である。172は口縁端部をつまみ出し直立させ、大きく屈曲させる。174は口縁がやや内側に入る。175、176は口縁端部内面に沈線を残す。177、178は須恵器・杯蓋である。177は口縁端部を丸める。178は平坦なつまみが付く。

SK06 (第107図)

179は土師器・椀である。口縁端部をつまみ出して外反させている。180、181は土師器甕・口縁部である。181は口縁端部で大きく屈曲する。

SK07 (第107図)

182は須忠器・杯である。口縁は直線的に外反し、やや厚い器壁を持つ。

SK08 (第107図、図版82)

183～186は土師器である。183は椀の口縁部である。184～186は皿であり、すべて糸切痕を有する。184は内面が盛り上がる。185は底面で大きく屈曲する。

SK09 (第107図)

187は土師器・甕の口縁部である。端部は丸く、内面はハケメを施す。188、189は須忠器・杯蓋、杯である。189は口縁端部を尖らせている。

その他の遺構 (第106図、図版82)

SF群出土の152は土師器・甕である。口縁端部は幅広く面取りし、頸部から肩部は丸く広がる。内面には炭化物が付着する。153は土師器・甕である。SB01P5出土の154は須忠器・杯蓋、SB01P2出土の155は土師器・鍋の底部である。P22出土156は土師器・甕の底部である。内外面にハケメを施す。157は土師器・椀である。P112出土の158は土師器・椀の底部、P25出土の159は土師器・甕の底部である。P49出土の160は土師器・鍋の把手である。P1出土の161は土師器・椀である。口縁がやや外反する。P54出土の162は土師器・皿である。口縁直下で屈曲する。P53出土の163は土師器・甕の底部である。石英を多く含む。164は土師器・甕の口縁部である。口縁端部を丸くおさめる。P111出土の165は土師器・甕の口縁部である。口縁は外側に丸く外反する。

包含層 (第107・108図、図版79・80・82)

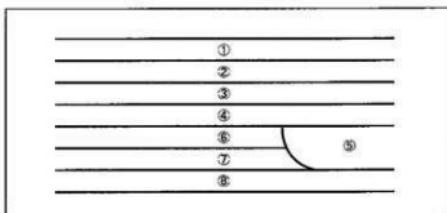
190～216、218は土師器である。190～198は甕の口縁部である。190、192、197は端部を幅広く面取りし、191は端部を内側に折り込み丸くおさめる。194は外面にハケメを多く残す。195は端部がやや内側を向く。196は直立した頸部に口縁が丸みを持って外反する。内外面に多くハケメを残す。199～201は甕の底部である。200は底部に穴を持つ。201は石英を多く含み、糸切痕がある。202～204は鉢である。202、204は内外面に赤彩を施す。204は2段の屈曲がある。205は土師器・器台？である。206は椀の底部である。高台はつまみ出して高い。207～209は椀の口縁部である。207は内面をハケメ調整し、赤彩を施す。208は口縁が外反し、端部は直立する。210は椀の底部、211～213は皿である。いずれも糸切痕がある。214は高杯の脚部である。215、216は椀の底部である。215は内面に赤彩を施す。218は甕の把手である。217は須忠器・杯蓋である。

(佐藤聖子)

3. 高畠遺跡2地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第5図)

高畠遺跡は、小矢部川の支流である山田川左岸の河岸段丘上に立地する。2地区の標高は80.00～80.10mを測る。以前は場整備が実施されたため、盛土がなされており、本調査地区の東側の隣接する田との比高差は約70cmである。調査地区中央部と調査地区北東部で耕作土直下で地山が露出する。



第5図 高畠遺跡2地区基本層序図

地形は中央部から北東、南東、南西にかけて緩やかに傾斜している。

基本層序は、1層目：旧耕作土、2・3層目：近代の盛土、4層目：漸移層（にぶい黄褐色シルトと灰黄褐色シルトの混土）、5層目：遺構、6層目：地山（黄褐色粘土）、7層目：地山（褐色シルト）、8層目：地山（にぶい黄褐色シルト）である。2地区の遺構は、6層上面から切り込んでいる。

（2）遺構の概要

主な遺構として、土坑3基、溝6条、ピット18基、不明遺構8基などを検出した。

SK01（第32図、図版12）

調査区東側X 14～15、Y 16～18に位置する。長軸3.11m、短軸2.94m、深さ0.20mを測る隅丸三角形の土坑である。底部はやや丸みを帯び凹凸があり、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色粘土・黒褐色粘土を基調とした2層に細分される。

SK02（第32図、図版12）

調査区北側X 21～23、Y 13～14に位置する。長軸4.53m、短軸1.95m、深さ0.19mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黄褐色シルト質粘土・にぶい黄褐色シルト質粘土を基調とした2層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが縄文土器片が多く出土した。

SK03（第32図、図版12）

調査区中央北側X 18～19、Y 12に位置する。長軸1.23m、短軸0.67m、深さ0.25mを測る楕円形の土坑である。底部は丸底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は黄褐色シルト質粘土を基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが縄文土器片が出土した。

SD02・03（第32図、図版12）

調査区西北側X 17～24、Y 7～9に位置する。主軸は、SD02はN-7°-W、SD03はN-6°-Eでいずれも南北に延びる。SD02は残存長7.97m、幅0.31m、深さ0.10mを測る。北側は調査区外に延び、南側はSD03に切られる。SD03は残存長15.57m、幅0.46m、深さ0.24mを測る。北側は調査区外に延びる。いずれも断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした単層である。両遺構はSD04上に構築されている。SD02からは弥生土器（2）の他に細片であるため図示できないが弥生土器片が、SD03からは弥生土器片が数点出土した。

SD04（第33図、図版13・14）

調査区西側X 14～24、Y 7～11に位置する。主軸はN-8°-Eで南北に延びる。残存長18.91m、幅6.90m、深さ0.40mを測る。北側は調査区外に延び、南側はSX01に切られる。断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色シルト質粘土・灰黄褐色シルト質粘土を基調とし複雑に堆積している。SD04上にSD02・03・05が構築されている。遺物は弥生土器（3～17）の他に細片であるため図示できないが弥生土器片が多く出土した。

SD05（第33図）

調査区北西側X 20～24、Y 6～7に位置する。主軸はN-9°-Wで南北に延びる。残存長8.16m、幅6.90m、深さ0.03mを測る。北側は調査区外に延び、全様は不明である。SD04上にSD05が構築されている。遺物は土師器（18）の他に細片であるため図示できないが弥生土器・土師器片が数点出土した。

SX01（第33図、図版13・14・15）

調査区南側、X 5～14、Y 5～18に位置する。北東側から南西側に緩やかに落ち込み、調査区南西側

において最大深度0.76mを測る。北西側でSD04を切る。底部は平底であり、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土・灰黄褐色シルト質粘土を基調とし複雑に堆積している。緩やかに落込んだ地形の埋没過程で遺物が包含された可能性がある。遺物は弥生土器（19～25）、須恵器（26～29）、土師器（30・31）、銭貨（32）、石器（33・34）の他に細片であるため図示できないが縄文土器片・弥生土器片・土師器片・須恵器片が多く出土した。

SX02（第34図、図版15）

調査区北側、X 23～24、Y 11～12に位置する。残存長軸2.58m、残存短軸1.73m、深さ0.12mを測る不定形の落込みである。底部はやや丸みを帯び凹凸があり、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は黄褐色シルト質粘土・灰黄褐色シルト質粘土を基調とした4層に細分される。SX02の埋土および周辺から多量の縄文土器片が出土した。緩やかに落込んだ地形の埋没過程で遺物が包含された可能性がある。遺物は縄文土器（35～46）の他に細片であるため図示できないが縄文土器片が多く出土した。

SX03（第34図、図版16）

調査区北側、X 20～23、Y 10～11に位置する。残存長軸4.00m、残存短軸0.64m、深さ0.17mを測る不定長方形形の落込みである。底部はやや平底であり、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土はにぶい黄褐色シルト質粘土を基調とした単層である。SX03の埋土および周辺からも縄文土器片が出土した。緩やかに落込んだ地形の埋没過程で遺物が包含された可能性がある。遺物は縄文土器（47～61）の他に細片であるため図示できないが縄文土器片が多く出土した。

P02（第35図、図版16）

調査区北側X 22、Y 11に位置する。長軸0.25m、短軸0.20m、深さ0.18mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P03・04・05・06（第35図、図版16・17）

調査区北側X 22、Y 11に位置する。P 03は長軸0.25m、短軸0.21m、深さ0.19m、P 04は直径0.23m、深さ0.16m、P 05は長軸0.33m、短軸0.28m、深さ0.25m、P 06は長軸0.32m、短軸0.26m、深さ0.21mを測る円形のピットである。いずれも底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。直線状に一列に配列されている。

P07（第35図、図版17）

調査区北側X 22、Y 11に位置する。長軸0.36m、短軸0.26m、深さ0.23mを測る楕円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P08（第35図、図版17）

調査区北側X 21、Y 10に位置する。長軸0.35m、短軸0.20m、深さ0.17mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P09・10（第35図、図版17）

調査区北側X 21、Y 11に位置する。P 09は直径0.30m、深さ0.12mを測る円形のピットであり、P 10は長軸0.56m、短軸0.27m、深さ0.12mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形

状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P12 (第35図、図版17)

調査区北西側X 23、Y 8に位置する。直径0.31m、深さ0.27mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P13・14 (第35図、図版17)

調査区北西側X 22、Y 8に位置する。P 13は長軸0.50m、短軸0.20m、深さ0.14mを測る楕円形のピットであり、P 14は長軸0.27m、短軸0.20m、深さ0.14mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、褐色シルト質粘土がブロック状に含まれる。

P15 (第35図、図版17)

調査区北西側X 23、Y 8に位置する。長軸0.32m、短軸0.23m、深さ0.13mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした単層である。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、青磁、白磁、越中瀬戸焼、近世陶磁器、石製品、石器、錢貨などがある。遺物は整理箱に10箱ほど出土し、主な遺物の年代は、縄文時代後期後葉・弥生時代後期～終末期の二時期に区分される。遺物はできる限り帰属時期を特定し、それを各文末に記した。

SD01 (第109図、図版83)

1は砾石である。角柱状を呈し、4側面および上下面2面のすべてを砾石として使用していた痕跡が認められる。

SD02 (第109図、図版83)

2は弥生土器・壺の底部片である。底部内面および体部内外面ともにハケが施され、底面はケズリ後ハケが施されている。

SD04 (第109図、図版83)

3は弥生土器・壺もしくは壺の底部片である。底部から体部にかけてやや開いて立ち上がり、底部は平底を呈す。摩滅のため調整は不明である。

4～6は弥生土器・壺の口縁部片である。口縁部は「く」の字状を呈する。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。4は口縁部にナデが施され、口縁端部は丸く収まる。体部外面はハケが、内面にはケズリ施されている。5は口縁端部が平坦な面をもつ。肩はほとんど張らずに丸みを帯びる。口縁部はヨコナデが施され、体部外面はタテハケが、内面にはケズリが施されている。6は「く」の字状を呈すると考えられる。口縁端部は平坦な面をもち、上方に小さく摘み上げる。口縁部にはヨコナデが施されている。

7～10は弥生土器・壺の口縁部片である。無文の有段口縁を呈する。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。7は口縁端部が丸く収まる。口縁部内外面ともナデが施されている。8は口縁端部がやや先細りする。口縁部内外面ともナデが施されている。9は口縁端部が先細りする。口縁部はヨコナデが施され、体部外面はタテハケが、内面にはケズリが施されている。口縁部から体部外面にススが付着して

いる。10は口縁端部が丸く収まる。口縁部はヨコナデが施され、体部外面はタテハケが、内面にはケズリが施されている。

11は弥生土器・壺の口縁部片である。無文の有段口縁を呈し、有段下部は若干突出する。口縁端部は丸く収まる。口縁部は丁寧なヨコナデが施され、体部外面はタテハケが、内面にはケズリが施されている。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。

12～14は弥生土器・高坏の杯部片である。杯部は段をもって立ち上がり、内外面には丁寧なミガキが施される。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。12・13の内外面には赤彩が施されているが12の内面は赤彩が剥がれ落ちている。

15は鉢形坏の杯部である。体部は緩やかに湾曲しながら立ち上がり、口縁端部は丸く収まる。杯部内面はナデが、外面にはハケが施されている。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。

16は弥生土器・高坏である。脚部は比較的短く「八」の字状に開く。杯部も浅くなるものと考える。脚部外面には丁寧なミガキが施され、内面はハケが施されている。杯部は摩滅のため調整不明である。

17は弥生土器・高杯の脚部片である。棒状脚部から脚部片であり、脚部な外表面は丁寧なミガキが、脚部内外面にはハケが施される。脚部には透孔が認められる。

SX05 (第109図、図版83)

18は土師器・碗の体部片である。体部はやや開いて立ち上がり、内外面にはナデが施され、外面にはナデによる凹凸痕が認められる。

SX01 (第110図、図版84)

19～21は弥生土器・壺の口縁部片である。弥生時代後期後半から終末期に位置付けられる。19は口縁部が「く」の字状を呈し、口縁端部は丸く収まる。口縁部はナデが施され、体部はハケが施されている。

20は無文の有段口縁を呈し、口縁端部はやや平坦である。全体的に摩滅が著しい。21は無文の有段口縁を呈し、口縁端部は丸く収まる。全体的に摩滅が著しいため調整は不明である。

22～25は弥生土器・壺の底部片である。22は底部から体部にかけてやや開いて立ち上がり、底部内面にはハケが施されている。底部は平底を呈す。底部の一部に黒斑が認められる。23は外面にナデが施される。底部は高台状に粘土を貼付し、凹底状としている。24・25底部は平底を呈す。

26は須恵器・皿である。口縁部は開いて立ち上がり、口縁部において若干外屈する。底部は平底を呈し、底部ヘラ切り後ナデが施されている。

27は須恵器・碗の口縁部片である。口縁部は滑らかに立ち上がり、口縁端部は先綴りする。

28は須恵器・ハソウの口縁部片である。口縁部は内弯しながら立ち上がり、口縁端部は平坦な面をもつ。口縁部には波状文が施されている。

29は須恵器・甕の口縁部片である。口縁部は外傾し、口縁端部は平坦な面をもつ。口縁端部は内側に若干突出する。

30・31は土師器・碗の底部片である。底部は平底を呈し、糸切り痕が認められる。

32は錢貨・開元通寶である。初鑄年代は唐代618年である。

33は鉄石英の剥片である。一部に自然面をとどめた方形を呈し、縁辺部に剥離が認められる。また稜線の一部に潰れが認められる。

34は打製石斧の基部破片である。凝灰岩製であり、片側に自然面をとどめた剥片の縁辺部を調整して成形されている。全体の形状は不明だが、片側にやや湾曲した形状であると考えられる。

SX02 (第110・111図、国版84・85)

35は縄文土器・鉢の口縁部片である。口輪状器形であり、口端部は丸く收まる。口縁部に楕円形押圧文もしくは扇状圧痕と3条の平行凹線が施される。外面を丁寧に研磨する。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。

36は縄文土器・浅鉢の口縁部片である。口縁部が内屈し、算盤玉形器形を呈する。内面を向く口端部に沈線が施される。口縁部には細く浅い3条の平行沈線が施される。口縁部にのみ縄文RLが施され、体部には丁寧なナデが施される。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。

37～39は縄文土器・深鉢の口縁部片である。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。37は口縁部が直線的に立ち上がり、口端部は丸く收まる。やや器壁が薄く、外面には丁寧なナデが施される。

38は縄文土器・深鉢の口縁部片である。口縁部は外反し、口縁端部は面をもつ。外面にはナデが施される。口縁部内面には縄文RLを帯状に施される。39は無文深鉢であり、口端部に指等によるやや幅広の斜行押圧が施される。地文に縄文RLが施される。内面には煤が付着する。外器面の剥離が顕著である。

40は縄文土器・小型深鉢の口縁部片である。不規則な6単位の山形波状口縁を呈し、口縁部がゆるやかに内湾する。口端部は丸く收まる。口縁部と胴部に文様帶を配す。波頂部には巻貝先端部による円形刺突文と巻貝扇状圧痕文を上下に施し、2条の平行凹線を連結させる。波頂部のうち1箇所の内面には、櫛状工具による小径で不規則な4箇所の刺突が認められる。胴部には2条の平行沈線のみ施される。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。

41～45は縄文土器・深鉢の口縁部片である。山形波状口縁深鉢である。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。41は無文深鉢であり、山形波状口縁を呈す。口縁部下方には接合時の段もしくは粘土貼付による肥厚部をもつ。肥厚部は断面台形を呈すが、幅や高さが一定ではない。口縁部に平行し、波頂部下で口端部と連結する。上側縁には強いナデが施される。外面には部分的に炭化物が付着する。42は波頂部が三角形を呈し、波頂端部は鋭角となる。口縁部はわずかに内傾し、波頂部以外の口端部は面をもつ。口縁屈曲部に粘土貼付による段をもち、波頂部下がより突出する。波頂部には口縁形に沿って沈線が、中央に円形押圧文が施される。直下の段部上側面に巻貝扇状圧痕文が施され、2条の平行凹線を連結させる。43は深鉢もしくは鉢であり、山形波状口縁を呈す。口縁部・胴部に屈曲部をもつ。波頂部下に巻貝先端による円形刺突文を上下2箇所に施し、3条の平行凹線を連結させる。胴屈曲部は接合時の段を利用する。浅いナデ状沈線を1条施すが、水平ではない。波底部下には巻貝先端による円形刺突文が施される。44は口縁部が緩やかに内湾する。口端部は面をもつが、波頂部は角状に鋭角となる。口縁部波頂部下には屈曲部まで「L」字状に粘土を低く貼付して单位文とし、口縁形に沿って4条の平行凹線が施される。45は波頂部を欠失するが山形波状口縁と考えられる。口縁部はわずかに内傾する。口縁屈曲部に粘土貼付による段をもつ。波頂部には口縁形に沿った沈線を1条配す。波頂下には巻貝によると考えられる圧痕文が認められ、2条の平行凹線を連結させる。

46は縄文土器・深鉢の底部片である。無文深鉢であり、地文に縄文RLが施される。底部は平底であり、網代痕が若干残る。内外面に部分的に炭化物が付着する。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。

SX03 (第111・112図、国版85・86)

47～50は縄文土器・深鉢の口縁部片であり、無文深鉢である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部に面をもつ。縄文時代後期後葉(井口式)に位置付けられる。47・49・50は無文深鉢である。地文には縄文RLが施され、49は面をもつ口端部にも施される。48は地文に縄文LRが施される。部分的に輪積

痕が残る。口縁部下方に補修孔をもつ。

51は縄文土器・深鉢の口縁部片である。波状口縁深鉢の波頂部であり、肥厚する波頂端部は広く面を有し、竹管状工具による深い円形刺突文を2箇所に施される。波頂端部直下には1条の水平凹線が施され、下位に卷貝先端による円形刺突文を上下2箇所と口縁形に沿う平行凹線を3条施される。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。

52～56は縄文土器・深鉢の口縁部片である。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。52は波頂部を欠失するが山形波状口縁と考えられる深鉢である。波底部は三角形の小突起となる。口縁部は内屈し、端部には面をもつ。口縁屈曲部の波頂・波底部に対応する箇所は粘土貼付により突出する。波頂・波底部と口縁屈曲突起部間に上下2箇所の卷貝先端による円形刺突文が施され、4条の平行沈線を連結させる。地文には口縁部を除き縄文RLが施される。53は波状口縁深鉢であり、口縁部はわずかに内屈し、屈曲部に粘土貼付による段をもつ。口端部は丸く收まる。口縁部には3条の平行沈線、波底部には円形押圧文が施される。地文に縄文RLが施されるが、頸部上方はナデ消される。54は小型の波状口縁深鉢であり、波頂部は角状の突起となる。口縁の俯瞰形は方形を呈すと考えられる。口縁部は内屈し、端部には面をもつ。波頂部下には椎状押圧文が施され、2条の平行沈線を連結させる。地文には縄文RLが全面に施される。内外面ともに部分的に煤が付着する。55は4単位以上の山形波状口縁深鉢であり、口縁部と胴中央部に文様帶を配す。口縁部が直立し、口端短部には面をもつ。波頂部・口縁部下方に粘土貼付による段をもち、波頂部下方はそれぞれ突出する。突出部上位にはそれぞれ円形押圧文が施され、口縁突出部には卷貝による小崩状压痕文が施される。口端部側面と波頂突出部にヘラ状工具による刻みが施される。胴中央部には2条の平行沈線後、単位的に円形押圧文が施される。沈線間にヘラ状工具刻みを充填的に施される。56は口縁・胴部が強く屈曲し、頸部がくびれる深鉢である。口縁・胴部の屈曲部上方に文様帶を配す。胴部には3条の平行凹線と単位的な卷貝崩状压痕が施される。各屈曲部には斜行刻みが施される。外面には部分的に煤が付着する。

57・58は縄文土器・深鉢の体部片である。57は体部外面にはナデが施されている。58は体部外面には軽いナデが施され、輪積痕が残る。

59～61は縄文土器・深鉢の底部片である。59は胴部でわずかに内屈し、畳面部に数条の平行沈線が施される。底部は平底であり、網代痕が若干残る。60は地文に縄文RLが施される。底部は平底であるが、底面は中央部に向かい若干上がる。胴部内面下端には円環状に煤が付着する。61は平底を呈し、網代痕が残る。胴部にはナデが施される。

包含層（第112図、図版86）

62は縄文土器・鉢もしくは浅鉢の口縁部片である。口縁部が内屈し、口端部は面をもつ。口縁部に4条の平行沈線が施される。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。

63は縄文土器・深鉢の口縁部片である。小型の波状口縁深鉢であり、口縁部が内屈する。波頂部は角状に突出し、波頂下位の口縁屈曲部も粘土貼付により突出する。この波頂突出部間に卷貝先端による円形刺突文が深く施され、左右に3条の平行沈線が施される。内面を向く口端部は面をもつ。波頂部内面は粘土貼付により肥厚し段をもつ。口縁部外面に赤彩痕が認められる。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。

64は縄文土器・浅鉢の口縁部片である。口縁部が内屈し、口端部は面をもつ。2個一対の縦位貼付文を単位的に配す。貼付文上面には沈線が施される。貼付文内外では配置文様が異なる。貼付文内側には対向

弧文と列点文を配し、貼付文内側縁には末端に刺突を伴う沈線が沿う。貼付文両外側には先端部が対向弧状に上下に開く2条一対の平行沈線を4条が施される。貼付文内側を除き口縁屈曲部に刻みが施される。内外面ともに丁寧なナデが施される。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。

65は縄文土器・深鉢の底部片である。地文に縄文Rしが施される。底部は平底で中央部がやや凹む。中央部を中心に網代痕が残り、外縁部は摩滅する。外面には煤が顯著に付着する。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる

表土（第112図、図版86）

66は青磁・碗の口縁部片である。口縁部は輪花状を呈し、口縁端部は丸くおさまる。オリーブ灰色の釉薬が施釉され、貫入が顯著である。

67は青磁・碗の口縁部片である。口縁端部は若干先細りする。全体にオリーブ灰色の釉薬が施釉され、外面には片切形による鏡連弁文が施されている。13世紀後半に位置付けられる。

68は白磁・碗の口縁部片である。体部は若干開いて直線状に立ち上がり、口縁端部で端反する。乳白色の釉薬が施釉されている。

69は白磁・碗の口縁部片である。体部は緩やかに内弯しながら立ち上がり、口縁部で若干端反する。全体に乳白色の釉薬が施釉されている。13世紀後半に位置付けられる。

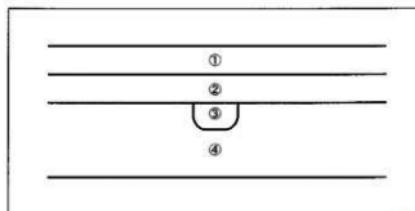
70は越中瀬戸焼の碗である。口縁部には灰釉が施され、内面見込み部分および底部は露胎である。高台は削り込み高台であり、内面見込み部分には釉止めの段を有さない。17世紀後半に位置付けられる。

71は須恵器・壺の体部片である。肩部は丸みを帯びて張り、肩部下には2条の沈線が施されている。頸部は直線的に立ち上がり、波状文が施されている。

4. 高島遺跡3地区の概要

（1）地形と基本層序（第6図）

3地区の標高は79.80mを測る。調査地区西側にかけて緩やかに傾斜しながら落ち込む。基本層序は、1層目：旧耕作土、2層目：漸移層（にぶい黄褐色シルトと褐色シルトの混土層）、3層目：遺構（黒褐色シルトを基本とする）、4層目：地山（褐色シルト）である。3地区的遺構は、4層目上面から切り込んでいる。田面から遺構検出面まで約30cmである。



第6図 高島遺跡3地区基本層序

（2）遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物3棟、土坑6基、溝11条、ピット108基などを検出した。

SB01（第37図、図版18・19）

調査区東側X 10～14、Y 17～21に位置する。P 1～P 9、P 98の10基で構成される。梁行2間、桁行3間の側柱建物である。梁行5.0m、柱間2.5～2.6m、桁行5.7m、柱間1.7m～2.0m、床面積27.7m²を測る。主軸はN-11°-Eである。建物の柱穴は直径約0.40～0.65m、深さ約0.15mを測り、柱穴の深度はほぼ一定である。柱穴の平面形状は円形を呈し、抜き取り痕や柱痕が確認されるものもある。底部はやや平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした2層に細分される。

SB02 (第38図、図版19・20)

調査東側X 9～14、Y 16～19に位置する。P 20～P 27の8基で構成される。梁行1間、桁行3間の側柱建物である。梁行5.5m、梁行の中間に柱穴は確認されず、柱間は5.5mと長い。桁行6.5m、柱間1.9m～2.2m、床面積35.0m²を測る。主軸はN-8°-Eである。建物の柱穴は長軸約0.60～0.82m、短軸約0.51～0.60m、深さ約0.13～0.30mを測る。柱穴の平面形状は楕円形もしくは円形を呈し、抜き取り痕や柱痕が確認されるものもある。底部はやや平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした2層に細分される。

SB03 (第39図、図版21・22)

調査区東側X 11～15、Y 14～17に位置する。P 40～P 47、P 75の9基で構成される。P 40・P 41間は柱穴が確認されなかった。梁行2間、桁行3間の側柱建物である。梁行5.0m、柱間2.2～2.5m、桁行5.9m、柱間2.0m (P 40・41間は3.8m)、床面積29.3m²を測る。主軸はN-5°-Eである。建物の柱穴は長軸約0.50～0.71m、短軸約0.38～0.50m、深さ約0.19m～0.25mを測る。柱穴の平面形状は楕円形もしくは円形を呈し、抜き取り痕や柱痕が確認されるものもある。底部はやや平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした4層に細分される。

SD01 (第40図、図版22)

調査区北東側X 17、Y 14～21に位置する。主軸はN-5°-Eで東西に延びる。残存長13.62m、幅0.73m、深さ0.38mを測る。南側は調査区外に延びる。底部はやや丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした3層に細分される。

SD05 (第40図、図版22)

調査区東側X 14～15、Y 21に位置する。主軸はN-85°-Wで東西に延びる。長さ1.85m、幅0.31m、深さ0.1mを測る。底部は丸みを帯び、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした単層である

SD09・10 (第40図、図版22)

調査区北側X 15～17、Y 12～13に位置する。SD09の主軸はN-1°-Wで南北に延び、長さ3.12m、幅0.39m、深さ0.16mを測る。SD10の主軸はN-1°-Eで南北に延び、長さ1.42m、幅0.45m、深さ0.29mを測る。いずれも底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色シルト質粘土を基調とした単層である。

SD11・12 (第40図、図版22)

調査区南西側X 5～12、Y 8～11に位置する。SD11の主軸はN-7～23°-Eで南北に延び、長さ14.0m、幅0.09m、深さ0.16mを測る。SD12の主軸はN-7～28°-Eで南北に延び、長さ14.63m、幅0.58m、深さ0.04mを測る。いずれも底部は凹凸のある不定形な平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした単層である。

P10・11 (第41図、図版22・23)

調査区北東側X 16、Y 21に位置する。P 10は長軸0.38m、短軸0.30m、深さ0.24mを測る円形のピットであり、P 11は長軸0.49m、短軸0.42m、深さ0.34mを測る円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした単層である。P10からは弥生土器片(75)が出土した。

P12・107 (第41図、図版23)

調査区北東側X 17、Y 21に位置する。P 12は残存長軸0.44m、短軸0.23m、深さ0.11mを測る円形のピットであり、P 107は残存長軸0.64m、短軸0.52m、深さ0.47mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とし、P 12は単層、P 107は2層に細分される。

P13 (第41図、図版23)

調査区東側X 14、Y 22に位置する。直径0.30m、深さ0.21mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト粘土を基調とした単層である。

P15 (第41図、図版23)

調査区東側X 14、Y 20に位置する。長軸0.70m、短軸0.44m、深さ0.38mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした3層に細分される。

P43 (第41図)

調査区中央東側X 12、Y 16に位置する。直径0.26m、深さ0.20mを測る円形のピットである。底部はやや丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト粘土を基調とした2層に細分される。遺物は弥生土器片(75)が出土した。

P52 (第41図、図版23)

調査区北東側X 16、Y 17に位置する。長軸0.68m、短軸0.33m、深さ0.13mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト粘土を基調とした単層である。

P63 (第41図、図版23)

調査区中央X 11、Y 13に位置する。長軸0.50m、短軸0.33m、深さ0.25mを測る楕円形のピットである。底部はやや丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は暗褐色シルト粘土を基調とした単層である。

P78 (第41図、図版23)

調査区北側X 16、Y 15に位置する。直径0.35m、深さ0.26mを測る円形のピットである。底部はやや丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした2層に細分される。

P82 (第41図、図版24)

調査区北側X 15、Y 13に位置する。長軸0.71m、短軸0.61m、深さ0.24mを測る楕円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした2層に細分される。

P84 (第41図、図版24)

調査区北側X 15、Y 13に位置する。直径0.40m、深さ0.25mを測る円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした2層に細分される。

P86・87 (第41図、図版24)

調査区中央X 12、Y 12に位置する。P 86は直径0.31m、深さ0.11mを測り、P 87は直径0.31m、深さ0.31mを測る円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黑色粘土を基調とした単層である。

P88 (第41図、図版24)

調査区中央 X 10、Y 12に位置する。直径0.31m、深さ0.37mを測る円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘土を基調とした単層である。

P89 (第41図、図版24)

調査区中央 X 10、Y 12に位置する。直径0.34m、深さ0.25mを測る円形のピットである。底部はやや丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした2層に細分される。

P94・95 (第41図、図版24)

調査区南側 X 8、Y 13に位置する。P 94は直径0.30m、深さ0.22mを測り、P 95は長軸0.41m、短軸0.27m、深さ0.13mを測る円形のピットである。底部は丸底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト質粘土を基調とした2層に細分される。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、弥生土器、土師器、近世陶磁器などがある。遺物はできる限り帰属時期を特定し、それを各文末に記した。

検出面 (第112図、図版86)

72は縄文土器・注口土器である。算盤玉状に体部が内屈し、注口部を欠失する。体部の屈曲部とその上方に粘土貼付による段をもつ。段の上方にはそれぞれ多条の沈線を充填状に施される。注口部周辺には小円形刺突文が認められる。内外面ともに研磨する。縄文時代後期後葉（井口式）に位置付けられる。

耕作土 (第112図、図版86)

73は瀬戸焼・陶胎染付である。体部はやや内弯し、口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部はやや先細りする。体部外面には染付が施されている。18世紀末から19世紀前半に位置づけられる。

74は瀬戸美濃焼・灰釉丸碗の口縁部片である。体部はやや内弯し、口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。緑色の釉薬が施釉されており、底部付近は露胎である。18世紀に位置付けられる。

P10 (第112図、図版86)

75は弥生土器・壺の口縁部片である。有段壺の口縁部片と考えられ、外面にはハケが施される。

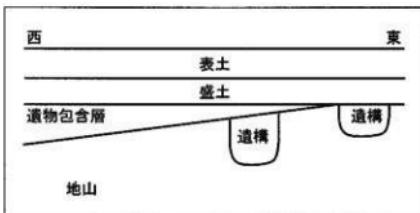
P43 (第112図、図版86)

76は土師器・小壺の体部片である。体部はやや膨らみをもち、直線的に立ち上がる。内外面とも丁寧なナデが施され、外面にはナデによる凹凸痕が認められる。
(小川幹太)

5. 高島遺跡4地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第7図)

本調査区は山田川左岸河岸段丘上、遺跡の北部に位置する。4地区の標高は78.21～78.30mを測り、北側に向けて緩やかに傾斜する。基本層序は、1層目：旧耕作土、2層目：近代の盛土、3層目：黒褐色粘質土（遺物包含層）、4層目：地山（黄褐色粘質土）である。



第7図 基本層序図



第8図 高島遺跡4地区の調査区割 (S=1/2,000)

(2) 遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物1棟、柵1基、土坑1基、溝4条、ピット170基などを検出した。

SB01 (第43図、図版26)

調査区東側X 6～8、Y 10～12に位置する。SP51、SP58、SP67、SP73の4基で構成される。梁行1間、桁行1間の建物であると思われるが、調査区外の東側へ延びる可能性もある。主軸は真東に対し23°北にふれる。建物の柱穴は直径約0.22～0.32m、深さ約0.20mを測り、柱穴の深度はほぼ一定である。柱穴の平面形状は円形で、底部はやや平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。遺物はSP58から土師器の碗(1)が出土している。

SA01 (第44図)

調査区西側X 3～6、Y 0に位置する。SP155、SP156、SP170の3基で構成される。柵としたが調査区外の西側へ延びて建物となる可能性もある。柵の柱穴は直径約0.28～0.36m、深さ約0.46mを測り、柱穴の深度はほぼ一定である。柱穴の平面形状は円形で、底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒色粘質土を基調とした単層である。

SK01 (第43図、図版26)

調査区東側X 11～12、Y 9に位置する。長軸1.42m、短軸1.10m、深さ0.04mを測る比較的浅い隅丸方形の土坑である。底部は平坦で、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は土師器の壺(2)が出土している。

SD01 (第44図)

調査区北東側X 15～18、Y 8～13に位置する。残存長12m、幅6.05m、深さ0.64mを測る。自然流路であるSD02を切っており、調査区外の西側に延びる。底部はやや平坦で、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土とにぶい黄褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は土師器の椀(5)、珠洲の甕(6)、越中瀬戸の皿(7)が出土している。

SD02 (第44図)

調査区西側X 0～18、Y 0～9に位置し調査区の約半分を占める自然流路である。残存長37.85m、残存幅15.10m、深さ0.52mを測る。底部は平坦で、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土とにぶい黄褐色粘質土を基調とした2層に分かれれる。今回の調査では上層と深さを確認するためのサブトレーナーを設定したのみで全体の掘削は行っていない。

SD04 (第44図、図版26)

調査区東側X 5～18、Y 9～11に位置する比較的浅い溝である。残存長9.5m、幅0.4m、深さ0.1mを測る。底部はやや平坦で、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土とにぶい黄褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は土師器の甕(8)が出土している。

SP116 (第43図、図版26)

調査区中央より南側X 6、Y 9に位置する。長軸0.40m、短軸0.24m、深さ0.29mを測る楕円形のビットである。底部は丸底で、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は土師器・甕(3)が出土している。

SP137 (第43図、図版26)

調査区中央より南側X 4、Y 9に位置する。長軸0.22m、短軸0.20m、深さ0.11mを測る円形のビットである。底部はやや平底で、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黑色粘質土とにぶい黄褐色粘質土からなる単層である。遺物は須恵器・杯(4)が出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、土師器、須恵器、青磁、越中瀬戸焼、近世陶磁器、石器などがある。遺物は整理箱に12箱出土し、主な遺物の年代は、縄文時代後期後葉・古代・中世の三時期に区分される。

SB01 (第113図、図版87)

1は土師器・椀である。底部は磨滅しているが糸切り痕であろうか。

SK01 (第113図、図版87)

2は土師器・甕である。外面ともにカキ目、ナデを施し、内面には縦にケズリを施す。8C後半から9C前半にかけてのものである。

SP116 (第133図、図版87)

3は土師器・甕の口縁部である。垂直気味に立ち上がり、口縁端部はやや平坦である。

SP137 (第113図、図版87)

4は須恵器・杯である。口縁部は開き気味に立ち上がり、口縁端部は先細りする。器壁は薄い。

SD01 (第113図、図版87)

5は土師器・椀の口縁部である。6は珠洲・甕の体部である。7は越中瀬戸の皿の底部である。

SD04 (第113図、図版87)

8は土師器・甕の体部である。外面にタタキ目を施す。

包含層（第113図～116図、図版87～90）

9は打製石斧である。基部を欠損している。

10～13は縄文土器である。13は開き気味の体部からやや内湾して口縁部へと至る。刻み目をいたた竹管とそれに平行した沈線が施される。後期後葉の井口式に比定できる。

14～18は須恵器・壺で天井部はヘラケズリが施された平凹面をもつ。8C後半から9Cにかけてのものだと思われる。19～24は須恵器・杯の口縁部である。21、24は開き気味に立ち上がり、口縁端部は丸く收める。9C前半に比定できる。

29は須恵器・壺の頸部、30、31は須恵器・壺の体部である。

32～46は土師器・壺である。丸みを帯びて立ち上がるもの（32、33、38）と開いて立ち上がるもの（34、35、36、37）がある。

47～58は土師器・壺である。47はやや垂直気味に立ち上がる体部から口縁部へと外傾する。体部にはハケ目とナデを施す。

59は土師器・鍋である。

60～71は土師器・皿である。60、62は非ロクロ成形で、体部はやや直線的に開いて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まる。（ND II類）63～66はロクロ成形で、体部は丸みを帯び口縁部で一段ナデを施す。口縁端部は丸くおさまる。（RB類）67、68はロクロ成形の柱状高台である。（RA類）

72～74は珠洲・すり鉢である。72、73はやや開く体部から内湾気味に口縁部がおさまる。口縁端部は面をとる。I期に比定できる。

75は珠洲・臺である。

76は青磁・壺である。やや丸みを帯びて立ち上がり、口縁端部はやや先細りする。 （宮崎順一郎）

6. 宗守II遺跡1地区の概要

（1）地形と基本層序（第9図）

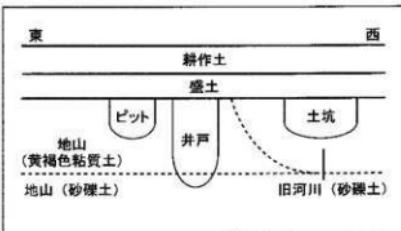
宗守II遺跡1地区は山田川扇状地の中央部に位置する。海拔は81.4～81.6mを測り、地形は東から西へ緩やかに傾斜している。調査区南側から西側にかけて旧河川（砂礫土）が検出された。旧河川の上面から掘りこまれている遺構も検出されることから、遺構構築前に存在し埋没した河川と考えられるが、この旧河川から遺物は出土しなかった。地表から地山までの深さは20～30cmである。基本土層は上位から耕作土（1層土）、盛土（2層土）、地山（黄褐色粘質土 3層土）、地山（砂礫土 4層土）の順に堆積している。

（2）遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物跡1棟、溝27条、その他多数の土坑・ビットを検出した。

SB01（第46図、図版28）

調査区中央の南東よりに位置する。北東側はSD03に切られているため柱穴は遺存していないが、渠行2回、渠行3間の総柱建物であると考えられる。P 10・11・22・23・25・26・27・30・32で構成される。

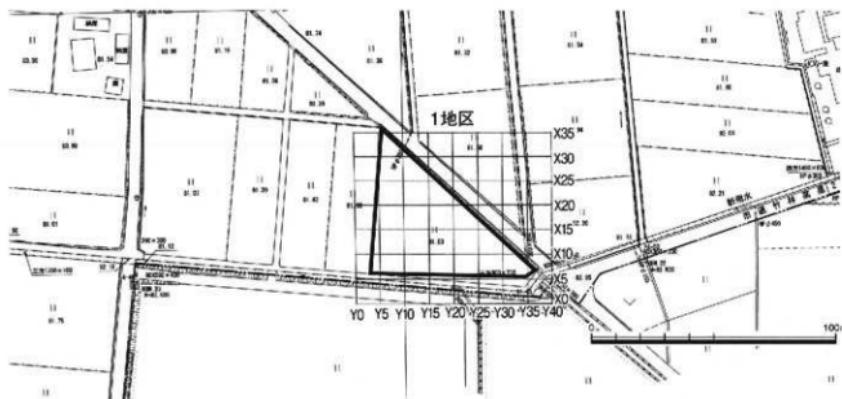


第9図 宗守II遺跡1地区の基本層序

桁行6.7m、梁行4.8m、柱間2.43m、床面積32m²を測る。主軸はN-76°-Wである。建物の柱穴は、直径約0.3m、深さは約0.24mを測る。建物西側のP 22・25・32列は他の柱穴列と均等ではないことから庇である可能性がある。遺物はP 25からは土師器・小甕(1)が出土している。

SK03 (第47図、図版29)

調査区東側X 9、Y 26に位置する。長軸0.92m、短軸0.88m、深さ0.22mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土・にぶい黄褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿(2)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が数点出土している。



第10図 宗守Ⅱ遺跡1地区の調査区割 (S=1/2,000)

SK07・08 (第47図、図版29)

調査区中央X 17、Y 18～19に位置する。SK07は長軸1.99m、短軸1.01m、深さ0.14mを測る梢円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。西側においてSK08を切る。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。SK08は残存長軸1.33m、短軸0.69m、深さ0.08mを測る梢円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。東側がSK07に切られる。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。

SK09 (第47図、図版29)

調査区中央X 17、Y 16～17に位置する。長軸2.10m、短軸1.12m、深さ0.25mを測る梢円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土はにぶい黄褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが珠洲片が出土している。

SK11 (第47図、図版29)

調査区東側X 19～21、Y 16～17に位置する。長軸4.92m、短軸2.50m、深さ0.36mを測る梢円形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は褐灰色粘質土・にぶい黄褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが土師器、中世土師器・皿、珠洲・甕・壺・すり鉢片などが多く出土している。

SK 12・70（第48図、図版29）

調査区中央北側X 22～24、Y 14～17に位置する。SK 12は残存長軸5.73m、短軸4.16m、深さ0.50mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は灰黄色シルト・褐灰色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。遺物は中世土師器・皿（3・4）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿、珠洲・壺・壺・すり鉢片などが多く出土している。SK 70はX 22、Y 15に位置する。直径1.04m、残存深さ1.10mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした4層に細分される。SK 12の南西側で重複し、上部を切られる。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は木製品（49）が出土している。

SK 14（第49図、図版30）

調査区北側X 24、Y 12に位置する。長軸1.13m、短軸1.02m、深さ1.70mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色シルト・褐灰色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。北側においてSD 12を切る。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。

SK 17（第49図、図版30）

調査区西側中央X 20～21、Y 10に位置する。長軸1.88m、短軸1.82m、深さ0.39mを測る隅丸方形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は珠洲・すり鉢片（5・6）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿、珠洲・壺の体部片などが多く出土している。

SK 18・19・27（第49図、図版30）

調査区北側X 23～24、Y 9～11に位置する。SK 18は残存長軸2.66m、短軸2.37m、深さ0.57mを測る隅丸方形の土坑である。底部はやや丸みを帯び、断面形状は緩やかに立ち上がる。北側をSD 12に、南西側をSK 19に切られる。埋土は灰黄褐色シルト・褐灰色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。遺物は砥石（7）や、細片であるため図示できないが須恵器・壺片や中世土師器・皿片が多く出土している。SK 19は長軸2.95m、短軸1.79m、深さ0.58mを測る楕円形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。東側はSK 18を切り、西側をSK 27に切られる。埋土は灰黄褐色シルト・褐灰色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲片が出土している。SK 27は長軸1.40m、短軸1.20m、深さ0.55mを測る円形の土坑である。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。東側でSK 19を、西側でSD 22を切る。埋土は灰黄褐色シルト・黒褐色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。

SK 24（第50図、図版30）

調査区東側X 23～27、Y 5～8に位置する。長軸6.24m、短軸5.27m、深さ0.68mを測る円形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルト・褐灰色シルトなどを基調とし複雑に堆積している。遺物は須恵器・壺の頸部片（8）、珠洲・壺の体部片（9）、漸戸美濃・卸皿（10）や、細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片、中世土師器・皿、珠洲・壺・壺片・骨片などが多く出土している。

SK 25・28（第51図、図版31）

調査区北側X 24～25、Y 9～10に位置する。SK 25は残存長軸0.79m、短軸0.88m、残存深さ0.15

mを測る楕円形の土坑である。断面形状は緩やかに立ち上がる。南側はSK28に切られる。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした单層である。SK28は長軸1.70m、短軸1.13m、深さ0.47mを測る楕円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。北側においてSK25を、東側においてSD12を、西側においてSD22を切る。埋土は黒褐色シルトを基調とした4層に細分される。遺物は中世土師器・皿(11)、珠洲・すり鉢片(12)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SK35・36・38・40(第52図、図版31)

調査区西側南よりX12～15、Y9～12に位置する。SK35は長軸7.50m、短軸6.47m、深さ0.33mを測る円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。西側においてSK36・38・40に切られ、SD25を切る。埋土は灰黄褐色シルト・黒褐色シルトを基調とし複雑に堆積している。遺物は中世土師器・皿(13～16)や、青磁・碗(17)、珠洲・壺の口縁部片(18)・壺の口縁部片(19)・すり鉢片(20・21)・壺の体部片(22)、瓦質土器・風炉の底部片(23)、瀬戸美濃・卸皿片(24)、細片であるため図示できないが中世土師器・皿・珠洲・壺・壺・すり鉢片などが多く出土している。SK36は長軸2.33m、短軸2.02m、深さ0.17mを測る円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。SK35および東側においてSK38を切り、北側をSK37に切られる。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は白磁・皿の底部片(25)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。SK38は残存長軸1.45m、短軸1.35m、深さ0.31mを測る楕円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。西側をSK36・37に切られる。埋土は黒褐色シルトを基調とした4層に細分される。SK40は残存長軸1.34m、短軸1.13m、深さ0.27mを測る楕円形の土坑である。断面形状はやや緩やかに立ち上がる。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、SK35および北西側においてP189を切る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした2層に細分される。

SK43(第51図、図版31)

調査区西側中央X14～15、Y5～6に位置する。長軸2.03m、短軸1.80m、深さ0.23mを測る隅丸形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした3層に細分される。北西側においてSK46に切られる。遺物は中世土師器・皿(26)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SK46(第51図、図版31)

調査区西側中央X15、Y4に位置する。長軸2.51m、短軸1.92m、深さ0.15mを測る隅丸形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした3層に細分される。東側においてSK43を切る。遺物は中世土師器・皿(27)が出土している。

SK47(第51図、図版31)

調査区西側中央X14～15、Y5～6に位置する。長軸1.53m、短軸0.94m、深さ2.01mを測る隅丸形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色シルト・褐灰色シルトを基調とし複雑に堆積している。東側においてP271を切る。掘削深度が深いことや、礫層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は中世土師器・皿(28)や、木製品(29)、細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片・中世土師器・皿片・珠洲・壺の体部片などが出土している。

SK34・48（第53図、図版32）

調査区西側中央X 18～19、Y 9～10に位置する。SK 34は長軸1.01m、短軸0.69m、深さ0.21mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。西側においてP153を切る。埋土は褐灰色シルトを基調とした2層に細分される。SK 48は長軸1.16m、短軸0.80m、深さ0.18mを測る稍円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト・褐灰色シルトを基調とした3層に細分される。東側においてP153を切り、南側をP287に切られる。遺物は中世土師器・皿（30）が出土している。

SK50・51・69（第53図、図版32）

調査区西側中央X 21、Y 7～9に位置する。SK 50は長軸1.12m、短軸0.90m、深さ1.73mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。SK 51の南側で重複し、上部大半を切られる。埋土は黒褐色シルト・暗青灰色シルトを基調とした4層に細分される。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は細片であるため図示できないが珠洲・壺の底部片が出土している。SK 51は長軸4.03m、短軸2.46m、深さ0.51mを測る隅丸方形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。南西側をSK 52に切られ、北側においてSD 22を切る。埋土は黒褐色シルトを基調とし複雑に堆積している。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲・壺の体部片が出土している。SK 69は長軸1.28m、短軸0.87m、残存深さ1.57mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。SK 51の北側で重複し、上部を切られる。埋土は褐灰色シルトを基調とし複雑に堆積している。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は木製品（45～48）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SK52・53・54・61（第54図、図版32・33）

調査区西側中央X 19～21、Y 6～8に位置する。SK 52は残存長軸2.56m、短軸1.98m、深さ0.56mを測る楕円形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。南東側をSK 54に、西側をSK 61に切られ、北東側においてSK 51を切る。埋土は褐灰色シルト・灰黄褐色シルトを基調とし複雑に堆積している。遺物は中世土師器・皿（31～33）や、青磁・碗の底部片（34）、珠洲・すり鉢の底部片（35）、細片であるため図示できないが中世土師器・皿、珠洲・壺片などが出土している。SK 53は長軸2.21m、短軸1.64m、深さ0.18mを測る隅丸方形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。西側においてSK 54を切る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、白磁片が出土している。SK 54は残存長軸1.53m、短軸1.31m、残存深さ0.26mを測る隅丸方形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。東側をSK 53に切られ、北側においてSK 52を、南側においてSK 55・P289を切る。埋土は褐灰色シルトを基調とし3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が出土している。SK 61は長軸0.95m、短軸0.85m、深さ1.48mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。東側においてSK 52を切る。埋土は褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし複雑に堆積している。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は珠洲・すり鉢の底部片（40）や、細片であるため図示できないが珠洲・すり鉢片、砥石片などが出土している。

SK55・56（第54図、図版33）

調査区西側中央X 18～19、Y 7に位置する。SK55は残存長軸1.07m、短軸0.72m、深さ1.34mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がり上部で広がる。北側をSK54に、南側をSK56に切られ、北側においてP289を切る。埋土は褐灰色シルト基調とし4層に細分される。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は中世土師器・皿(36)や、珠洲・壺の底部片(37)、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。SK56は長軸1.86m、短軸1.18m、深さ0.31mを測る楕円形の土坑である。底面は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。北側においてSK55を切る。埋土は褐灰色シルトを基調とした1層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片、骨片が出土している。

SK57 (第55図、図版33)

調査区西側中央X 14～15、Y 5～6に位置する。長軸2.08m、短軸1.69m、深さ1.21mを測る不定形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とし疊を多含して複雑に堆積している。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は細片であるため図示できないが珠洲片が出土している。

SK58・59・60 (第55図、図版33)

調査区西側中央X 18～19、Y 6に位置する。SK58は残存長軸1.52m、短軸1.12m、深さ0.46mを測る不定形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。西側をSK59・60に切られる。埋土は灰黄褐色シルト・褐灰色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は珠洲・すり鉢の口縁部片(38)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲・壺の体部片、骨片が出土している。SK59は長軸2.04m、短軸1.67m、深さ0.27mを測る不定形の土坑である。底面は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。南東側においてSK58を、南側においてSK60を切る。埋土は黒褐色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は珠洲・壺の口縁部片(39)や、細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が出土している。SK60は残存長軸1.30m、短軸1.07m、深さ0.37mを測る不定形の土坑である。底部はやや丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。北側をSK59に、南側をSD25に切られ、北東側においてSK58を切る。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲・壺の体部片が出土している。

SK67 (第55図、図版34)

調査区西側中央X 15、Y 4に位置する。長軸2.05m、短軸1.76m、深さ0.21mを測る不定形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は中世土師器・皿(41)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SK68・71 (第55図、図版34)

調査区西側中央X 17、Y 4に位置する。SK68は長軸2.40m、短軸1.74m、深さ0.18mを測る楕円形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。南西側においてSK71を切る。埋土は褐灰色シルトを基調とした単層である。遺物は珠洲・すり鉢の底部片(42)、口縁部片(43)、壺の底部片(44)が出土している。SK71は長軸1.13m、短軸0.94m、深さ1.36mを測る楕円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。遺構の上部大半をSK68に切られる。埋土は黒褐色シルトを基調とした3層に細分される。掘削深度が深いことや、疊層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。

SK72 (第55図、図版34)

調査区中央北よりX 20、Y 15に位置する。長軸0.84m、短軸0.77m、深さ1.10mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした3層に細分される。掘削深度が深いことや、礫層まで掘りこまれていることから井戸である可能性もある。遺物は細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が出土している。

SD01・02 (第56図、図版35)

調査区東側X 3～9、Y 31～34に位置する。主軸はいずれもN-20°-Wで北西・南東に向き、ほぼ並行して延びる。SD01は残存長7.92m、幅0.82m、深さ0.20m、SD02は残存長14.7m、幅0.88m、深さ0.22mを測り、いずれも調査区外に延びる。断面形状は緩やかに立ち上がり、逆台形を呈する。埋土は褐灰色シルト・黄灰色砂質土を基調とし4層に細分される。SD01・02の堆積状況や断面形状などが類似していることから両遺構は並存していた可能性がある。SD01から出土した遺物は珠洲・壺の口縁部片(50)、珠洲・すり鉢の口縁部片(51)、砥石(52)木製品(53～55)、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片・珠洲・壺の体部片などが出土している。

SD03 (第56図、図版35)

調査区東側X 4～20、Y 20～32に位置する。主軸はN-38°-Wで南東から北西に向かって弧状に延び、南東側はSD02に切られ、北西側は調査区外に延びる。残存長43.19m、幅3.14m、深さ0.30m、断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片・珠洲・すり鉢片が出土している。

SD04・05・09、SR01・02・03 (第57図、図版36)

調査区南側X 4～10、Y 2～28に位置する。主軸はN-76～84°-Wで東西向きであり、ほぼ並行し複雑に切り合いながら存在する。SD04は残存長45.14m、深さ0.55m、SD05は残存長13.37m、深さ0.57m、SD09は残存長13.97m、深さ0.35mを測る。SD04・05・09の底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルト・黒褐色シルトを基調とし複雑に堆積し、礫を多含している。SR01～03の底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は礫・砂層を基調とし複雑に堆積している。埋土が砂礫層を基調としている遺構をSR(旧河川)とし、シルトなど土層を基調としている遺構をSD(溝)とした。また、遺構の切り合い関係からSR01～03が埋没したのち、SD05・09、SD04の順に構築されたと考えられる。SD04からは須恵器・蓋片(56)や、中世土師器・皿(57)、珠洲・壺の口縁部片(58)、壺の口縁部片(59)、すり鉢の底部片(60・61)、壺の底部片(62)、細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が、SD05からは珠洲・すり鉢の口縁部片(63)や、壺の底部片(64)、細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片・珠洲・壺の体部片が出土している

SD12・22 (第58図、図版38)

調査区東側X 22～24、Y 8～14に位置する。主軸は、SD12はN-77°-Wで東西向き、SD22はN-27°-Eで南北向きでありほぼ直行している。SD12は残存長9.08m、幅0.56m、深さ0.12m、SD22は残存長5.86m、幅0.98m、深さ0.14mを測り、いずれも両端を他の遺構に切られ全容は不明である。断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土は、SD12はにぶい黄褐色粘質土、SD22は灰黄褐色シルトを基調とした単層である。SD12とSD22の交差点にSK28が存在しているため関係性などは判然としないが、SD12・22の堆積状況や断面形状などが類似していることなどから両遺構は同一遺構の可能性がある。SD12から出土した遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片・珠洲・壺の体部

片が、SD22から出土した遺物は珠洲・壺の底部片（70）、壺の体部片（71）、細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が出土している。

SD14・16・17（第59図、図版38）

調査区北側X 25～30、Y 7～15に位置する。主軸はいずれも東西に向き、ほぼ並行している。SD14の主軸はN-74°-Wで、残存長18.44m、幅0.51m、深さ0.11m、SD16の主軸はN-71°-Wで、残存長16.00m、幅1.08m、深さ0.12m、SD17の主軸はN-59°-Wで、残存長16.72m、幅0.70m、深さ0.06mを測る。いずれも東側は調査区外に延び、西側は表層が砂礫層部分で消えているため全容は不明である。断面形状はSD14がやや急に立ち上がり、台形状を呈し、SD16・17は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土はSD14が褐色粘質土を基調とした単層であり、SD16・17は灰黄褐色砂質土・褐色砂質土を基調とした複層である。SD14から出土した遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲・壺の体部片が、SD16から出土した遺物は中世土師器・皿（66）や、珠洲・すり鉢の底部片（67）、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が、SD17から出土した遺物は白磁・碗（68）や、古鏡（69）、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片、珠洲・壺の体部片が出土している。

SD24（第60図、図版37）

調査区中央X 18～21、Y 14～15に位置する。主軸はN-22°-Eで南西～北東に向かって延びる。全長7.28m、幅0.44m、深さ0.17mを測る。断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈す。北側においてSK72に切られる。埋土は褐色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿（72・73）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SD11・25・26（第60図、図版37）

調査区中央から西側X 8～22、Y 6～14に位置する。主軸はいずれも南西～北東に向かって延びる。SD11の主軸はN-23°-Eで南西から北東に向かって延びる。残存長12.07m、幅0.99m、深さ0.09mを測る。南西側においてSD25に切られる。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は褐色粘質土を基調とした単層である。SD11からは中世土師器・皿（65）が出土している。SD25の主軸はN-16°-W・N-27°-Eで北西から南東に向かって延び、途中でL字状に折れ曲がり南西に向かって延びる。全長は北西から南東方向で15.41m、折れ曲がる部分から南西にかけて18.25mを測り、一部SK35に切られる。断面形状は緩やかに立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色シルトを基調とし複雑に堆積する。SD25からは中世土師器・皿（74～78）や、細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片・中世土師器・皿片が出土している。SD26の主軸はN-32°-Eで南西から北東に向かって延びる。全長7.48m、幅1.07m、深さ0.31mを測る。溝の中央をSK62に切られ、北側においてSK35を、南西側においてSK66を切る。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は褐色シルトを基調とした4層に細分される。SD26からは中世土師器・皿（79）が出土している。

P12（第61図、図版39）

調査区南側X 10、Y 17に位置する。長軸0.21m、短軸0.19m、深さ0.26mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とし、黄褐色粘質土（地山）がブロック状に含まれる。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

P58（第61図、図版39）

調査区中央北よりX 20、Y 17に位置する。長軸0.32m、短軸0.29m、深さ0.35mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色粘質土とにぶい黄橙色粘質土を

基調とした2層に細分される。

P89 (第61図、図版39)

調査区中央北よりX 22、Y 11に位置する。長軸0.25m、短軸0.23m、深さ0.31mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

P93 (第61図、図版39)

調査区中央北よりX 22、Y 11に位置する。長軸0.26m、短軸0.23m、深さ0.20mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土はにぶい黄色粘質土を基調とした単層である。

P100 (第61図、図版39)

調査区北側X 25、Y 12に位置する。長軸0.40m、短軸0.37m、深さ0.22mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿(80)が出土している。

P101 (第61図)

調査区北側X 25、Y 11に位置する。長軸0.64m、短軸0.39m、深さ0.52mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色・黄褐色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿(81・82)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が数点出土している。

P108・109 (第61図、図版39)

調査区西側北よりX 23、Y 9に位置する。P108は残存長軸0.37m、短軸0.28m、深さ0.39mを測る楕円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。遺構上部で広がり緩やかに立ち上がる。南側がP109に切られる。埋土は灰黄褐色シルトを基調としている。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。P109は長軸0.41m、短軸0.27m、深さ0.45mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は灰黄褐色シルトを基調としている。北側においてP108を切る。

P133 (第61図、図版39)

調査区西側中央X 19、Y 11に位置する。長軸0.39m、短軸0.32m、深さ0.24mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿(83)が出土している。

P138・139 (第61図、図版39)

調査区西側中央X 18、Y 11に位置する。P138は長軸0.52m、短軸0.50m、深さ0.60mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。南側においてP139を切る。灰褐色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は碗の海部片(84)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。P139は直径0.52m、深さ0.08mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ちあがる。北側がP138に切られる。埋土は褐灰色シルトを基調とした単層である。

P158 (第61図、図版40)

調査区西側中央X 19、Y 10に位置する。長軸0.20m、短軸0.15m、深さ0.24mを測る円形のピットで

ある。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とし、黄褐色粘質土(地山)がブロック状に含まれる。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

P160・161 (第61図、図版40)

調査区西側中央X 19、Y 10に位置する。P160は直径0.31m、深さ0.04mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。東側においてP161を切る。埋土は褐灰色シルトを基調としている。P161は直径0.40m、深さ0.57mを測る円形のピットである。底部はやや平底を呈し、断面形状は急に立ちあがる。西側がP160に切られる。埋土は黒褐色シルトを基調とした2層に細分される。遺物は珠洲・すり鉢片(85)が出土している。

P170 (第61図、図版40)

調査区西側中央X 20、Y 10に位置する。長軸0.53m、短軸0.47m、深さ0.52mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とし、遺構中心に柱痕が認められる。遺物は中世土師器・皿(86)や、細片であるため図示できないが珠洲・甕もしくは壺の体部片が数点出土している。

P189 (第62図、図版40)

調査区西側中央X 15、Y 9に位置する。残存長軸0.32m、短軸0.30m、深さ0.08mを測る円形のピットである。底部は凹凸があり、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とし、南側はSK 40に切られる。遺物は中世土師器・皿(87)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が数点出土している。

P192 (第62図、図版40)

調査区西側中央X 15、Y 10に位置する。長軸0.51m、短軸0.44m、深さ0.60mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルト・黄灰色シルトを基調とした4層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

P224 (第62図、図版40)

調査区西側中央X 15、Y 8に位置する。長軸1.63m、短軸0.93m、深さ0.63mを測る楕円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がり上部で広がる。埋土は褐灰色シルト・黄褐色シルトを基調とした7層に細分される。遺物は珠洲・壺の体部片(88)や、細片であるため図示できないが土師器片・中世土師器・皿片が出土している。

P231 (第62図、図版40)

調査区西側南よりX 14、Y 8に位置する。長軸0.39m、短軸0.32m、深さ0.29mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

P232 (第62図、図版41)

調査区西側南よりX 14、Y 6に位置する。長軸0.70m、短軸0.51m、深さ0.29mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿(89)や、細片であるため図示できないが青磁・碗片・中世土師器・皿が数点出土している。

P235 (第62図、図版41)

調査区西側南よりX 13、Y 5に位置する。長軸0.32m、短軸0.28m、深さ0.34mを測る円形のピット

である。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿（90）が出土している。

P253 (第62図、図版41)

調査区西側中央X 18、Y 9に位置する。長軸0.25m、短軸0.23m、深さ0.34mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿（91・92）が出土している。

P255・256 (第62図、図版41)

調査区西側中央X 19、Y 9に位置する。P255は長軸0.25m、短軸0.21m、深さ0.18mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土は灰黄褐色シルトを基調とした単層である。P256は長軸0.70m、短軸0.65m、深さ0.55mを測る円形のピットである。底部はやや丸みを帯びる。断面形状は急に立ち上がり、遺構上部で広がり緩やかに立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした3層に細分される。P255の北側とP256南側が近接し、切り合っていないため新旧関係は確認できない。遺物は青磁・碗片（93）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が数点出土している。

P262・263 (第62図、図版41)

調査区西側中央X 17、Y 5に位置する。P262は直径0.23m、深さ0.20mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。西側がP263に切られる。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。P263は長軸0.21m、短軸0.17m、深さ0.21mを測る円形のピットである。底部はやや丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。東側においてP262を切る。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが珠洲・すり鉢片が出土している。

P270 (第62図、図版41)

調査区西側中央X 17、Y 5に位置する。長軸0.24m、短軸0.21m、深さ0.17mを測る円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿（94・95）や、細片であるため図示できないが珠洲・壺の体部片が出土している。

P284・285 (第62図、図版41)

調査区西側中央X 21、Y 7に位置する。P284は直径0.45m、深さ0.18mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。南西側がP285に切られる。埋土は黒褐色シルト・明貴褐色シルトを基調とした単層である。遺物は細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片が出土している。P285は長軸0.36m、短軸0.34m、深さ0.51mを測る円形のピットである。底部はやや丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。北東側においてP284を切る。埋土は黒褐色シルトを基調とした単層である。

P317 (第62図、図版41)

調査区南側中央X 8、Y 5に位置する。長軸0.38m、短軸0.32m、深さ0.07mを測る隅丸方形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状はやや緩やかに立ち上がる。埋土はにぶい黄橙色シルトを基調とした単層である。遺物は中世土師器・皿（96）や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、土師器・須恵器・中世土師器・皿・珠洲・青磁・白磁・瀬戸美濃・木製品などがある。

遺物は整理箱に10箱ほど出土し、遺物の年代は、古代・中世の2時期に区分される。遺物はできる限り帰属時期を特定し、それを各文末に記した。須恵器は田島編年（田島 1988）に、中世土師器・皿の帰属時期・分類は越前編年（越前 1996）に、珠洲の帰属時期・分類は吉岡編年（吉岡 1994）に、青磁・白磁の帰属時期・分類は森川編年（森川 1982）に基づき行った。土師器・須恵器・帰属時期は概ね8世纪代に、中世土師器・皿、珠洲は13世纪代、15世纪代に、青磁・白磁は13世纪前半に位置付けられる。

SK01 P25 (第117図、図版91)

1は土師器・小壺の口縁部片である。体部は丸みを帯び、頭部はくの字に屈曲する。口縁端部はやや丸みを帯びた面をもつ。体部外面にはススが付着している。

SK03 (第117図、図版91)

2是非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。底部は指押さえにより平底を作り出す。内面にはススが付着し、見込み部分にはハケ状工具によるナデが認められる。(ND II類)

SK12 (第117図、図版91)

3是非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて直線的に立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は若干先細りする。器壁は薄く、底部は指押さえにより深みをもつ。(NC I類)

4は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には単位不明の鉢目が間隔を持って施されている。体部下半は鉢目が確認できないほど使用による磨耗が顕著である。

SK17 (第117図、図版91)

5は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には単位不明の鉢目が間隔なく密に施されている。体部外面にはススが付着している。底部には静止糸切り痕が残る。

6は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には1単位9条の鉢目が間隔をもって施されている。

SK18 (第117図、図版91)

7は砥石である。角柱で三日月状を呈し、3側面を砥石として使用していた痕跡が認められる。

SK24 (第117図、図版91)

8は須恵器・壺の頭部片である。肩部から頭部に欠けて屈曲し、頭部は直立する。外面には自然釉が付着し、肩部と頭部の境にはつなぎ目痕が残る。

9は珠洲・壺の体部片である。外面は叩打法による横位平行叩き目文が施され、内面はヨコナデにより整形され、一部指頭圧痕が浅く残る。焼成はやや不良で土師質である。

10は瀬戸美濃・灰釉鉢皿の底部片である。底部には回転糸切り痕が残る。底部内面には格子上にヘラ刻みされた鉢目が施されている。断面には漆雜ぎ痕が残る。

SK28 (第117図、図版91)

11是非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は強い一段ナデが施されるため、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部は先細りし外面に若干面をもち、口縁端部内端を上方へ小さくつまみ上げる。器壁はやや薄い。体部外面にはケ状工具によるナデが認められる。(NE類)。

12は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には単位不明の鉢目が間隔を持って施されている。内面は使用による磨耗が顕著であり、全面にススが付着している。

SK35 (第117・118図、図版91・92)

13は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて直線的に立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は若干先細りする。器壁は薄く、底部は指押さえにより深みをもち平底気味に作り出す。(NC I類)

14は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部はヨコナデが施され、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。器壁はやや薄く、底部はやや丸みをもった平底を呈する。(NJ類)。

15・16はロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みをもって内湾しつつ立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。底部には糸切り痕が残る。内面見込み部分から口縁部を強くナデ回しているため、底部見込みが盛り上がる。15は見込み中央部をナデでへこませている。(RE類I類) 16は見込み中央部が盛り上がっている。口縁端部には灯心油痕が残る。(RE類II類)

17は青磁・碗の口縁部片である。体部はやや内湾しながら立ち上がり、口縁端部は若干先細りする。口縁部内面に片切彫による草花文が施される。暗緑色の釉薬が施釉されている。12世紀後半～13世紀初頭に比定される。

18は珠洲・壺の口縁部片である。口縁形状は嘴頭であり、短頭で「く」の字状を呈する。頸基部を強くナデ回し明確な肩を作る。13世紀前半に比定される。

19は珠洲・壺の口縁部片である。口縁部は若干外反気味に短く立ち上がり、口縁端部はやや幅の狭い面をもつ。口縁形状は方頭を呈する。15世紀前半(V期)に比定される。

20は珠洲・すり鉢の底部片である。内面には単位不明の卸目が間隔をもって施されている。底部は摩滅により不明瞭となっている。

21は珠洲・すり鉢である。口縁端部は内傾し、やや幅の狭い面をもつ。体部は若干内湾しながら立ち上がり、体部内面には12条1單位の卸目が間隔をもって施されている。体部下半は卸目が確認できないほど使用による磨耗が顕著である。15世紀前半(V期)に比定される。

22は珠洲・壺の肩部片である。肩部は半球状に張り、全体に綾杉状の叩き目が、内面にはヨコナデが施されており、押圧痕も残る。

23は瓦質土器・風炉の底部片である。体部は直線的に立ち上がり、口縁下部に突帯を廻らす。口縁端部は平坦で、内側に挽き出されている。焼成はやや不良で、内外面に一部ススが付着する。

24は瀬戸美濃・灰釉卸皿の口縁部片である。体部は外傾して開いて立ち上がる。口縁端部は上方に幅広の面をもち、内側に挽き出している。施釉は口縁部のみ浸け掛けしている。内面体部下半からヘラ刻みの卸目が施されている。断面には漆錆ぎ痕が残る。15世紀後半に比定される。

SK36 (第118図、図版92)

25は白磁皿の底部(高台部)片である。全体に乳白色の釉薬が施釉され、底部周辺から高台内面にかけて露胎である。ケズリ出し高台であり、高台内には判読不明な文字が墨書きされている。

SK43 (第118図、図版92)

26は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。やや浅身で、底部から若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に強い一段ナデを施すため、体部中央に段をもつ。口縁端部は丸くおさまり、器壁はやや薄い。(ND II類)

SK46 (第118図、図版92)

27は非クロコロ成形の中世土師器・皿の口縁部片である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は強い一段ナデが施されるため、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部は丸くおさまる。体部の器壁は若干厚く、体部下半は指頭圧痕が残る。(NE類)。

SK47 (第118図、図版92)

28は非クロコロ成形の中世土師器・皿である。外面は摩滅しているため調整は不明であるが、口縁部はヨコナデが施されているためか、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。器壁はやや薄く、口縁端部は先細りする。(NJ類)。

29は円形板である。直径14.6cmを測る小さな円形を呈する。曲物の底板か。

SK48 (第118図、図版92)

30はクロコロ成形の中世土師器・皿片である。底部から体部にかけて丸みをもって内弯しながら頸く立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。底部には糸切り痕が残る。口縁端部には灯心油痕が残る。(RE類)

SK52 (第118図、図版93)

31・32はクロコロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干内弯気味に立ち上がり、口縁端部外面に若干面をもつ。器壁は薄い。底部外面は糸切りにより平坦に切られており糸切り痕が残る。内面見込み部分から口縁部を強くナデ回しているため、底部内面が盛り上がる。口縁端部には灯心油痕が残る。(RG類)

33はクロコロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部には糸切り痕が残る。器壁はやや厚く、内面見込み部分は平坦である。(RE皿類)

34は青磁・碗の底部(高台部)片である。削り出し高台で、器壁はやや厚い。外面全体にオリーブ灰色の釉薬が施され、豊付きのみ露胎とし、露胎部分は赤橙色を呈する。貫入が顯著である。

35は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には単位不明の鉗目が間隔なく密に施されている。底部には静止糸切り痕が残る。

SK55 (第118図、図版93)

36は非クロコロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は強い一段ナデが施されるため、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部外面に面をもち、口縁端部内端を上方へ小さくつまみ上げる。体部の器壁は厚いが、底部は薄く作られる。底部は指押さえにより成形したのち、内面にナデが丁寧に施される。(NE類)

37は珠洲・壺の体部から底部片である。外面には叩き目が施されているが、下半はナデ消されている。内面はヨコナデにより整形され、指頭圧痕が浅く残る。底部には糸切り痕が残る。

SK58 (第118図、図版93)

38は珠洲・すり鉢の口縁部片である。口縁端部は水平で、やや幅の狭い面をもつ。口縁断面形状はやや丸みのある方頭を呈し、器壁は厚い。内面には単位不明の鉗目が横位に施されている。14世紀後半(IV2期)に比定される。

SK59 (第118図、図版93)

39は珠洲・壺の口縁部片である。口縁部は直立気味に短く立ち上がり、口縁端部はやや幅の狭い面をもつ。口縁端部が挽き出され、口縁形状は哨頭を呈する。15世紀前半(V期)に比定される。

SK61 (第118図、図版93)

40は珠洲・すり鉢の底部片である。内面は鉗目が確認できないほど使用による磨耗が顕著である。体部の器壁は厚いが底部は薄い。

SK67 (第118図、図版93)

41は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて直線的に立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。底部は平底に作り出し、やや浅身である。(ND II類)

SK68 (第118図、図版94)

42は珠洲・すり鉢の底部片である。内面は鉄目が確認できないほど使用による磨耗が顕著である。器壁は厚い。

43は珠洲・すり鉢の口縁部片である。口縁端部は内傾し、やや幅の狭い面をもつ。体部は直線的に立ち上がり、体部内面には9条1単位の鉄目が間隔をもって施されている。器壁はやや薄い。15世紀前半(V期)に比定される。

44は珠洲・壺の底部片である。体部外面に横位の叩き目が、内面にはヨコナデが施されており、押圧痕も残る。底部から体部にかけて焼垂みが認められる。

SK69 (第119図、図版94)

45~48は不明木製品片である。45は先端の一部遺存している箇所は円形を呈する。曲物の底板か。46は不整形な板状を呈す。47は長方形の板状を呈す。48はやや幅広の板状を呈す。いずれも用途は不明である。

SK70 (第119図、図版94)

49は円形板片である。残存直径12.9cm、厚さ0.85cmを測る。円形板の曲線部が一部遺存する。曲物の底板か。

SD01 (第119図、図版95)

50は珠洲・壺の口縁部片である。口縁部は直立気味に短く立ち上がり、口縁端部は若干外傾し、やや幅の狭い面をもつ。口縁形状は方頭を呈する。焼成は不良である。15世紀前半(V期)に比定される。

51は珠洲・すり鉢の口縁部片である。口縁端部は水平で、やや幅の狭い面をもつ。口縁部断面形状はやや丸みのある方頭を呈し、器壁はやや厚い。14世紀後半(V2期)に比定される。

52は砥石である。角柱状を呈し、4側面および上下面2面のすべてを砥石として使用していた痕跡が認められる。

53は不明木製品片である。上部は三角形を呈し、板状である。用途は不明である。

54は箸である。両端を削る両口箸であり、断面形状は三角形を呈する。片端が被熱している。

55は漆椀である。体部は内窵しながら立ち上がり、器壁はやや薄い。内外面黒漆が施され、内面には赤漆で文様が描かれている。

SD04 (第119図、図版95)

56は須恵器・杯蓋片である。やや扁平な擬宝珠形を呈し、天井部はヘラケズリが施され平坦面をもつ。

57は非ロクロ成形の中世土師器・皿の口縁部片である。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。焼成はやや不良であり、摩滅が著しい。

58は珠洲・壺の口縁部片である。口縁形状は方頭である。

59は珠洲・壺の口縁部片である。口縁部は直立気味に短く立ち上がり、口縁端部は若干外傾し、やや幅の狭い面をもつ。口縁形状は方頭を呈する。15世紀前半(V期)に比定される。

60は珠洲・すり鉢の底部片である。内面は使用による磨耗が顕著である。体部の器壁は厚いが底部は

薄い。

61は珠洲・すり鉢の底部片である。内面は単位不明の鉤目が密に施されている。使用による消耗が顕著である。体部の器壁は厚いが底部は薄い。

62は珠洲・壺の底部片である。底部には糸切り痕が残る。

SD05 (第119図、図版95)

63は珠洲・すり鉢の口縁部片である。口縁端部は内傾し、やや幅の広い面に柳日波状文帯を廻らす。15世紀前半（IV2期）に比定される。

64は珠洲・壺の底部片である。

SD11 (第119図、図版95)

65は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部はやや先細りする。器壁はやや厚く、底部は指押さえにより平底気味に作り出しやや浅い。口縁部にはススが付着している。（NC I類）

SD16 (第119図、図版95)

66は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は丸く収まる。器壁はやや厚く、底部は指押さえにより深みをもち丸底を作り出す。（NC II類）

67は珠洲・すり鉢の底部片である。内面には単位不明の鉤目が間隔を持って施されている。底部には糸切り痕が残る。

SD17 (第120図、図版95)

68は白磁・碗の口縁部片である。口縁部は折り返され、玉縁状を呈する。口縁部内外面には乳白色の釉薬が施され、体部外面は露胎とする。12世紀後半に比定される。

69は錢貨である。裏面が無文であり、いわゆる新寛永の寛永通寶（1668年～）である。

SD22 (第120図、図版96)

70は珠洲・壺の底部片である。内面は指押さえのちにナデが、外面は丁寧なナデが施されている。底部外面は平滑に仕上げており、砂目の痕跡が残る。

71は珠洲・壺の体部片である。外面には叩き目が、内面はヨコナデにより整形され、指頭圧痕が浅く残る。

SD24 (第120図、図版96)

72は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部はヨコナデが施され、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部は先細りする。器壁はやや薄く、底部はやや丸みをもった半底を呈す。（NJ類）

73は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部はヨコナデが施され、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。器壁はやや薄く、口縁端部は先細りする。（NJ類）

SD25 (第120図、図版96)

74は非ロクロ成形の中世土師器・皿の口縁部片である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて若干開いて立ち上がる、口縁部は強い一段ナデが施されるため、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部は丸くおさまる。体部の器壁は若干厚く、体部下半は指頭圧痕が残る。（NE類）

75は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がる。口縁部には一段ナデが施され、口縁端部は丸くおさまる。底部は指押さえにより平底に作り出し、中心は若干押し上げられている。器壁はやや薄く、焼成はやや不良である。(ND II類)

76は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部はやや丸く收まり、器壁は薄い。底部は平底に作り出し、やや浅身である。口縁部には灯心油痕が残る。(ND II類)

77は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干内湾気味に立ち上がり、二段ナデが施されているため体部中位に明瞭な稜をもつ。口縁端部は若干先細りし、器壁はやや薄い。(NA類)

78は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。やや浅身で、底部から若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施されており、口縁端部は若干先細りする。(ND II類)

SD26 (第120図、図版96)

79は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は丸く收まる。器壁はやや厚く、底部は指押さえにより深みをもち平底気味に作り出す。(NC I類)

P100 (第120図、図版96)

80は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁部に一段ナデを施し、口縁端部外側に面をもつ。体部の器壁は若干厚く、底部は薄く作られる。(NE類)

P101 (第120図、図版96)

81は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は直線的に立ち上がり、一段ナデが施され体部中位には薄く稜をもつ。口縁端部外側に若干面をもつ。内面にはススが付着している。(ND II類)

82は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は直線的にやや開いて立ち上がり、口縁部にはナデが施される。口縁端部は先細りし、底部は平底に作り出している。体部器壁は薄いが、底部はやや厚い。(NG類)

P133 (第120図、図版96)

83はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部には糸切り痕が残る。器壁は厚く、内面見込み部分は平坦である。(RB類か)

P138 (第120図、図版96)

84は硯の海部片である。陸部の中央は使用による窪みが認められる。海部を鈍角に削って作り出されている。

P161 (第120図、図版96)

85は珠洲・すり鉢の底部片である。体部内面には単位不明の卸目が間隔を持って施されている。内面は使用による磨耗が顕著であり、全面にススが付着している。器壁はやや薄く、底部には糸切り痕が残る。

P170 (第120図、図版96)

86は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干内湾気味に立ち上がり、二段ナデが施されているため体部中位に明瞭な稜をもつ。口縁端部は若干丸くおさまる。底部外側は平坦であり器壁はやや厚い。(NA II類)

P189 (第120図、図版96)

87はロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みをもって内弯しながら短く立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。底部には糸切り痕が残る。(RE類)

P224 (第120図、図版97)

88は珠洲・壺の肩部片である。肩部は半球状に張り、全体に横位の叩き目が、内面にはヨコナデが施されており、押圧痕も残る。肩部に3条の縦線画による刻文が施されている。

P232 (第120図、図版97)

89は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。やや浅身で、底部から若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に強い一段ナデを施すため、体部中央に段をもち口縁部は若干外反する。口縁端部は丸く收まり、器壁は厚い。(ND II類)

P253 (第120図、図版97)

90はロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は直線的に開いて立ち上がり、口縁端部は先細りする。器壁は薄く、底部には糸切り痕が残る。内面見込み部分から口縁部を強くナデ回しているため、底部見込みが盛り上がる。(RG類)

91は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は丸く收まる。器壁はやや厚く、底部は指押さえにより平底気味に作り出しやや浅い。口縁部にはススが付着している。(NC I類)

92は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。口縁部はヨコナデが施され、体部から口縁部にかけて直線的に伸び上がる。器壁はやや薄く、口縁端部は先細りする。(NJ類)

P256 (第120図、図版97)

93は青磁・碗の底部(高台部)片である。削り出し高台で、器壁はやや薄い。内外面全体に薄い青灰色の釉薬が比較的薄く施されているが、底部内面及び足付きは露胎である。貫入が顯著である。

P270 (第120図、図版97)

94は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部には一段ナデが施され、口縁端部は若干先細りする。器壁はやや薄く、内面にはススが付着し、口縁部には灯心油痕が残る。(ND II類)

95は非ロクロ成形の中世土師器・皿の口縁部片である。底部から体部にかけて若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部は強い一段ナデが施されるため、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。口縁端部は丸くおさまる。(NE類)。

P317 (第120図、図版97)

96は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。底部は平底に作り出し、やや浅身である。(ND II類)

その他 (第120図、図版97)

97は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施され、口縁端部は丸く收まる。器壁はやや厚く、底部は指押さえにより深みをもち丸底に作り出す。(NC II類)(X 16、Y 12 包含層)

98はロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけて丸みをもって内弯しつつ立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。底部には糸切り痕が残る。内面見込み部分から口縁部を強くナデ回しているた

め、底部見込みが盛り上がる。(X 12、Y 7 表面精査)

99はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部から体部にかけて丸みをもって内弯しつつ立ち上がり、底部には糸切り痕が残る。内面見込み部分から口縁部を強くナデ回しているため、底部見込みが盛り上がる。(X 12、Y 7 表面精査)

100は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。口縁部はヨコナデが施され、体部から口縁部にかけて軽くS字状に屈曲する。器壁はやや薄く、口縁端部は先細りする。(NJ類)(X 21、Y 11 表面精査)

101はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部には糸切り痕が残り、円錐状に盛り上がる。内面見込み部分を強くナデ回しているため窪み、底部見込みが盛り上がる。器壁はやや厚い。(RE類か)(X 12、Y 7 表面精査)

102はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部には糸切り痕が残り、円錐状に若干盛り上がる。内面見込み部分を強くナデ回しているため窪み、底部見込みが盛り上がる。器壁はやや厚い。(RE類か)(X 12、Y 7 表面精査)

103は珠洲・すり鉢の口縁部片である。口縁端部は水平で、やや幅の狭い面をもつ。口縁部断面形状は方頭を呈し、器壁はやや薄い。14世紀後半(IV2期)に比定される。(X 21、Y 11 表面精査)

104は珠洲・壺の口縁部片である。口縁形状は円頭であり、短頭で「く」の字状を呈する。頭基部を強くナデ回し明確な肩を作る。14世紀後半に比定される。(X 11、Y 10 表面精査)

105は青磁碗の口縁部片である。体部はやや内弯しながら立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。口縁部外面に雷文帯を廻らし、体部には片切形による草花文が施される。オリーブ灰色の釉薬が施釉されている。15世紀前半に比定される。(X 13、Y 16 表面精査)

106は瀬戸美濃・灰釉鉢皿の口縁部片である。体部は外傾して開いて立ち上がる。口縁端部は上方にやや幅が狭い面をもち、内側を若干挽き出している。施釉は口縁部のみ浸け掛けしている。内面体部下半からヘラ刻みの鉢印が施されている。15世紀後半に比定される。

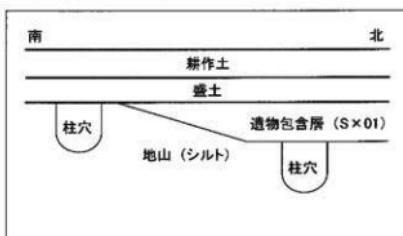
107は銭貨・天禧通寶である。初鑄年代は1017年である。(X 30、Y 12 表面精査) (小川幹太)

8. 宗守II遺跡2地区の概要

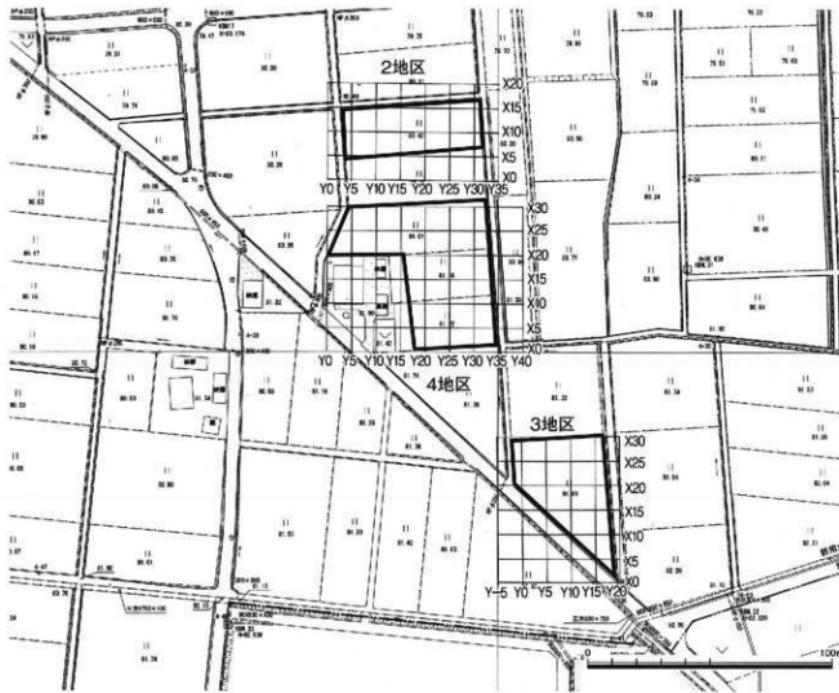
(1) 地形と基本層序 (第11図)

宗守II遺跡2地区は山田川扇状地の中央部に位置する。海拔は80.2～80.3mを測り、地形は東から西へ緩やかに傾斜している。地表から地山までの深さは20～30cmである。基本層は上位から耕作土(1層土)、盛土(2層土)、地山(黄褐色粘質土 3層土)の順に堆積している。

調査区中央部から北側にかけて鞍部状の落込み(S X 01)が確認された。覆土は黒褐色粘質土(遺物包含層)、褐灰色粘質土(漸移層)を基調とし堆積している。この鞍部状の落込みは、調査区中央から西側において約10～20cmと浅く、下位からは遺構が検出された。北側では深さ77cmを測り、北側に行くにつれ徐々に深くなる。調査区中央部で黒色土からは須恵器・土師器など古代の遺物や中世土師器皿、近世陶磁器など多種多用な遺物が細片ながら多く出土した。



第11図 宗守II遺跡2地区の基本層序



第12図 宗守II遺跡2・3・4地区の調査区割 (S=1/2,000)

(2) 遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物跡2棟、溝4条、多数のピットを検出した。

SB01 (第64図、図版43)

調査区西側に位置する。SB01P1～P20の20基で構成され、梁行3間、桁行4間の総柱建物である。桁行9.0m、柱間2.1m～2.2m、梁行7.8m、柱間2.5～2.6m、床面積69m²を測る。主軸はN-78°-Wである。建物の柱穴は直径約0.35m、深さ約0.25mを測る。柱穴の深度はほぼ一定であるが、建物西側の柱穴列P1・6・11・16は他の柱穴と比較して深度が浅い。柱穴の平面形状は円形を呈し、抜き取り痕や柱痕は確認できなかった。遺物はP9・P15・P19から中世土師器・皿(2・3・5)が、P15から土師器・甕の体部片(4)がP20から珠洲・壺の口縁部片(6・7)、壺の体部片(8)が出土している。

SB02 (第65図、図版44)

調査区南側に位置する。SB02P1～P12の12基で構成され、梁行2間、桁行3間の総柱建物である。桁行5.6m、柱間2.1m～2.2m、梁行6.9m、柱間2.5～3.0m、床面積38m²を測る。主軸はN-86°-Wである。建物の柱穴は直径約0.33m、深さ約0.20mを測る。柱穴の深度はほぼ一定であるが、深度は比較的浅い。柱穴の平面形状は円形を呈し、抜き取り痕や柱痕は確認できなかった。遺物は細片であるため

図示できないがP 14から中世土師器・皿片が、P 12から土師器・壺の体部片が出土している。

SK07・08・09（第67図、図版45）

調査区南東X 8～9、Y 29に位置する。SK07は長軸1.61m、短軸1.51m、深さ0.23mを測る円形の土坑である。底部は丸みを帯びた平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。南側においてSK 08を切る。埋土は黒褐色粘質土を基調とし複雑に堆積する。遺物は須恵器・杯（9）や、土師器・壺の体部片（10）、細片であるため図示できないが須恵器・蓋片や、土師器・壺の体部片が出土している。SK 08は残存長軸0.50m、短軸1.26m、深さ0.12mを測る不定形の土坑である。断面形状は緩やかに立ち上がる。北側をSK 07に切られ、南側においてSK 09を切る。埋土は褐灰色粘質土を基調とした単層である。SK 09は長軸1.86m、残存短軸1.01m、深さ0.10mを測る不定形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。北側をSK 08に切られ、南側においてP 52を切る。埋土は黒褐色粘質土を基調とした単層である。遺物は須恵器・杯（11）が出土している。

SK 10（第67図、図版45）

調査区南東側X 9、Y 31に位置する。直径1.15m、深さ0.27mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが土師器片が出土している。

SK 11（第67図、図版45）

調査区南東側X 8、Y 31に位置する。長軸1.33m、短軸1.03m、深さ0.67mを測る不定形の土坑である。底部は先細り丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片が出土している。

SD01（第67図、図版45）

調査区南西側X 5～7、Y 4～10に位置する。主軸はN-72°-Wで南東から北西に向かって延び、両端とも調査区外に延びる。残存長13.93m、幅0.73m、深さ0.20mを測る。断面形状はやや急に立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが須恵器・壺の体部片、中世土師器・皿片、珠洲・壺・壺・すり鉢片、越前・壺の体部片が出土している。

P 42（第67図、図版45）

調査区南側X 5、Y 17に位置する。長軸0.29m、短軸0.24m、深さ0.09mを測る椭円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は褐灰色シルトを基調とした単層である。

P 65（第67図、図版45）

調査区南東側X 9、Y 28に位置する。長軸0.31m、短軸0.25m、深さ0.33mを測る不定形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒色シルトを基調とした2層に細分される。

SK01（第68図、図版46）

調査区北側、X 9～15、Y 3～20に位置する。残存長軸34.61m、残存短軸12.60m、深さ0.77mを測る大型の落込みである。形状は北側向かって緩やかに落込み、調査区中央北端で最大深度を測る。埋土は上層から明黄褐色粘質土（1層土）、黒褐色粘質土（2層土）、褐灰色粘質土（3層土）の3層に細分される。遺物は明黄褐色粘質土（1層土）から須恵器・蓋（12・13）、杯（14）が、黒褐色粘質土（2層土）から須恵器・蓋（15）、杯（16～19）、中世土師器・皿（20～22）、青磁・碗の口縁部片（23）白磁・皿の底部片（24）珠洲・壺の肩部片（25）、越中瀬戸・碗の口縁部片（26）、皿（27）が、褐灰色粘質土（3層土）

からは土師器・甕の口縁部片(28)が出土している。また、細片であるため図示できないが土師器、須恵器、甕・蓋・杯片、中世土師器・皿、珠洲・壺・壺・すり鉢片、青磁・白磁片、越中瀬戸・碗・皿、伊万里・碗片など上層から下層にかけて多種多様な遺物が多く出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、土師器、須恵器、中世土師器・皿、珠洲、青磁、白磁、瓦質土器、越中瀬戸、伊万里、古鏡がある。遺物は整理箱に5箱ほど出土した。出土した遺物は量的に少ないものの、古代・中世の二時期に区分される。遺物はできる限り帰属時期を特定し、それを各文末に記した。須恵器は出島編年(田島 1988)、土師器・皿の帰属時期・分類は越前編年(越前 1996)に、珠洲の帰属時期・分類は吉岡編年(吉岡 1994)に、青磁・白磁の帰属時期・分類は森田編年(森田 1982)に基づき行った。土師器、須恵器の帰属時期は概ね8世紀代に、中世土師器・皿、珠洲は13世紀代・15世紀代に、青磁・白磁は13世紀前半に、瓦質土器は15世紀後半に、越中瀬戸・伊万里は17世紀後半～18世紀前半に位置付けられる。

SBO1 (第121図、図版98)

1は非クロロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデを施し、口縁端部は先細りする。体部の器壁は薄く、全体的に摩滅が著しい。(NE類)

SBO1 P09 (第121図、図版98)

2は非クロロ成形の中世土師器・皿である。やや浅身で、体部は若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施されており、口縁端部は若干先細りする。(ND II類)

SBO1 P15 (第121図、図版98)

3は非クロロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施されており、口縁端部は若干先細りする。(ND II類)

4は土師器・甕の体部片である。外面は平行叩き文が施され、内面は摩滅により調整不明である。

SBO1 P19 (第121図、図版98)

5はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。底部には糸切り痕が残る。器壁はやや厚く、内面見込み部分は平坦である。(RB類か)

SBO1 P20 (第121図、図版98)

6・7は珠洲・壺の口縁部片である。頸部は直線的に伸び、肩部はやや張り気味に丸みを帯びて体部につながる。口縁部は嘴頭状を呈し、口縁端部は若干丸くおさまる。嘴頭状を呈する突き出し部分の直上に1条の沈線が浅く廻る。13世紀前半(Ⅲ期)に比定される。

8は珠洲・甕の体部片である。外面は叩打法による継位の平行叩き目文が施され、内面はヨコナデにより成形され、指頭圧痕が浅く残る。

SK07 (第121図、図版98)

9は須恵器・無台杯である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部は先細りする。器壁は薄く、やや深身である。底部はやや丸みを帯び、底部外面には回転ヘラ切りのちナデが施されている。8世紀後半に比定される。

10は土師器・長胴甕の体部片である。体部は若干丸みを帯びて立ち上がる。胴部中位以下に外面は格子状叩き目が内面には同心円文叩きが施され、叩き後に同部中位以上に外面には横位のハケ、内面には斜位のハケが施されている。

SK09 (第121図、図版98)

11は須恵器・有台杯である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部はやや丸みを帯びる。底部外面には×印のヘラ書きが施されている。8世紀後半に比定される。

SX01 明黄褐色粘質土（1層土）（第121図、図版98・99）

12・13は須恵器・蓋である。扁平なつまみをもち、天井部はヘラケズリが施された平坦面をもつ。12のつまみはやや小振りである。8世紀後半に比定される。

14・16は須恵器・有台杯である。短く小ぶりで高台が体部立ち上がり箇所よりも内側に貼付される。16は焼成がやや不良で土師質である。8世紀後半に比定される。

SX01 黒褐色粘質土（2層土）（第121図、図版99）

15は須恵器・蓋である。やや小振りな扁平なつまみをもち、天井部はヘラケズリが施された平坦面をもつ。8世紀後半に比定される。

17・18は須恵器・有台杯である。短く小ぶりな高台が体部立ち上がり箇所よりも内側に貼付される。18の底部外面にはヘラ切り痕が残る。8世紀後半に比定される。

19は須恵器・無台杯である。体部は直線的に立ち上がる。器壁は薄く、底部はやや丸みを帯びる。8世紀後半に比定される。

20はロクロ成形の中世土師器・皿である。体部は若干内弯気味に開いて立ち上がり、口縁端部は若干先細りする。器壁はやや厚い。底部外面は糸切りにより平坦に切られており糸切り痕が残る。（RB類）

21はロクロ成形の中世土師器・皿の底部片である。体部はやや開いて立ち上がり、底部には糸切り痕が残る。器壁はやや厚く、内面見込み部分は平扣である。（RB類か）

22は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く取まり、器壁はやや厚い。底部は指押さえにより平底を作り出す。（ND II類）

23は青磁・碗の口縁部片である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は若干先細りする。口縁部内面に片切彫による鎬連介文が施される。暗緑色の釉薬が施釉されている。13世紀前半に比定される。

24は白磁・皿の底部片である。全体に乳白色の釉薬が施され、底部内面は露胎である。底部は平坦な平底である。

25は珠洲・壺の頭部片である。頭部に柳日波状文が施されている。

26は越中瀬戸・天目茶碗である。体部はやや丸みを帯びながら直線的に立ち上がる。全体に褐色の釉薬が施されている。

27は越中瀬戸・皿である。口縁部は若干内弯しながら立ち上がり口縁端部は丸くおさまる。底部はケズリ出し高台である。内面見込み部分には釉止めの段ではなく、口縁部外面および内面全体に白色の釉薬が施釉されている。17世紀後半に比定される。

SX01 褐灰色粘質土（3層土）（第121図、図版99）

28は土師器・小壺の口縁部片である。体部は若干丸みを帯びて直線的に立ち上がり、頭部は緩やかに外反する。口縁端部はやや丸みを帯びた面をもつ。口縁部はヨコナデが、体部外面には継位のハケ、体部内面はケズリが施されている。体部外面にはススが付着している。

その他（第121図、図版99）

29～32は須恵器・無台杯の口縁部片である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸くおさまる。器壁はやや薄い。8世紀後半に比定される。（X = 15、Y = 6表面精査）

33は須恵器・無台杯の底部片である。器壁はやや厚く、底部はやや丸みを帯びる。8世紀後半に比定される。(X = 15, Y = 6表面精査)

34は非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。底部は指押さえにより平底を作り出す。(ND II類) (X = 10, Y = 8表面精査)

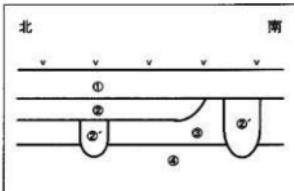
35は珠洲・壺の口縁部片である。頸部は直線的に伸び、口縁部は玉縁状を呈する。(X = 13, Y = 5表面精査)

36は瓦質土器・風炉(有窓鉢形土器)の口縁部片である。体部はやや丸みを帯びながら立ち上がる。幅広の平坦な口縁端部をもち、内側に肥厚する。口縁部下に2条の突帯をもち、突帯間に花弁文のスタンプが連続に押捺されている。また、突帯下部には窓の一部が遺存する。外側はヘラミガキ、内面はナデを施す。内外面とも焼しにより漆黒色を呈する。断面は灰白色で焼成は良好である。(小川幹太)

8. 宗守II遺跡3地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第2・13図)

本調査区は、山田川左岸河岸段丘上、遺跡の南東部端に位置する。地形は、南西から北東に向かって緩やかに傾斜する。標高は約81.3~81.5mを測る。基本層序は、①耕作土、②黒褐色粘質土(中世の遺物包含層)、③黄褐色粘土(地山1)、④黄褐色砂礫層(地山2)である。昭和30年代のは場整備等で削平された箇所が多く、②の層は希薄であり、①、③の順で堆積を確認する箇所が多い。②の中世構造も上面を削平されたものが多い。



第13図 宗守II遺跡3地区の基本層序

(2) 遺構の概要 (第69~78図、図版47~54)

本地区では、中世(12世紀後半から13世紀、14世紀後半から15世紀)の掘立柱建物2、土坑36、溝8、井戸1、その他ピット等を多數確認した。

SB01 (第70図、図版48)

調査区北西側、X 23~28、Y -0.5~5に位置する。桁行3間、梁行4間、約8.0m×9.0mの総柱建物である。柱穴は、直径0.4~0.7mの円形または椭円形を呈しており、深さ0.3~0.4mを測る。遺構の軸方向は、N-10°-Eである。SD01、03、SK28、29、30を切っている。埋土は黒褐色粘質土に鉄分、炭が混じる。抜取痕から柱は直径約0.2mと考えられる。出土遺物には、中世土師器・皿がある。出土遺物が少ないものの、周囲の遺構との切り合い状況、柱穴の形態等から、遺構は12世紀後半から13世紀に存在したと考えられる。

SB02 (第70図、図版48)

調査区北西側、X 19~22.5、Y -1~2.5に位置する。桁行3間、梁行3間、約6.5m×6.5mの総柱建物である。柱穴は、直径0.3~0.6cmの円形または格円形を呈しており、深さ0.2~0.28mを測る。遺構の軸方向は、N-12°-Eであり、これはSB01とはほぼ同様である。埋土はやや粘質の黒褐色土に鉄分、炭が混じる。抜取痕から柱は直径約0.2mと考えられる。出土遺物には、中世土師器・皿、椀がある。遺構の時期は、SB01同様、12世紀後半から13世紀と考えられる。

SK01・02 (第71図、図版49)

調査区北東側、X 21~26、Y 14~17に位置する。SK01は、長軸が東西方向に5.0m以上、短軸が南

北方向に4.0m、深さ0.42～0.6mを測る方形土坑、SK02は長軸が南北方向に5.5m、短軸が東西方向に3.0m以上、深さ0.26mを測る不整形の土坑である。SK02はSK01の南側0.5mに位置し、遺構の形態が似かよっていることから、同様の用途と考えられる。底面はいずれも丸底を呈している。2基とも壁面の立ち上がりはゆるやかで、床面はやや平坦である。埋土は、SK01が黒褐色土または黒褐色粘土に黄褐色土、鉄分が混じり、炭を大量に含む。SK02は、黒褐色粘質土に鉄分、黄褐色土を少量含む。出土遺物は、SK01から珠洲・壺、甕、中世土師器、SK02から珠洲・すり鉢、中世土師器が出上している。

SK04 (第72図、図版50)

調査区の北東側、X 21.5～23、Y 11～13に位置する。長軸が南北方向に3.0m、短軸が東西方向に2.5mで、深さは0.35mを測る。ほぼ正方形を呈している。遺構内西側、北側には、0.3～0.4m大の石が一列、直角に並べられている。壁面の立ち上がりは急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色土に黄褐色土、黄灰色土が大量に混じり、鉄分、炭を含む。出土遺物には、中世土師器、珠洲・甕、白磁・碗がある。これらの遺物から、遺構は12世紀後半に属する。

SK05 (第72図、図版51)

調査区の北東側、X 23～25、Y 12.5～14に位置する。長軸が北東から南西方向に3.5m、短軸が北西から南東方向に2.7mで、深さは0.38mを測る。不整形の土坑である。壁面の立ち上がりは不明瞭で、床面は平坦であるが、遺構内南側では一段深い小穴が確認できる。埋土は、黒褐色粘質土に黄褐色土をやや多く含み、炭、鉄分が少量混じる。出土遺物には、中世土師器、珠洲・すり鉢、壺がある。これらの遺物から、遺構は14世紀後半から15世紀初頭に属する。

SK09・10 (第72図)

調査区の北東側、X 23.5～25、Y 11～12に位置する。SK09は、長軸が南北方向に1.7m、短軸が東西方向に1.5mで、深さは0.72mを測る。南北にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりはやや急で、床面はすり鉢状を呈する。埋土は、黒褐色土に黄褐色土を含む。出土遺物には、中世土師器・皿がある。

SK10は、一辺約0.8mの正方形を呈し、深さは0.6～0.64mを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は丸底を呈する。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土がブロック状に混じる。炭、鉄分も混じる。出土遺物には、珠洲・すり鉢、甕、青磁・碗がある。

SK11・12 (第73図、図版51)

調査区の北東側、X 27～28.5、Y 14～15.5に位置する。SK11は、長軸が南北方向に2.0m、短軸が東西方向に2.4mで、深さは0.46mを測る。東西にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりは直角に近い急な角度で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色土に黄褐色土を大量に含む。炭、鉄分混じる。出土遺物には、中世土師器・皿がある。遺物から、遺構は15世紀前半に属する。

SK12は、長軸が南北方向に2.0m、短軸が東西方向2.2mで、深さは0.31mを測る。東西にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりは急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色土に炭、鉄分が少量混じる。出土遺物には、須恵器・杯、白磁・碗がある。

SK17・18 (第73図、図版51)

調査区の南側、X 7～8.5、Y 15～16.5に位置する。SK17は、長軸が東西方向に2.5m、短軸が南北方向に2.2mで、深さは0.34mを測る。東西にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色土に黄褐色土が混じる。出土遺物には、中世土師器、珠洲・甕が

ある。

SK18は、SK17の北東側にありSK17の付属施設である。長軸が南北方向に2.0m、短軸が東西方向1.2mで、深さは0.29mを測る。南北にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりはゆるく、床面は平坦である。埋土は、SK17と同様である。出土遺物には、中世土師器がある。

SK20・21（第74図、図版52）

調査区の南側中央、X 9.5～13.5、Y 8.5～14に位置する。SK21は、長軸が東西方向に約4.0m、短軸が南北方向に3.2mで、深さは0.4mを測る。東西にやや長い楕円形の土坑である。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は丸底を呈する。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土を多く含む。出土遺物には、中世土師器・皿・漁戸・皿がある。

SK20は、SK21の南東側にある。一辺約4.0mの方形土坑である。深さは0.7mを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色粘質土に黄褐色土が少量混じり、底部に近い箇所では黒色の粘質土または暗灰黄色の砂質土・骨片・もみ殻等の植物遺体を多く含む。SK21はSD03、SK20を切っている。出土遺物には、中世土師器・皿・珠洲・すり鉢・壺・骨片がある。切り合い状況、出土遺物から、SK21は15世紀前半、SK20はそれ以前と考えられる。

SK22（第75図）

調査区の東側中央、X 19.5～21.5、Y 13.5～15.5に位置する。長軸が南北方向に約3.5m、短軸が東西方向に2.5mで、深さは0.26mを測る。南北に長い方形土坑である。壁面の立ち上がりはやや緩やかで、床面は丸底に近い。埋土は、黒褐色土に黄褐色土がマーブル状に混じり、炭・鉄分を含む。出土遺物には、中世土師器・碗がある。

SK25・26・27（第75図、図版54）

調査区の中央、X 18～21、Y 6～10に位置する。いずれもSD03内、SD03掘りかたに位置する。SK25は、長軸が北東から南西方向に3.0m、短軸が北西から南東方向に2.5mで、深さは0.45mを測る。不整形の土坑である。壁面の立ち上がりは緩やかで、床面はやや平坦である。埋土は、黒褐色粘質土とオリーブ褐色土の砂層が互層となって堆積する。出土遺物には、中世土師器・皿がある。これらから、遺構は12世紀後半に存在したと考えられる。

SK26は、一辺約1.5mの正方形の土坑である。深さは0.17mを測る。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色粘質土に鉄分が混じる。出土遺物には、中世土師器がある。

SK27は、長軸が北西から南東方向に1.7m、短軸が北東から南西方向に1.3mで、深さは0.28mを測る。方形の土坑である。壁面の立ち上がりはやや急で、床面は平坦である。埋土は、黒褐色シルトにオリーブ褐色の砂層が混じる。

SK28・29・30（第76図、図版53）

調査区の北西側、X 23.5～26.5、Y -1～-1.5に位置する。3基の土坑が切りあっている。SK28は長軸が北西から南東方向に3.5m、短軸が北東から南西方向に3.0m以上で、深さは0.29mを測る。方形を呈しており、遺構の西側は調査区外へ延びている。壁面の立ち上がりは急で、一部遺構の東側では緩やかになっている。床面は平坦で、0.2m弱の石が目立つ。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土が少量混じる。電鋸り状、もしくはブロック状に混じる。炭・鉄分が混じる。出土遺物には、珠洲・鉢・中世土師器・皿・越前・壺・炭がある。SB01の柱穴に切られている。

SK29は、SK28の南側に隣接する。長軸が北東から南西方向に4.5m、短軸が北西から南東方向に3m

以上である。深さは0.24mを測る。南北にやや長い方形土坑である。壁面の立ち上がりは緩やかで、床面は平坦である。SK28同様、0.2m弱の石が目立つ。SK28に切られる。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土が少量混じり、焼土、炭も確認できる。出土遺物には、珠洲・すり鉢、壺、中世土師器・皿、白磁・碗、越前・壺がある。SK30は、SK29の東側に隣接する。長軸が北東から南西方向に3.3m、短軸が北西から南東方向に2.3mで、深さは0.21mを測る。南北にやや長い方形の土坑である。壁面の立ち上がりは緩やかで、SK28・29同様、床面は平坦で0.2m弱の石が目立つ。SK29に切られる。よって土坑3基の切り合い関係は、SK28 > SK29 > SK30となる。埋土は、黒褐色土に黄褐色土が混じり、炭、鉄分も確認できる。出土遺物には、中世土師器・皿、珠洲・壺、すり鉢、越前がある。切り合い状況、出土遺物等から、SK28は14世紀前半、SK29は13世紀代、SK30は12世紀後半と考えられる。

SK32・33（第77図、図版54）

調査区の西側中央、X 19.5～21、Y -0.5～2に位置する。2基の土坑が東西に並ぶ。SK32は短軸が北西から南東方向に2.3m、長軸が北東から南西方向に2.5mで、深さは0.3mを測る。方形を呈する。壁面の立ち上がりは不明瞭で、床面はやや平坦である。埋土は、黒褐色粘質土に黄褐色土、鉄分が少量混じる。出土遺物には、中世土師器・皿、珠洲・鉢、壺、砥石がある。出土遺物から、15世紀後半と考えられる。

SK33は、SK32の西側に隣接する。短軸が北東から南西方向に1.5m以上、長軸が北西から南東方向に1.7mである。深さは0.78mを測る。東西に長い方形土坑であり、遺構の西側調査区外へ延びる。壁面の立ち上がりはやや急で、凹凸がある。埋土は、黒褐色土に少量の黄褐色土が混じる。出土遺物には、中世土師器・珠洲・壺がある。

SK36（第77図、図版50）

調査区の東側中央、X 20～21.5、Y 10.5～13に位置する。長軸が東西方向に5m、短軸が南北方向に2.5mで、深さは0.5mを測る。東西に長い方形を呈する。壁面の立ち上がりは、南北方向で急な角度がつき、東西方向では緩やかである。床面はやや平坦である。埋土は、上部に黄褐色土が0.16～0.18m厚に堆積し、底部近くに黒色土が堆積する。出土遺物には、珠洲・壺、壺がある。

SK37（第75図、図版51）

調査区の北東側、X 26～27、Y 14～16に位置する。一辺2.2m四方の方形を呈し、深さは0.22mを測る。壁面の立ち上がりは急で、床面は平坦な箇所に3基小穴が存在する。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土が少量混じる。出土遺物には、瀬戸の鉢皿がある。

SD01（第75図）

調査区の中央、X 19～19.5、Y 7～7.5に位置する。直径約1.0mの円形を呈し、深さは約1.0mを測る。SD03の西側掘りかたに位置する。井戸は素掘りで、井戸枠とみられる施設は無い。埋土は、やや粘質の黒褐色土に黄褐色土少量、5cm以上の石を多く含む。出土遺物には、中世土師器・皿がある。

SD01（第78図、図版47）

調査区南西側中央から北東側、X 16～30、Y 3～8.5にかけて位置する。幅2.0～4.8m、深さ0.3～0.8mを測る。

溝の立ち上がりは緩やかで、底部は平坦である。埋土は黒褐色もしくは黒色の粘質土で、黄褐色土を多めに含む。底部近くの堆積には砂礫層があり、水の流れがあったことがわかる。水流は、南西から北東にかけてあったと考えられる。調査区中央南西寄りでSD03と交わる。出土遺物には、縄文土器・深鉢、須恵器・杯、壺、壺、古代土師器・壺、中世土師器・皿、椀、珠洲・すり鉢、鉢、壺がある。出土遺物等か

ら、遺構は13世紀代に存在したと考えられる。

SD02 (第78図、図版47)

調査区南西側中央から北東側、X 15～22、Y 4～7.5にかけて位置する。幅1.0～3.0m、深さ0.16mを測る。溝の立ち上がりは不明瞭で、底部は平坦である。埋土は黒褐色土もしくは黒色土で、黄褐色の砂層多く含む。水流は南西から北東へ向く。調査区中央で、SD03と合流する。埋土の状況から、SD03に切られている。出土遺物には、古代土師器・壺、中世土師器・皿、珠洲・すり鉢、鉢、壺、壺がある。出土遺物等から、遺構は14世紀後半に存在したと考えられる。

SD03 (第78図、図版54)

調査区南側中央から北西側、X 12.5～29、Y -1.5～10にかけて位置する。幅2.5～4.0m、深さ0.18～0.2mを測る。溝の立ち上がりは不明瞭で、底部は平坦である。埋土は黒色土で、鉄分を含む。水流は、南から北西にかけてあったと考えられる。出土遺物には、須恵器・壺、古代土師器・壺、中世土師器・皿、珠洲・すり鉢、越前・壺、瓦質土器・火鉢がある。出土遺物等から、遺構は14世紀後半から15世紀初めに存在したと考えられる。

SD05・06 (第78図)

調査区南端、X 4～8、Y 13～18.5にかけて位置する。SD05は、幅1～1.2m、深さ0.18mを測る。溝の立ち上がりは2段で、断面はすり鉢状を呈する。埋土は黒褐色土に砂礫が混じる。水流は、南から北東にかけてあったと考えられる。SD06は、幅0.6～0.8m、深さ0.16～0.18mを測る。溝の立ち上がりは急で、底部は平坦である。埋土は黒褐色土が主となる。出土遺物には、SD05で珠洲・壺、SD06で古代土師器、中世土師器がある。

(3) 遺物の概要 (第122～128図、図版100～103)

中世土師器、珠洲、青磁、白磁等が整理箱で5箱出土した。出土遺物は、概ね12世紀後半から15世紀の間に属する。珠洲は吉岡編年のI期、V期に比定できる。以下、図化したものについて記述する。

SD01 (第122・123図、図版100・101・103)

1～12は中世土師器である。1～7、9～10は非ロクロ成形の皿、8、11、12はロクロ成形の皿、碗である。1は内面をハケ状工具で調整し、2は底面の内外に指押さえの痕がある。5は内面を時計回りに撫で抜きしている。8、11、12は底面に糸切痕がある。12は柱状高台を持つ。13は繩文土器・深鉢の体部破片である。14は須恵器・壺の体部破片である。15～17、20～27は珠洲である。15、20、24～26はすり鉢で、24～27は底部破片である。15の鉗目は11条で、口縁端部は内側に面取りし、やや内傾する。片口を有する。20は鉗目が9条である。10は7条、25、27はともに8条である。26は外面にハケメがあり、底面に糸切痕を残す。16、17、22、23は鉢である。16は口縁端部が内側に突出する。17は口縁が直線的に外反し、端部は内側に面を取る。21は壺の体部破片である。22、23は小型の鉢でやや丸い体部に口縁は外に面取りする。18、19は須恵器である。18は杯、19は壺の肩部である。

SD02 (第123図、図版101)

28～36は珠洲である。29～31はすり鉢である。いずれも鉗目は8条である。28は鉢、32は壺？である。33、34は壺の体部破片である。35、36は壺の口縁部である。36は内外面に自然釉がある。

SD03 (第124図、図版101)

37は古代土師器・壺の体部破片である。内外面にハケメ調整を施す。38～45は中世土師器である。38はロクロ成形の碗である。39、40、42、43は非ロクロ成形の皿である。40は二段ナデである。42は平坦

な底面に短い口縁が外反し、43は平坦な底面に直立した口縁を持つ。44、45はロクロ成形の皿である。46は越前・窯の体部破片である。焼成状態が悪い。47～49は珠洲である。47は窓の頸部、48は鉢である。口縁は厚みを持たせ、面取りした端部はへこませている。49はすり鉢である。外反する口縁に内側に面取りする。鉢目は八条である。50は瓦質土器・火鉢である。

SK02・03・04 (第124図、図版102)

51 (SK02) は珠洲・すり鉢である。施された鉢目は7条である。52 (SK03) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。53 (SK04) は白磁・碗である。口縁は、玉縁を外に厚く折り込む。釉はやや緑色を呈する。

SK05・09・10・11・12 (第125図、図版102)

54～57 (SK05) は珠洲である。54～56はすり鉢であり、54は口縁部内面に波状文がある。54、55は口縁端部を内側に面取りする。鉢目はともに7条である。57はすり鉢の底部である。58 (SK09) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。61、62 (SK10) は珠洲・すり鉢の底部である。59、60 (SK11) は中世土師器・皿である。2点ともロクロ成形であり、底部に糸切り痕がある。63 (SK12) は白磁・碗である。釉はやや緑色を呈する。

SK19～23・25・28～30・32 (第126図、図版102)

64 (SK19) は瀬戸美濃・天日茶碗の体部破片である。65 (SK20) は中世土師器・皿である。ロクロ成形である。口縁端部を外につまみ出している。66 (SK20) は珠洲・窓の口縁部である。口縁部を大きく外に反させている。67 (SK21) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。内面に刷毛状工具の痕がある。68 (SK21) は瀬戸・皿の底部である。内側に自然釉を残す。69 (SK22) はロクロ成形の中世土師器・椀の底部である。柱状高台を持ち、底面に糸切り痕を残す。70 (SK23) は珠洲・すり鉢の口縁部である。71 (SK25) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。内面は、時計回りに撫で抜いている。72 (SK28) は珠洲・鉢である。口縁を内側に突出させている。73 (SK28) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。75～80 (SK29) は中世土師器・皿である。いずれも非ロクロ成形である。75は焼成状態が悪く、76、77は二段ナデである。78～80は器体が大きく湾曲する小皿である。70は時計回りに撫で抜いた痕が内面にあり、79は口縁部内外面に煤がある。81、82 (SK29) は白磁・碗である。82は口縁の玉縁を大きく折り込む。乳白色の釉がかかる。83、84 (SK32) は中世土師器・皿である。83は非ロクロ成形である。84はロクロ成形である。85、86 (SK32) は珠洲・鉢である。85は口縁を内側に突出させる。

SK33・37、SE01、P25・35 (第127図、図版102・103)

87 (SK33) は中世土師器・皿である。非ロクロ成形で、口縁端部内外面には、煤が付着している。88 (SK33) は珠洲・壺の口縁部である。89 (SK37) は瀬戸・鉢皿の底部である。底部外面に糸切痕を残す。90 (SE01) は中世土師器・椀である。ロクロ成形であり、口縁端部をつまみ出す。91 (P25) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。平坦な底面に短く細い口縁がやや外反する。92 (P35) は非ロクロ成形の中世土師器・皿である。内面に刷毛状工具の痕が残る。

包含層 (第127・128図、図版103)

93は須恵器・杯の底部である。高台を有する。94は須恵器・壺の体部破片である。肩部には波状文がある。95～98は中世土師器・皿である。95～97は非ロクロ成形であり、95、96は二段ナデである。98はロクロ成形であり、口縁部に煤痕を残す。99は須恵器・壺の口縁部である。100～107、109～111は珠洲・すり鉢の口縁部である。口縁端部を内側に面取りするもの (100、101、103、106)、面取りした口

縁が上を向くもの（102、105）、外に面を取るもの（104）がある。100、101は口縁部に波状痕を有する。103は片口を有する。106の鉢は9条である。

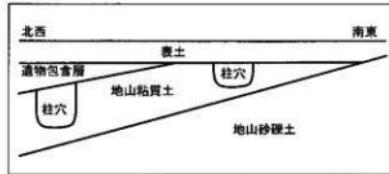
107、108、112は珠洲・鉢である。113、114は珠洲・碗の底部である。115は瀬戸・鉢皿の底部である。116は茶入れである。外面にかかる釉は、灰褐色を呈する。117～119は青磁・碗である。いずれも外面に蓮弁文がある。120は白磁・碗である。121は青磁・碗である。122、123は瀬戸・皿である。122は外外面に釉がかかる。123は外外面に綠釉がかかる。124は土師器・壺の底部である。底部に糸切痕を残す。125は瀬戸美濃・天日茶碗の底部である。

（佐藤聖子）

10. 宗守II遺跡4地区の概要

（1）地形と基本層序（第14図）

宗守II遺跡4地区は山田川左岸の扇状地上に位置している。調査区の標高は81m前後を測り、地形は東から西に僅かに傾斜している。表土直下が黄褐色粘質土の地山面となる部分が大半で、この傾向は東側がより顕著となる。このため遺物包含層は西側にごくわずかにみられるだけである。調査区の東壁では表土下20cmの地山断面に古代遺構が確認されるほどである。これは後世の土取り等の切土が要因と考えられる。この状況の中、遺構のすべては地山面での検出となった。一方南側の一部には基盤層と思われる砂礫層が表土直下で確認された。また遺構の多くは東側に偏在する傾向にある。



第14図 宗守II遺跡4地区の基本層序

（2）遺構の概要

遺構としては、中世の掘立柱建物3棟、古代の掘立柱建物1棟に竪穴建物跡2棟、土坑18基、溝11条、土塹18基、性格不明遺構3箇所、この他多数のピットを検出した。

SBO1（第80図、図版56）

調査区南東端に位置する。東西方向2間、南北方向2間の総柱建物である。床面積は約25m²である。ピット番号は北西隅のP1に始まり、東に向かい昇順となり南東隅のP9で完結する。南側が調査区外となるため南北方向は2間以上となる可能性もある。南北軸方向はN-3°-Eとなる。建物の柱穴は直径25～30cmで、確認面からの深さは15～20cmを測り、平面形はほぼ円形を呈する。柱痕は確認できなかった。柱穴からの出土遺物はない。本址の時期は規模・形態等から中世と思われる。

SBO2（第81図、図版57）

調査区東側の中央に位置する。東西方向4間、南北方向7間の総柱建物であるが、東側が調査区外となるため東西方向は4間以上となることも考えられる。床面積は約176m²である。東西に5基の柱穴が南北に8列に並ぶ計40基の柱穴から構成されており、ピット番号は南西隅のP1に始まり、東に向かい昇順となり北東隅のP40で完結する。建物の柱穴の規模には東西の列単位で大小に分かれる傾向が看取できる。南側の東西2列（P1～P10）及び北端の東西1列（P36～P40）の計15基は小型となり、直径25～30cmのものが主体となる。それらに挟まれる東西5列（P11～P35）の計25基が大型となり、直径は40～50cmのものが主体である。南北軸方向はN-2°-Eとなる。確認面からの深さは18～25cmを測る。平面形は一様ではないものの概ね円形または円形に近い橢円形を呈している。柱座等の痕跡は確認できなかった。遺物はP3、6、9、10、12、13、15、17、18、22～25、27、30、32、33から土師器片が、P17、24、25、27、31、34、36から須恵器片がそれぞれ出土している。本址の時期は規模・形態等から中

世と思われる。

SB03 (第81図)

調査区東側の中央、SB02に包括されるように位置し、切り合がないことからSB02に付随する施設である可能性もあるものの、ここでは東西方向4間、南北方向3間の縦柱建物として扱う。東側が調査区外となるため東西方向は4間以上となることも考えられる。床面積は約80m²である。東西に5基の柱穴が南北に4列に並ぶ計20基の柱穴から構成されており、ピット番号は南西隅のP1に始まり、東に向かい昇順となり北東隅のP20で完結する。東西の柱穴列のうち南側2列 (SB03 - P1 ~ P20) はSB02の軸上と重なるが、北側2列 (SB03 - P11 ~ P40) はやや東方に振れる形を呈している。柱穴の規模 SB02のような東西の列単位での差は認められず、大小のピットが混在する形となっている。直径が30~50cmで、確認面からの深さは20~24cmを測り、平面形は概ね円形を呈する。柱座等の痕跡は確認できなかった。遺物はP1、3、5、7、12、17~19から土師器片が、P8、11、18~20から須恵器片がそれぞれ出土している。本址の時期は規模・形態等から中世と思われる。

SB04 (第82図、図版58)

調査区南東端に位置する。東西方向2間、南北方向3間の側柱建物である。ピット番号は南東隅のP1に始まり、西に向かい昇順となり北西隅のP10で完結する。南北軸方向はN-5°-Eとなる。建物の柱穴は直径65~80cmで、確認面からの深さは20~36cmを測り、平面形はほぼ円形を呈する。抜き取り痕は確認できなかった。遺物はP10から土師器片が、P9から須恵器片が出土している。本址の時期は形態や出土遺物から古代であると思われる。

SI01 (第83図、図版59)

調査区中央東端に位置し、調査区外へ伸びると思われる。本址は竪穴建物跡と思われ、掘り方の最下部が辛くも地山に部分的に遺存したものと考えられる。遺構内は地山が不規則な凹凸状となる。平面形は不整形な状況であるが、調査区東壁に明確に残る断面の観察から、おおよそ一辺3m前後の隅丸方形を呈し、本米は30cm以上の深さを持つものと推定できる。覆土はシルト質が主となるが主軸方向、柱穴等は不明である。遺物は土師器片、須恵器片が出土している。本址の時期は切りあい状況や出土遺物から古代であると思われる。

SI02 (第83図、図版59)

調査区東側の中央に位置する。本址は竪穴建物跡と思われ、平面形はおおよそ一辺3.6~3.8m程度の隅丸方形を呈する。掘り方の最下部がわずかに遺存したものと考えられ、遺構内は地山が不規則な凹凸状となる。主軸方向はN-2°-Eとなり、覆土はシルト質が主となる。北辺中央に突出部がありカマド跡とも推測できるが、根拠が乏しく不明である。しかし本址と切り合うSK11からは煮炊具である丸底の土師器長胴壺の底部が出土しており、カマドが存在した可能性は考えられる。周溝、柱穴等の付属施設についても不明確である。深さは、SI01と同様の遺構であるという前提に立てば30cm前後の深さを持つものと考えられるが、現存する深さは数センチ程度にすぎない。遺物は土師器片、須恵器片が出土している。本址の時期は切りあい状況や出土遺物から古代であると思われる。

SX03 (第84図、図版58)

調査区最北端に位置する。北側は搅乱をうけており、遺存する平面形は長径1.4mほどの不整形を呈する。遺構内は地山が不規則な凹凸状となり、遺物としてはほぼ完形の須恵器・有台杯が出土していることから本址はSI01・02と同様に古代の竪穴建物跡となる可能性がある。

SK09 (第85図、図版60)

調査区中央やや北寄り X24、Y23に位置する。長軸方向230cm、短軸方向168cm深さ45cmを測り、平面形が梢円を呈する土坑である。底面から立ち上がりの変化点が非常に緩やかである。断面形は一部にオーバーハングがみられ、いわゆる袋状となる傾向が窺える。重複関係にあるP342に切られる。遺物は土師器、須恵器が出土している。本址は切りあい関係・出土遺物やその形態から古代の貯蔵穴と考えられる。

SK14 (第85図、図版60)

調査区中央やや北寄り SK09の南東に位置する。長軸方向294cm、短軸方向215cm深さ30cmを測り、平面形が不整な梢円を呈する土坑である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は碗形となる。遺物は土師器が出土していることから時期は古代と思われる。

SK17 (第85図、図版60)

SK09の南東 X23、Y24に位置する。長軸方向147cm、短軸方向125cm深さ20cmを測り、平面形が梢円を呈する土坑である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は碗形となる。遺物は土師器が出土している。時期は古代と思われる。

SD01 (第84図、図版59)

調査区東側の南寄りに位置する。直線状の主軸はほぼ東西に向くが、若干南に振れる。残存長は11mを測り、東側の調査区外へ延びる。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは35cmを測る。遺物は土師器、須恵器のほか白磁片が1点出土している。本址の時期は中世と思われる。

P312 (第85図、図版60)

SK17の南東 X22、Y25に位置する。長軸方向57cm、短軸方向46cm深さ22cmを測り、平面形が梢円を呈するビットである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は碗形となる。出土遺物はない。時期や用途は不明である。

P342 (第85図、図版60)

SK09の東で切りあい X24、Y24に位置する。長軸方向75cm、短軸方向55cm深さ25cmを測り、平面形が梢円を呈するビットである。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は逆台形となる。重複関係にあるSK09を切ることから、時期は中世の可能性が高い。遺物は土師器が出土している。

P346 (第85図、図版60)

SK09の南西 X23、Y22に位置する。長軸方向90cm、短軸方向70cm深さ10cmを測り、平面形が梢円を呈するビットである。壁は非常に緩やかに立ち上がり大きく開き、断面形は皿状となる。出土遺物はない。時期や用途は不明である。

(3) 遺物の概要

出土遺物は、遺物箱で5箱分である。内訳は古代の土師器と須恵器が大半を占め、わずかに中世の遺物がみられる。古代の遺物は第IV期（田嶋1989）に属するものが中心と思われ、時期的には8世紀後半から9世紀前半の中に収まると考えられる。また、中世の遺物は中世土師器、白磁、珠洲、越中瀬戸がある。いずれも小片であり、詳細な時期は不明確である。後述するが、2点の出土がある中世土師器は非ロクロ成型と思われ、梅原胡摩堂遺跡の分類（越前1996）に基づく13世紀代と考えられる。なお、石製品、木製品、金属製品等の遺物の出土は確認されていない。

以下、これらのうち掲載したものについて記述する。

S101 (第129図、図版104)

1は土師器・壺である。外面はナデ・タタキ、内面はヨコナデ・ハケが施される。内面に指頭圧痕・接合痕がみられる。

SK02 (第129図、図版104)

2は土師器・壺の口縁部片である。外面はヨコナデ・タタキ、内面はヨコナデ・ハケが施される。3は土師器・鉢の口縁部片であろうか。外面はナデ・カキ目、内面はナデ・ヘラ削りがみられる。4は土師器・長胴壺の胴部片である。外面上位にカキ目・ヘラ削り、下位はタタキ、内面上位にカキ目、下位は同心円アテ具痕がみられる。

SK04 (第129図、図版105)

5は須恵器・壺の口縁部片である。内面、外面にロクロナデが施される。

SK06 (第129図、図版105)

6は土師器・皿片であろうか。外面はヘラ磨き、内面はナデで、内面、外面に赤彩を施す。7は土師器・壺の胴部把手である。ナデが施される。

SK10 (第129図、図版105)

8は須恵器・無台杯片である。内面、外面はロクロナデ、底部はヘラ切り後にナデとなり、ヘラ記号がみられる。9は土師器・壺の胴部片である。外面はカキ目・タタキ、内面はカキ目・同心円アテ具痕がみられる。

SK11 (第130図、図版105)

10は須恵器・杯坏蓋片である。内面、外面ロクロナデである。11は土師器長胴壺の底部である。丸底となり、外面はタタキ、内面には同心円アテ具痕がみられる。

SK16 (第130図、図版105)

12は須恵器・杯蓋片である。外面はロクロナデ、天井部ヘラ削り、内面はロクロナデである。

SB03-P18 (第130図、図版105)

13は須恵器・壺であろうか。外面はタタキ・ナデ、内面はタタキ・ハケ・ナデが施される。14は須恵器・杯蓋片である。内面、外面ロクロナデである。

SB04-P9 (第130図、図版106)

15は須恵器・有台杯片である。内面、外面ロクロナデである。

P13 (第130図、図版106)

16は須恵器・壺の胴部片であろう。外面はタタキ、内面は同心円アテ具痕がみられる。

P95 (第130図、図版106)

17は土師器・壺の胴部片である。外面はタタキ、内面はカキ目・同心円アテ具痕がみられる。

P98 (第130図、図版106)

18は須恵器・杯蓋片である。内面、外面ロクロナデである。

P18B (第130図、図版106)

19は土師器・壺の口縁部から胴部にかけての破片である。外面はナデ・カキ目、内面はカキ目・ナデが施される。

P190 (第130図、図版106)

20は須恵器・杯蓋片である。内面、外面ロクロナデである。

P252 (第130図、図版106)

21は土師器・壺の口縁部片である。外面はナデ・カキ目、内面はカキ目・ナデが施される。22は土師器・壺の胴部片である。外面はカキ目・タタキ、内面はカキ目・同心円アテ具痕がみられる。

P265 (第130図、図版106)

23は土師器・壺の口縁部片である。内面、外面ナデ・カキ目である。

SX03 (第131図、図版106)

24は須恵器・有台杯で、ほぼ完形品である。内面、外面ロクロナデである。

SD01 (第131図、図版106)

25は白磁の小片で、器種は碗であろうか。

包含層 (第131図、図版107)

26は土師器・壺の底部片であろうか。外面はハケ後ナデ、内面ナデ、底部は回転ナデとなる。27は土師器・壺の底部と思われ、体部下位に横方向に残存する二孔を穿つ。内面、外面ナデで、外面に指痕圧痕がみられる。28・29は土師器小片で、内外面に赤彩を施す。28は壺の底部で、内面、外面はヘラ磨き、底部はヘラ削り後ナデとなる。29は碗の口縁部で、内、外面はヘラ磨きである。30は内黒土師器・碗の小片である。内面、外面はヘラ磨きである。31～33は須恵器・杯蓋片である。いずれも内面、外面ロクロナデが施される。34～36は須恵器・有台杯片である。いずれも内面、外面ロクロナデが施される。37・38は須恵器・無台杯片である。37は内面、外面ロクロナデ、38は内面、外面ロクロナデ、底部はヘラ削り後ナデとなる。39・40は中世土師器・小皿の小片である。39は磨滅により不明だが、40は内、外面ナデである。41は越中瀬戸・皿の小片である。内面、外面ロクロナデで、内面に鉄釉が施される。42は珠洲で、壺の体部片であろうか。外面はタタキ、内面はアテ具痕がみられる。43は中世陶器・壺類の胴部片であろうか。内面、外面ナデ。44は瀬戸美濃・壺の底部であろう。外面はヘラ削り、内面には鉄釉が施される。

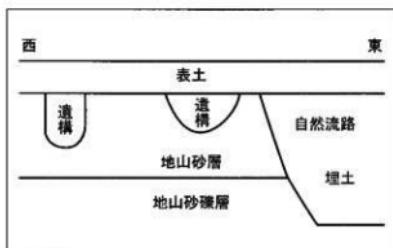
(吉田 寿)

11. 宗守II遺跡5地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第15図)

宗守II遺跡5地区は、小矢部川支流の山田川左岸の南から北へ緩やかに傾斜を持つ洪積台地上に位置する。隣接して5地区的西側には南北に権現堂川が流れている。

5地区の基本層序は、上位から表土（耕作土・黒色シルト植壤土）、盛土（黒褐色植壤土）、地山（黄褐色砂土）の順に堆積が観察できる。遺物包含層は確認できなかった。調査区の東部においては、自然流路と考えられる落ち込みを確認した。



第15図 宗守II遺跡5地区の基本層序

5地区は、ほとんどの範囲において遺構面直上までが前回圃場整備後の表土（耕作土）であり、この直下が、宗守II遺跡の遺構面となる地山層の黄褐色砂土となる。この黄褐色砂土層は、厚さ0.50m以上堆積し、安定した地盤を形成しているが、調査区北西部の一部と自然流路の下底部では堆積が見られず、地山層は暗灰黄色砂疊となる。

調査地は南北約54mを測り、現地表面の標高は、調査区北端で78.58m、南端で78.75m、遺構面の標高は、北端で平均78.26m、南端で平均78.35mとほぼ水平である。これは基本的には前回圃場整備時の

削平の結果であるが、各遺構の遺存深度をみると、北と南でそれほど差がないことから、旧地形もこれに近かったものと考えられる。

(2) 遺構の概要

宗守II遺跡5地区において確認された遺構としては、掘立柱建物（SB）4棟、土坑（SK）12基、溝（SD）7条、柱穴を含むピット（P）131基を確認した。その中で主要な遺構を記述する。

SB01（第87図、図版62）

調査区の北西部、X 13～18、Y 6～10に位置する掘立柱建物で、主軸をN 31° E にとる南北棟かと考えられる総柱建物である。南北とみた場合、桁行3間（7.70m）×梁行3間（6.72m）で、床面積は51.74 m²である。桁行柱間は2.45～2.65m、梁行柱間は2.00～2.40mである。建物を構成する柱穴は径0.30～0.42m、深さ0.10～0.30mの円形基調である。P4・P6・P11の土層断面から柱痕跡が確認できる。遺物は珠洲の甕（1）が出土した。

SB02（第88図、図版63）

調査区の中央部、X 14～16、Y 16～18に位置する掘立柱建物で、主軸をN 23° E にとる南北棟の側柱建物である。桁行2間（4.30m）×梁行1間（2.64m）で、床面積は11.35 m²である。桁行柱間は2.10～



第16図 宗守II遺跡5・6・7地区の調査区割（S=1/2,000）

2.30m、梁行柱間は2.48～2.66mである。建物を構成する柱穴は径0.22～0.34m、深さ0.17～0.28mの円形基調である。遺物は出土しなかった。

SB03（第89図、図版64）

調査区の中央部、X 9～11、Y 12～14に位置する掘立柱建物で、主軸をN 7° Wにとる南北棟かと考えられる側柱建物である。南北とみた場合、桁行1間（3.84m）×梁行1間（2.30m）で、床面積は8.83m²である。桁行柱間は3.35mと3.84m、梁行柱間は2.20mと2.30mで、平行四辺形のやや歪んだ平面形になる。建物を構成する柱穴は径0.45～0.55m、深さ0.30～0.45mの円形または隅丸方形基調である。P91・P96の土層断面から柱痕跡が確認できる。遺物は縄文土器（2）、土師器壺（3・4）が出土した。SK08はこの付属施設として捉えられる。このSB03は他の建物と方位が異なる。

SB04（第89図、図版65）

調査区の南西部、X 4～7、Y 9～12に位置する掘立柱建物で、主軸をN 52° Wにとる東西棟の側柱建物である。桁行3間（4.60m）×梁行1間（3.60m）で、床面積は16.56m²である。桁行柱間は1.40～1.58m、梁行柱間は3.28～3.60mである。建物を構成する柱穴は径0.22～0.34m、深さ0.06～0.22mの円形基調である。P34・P37の土層断面から柱痕跡が確認できる。遺物は出土しなかった。

SK03（第90図、図版66）

調査区の北部、X 19～20、Y 16に位置する。長軸1.90m、短軸1.18m、深さ0.53mを測る。平面形は梢円形で、断面形状は逆台形である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面には凸凹がある。遺物は弥生土器（5）、土師器の小片が出土した。

SK04（第90図、図版66）

調査区の北部、X 18～19、Y 17～18に位置する。長軸4.60m、短軸3.53m、深さ0.58mを測る。平面形は不定形で、断面形状は浅い皿状に呈する。壁は底面から緩やかに立ち上がり、底面には凸凹がある。遺物は石器（6）、打製石斧（7）、土師器壺・中世土師器皿の小片が出土した。

SK07（第90図、図版66）

調査区の中央部、X 12～14、Y 15～17に位置する。長軸3.56m、短軸3.08m、深さ0.56mを測る。平面形は不定形で、断面形状は逆台形である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。遺物は敲石（8）、土師器壺の小片が出土した。

SK08（第89図、図版64）

調査区の中央部、X 10～11、Y 13に位置する。長軸1.70m、短軸0.52m、深さ0.14mを測る。平面形は梢円形で、断面形状は浅い皿状を呈する。壁は緩やかに立ち上がる。遺物は出土しなかった。

SK12（第90図、図版67）

調査区の南部、X 3～4、Y 12～13に位置する。長軸2.92m、短軸1.74m、深さ0.65mを測る。平面形は隅丸長方形で、断面形状は逆台形である。壁は底面からほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。遺物は珠洲の壺（9）のほか、土師器・須恵器の小片が出土した。

SD01（第91図、図版67）

調査区の北西角、X 18～19、Y 4～5に位置する。南西から北東方向に約5.50m検出した。北端はやや西寄りに屈曲する。両端は調査区外に延びる。幅1.10～1.80m、深さ0.23mを測る。断面形状は浅い皿状を呈する。両岸とも不整形で、壁面や底面もやや起伏がある。南半分はSD02と重複しており、土層断面で確認したところ、SD01が先行する。遺物は須恵器壺（10）、中世土師器皿（11・12・13・14）が出土した。

SD02 (第91図、図版67)

調査区の北西角、X 19、Y 5～6に位置する。南西から北東方向に約1.60m 検出した。北端は調査区外に延びる。幅0.32m、深さ0.11m の小規模な溝である。断面形状は浅い皿状を呈する。南側はSD01に切られている。遺物は凹石（15）、土師器の小片が出土した。

SD03 (第91図、図版67)

調査区の北西角、X 14～19、Y 4～8に位置する。南西から北東方向に約11.00m 検出した。両端は調査区外に延びる。幅2.82～3.80m、深さ0.04～0.33m を測る。断面形状は浅い皿状を呈する。両岸とも不整形で、壁面や底面に起伏がある。断面観察から平行ラミナを示す堆積が確認でき、水成作用によって底面が土坑状の凹凸を成したものと考えられる。遺物は須恵器杯蓋（16・17）、須恵器杯身（18）、中世土師器皿（19）が出土した。

SD05 (第92図、図版67)

調査区の中央部、X 11～20、Y 18～21に位置する。南北方向に約18.40m 検出した。北端は調査区外に延び、南端は自然流路に切られる。幅0.90～1.10m、深さ0.42～0.48m を測る。断面形状は逆台形を呈し、底面は平坦である。溝の埋土は1層で、流水や滯水を示すような堆積土はみられないため、人為的に埋められたものと考えられる。配置・形状から集落を区画する機能を持った溝の可能性がある。遺物は土師器甕（20・21）、打製石斧（22）のほか、土師器の小片、石器材が出土した。

SD06 (第91図、図版68)

調査区の西部、X 8～9、Y 4～7に位置する。北西から南東方向に約6.50m 検出した。西端は調査区外に延び、南端は調査区途中で途切れています。幅0.92～2.07m、深さ0.25～0.37m を測る。断面形状は逆台形である。底面は比較的平坦である。埋土はSD05と似た様相であり、同じ時期の造構と考えられる。遺物は土師器甕（23）、須恵器杯蓋（24）、須恵器杯身（25）のほか、土師器の小片、石器材が出土した。

P28 (第92図、図版68)

調査区の西部、X 9、Y 8に位置する。長軸0.20m、短軸0.18m、深さ0.18m を測る。平面形は円形で、断面形状は梢円形である。遺物は須恵器杯身（26）が出土した。

自然流路 (第92図、図版68)

調査区の東半、X 3～21、Y 19～31の範囲を占め、表土掘削後に検出した。その西岸は調査区のはば中央から南にやや幅を広げ、また、その東岸は調査区内では把握できないことから、自然流路の幅は26m 以上を測る。自然流路の範囲内に東西約18m の長さのトレチを2本設定し、地山層（8・9層）まで掘り下げて、造構や遺物の有無および土層の堆積状況を確認した。その深さは、検出面から最大1.10m を測る。自然流路の埋土は、礫を含む黒褐色系の砂質土（2・3層）と粘性が強く、斑駁を含む灰～黑色系の粘質土（5・6・7層）が水平に堆積していた。造構は検出されなかったが、流路西側に堆積する4層に流水による黄灰色シルト質壤土と黄褐色砂土の平行ラミナの堆積が認められた。なお、1層は圃場整備時の盛土である。出土した遺物は、いずれも1層からで、須恵器、土師器、中世土師器が9点出土したが、いずれも小片であり図示していない。自然流路の埋土は、水平堆積していることから、人為的に埋め立てられた可能性が高いと考えられる。

(3) 遺物の概要

遺物はコンテナに3箱分が出土した。内容はほとんどが土器類である。時代別では縄文時代・弥生時代・

平安時代・鎌倉時代の遺物が出土し、平安時代・鎌倉時代が多くを占める。出土遺物には、縄文土器、弥生土器、石鐵、打製石斧、敲石、凹石、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲焼が出土したが、遺物は小片が多く、図示できるものは少ない。以下、図化したものについて遺構ごとに記述する。

SB01 (第132図、図版108)

1は珠洲の壺の肩部である。外面に平行叩き目文、内面にはヨコナデを施しているが、粘土接合痕を残す箇所がある。色調は灰白色を呈している。珠洲I期、12世紀後半のものと考えられる。SB01を構成する柱穴遺構P01から出土した。

SB03 (第132図、図版108)

2は縄文土器の深鉢の胴部破片である。外面に条痕文、内面にナデを施している。縄文時代晩期のものと考えられる。SB03を構成する柱穴遺構P95から出土した。

3は土師器壺の体部片である。体部外面上半および内面にヨコナデ、体部外面上半にヘラケズリを施している。また外面には赤彩痕が見られる。色調は明赤褐色を呈している。8世紀から9世紀後半のものと考えられる。SB03を構成する柱穴遺構P96から出土した。

4は土師器の長胴壺である。外面はヨコハケのちタテハケ、内面はヨコハケを施している。内面下半には指頭圧痕が見られる。色調は浅黄橙色を呈している。8世紀から9世紀後半のものと考えられる。SB03を構成する柱穴遺構P96から出土した。

SK03 (第132図、図版108)

5は弥生土器の壺の胴部と思われる。外面はタテハケのちヨコハケ、内面はハケ調整を施している。色調は浅黄橙色を呈している。弥生時代終末期のものと考えられる。

SK04 (第132図、図版108)

6は鉄石英の有茎石鐵である。基端部が僅かに欠損しているがほぼ完形品である。残存長4.35cm・幅2.4cm・身部の厚さは0.9cm・重量7.8gを測る。平面はやや左右非対称の三角形状で、左側縁はやや張りのある僅かに丸みを持って調整加工される。表面に鏽を有し、断面が菱形状を呈する。縄文時代晩期のものと考えられる。

7は泥岩の打製石斧である。側縁がほぼ直線的に広がる撥塑を呈している。残存長13.3cm・幅7.55cm・厚さ3.3cm・重量370gを測る。正面に風化した自然面、裏面に主要剥離面を残す。両側縁には大まかな調整剥離があり、敲打が加えられている。刃部が片刃で、形状は円刃である。

SK07 (第132図、図版108)

8は砂岩の敲石である。長さ6.6cm・最大径6.0cm・厚さ4.6cm・重量250gを測る。全周的に敲打痕が認められるが、下面と正面右側が特に顯著である。また表面の平坦部を中心に擦痕が見られる。

SK12 (第132図、図版108)

9は珠洲の壺の胴部片である。外面に平行叩き目文が施され、内面には当て具痕が残る。色調は黄灰色を呈している。12世紀後半から13世紀前半のものと考えられる。

SD01 (第132図、図版108)

10は須恵器壺の胴部片である。外面に平行叩き目文が施され、内面には同心円の当て具痕が残る。色調は灰色を呈している。9世紀代のものと考えられる。

11は土師器皿の底部片である。ロクロ成形であり、内外面には回転ナダが、底部外縁には回転次切り痕が残る。色調は橙色を呈している。RB類に相当する。12世紀後半のものと考えられる。12は土師器皿

の底部片である。ロクロ成形であり、内外面には回転ナデが、底部外面には回転糸切り痕が残る。色調は浅黄橙色を呈している。RB類に相当する。12世紀中頃から13世紀初めのものと考えられる。13は土師器皿である。口径9.5cm・底径8.0cm・器高1.7cmを測る。非ロクロ成形であり、内外面にはナデ調整が施され、底部外面には指頭圧痕が見られる。底部から口縁部にかけて緩やかな丸みをもって立ち上がる。口縁部は一段ナデを施し、口縁端部は丸くおさまる。色調は橙色を呈している。NB I類に相当する。12世紀末から13世紀初めのものと考えられる。14は土師器皿の口縁部片である。非ロクロ成形であり、内外面はナデ調整。口縁部に一段ナデを施す。色調はにぶい褐色を呈している。ND II類に相当する。13世紀前半のものと考えられる。

SD02 (第132図、図版108)

15は砂岩の凹石である。長さ7.2cm・最大幅6.4cm・厚さ2.4cm・重量150gを測る。扁平な円盤を使用し、正面にひとつ瘤みが見られる。また縁辺部全周と正面に敲打痕が認められる。

SD03 (第133図、図版109)

16は須恵器杯蓋の破片である。内外面はナデ調整を施している。天井部が扁平で、口縁端部は下方へ折り返すのみである。色調は黄灰色を呈している。8世紀中頃のものと考えられる。17は須恵器杯蓋の破片である。内外面はナデ調整を施している。口縁端部の折り曲げが小さい。色調は灰色を呈している。8世紀中頃のものと考えられる。18は須恵器杯身の底部片である。内外面はナデ調整を施し、底部外面は回転ヘラ切りの後、外へ開く低い高台を貼り付けている。色調は黄灰色を呈している。8世紀初めから中頃のものと考えられる。

19は土師器皿の口縁部片である。非ロクロ成形であり、内面と口縁部外面にはナデ調整を施しているが、体部から底部にかけての外面には特に調整といえる痕跡が見られない。口縁部に二段ナデを施している。色調はにぶい黄橙色を呈している。NA I類に相当する。12世紀中頃から後半のものと考えられる。

SD05 (第133図、図版109)

20は土師器甕の口縁部片である。内外面はナデ調整を施す。口縁部は外傾し、口縁端部を上方へ引き出す。色調はにぶい黄橙色を呈している。8世紀後半のものと考えられる。21は土師器甕の底部片である。底径6.1cmを測る。ロクロ成形であり、体部の内外面はナデ調整を施し、底部外面にはヘラ切り痕が残る。色調は橙色を呈している。8世紀後半のものと考えられる。

22は凝灰岩の打製石斧である。側縁中央が強く内湾し、明瞭なくびれ部をもつ分銅型を呈している。残存長17.2cm・幅9.4cm・厚さ3.6cm・重量720gを測る。両面の調整加工は粗いもので、裏面刃部周辺に一部自然面を残す。両側縁には大きめの調整が加えられ、くびれ部に敲打が加えられている。刃部は両面からの加工による両刃で、形状は円刃で磨耗が顕著である。

SD06 (第133図、図版109)

23は土師器甕の破片である。内外面にヘラミガキが施され、内面下半はその後ヘラケズリが見られる。色調はにぶい黄褐色を呈している。奈良・平安時代のものと考えられる。

24は須恵器杯蓋の破片である。内外面はナデ調整を施す。色調は灰色を呈している。9世紀から10世紀代のものと考えられる。25は須恵器杯身の口縁部片である。内外面はナデ調整を施す。体部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。色調は灰色を呈している。8世紀後半のものと考えられる。

P28 (第133図、図版109)

26は須恵器杯身の体部片である。内外面はナデ調整を施し、外面に降灰が見られる。体部には少し丸

みが見られ口縁部が外反する。色調は灰色を呈している。8世紀後半のものと考えられる。

包含層（第133図、図版109）

27は縄文土器の深鉢の脚部破片である。外面は丸棒状具による3条の沈線文による区画内に、沈線文に平行して連続する刺突文と縄文が施されている。内面はナデ調整を施している。縄文時代後期前葉の気屋II式のものと考えられる。

28は珠洲の擂鉢の口縁部片である。外面に回転ナデを施し、内面の鉢口は2cm幅の原体に9条である。器体は一定の厚みをもって直線的に開き、口縁端部は端面がやや肥厚し水平に面をとる。色調は灰色を呈している。珠洲I期、12世紀代のものと考えられる。

29は凝灰岩系の石鎚である。完形品である。長さ2.45cm、幅1.5cm、厚さ0.6cm、重量1.5gを測る。平面は基部が無茎で、二等辺三角形のいわゆる三角鎚である。表面中央に錐を有し、断面は菱形を呈する。両面加工で両側縁に調整が施される。

30は凝灰岩の打製石斧である。両側縁が緩やかに内湾し、刃部が広がる撥型を呈している。残存長17.1cm・幅10.0cm・厚さ2.7cm・重量390gを測る。正面は風化した自然面、裏面に主要剥離面の一部を残す。両側縁には調整剥離と敲打が加えられる。刃部は裏面からの剥離により作出された両刃で、形状は円刃である。使用による刃部の欠損が見られる。
(内田真一郎)

12. 宗守II遺跡6地区の概要

(1) 地形と基本層序（第17図）

宗守II遺跡6地区は山田川扇状地の中央部に位置する。海拔は78.2～77.8mを測り、地形は西から東へ緩やかに傾斜している。調査区は砂礫土の地表面が存在し、粘質の地山土とともに交じっている。また、Y2列以東の遺構に厚さ約20cmの遺物包含層（黒色粘質土）が堆積している。

地表から地山までの深さは50～70cmである。

基本土層は上位から耕作土（1層土）、盛土（2層土）、遺物包含層（黒色粘質土 3層土）、地山（4層土）の順に堆積している。

(2) 遺構の概要

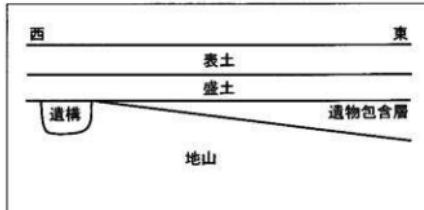
主な遺構として、堅穴状土坑、土坑・ビットを検出した。

SI01（第94図、図版70）

SI01としたが、堅穴住居ではなく、堅穴状土坑だと思われる。調査区西側X1、Y1付近に位置する。長軸3.06m、短軸2.42m、深さ0.38mを測る隅丸方形の土坑である。底部は平底だが西側に段を設けるような作りとなっている。埋土は黒褐色粘質土を呈し、暗褐色粘質土が含まれる。遺物は中世土師器皿（1）、珠洲の壺・壺の体部片（2、3）や、細片であるため図示できないが珠洲・壺片、中世土師器・皿片が数点出土している。

SK01・SK07（第94図、図版70）

調査区西側X0、Y-2付近に位置する。長軸3.48m、短軸3.08m、深さ0.52mを測る隅丸方形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。SK07に切られている。埋土は黒褐色粘質



第17図 宗守II遺跡6地区の基本層序

土・にぶい黄褐色粘質土を基調とした3層に細分される。底部は平底だが西側に段を設けるようなつくりとなっている。埋土は黒褐色粘質土を呈し、暗褐色粘質土が含まれる。遺物は砾石（4）が出土している。また、SK07からは青磁碗の底部（9）、珠洲壺の底部（10）が出土している。

SK02（第95図、図版70）

調査区東側X 9、Y 26に位置する。長軸0.92m、短軸0.88m、深さ0.22mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状は緩やかに立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土・暗褐色粘質土を基調とした9層に細分される。遺物は珠洲の壺の口縁部（5）や体部（6、7）、中世土師器皿（8）が出土している。

SK03（第95図、図版70）

調査区北側X 0、Y 2付近に位置する。長軸1.53m、短軸1.42m、深さ0.22mを測る円形の土坑である。底部は平底を呈し、断面形状はやや急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが土師器片が数点出土している。

SP56（第95図、図版71）

調査区東側X - 2、Y 22付近に位置する。長軸0.54m、短軸0.52m、深さ0.35mを測る円形のピットである。底部は平底を呈し、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土と暗褐色粘質土を基調とした2層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが縄文土器が出土している。

（3）遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、石器、土師器、須恵器、中世土師器・皿、珠洲、青磁、瀬戸美濃などがある。遺物は整理箱に5箱ほど出土し、遺物の年代は、縄文時代・古代・中世の三時期に区分される。

SI01（第134図、図版110）

1は非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まり、器壁はやや厚い。内外とも大きくゆがんでいる変形品である。（NB II類）

2、3は珠洲・壺の体部片である。外面は叩打法による横位平行叩き目文が施される。

SK01（第134図、図版110）

4は砾石である。角柱状を呈し、4側面および上面1面を砾石として使用していた痕跡が認められる。

SK02（第134図、図版110）

5、6、7は珠洲・壺である。5は口縁部片で口縁端部は嘴頭状の形状を呈する。Ⅲ期、13世紀に比定される。6、7は珠洲・壺の体部片である。外面は叩打法による横位平行叩き目文が施され、内面は圧痕が残る。8は非クロ成形の中世土師器・皿である。底部から体部にかけてやや直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く收まる。（NC I類）

SK07（第134図、図版110）

9は青磁・碗の底部片である。内外面全体に薄い青灰色の釉薬が比較的薄く施されている。10は珠洲・壺の底部片である。内面はナデ、外面は横位平行叩き目文が施されている。底部表面ははく離している。

その他（第134・135図、図版111・112）

主に包含層から出土した。

11は分型型の打製石斧である。刃部表面を中心に摩耗が認められる。

12～16は縄文土器である。12は深鉢の口縁部で体部からやや直線的に口縁部へと立ち上がる。口縁端部には刻み目を施す。外面には条痕文が施される。13～15は深鉢の口縁部で体部からやや突き出る気味に口

縁部へと立ち上がる。16はやや内湾する浅鉢の口縁部で口縁端部はナデ、体部には条痕文を施す。縄文土器は晩期下野式のものだと思われる。

17は須恵器・壺の頸部片である。頸部から口縁部に向けて外反する。外面には2条の沈線が認められる。

18～21は須恵器・杯である。18、19の体部は直線的に立ち上がり、口縁部は丸く收める。器壁は薄い。20、21は底部片である。8世紀後半に比定できる。

22、23は土師器長胴壺の口縁部である。いずれも口縁部は外反し、口縁端部をやや上方につまみあげる。

26は珠洲・壺の底部片である。外面は叩打法による横位平行叩き目文が施され、内面は圧痕が残る。

24、25は珠洲・すり鉢の口縁部片である。24は口縁が外傾し、端面が幅広の三角頭を呈する。V期、15世紀に比定される。25は体部がやや膨らみを持ち、口縁部は内湾気味におさめる。I～II期で12世紀から13世紀にかけてのものと思われる。

27～31は非クロクロ成形の中世土師器・皿である。おおよそ13世紀に比定される。27は底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、器壁は口縁部に向けて薄くなっている。内面にはナデの後、ハケ目調整が施される。(NG類) 28は丸みを帯びた平底の底部から短く立ち上がり、浅身である。口縁部は一段ナデが施され、口縁端部は丸くおさまる。(ND II類) 29は平底の底部から体部にかけて丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く收まる。(ND II類) 30は平底の底部から体部が開き気味に立ち上がる。口縁部には一段ナデが施され、口縁端部は外反し丸く收まる。(NC I類) 31は底部から体部にかけてやや開き気味に立ち上がる。口縁部に二段ナデが施され、口縁端部は丸く收まる。(ND I類)

32は青磁碗の底部片である。

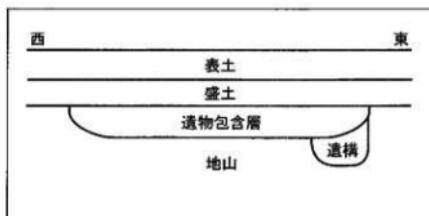
33は瀬戸美濃・灰釉皿の口縁部片である。体部は外傾して開いて立ち上がり、口縁部は外反し端部を挽き出している。施釉は口縁部のみ浸け掛けしている。

13. 宗守II遺跡7地区の概要

(1) 地形と基本層序 (第18図)

宗守II遺跡7地区は山田川扇状地の中央部に位置する。海拔は79.6～79.2mを測り、地形は西から東へ緩やかに傾斜している。地表から地山までの深さは20～30cmである。基本土層は上位から耕作土(1層土)、盛土(2層土)、地山(黄褐色粘質土3層土)の順に堆積している。

調査区中央部から南側にかけて鞍部状の落込み(SX01)が確認された。覆土は黒褐色粘質土(遺物包含層)、褐灰色粘質土(漸移層)を基調とし堆積している。この鞍部状の落込みは、調査区中央から東側において約10～30cmと浅く、下位からは遺構が検出された。北側では深さ75cmを測り、南側に行くにつれ徐々に深くなる。平成21年度に調査した2地区にも同じような鞍部上の落込みが確認されており関連がうかがえる。調査区中央部で黒色土からは須恵器・土師器など古代の遺物や中世土師器皿などさまざまな遺物が多く出土した。



第18図 宗守II遺跡7地区の基本層序

(2) 遺構の概要

主な遺構として、掘立柱建物跡1棟、溝7条、多数のピットを検出した。

SX01 (第97図、図版74)

調査区南側、X 2～6、Y 8～17に位置する。残存長軸18.02m、残存短軸8.02m、深さ0.75mを測る大型の落込みである。形状は南側に向かって緩やかに落込み、調査区中央南端で最大深度を測る。埋土は上層から黒褐色粘質土（1層土）、黒色粘質土（2層土）、灰黄褐色粘質土（3層土）の3層に細分される。遺物は須恵器・杯（1・2）、土師器・碗（3）、土師器・高杯（4）、中世土師器・皿（5～8）、また、細片であるため図示できないが土師器・椀・壺・須恵器・甕・杯片などが多く出土している。

SB01 (第96図、図版73)

調査区中央部に位置する。南北4間、東西方向は南東側が調査区外に延びるが4間と思われる。総柱の建物である。床面積99.7m²を測る。主軸はN - 68° - Wである。建物の柱穴は直径約0.40～0.72m、深さ約0.30mを測る。遺物は細片であるため図示できないが土師器・皿・甕の体部片が出土している。

SD01 (第97図、図版74)

調査区西側から南側の鞍部にかけてX 1～6、Y - 2～14に位置する。幅1.28m、深さ0.53mを測る。断面形状はやや急に立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色粘質土、暗褐色粘質土を基調とした3層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SD02 (第97図、図版74)

調査区北西側X 0～3、Y 3～5に位置する。SD01と直交するかたちで北に向かって延びており、北端は調査区外に延びる。幅0.34m、深さ0.20mを測る。断面形状はやや急に立ち上がり、弧状を呈する。埋土は暗褐色粘質土を呈し、黒褐色粘質土が含まれる。遺物は出土していない。

SD03 (第97図、図版74)

調査区西側X 2～3、Y 0～6に位置し、南東に向かって延びており、SD01と合流する。西側はカクランに切られている。幅0.74m、深さ0.20mを測る。断面形状はやや急に立ち上がり、弧状を呈する。埋土は黒褐色粘質土を呈し、褐色粘質土が含まれる。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SD04 (第97図、図版74)

調査区北側X - 1～0、Y 4～8に位置する。南東に向かって延び、北端は調査区外に延びる。幅0.28m、深さ0.10mを測る。断面形状はやや緩やかに立ち上がり、平底を呈する。埋土は黒褐色粘質土を呈し、褐色粘質土が含まれる。遺物は細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SD06 (第97図、図版74)

調査区中央鞍部から北東に向かってX 4～0、Y 17～24に位置する。北東端は調査区外に延びる。幅0.65m、深さ0.10mを測る。断面形状はやや緩やかに立ち上がり、平底を呈する。埋土は黒褐色粘質土、灰黄褐色粘質土を基調とした2層に細分される。遺物は細片であるため図示できないが土師器・甕の体部片が出土している。

SD07 (第97図、図版74)

調査区南西側X 4～6、Y 0～4に位置する。南東に向かって延び、南東端は調査区外に延びる。幅1.40m、深さ0.34mを測る。断面形状はやや急に立ち上がり、弧状を呈する。埋土は暗褐色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿（9、10、11）や、細片であるため図示できないが土

師器・椀が出土している。

SP02 (第97図)

調査区西側X 1、Y 1に位置する。長軸0.42m、短軸0.40m、深さ0.52mを測る楕円形のピットである。底部は丸みを帯び、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土を褐色粘質土が含まれる。遺物は土師器・椀(12)や、細片であるため図示できないが土師器・椀が出土している。

SP15 (第97図)

調査区西側X 3、Y 1に位置する。長軸0.74m、短軸0.56m、深さ0.48mを測る不定形のピットである。底部は逆凹型で、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒色シルトを基調とした3層に細分される。遺物は中世土師器・皿(13)が出土している。

SP16 (第97図)

調査区西側X 3、Y 1に位置する。長軸0.56m、短軸0.50m、深さ0.36mを測る楕円形のピットである。底部はやや平底で、断面形状は急に立ち上がる。埋土は暗褐色粘質土を基調とした2層に細分される。遺物は中世土師器・皿(14～17)や、細片であるため図示できないが中世土師器・皿片が出土している。

SP95 (第97図)

調査区西側X 2、Y 1に位置する。長軸0.36m、短軸0.34m、深さ0.55mを測る円形のピットである。底部はやや平底で、断面形状は急に立ち上がる。埋土は黒褐色粘質土の単層である。遺物は中世土師器・皿(20)や、遺物は細片であるため図示できないが土師器・甕の体部片が出土している。

(3) 遺物の概要

出土遺物には、土師器、須恵器、中世土師器・皿、珠洲、青磁、白磁がある。遺物は整理箱に5箱ほど出しだした。出土した遺物は量的に少ないものの、古代・中世の二時期に区分される。

SX01 (第136図、図版113)

1、2は須恵器・有台杯である。1は体部が直線的に立ち上がり、口縁端部はやや丸みを帯びる。2は短く小ぶりな高台が、体部立ち上がり箇所よりも内側に貼付される。底部外面にはヘラ切り痕が残る。8世紀後半から9世紀にかけてのものだと思われる。

3は土師器・内黒椀の口縁部である。内外面ともにヘラ磨きを施す。

4は土師器・高杯の脚部である。

5はクロコ成形の中世土師器・皿の口縁部である。12世紀後半と思われる。(RA類)

6～8は非クロコ成形の中世土師器・皿である。6、8は体部が若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部に二段ナデを施し、口縁端部は丸く收まる。(NC I類) 7は直線的に体部が開き、口縁端部は丸く收める。(NF類)

SD07 (第136図、図版113)

9～11は非クロコ成形の中世土師器・皿の口縁部である。9は平底の底部から体部が若干丸みを帯びて立ち上がり、やや浅身である。口縁部に二段ナデが施されている。(NA II類) 10、11は口縁部が短く直立に立ち上がる。(NG類)

SP02 (第136図、図版113)

12は土師器・小椀である。体部は若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁端部は丸く收める。

SP15 (第136図、図版113)

13は非クロコ成形の中世土師器・皿の口縁部である。体部はやや直線的に開いて立ち上がり、口縁部

には一段ナデが施される。口縁端部は丸く収まる。(ND II類)

SP16 (第136図、図版113)

14～17は非クロ成形の中世土師器・皿の口縁部である。14は口縁部が短く直線的に立ち上がり、端部は丸く收める。(NG類)15は丸みを帯びた底部から体部が立ち上がり、口縁部には二段ナデが施される。(NC I類)16、17は浅身で、やや平底の底部から体部が開き気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。(ND II類)いずれも13世紀代と思われる。

SP19 (第136図、図版114)

18は非クロ成形の中世土師器・皿の口縁部である。体部はやや丸みを帯びて立ち上がる。(ND II類)13世紀と思われる。

SP69 (第136図、図版114)

19は非クロ成形の中世土師器・皿の口縁部である。体部はやや直線的に開いて立ち上がり、口縁部には一段ナデが施される。口縁端部は丸く収まる。(ND II類)

SP95 (第136図、図版114)

20は土師器・皿の口縁部である。浅身で、やや平底の底部から口縁部が短く開き気味に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。(ND II類)

その他 (第136・137図、図版114・115)

21は須恵器・蓋である。扁平なつまみをもち、天井部はヘラケズリが施された平坦面をもつ。8世紀後半から9世紀にかけてのものだと思われる。22は須恵器・杯の口縁部である。口縁部は直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収める。8世紀後半に比定できる。

23は土師器・椀の底部である。やや丸みを帯びた底部から体部が緩やかに立ち上がる。

24、25はクロ成形の土師器・皿である。24は柱状高台がほぼ垂直で、口縁部が短く開いて立ち上がる。

25の高台は裾で若干広がる。(RA類)

26、29、30は土師器・甌である。26は口縁部で、外反し口縁端部をやや上方につまみあげる。29、30は底部である。

28は土師器・皿である。31、32は土師器・椀である。

27、33～40は非クロ成形の中世土師器・皿である。27は底部から体部にかけてやや丸みを帯びて立ち上がり、口縁部には二段ナデが施される。口縁端部は丸く収まる。(ND I類)33、36はやや浅身で、体部は若干丸みを帯びて立ち上がる。口縁部に一段ナデが施されており、口縁端部は丸く収める。(ND II類)34は口縁部が短くやや丸みを帯びて立ち上がり、端部は丸く収める。体部の器壁は厚いが、全体的に摩滅が著しい。(NG類)37は体部が若干丸みを帯びて立ち上がり、口縁部に二段ナデを施す。(NC I類)35、38～40は口縁部に強い一段ナデが施されるため、若干外反する。

41、42は珠洲焼・すり鉢の口縁部である。ともに体部がほぼ直線的に開く。口縁部は端部が肥厚し、三角頭を呈するもの(41)と水平に面を取るもの(42)がある。41はV期、42はIV期と思われる。

43～45は白磁・碗である。全体にうすく乳白色の釉薬がきれいに施される。

46、47は青磁・碗である。

48は瀬戸美濃・折縁深皿の口縁部である。

(宮崎順一郎)

IV まとめ

高畠遺跡1地区

今回の調査では、南東から北西にかけて流れる大溝、その北側に古代集落の一部である竪穴建物跡が2期存在することがわかった。また、竪穴建物に伴う掘立柱建物跡も1棟確認した。

竪穴建物は、10棟のうち6棟がかまとを持つ。建物跡は、建物の軸方向が真北に対して西に約10度振れるグループ①、ほぼ真北を向くグループ②に二別できる。合わせて時期も前者が8世紀代、後者が9世紀前半に属する。周辺の遺跡における古代期竪穴建物の検出例には、在房遺跡で7世紀前半7棟、9世紀中頃3棟、梅原落戸遺跡で9世紀1棟、梅原胡麻堂遺跡で8世紀前半から9世紀約15棟がある。これらの建物跡は、標高67～75mで確認しており、それ以降での古代期の竪穴建物跡の検出例は無かつたが、今回の調査で、古代期8世紀から9世紀前半にかけての集落がさらに南に広がっていたことがわかった。

掘立柱建物は、軸方向が真北に対して約10度西に振れており、これは前述の竪穴住居跡のグループ①とほぼ時期を同じくして存在したことをうかがわせる。出土遺物からも帰属時期が8世紀であることがわかる。調査区中央部に位置する大溝からは、今回の調査で出土した遺物量の約4分の一にあたる量が出土している。またこの大溝の掘り方には、1基あたり幅約0.2～0.3m、長さ約6～7mの小溝が約1.5mおきに平行して点在する範囲がある。これは畝であり、何らかの作物が栽培されていたと考えられる。

出土した遺物は、ほとんどが古代の土師器、須恵器である。主に竪穴建物、大溝から出土している。SI06からは、須恵器・杯蓋、壺などの完形品が多く出土している。完形品は、意図して配置された可能性があり、特に南西隅には小型の鉢と小刀を模した鉄製品を確認している。出土遺物の時期は、8世紀前半から9世紀後半代が主体となるが、弥生時代終末期の高杯の破片等、一部混入した遺物もある。

高畠遺跡2地区

高畠遺跡2地区においては、縄文時代、弥生時代から近世にかけての遺構・遺物を確認した。縄文土器溜まりSX02・03を確認した調査地区北側中央部は、地山検出面が調査地区的なかでも約10cm高い。遺構は検出面から約10cmと浅く、昭和30年代のは場整備の影響を受けたようで、遺構の底部のみ残存していると考えられる。土器溜まり2箇所の性格は不明であるが、土器の出土状況から一括で廃棄されたものと考えられる。調査地区西側に弥生時代の遺物を含む溝が南北方向に走り、南側で落ち込みSX01に切られる。SX01からは下層から弥生時代の土器をはじめ、土師器、須恵器、中壺から中世土師器、珠洲、陶磁器類、上層から近世陶磁器類が出土しており、弥生時代以降、近世にかけて埋没していたものと考えられる。SD04の両肩部には、弥生時代の埋土である黒褐色シルトを基本とするピットを18基確認した。これらはSD04の対岸に位置し、比較的規則性を持って並んでいることから、橋を構成していた可能性がある。調査地区西側は遺構が希薄で、隣接する田面や周辺の地形から山田川に向かって、調査地区中央部を中心に緩やかに落ち込んでいくものと考えられる。

高畠遺跡3地区

高畠遺跡3地区においては、詳細時期は不明であるが掘立柱建物と土坑、溝、多数のピットを確認した。掘立柱建物3棟はいずれも東西2間×南北3間の側柱建物で南北に軸を持つ。掘立柱建物をはじめとする遺構は調査地区南側で希薄になる。調査地区中央部が集落の端にあたり、北側に広がるものと考えられる。

高畠遺跡4地区

高畠遺跡4地区においては、縄文時代、古代から中世にかけての遺構・遺物を確認した。検出された遺構は約170基を数える。本調査区の大半は自然流路で占められており、東側に遺構が残る。遺構は穴がほとんどで、建物や土坑は少ない。遺物包含層は東側にほとんど残っておらず、西側に行くにつれ厚くなり、また地形も傾斜する。遺物は包含層からの出土がほとんどで、遺構からはあまり出土していない。

また、調査区北の中央部から東側にかけて、地山直上から縄文時代後期（井戸式）の土器が多量に出土した。本調査区よりさらに南に下った2地区でも同時代土器の出土状況がみられる。

宗守II遺跡1地区

本調査区において検出された遺構は約450基を数える。調査区東側においては比較的遺構は希薄であるが、調査区西側では遺構密度が高く、遺構が複雑に切り合って検出された。よって遺跡の中心は西側に展開するものと考えられる。

調査区からは旧河川につながる溝が数条確認され、河川を利用して溝を構築したことが窺える。また、地山以下の縛層を掘りぬいた井戸が多く検出された。これらのことから河川や、地下水源が豊富な当該地を選択して集落を営んでいたことが窺える。

本調査区は、検出された遺構の数に比して遺物の出土量は少ないといえる。また、遺構に伴って出土する遺物が少なく、そのほとんどが細片であるため時期決定については慎重を要する。出土した遺物の大半が中世の遺物であることや、中世以降の遺物が遺構に伴って出土しなかったこと、中世以前の遺物（土師器・須恵器など）は流れ込み等の混入によるものと考えられることなどから、本調査区は中世前半（13世紀）も存在するが、おおむね中世後半（15世紀）が中心の遺跡であると考えられる。

検出された遺構の中でも、ピット・土坑が多数を占める。ピットの中には柱痕が残るものも確認されたが、掘立柱建物跡などのように柱穴として規則性を持って検出されたのは1棟のみ（SB01）であった。

SB01を構成するP25から上師器・甕の口縁部片が出土しているが、周辺から古代に帰属する遺構が確認されないことや、周辺の遺構や遺物の時期や切り合い関係などから判断すると流れ込みである可能性が高く、掘立柱建物跡に伴う遺物とは考え難い。他の遺構の帰属時期が中世（13世紀・15世紀）と考えられることから掘立柱建物跡の帰属時期は当該期と考えられる。

宗守II遺跡2地区

本調査区において検出された遺構は約150基を数え、全体的に遺構は希薄である。調査区西側と南側から掘立柱建物跡2棟が検出された。西側のSB01は4間×3間の総柱建物、南側のSB02は3間×2間の総柱建物である。また、調査区中央部には鞍部状の崖み（SX01）が確認された。

調査区西側に位置するSB01を構成する柱穴からは土師器・甕片、中世土師器・皿、珠洲などが、南側に位置するSB02を構成する柱穴からも上師器・甕片、中世土師器・皿が出土した。中世土師器・皿、珠洲の帰属時期から判断すると、掘立柱建物跡の帰属時期は13世紀後半と考えられる。SB01の主軸がN-78°-W、SB02はN-86°-Wと近似した値を示す。また、柱間・柱穴の大きさ、埋土が類似することや出土遺物に時期差がないことなどは、2棟の掘立柱建物跡が並存していた可能性を示唆する。

調査区中央部の鞍部状の崖み（SX01）は北側ほど深くなり、黒色土（包含層）が厚く堆積していた。黒色土やその上位に堆積した黄褐色土からは古代・中世を中心とした遺物が多く出土したことから、中世以降に鞍部状の地形に黒色土層が形成されたと考えられる。

本調査区の東側において土坑が数基検出され、土坑内からは古代の土師器・甕片が多く出土した。これ

らの土坑の帰属時期は出土遺物から、8世紀後半と考えられる。

本調査区では古代（8世紀後半）と中世（13世紀）2時期の遺構が構築され、中世以降に鞍部状の地形に遺物を包含しながら黑色土層が形成されたと考えられる。

宗守II遺跡3地区

宗守II遺跡は、試掘調査により古代、中世を主体とする集落遺跡であると想定していたが、今回の調査区では、中世（12世紀後半から12世紀、14世紀後半から15世紀前半）を中心とする集落跡を確認した。調査区の中央を大溝が走り、西岸に掘立柱建物跡2棟を検出した。また大溝の両岸に土坑群が位置する。土坑はその形態から、梅原胡摩堂遺跡などに検出例がある堅穴状土坑と推測する。その用途は、周辺の遺跡での検出例同様、倉庫もしくは作業場が考えられる。物資の運搬に大溝の水運を利用した、倉庫群があつたのではないだろうか。

宗守II遺跡4地区

調査区内から検出された遺構の大半は、遺物包含層がほとんどない東寄りに位置するもので、遺構自体が持つ掘り込みの深さはかなり欠失しているものと考えられる。表土直下が地山面より下位となる部分もある。調査区の面積や遺構数に対して出土遺物数が比較的少ないことも、こうした要因からであると推察できる。この様な状況を踏まえて、発見された遺構を概観する。

古代の主な遺構としては、掘立柱建物跡（SB04）、堅穴建物跡（SI01、SI02）があげられる。土坑やピットも該期のものは多数あると思われる。土坑とピットは分類に関して明確な基準を設けていないため、本来は土坑とするべき遺構をピットとして扱ったものが複数存在する。それら大型ピットも含めた土坑（SK）群は、その在り方には規則性はみられないものの、SB04の南西側及びSI02周辺に集中し、一様に平面積に対して深さが浅い。この中でSK09は比較的深く壘の形態に特徴がみられる。袋状を呈するこの土坑は示唆的にみえる。つまり他の土坑群も本来の深さが遺存したならば、SK09と同形態のものが存在する可能性が高いと考えられよう。このような袋状土坑は貯蔵目的と考えるのが自然である。これら土坑群は出土遺物からも古代の遺構の可能性が高いと考えられる。仮にSB04と土坑群（SK10・11）が同時期と考えた場合、SI02と土坑（SK10・11）が切りあうことから、掘立柱建物跡と堅穴建物跡の時期には時間差があることが窺われる。

中世期の主な遺構としては掘立柱建物跡（SB01～03）があげられる。SB02はSB03の建替えとも思われるが、SB03はSB02に付随する施設である可能性が高いと考えられる。

またSB01とSB02の間には、5条の溝（SD01～05）がほぼ平行して東西に伸びる。これらも本来の深さが遺存すれば恐らく3条の溝状遺構となるものと思われ、区画溝である可能性が高い。

宗守II遺跡5地区

宗守II遺跡5地区の調査では、古代（8世紀後半から9世紀後半）と中世（12世紀中頃から13世紀前半）の集落跡と縄文時代・弥生時代の遺物、そして自然流路を確認した。

古代集落の遺構は、掘立柱建物（SB03）、土坑（SK03・SK07・SK08）、溝（SD05）、ピット（P28）などがあり、調査区中央、自然流路の際にまとまって検出した。これらの遺構からは土師器壺・碗・須恵器杯・壺が出土している。出土遺物の年代観から奈良時代後期から平安時代前期頃の集落と考えられる。

中世集落の遺構は、掘立柱建物（SB01・SB02・SB04）、土坑（SK04・SK12）、溝（SD01・SD02・SD03・SD06）、ピット群などがあり、調査区全体で検出した。これらの遺構からは土師器皿・珠洲焼壺・捕鉢が出土している。出土遺物の年代観から鎌倉時代を中心とする集落と考えられる。

縄文時代・弥生時代の出土遺物は、縄文土器では後期の気屋II式土器、晩期の条痕土器があり、石器では石鎌・敲石・凹石・打製石斧がある。また弥生土器は終末期の土器が出土した。少量であるが、縄文時代・弥生時代の遺物の存在も認められ、今回の調査地および周辺部において、これらの時代の集落が営まれていたことを示唆するような状況も認められた。

古代集落の遺構としたSB03とSD05との間では、掘り方や主軸方向に共通性が認められ、ほぼ北方位に合わせて配置されている。SD05の性格は、配置・形状から集落の区画溝の可能性も考えられる。出土遺物を見ても、概ね年代の大きな隔たりはない。遺構埋土上面および検査面から出土した遺物の年代が古代の範疇におさまる遺物であることから、少なくとも奈良時代の終わり頃までは使用されていたが、おそらく平安時代前半には埋められ整地されていることが推察される。

中世集落の性格については、確認された建物群SB01・SB02・SB04の主軸が北に対して東へ23°～52°振れおり、ほぼ主軸方向を描えて企画的に配置されている。建物の規模からすれば、SB01以外は住居とするよりも倉庫と考えた方がよいかもしれない。SB02の周辺では、柱穴と考えられるピット群をまとめて確認している。ただ、数多く建てられていたとは考えられず、調査結果から一時期にせいぜい2棟、最大でも3～4棟と推察される。また溝(SD01・SD02・SD03)は、立地的にみて、建物と何らかの関連が指摘でき、出土遺物を見ても、建物と同一時期に配置されたと推定できる。そのため何らかの目的をもって掘られたものと考えられるが、現段階ではこれらの溝の性格は不明である。

当該期の福光地区は円宗寺領石黒庄に含まれていたとみなされているので、宗守II遺跡における古代・中世集落の様相は、石黒庄の領有形態やその経緯、あるいはその前進となる川上村の成立や開発の実態を投影しているものと思われる。他の調査区を含め、広範囲の調査により明らかになってきた古代・中世集落の成立・再編・終焉がどのような歴史的背景によるものかの解明が、今後の課題である。

宗守II遺跡6地区

本調査区において検出された遺構は約80基を数え、遺構は希薄である。調査区西側では遺物包含層が確認できないが土坑が集中しており、東側に行くにつれ包含層が厚くなり、遺構密度が低くなっている。土坑は全部で7基確認でき、西側に集中した4基が出土遺物から中世に属すると考えられる。遺構密度が低い東側は包含層から縄文時代晩期の土器が出土しているが、遺構からの出土は1点のみである。

本調査区の南に位置する5地区も調査区西側に中世集落が広がっていることから、遺跡はさらに西に展開していくと思われる。また5地区東側で確認された自然流路は、本調査区では確認できず東に蛇行していくものと思われる。

宗守II遺跡7地区

本調査区において検出された遺構は約150基を数え、全体的に遺構は希薄である。調査区中央部から掘立柱建物跡1棟(SB01)、4間×4間の縦柱建物が検出された。また、調査区中央南側で鞍部状の窪み(SX01)が確認された。

SB01を構成する柱穴からは詳しい時期は不明だが、土師器・壺片・中世土師器・皿が出土している。本調査区より南側に位置する2地区で確認できた掘立柱建物跡2棟と主軸が近似した値を示すことから同時期、13世紀後半のものと考えられる。

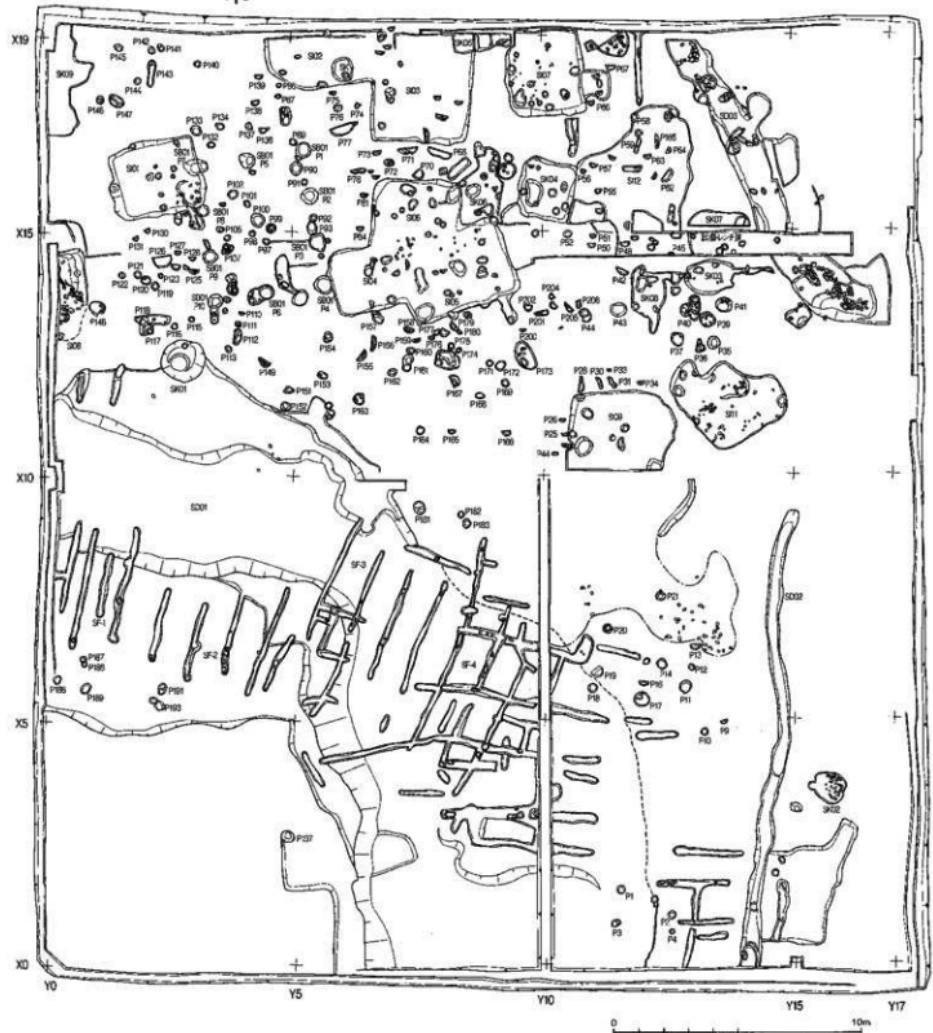
調査区中央部の鞍部状の窪みは南側に行くにつれ深くなり、包含層(黒色土)が厚く堆積していた。包含層からは古代・中世を中心とした遺物が多く出土したことから、中世以降に鞍部状の地形に黑色土層が形成されたと考えられる。この鞍部状の窪みも2地区で確認されており、関連性がうかがえる。

また鞍部状の窪みへと至る溝（SD01）とそれに直交、並行する溝群も検出された。これらの溝からは中世の遺物が出土しているが、詳しい時期は不明である。

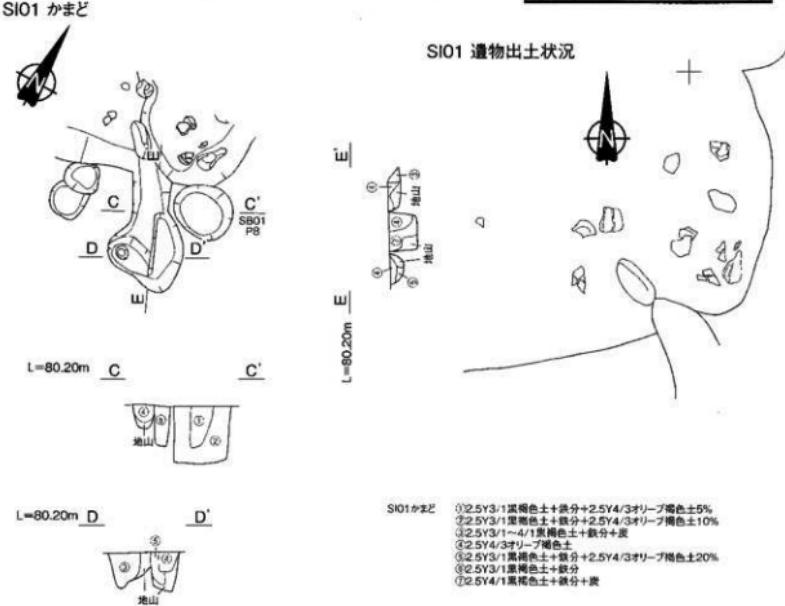
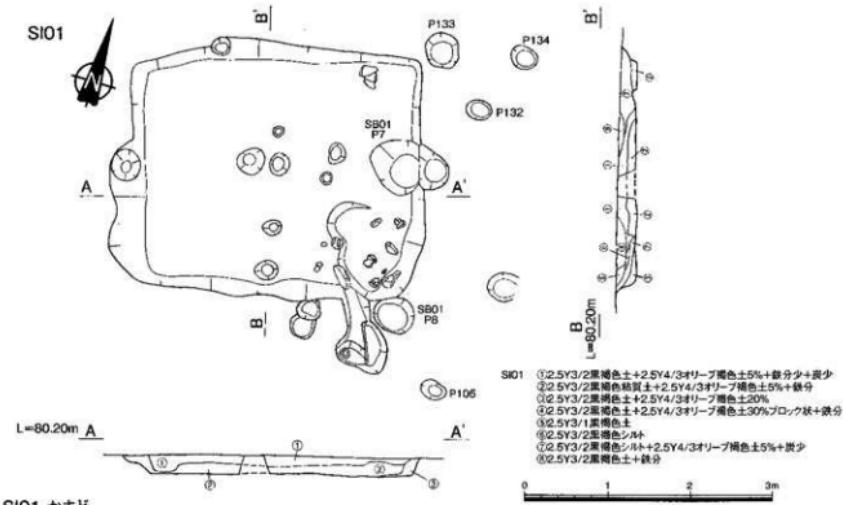
本調査区では中世（13世紀）の道構が構築され、中世以降に鞍部状の地形に遺物を包含しながら黒色土層が形成されたと考えられる。

参考文献

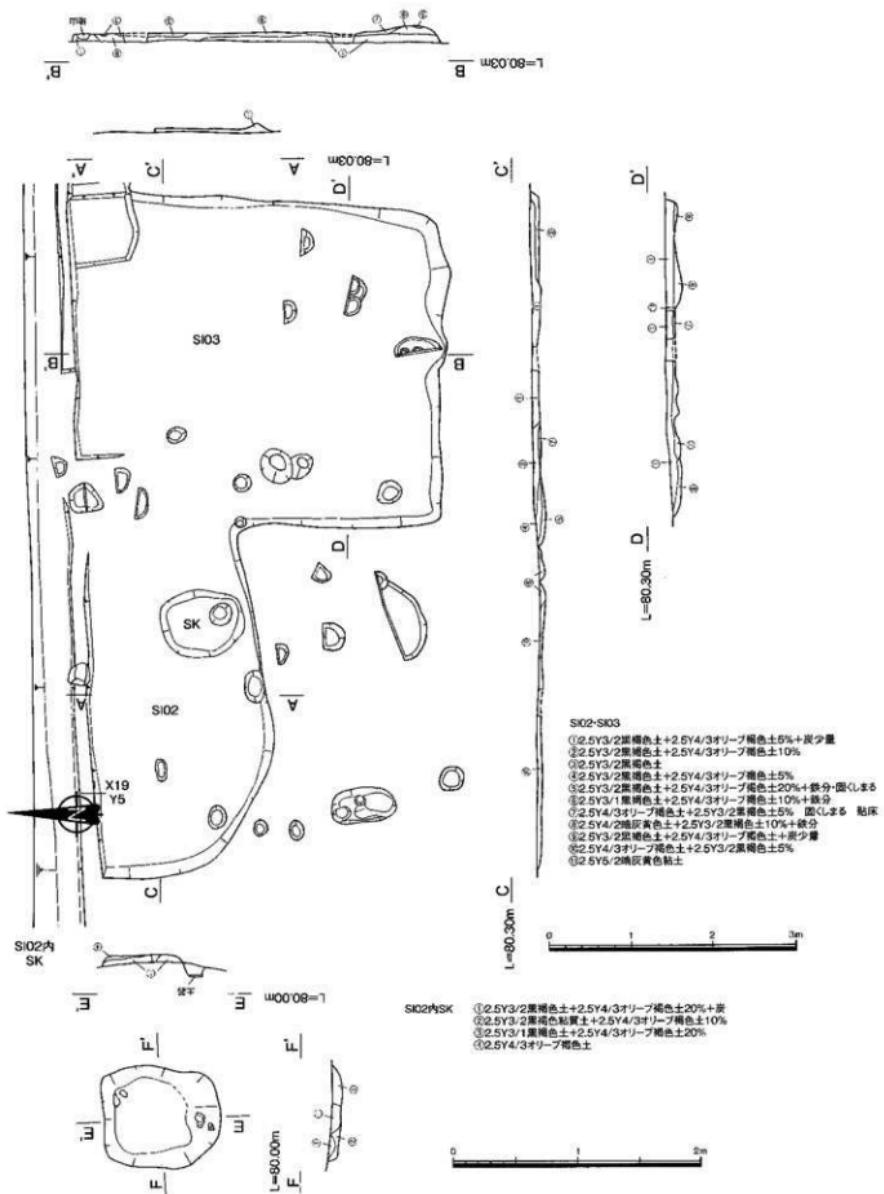
- 青藤孝正・後藤健一1995「須恵器集成図録 第3巻 東日本編I」雄山閣
珠洲市立珠洲焼資料館1989「珠洲の名陶」
鈴木次郎1995「石鏡」「縄文文化の研究 7道具と技術」雄山閣
富山県文化振興財団1996「梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺物編）」
南砺市教育委員会2006「東殿遺跡 德成II遺跡」
南砺市教育委員会2007「富山県南砺市宗守遺跡I 久戸遺跡I 梅原胡摩堂遺跡I 神成遺跡IV」
南砺市教育委員会2007「富山県南砺市院林遺跡I」
福光町教育委員会1991「うずら山遺跡緊急発掘調査概要」
福光町教育委員会1996「梅原落戸遺跡群III」
福光町教育委員会2001「在房遺跡」
福光町教育委員会2004「神成遺跡I 久戸II遺跡II」
北陸中世土器研究会編1997「中・近世の北陸－考古学が語る社会史－」桂書房
吉岡康暢1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館



第19図 高島遺跡1地区平面図 ($S=1:200$)

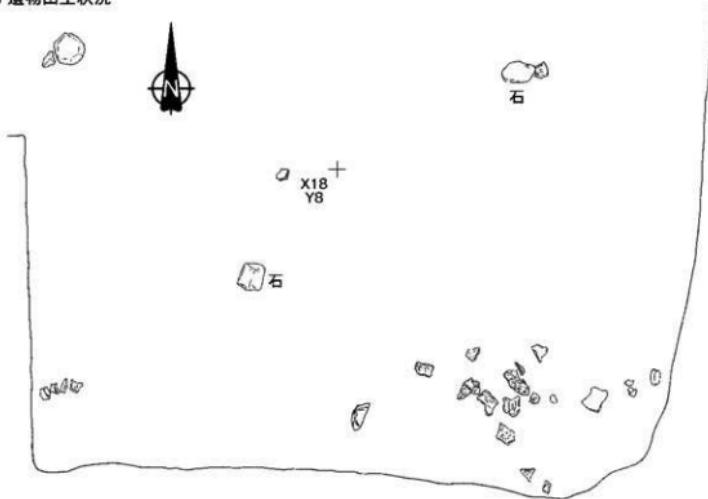


第20図 高畠遺跡1地区の遺構（1）（S=1:60、1:40）

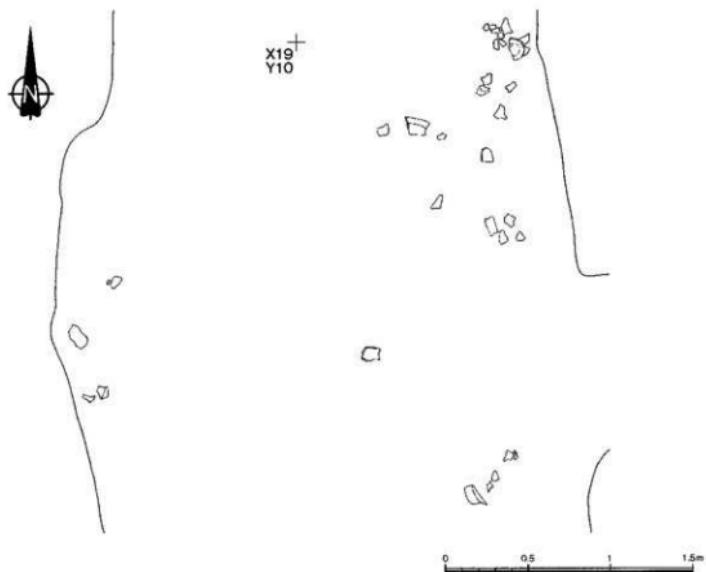


第21図 高畠遺跡1地区の遺構(2) (S=1:60, 1:40)

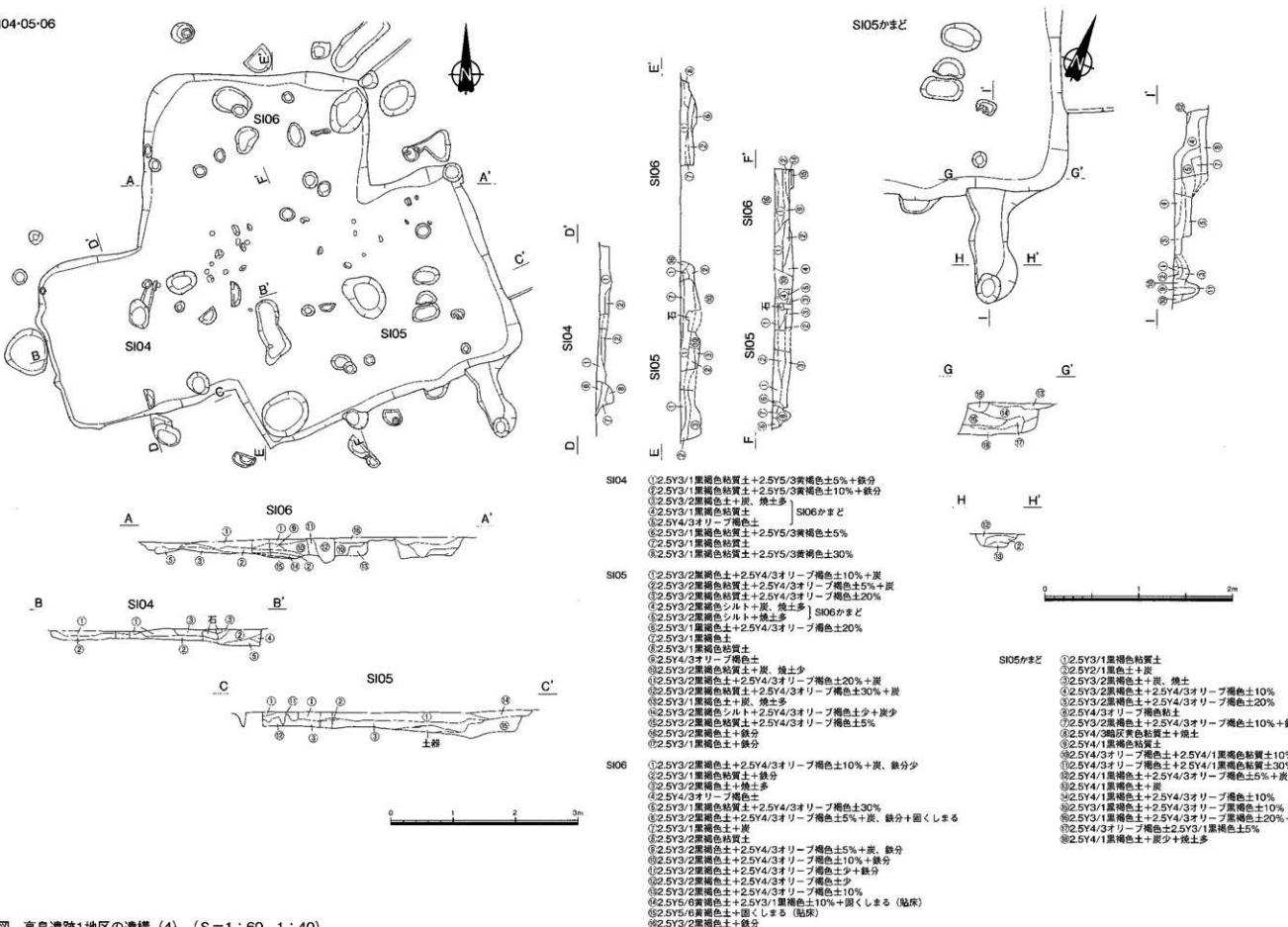
S103 遺物出土状況



S107 遺物出土状況

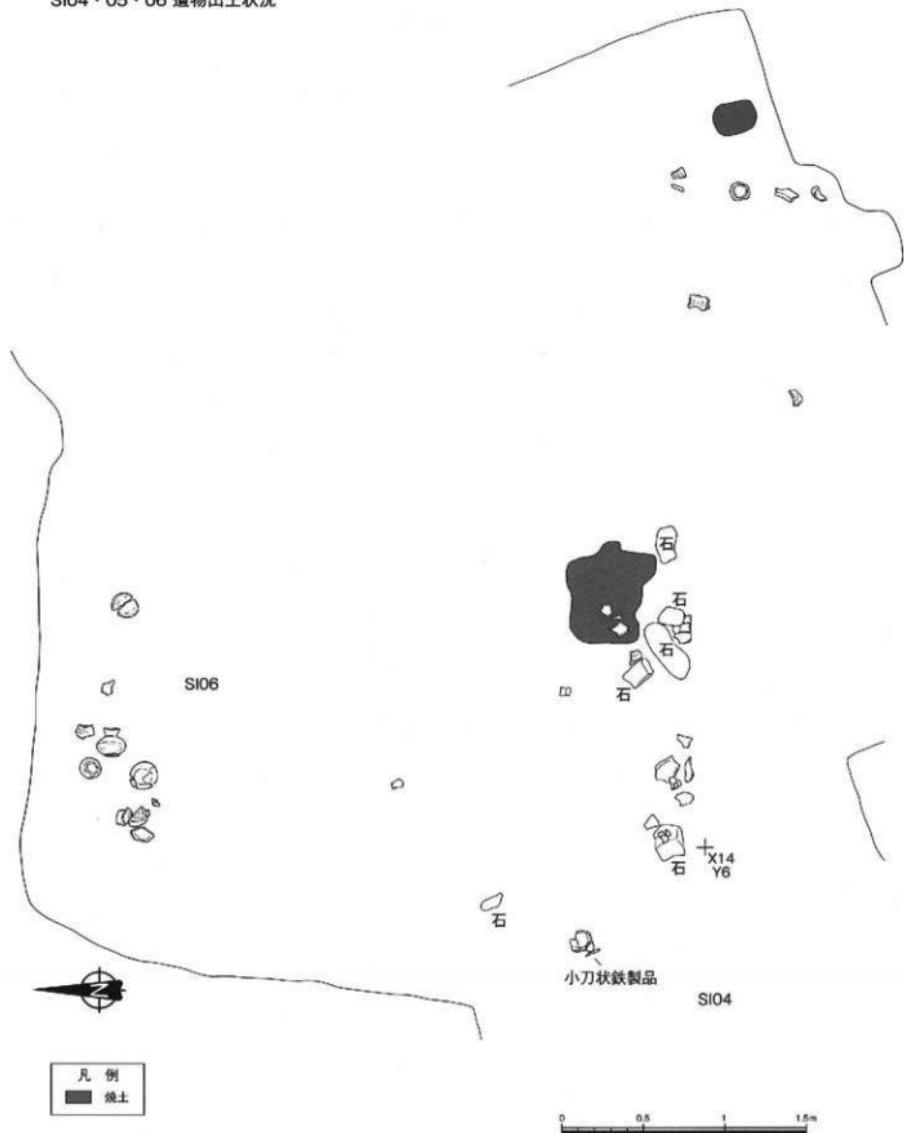


第22図 高畠遺跡1地区の遺構 (3) (S=1:30)

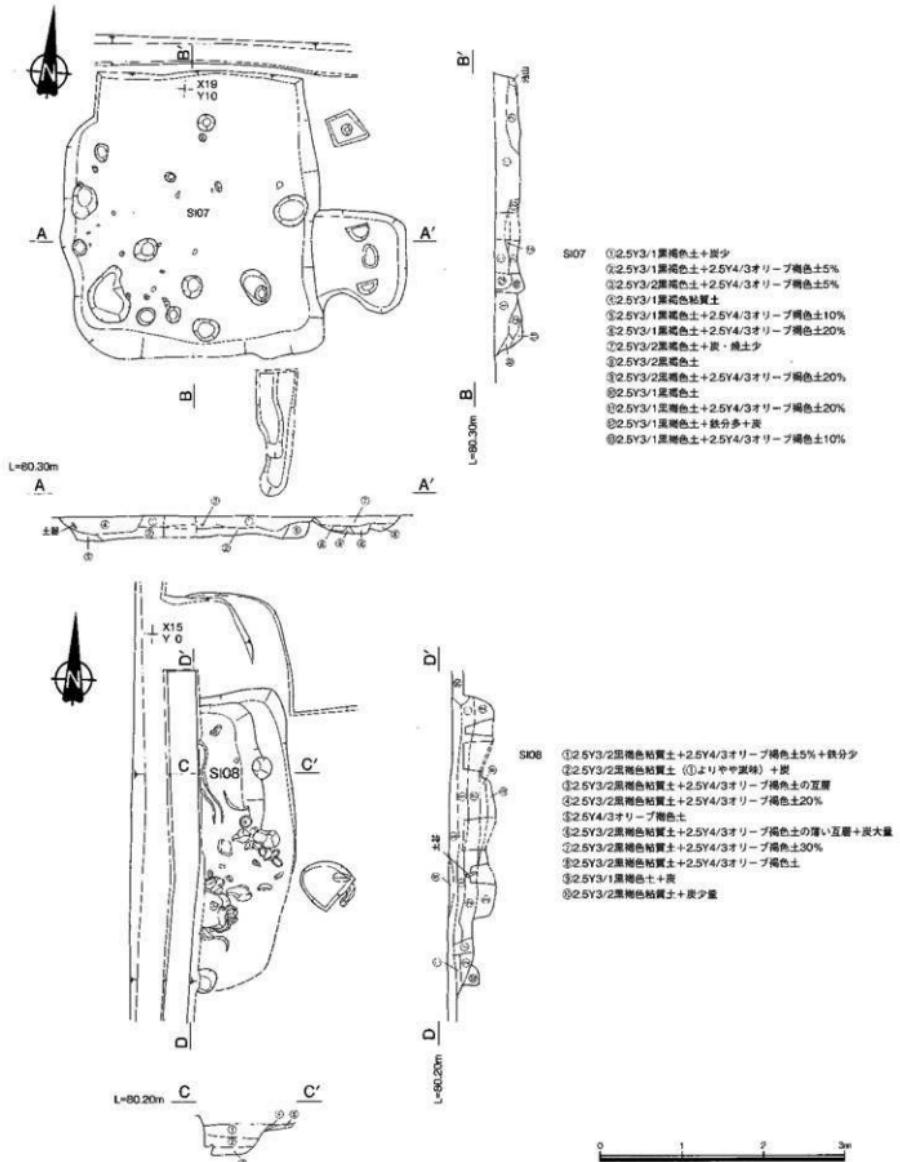


第23図 高皇遺跡1地区の遺構 (4) (S=1:60、1:40)

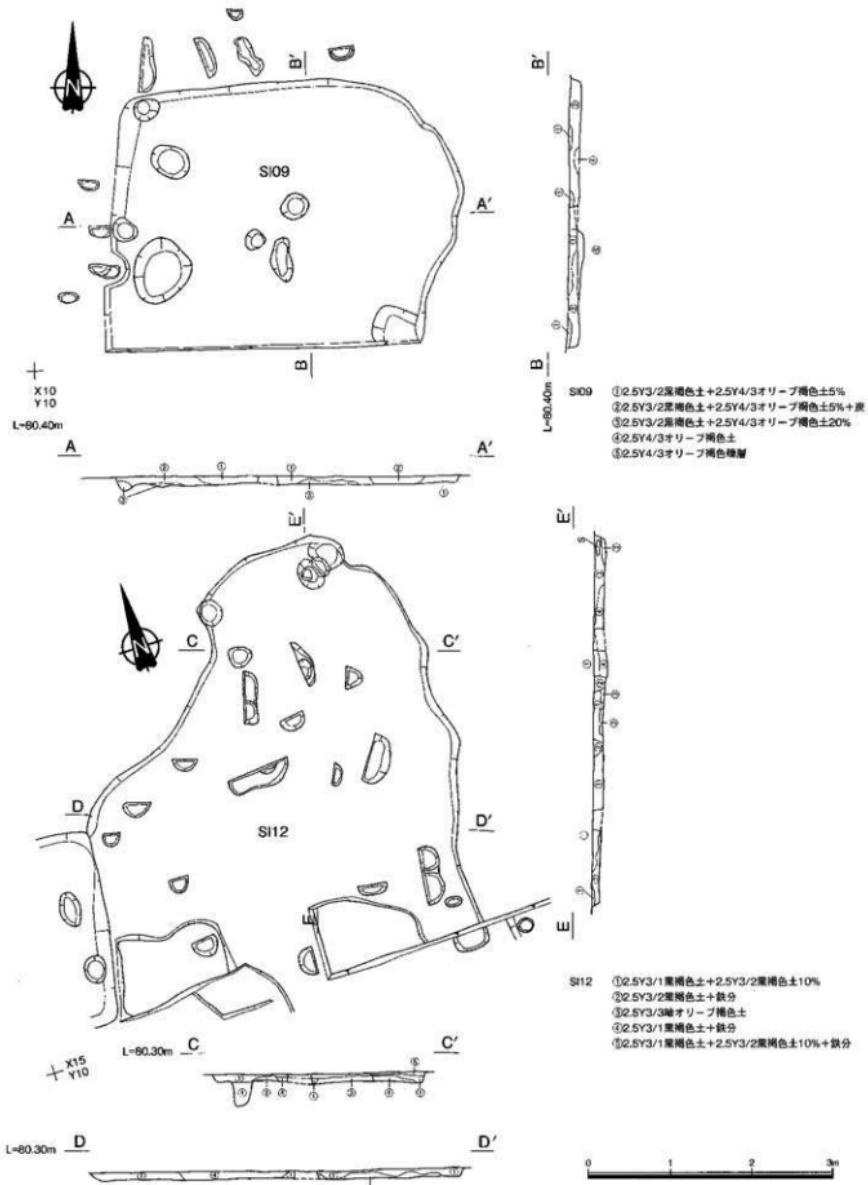
SI04・05・06 遺物出土状況



第24図 高島遺跡1地区の遺構 (5) ($S=1:30$)

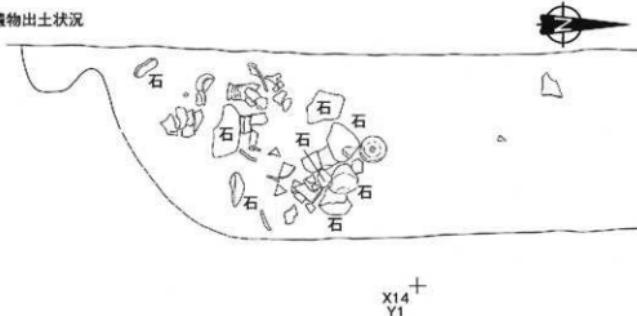


第25図 高畠遺跡1地区の遺構 (6) (S=1:60)

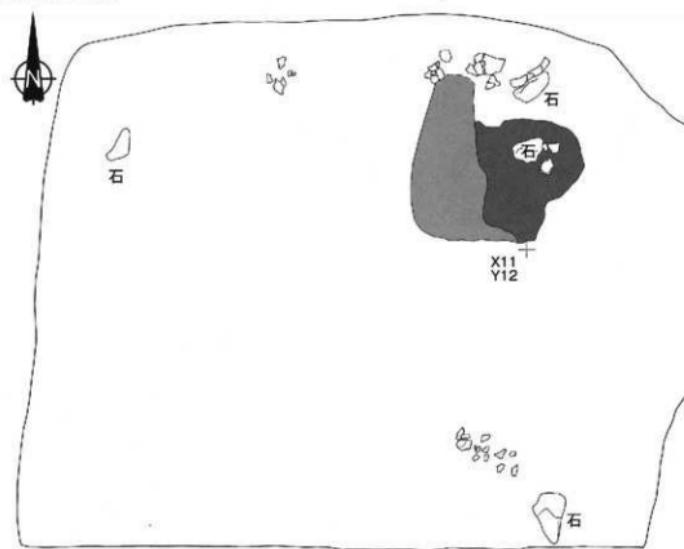


第26図 高畠遺跡1地区の遺構 (7) (S=1:60)

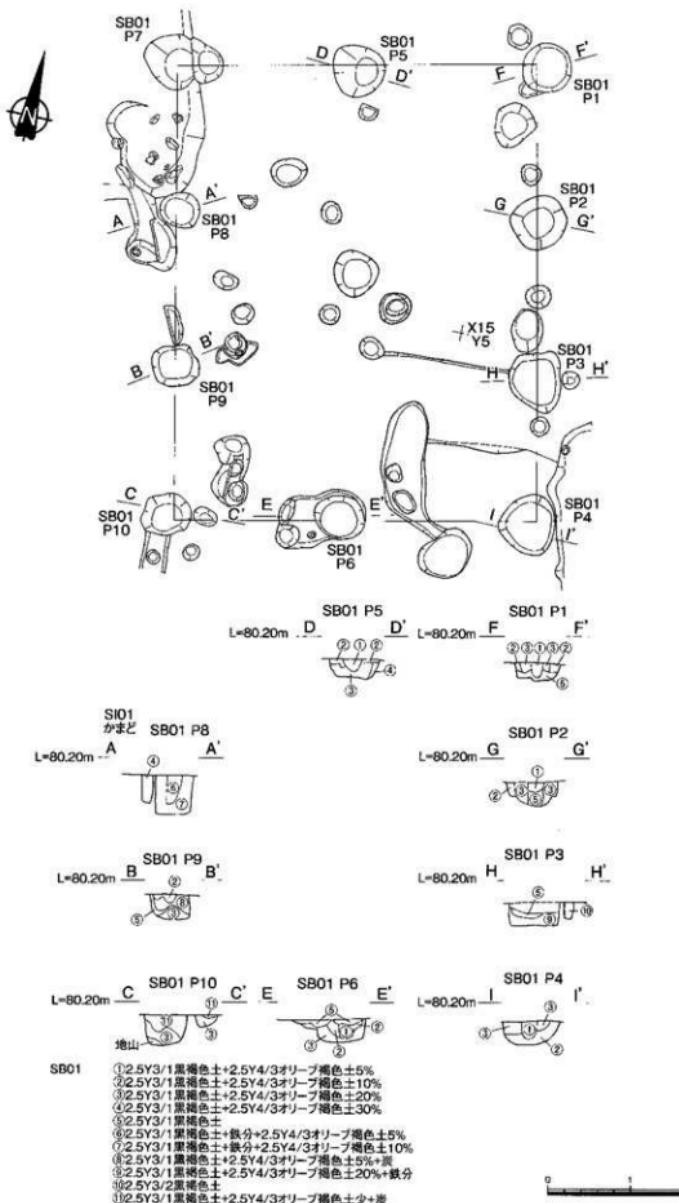
SI08 遺物出土状況



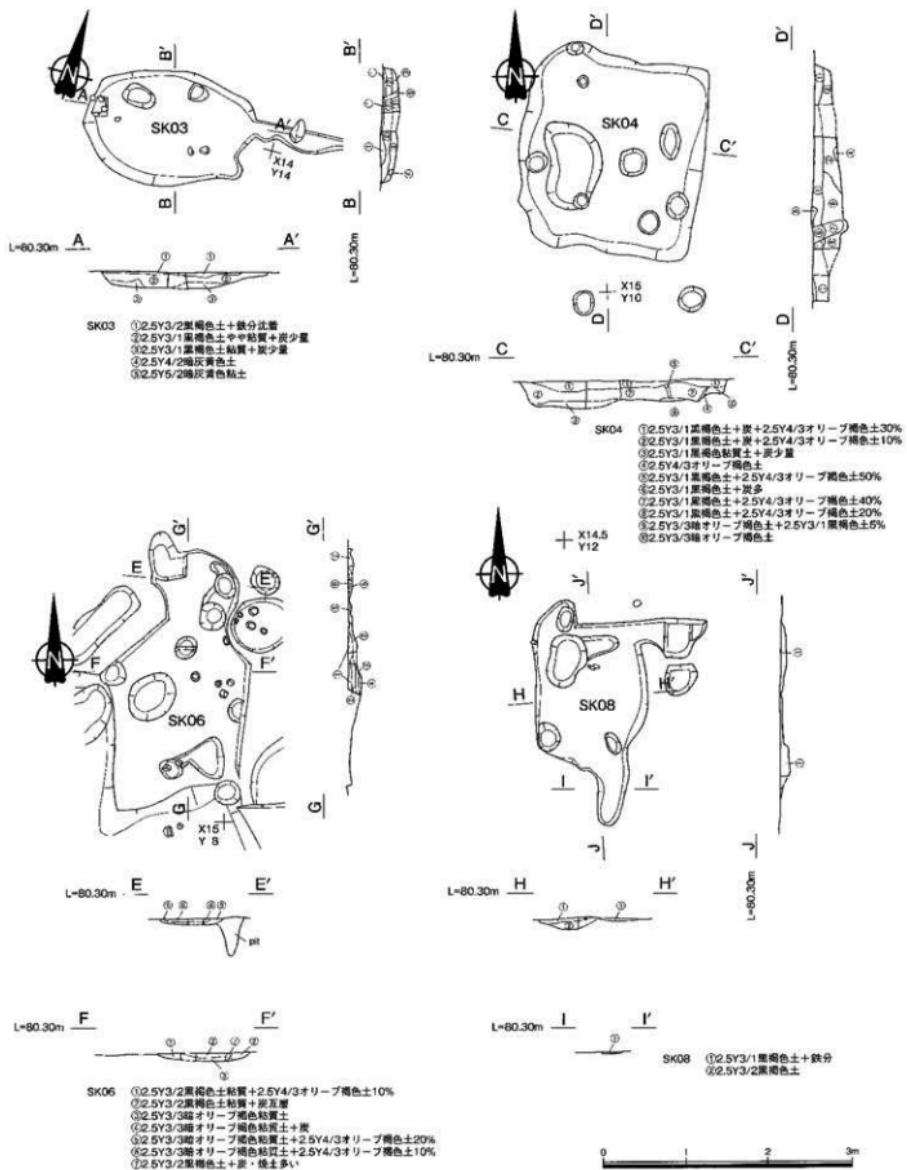
SI09 遺物出土状況



第27図 高畠遺跡1地区の遺構 (8) (S=1:30)

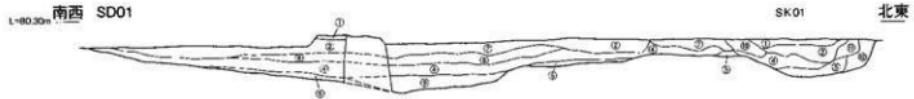


第28図 高畠遺跡1地区の遺構(9) (S=1:60)



第29図 高島跡1地区の遺構 (10) (S=1:60)

南西 SD01



SD01

- ①2.5Y3/3褐色いオリーブ褐色土+鐵分・炭少量
- ②2.5Y3/2黒褐色土や粘質+炭多く含む
- ③2.5Y3/2黒褐色土や粘質+鐵土多く含む
- ④2.5Y3/2黒褐色土や粘質+鐵分
- ⑤2.5Y3/2黒褐色土+2.5Y4/2暗灰黃色粘質土
- ⑥2.5Y3/3褐色いオリーブ褐色粘土+2.5Y4/2暗灰黃色土10%
- ⑦2.5Y3/2黒褐色粘土+2.5Y4/2暗灰黃色土20%
- ⑧2.5Y3/2黒褐色粘土+鐵分・炭
- ⑨2.5Y3/1黒褐色粘土+鐵分
- ⑩2.5Y3/2黒褐色土+少量
- ⑪2.5Y3/2黒褐色土+2.5Y4/2暗灰黃色粘土5%
- ⑫2.5Y3/2黒褐色土+2.5Y4/2暗灰黃色粘土20%

L=80.30m 西 SD02 A 東 L=80.30m 西 SD02 B 東



SD01 A ⑫2.5Y3/1黒褐色土+鐵分
⑪2.5Y3/2黒褐色土
⑬2.5Y3/2黒褐色砂礫層

SD02 B ⑭2.5Y3/1黒褐色土+2.5Y4/3オリーブ褐色土±20%
⑮2.5Y3/1黒褐色土
⑯2.5Y4/3オリーブ褐色土



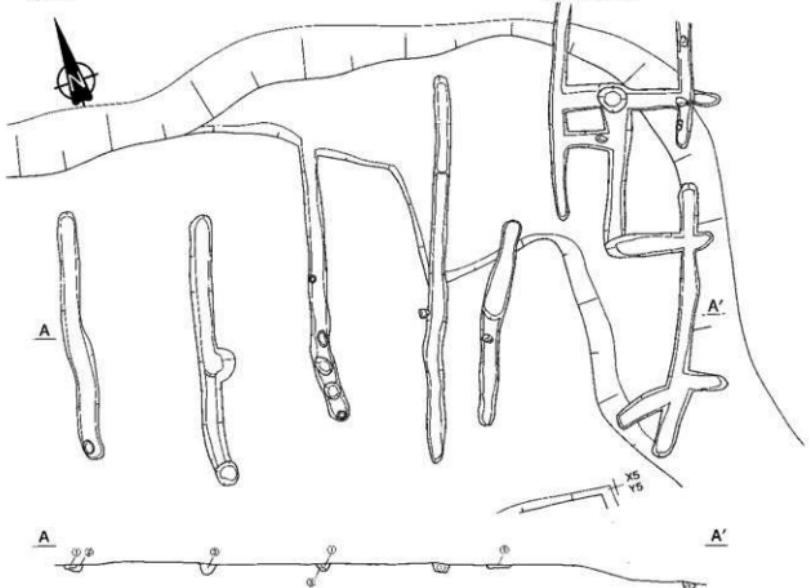
L=80.30m 西 SD03 東 L=80.30m 西 SD03 東



SD03 ⑰2.5Y2/1黒褐色土+鐵分多い

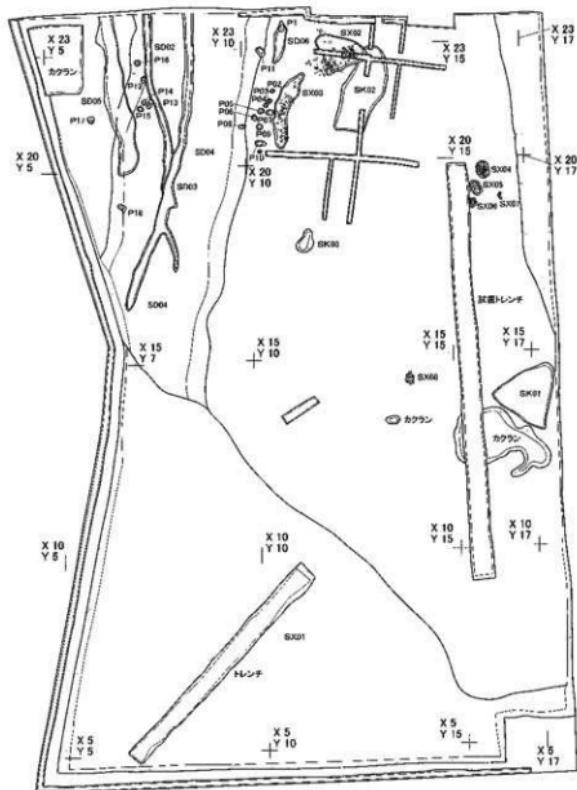
- ⑱2.5Y2/1黒褐色土
- ⑲2.5Y2/2黒褐色土+2.5Y3/2黒褐色土や粘質10%
- ⑳2.5Y4/3オリーブ褐色砂礫土+少量の繊維
- ㉑2.5Y3/1黒褐色土や粘質+2.5Y3/2黒褐色シルト20%+鐵分
- ㉒2.5Y3/2黒褐色土シルト+鐵分
- ㉓2.5Y3/1黒褐色土や粘質+2.5Y3/2黒褐色シルト20%+鐵分含む
- ㉔2.5Y3/2黒褐色土

SF-2

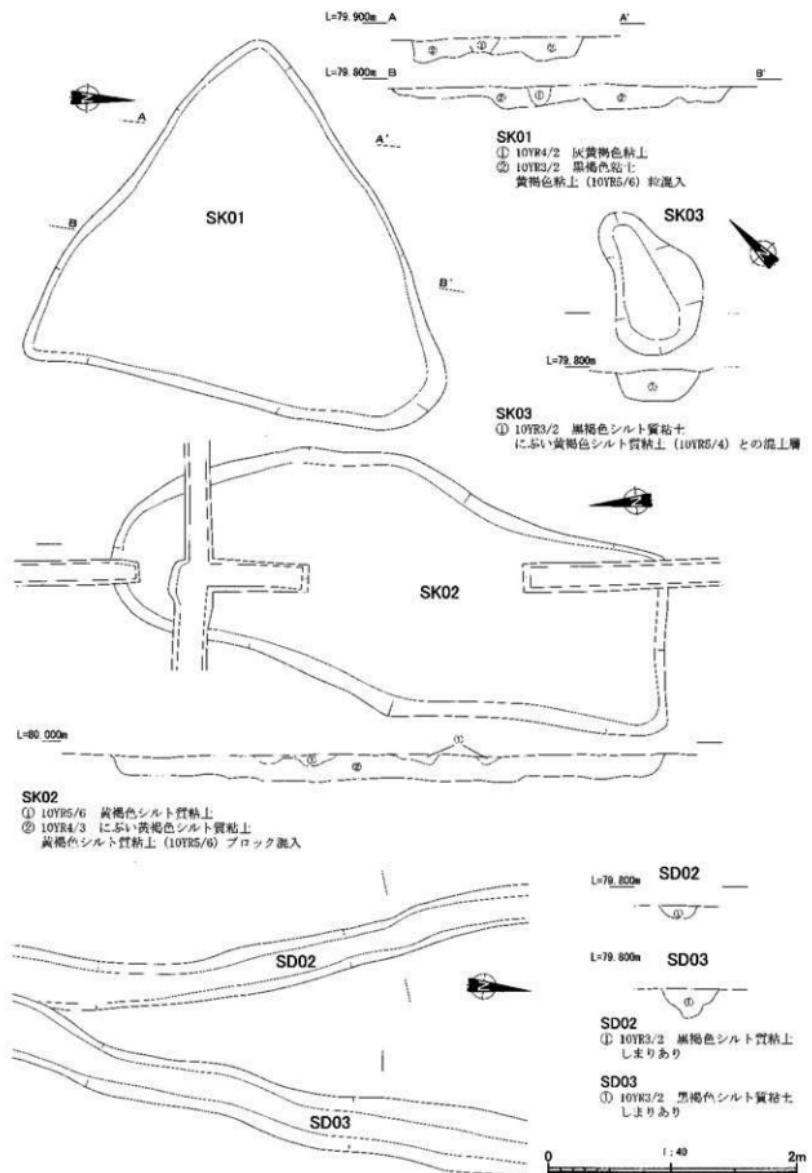


- SF-2 ⑰2.5Y3/2黒褐色土+2.5Y4/3オリーブ褐色土5%
㉕2.5Y3/2黒褐色土+2.5Y4/3オリーブ褐色土10%
㉖2.5Y3/1黒褐色土+2.5Y4/2暗灰黃色土20%

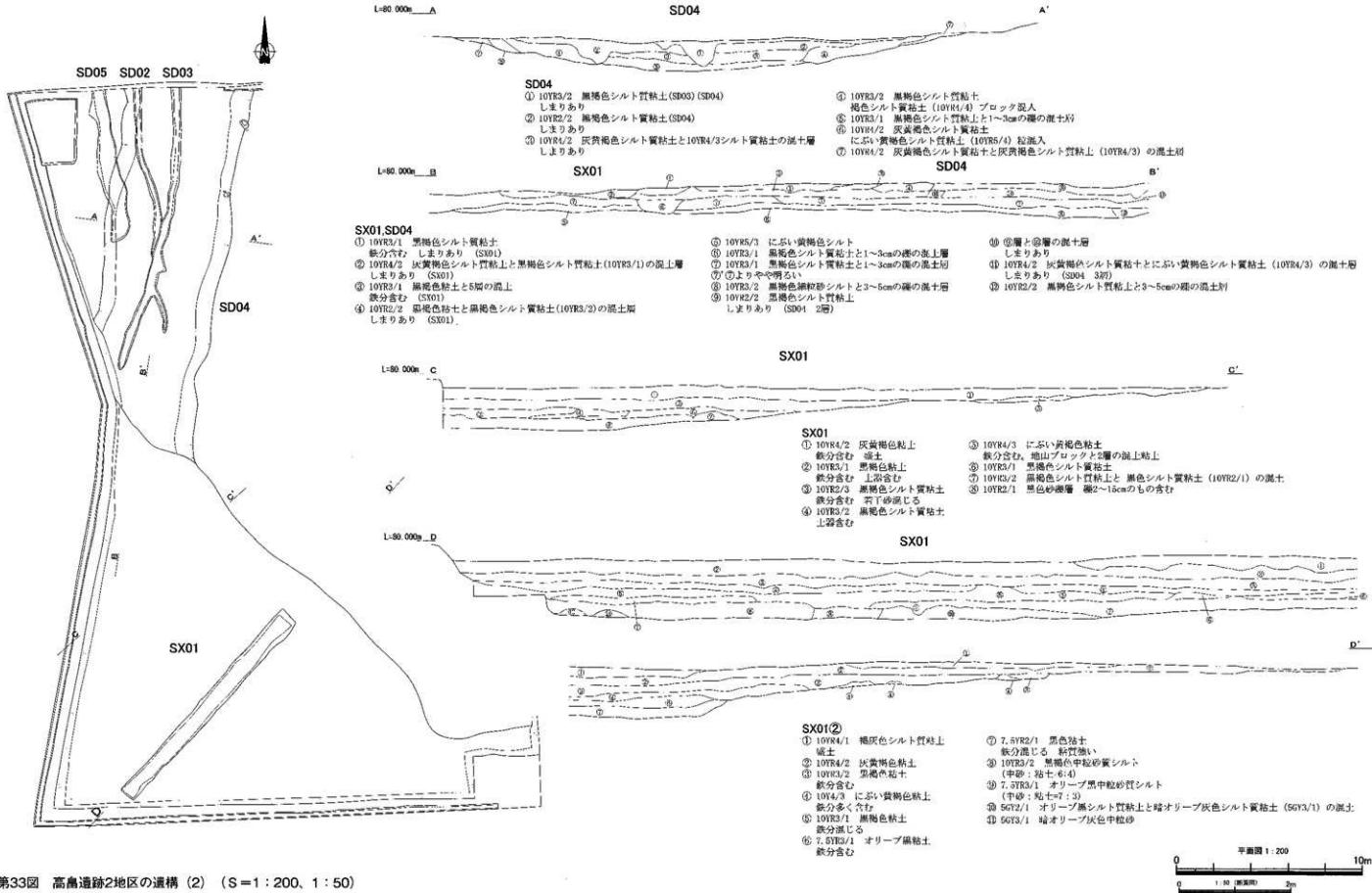
第30図 高畠遺跡1地区の遺構 (11) (S=1:60)



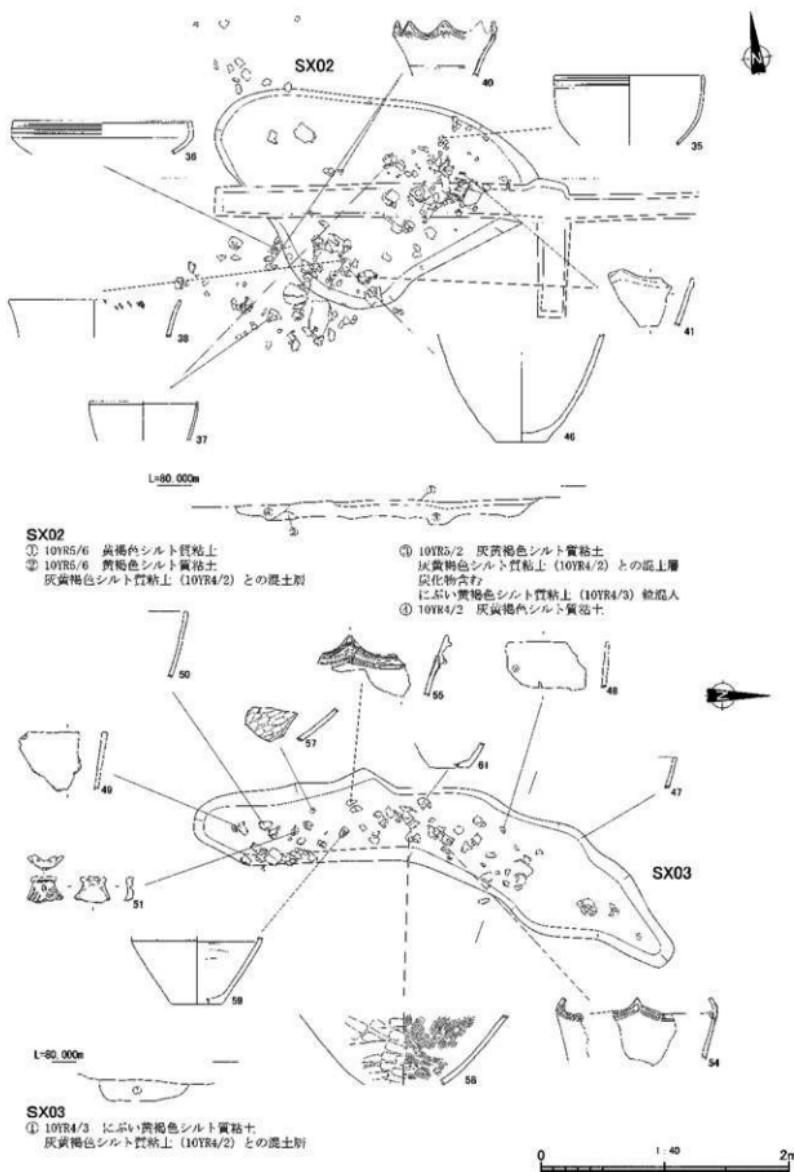
第31図 高畠遺跡2地区平面図 (S=1:250)



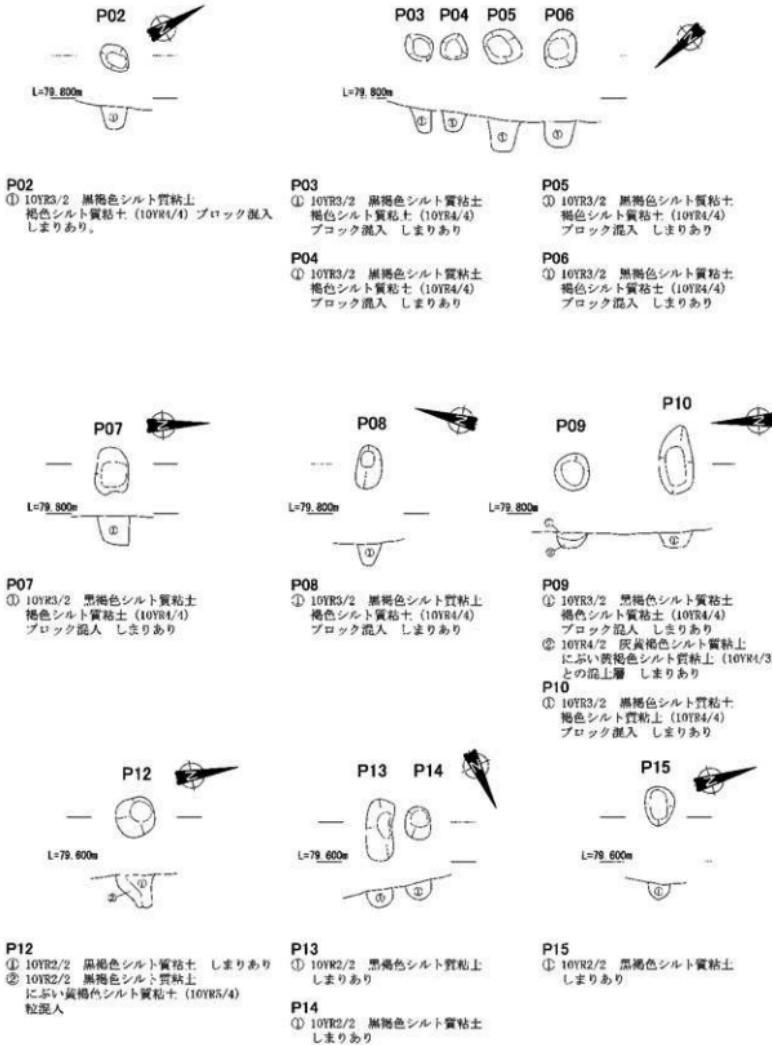
第32図 高島遺跡2地区の遺構 (1) (S=1:40)



第33図 高畠遺跡2地区の遺構(2) (S=1:200、1:50)

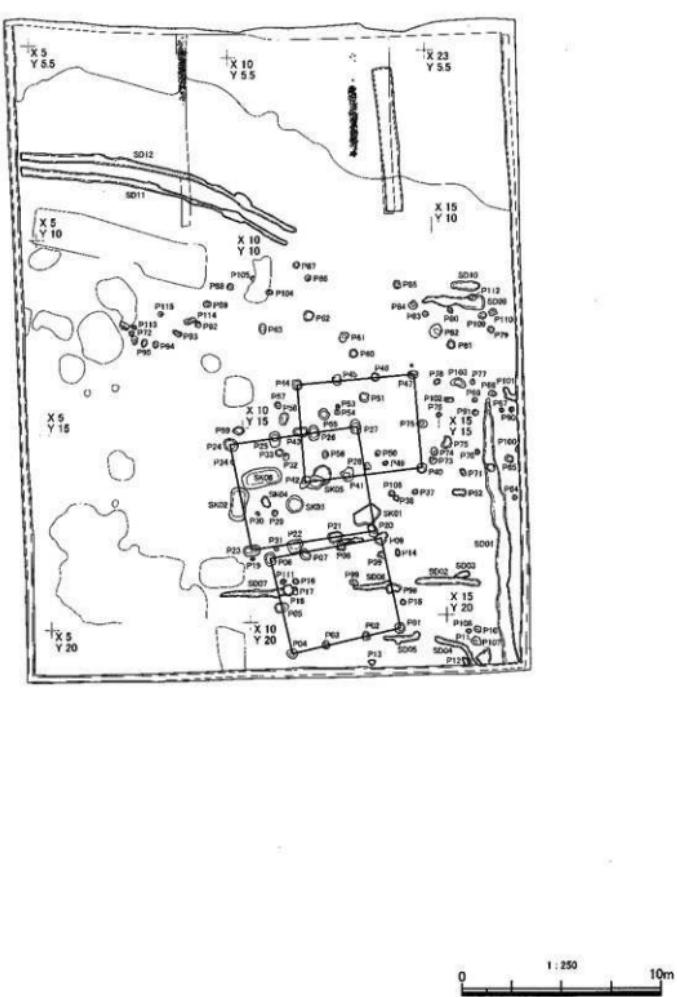


第34図 高畠遺跡2地区の造構 (3) (S=1:40)

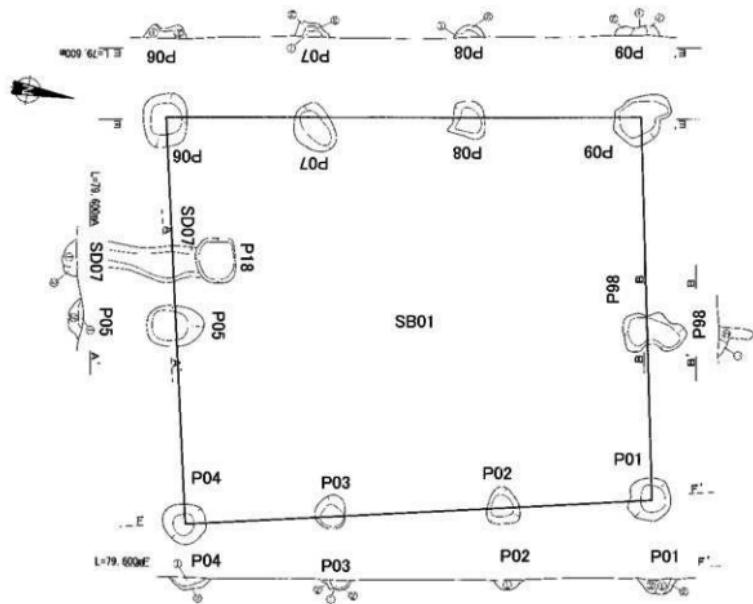


0 1:40 2m

第35図 高畠遺跡2地区の遺構 (4) (S=1:40)



第36図 高畠遺跡3地区平面図 (S-1:250)



P01

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P02

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土

- ② 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P04

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P05

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P06

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P07

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土
- ③ 10YR2/1 黑色粘土

P08

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P09

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

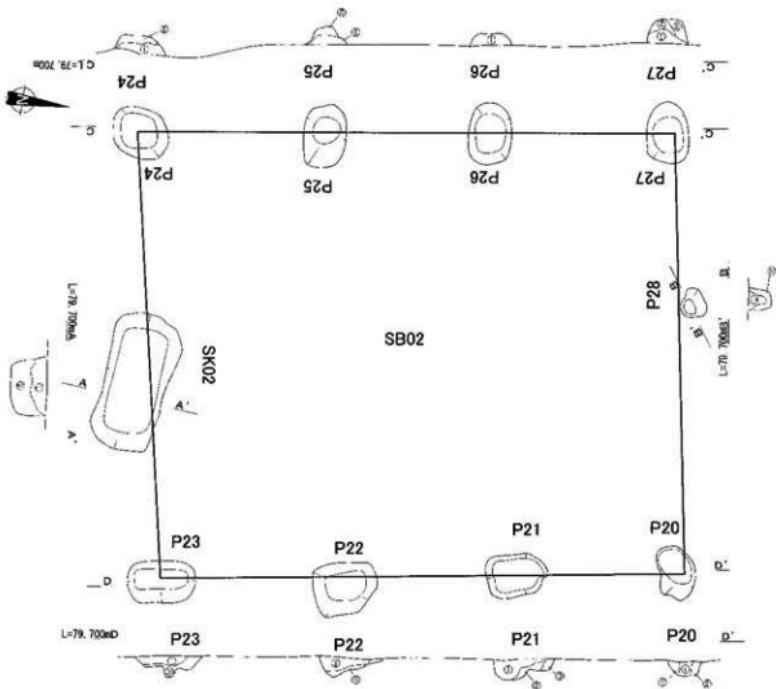
P98

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

SD07

- ① 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土
- ② 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土

第37図 高島遺跡3地区の遺構(1) (S=1:60)



P20

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土上
- ② 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR2/2) ブロック混入

P21

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土上
- ② 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR2/2) ブロック混入
- ③ 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土上
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR4/3)との混土

P22

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土上
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR2/2) ブロック混入

P23

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土上
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト質粘土上 (10YR2/2) ブロック混入

P24

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土上
- ② 10YR3/2 黑褐色シルト質粘土
灰褐色シルト質粘土上 (10YR4/2) との混土

P25

- ① 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土
しまりあり
- ② 10YR2/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) との混土
しまりあり

P26

- ① 10YR2/3 黑褐色シルト質粘土上
しまりあり

P27

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
しまりあり
- ② 10YR3/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト (10YR5/4) との混土
しまりあり
- ③ 10YR2/2 黑褐色粘土
褐色シルト (10YR4/4) ブロック含む

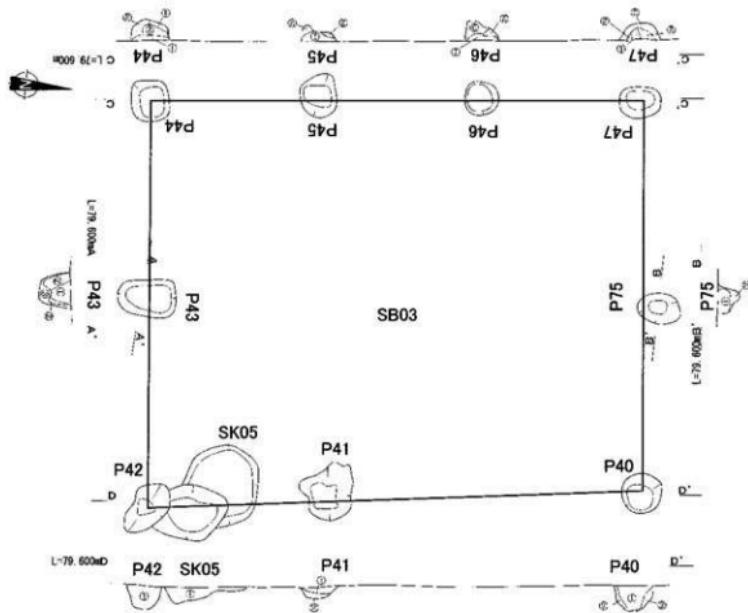
P28

- ① 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土上
- ② 10YR2/2 黑褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色シルト (10YR4/3) との混土

SK02

- ① 10YR4/2 底黄褐色軽上
- ② 10YR4/1 褐灰色粘土 しまりあり

第38図 高畠遺跡3地区の遺構 (2) (S=1:60)



P40

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
にぶい黄褐色(10YR4/3) ブロック流入

P41

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
しまりあり
- ② 10YR3/2 黒褐色粘土
にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)との混上
しまりあり

P42

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
しまりあり

P43

- ① 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
- ② 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
褐色シルト(10YR4/4)との混上
- ③ 10YR4/4 褐色シルト

P44

- ① 10YR2/1 黒褐色粘土
しまりあり
- ② 10YR2/2 黑褐色粘土
しまりあり
- ③ 10YR3/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)との混上
しまりあり
- ④ 10YR3/2 黑褐色粘土
黄褐色シルト(10YR5/4)粒混入
しまりあり

P45

- ① 10YR3/1 黒褐色粘土
しまりあり
- ② 10YR3/3 にぶい黄褐色粘土
黒褐色粘土(10YR3/2)粒混入
しまりあり

P46

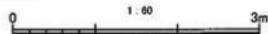
- ① 10YR3/1 黒褐色粘土
しまりあり
- ② 10YR3/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)との混上
しまりあり
- ③ 10YR3/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)粒混入
しまりあり

P47

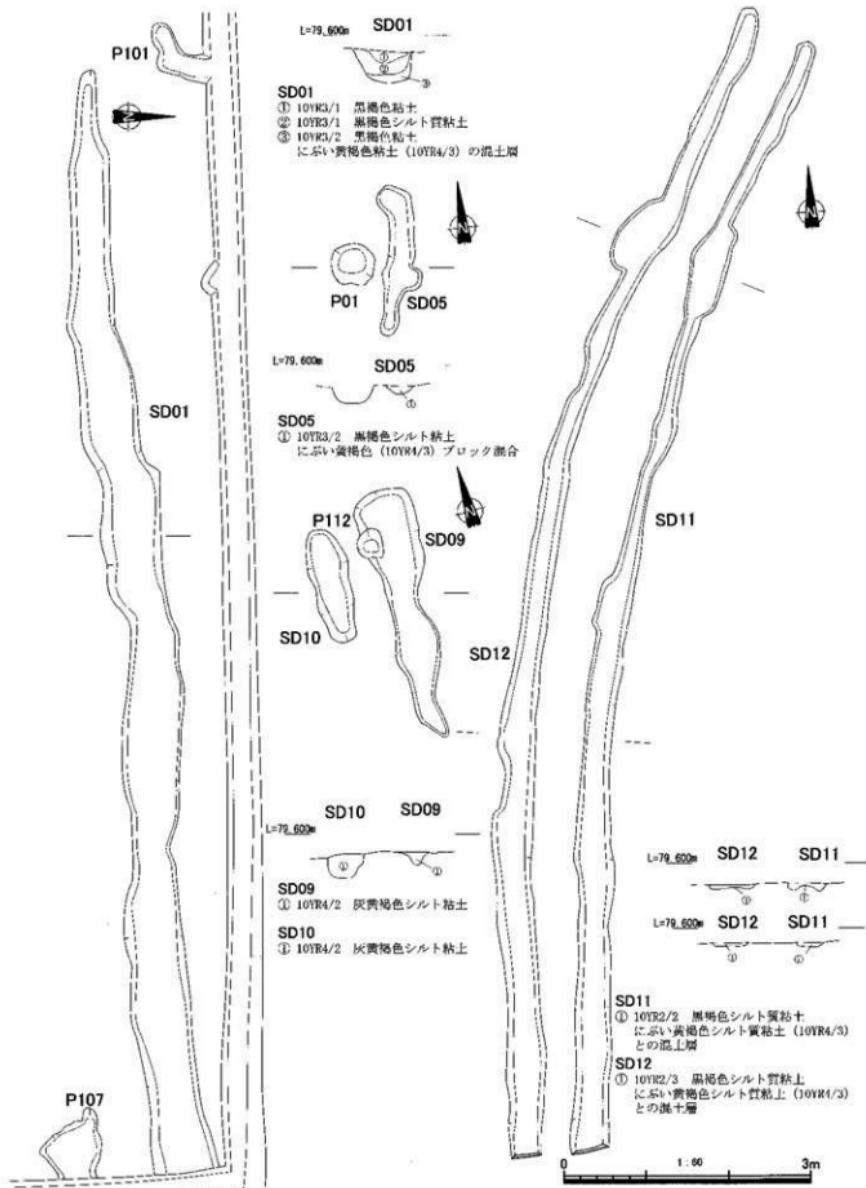
- ① 10YR3/1 黒褐色粘土
しまりあり
- ② 10YR2/2 黑褐色粘土
しまりあり
- ③ 10YR2/2 黑褐色粘土
しまりあり
- ④ 10YR3/2 黑褐色粘土
にぶい黄褐色シルト(10YR5/4)粒混入
しまりあり

P75

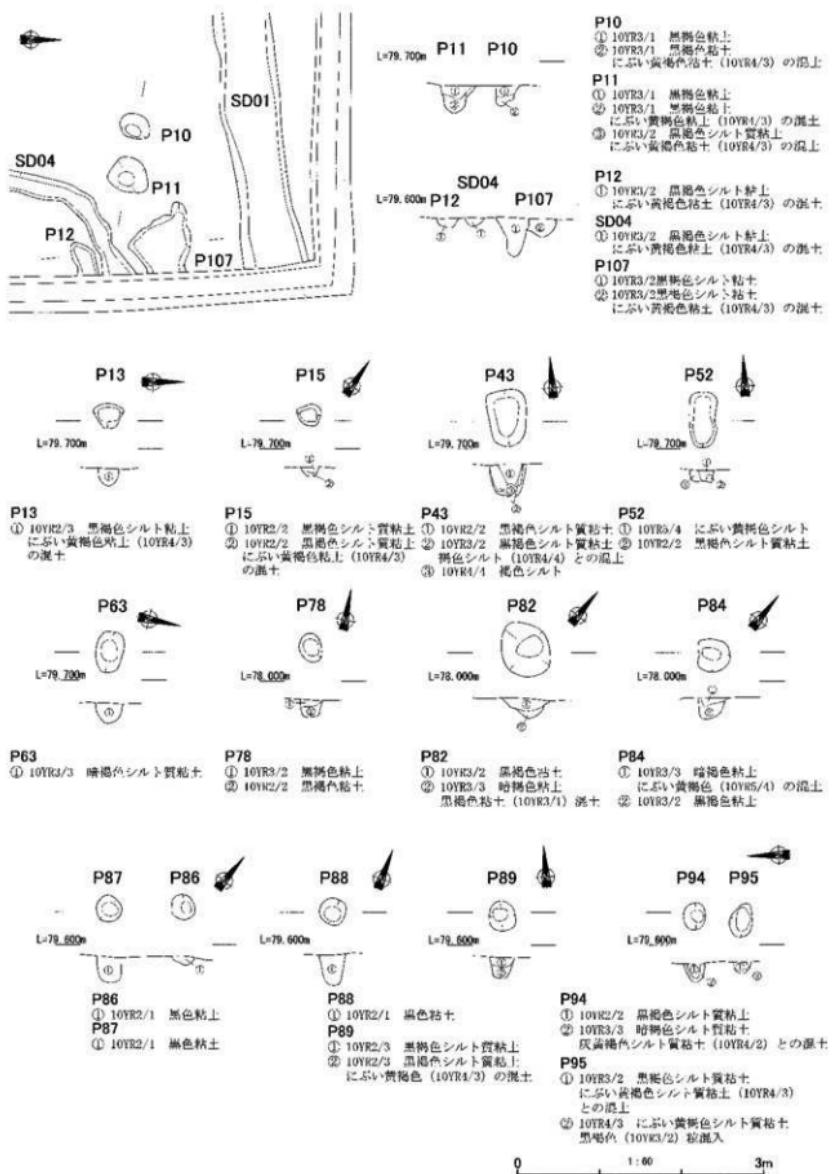
- ① 10YR3/3 黄褐色シルト質粘土
しまりあり



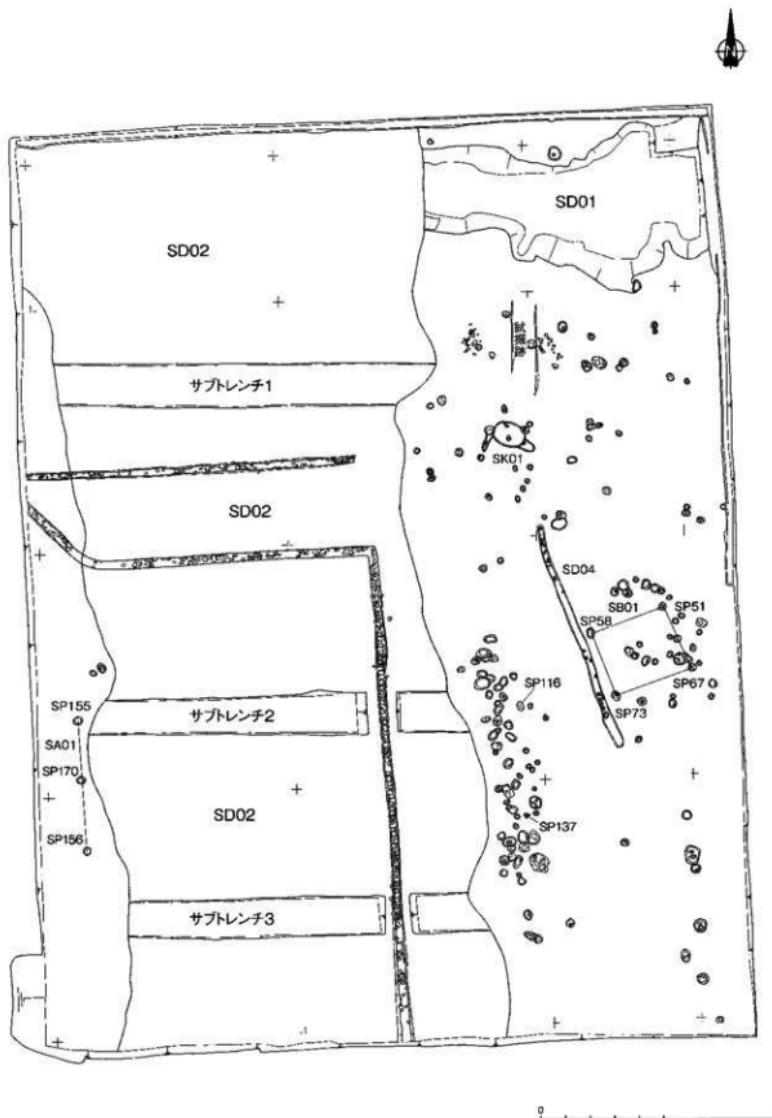
第39図 高畠遺跡3地区の遺構 (3) (S=1:60)



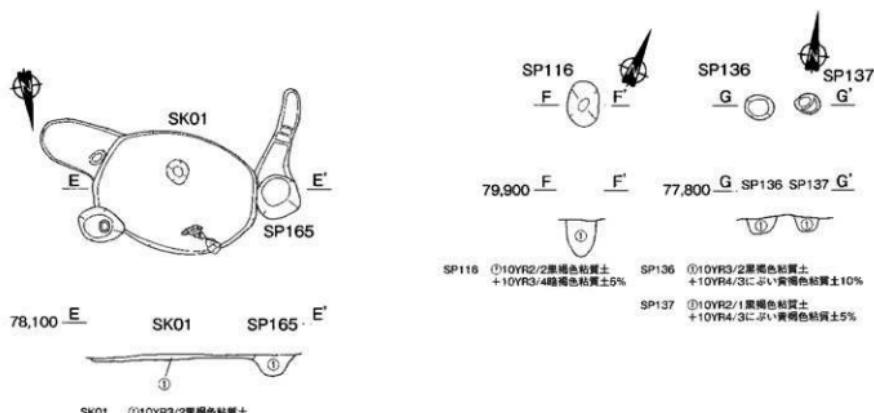
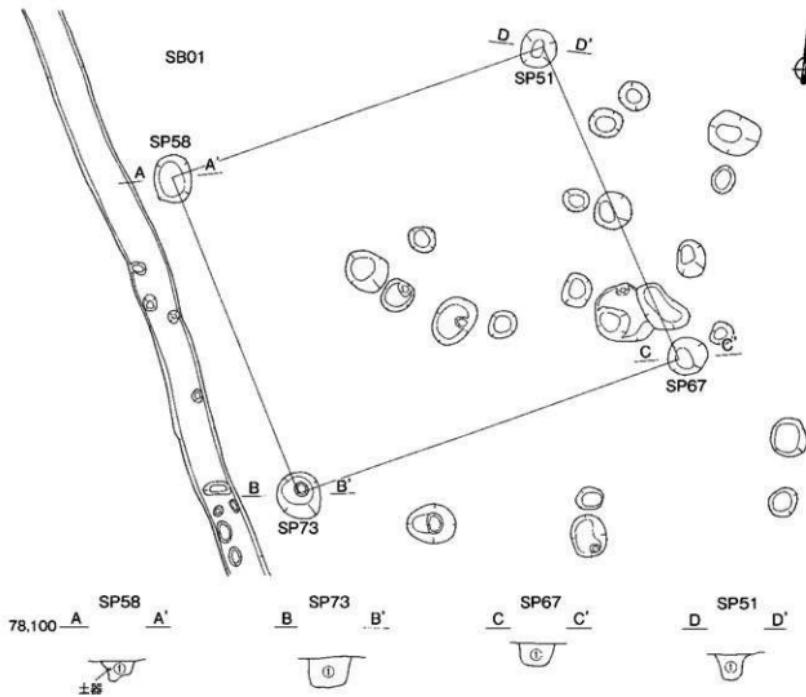
第40図 高畠遺跡3地区の遺構(4) (S=1:60)



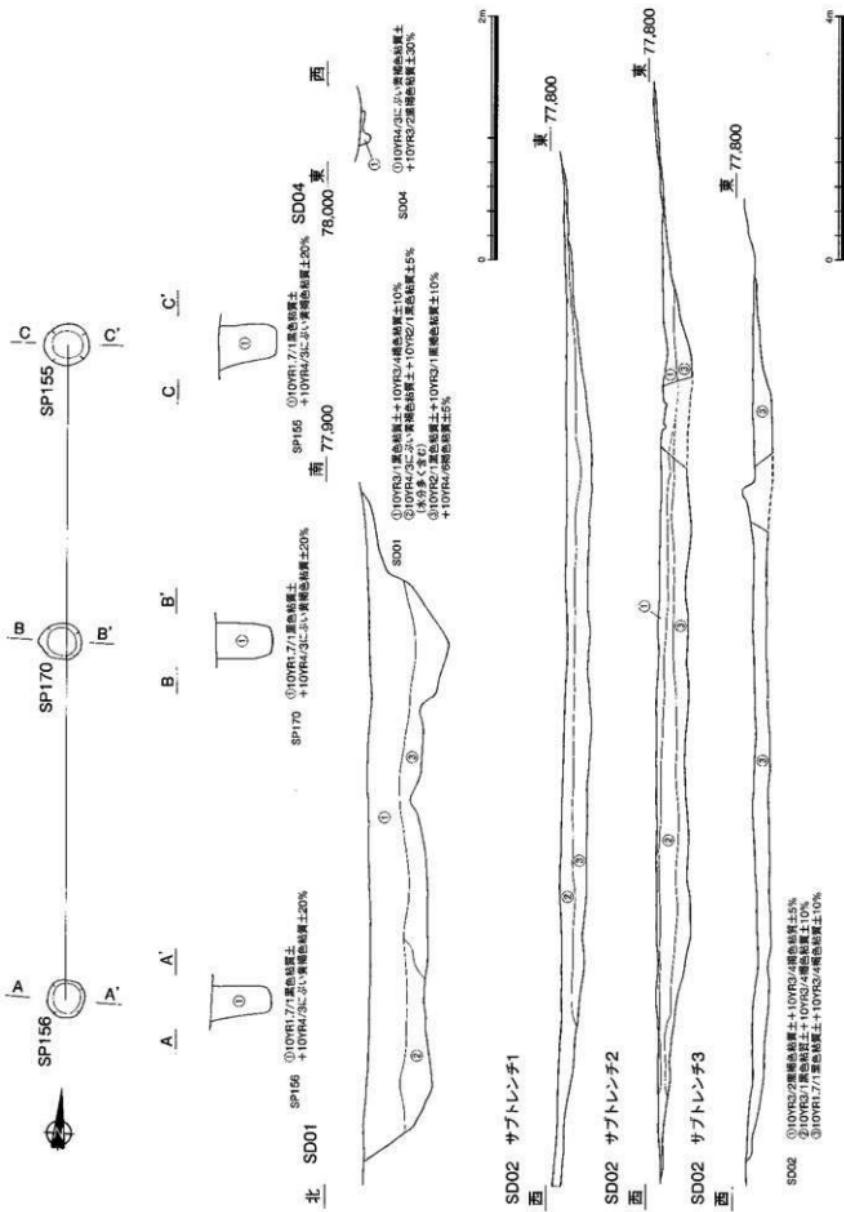
第41図 高畠遺跡3地区の遺構(5) (S=1:60)



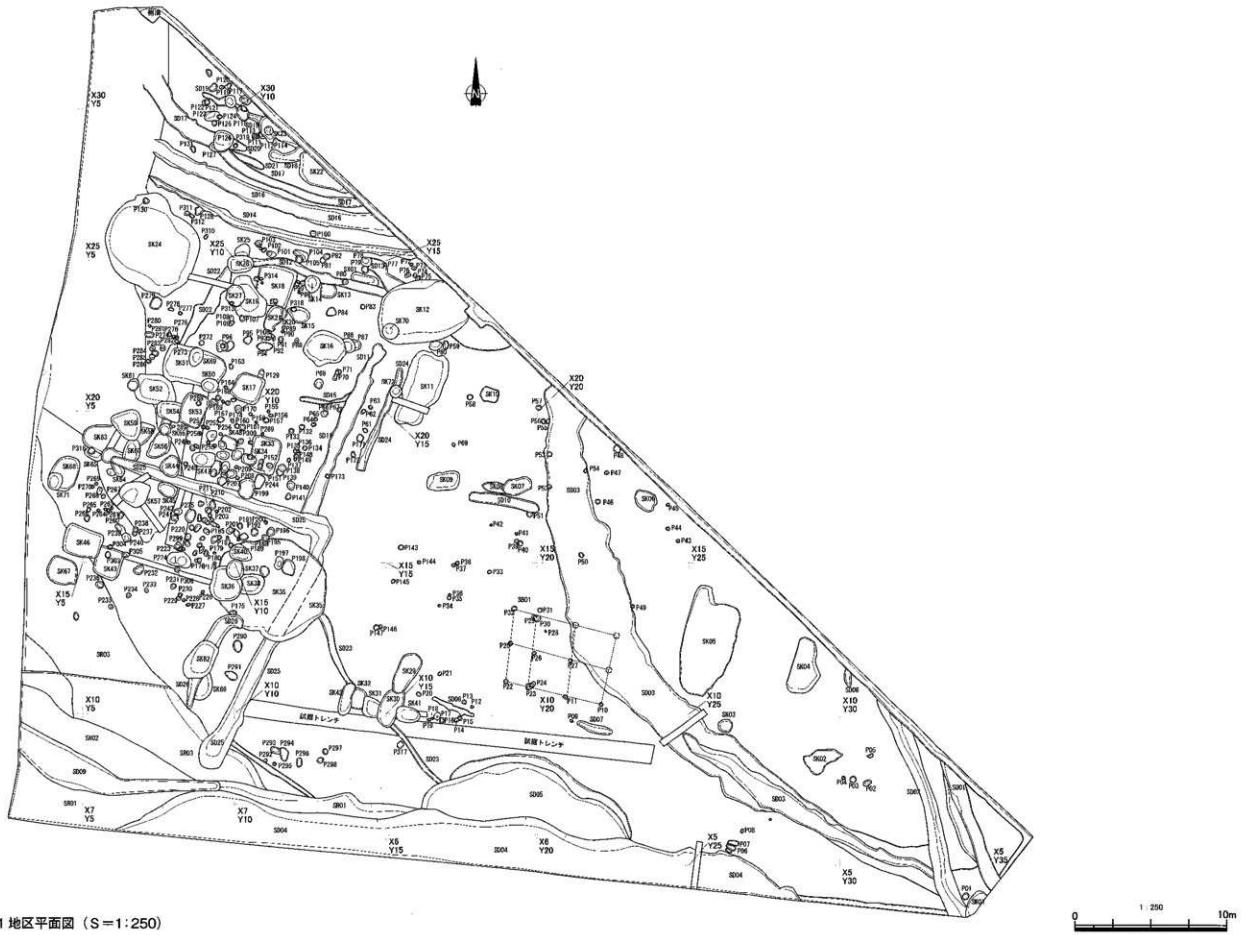
第42図 高畠遺跡4地区平面図 (S=1/200)



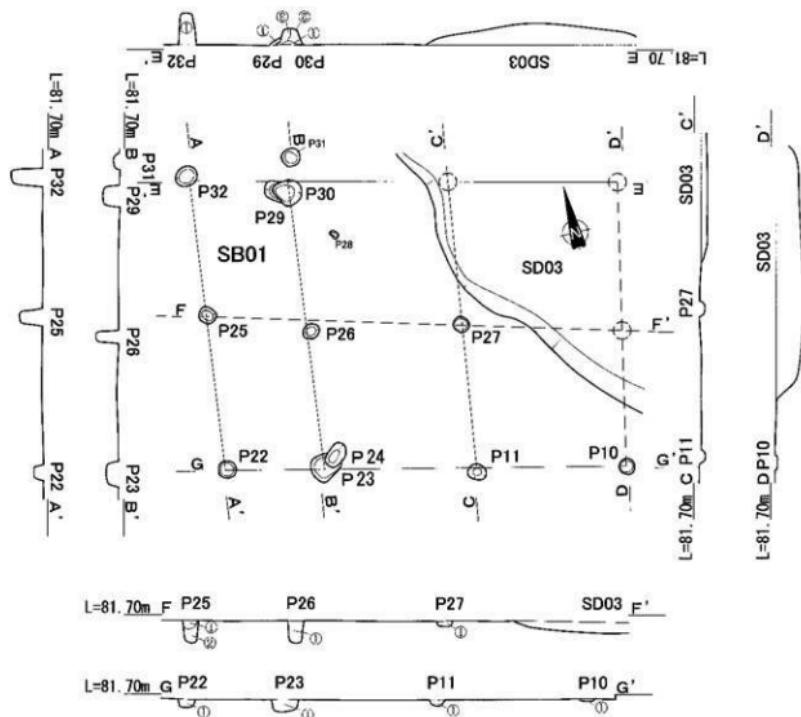
第43図 高畠遺跡4地区の遺構(1) (S=1/40)



第44図 高畠遺跡4地区の遺構(2) (S=1/40,1/80)



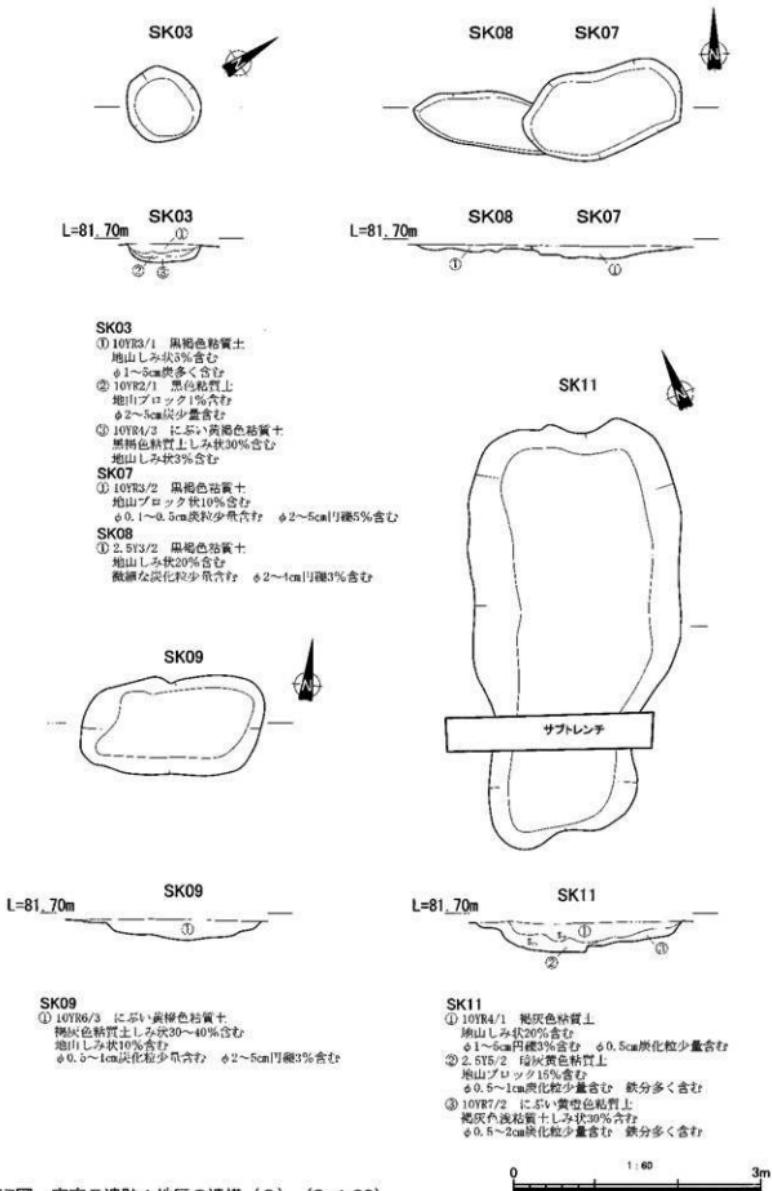
第45図 宗守II遺跡1地区平面図 (S=1:250)



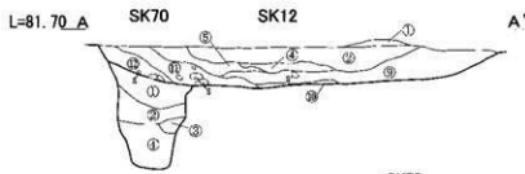
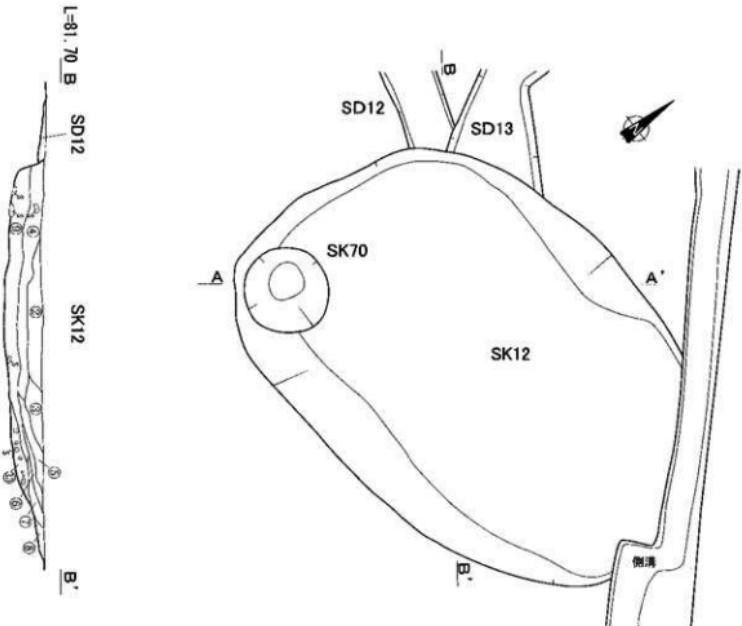
- P10 ① 10VR4/1 桜灰色粘質土
地山しみ状20%含む
♂ 0.1cm炭化粒少含む
- P11 ① 10VR3/1 黒褐色粘質土
地山しみ状15%含む
♂ 0.1cm炭化粒少量含む
- P22 ① 10VS4/4 に5cm灰褐色粘質土
黒褐色粘質上に5cm50%含む
♂ 0.1~0.5cm炭化粒少量含む
- P23 ② 5Y4/4 オリーブ褐色粘質土
他灰色粘質土ブロック40%含む 数分含む
- P25 ① 10VR3/1 黑褐色粘質土
地山ブロック10%含む
② 5Y3/1 オリーブ黑色粘質土
灰黄色粘質土・地山ブロック30%含む
炭化粒少量含む

- P26 ① 10VR3/1 黑褐色粘質土
地山ブロック30%含む
- P27 ① 10VR3/1 黑褐色粘質土
地山ブロック30%含む
微細な炭化粒少含む
- P29 ② 5Y4/4 黄褐色粘質土
地山ブロック5%含む
- P30 ① 10VR3/1 黑褐色粘質土
地山しみ状15%含む
② 10VR5/1 に5cm黄褐色粘質土
黑褐色粘質土しみ状30%含む
♂ 0.1~0.5cm炭化粒少量含む
③ 2.5YR5/4 黄褐色粘質土
地山ブロック3%含む
- P32 ① 10VR6/1 に5cm黄褐色粘質土
黑褐色粘質土しみ状30%含む
♂ 0.1~0.5cm炭化粒少量含む

第46図 宗守II遺跡1地区の構造(1) (S=1:80)



第47図 宗守II遺跡1地区の構造(2) (S=1:60)



SK12

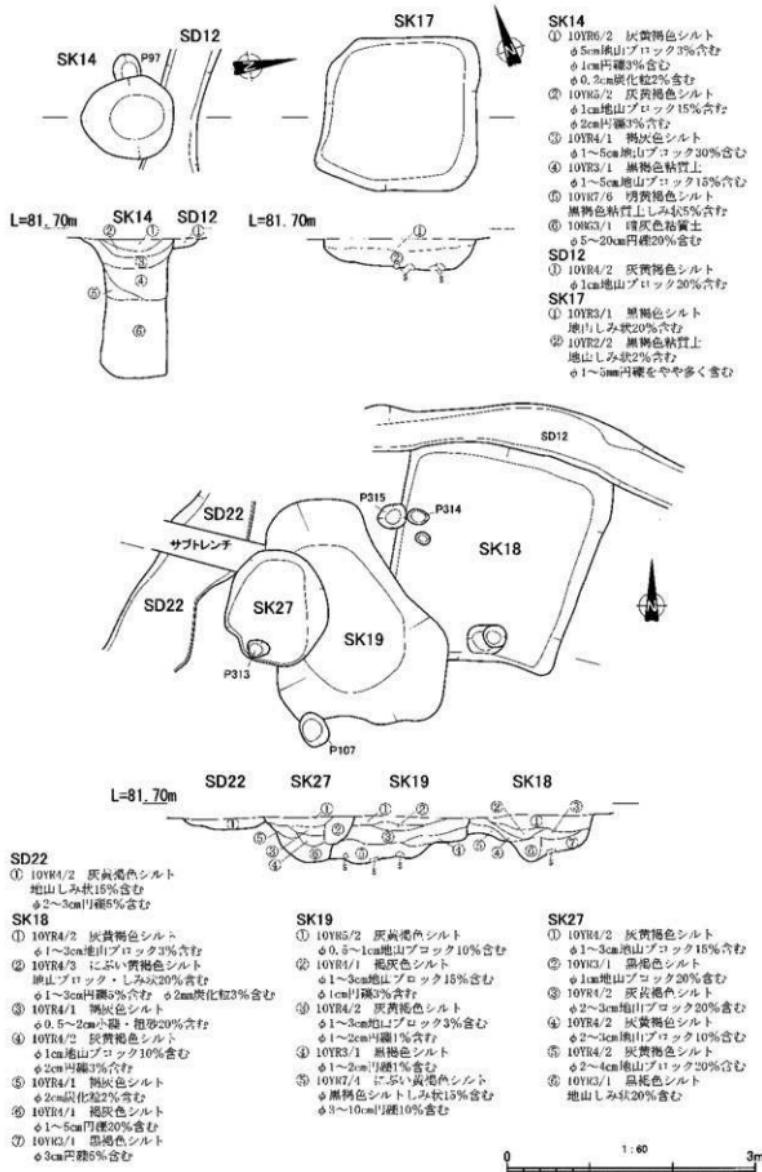
- ① 10TR5/2 灰黄褐色シルト
φ 0.5~1cm地山ブロック2%含む
φ 0.2cm炭化粒2%含む
- ② 10TR4/2 灰黄褐色シルト
φ 1~3cm地山ブロック15%含む
φ 0.1cm炭化粒1%含む
- ③ 10TR4/1 暗灰色シルト
φ 1cm地山ブロック3%含む
φ 2~3cm円礫3%含む
- ④ 10TR4/1 暗灰色シルト
φ 1~3cm地山ブロック15%含む
φ 2~4cm円礫3%含む
- ⑤ 10TR5/1 暗灰色シルト
φ 0.1cm地山ブロックに2%含む
- ⑥ 10TR5/2 灰黄褐色シルト
地山にみ5%含む
- ⑦ 10TR6/2 灰黄褐色粘質土
φ 0.1cm炭化粒1%含む

SK70

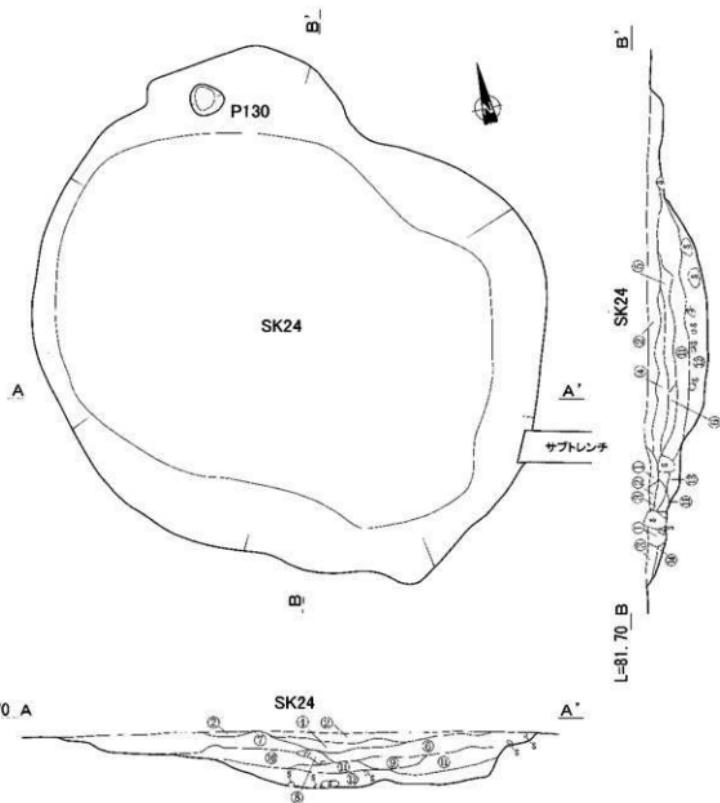
- ⑧ 10TR3/1 黒褐色シルト
φ 1cm地山ブロック5%含む
φ 0.2cm炭化粒2%含む
- ⑨ 10TR4/1 暗灰色粘質土
φ 1~10cm円礫5%含む
- ⑩ 10TR6/1 ぶい 黄褐色粘質土
φ 1~3cm地山ブロック80%
褐色シルト20%含む
- ⑪ 10TR5/4 暗黄褐色砂質土
粗砂・砂利50%含む
- ⑫ 10TR4/2 灰黄褐色粘質土
粗砂・砂利50%含む
- ⑬ 10TR4/2 灰黄褐色シルト
φ 2~3cm地山ブロック10%含む
φ 2~10cm円礫30%含む
- ⑭ 10TR4/1 暗灰色シルト
砂5%含む
φ 2~5cm円礫10%含む
φ 0.2cm炭化粒2%含む

0 1:60 3m

第48図 宗守Ⅱ遺跡1地区の構造(3) (S=1:60)



第49図 宗守2遺跡1地区の遺構(4) (S=1:60)

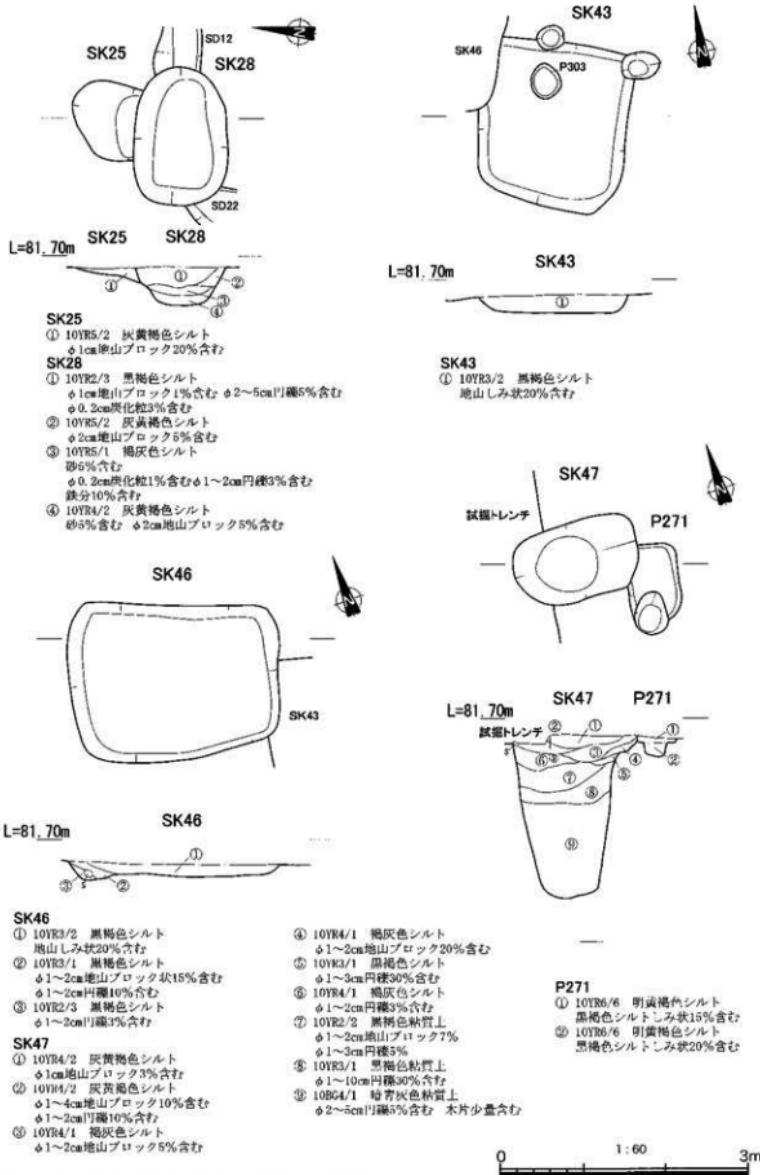


SK24

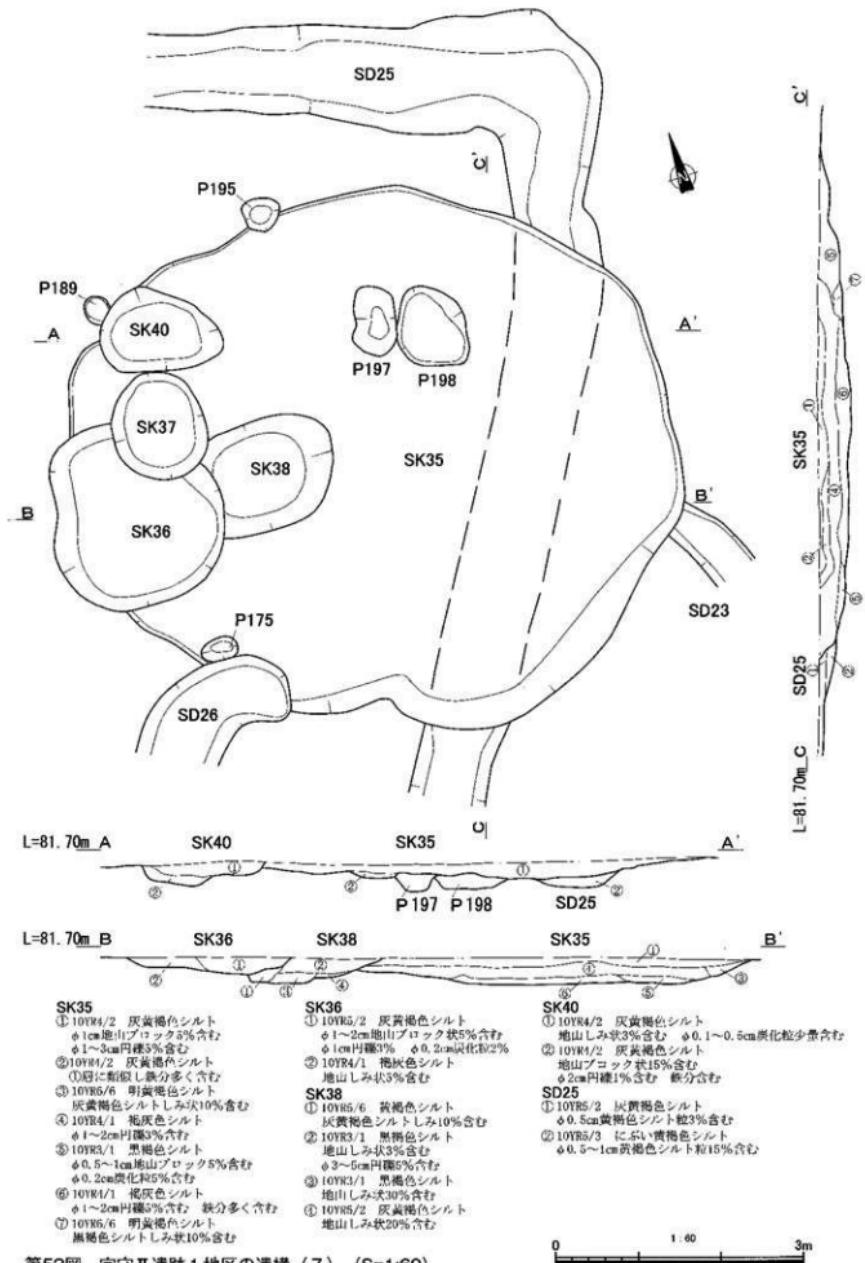
- | | |
|--|--|
| ① 10YR3/1 黒褐色シルト
φ2~5cm円錐10%含む 一部大型礫含む | ⑤ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ3~5cm円錐5%含む |
| ② 10YR5/1 深灰色シルト
φ1cm地山ブロック1%含む
φ1cm円錐3%含む φ0.2~0.3cm炭化粒2%含む | ⑥ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ1~2cm円錐2%含む |
| ③ 10YR6/8 明黄色褐色シルト
褐色シルトしみ状2%含む | ⑦ 10YR4/1 暗灰色シルト
地山しみ次1%含む 粒分5%含む |
| ④ 10YR5/1 暗灰色シルト
φ1~2cm地山ブロック3%含む | ⑧ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ5mm~2cmの円錐3%含む φ0.2cm炭化粒2% |
| ⑨ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ1~2cm黄褐色シルトブロック10%含む | ⑩ 10YR4/1 暗灰色粘土
φ3~20cm円錐7%含む 粒分10%含む |
| ⑩ 10YR4/2 暗灰色シルト
暗褐色シルトブロック3%含む | ⑪ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ1~3cm地山ブロック5%含む φ2cm炭化粒2%含む |
| ⑪ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ1~3cm円錐3%含む | ⑫ 10YR4/1 暗灰色シルト
φ1~2cm円錐2%含む φ3mm炭化粒2%含む |

第50図 宗守Ⅱ遺跡1地区の構造(5) (S=1:60)

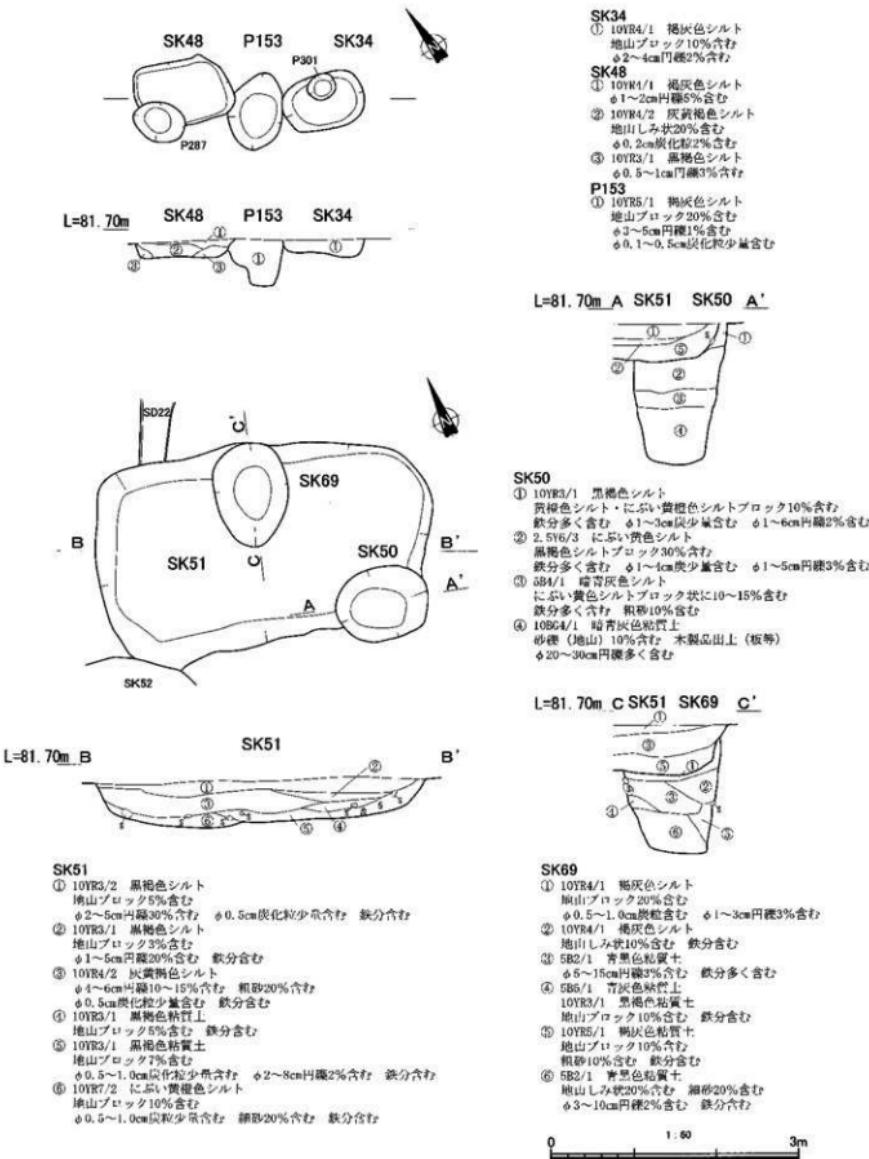
0 1:60 3m



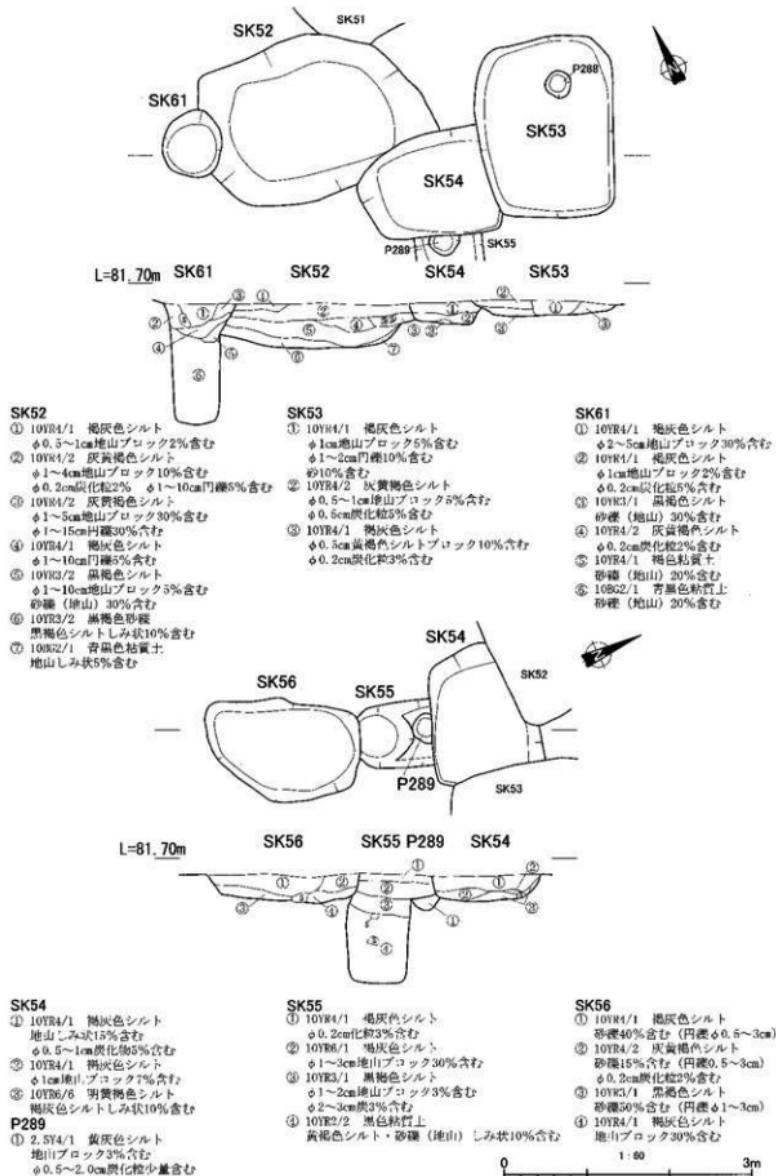
第51図 宗守II遺跡1地区の遺構(6) (S=1:60)



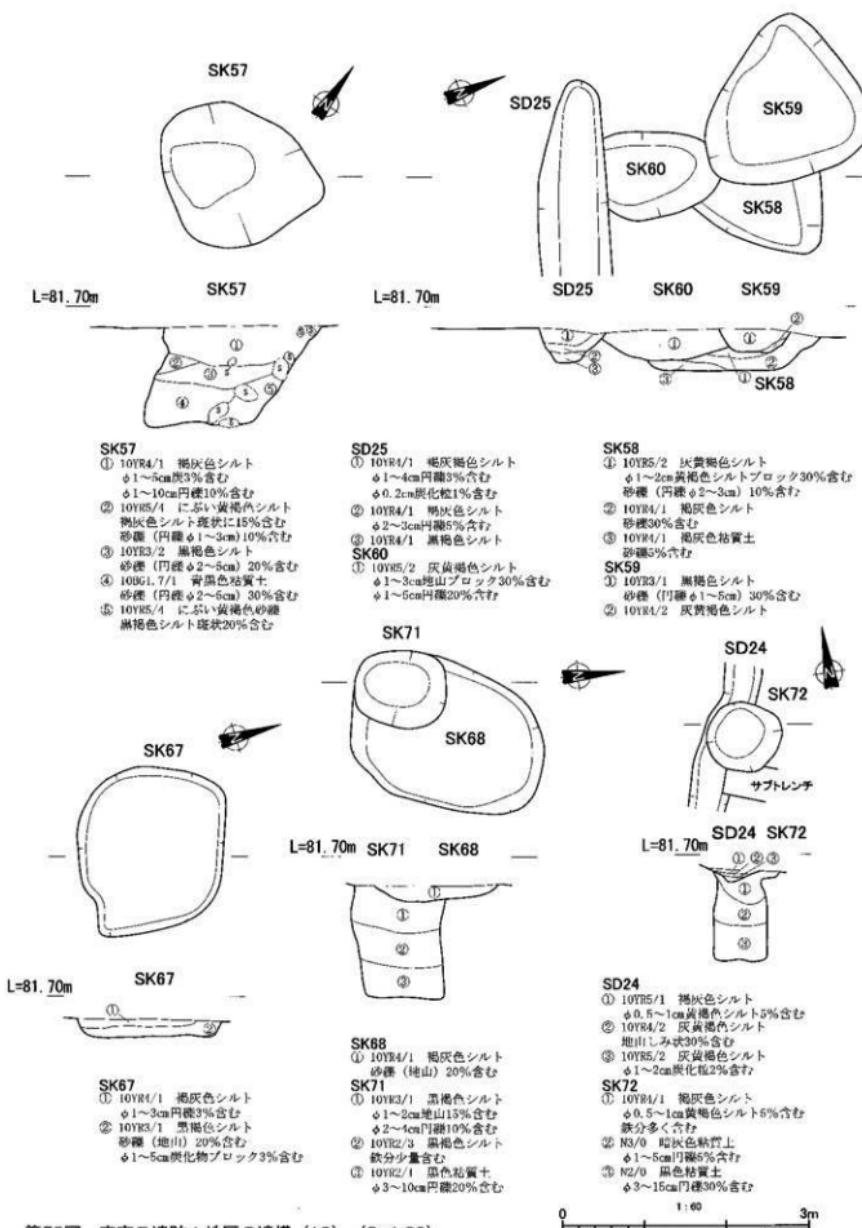
第52図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構(7) (S=1:60)



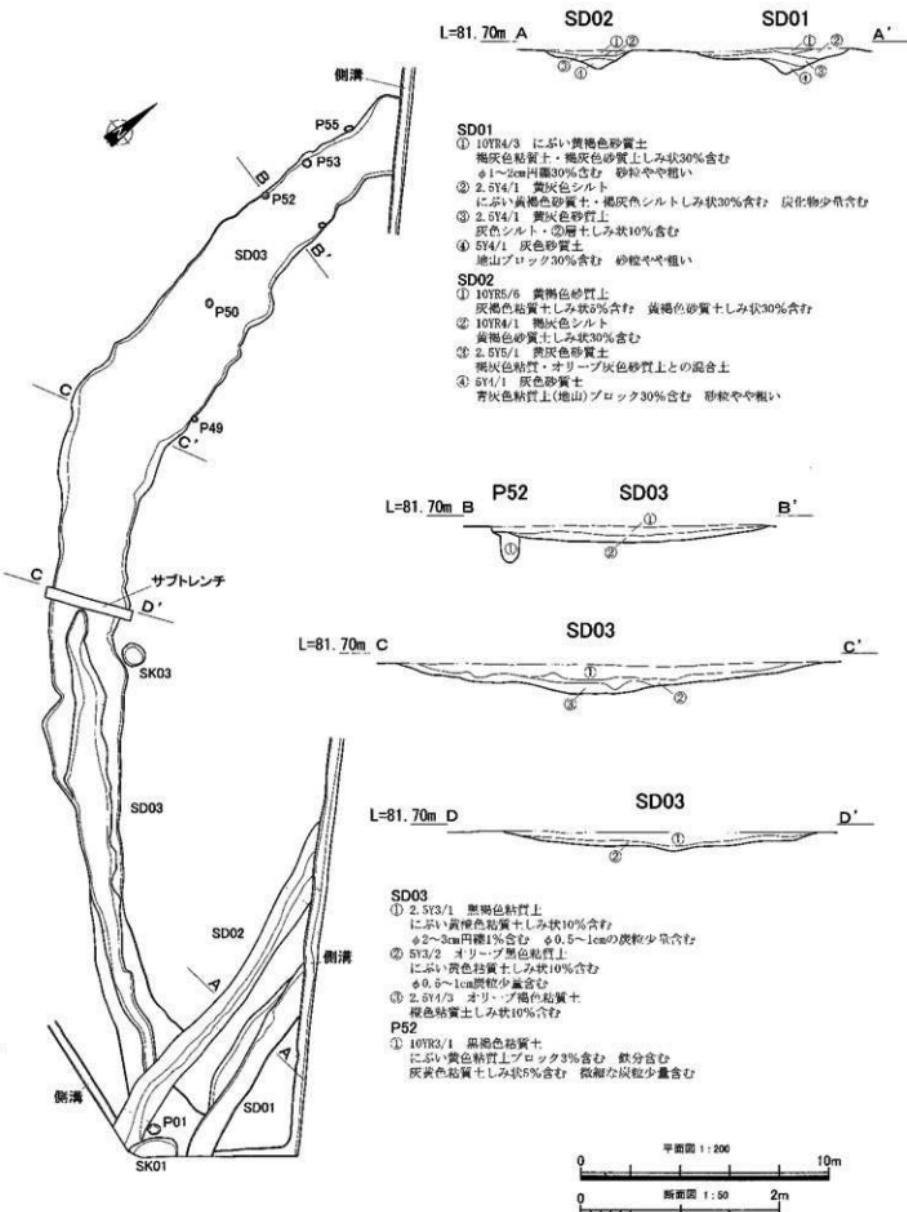
第53図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構（8）（S=1:60）



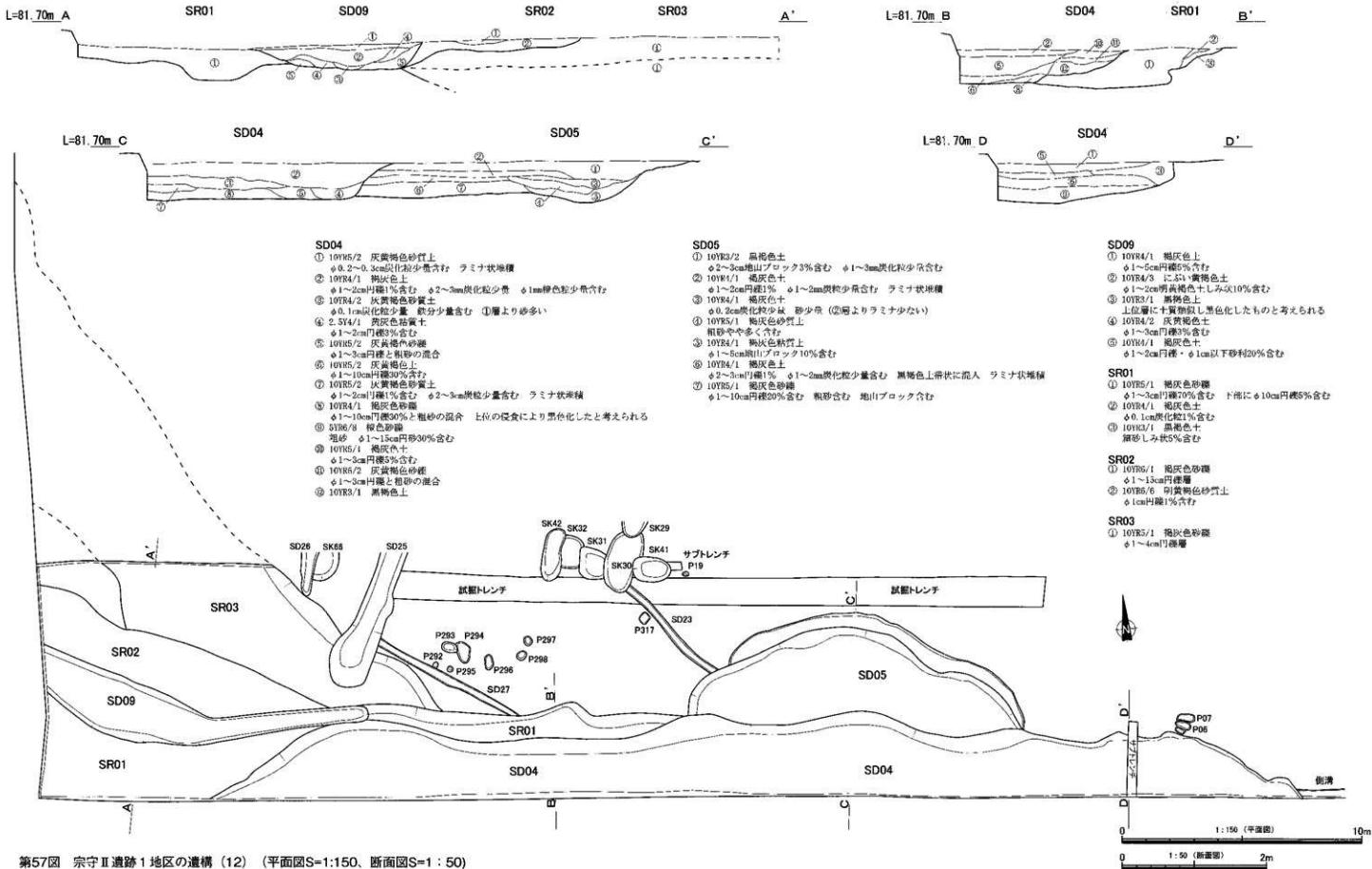
第54図 宗守II遺跡1地区の遺構(9) (S=1:60)



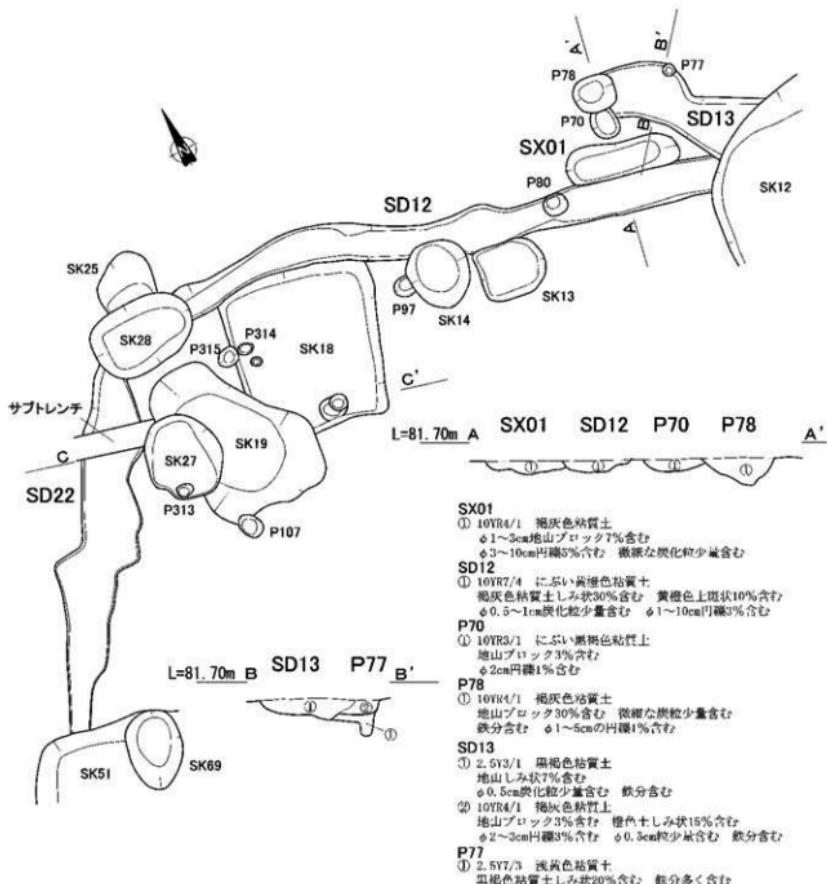
第55図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構 (10) (S=1:60)



第56図 宗守II遺跡1地区の遺構 (11) (平面図 S=1:200、断面図 S=1:50)



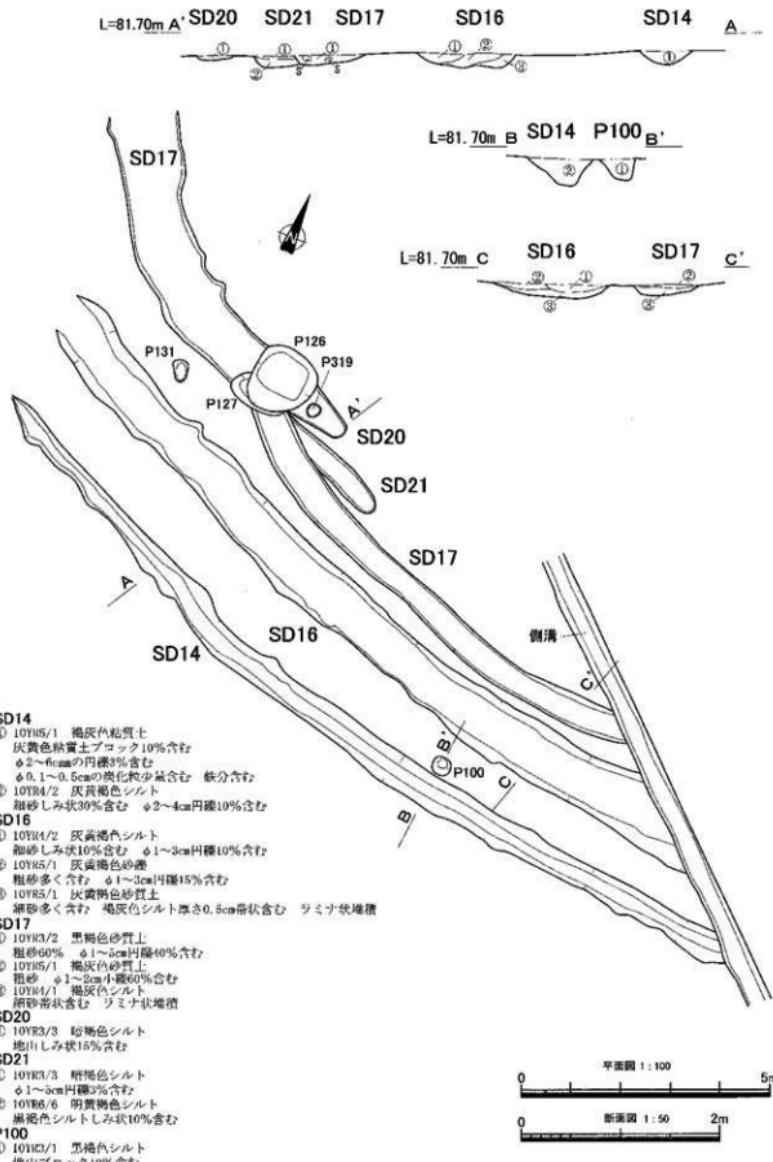
第57図 宗守II遺跡1地区の遺構(12) (平面図S=1:150、断面図S=1:50)



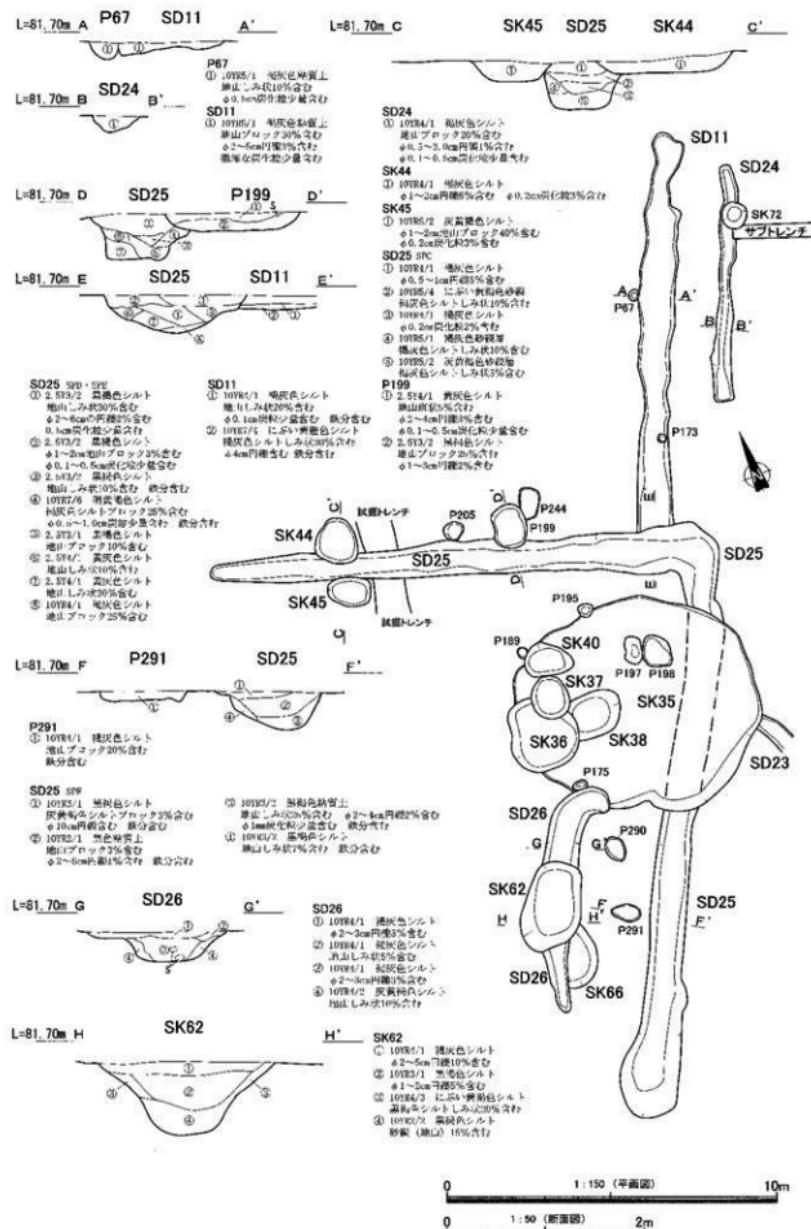
SD22
 ① 10YR4/2 灰黄褐色シルト
 地山しみ状15%含む Ⓜ 2~3cm円礫5%含む

0 平面図 1:80 4m
 0 断面図 1:40 2m

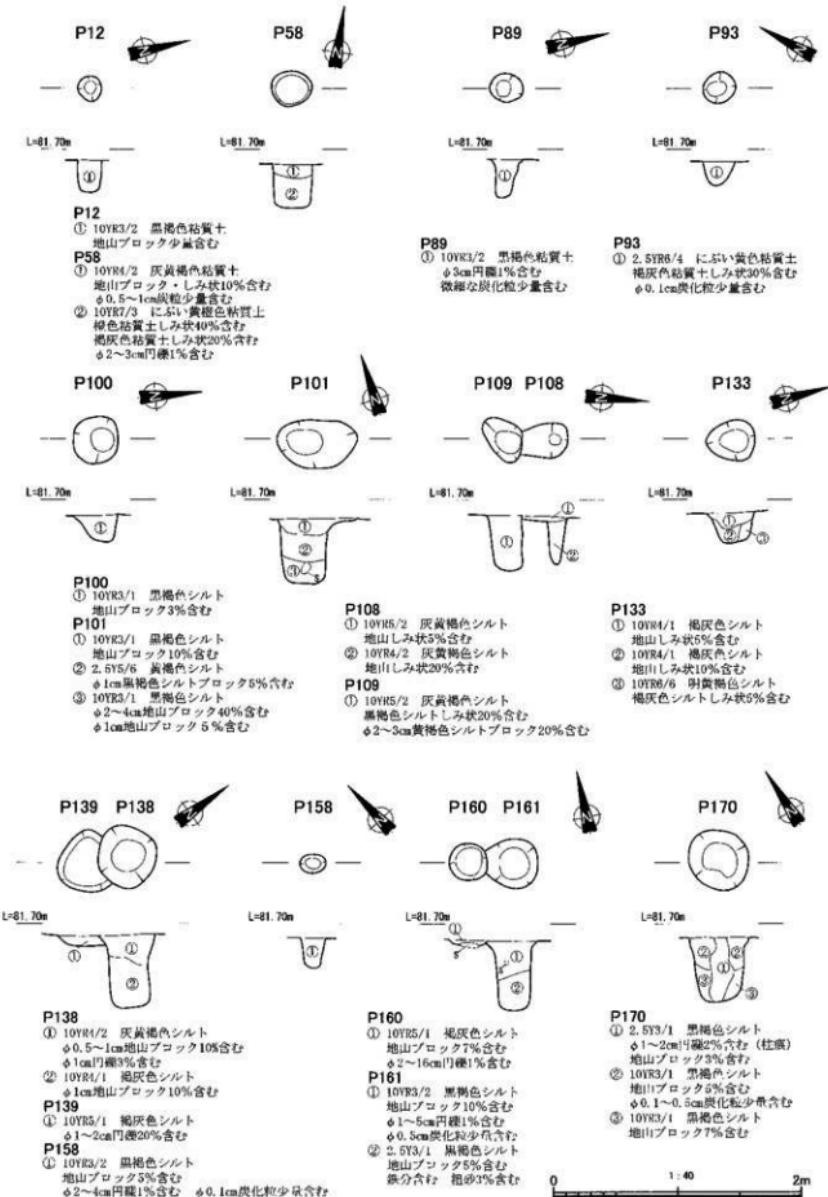
第58図 宗守II遺跡1地区の遺構(13) (平面図 S=1:80、断面図 1=40)



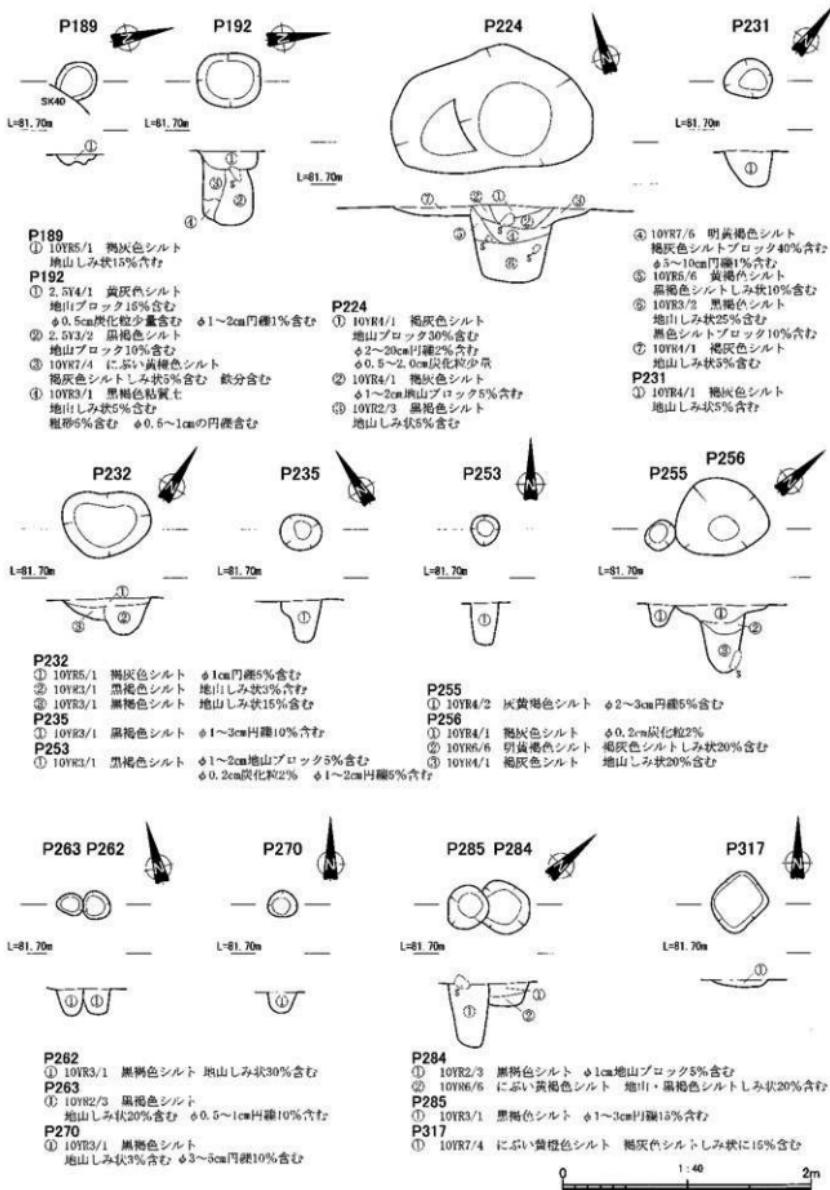
第59図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構(14) (平面図 S=1:100、断面図 S=1:50)



第60図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構 (15) (平面図 S=1:150、断面図S=1:50)



第61図 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構(16) (S=1:40)



第62図 宗守II遺跡1地区の遺構(17) (S=1:40)

第3表 宗守II遺跡1地区 据立柱建物一覧

図版番号	遺構番号	地 区		建 物 方 向		間 数		床 面 積 (m)	
		X10~13, Y19~22		N-76°W		2×3間		32	
		柱 (m)		梁 (m)		柱穴規格 (平均値) (m)			
		長 さ	柱 間	長 さ	柱 間	直 径	深 さ	備 考	
46	SB01	6.7	1.5~2.4	4.78	2.2~2.5	0.3	0.24		

第4表 宗守II遺跡1地区 土坑一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長 さ	幅	深 さ	備 考	
				m	m	m		
	SK01	X3, Y34	楕円形	1.98	(0.79)	0.71	調査区外へ延びる	
	SK02	X8, Y28~29	不定形	2.25	1.16	0.09		
47	SK03	X9, Y26	円形	0.92	0.88	0.22		
	SK04	X10~12, Y28~29	不定形	3.74	1.69	0.17		
	SK05	X11~13, Y26~27	不定形	7.15	3.39	0.19		
	SK06	X16~17, Y23	不定形	1.63	1.31	0.11		
47	SK07	X17, Y18~19	楕円形	1.99	1.01	0.14	SK08を切る	
47	SK08	X17, Y18	楕円形	(1.33)	0.69	0.08	SK07に切られる	
47	SK09	X17, Y16~17	楕円形	2.10	1.12	2.55		
	SK10	X20, Y18	不定形	1.19	0.88	0.09		
47	SK11	X19~21, Y16~17	楕円形	4.92	2.50	0.36		
48	SK12	X22~24, Y14~17	楕円形	5.73	4.16	0.50	SK70に切られる、調査区外へ延びる	
	SK13	X24, Y13	楕円形	1.05	0.92	0.25	SD12を切る	
49	SK14	X24, Y12	円形	1.13	1.02	1.70	P97・SD12を切る	
	SK15	X23, Y12	不定形	1.52	1.02	0.26	P318に切られる	
	SK16	X22, Y13	不定形	2.82	2.30	0.40	P86を切る	
49	SK17	X20~21, Y10	隅丸方形	1.88	1.82	0.39	P129を切る	
49	SK18	X24, Y11	隅丸方形	2.66	2.37	0.57	SD12・P315・SK19に切られる、SK20・SK21を切る 調査区外へ延びる	
49	SK19	X23, Y10	楕円形	2.95	1.79	0.58	SK27・P107に切られる、SK18を切る	
	SK20	X23, Y11	不定形	(0.31)	(0.26)	0.21	SK18・SK21に切られる	
	SK21	X23, Y11	不定形	1.74	1.02	0.22	SK18に切られる、SK20を切る	
	SK22	X27, Y12	不定形	3.94	(1.47)	0.14	SD18を切る、調査区外へ延びる	
	SK23	X29, Y11	不定形	(3.03)	(1.08)	0.46	SD18に切られる、SD19・P113を切る 調査区外へ延びる	
50	SK24	X23~27, Y5~8	円形	6.24	5.27	0.68		
50	SK25	X24~25, Y9~10	楕円形	(0.79)	0.88	0.15	SK28に切られる	
49	SK27	X23, Y9	楕円形	1.40	1.20	0.55	SK19・SD22を切る	
50	SK28	X24, Y10	楕円形	1.70	1.13	0.47	SD12・SD22・SK25を切る	
	SK29	X11, Y15	円形	2.89	1.25	0.10	SK30を切る	
	SK30	X10, Y15	円形	(2.32)	(1.17)	0.10	SK29に切られる、SD23を切る	
	SK31	X10, Y14	楕円形	1.27	(1.05)	0.25	SK30に切られる、SK32を切る	
	SK32	X10, Y14	不定形	1.35	(0.86)	0.29	SK42に切られる	
	SK33	X18, Y10	隅丸方形	2.41	1.87	0.27	SK34・P289に切られる、P300を切る	
53	SK34	X18~19, Y9~10	楕円形	1.01	0.69	0.21	P153を切る	
52	SK35	X12~15, Y9~12	円形	7.50	6.47	0.33	SD26・SK36・SK40・P195に切られる SD23・SD26を切る	

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ m	幅 m	深さ m	備 考	
52	SK36	X14、Y9	円形	2.33	2.02	0.17	SK37に切られる、SK35・SK38を切る	
	SK37	X14、Y10	楕円形	1.33	1.13	0.39	SK36・SK38を切る	
52	SK38	X14、Y10	楕円形	(1.45)	1.35	0.31	SK36・SK37に切られる	
52	SK40	X15、Y10	楕円形	(1.34)	1.13	0.27	SK35・P189を切る	
	SK41	X9、Y15	隅丸方形	1.58	1.02	0.10	SK30を切る	
	SK42	X10、Y13	楕円形	2.23	0.74	0.30	SK32・SD23を切る	
50	SK43	X14～15、Y5～6	隅丸方形	2.03	1.80	0.23	SK46・P304・P305に切られる	
	SK44	X18、Y7	不定形	1.40	1.27	0.14	SD25を切る	
	SK45	X17、Y7	不定形	1.27	0.93	0.21	SD25を切る	
50	SK46	X15、Y4	隅丸方形	2.51	1.92	0.15	SK43を切る	
50	SK47	X14～15、Y5～6	隅丸方形	1.53	0.94	2.01	P271を切る	
53	SK48	X18～19、Y9～10	楕円形	1.16	0.80	0.18	P287に切られる、P153を切る	
	SK50	X21、Y7～9	円形	1.12	0.90	1.73	SK51に切られる	
53	SK51	X21、Y7～9	隅丸方形	4.03	2.46	0.51	SK50・SK69に切られる、SD22を切る	
54	SK52	X20、Y7	楕円形	2.56	1.98	0.56	SK54・SK61に切られる、SK51を切る	
54	SK53	X20、Y8	隅丸方形	2.21	1.64	0.18	SK54を切る	
51	SK54	X20、Y7	隅丸方形	1.53	1.31	0.26	SK32・53に切られる、P289・SK55を切る	
54	SK55	X19、Y7	楕円形	1.07	0.72	1.34	SK54・56に切られる、P289を切る	
54	SK56	X18、Y7	楕円形	1.86	1.18	0.31	SK55・P289を切る	
55	SK57	X14～15、Y5～6	不定形	2.08	1.69	1.21		
55	SK58	X19、Y6	不定形	(1.52)	1.12	0.46	SK59・SK60に切られる	
55	SK59	X19、Y6	楕円形	2.04	1.67	0.27	SK58・SK60を切る	
55	SK60	X18、Y6	楕円形	(1.30)	1.07	0.37	SK59・SD25に切られる、SK58を切る	
54	SK61	X20、Y6	円形	0.95	0.85	1.48	SK52を切る	
60	SK62	X11、Y8	不定形	2.83	1.64	0.66	SD26・SK66を切る	
	SK63	X19、Y5	楕円形	(1.80)	1.93	0.23	SK59・P316に切られる、SK65を切る	
	SK64	X18、Y6	楕円形	(1.13)	0.61	0.16	SD25に切られる	
	SK65	X18、Y5	円形	1.24	0.61	0.19	SK63に切られる、P316を切る	
	SK66	X10、Y8	楕円形	(1.45)	(0.99)	0.22	SK62・SD26に切られる	
55	SK67	X15、Y4	不定形	2.05	1.76	0.21		
55	SK68	X17、Y4	楕円形	2.40	1.74	0.18	SK71を切る	
53	SK69	X21、Y8	楕円形	1.28	0.87	1.57	SK51に切られる	
48	SK70	X22、Y15	円形	1.04	1.12	1.10	SK12に切られる	
55	SK71	X17、Y4	楕円形	1.13	0.94	1.36	SK68に切られる	
55	SK72	X20、Y15	円形	0.84	0.77	1.10	SD24に切られる	

第5表 宗守II遺跡1地区 溝一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	主 軸	長さ m	幅 m	深さ m	備 考	
56	SD01	X3～9、Y31～34	直線	N-20°W	(7.92)	0.82	0.20	調査区外へ延びる	
56	SD02	X3～9、Y31～33	直線	N-20°W	(14.07)	0.88	0.22	調査区外へ延びる	
56	SD03	X4～20、Y20～32	弧状	N-38°W	(43.19)	3.14	0.30	P49・P53・P54・SD02に切られる、P55と重なる	
57	SD04	X4～6、Y6～28	直線	N-84°W	(45.14)	2.98	0.55	SD09に切られる、SR01・SD05・を切る	
57	SD05	X6～7、Y16～22	弧状	N-82°W	(13.37)	3.53	0.57	SD04に切られる、SD23を切る	
	SD06	X11、Y30	不定形	N-1°W	(1.03)	0.44	0.09	調査区外へ延びる	
	SD07	X9、Y21～22	直線	N-74°W	2.41	0.55	0.13		
	SD08	X10、Y16～17	直線	N-66°W	2.99	0.43	0.04		

図版番号	遺構番号	地 区	平 面 形	主 軸	長 さ		幅	深 さ	備 考
					m	m			
57	SD09	X7~9、Y3~9	直線	N-76°W	(13.97)	1.40	0.35	SR01を切る。調査区外へ延びる	
49-58	SD12	X22~24、Y8~14	直線	N-77°W	(9.08)	0.56	0.12	SK12~SK14・P80・SX01・SD13に切られる	
					0.00	0.00	0.00	SK18・P106を切る	
58	SD13	X24、Y14~15	不定形	N-44°W	(2.29)	0.69	0.15	P78・P79に切られる。SK12・SD12を切る	
59	SD14	X25~27、Y7~15	直線	N-74°W	(18.44)	0.54	0.11	P128を切る。調査区外へ延びる	
	SD15	X20、Y12~13	不定形	N-89°E	(3.22)	0.36	0.03	SD11に切られる	
59	SD16	X26~28、Y7~15	直線	N-71°W	(16.00)	1.08	0.12		
59	SD17	X26~30、Y7~14	直線	N-59°W	(16.72)	0.70	0.06	P126・P127に切られる。SD21を切る	
					0.00	0.00	0.00	調査区外へ延びる	
	SD18	X28、Y11~12	不定形	N-84°E	(2.46)	0.59	0.11	SK22に切られる。SK23を切る	
					0.00	0.00	0.00	調査区外へ延びる	
	SD19	X29~30、Y9~10	不定形	N-71°W	(4.28)	0.37	0.07	P116・P118・SK23に切られる	
59	SD20	X28、Y9~10	直線	N-67°W	(1.01)	0.58	0.04	P126に切られる	
59	SD21	X28、Y9~10	直線	N-66°W	2.11	0.49	0.05	SD17に切られる	
49-58	SD22	X22~24、Y8~9	直線	N-27°E	(5.86)	0.98	0.14	SK28・SK51に切られる	
	SD23	X7~12、Y13~16	不定形	N-35°W	(13.83)	0.32	0.16	SK30・SK31・SK32・SK35・SK42・SD06に切られる	
55-60	SD24	X18~21、Y14~15	直線	N-22°E	7.28	0.44	0.17	SK72に切られる	
52-55 · 60	SD25	X8~18、Y6~9	L字	N-38°W	32.26	1.17	0.40	SK35・SK44・SK45・P199・P206に切られる	
					0.00	0.00	0.00	SD11・SD27・SK60・SK64・SR04を切る	
60	SD26	X10~13、Y8~9	不定形	N-32°E	7.48	1.07	0.31	SK62に切られる。SK35・SK66を切る	
					0.00	0.00	0.00	P176と重なっている	
	SD27	X7~8、Y10~12	直線	N-55°W	(6.42)	0.40	0.19	SD25・SR01に切られる。P292を切る	

第6表 宗守II遺跡1地区 ピット一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平 面 形	長 さ	幅		深 さ	備 考
					m	m		
	P001	X3、Y34	円形	0.49	0.41	0.75		
	P002	X7、Y30	橢円形	0.40	0.35	0.16		
	P003	X7、Y30	円形	0.42	0.40	0.09		
	P004	X7、Y30	橢円形	0.24	0.20	0.09		
	P005	X8、Y30	不定形	0.38	0.32	0.08		
	P006	X5、Y26	橢円形	0.65	0.32	0.12		
	P007	X5、Y26	橢円形	0.73	0.26	0.07		
	P008	X6、Y26	橢円形	0.42	0.35	0.13		
	P009	X7、Y30	橢円形	0.23	0.14	0.08		
	P010	X10、Y22	円形	0.27	0.25	0.04		
	P011	X10、Y21	円形	0.29	0.21	0.10		
61	P012	X10、Y17	円形	0.20	0.19	0.26		
	P013	X10、Y17	橢円形	0.29	0.26	0.09		
	P014	X9、Y17	橢円形	(0.27)	0.26	0.04	P15に切られる	
	P015	X9、Y17	橢円形	0.31	0.25	0.40	P14を切る	
	P016	X9、Y16	橢円形	0.34	0.26	0.11		
	P017	X9、Y16	橢円形	0.51	0.42	0.46		
	P018	X9、Y16	円形	0.15	0.15	0.31		
	P019	X9、Y16	円形	0.22	0.20	0.19		
	P020	X10、Y16	円形	0.32	0.26	0.36		
	P021	X11、Y16	円形	0.27	0.24	0.25		

図版番号	造構番号	地 区	平面形	長さ			幅	深さ	備 考
				m	m	m			
	P022	X11、Y19	円形	0.28	0.28	0.14			
	P023	X10、Y19	楕円形	(0.28)	0.41	0.20	P24に切られる		
	P024	X10、Y19	楕円形	0.42	0.26	0.42	P23を切る		
	P025	X12、Y19	楕円形	0.27	0.24	0.37			
	P026	X12、Y19	円形	0.29	0.25	0.38			
	P027	X11、Y21	円形	0.25	0.24	0.09			
	P028	X13、Y19	楕円形	0.15	0.09	0.04			
	P029	X13、Y19	楕円形	(0.10)	0.29	0.20	P30に切られる		
	P030	X13、Y19	楕円形	0.47	0.38	0.28	P29を切る		
	P031	X13、Y20	円形	0.29	0.29	0.11			
	P032	X13、Y19	円形	0.37	0.32	0.52			
	P033	X14、Y18	円形	0.26	0.21	0.09			
	P034	X13、Y16	楕円形	0.22	0.17	0.22			
	P035	X13、Y17	楕円形	0.28	0.22	0.13	P36を切る		
	P036	X13、Y17	楕円形	(0.13)	0.16	0.14	P35に切られる		
	P037	X14、Y17	円形	0.24	0.24	0.39			
	P038	X14、Y17	円形	0.26	0.26	0.29			
	P039	X15、Y19	円形	0.28	0.26	0.19			
	P040	X15、Y19	円形	0.35	0.31	0.20			
	P041	X15、Y19	円形	0.19	0.19	0.38			
	P042	X16、Y18	円形	0.15	0.13	0.25			
	P043	X15、Y24	円形	0.24	0.22	0.11			
	P044	X16、Y24	楕円形	0.28	0.21	0.09			
	P045	X14、Y24	楕円形	0.24	0.17	0.06			
	P046	X17、Y22	円形	0.33	0.32	0.29			
	P047	X18、Y22	円形	0.28	0.26	0.13			
	P048	X18、Y22	楕円形	0.49	(0.43)	0.35	調査区外に延びる		
	P049	X13、Y23	楕円形	0.26	0.21	0.23			
	P050	X15、Y21	円形	0.34	0.28	0.30			
	P051	X16、Y19	楕円形	0.38	(0.30)	0.52	SD10に切られる		
56	P052	X17、Y20	円形	0.27	0.26	0.37	SD03を切る		
	P053	X18、Y20	円形	0.35	0.32	0.17	SD03に切られる		
	P054	X18、Y21	円形	0.26	0.20	0.10	SD03に切られる		
	P055	X19、Y20	楕円形	0.34	0.22	0.26	SD03に切られる		
	P056	X19、Y20	楕円形	0.33	0.28	0.28			
	P057	X20、Y20	楕円形	0.37	0.31	0.31			
61	P058	X20、Y17	円形	0.32	0.29	0.35			
	P059	X22、Y16	楕円形	0.55	0.36	0.21			
	P060	X22、Y16	楕円形	0.87	0.62	0.24			
	P061	X19、Y14	楕円形	0.36	0.26	0.12			
	P062	X20、Y14	楕円形	0.36	0.23	0.04			
	P063	X20、Y14	楕円形	0.27	0.24	0.19			
	P064	X19、Y12	楕円形	0.32	0.25	0.39			
	P065	X19、Y12	円形	0.27	0.24	0.28			
	P066	X19、Y12	楕円形	0.46	0.40	0.67			
60	P067	X20、Y13	円形	0.34	(0.28)	0.20	SD11に切られる		
	P068	X20、Y12	円形	0.60	0.57	0.78			
	P069	X18、Y17	楕円形	0.25	0.18	0.05			

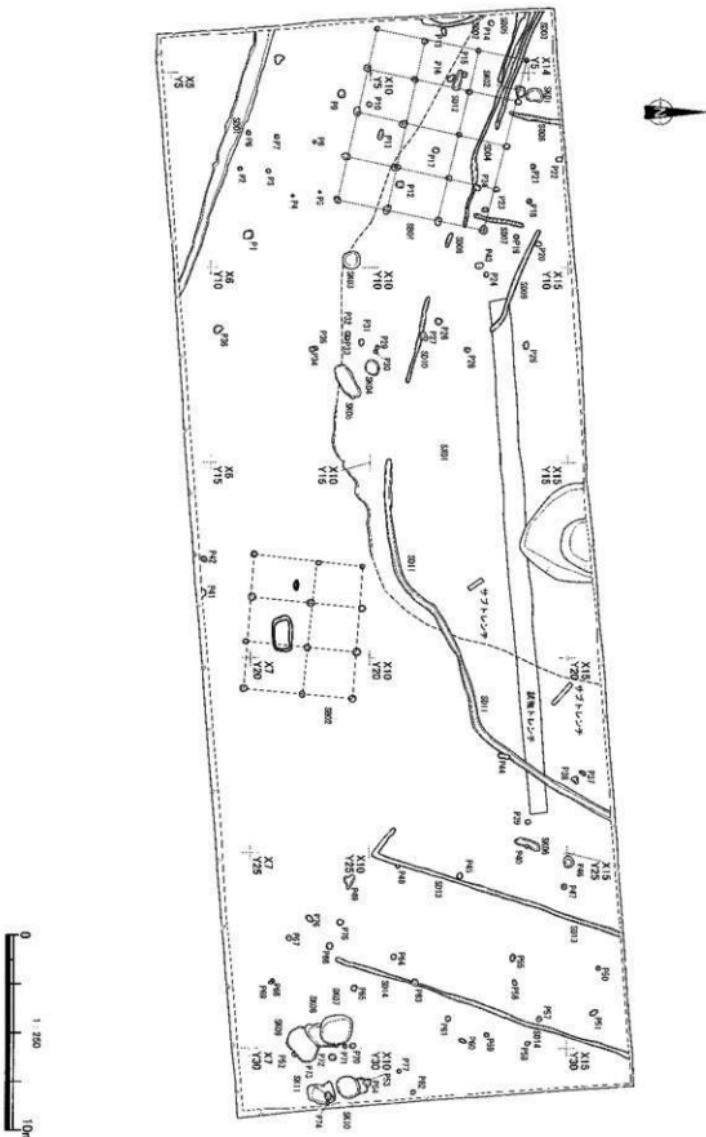
図版番号	設備番号	地 区	平面形	長さ	幅	深さ	備 考
				m	m	m	
58	P070	X21, Y13	楕円形	0.67	0.20	0.15	P71を切る
	P071	X21, Y13	楕円形	0.35	(0.17)	0.58	P70に切られる
	P072	X24, Y15	楕円形	0.23	0.18	0.09	
	P073	X24, Y15	楕円形	0.26	0.26	0.33	
	P074	X24, Y15	楕円形	0.28	0.21	0.14	
	P075	X24, Y16	楕円形	0.37	0.25	0.39	
	P076	X24, Y15	楕円形	0.42	0.25	0.36	
58	P077	X24, Y14	円形	0.20	0.19	0.38	SD13を切る
58	P078	X24, Y14	楕円形	0.69	0.59	0.26	SD13, P79を切る
	P079	X24, Y14	楕円形	(0.46)	0.43	0.11	SD13を切る、P78に切られる
	P080	X24, Y13	楕円形	0.37	0.35	0.19	SD12を切る
	P081	X25, Y12	楕円形	0.36	(0.33)	0.14	P82に切られる
	P082	X25, Y13	楕円形	0.46	0.40	0.14	P81を切る
	P083	X23, Y14	円形	0.31	0.30	0.52	
	P084	X23, Y13	楕円形	0.65	0.54	0.70	
	P086	X22, Y13	楕円形	0.97	(0.64)	0.15	P87を切る、SK16に切られる
	P087	X22, Y14	楕円形	0.77	(0.39)	0.11	P86に切られる
	P088	X22, Y12	楕円形	0.34	0.24	0.15	
61	P089	X22, Y11	円形	0.25	0.23	0.31	
	P090	X22, Y11	円形	0.20	0.18	0.24	
	P091	X22, Y11	楕円形	0.39	0.32	0.42	
61	P092	X22, Y11	楕円形	0.43	0.21	0.19	
61	P093	X22, Y11	円形	0.26	0.23	0.20	
	P094	X22, Y10	楕円形	1.07	0.55	0.10	
	P095	X22, Y10	楕円形	0.59	0.46	0.55	
	P096	X22, Y9	楕円形	0.78	0.78	0.59	
	P097	X24, Y12	楕円形	(0.32)	0.33	0.58	SK14に切られる
	P098	X23, Y12	楕円形	0.18	0.17	0.23	
	P099	X24, Y12	楕円形	0.36	0.27	0.35	
59-61	P100	X25, Y12	円形	0.40	0.37	0.22	
61	P101	X25, Y11	楕円形	0.64	0.39	0.52	
	P102	X25, Y10	楕円形	0.21	0.18	0.26	
	P103	X25, Y10	楕円形	0.49	0.42	0.26	
	P104	X25, Y12	楕円形	1.07	0.32	0.19	P105に切られる
	P105	X25, Y12	楕円形	0.49	(0.48)	0.14	P104を切る、SD12に切られる
	P106	X22, Y11	楕円形	0.19	0.17	0.12	SK21に切られる
	P107	X23, Y10	楕円形	0.44	0.31	0.68	
31	P108	X23, Y9	楕円形	(0.37)	0.28	0.39	P109に切られる
31	P109	X23, Y9	楕円形	0.41	0.27	0.45	P108を切る
	P111	X29, Y10	楕円形	0.36	0.25	0.45	
	P112	X29, Y10	楕円形	0.32	0.18	0.26	
	P113	X29, Y10	楕円形	0.51	(0.20)	0.28	SK23に切られる
	P114	X29, Y11	楕円形	0.55	0.32	0.55	
	P115	X30, Y10	楕円形	0.40	0.33	0.31	P116を切る
	P116	X29, Y10	楕円形	0.96	0.54	0.15	P115に切られる、SD19を切る
	P117	X30, Y10	楕円形	0.70	(0.51)	0.27	調査区外に延びる
	P118	X30, Y9	楕円形	0.82	0.70	0.25	SD19を切る
	P119	X30, Y9	楕円形	0.47	0.26	0.55	

図版 番号	構造番号	地 区	平面形	長さ			幅	深さ	備 考
				m	m	m			
	P120	X30, Y9	楕円形	0.61	0.36	0.46			
	P121	X30, Y9	楕円形	0.37	0.31	0.49	P122を切る		
	P122	X30, Y9	楕円形	0.36	(0.18)	0.49	P121に切られる		
	P123	X29, Y9	楕円形	(0.82)	(0.58)	1.28	P124・P125に切られる		
	P124	X29, Y9	楕円形	0.34	0.24	0.41	P123を切る		
	P125	X29, Y9	楕円形	0.37	0.30	0.14	P123を切る		
	P126	X29, Y8	楕円形	1.39	1.25	0.29	SD20・P127を切る		
	P127	X29, Y8	円形	1.14	(0.18)	0.27	SD17・SD20を切る、P126に切られる		
	P128	X26, Y8	不定形	(0.57)		0.46	0.10	SD14に切られる	
	P129	X21, Y10	楕円形	0.66	0.33	0.52	SK17に切られる		
	P130	X26, Y7	楕円形	0.39	0.37	0.23			
	P131	X29, Y7	円形	0.45	0.27	0.19			
	P132	X19, Y12	楕円形	0.37	0.32	0.25			
61	P133	X19, Y11	円形	0.39	0.32	0.24			
	P134	X18, Y12	円形	0.31	0.29	0.43			
	P135	X18, Y12	楕円形	0.31	0.20	0.43	P136を切る		
	P136	X18, Y12	円形	(0.21)	0.19	0.17	P135に切られる		
	P137	X18, Y11	楕円形	0.27	0.21	0.11			
61	P138	X18, Y11	円形	0.52	0.50	0.60	P139を切る		
61	P139	X18, Y11	円形	0.52	(0.34)	0.08	P138に切られる		
	P140	X17, Y11	楕円形	0.63	0.52	0.14			
	P141	X17, Y11	楕円形	0.45	0.32	0.07			
	P143	X15, Y15	円形	0.34	0.32	0.18			
	P144	X15, Y16	円形	0.22	0.21	0.30			
	P145	X14, Y15	楕円形	0.28	0.22	0.12			
	P146	X12, Y14	楕円形	0.27	0.23	0.25	P147を切る		
	P147	X12, Y14	楕円形	(0.33)	0.34	0.09	P146に切れる		
	P148	X18, Y12	楕円形	0.30	0.26	0.26	P149を切る		
	P149	X18, Y12	楕円形	(0.19)	0.21	0.17	P148に切られる		
	P150	X18, Y10	楕円形	(0.30)	0.28	0.23	P151に切られる		
	P151	X18, Y10	楕円形	0.40	0.29	0.50	P150を切る		
	P152	X18, Y11	楕円形	0.41	0.35	0.30			
53	P153	X18, Y10	楕円形	0.96	(0.61)	1.03	SK34・SK48に切られる		
	P154	X18, Y9	楕円形	0.81	0.53	0.83			
	P155	X20, Y11	円形	0.21	0.18	0.17			
	P156	X19, Y11	楕円形	0.31	0.19	0.25			
	P157	X19, Y11	円形	0.38	0.35	0.38			
61	P158	X19, Y10	円形	0.20	0.15	0.24			
	P159	X19, Y10	円形	0.23	0.21	0.11			
61	P160	X19, Y10	円形	0.31	0.30	0.04	P161を切る		
61	P161	X19, Y10	円形	(0.40)	0.40	0.57	P160に切られる		
	P162	X19, Y10	楕円形	0.41	0.35	0.12			
	P163	X21, Y9	楕円形	0.38	0.26	0.32			
	P164	X20, Y9	楕円形	0.26	0.18	0.12			
	P165	X20, Y9	楕円形	0.35	0.25	0.25			
	P166	X20, Y9	楕円形	0.29	0.29	0.23			
	P167	X20, Y9	楕円形	0.21	0.18	0.16			
	P168	X20, Y9	楕円形	0.36	0.34	0.67			

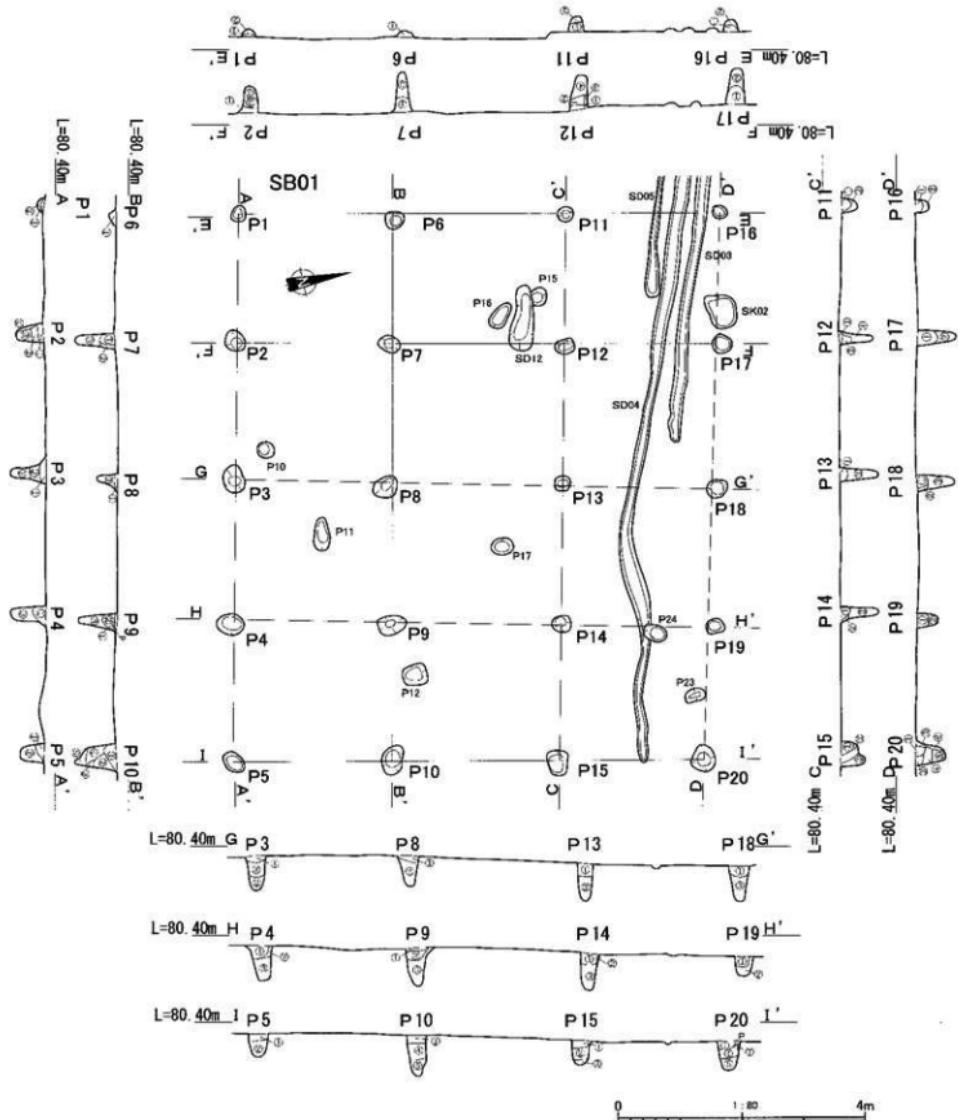
図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ		幅 m	深さ m	備 考
				m	m			
	P169	X20, Y9	楕円形	0.51	0.35	0.23		
61	P170	X20, Y10	円形	0.53	0.47	0.52		
	P171	X19, Y14	楕円形	0.50	0.42	0.10		
	P172	X18, Y13	楕円形	0.40	0.31	0.06		
	P173	X17, Y13	楕円形	0.25	0.25	0.17	SD11に切られる	
	P174	X19, Y9	円形	0.31	0.20	0.20		
	P175	X13, Y9	楕円形	0.44	0.28	0.08	SD26に切られる	
	P176	X15, Y8	楕円形	0.23	0.20	0.12	P177を切る	
	P177	X15, Y8	楕円形	0.34	(0.26)	0.22	P176に切られる	
	P178	X14, Y9	円形	0.20	0.16	0.24		
	P179	X15, Y9	楕円形	0.17	0.14	0.11		
	P180	X15, Y9	楕円形	0.42	0.29	0.19		
	P181	X15, Y8	楕円形	0.38	0.24	0.27		
	P182	X15, Y8	不定形	0.50	0.28	0.13		
	P183	X15, Y8	楕円形	0.35	0.27	0.22		
	P184	X15, Y8	楕円形	0.34	0.26	0.19		
	P185	X16, Y9	隅丸方形	0.43	0.32	0.36		
	P186	X15, Y9	楕円形	0.31	0.24	0.27	P187を切る	
	P187	X15, Y9	不定形	(0.42)	0.37	0.12	P186に切られる	
	P188	X15, Y9	楕円形	0.19	0.16	0.25		
62	P189	X15, Y9	円形	(0.32)	0.30	0.08		
	P190	X15, Y10	不定形	0.61	0.35	0.08		
	P191	X16, Y10	楕円形	0.41	0.32	0.54		
62	P192	X15, Y10	円形	0.51	0.44	0.60		
	P193	X15, Y10	楕円形	0.53	0.47	0.37		
	P195	X15, Y11	楕円形	0.46	0.45	0.68		
	P196	X16, Y11	楕円形	0.58	0.50	0.39		
	P197	X14, Y11	楕円形	0.87	0.49	0.19	P198と重なっている	
	P198	X14, Y11	楕円形	0.94	0.84	0.26	P197と重なっている	
60	P199	X17, Y10	円形	1.38	0.10	0.19		
	P200	X16, Y11	楕円形	0.23	0.21	0.18		
	P201	X16, Y9	楕円形	0.49	0.41	0.51		
	P202	X16, Y9	円形	0.20	0.18	0.33		
	P203	X16, Y9	楕円形	0.27	0.22	0.06		
	P204	X16, Y9	楕円形	0.30	0.19	0.18		
	P205	X17, Y9	円形	0.58	0.55	0.01		
	P206	X17, Y10	楕円形	0.74	0.50	0.09	P207を切る	
	P207	X17, Y9	円形	(0.30)	0.33	0.19	P206・P243に切られる	
	P208	X17, Y10	楕円形	0.25	0.24	0.27		
	P209	X18, Y10	楕円形	0.22	0.19	0.21		
	P210	X16, Y9	不定形	0.67	0.43	0.86		
	P211	X16, Y9	楕円形	0.45	0.42	0.28		
	P212	X16, Y8	不定形	0.39	0.37	0.46		
	P213	X16, Y9	楕円形	0.46	0.27	0.36	P214を切る	
	P214	X16, Y9	楕円形	(0.20)	0.16	0.06	P213に切られる	
	P215	X16, Y9	不定形	0.42	0.33	0.43	P216を切る	
	P216	X16, Y9	楕円形	(0.20)	0.27	0.23	P215に切られる	
	P217	X16, Y8	楕円形	0.50	0.21	0.31		

圆版 番号	造機番号	地 区	平面形	長さ		幅 m	深さ m	備 考
				m	m			
	P218	X16, Y8	楕円形	0.58	0.29	0.36		
	P219	X16, Y8	楕円形	0.36	0.30	0.29		
	P220	X15, Y8	円形	0.46	0.40	0.48		
	P221	X15, Y8	楕円形	0.36	0.35	0.26		
	P222	X15, Y8	円形	0.32	0.31	0.32	P223を切る	
	P223	X15, Y8	楕円形	(0.29)	0.24	0.25	P222に切られる	
62	P224	X15, Y8	楕円形	1.63	0.93	0.63		
	P225	X16, Y8	楕円形	0.86	0.67	0.23		
	P226	X14, Y8	楕円形	0.25	0.18	0.16		
	P227	X13, Y8	楕円形	0.32	0.18	0.13		
	P228	X13, Y8	円形	0.21	0.19	0.16		
	P229	X13, Y8	楕円形	0.31	0.25	0.23	P230を切る	
	P230	X13, Y8	楕円形	(0.22)	0.27	0.32	P229に切られる	
62	P231	X14, Y8	円形	0.39	0.32	0.29		
62	P232	X14, Y6	円形	0.70	0.51	0.29		
	P233	X14, Y6	楕円形	0.31	0.23	0.26		
	P234	X13, Y6	円形	0.32	0.30	0.34		
62	P235	X13, Y5	円形	0.32	0.28	0.34		
	P236	X14, Y5	楕円形	0.52	0.45	0.42		
	P237	X15, Y6	円形	0.31	(0.26)	0.20		
	P238	X16, Y6	楕円形	0.34	0.33	0.25		
	P239	X16, Y6	楕円形	(0.78)	0.42	0.31	P240に切られる	
	P240	X15, Y6	楕円形	0.62	0.51	0.47	P239を切る	
	P241	X16, Y8	楕円形	0.45	0.45	0.29		
	P242	X16, Y8	楕円形	0.53	0.41	0.35		
	P243	X16, Y10	楕円形	0.71	0.57	0.27	P207を切る	
	P244	X17, Y10	楕円形	(0.83)	0.62	0.10	P199に切られる	
	P245	X18, Y8	円形	0.27	0.25	0.10		
	P246	X18, Y8	楕円形	0.40	0.32	0.17		
	P247	X18, Y8	不定形	0.37	0.18	0.33		
	P248	X18, Y8	円形	0.21	0.21	0.16		
	P250	X19, Y8	円形	0.20	0.19	0.10		
	P251	X19, Y8	円形	0.28	0.26	0.25		
	P252	X18, Y9	楕円形	0.25	0.21	0.35		
62	P253	X18, Y9	円形	0.25	0.23	0.34		
	P254	X18, Y9	円形	0.22	0.18	0.16		
62	P255	X19, Y9	円形	0.25	0.21	0.18	P256と重なっている	
62	P256	X19, Y9	円形	0.70	0.65	0.55	P255と重なっている	
	P257	X19, Y9	楕円形	0.42	0.37	0.10		
	P260	X16, Y6	不定形	0.46	0.35	0.38		
	P261	X16, Y5	楕円形	0.19	0.16	0.11		
62	P262	X17, Y5	円形	0.23	(0.21)	0.20	P263に切られる	
62	P263	X16, Y5	円形	0.21	0.17	0.21	P262を切る	
	P264	X16, Y5	円形	0.21	0.19	0.25		
	P265	X16, Y5	楕円形	0.31	0.22	0.37		
	P266	X16, Y5	不定形	0.43	0.35	0.14		
	P267	X17, Y5	円形	0.29	0.26	0.10		
	P268	X17, Y5	楕円形	0.50	0.31	0.15		

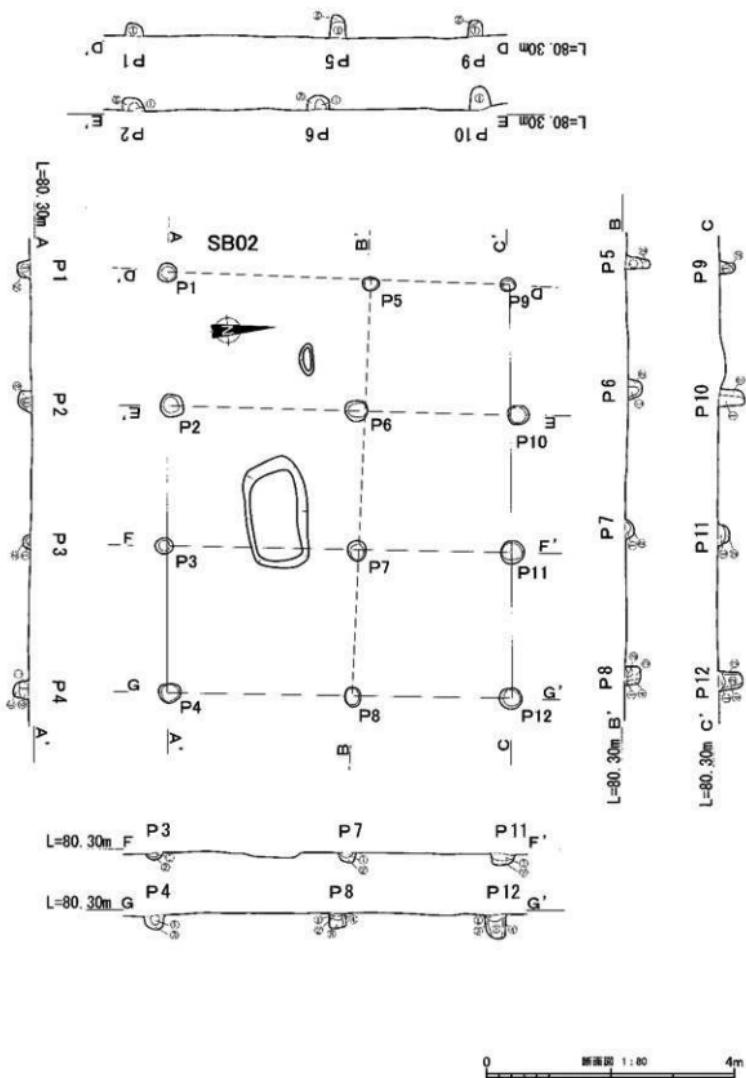
図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ m	幅 m	深さ m	備 考
	P269	X17、Y5	円形	0.22	0.21	0.17	
62	P270	X17、Y5	円形	0.24	0.21	0.17	
51	P271	X17、Y10	楕円形	(0.62)	0.62	0.24	SK47に切られる
	P272	X22、Y8	円形	0.33	0.33	0.43	
	P273	X22、Y8	不定形	0.30	0.20	0.25	
	P274	X22、Y7	不定形	0.23	0.21	0.23	
	P275	X22、Y8	楕円形	0.24	0.20	0.31	
	P276	X22、Y7	楕円形	0.25	0.22	0.28	
	P277	X23、Y8	円形	0.26	0.22	0.38	
	P278	X23、Y7	楕円形	0.36	0.19	0.29	
	P279	X23、Y7	楕円形	0.82	0.70	0.15	
	P280	X22、Y7	円形	0.19	0.17	0.32	
	P281	X22、Y7	楕円形	0.58	0.37	0.24	
	P282	X22、Y7	楕円形	0.39	0.30	0.28	
	P283	X22、Y7	不定形	0.36	0.28	0.27	
62	P284	X21、Y7	円形	(0.34)	0.45	0.18	P285に切られる
62	P285	X21、Y7	円形	0.36	0.34	0.51	P284を切る
	P286	X21、Y7	楕円形	0.28	0.24	0.23	
	P287	X18、Y9	楕円形	0.63	0.51	0.93	
	P288	X20、Y8	円形	0.30	0.25	0.57	
	P289	X19、Y10	楕円形	0.27	0.16	0.16	SK33を切る
	P290	X12、Y10	楕円形	0.81	0.57	0.27	
	P291	X11、Y9	楕円形	0.88	0.52	0.03	
	P292	X8、Y11	楕円形	0.25	0.20	0.30	SD27に切られる
	P293	X8、Y11	楕円形	0.53	0.43	0.11	P294を切る
	P294	X8、Y11	不定形	0.91	(0.63)	0.09	P293に切られる
	P295	X8、Y11	円形	0.24	0.23	0.24	
	P296	X8、Y12	楕円形	0.63	0.33	0.11	
	P297	X8、Y12	円形	0.38	0.33	0.10	
	P298	X8、Y12	円形	0.42	0.35	0.10	
	P299	X15、Y8	円形	0.46	(0.37)	0.58	P223に切られる
	P300	X18、Y10	楕円形	(0.30)	0.23	0.12	SK33に切られる
	P301	X18、Y10	円形	0.35	0.30	0.32	SK33・SK34を切る
	P303	X15、Y5	円形	0.43	0.34	0.34	
	P304	X15、Y5	楕円形	0.32	0.30	0.39	SK43を切る
	P305	X15、Y6	楕円形	0.47	0.34	0.50	SK43を切る
	P306	X14、Y8	楕円形	0.35	0.32	0.42	
	P310	X25、Y9	楕円形	0.33	0.21	0.41	
	P311	X26、Y8	不定形	0.36	0.32	0.36	P312を切る
	P312	X26、Y8	楕円形	0.36	0.21	0.11	P311に切られる
	P313	X23、Y9	円形	0.28	0.21	0.56	SK27を切る
	P314	X24、Y10	円形	0.23	0.19	0.16	
	P315	X24、Y10	円形	0.34	0.31	0.57	SK18を切る
	P316	X18、Y5	楕円形	0.43	0.42	0.56	SK63・SK65を切る
62	P317	X8、Y15	隅丸方形	0.38	0.32	0.07	
	P318	X23、Y11	隅丸方形	0.36	0.26	0.41	SK15を切る
	P319	X29、Y10	楕円形	0.29	0.26	0.34	



第63図 宗守II遺跡2地区平面図 (S=1:250)



第64図 宗守II遺跡2地区の遺構 (1) (S=1:80)



第65図 宗守II遺跡2地区の遺構 (2) (S=1:80)

SBOT

- P1
① 10W/51 黒色シルト
山地ブロッサム50%含む
分合数
② 2.5W/51 黒炭灰入灰質
黒端シルトのみ10%含む 粒分合数

P2
① 10W/51 黒炭灰シルト
山地ブロッサム10%含む
② 10W/51 黑炭灰シルト
山地ブロッサムに10%交換
分合数含む
③ 10W/51 黑炭灰
山地ブロッサム10%含む
④ 5W/51 黑炭灰
山地ブロッサム10%含む
⑤ 2.5W/51 黑炭灰起毛
健延シルト・シルト20%含む 粒分合数

- P3

 - ① 10YR3/1 黒褐色シルト
地山:ブロックに30%含む
φ 0.5~2cm細粒少量含む
 - ② 10YR4/1 黑褐色シルト
地山:ブロック30%含む
砂+チサト φ 0.5~1cm粒状少量、成分
 - ③ 10YR5/1 黑褐色シルト
地山:ブロック15%含む
φ 0.1~0.5cm細粒少量含む、成分含む

- P4
 ① 100% / ■ 黒色シルト
 黒土をブロッタ 5%含む
 △ 0.1~1%炭化物と粘土合せ
 残分含む
 ② 100% / ■ 黑色シルト
 地にブロッタ 10%含む
 残分含む
 ③ 100% / ■ 黑色シルト
 黒土ブロッタ 15%含む

- ① 10732/1 黒褐色シルト
地山プロック5%含む
δ 0.1~0.3cm灰化度少重量む 鉄分含む
② 10733/1 黒褐色シルト
地山プロック40%含む
δ少シルト含む 鉄分含む

- 地山プロック15%で行
60.5~2cm農化科少葉色化 級分合1

- ① 10月4日/ 沖縄色シルト
沖山プロック5%含む
 - ② 10月4日/ 沖縄色シルト
地止プロック2%含む
砂土吸収性
 - ③ 10月4日/ 沖縄色シルト
地止プロック3%含む

- P8

 - ① 10YEL/1 滅菌色シルト
塗油ブロッカに16%含む
△1~2cm 滅菌色やや多く含む
 - ② 10YEL/1 滅菌色シルト
塗油ブロッカ7%含む
新分含む

- P9

 - ① 10YEA/1 もみ色シルト
地1ブロック3%含む
底生糞や多く少々含む 粒分含む
 - ② 10YEA/1 黄褐色シルト
底生糞+カク 10%含む
水3~4%含む
底生糞や多く含む 粒分少含む
底生糞+カク 8%含む
ナトリウムイオン高
 - ③ 10YEA/1 黑褐色シルト
地1ブロック2%含む
底生糞+カク 8%含む
粒分含む

- P10
 ① 10/24/1 残灰色シルト
 山岸ブロック7%含む
 +0.1 ~ 1cm炭化物少量含む
 塗上、朱色
 ② 10/24/1 残灰色シルト
 北山ブロック20%含む
 砂質、砂質性
 ③ 10/22/1 残灰色シルト
 山岸ブロック7%含む
 ④ 10/22/1 残灰色シルト
 山岸ブロック7%含む

- ⑤ 10103/1 黒褐色シート
地にミリ500%含む 無分少茶色む

- P11**

 - ① 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ② 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック4%含む

P12

 - ① 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ② 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ③ 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ④ 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ⑤ 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む
 - ⑥ 10B/1 痢疾ウシント
地ブロック2%含む
糞少少盛む

- P13**

 - ① 10V3/1 三色赤シルト
地図プリント5%含む
 - ② 10V3/1 三色赤シルト
地図プリント15%含む
炭酸ナトリウム含む

P14

 - ① 10V3/1 両赤シルト

- ⑩ 10187/3 にぶい黄緑色シルト
地松色シルト・シルト10%含む
新分少産む

⑪ 10192/1 黒褐色粘土質
地山ブラック10%含む

P15

⑫ 10193/1 黒褐色シルト
地庄ブリック15%含む
φ 0.5mm～3mmの砂粒や多く含む

- P16

 - ① 100%U1 霧灰色シルト
堆山ブリック30%合材 欲分含む
 - ② 102%U1 雾灰色シルト
灰化灰少量含む 欲分少數含む

- ② 10月3/3 に5点 梅鉢底シルト
焼灰シルト みどり:0%含む 粒分含む

P17

 - ① 10月4/1 焼灰シルト
焼灰ブロック5%含む
+0.5~1.5%の焼灰を含む 基土、粒分含む
 - ② 10月5/1 焼灰シルト
焼灰ブロック3%含む 粒分若干含む

P18

- ① 10%W/T 灰色シルト
地止ブロック5%含む
状況変、堆上、部分少混合
② 10%W/L 灰色シルト
堆山しみ状15%含む、鉄分含む
③ 10%W/L 灰色シルト
堆止ブロック7%含む、無分合

- 砂止ブロック7%合む
筋分2%, 施用少需量む

② 10%T₃/3によい黒色名シル
施用灰シル+硝酸10%合む 納分少量む

P20

① 10%T₁/1 黑色灰シルト
地山ブロック7%合む
a 0.5~1cm粒化粉少需量む
筋分2%合む 上品化シルト

- ④ 地山ブロック20%含む
鉄分含む

⑤ 1,677t/1 純炭化シルト
地山ブロック20%含む
鉄分含む

⑥ 7,677t/3 にいわ葉緑化シルト
複灰化シルトしみ状7%含む 鉄分含む

SB02

- P1
 ① 10TBS/6 油焼鶏スシルト
 +1~3cm厚鰯代シルトブロック5%含む
 ② 10TBS/4 にぶい鰯焼セシルト
 黒鰯色シルトしみ味3%含む

- P2
 ① 101E/2 無地ベシルト
 地出ししみ抜5%含む
 ② 101E/5 明鏡柄地シルト
 黒鏡ハシルトしみ抜10%含む

- P4

 - ① 10T2/2 黒褐色シルト
塊山ブリック3%含む
 - ② 10T2/2 黒褐色粘土質
塊山ブリック15%含む

- P5
 ① 10YR2/3 黒褐色シート
 △1~3cm地にブロック15%含む
 ② 10YR5/4 に近い黄褐色シート
 地無化カルト1.5m3%含む

- P6
 ① 10TR2/2 明褐色を質へ
 堆山ロック15%含む
 ② 10TR6/6 明青褐色シルト
 6-1-3cm明褐色シルト・ロック5%含む

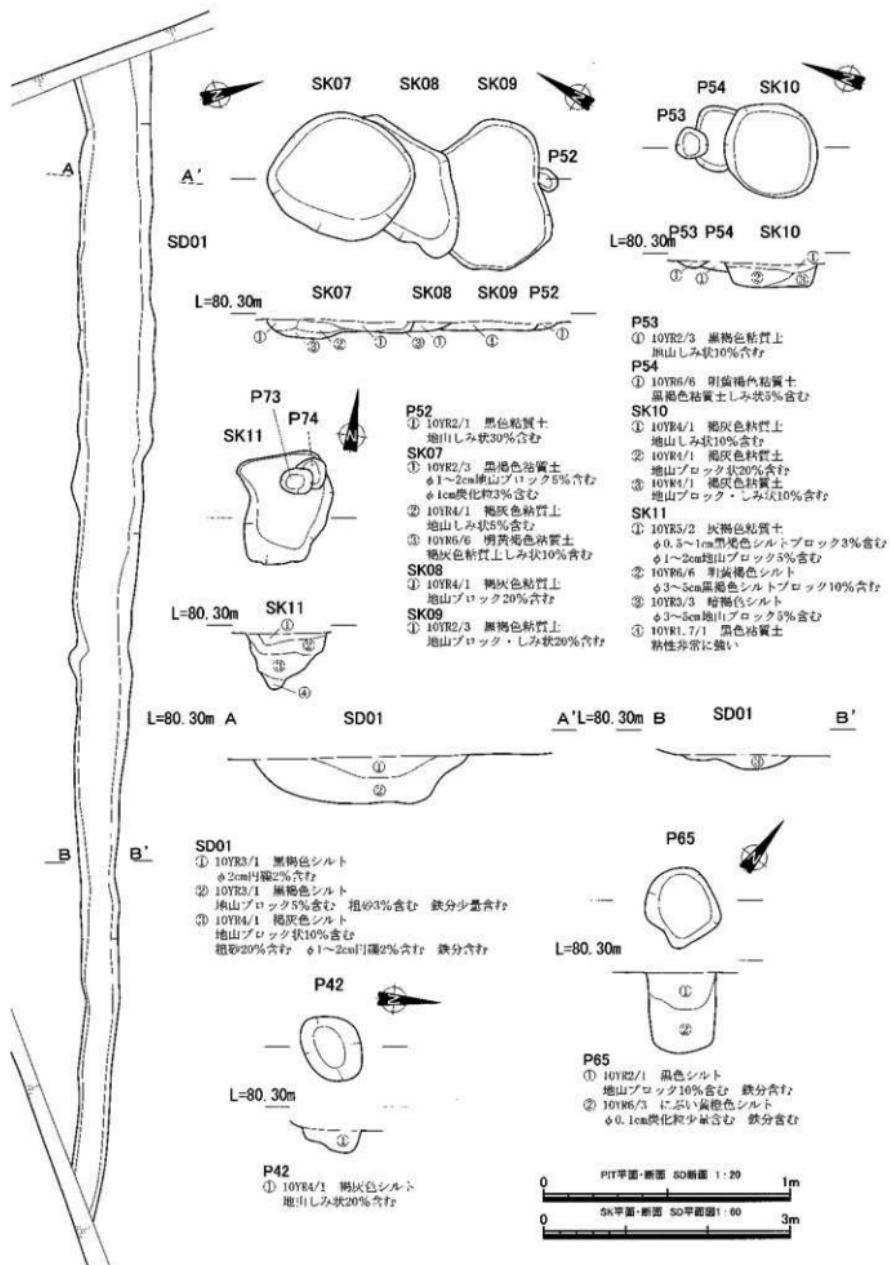
- P8
 ① 10月2/2 濃緑色シルト
 岩山ブロック15%含む
 ② 10月2/2 濃緑色シルト
 地山しみ状15%含む

- ③ 地山プロック15%含む
④ 10ER2/2 黒褐色地質土
地山: リム3%含む

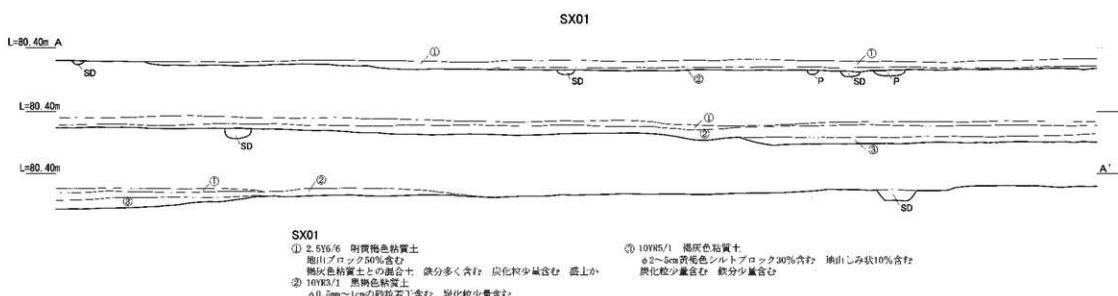
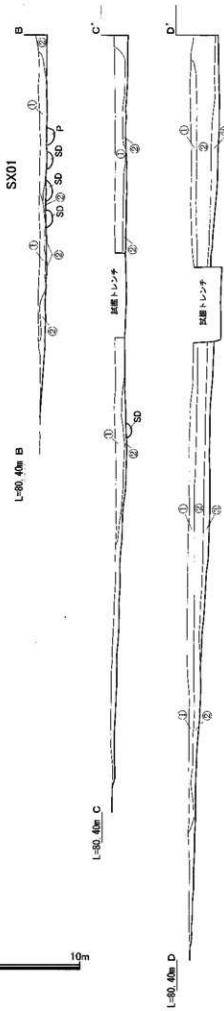
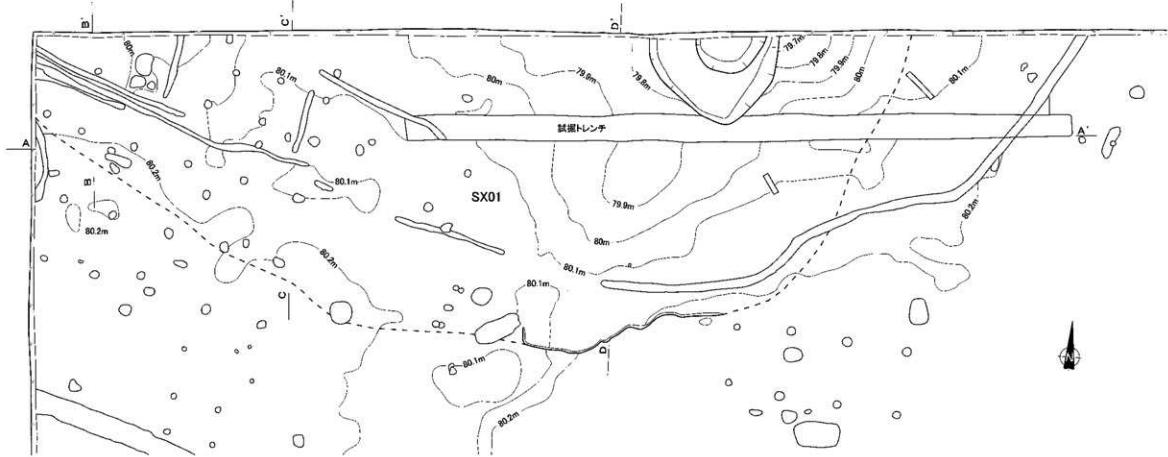
- P10
 ① 10YR2/2 青褐色系上
 追山アロック15%含む
 ② 10YR2/2 黄褐色系上
 追山アロック3%含む

- P11
 ① 100% / 黒褐色シルト
 銀山しみ状5%含Ez
 ② 100% / 硫褐色シルト
 6~13mm黒色シルトブロック3%含Ez

- ① 10YR2/3 黄褐色シルト
+ 1~2cm暗赤色プロック 10%含む
 - ② 10YR2/2 黄褐色シルト
幼土プロック5%含む
 - ③ 10YR2/2 黄褐色粉質土
+ 1~2cm暗赤色プロック 10%含む
 - ④ 10Tz2/2 黄褐色粉質土
泥化しきれ3%含む



第67図 宗守II遺跡2地区の遺構(4) (PIT, SD断面図 S=1:20, SK, SD平面図 S=1:20)



SX01

- ① 10YR5/6 明黄褐色粘質土
地山ブロック50%含む
褐色粘質土との混合土、礫分多く含む、炭化物少含む、盛上か
- ② 10YR3/1 黒褐色粘質土
φ0.5mm~1cmの砂粗石子含む、炭化物少含む
- ③ 10YR5/1 暗灰色粘質土
φ2~5cm褐色色シルトブロック30%含む、地山しみ状10%含む
炭化物少含む、礫分少含む

第68図 宗守II遺跡2地区の構造(5) (S=1:150)

第7表 振立柱建物一覧

図版番号	造構番号	地 区	建 物 方 向	間 数	床 面 積 (m ²)		
第64回	SB01	X9~11, Y3~9	N~78°W	3×4間	69		
		桁 (m)	梁 (m)	柱穴規模 (平均値) (m)			
		長さ	柱間	長さ	柱間		
		9.0	2.1~2.2	7.8	2.5~2.6		
第65回	SB02	地 区	建 物 方 向	間 数	床 面 積 (m ²)		
		X7~9, Y17~20	N~86°W	2×3間	38		
		桁 (m)	梁 (m)	柱穴規模 (平均値) (m)			
		長さ	柱間	長さ	柱間 直径 深さ 備考		
第66回	SB01-P	地 区	平 面 形	長さ	幅	深さ	備 考
		SB01-P2	X9, Y4	円形	0.35	0.30	0.23
		SB01-P3	X9, Y5	楕円形	0.45	0.33	0.34
		SB01-P4	X9, Y7	楕円形	0.45	0.35	0.34
		SB01-P5	X9, Y8	楕円形	0.39	0.28	0.17
		SB01-P6	X11, Y4	円形	0.32	0.30	0.13
		SB01-P7	X11, Y5	円形	0.44	0.22	0.33
		SB01-P8	X10, Y6	楕円形	0.42	0.33	0.33
		SB01-P9	X10, Y7	不定形	0.46	0.31	0.36
		SB01-P10	X10, Y8	不定形	0.50	0.34	0.31
		SB01-P11	X12, Y4	円形	0.25	0.24	0.19
		SB01-P12	X12, Y5	楕円形	0.31	0.23	0.29
		SB01-P13	X12, Y6	楕円形	0.25	0.24	0.27
		SB01-P14	X11, Y7	楕円形	0.30	0.26	0.23
		SB01-P15	X11, Y8	楕円形	0.41	0.31	0.25
		SB01-P16	X13, Y4	楕円形	0.25	0.21	0.15
		SB01-P17	X13, Y5	楕円形	0.31	0.30	0.31
		SB01-P18	X13, Y6	楕円形	0.35	0.30	0.30
		SB01-P19	X13, Y7	楕円形	0.28	0.23	0.18
		SB01-P20	X12, Y9	楕円形	0.41	0.38	0.26
		SB02-P1	X7, Y17	円形	0.30	0.30	0.19
		SB02-P2	X7, Y18	円形	0.37	0.36	0.22
		SB02-P3	X6, Y19	円形	0.28	0.26	0.12
		SB02-P4	X6, Y20	楕円形	0.34	0.30	0.20
		SB02-P5	X8, Y17	不定形	0.27	0.22	0.19
		SB02-P6	X8, Y18	円形	0.36	0.34	0.17
		SB02-P7	X8, Y19	楕円形	0.33	0.29	0.18
		SB02-P8	X8, Y20	楕円形	0.31	0.26	0.22
		SB02-P9	X9, Y17	楕円形	0.37	0.37	0.18
		SB02-P10	X9, Y18	楕円形	0.33	0.30	0.26
		SB02-P11	X9, Y19	円形	0.37	0.37	0.18
		SB02-P12	X9, Y21	楕円形	0.36	0.34	0.34

第8表 土坑一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ			備考
				m	m	m	
	SK01	X14, Y5	楕円形	0.84	0.64	0.18	
	SK02	X13, Y5	不定形	0.55	0.45	0.09	
	SK03	X9, Y9	円形	0.88	0.86	0.21	
	SK04	X10, Y12	楕円形	0.76	0.70	0.12	
	SK05	X9, Y12	楕円形	1.88	0.77	0.14	
	SK06	X14, Y24	楕円形	1.28	0.38	0.14	P40に切られる
第67回	SK07	X9, Y29	円形	1.61	1.51	0.23	SK08を切る
第67回	SK08	X8, Y29	不定形	(0.50)	1.26	0.12	SK07に切られる、SK09を切る
第67回	SK09	X8, Y29	不定形	1.86	(1.01)	0.10	SK08に切られる、P52を切る
第67回	SK10	X9, Y31	円形	1.15	1.12	0.27	
第67回	SK11	X8, Y31	不定形	1.33	1.03	0.67	P73・P74に切られる

第9表 溝一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	主軸	長さ			備考
					m	m	m	
第67回	SD01	X5~7, Y4~10	直線	N-72°W	(1393)	0.73	0.20	調査区外へ延びる
	SD02	X11~12, Y3	弧状	N-4°W	(282)	0.19	0.08	調査区外へ延びる
	SD03	X13~14, Y3~6	直線	N-70°W	(643)	0.16	0.05	調査区外へ延びる
	SD04	X12~14, Y3~8	不定形	N-73°W	(1163)	0.13	0.06	調査区外へ延びる
	SD05	X13~14, Y3~5	不定形	N-73°W	(385)	0.08	0.02	調査区外へ延びる
	SD06	X13~14, Y6	直線	N-11°E	(255)	0.23	0.07	調査区外へ延びる
	SD07	X12~13, Y8	直線	N-13°E	2.56	0.22	0.06	
	SD08	X11~12, Y9	直線	N-68°W	0.77	0.22	0.15	
	SD09	X13~14, Y9~11	不定形	N-65°W	5.60	0.24	0.03	
	SD10	X11~Y12~12	直線	N-76°W	4.52	0.23	0.05	P27に切られる
	SD11	X10~15, Y15~23	弧状	N-58°E	(23.06)	0.33	0.08	P44に切られる、調査区外へ延びる
	SD12	X12, Y5	直線	N-73°W	1.07	0.30	0.41	P15を切る
	SD13	X10~16, Y24~27	L字	N-5°W~N-8°E	(14.77)	0.27	0.06	P48を切る、調査区外へ延びる
	SD14	X9~16, Y27~30	直線	N-19°E	(15.62)	0.25	0.06	P63に切られる、調査区外へ延びる

第10表 ピット一覧

図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ			備考
				m	m	m	
	P001	X6, Y9	隅丸方形	0.46	0.41	0.11	
	P002	X6, Y7	円形	0.20	0.19	0.08	
	P003	X7, Y7	円形	0.24	0.21	0.17	
	P004	X8, Y8	楕円形	0.14	0.12	0.06	
	P005	X8, Y8	楕円形	0.12	0.12	0.04	
	P006	X6, Y6	楕円形	0.25	0.20	0.21	
	P007	X7, Y6	楕円形	0.23	0.21	0.18	
	P008	X8, Y6	楕円形	0.18	0.17	0.13	
	P009	X9, Y5	楕円形	0.41	0.39	0.11	
	P010	X9, Y5	円形	0.29	0.26	0.15	
	P011	X10, Y6	円形	0.54	0.23	0.20	
	P012	X10, Y7	円形	0.40	0.33	0.21	
	P013	X11, Y3	楕円形	0.41	0.22	0.05	
	P014	X13, Y3	円形	0.29	0.28	0.12	

図版番号	連番番号	地 区	平面形	長さ	幅	深さ	備 考
				m	m	m	
	P015	X12, Y5	楕円形	0.30	(0.23)	0.33	SD12に切られる
	P016	X12, Y5	楕円形	0.47	0.21	0.15	
	P017	X11, Y6	楕円形	0.36	0.27	0.26	
	P018	X14, Y8	円形	0.24	0.24	0.16	
	P019	X13, Y9	円形	0.26	0.23	0.23	
	P020	X14, Y9	楕円形	0.33	0.25	0.05	
	P021	X14, Y7	楕円形	0.23	0.21	0.12	
	P022	X14, Y7	楕円形	(0.33)	0.23	0.11	
	P023	X12, Y8	楕円形	0.33	0.20	0.09	
	P024	X12, Y7	楕円形	0.38	0.26	0.04	SD04を切る
	P025	X13, Y11	楕円形	0.41	0.27	0.23	
	P026	X11, Y11	円形	0.35	0.34	0.10	
	P027	X11, Y11	不定形	0.47	0.36	0.34	SD10を切る
	P028	X12, Y12	楕円形	0.28	0.24	0.11	
	P029	X10, Y12	円形	0.21	0.19	0.08	
	P030	X10, Y12	円形	0.21	0.19	0.05	
	P031	X9, Y11	楕円形	0.35	0.22	0.06	
	P032	X9, Y11	円形	0.25	0.25	0.06	P33を切る
	P033	X9, Y11	円形	0.23	(0.21)	0.10	P32に切られる
	P034	X8, Y12	楕円形	0.26	0.25	0.21	P35を切る
	P035	X8, Y12	楕円形	(0.18)	0.19	0.07	P34に切られる
	P036	X6, Y11	不定形	0.47	0.36	0.25	
	P037	X15, Y22	不定形	0.34	0.21	0.08	
	P038	X15, Y23	不定形	0.37	0.30	0.10	
	P039	X14, Y24	円形	0.28	0.25	0.09	
	P040	X13, Y24	楕円形	0.24	0.21	0.26	SK06を切る
第67区	P041	X5, Y18	楕円形	0.36	(0.20)	0.19	
	P042	X5, Y17	楕円形	0.29	0.24	0.09	
	P043	X12, Y9	楕円形	0.42	0.30	0.10	
	P044	X13, Y22	楕円形	0.60	0.25	0.05	SD11を切る
	P045	X8, Y25	楕円形	0.32	0.27	0.13	
	P046	X15, Y25	楕円形	0.57	0.48	0.19	
	P047	X14, Y25	円形	0.28	0.26	0.11	
	P048	X10, Y25	楕円形	0.26	(0.15)	0.12	SD13に切られる
	P049	X9, Y25	不定形	0.76	0.49	0.16	
	P050	X15, Y27	楕円形	0.23	0.19	0.04	
	P051	X15, Y29	楕円形	0.44	0.23	0.14	
	P052	X6, Y30	楕円形	0.29	(0.23)	0.10	SK09に切られる
	P053	X9, Y30	不定形	0.39	0.38	0.11	P54を切る
	P054	X9, Y30	楕円形	0.80	(0.39)	0.13	P53に切られる
	P055	X13, Y27	楕円形	0.37	0.26	0.20	
	P056	X13, Y28	楕円形	0.30	0.21	0.09	
	P057	X14, Y29	円形	0.27	0.24	0.17	
	P058	X14, Y29	楕円形	0.28	0.20	0.18	
	P059	X13, Y29	楕円形	0.24	0.20	0.12	
	P060	X12, Y29	楕円形	0.41	0.19	0.08	
	P061	X12, Y29	円形	0.28	0.26	0.09	
	P062	X11, Y31	楕円形	0.27	0.21	0.11	

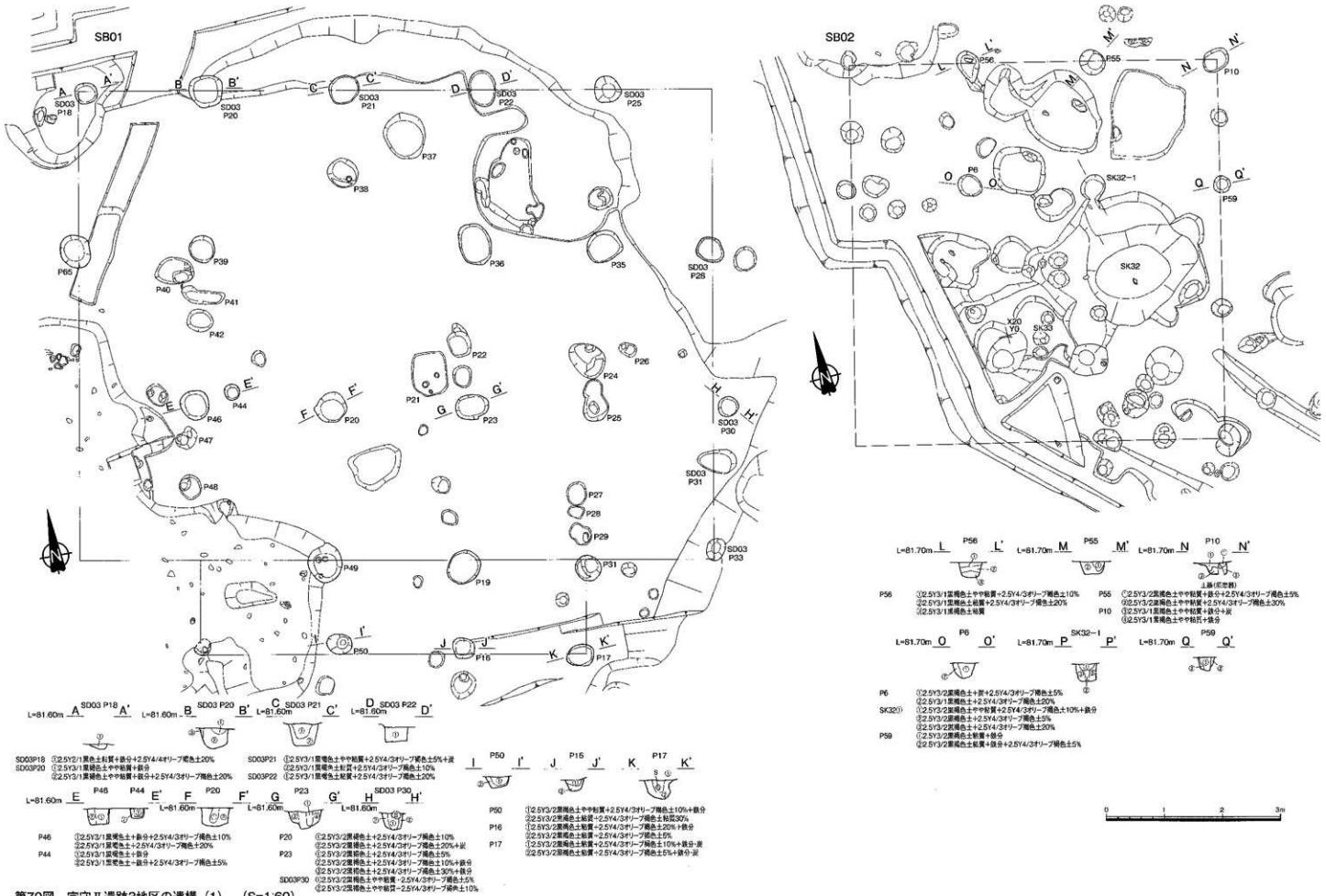
図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ	幅	深さ	備 考
				m	m	m	
	P063	X11, Y28	不定形	0.37	0.34	0.18	SD14を切る
	P064	X10, Y27	円形	0.29	0.26	0.22	
P67調	P065	X9, Y28	不定形	0.31	0.25	0.33	
	P066	X9, Y27	楕円形	0.33	0.32	0.29	
	P067	X7, Y27	楕円形	0.31	0.27	0.22	
	P068	X7, Y28	楕円形	0.21	(0.12)	0.24	P69に切られる
	P069	X7, Y28	楕円形	0.17	0.16	0.07	P68を切る
	P070	X9, Y29	楕円形	0.31	0.24	0.10	
	P071	X9, Y29	円形	0.22	0.20	0.10	
	P072	X9, Y30	楕円形	0.37	0.31	0.05	
	P073	X8, Y31	楕円形	0.39	0.31	0.50	P74を切る
	P074	X9, Y31	楕円形	0.38	(0.20)	0.30	P75に切られる
	P075	X9, Y26	円形	0.32	0.30	0.08	
	P076	X8, Y26	楕円形	0.43	0.25	0.13	
	P077	X10, Y30	楕円形	0.22	0.19	0.25	

第11表 性格不明遺構一覧

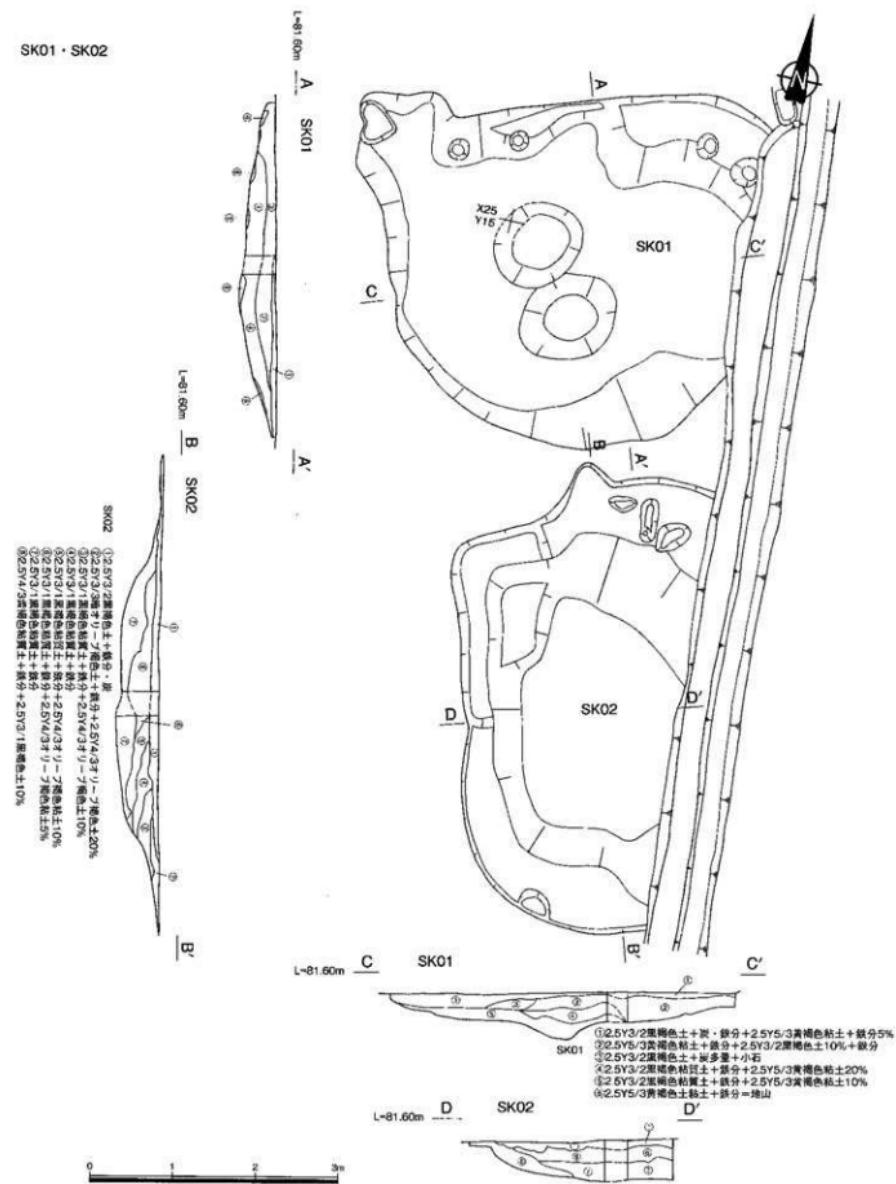
図版番号	遺構番号	地 区	平面形	長さ	幅	深さ	備 考
				m	m	m	
P68調	SX01	X9~15, Y3~20	円形	(34.61)	(12.60)	0.77	



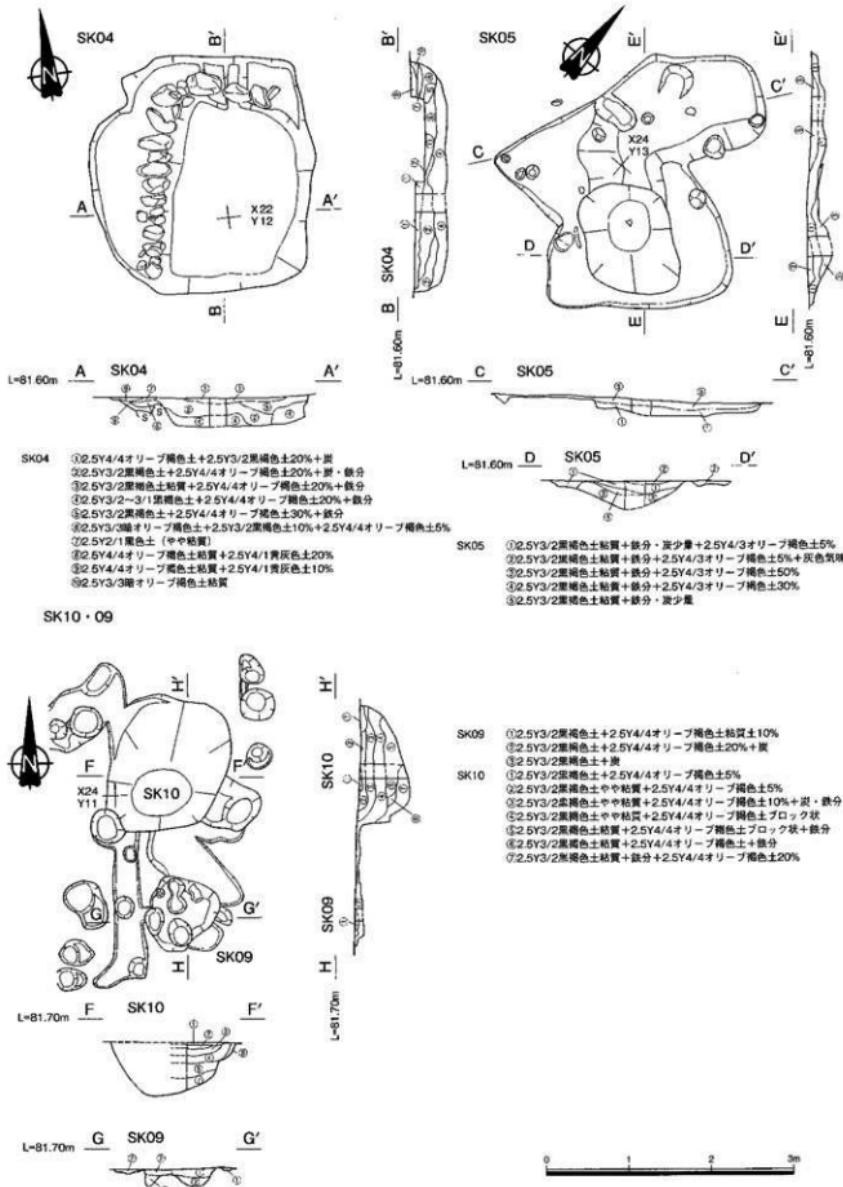
第69図 宗守Ⅱ遺跡3地区平面図 (S=1:200)



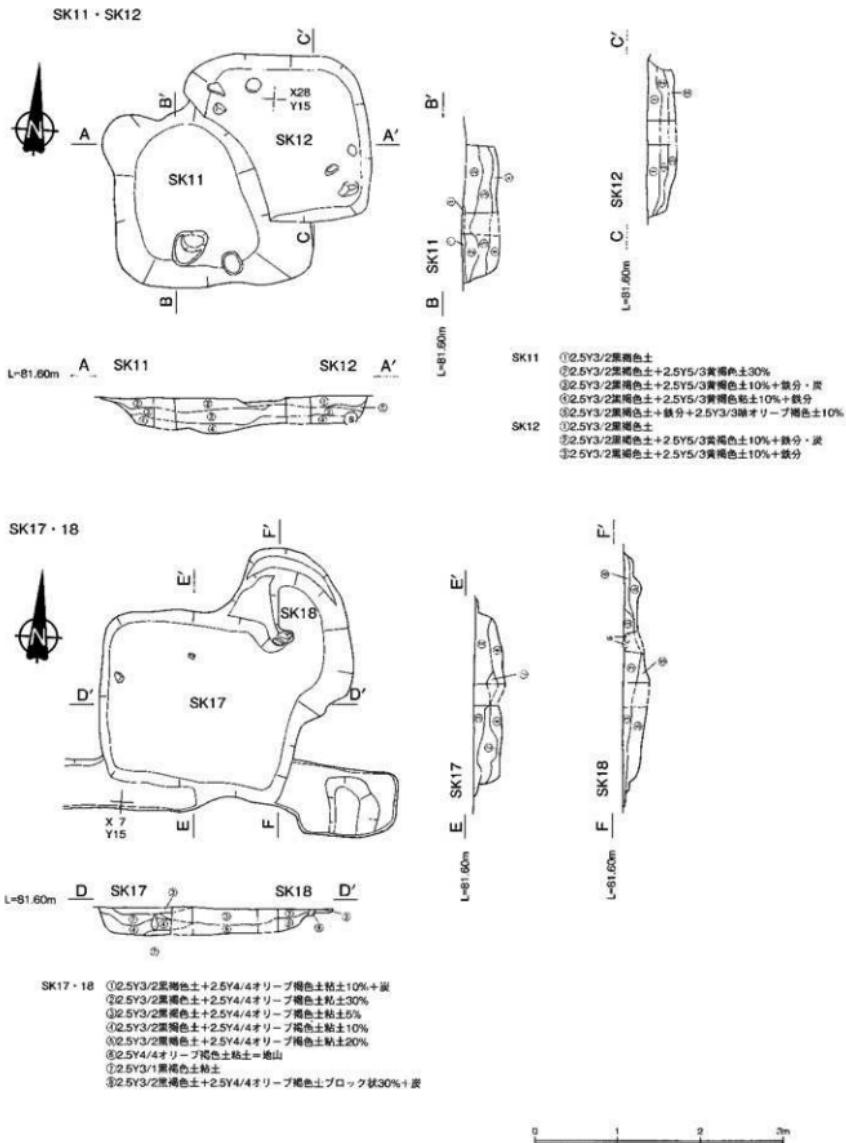
SK01・SK02



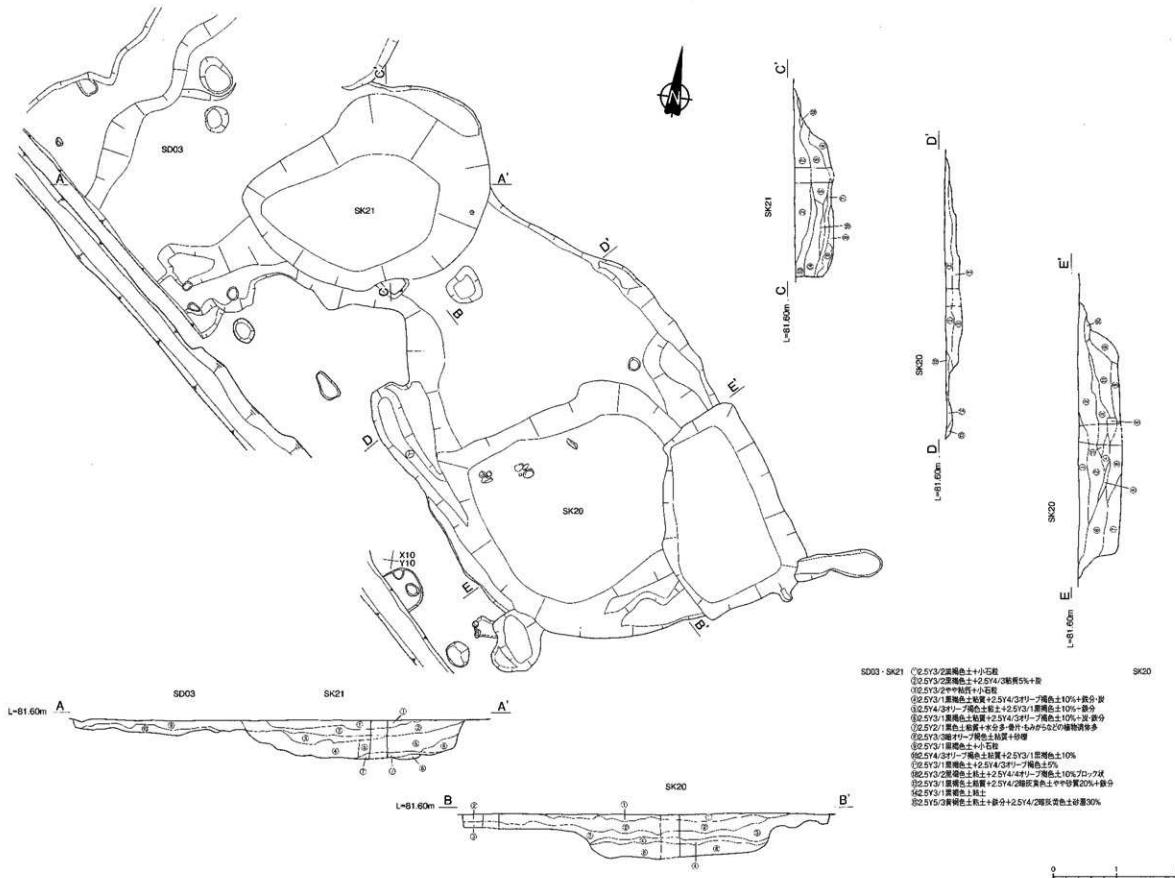
第71図 宗守II遺跡3地区の構造(2) (S=1:60)



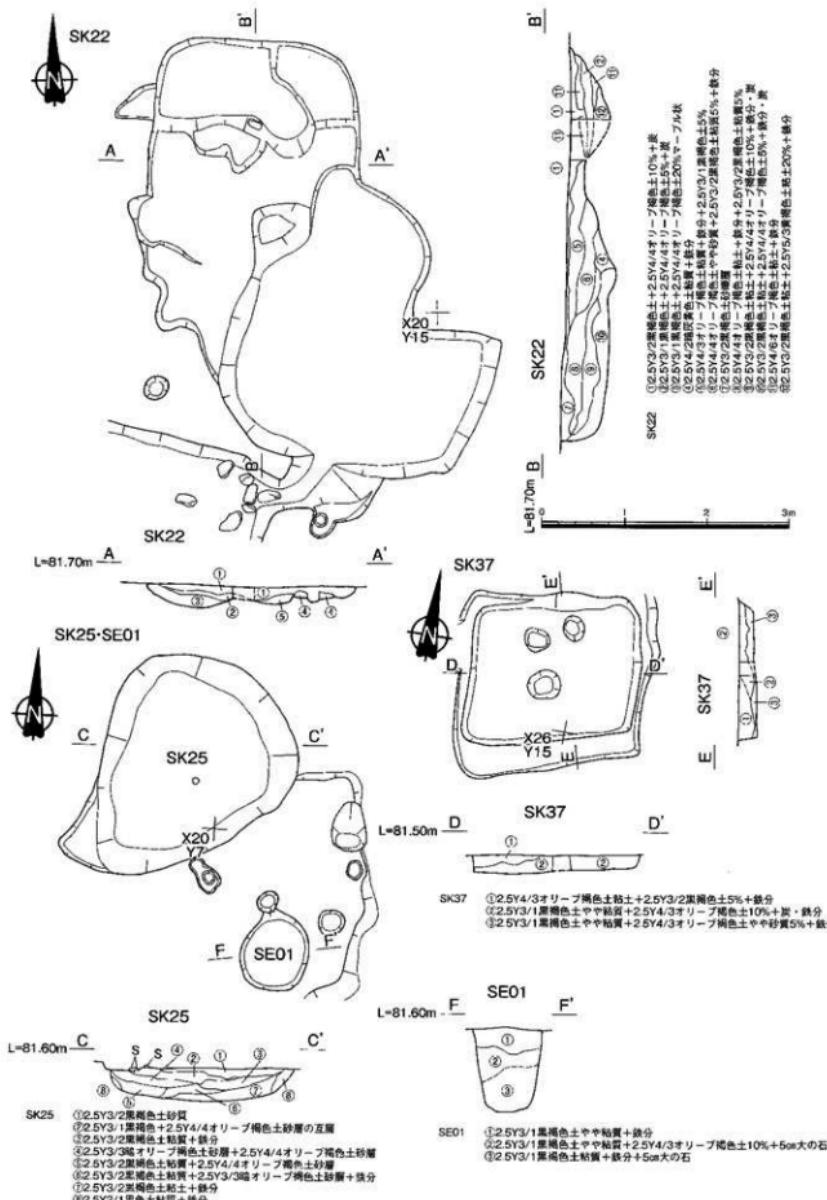
第72図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構 (3) (S=1:60)



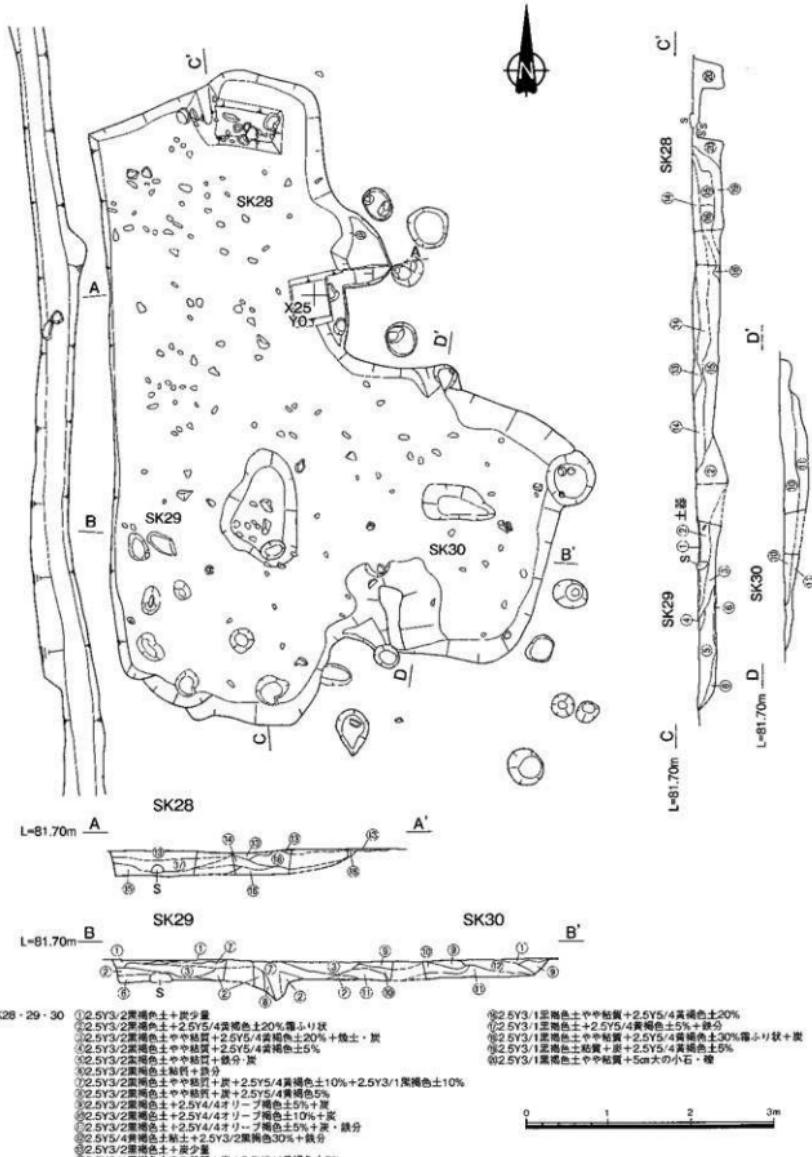
第73図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構(4) (S=1:60)



第74図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構 (5) (S=1:60)

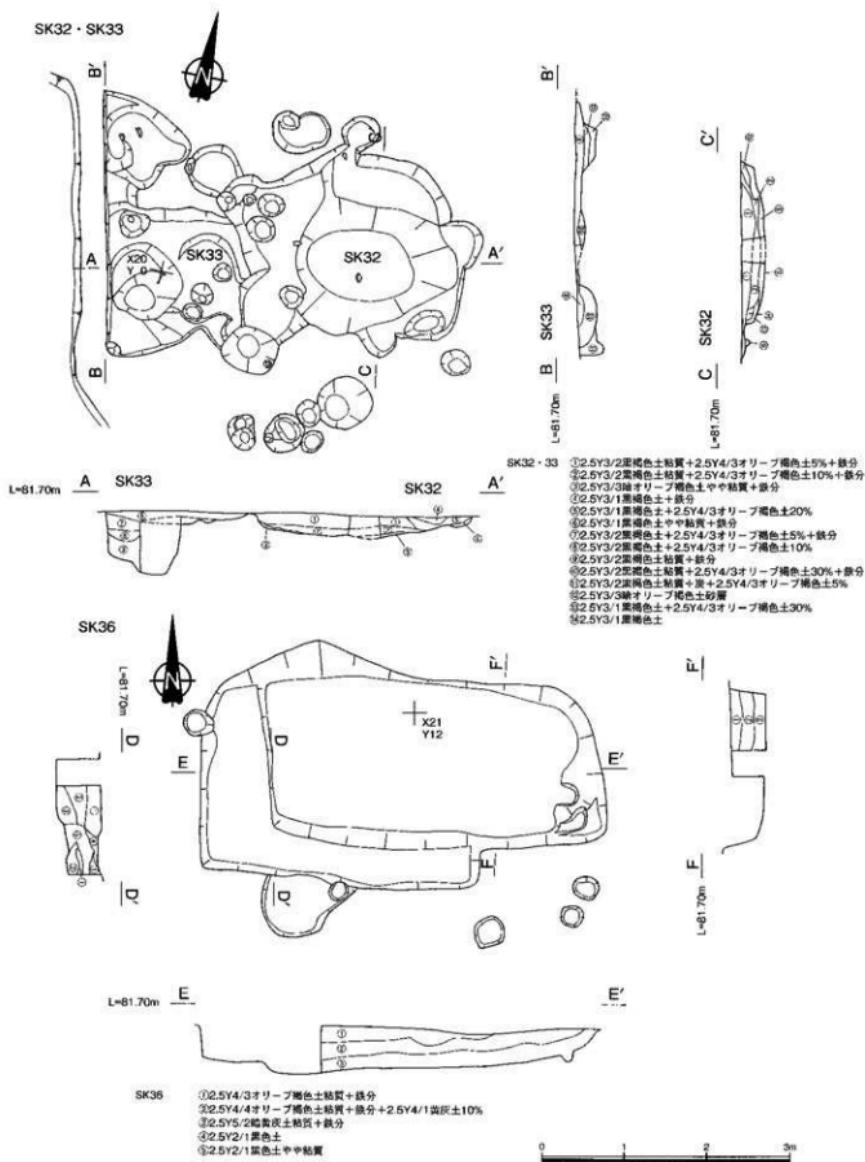


第75図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構 (6) (S=1:60)

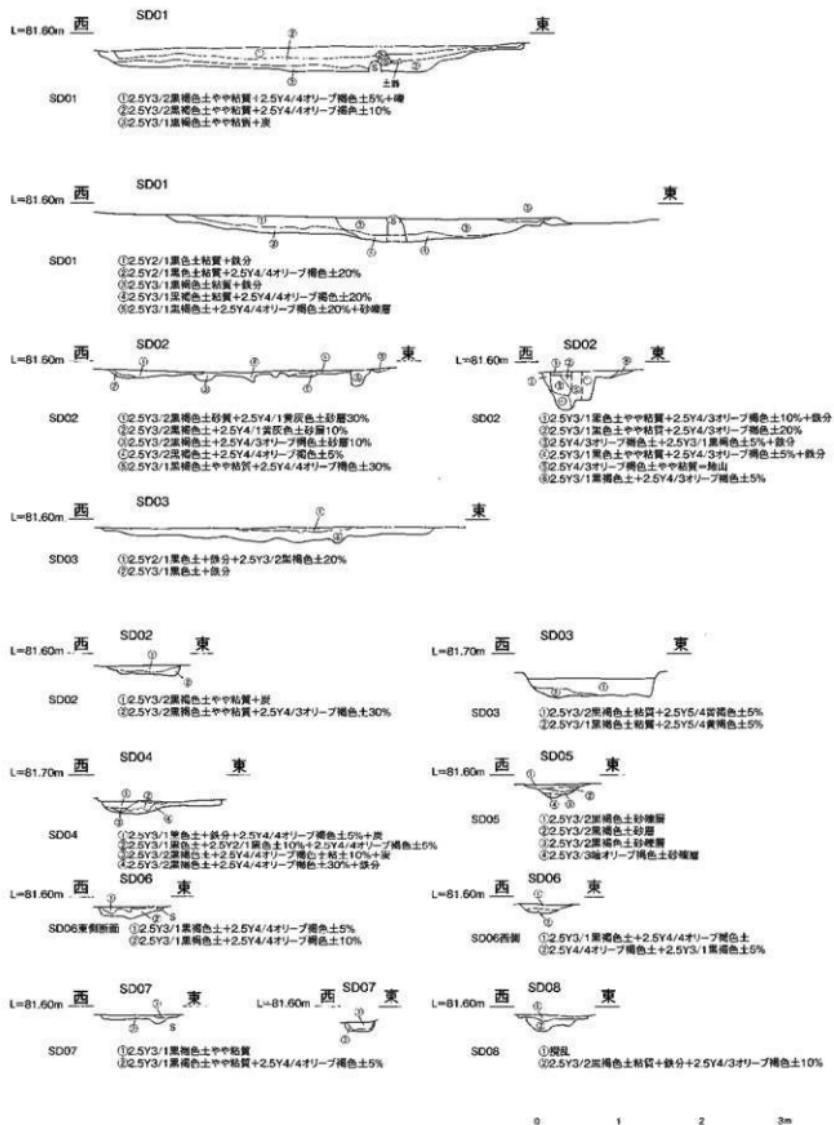


第76図 宗守II遺跡3地区の遺構(7) (S=1:60)

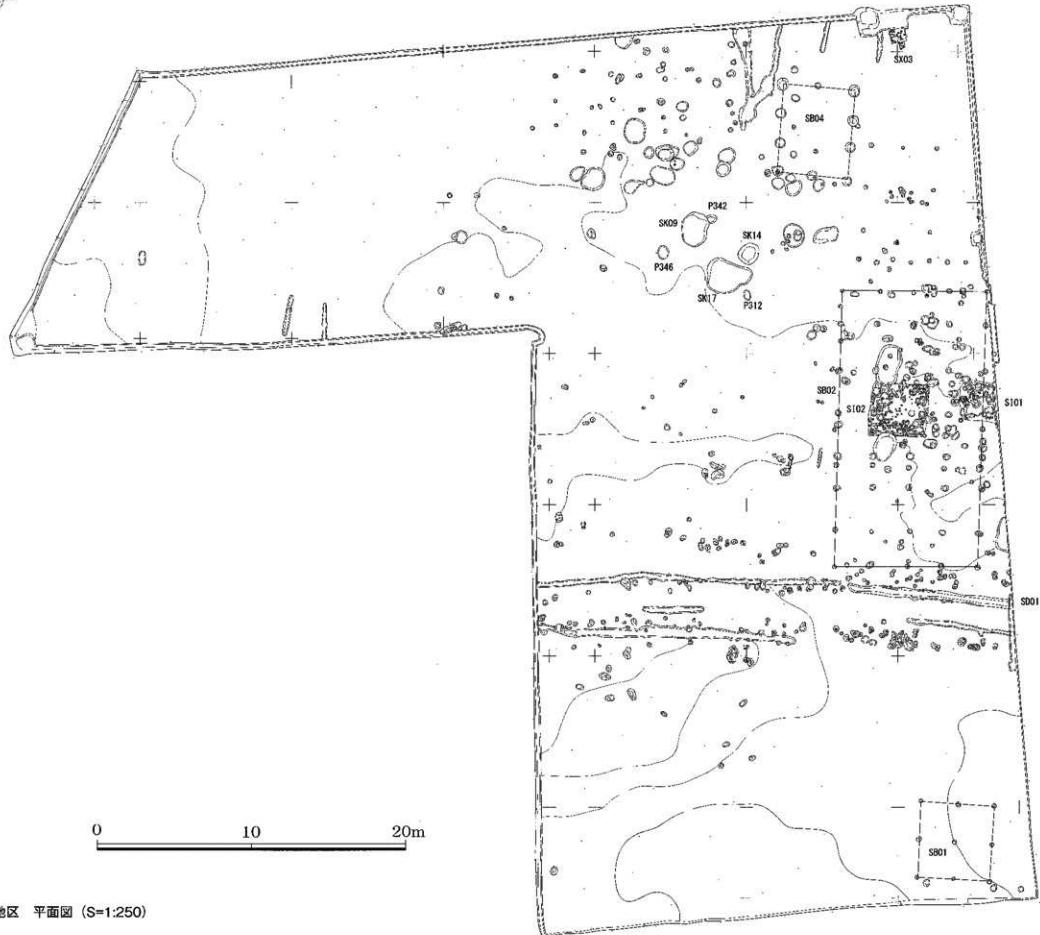
SK32 • SK33



第77図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構 (8) (S=1:60)

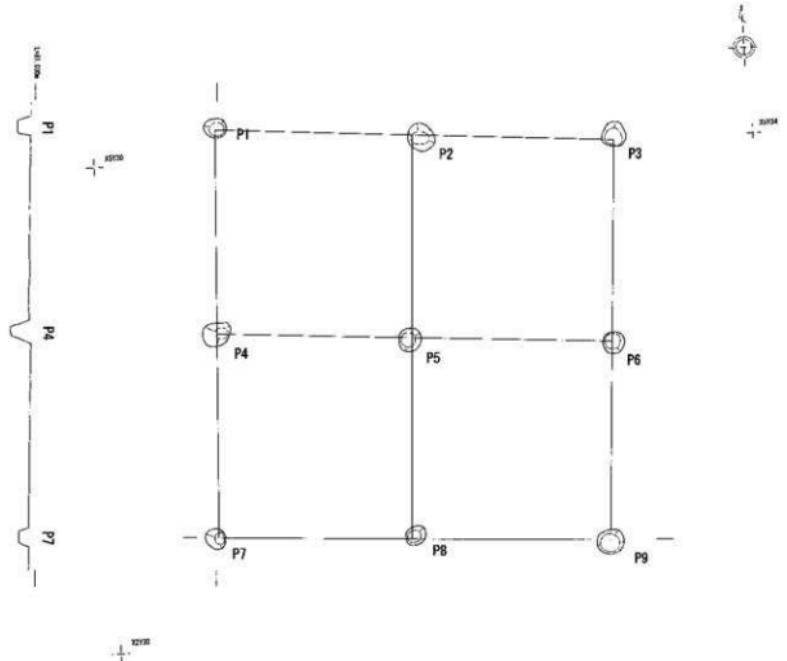


第76図 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺構(9) (S=1:60)



第79図 宗守II遺跡4地区 平面図 (S=1:250)

SB01



SB01-P7

- ②10VR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り

SB01-P9

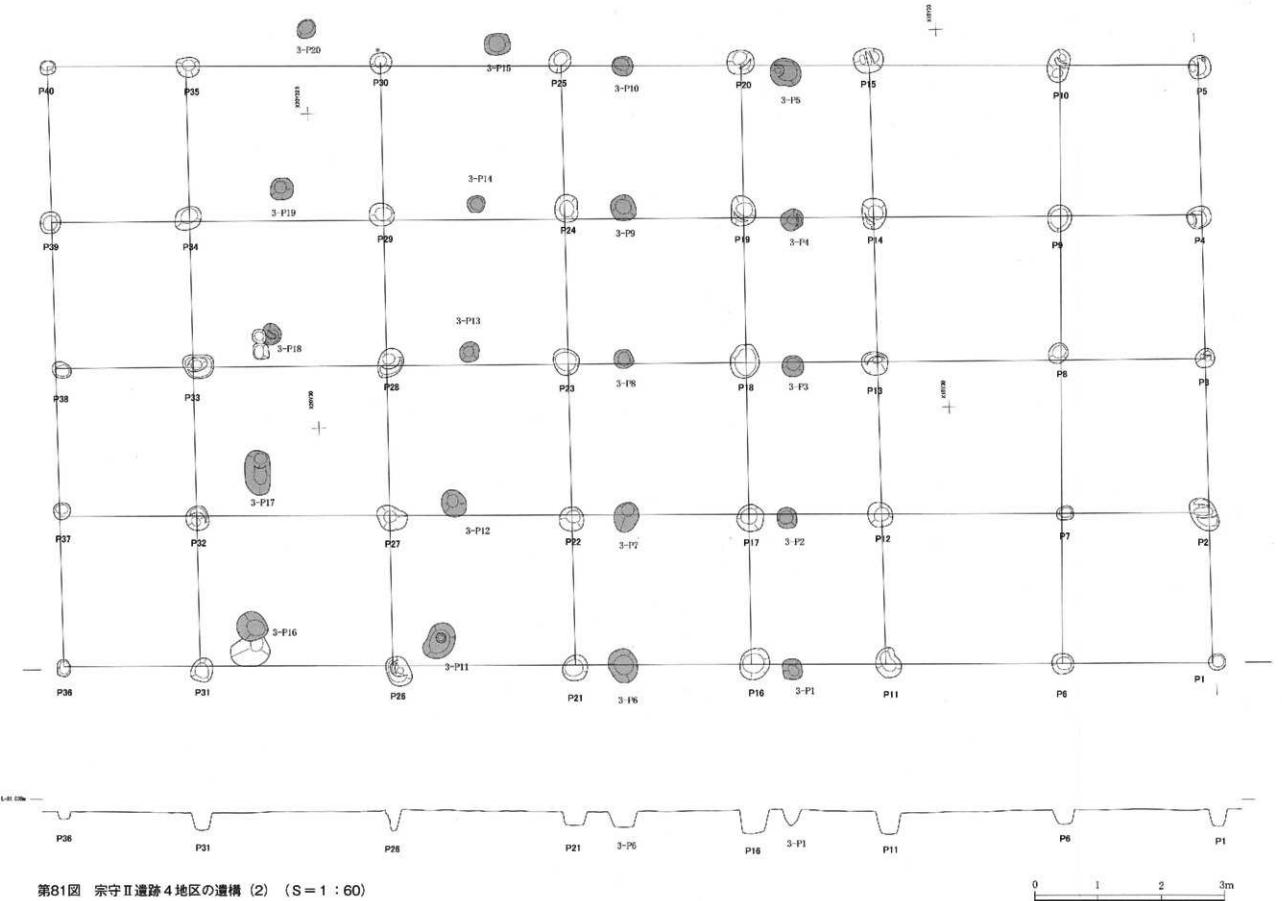
- ①10YR2/3 黒色粘質土 しまり有り

SR01-P9

- ①19783/3 黒褐色粘質土 + 19785/4 に添加黒褐色土 5%、1 次り育地

A horizontal number line starting at 0 and ending at 3 m. There are tick marks at 1 and 2.

第80図 宗守II遺跡4地区の遺構(1) (S=1:60)

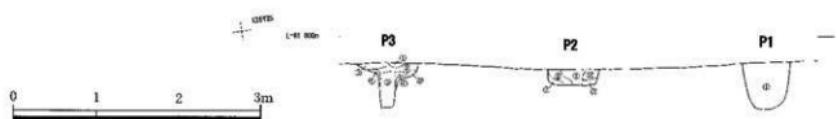
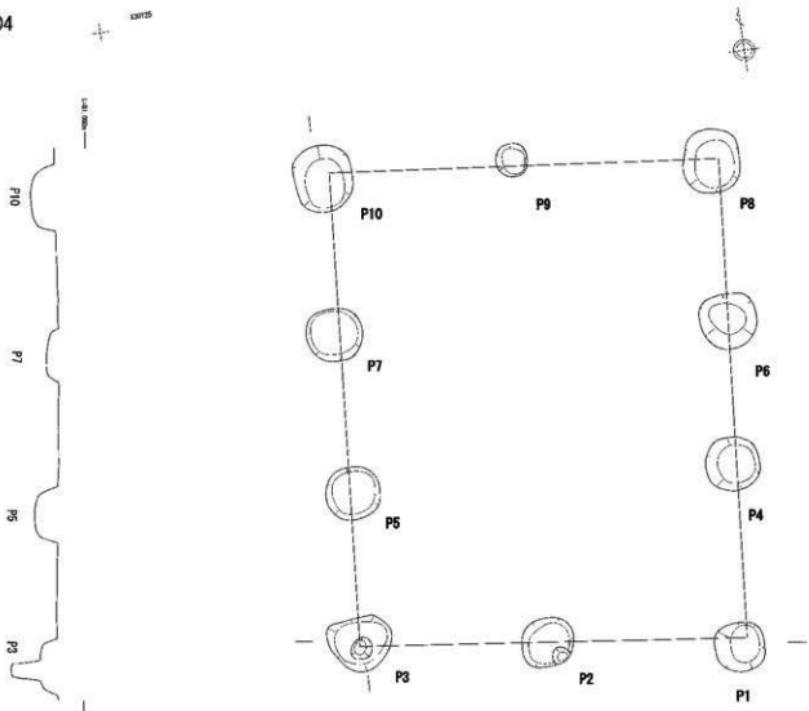


第81図 宗守II遺跡4地区の遺構(2) (S=1:60)

凡例: PNの前に3が付くものはSB03のビットを表し、平面図では (●) というトーンで表している。

- P1
①SB02/3 黒色粘土土 壁あり
②SB02/3 黒色粘土土 壁あり
- P2
①SB02/1 黑色粘土土 壁あり
②SB02/2 黑色粘土土 壁あり
③SB01/7 黑色粘土土 壁あり
④SB01/4 黑色粘土土 壁あり
⑤SB01/3に付する黑色粘土土 壁あり
- P3
①SB01/5 黑色粘土土 壁あり
②SB01/3 黑色粘土土 壁あり
③SB01/4 黑色粘土土 壁あり
④SB01/3に付する黑色粘土土 壁あり
- P4
①SB01/6 黑色粘土土 壁あり
②SB01/2 黑色粘土土 壁あり
③SB01/1 黑色粘土土 壁あり
④SB01/3に付する黑色粘土土 壁あり
- P5
①SB01/3に付する黑色粘土土 壁あり
②SB01/2 黑色粘土土 壁あり
③SB01/3 黑色粘土土 壁あり
④SB01/4 黑色粘土土 壁あり
⑤SB01/3に付する黑色粘土土 壁あり

SB04



SB04-P3

- ①10YR3/3 黒褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量・地山粒多量混じる
- ②10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り 棕色粒多量混じる
- ③10YR3/1 黒褐色粘質土 しまり有り 棕色粒多量・地山粒多量混じる
- ④10YR3/3 硅褐色粘質土 しまり有り 地山粒少量混じる
- ⑤10YR2/2 黑褐色粘質土 しまり有り
- ⑥10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り

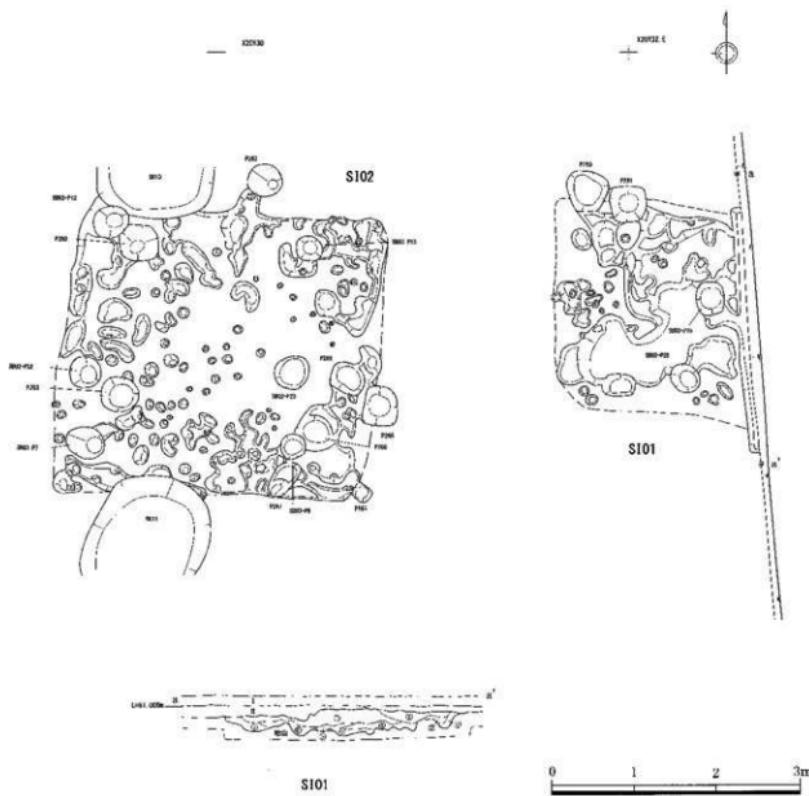
SB04-P2

- ①10YR3/1 黒褐色粘質土 しまり有り
- ②10YR2/1 黑褐色粘質土 しまり有り
- ③10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り

SB04-P1

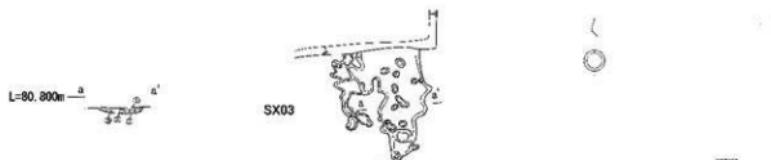
- ①10YR2/2 黑褐色粘質土 しまり有り

第82図 宗守II遺跡4地区の遺構(3) (S=1:60)

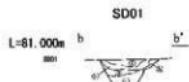


- I 10TR2/3 黒褐色粘質土 しまり有り(表土)
 II 10TR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り
 ①10TR3/2 黒褐色粘質土-10TR3/4 暗褐色粘質土30%混じる しまり有り 地山粒多量混じる
 ②10TR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り 地山粒多量混じる
 ③10TR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り
 ④10TR4/4 暗褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる
 ⑤10TR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる
 ⑥10TR3/2 黑褐色粘質土 しまり有り 地山粒多量混じる
 ⑦10TR3/2 黑褐色粘質土 しまり有り 地山粒多量混じる
 ⑧10TR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り 地山粒多量混じる 砂質土
 ⑨10TR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる 砂質土

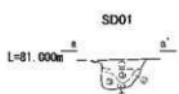
第83図 宗守II遺跡4地区の構造(4) (S=1:60)



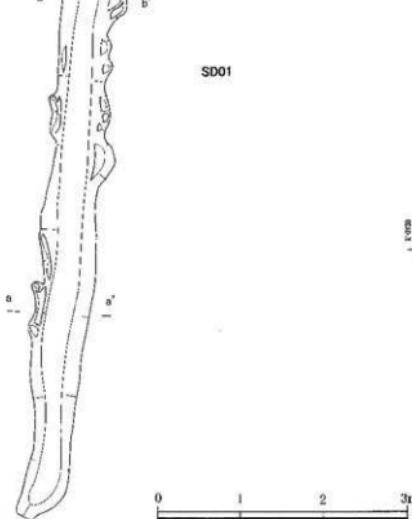
- ①10YR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り 砂質系
 ②10YR2/2 黒褐色粘質土 しまり有り
 ③10YR4/4 棕色粘質土 しまり有り



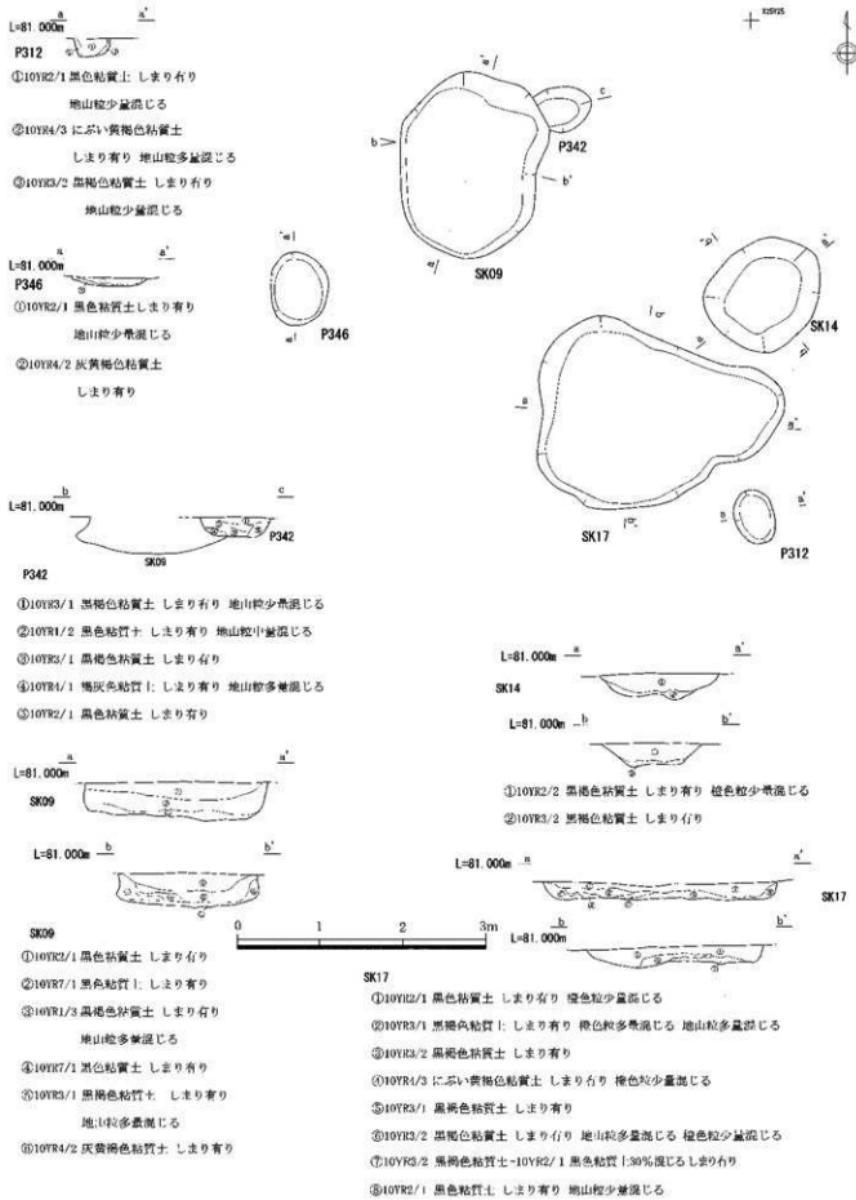
- ①10YR2/1 黒色粘質土 しまり有り
 ②10YR2/3 黑褐色粘質土 しまり有り
 ③10YR4/4 棕色粘質土 しまり有り
 ④10YR2/3 黑褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる
 ⑤10YR4/6 棕色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる



- ①10YR2/2 黑褐色粘質土 しまり有り
 ②10YR2/1 黑色粘質土 しまり有り
 ③10YR1/2 黑色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる
 ④10YR4/1 棕灰色粘質土 しまり有り 灰み粒少量混じる
 ⑤10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまり有り 棕色粒少量混じる



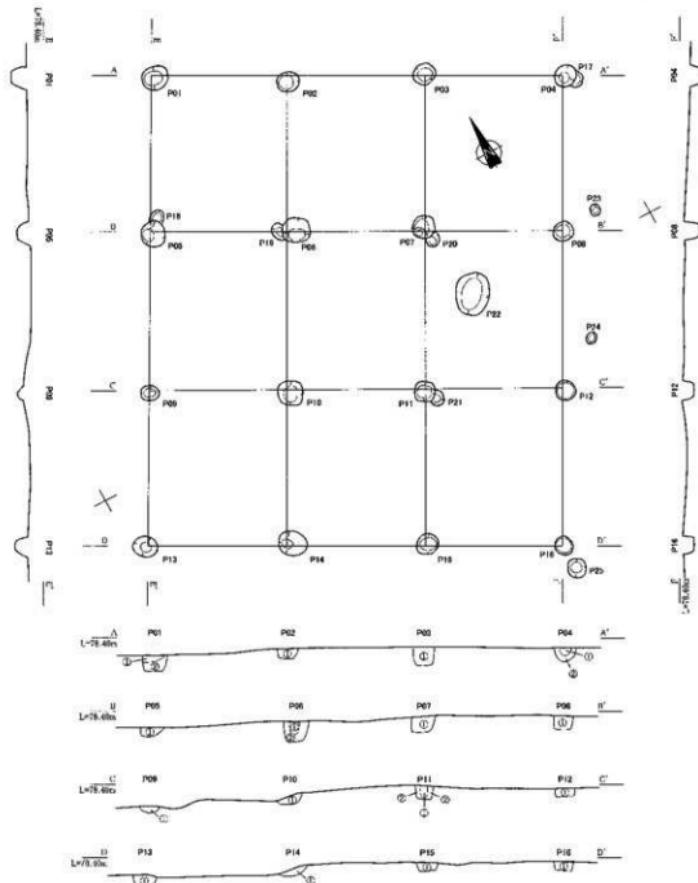
第84図 宗守Ⅱ遺跡4地区の遺構(5) (S=1:60)



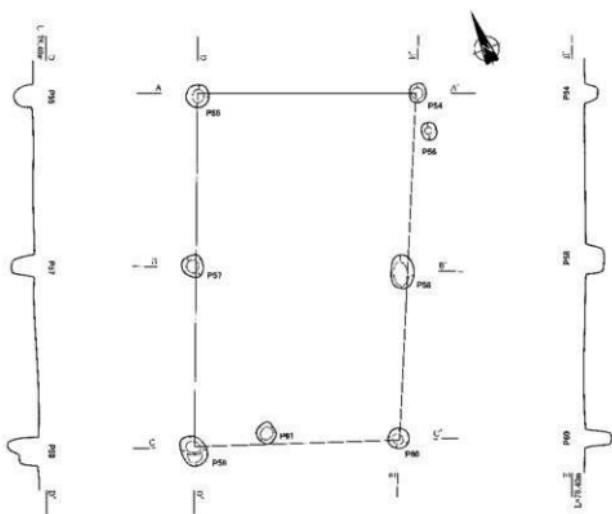
第85図 宗守II遺跡4地区の遺構(6) (S=1.60)



第86図 宗守II遺跡5地区 平面図 (S=1:200)



P01	① 2.5Y3/1 黄褐色砂壤土(60%)と 2.5Y5/3 深褐色砂壤土(40%)の 混合層	P05	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土	P09	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土	P13	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土を底面に 含む層で含む
	2.5Y2/1 黑色砂壤土の州まり 5%以下含む	P06	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土5%以下含む マanganese-鉄分含む	P10	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土	P14	① 2.5Y3/1 黄褐色砂壤土(60%)と 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土(40%)の 混合層
	2.5Y2/1 黑色砂壤土(50%)と 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土(50%)の 混合層		② 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土5%以下含む	P11	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土5%以下含む	P15	① 2.5Y3/1 黑褐色砂壤土(20%)と 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土(80%)の 混合層
P02	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 深褐色砂壤土5%含む	P07	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 東側にマanganese-鉄分含む	P12	① 2.5Y2/1 黑褐色砂壤土(60%)と 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土(40%)の 混合層	P16	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土(60%)と 2.5Y4/1 黄褐色砂壤土(40%)の 混合層
P03	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土5%以下含む	P08	② 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 黄褐色砂壤土5%以下含む				
P04	① 2.5Y2/1 黑色砂壤土 ② 2.5Y2/1 黑色砂壤土 2.5Y5/3 蒙脱性砂壤土5%以下含む						



The schematic diagram shows a horizontal line representing the optical axis. At the left end, there is a lens labeled $f = 75.0\text{ cm}$. To its right, a dashed circle labeled 'C' is positioned below the axis. Further to the right, a dashed circle labeled '(O)' is positioned above the axis. The distance between the lens and circle 'C' is labeled $L = 25.0\text{ cm}$. To the right of circle 'C', the line continues as 'P54'. At the far right, there is a small circle labeled 'A'.

L-76.40m

P57

P58

11'

11.5'

C

- P54**
① 2.5Y2/1 黒色砂壤土
2.5Y5/3 黄褐色砂壤土 (地山) 下位に20%含む

P55
① 2.5Y2/1 黑色砂壤土
2.5Y5/3 黄灰色砂壤土 (地山) の割合30%含む

P57
① 2.5Y2/1 黑色砂壤土

P58
① 2.5Y2/1 黑色砂壤土
2.5Y5/3 黄褐色砂壤土10%含む

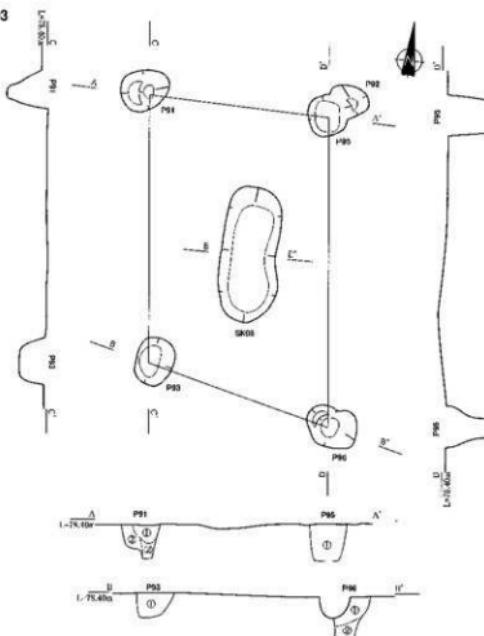
P59
① 2.5Y2/1 黑色砂壤土
2.5Y5/3 黄褐色砂壤土の割合10%含む

P60
① 2.5Y2/1 黑色砂壤土
2.5Y5/3 黄褐色砂壤土 (地山) 下位に含む

第88図 宗守Ⅱ遺跡5地区の遺構（2）（S=1:60）



SB03



SB03

P91
 ① 2.5Y2/1 黒色砂壇上
 ② 2.5Y3/1 黑褐色砂壇上
 ③ 2.5Y3/1 黑褐色砂壇土(40%)と
 2.5Y5/3 黄褐色砂壇土(60%地山土)の混合層

P93

① 2.5Y2/1 黒色砂壇土(80%)と
 2.5Y5/3 黄褐色砂壇土(20%地山土)の混合層

P95

① 2.5Y2/1 黒色砂壇土(80%)と
 2.5Y5/3 黄褐色砂壇土(20%地山土)の混合層

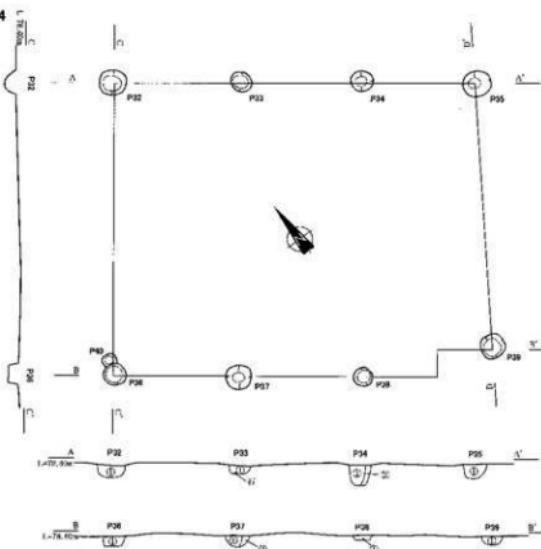
P96

① 2.5Y2/1 黒色砂壇土(40%)と
 2.5Y3/1 黑褐色砂壇土(30%)と
 2.5Y5/3 黑褐色砂壇土(30%)の混合層
 ② 2.5Y3/1 黑褐色砂壇土(50%)と
 2.5Y5/3 黄褐色砂壇土(50%)の混合層

SK08

① 2.5Y2/1 黒色砂壇上
 2.5Y6/3 黄褐色砂壇土10%含む

SB04



SB04

P32 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇上

P33 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇上

P34 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇土
 ② 2.5Y4/1 黄灰色砂壇土(50%)と
 2.5Y5/3 黄褐色砂壇土(50%地山土)の混合層

P35

① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇土
 鉄分粒上位に含む

P36

① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇上

P37 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇上
 ② 2.5Y3/1 黑褐色砂壇土

P38 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇土

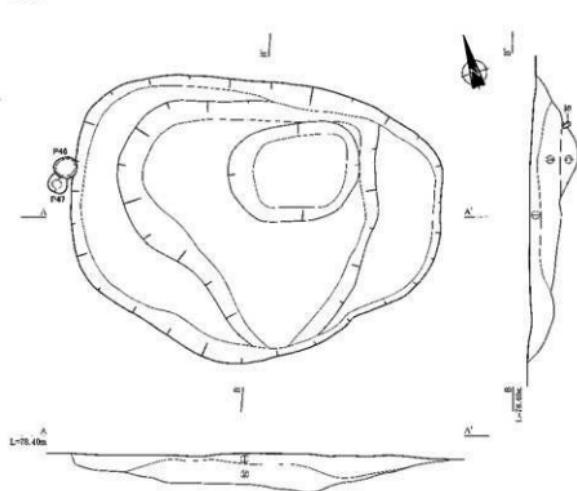
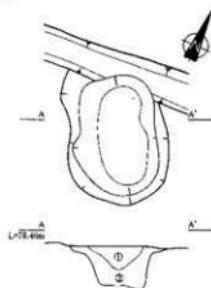
P39 ① 2.5Y4/1 黄灰色砂壇土
 鉄分10%含む

0 1.40 3m

第89図 宗守II遺跡5地区の遺構(3) (S=1:60)

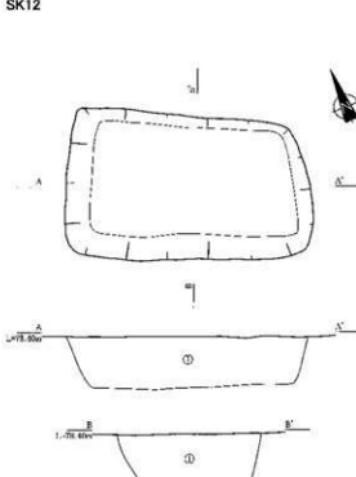
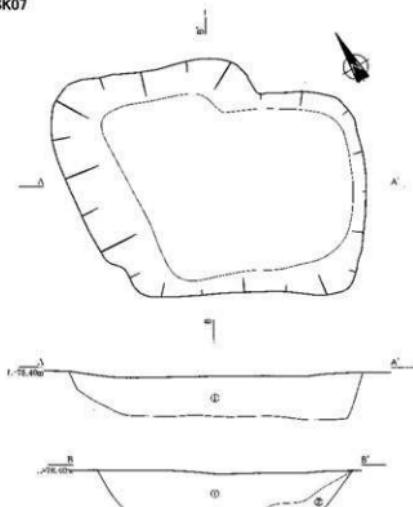
SK03

SK04

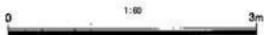


SK07

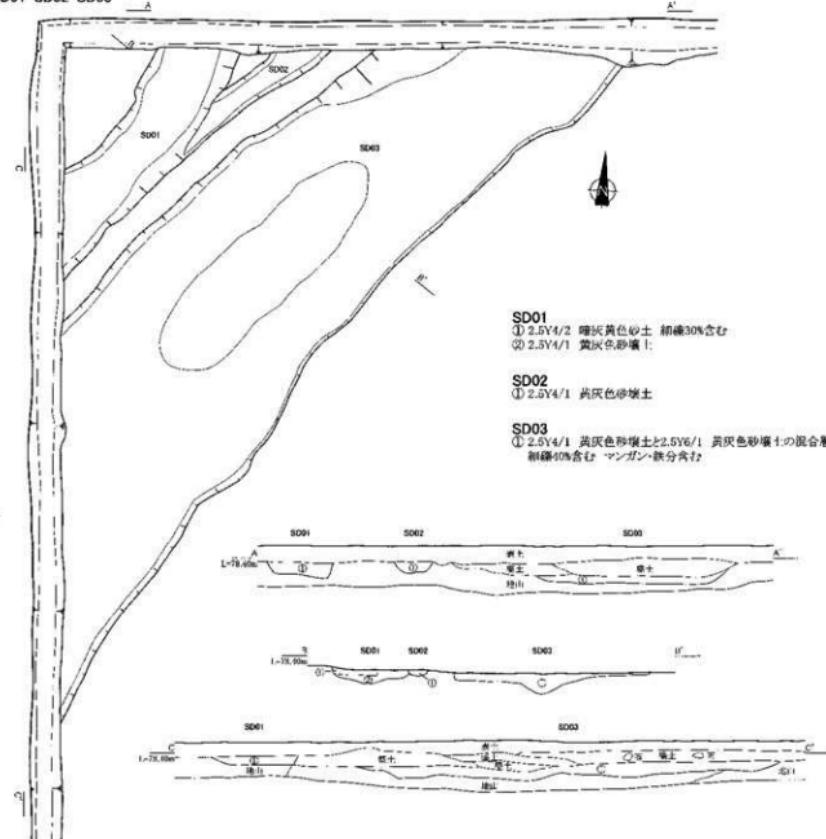
SK12



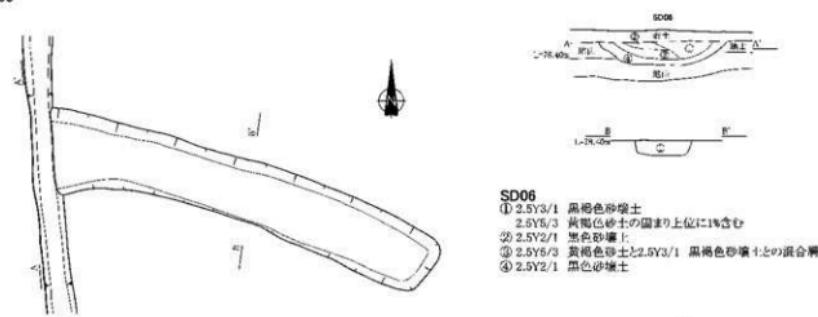
第90図 宗守Ⅱ遺跡5地区の遺構(4) (S=1:60)



SD01・SD02・SD03



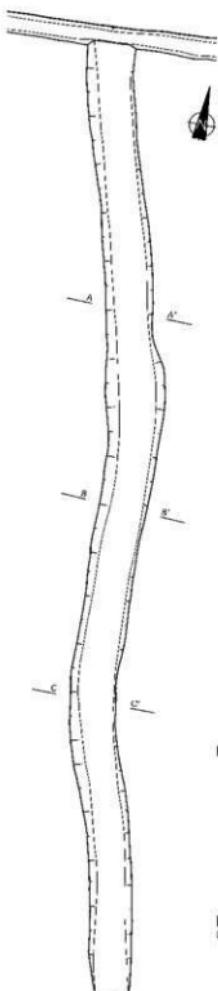
SD06



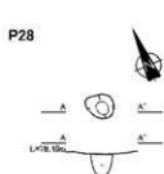
第91図 宗守II遺跡5地区の遺構 (5) (S=1:60)



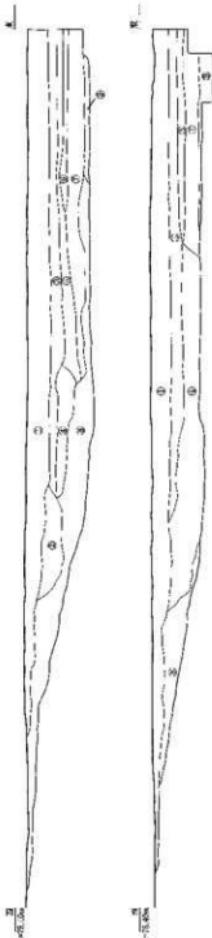
SD05



P28

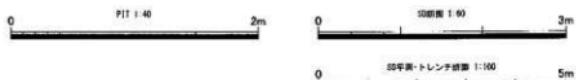


トレンチ1・トレンチ2



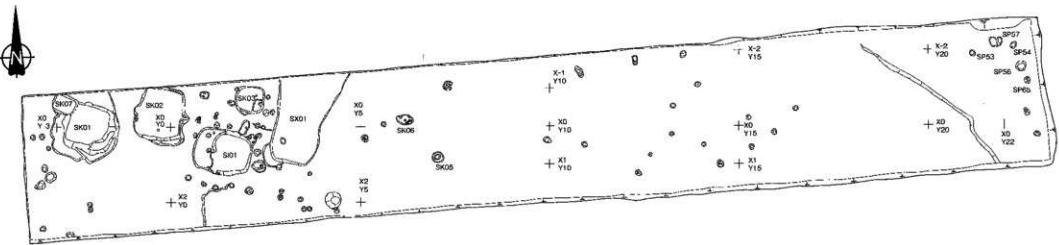
トレンチ1・トレンチ2:

- (1) 2SY3/2 黒褐色砂層土(60%)と2SY2/1 黒色砂層土(50%)の混合層 小窓-1壁(砂含む)
- (2) 2SY3/2 黒褐色砂層土: 小窓3以降(手前)マガツシ多(含む)
- (3) 2SY3/2 黑褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (4) 2SY3/3 黄褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (5) 2SY5/1 黑褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (6) 2SY5/1 黑褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (7) 2SY4/1 黑褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (8) 2SY4/1 黑褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む
- (9) 2SY5/1 黄褐色砂層土: 黄褐色シルト質土多く含む 地山層

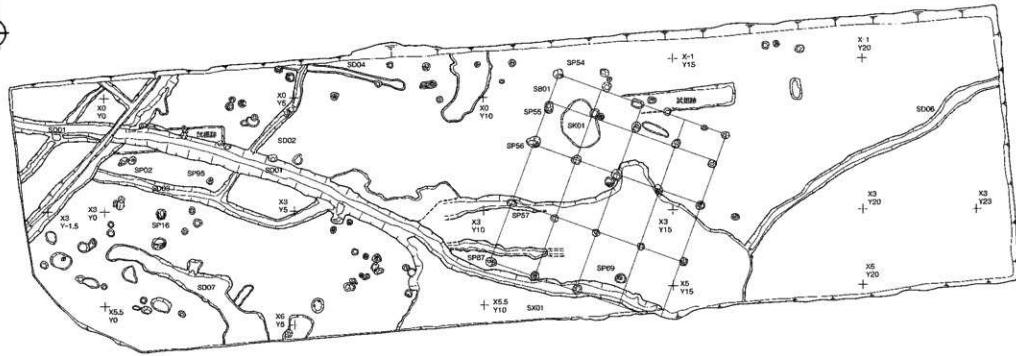


第92図 宗守II遺跡5地区の遺構(6)(PIT S=1:40, SD断面 S=1:60, SD平面トレンチ断面 S=1:100)

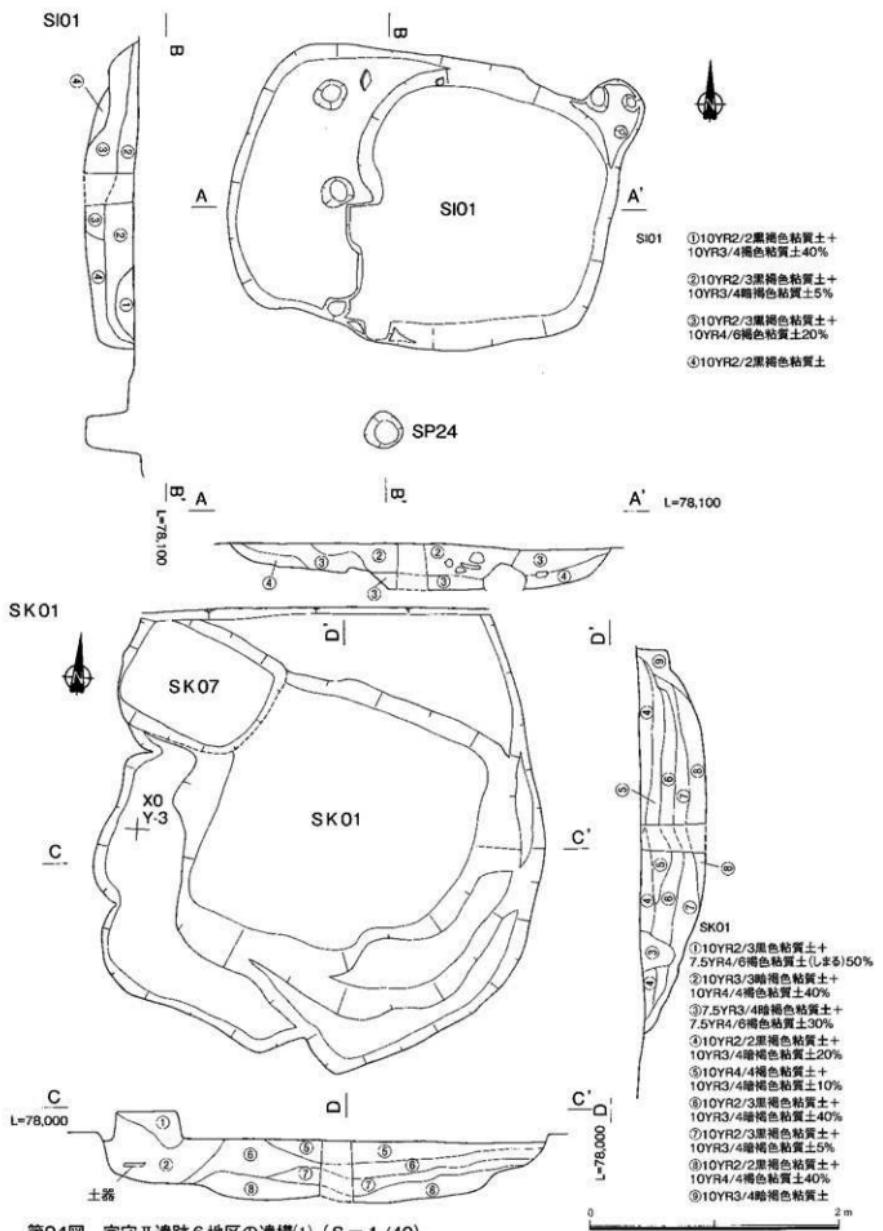
6 地区



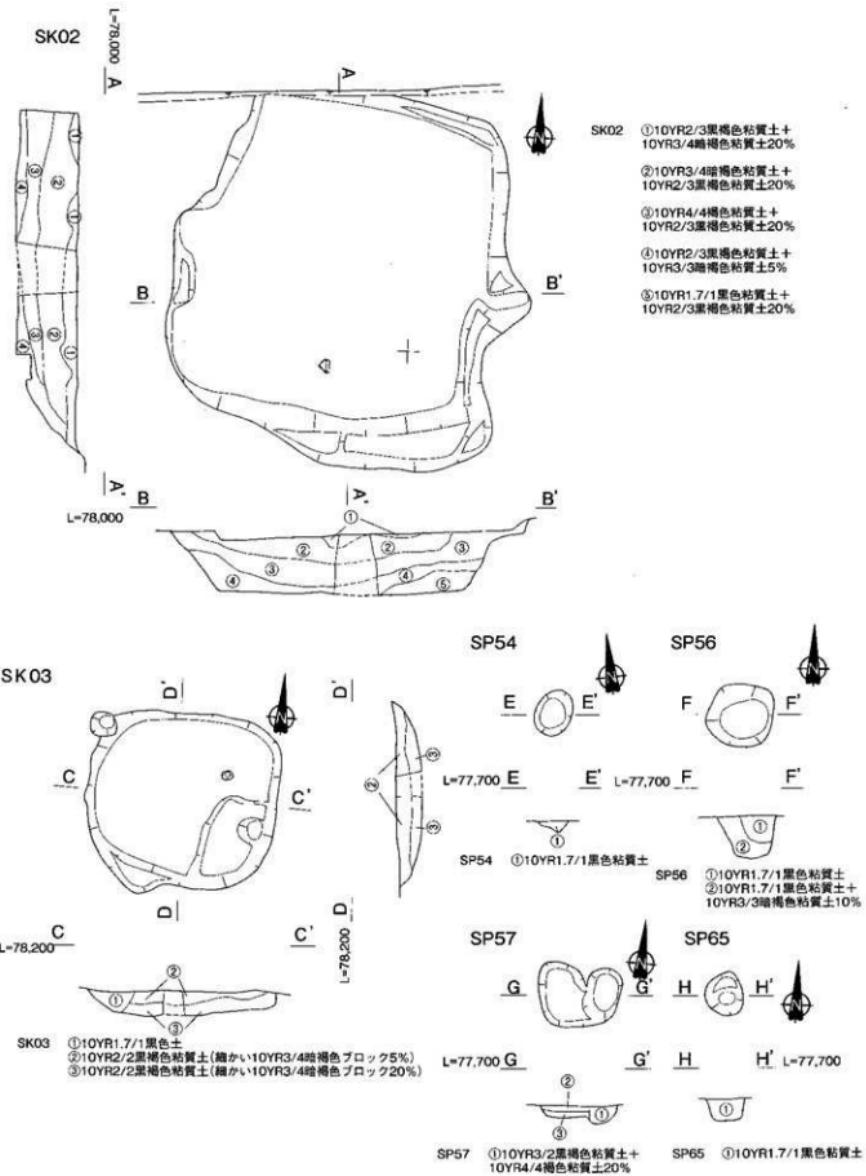
7 地区



第93図 宗守Ⅱ遺跡6・7地区平面図 (S=1/200)

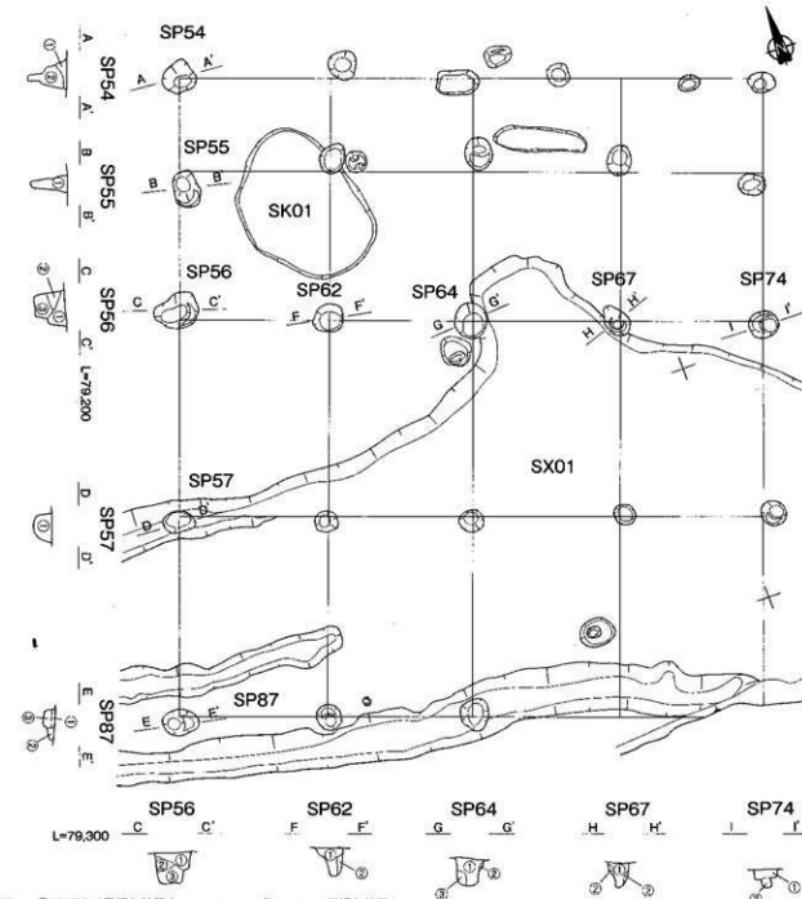


第94図 宗守II遺跡6地区の遺構(1) (S = 1 / 40)



第95図 宗守II遺跡6地区の遺構(2) (S = 1 / 40)





SP54 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%
SP55 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
③10YR3/2黒褐色粘質土5%
+10YR4/4褐色粘質土
④10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
⑤10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%

SP56 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%
SP57 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%

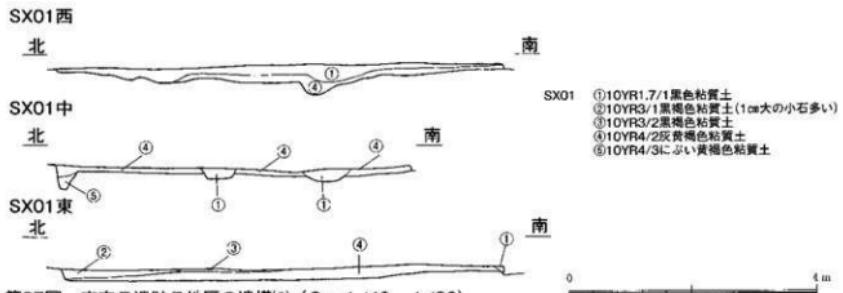
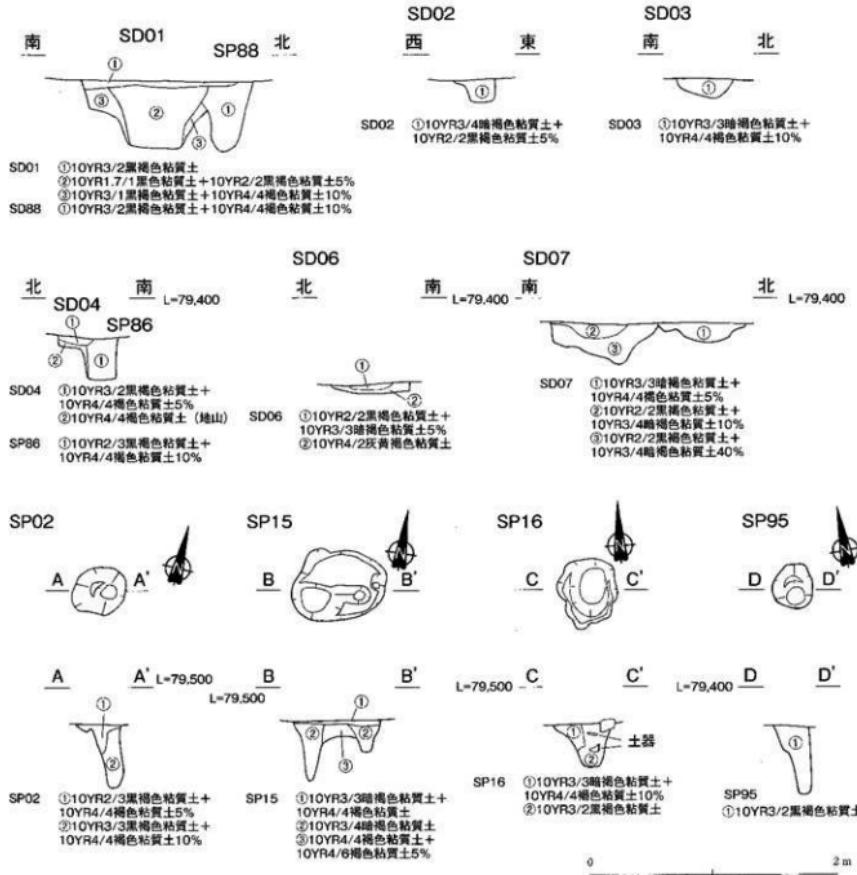
SP87 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%

SP62 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%

SP64 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR4/4褐色粘質土
③10YR4/4褐色粘質土

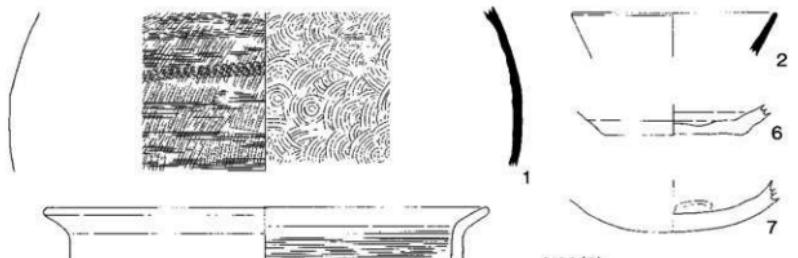
SP67 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土20%
SP74 ①10YR3/2黒褐色粘質土+
10YR4/4褐色粘質土5%
②10YR3/2黒褐色粘質土

第96図 宗守Ⅱ遺跡7地区の構造(1) (S = 1 / 80)

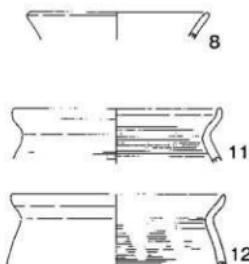


第97図 宗守Ⅱ遺跡7地区の遺構(2) (S = 1/40, 1/80)

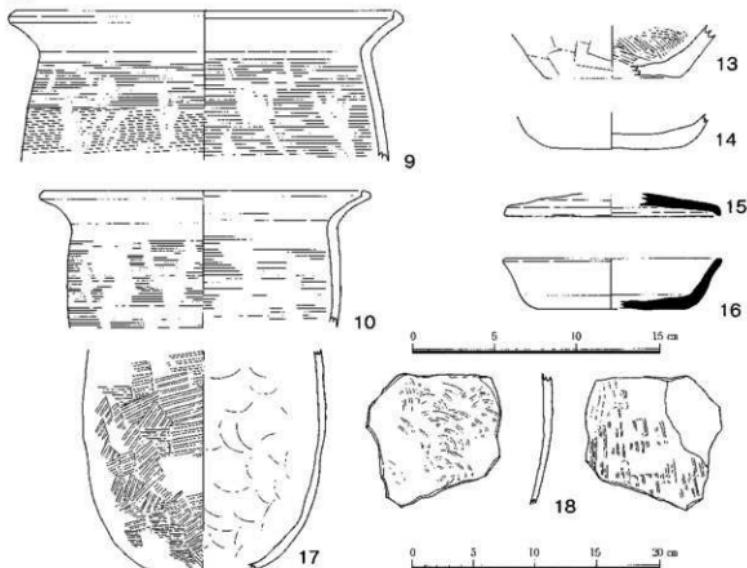
SI01(1~7)



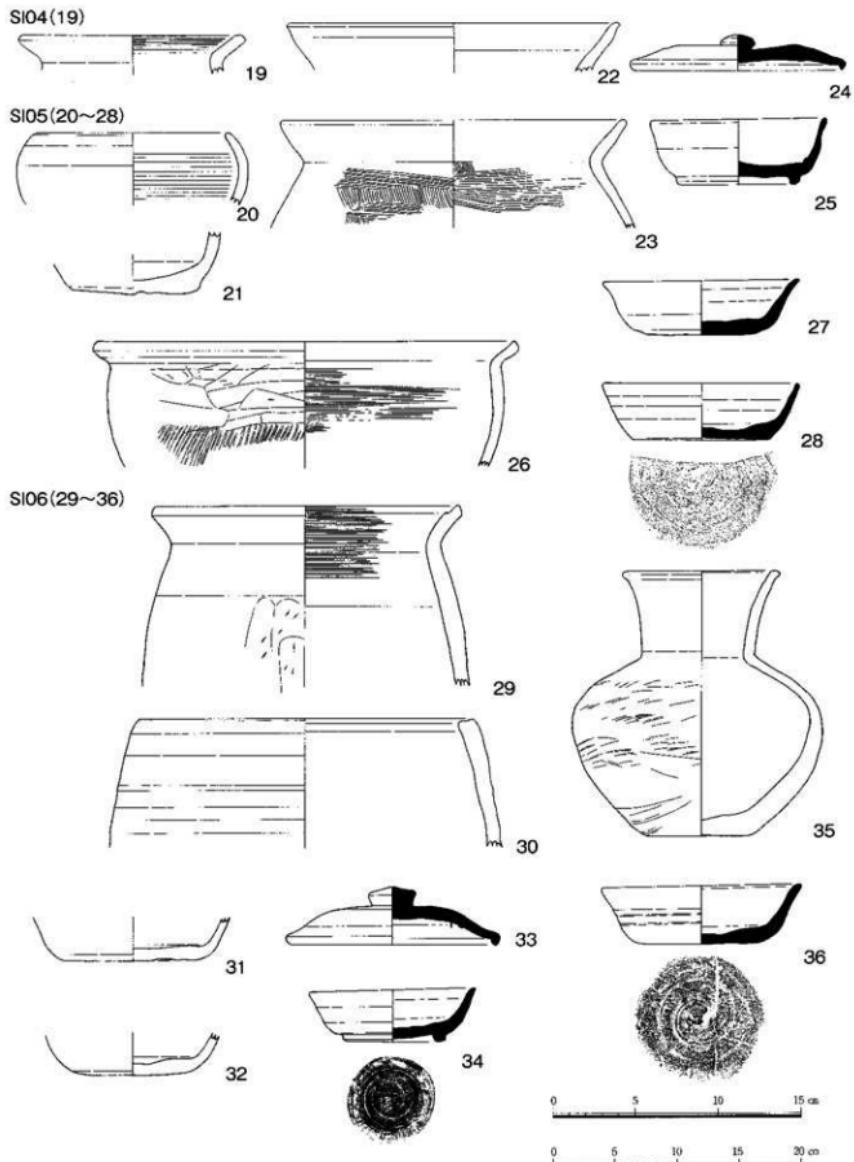
SI02(8)



SI03(9~18)

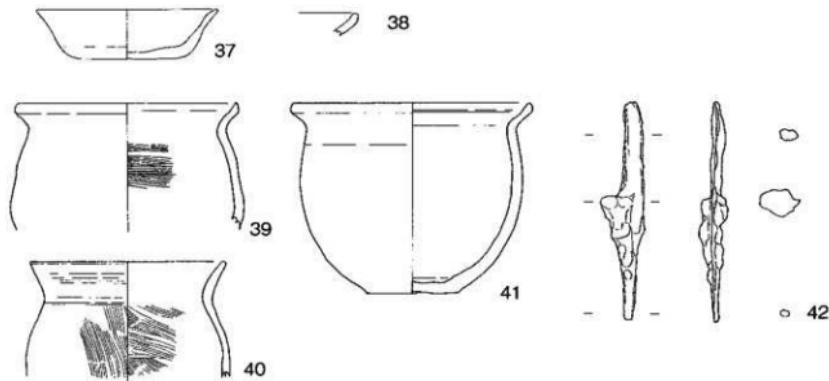


第98図 高島遺跡1地区の遺物(1) (1, 17, 18はS=1:4、その他はS=1:3)

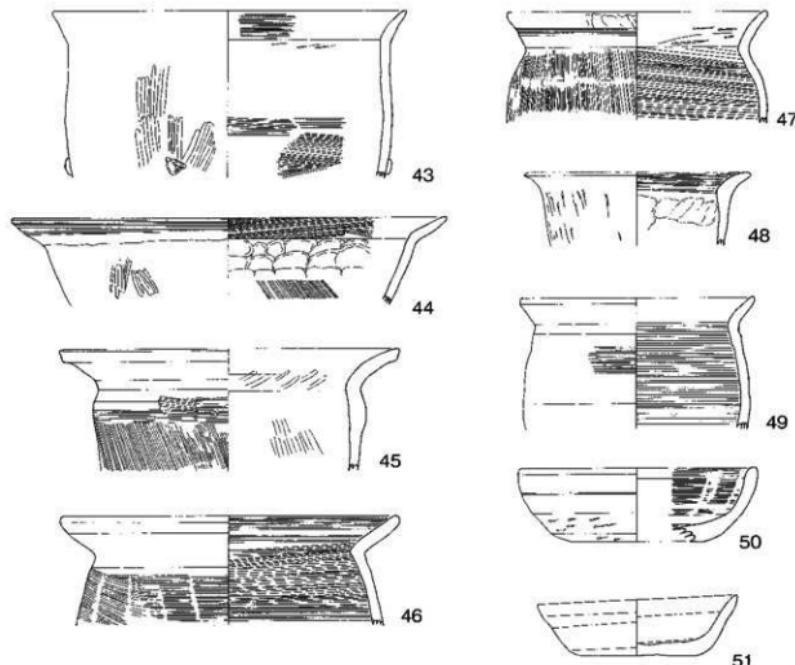


第99図 高畠遺跡 1地区の遺物(2) (26はS=1:4、その他はS=1:3)

SI06(37~42)

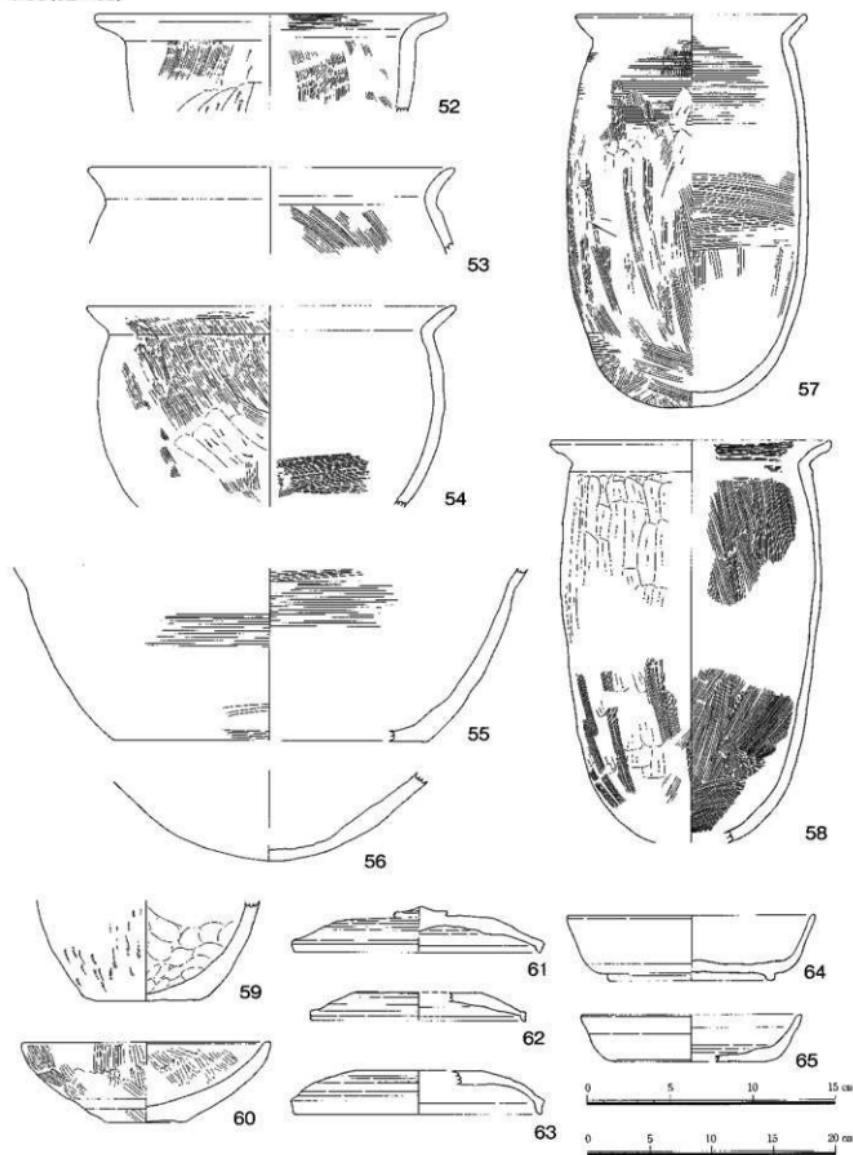


SI07(43~51)



第100図 高島遺跡1地区の遺物(3) (43, 44はS=1:4、その他はS=1:3)

SI08(52~65)



第101図 高畠遺跡1地区の遺物(4) (54、56~58はS=1:4、その他はS=1:3)

SI08(66・67)



66



67

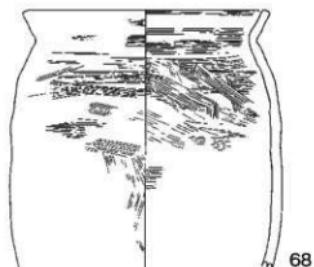


0 5 10 15 cm



0 5 10 15 20 cm

SI09(68~79)



68



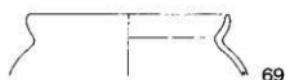
71



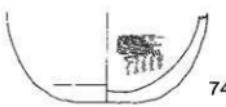
72



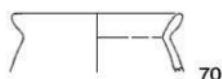
73



69



74



70



75



76



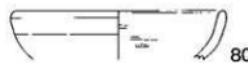
79



SI11(80・81)



77



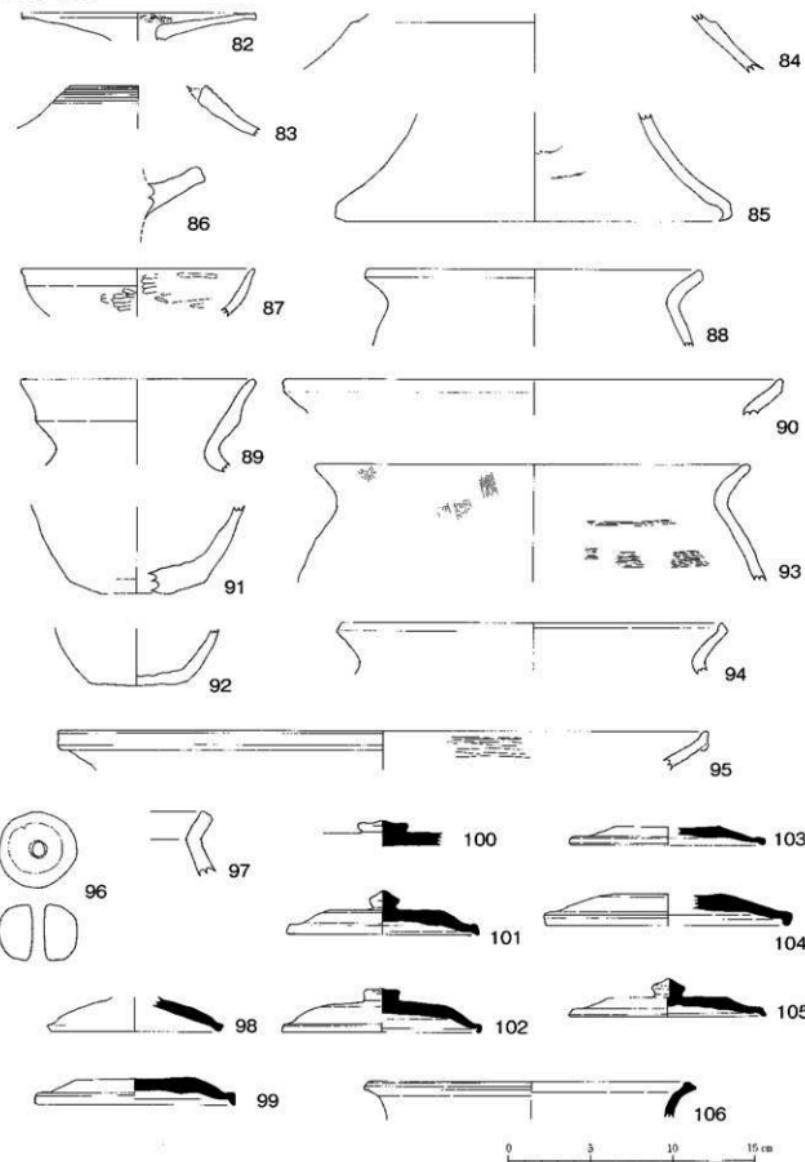
80



81

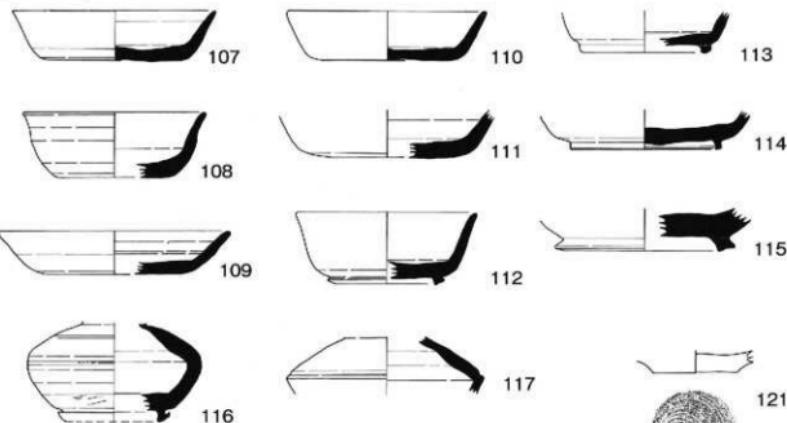
第102図 高島遺跡1地区の遺物(6) (68、71、75、79はS=1:4、その他はS=1:3)

SD01(82~106)

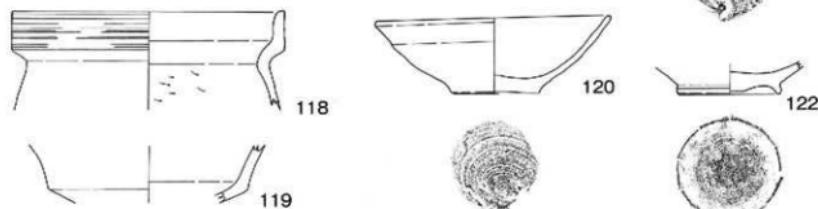


第103図 高畠遺跡1地区の遺物(6) (S = 1 : 3)

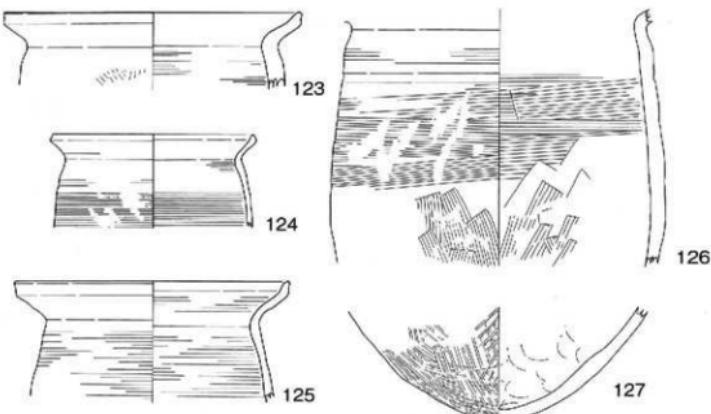
SD01(107~117)



SD02(118~122)



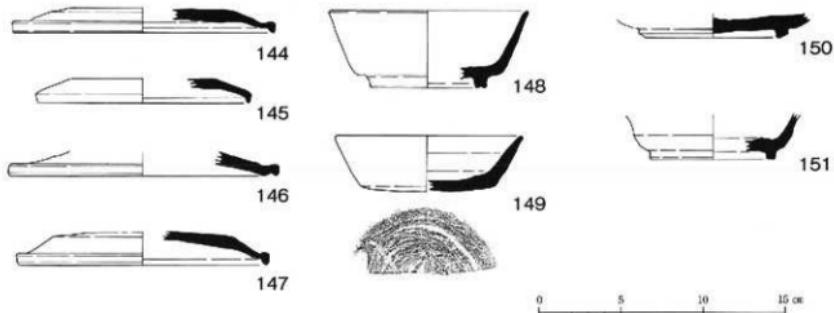
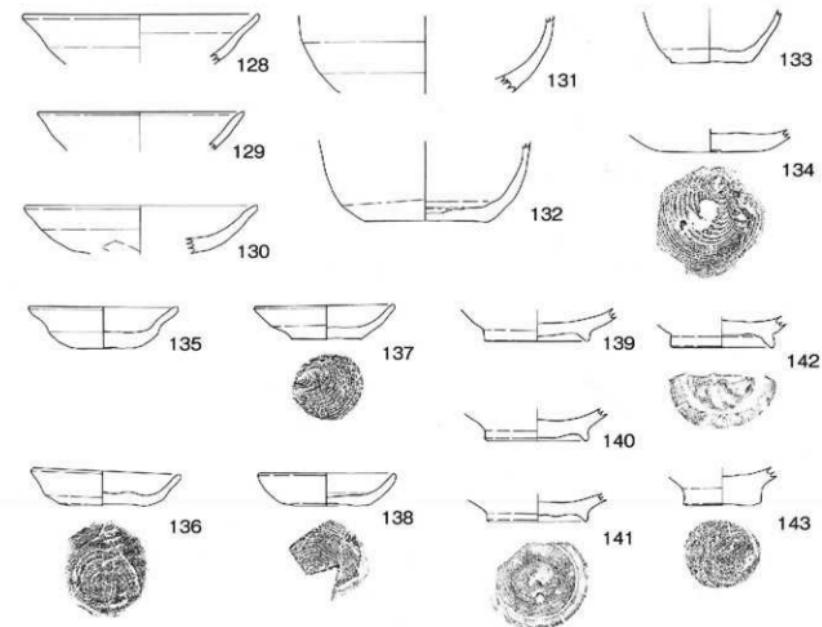
SD03(123~127)



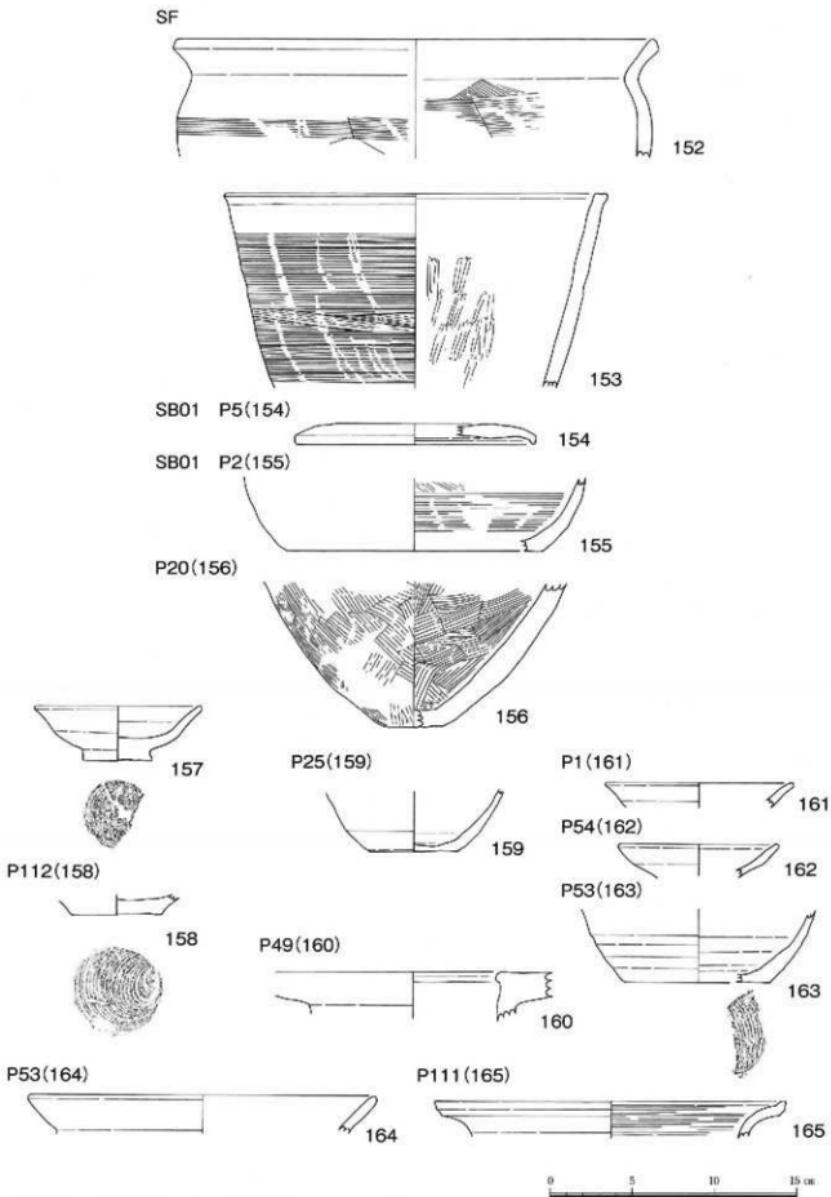
0 5 10 15 cm

第104図 高島遺跡1地区の遺物(7) (S = 1 : 3)

SD03(128~151)

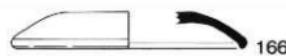


第105図 高畠遺跡1地区の遺物(8) (S = 1 : 3)

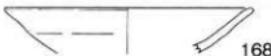


第106図 高畠遺跡1地区の遺物(9) (S = 1 : 3)

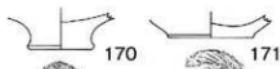
SK01(166)



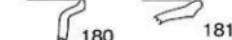
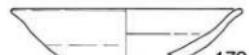
SK03(167・168)



SK04(169~178)



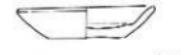
SK06(179~181)



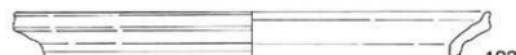
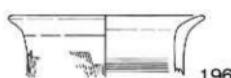
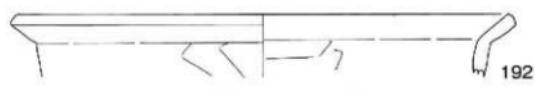
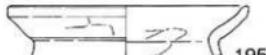
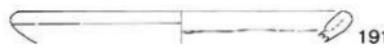
SK09(187~189)



SK08(183~186)



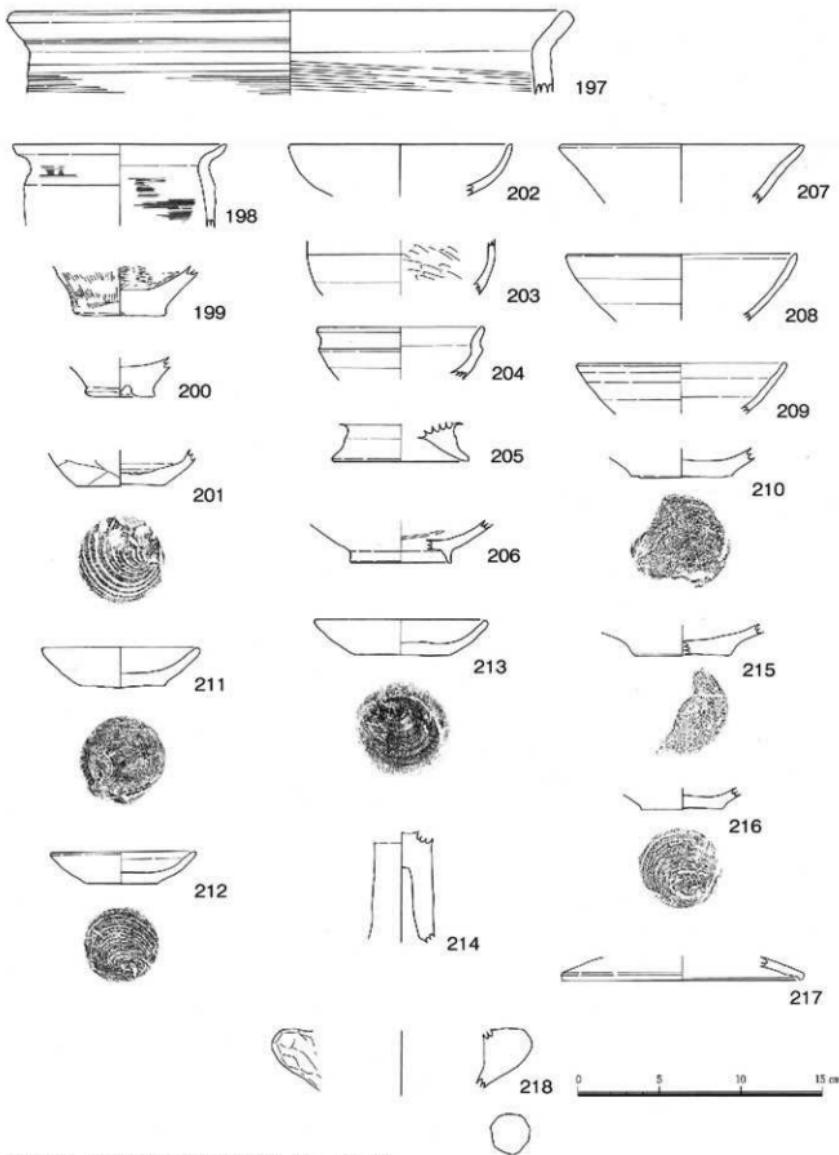
包含層(190~196)



0 5 10 15 cm

第107図 高畠遺跡1地区の遺物⑩ (S = 1 : 3)

包含層(197~217)



第108図 高畠遺跡1地区の遺物(1) (S = 1 : 3)

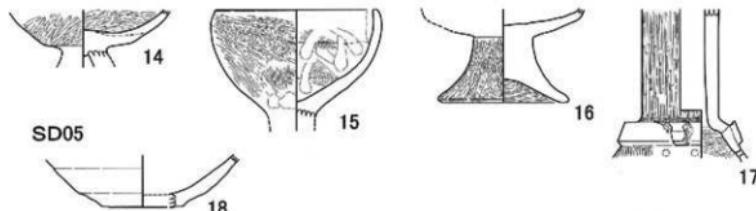
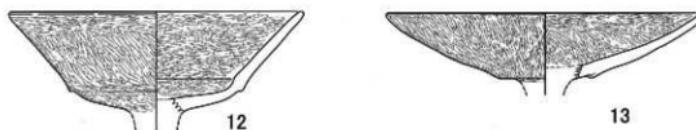
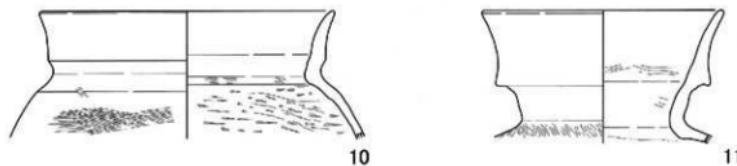
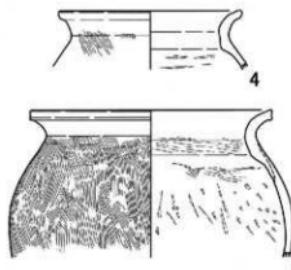
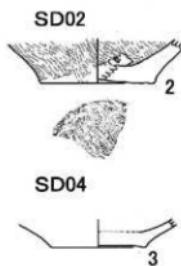
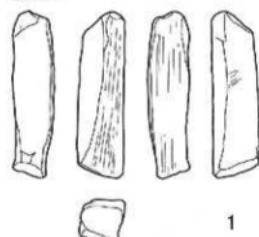
第12表 高島遺跡1地区出土遺物観察表

目次	分類	種類	種類	口径	高さ	形状	胎土	成形・焼成	特記事項	
									内面	外側
98	75 1	S01	系帯器	縦	-	13.1	-	白色粗中や多	内面: タグ付ハケ口	修復既存24% ハケ口6条
98	75 2	S01	風呂蓋	杯	(12.3)	2.7	-	織粒较少	内面: ロココロ	内面: 無
98	75 3	S01	土師器	縦	(26.4)	4.1	-	赤色斑中多	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 4	S01	土師器	縦	-	1.9	(8.1)	織粒やや多	内面: ハク削り	内面: ハク削り
98	75 5	S01	土師器	縦	(26.0)	4.5	-	赤色较多	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 6	S01	土師器	縦	-	-	-	赤色较多	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 7	S01	土師器	縦	-	3.3	(5.4)	白色較多 赤色较多	内面: ナラ ハケ口	内面: ハク削り 内面: ナラ
98	75 8	S02	土師器	縦	(10.6)	1.7	-	織粒较少	内面: ナラ	内面: ナラ
98	75 9	S03	上部器	縦	(22.0)	9.2	-	白色粗中や多	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 10	S03	土師器	縦	(19.0)	8.4	-	赤色较少	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 11	S03	上部器	縦	(12.4)	3.4	-	織粒较少や多	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 12	S03	土師器	縦	(12.7)	4.4	-	織粒较少	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
98	75 13	S03	土師器	縦	-	3.3	(8.2)	粗粒较多	内面: ハク削り	内面: タケの毛状ハケ口
98	75 14	S03	上部器	縦	-	2.3	(8.8)	粗粒较多	内面: ハク削り	内面: ハク削り
98	75 15	S03	上部器	縦	(12.9)	1.4	-	白色较少	内面: ロココロ	内面: ロココロ
98	75 16	S03	復原器	縦	(12.9)	3.1	(8.9)	織粒较少	内面: ロココロ	内面: ロココロ
98	75 17	S03	土師器	縦	-	18.1	-	織粒较少や多	内面: ナラ	内面: ナラ
98	75 18	S03	土師器	縦	-	10.7	-	粗粒较少	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 19	S01	土師器	縦	(13.0)	2.1	-	織粒较少	内面: ナラ ハケ口	内面: ナラ ハケ口
99	76 20	S05かまど	土師器	縦	(11.4)	4.4	-	白色较少	内面: ナラ	内面: ハク削り
99	76 21	S05	土師器	縦	-	3.8	7.9	織粒较少	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 22	S05かまど	土師器	縦	(19.7)	3.0	-	白色较少	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 23	S05	土師器	縦	(20.5)	6.6	-	織粒较少	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 24	S05かまど	土師器	縦	(12.5)	2.15	-	白色较少 少量紅色少	内面: ロココロ	内面: ロココロ
99	76 25	S05	復原器	縦	10.5	4.05	7.0	白色较少	内面: ロコロ	内面: ロコロ
99	76 26	S05	土師器	縦	(26.0)	-	-	織粒较少 LL MP S 多	内面: ハケ口 ナラ	内面: ハク削り
99	76 27	S05	復原器	縦	11.8	3.4	6.5	織粒较少 LL MP S 多	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 28	S05	復原器	縦	(11.6)	3.45	(8.4)	織粒较少	内面: ロコロ	内面: ロコロ
99	76 29	S106	土師器	縦	(18.6)	-	-	砂粒少 M 少 S 多	内面: ロコロ	内面: ロコロ
99	76 30	S106かまど	土師器	縦	(20.0)	-	-	砂粒少 M 少 S 多	内面: ロコロ	内面: ロコロ
99	76 31	S106	復原器	縦	-	-	(8.2)	砂粒LL少 M 中 S 多	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 32	S106かまど	復原器	縦	-	(7.2)	-	砂粒少 S 多	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 33	S106	復原器	縦	12.2	-	-	砂粒LL少 MS 中	内面: ナラ (ヨリのちナラ)	内面: ナラ (ヨリのちナラ)
99	76 34	S106	復原器	縦	10.0	5.3	6.2	砂粒少 S 多	内面: ナラ	内面: ナラ
99	76 35	S106	復原器	縦	8.7	16.3	6.05	織粒少 細粒少	内面: ロコロ	内面: ロコロ
99	76 36	S106	復原器	縦	12.0	3.6	7.2	砂粒少	内面: ナラ	内面: ナラ
100	37	S106	復原器	縦	(11.0)	3.0	6.4	-	内面: ナラ	内面: ナラ
100	38	S106	上部器	縦	-	-	-	-	内面: ナラ	内面: ナラ
100	39	S106	土師器	縦	(13.2)	-	-	-	内面: ナラ	内面: ナラ
100	40	S106	土師器	縦	(12.0)	-	-	-	内面: ナラ	内面: ナラ
100	41	S106	上部器	縦	14.2	11.7	5.6	-	内面: ナラ	内面: ナラ
100	42	S106	鉢製品	小刀状	13.5	0.5~2.6	0.5~1.6	-	内面: ナラ (のちナラ)	内面: ナラ (のちナラ)
100	77 43	S107	土師器	縦	(28.4)	-	-	砂粒LL少 S 多	内面: ミヅガ	内面: ミヅガ
100	77 44	S107	土師器	縦	(35.0)	-	-	砂粒LL少 L S M 中 S 多	内面: ハケ口	内面: ハケ口
100	77 45	S107	土師器	縦	(28.4)	-	-	砂粒LL少 LM M 中 S 多	内面: ハケ口	内面: ハケ口
100	77 46	S107	土師器	縦	(28.4)	-	-	砂粒LM中 S 多	内面: ハケ口	内面: ハケ口
100	77 47	S107	土師器	縦	(15.6)	-	-	砂粒LL少 MS 多	内面: ハケ口	内面: ハケ口
100	77 48	S107	土師器	縦	(13.6)	-	-	砂粒LL少 S 中	内面: ナラ	内面: ナラ
100	77 49	S107	上部器	縦	(14.0)	-	-	砂粒LL LM S 多	内面: ハケ口	内面: ハケ口
100	77 50	S107	土師器	縦	(14.2)	4.5	(8.6)	砂粒LMS 多	内面: ナラ (のちナラ) (のちナラ)	内面: ナラ (のちナラ) (のちナラ)
100	77 51	S107	復原器	縦	12.0	3.7	7.2	砂粒LL少 S 中	内面: ナラ	内面: ナラ
101	77 52	S108	土師器	縦	(21.0)	-	-	砂粒LL少 S 中	内面: ロコロ	内面: ロコロ
101	77 53	S108	上部器	縦	(22.0)	-	-	砂粒LL少 S 中	内面: ロコロ	内面: ロコロ
101	77 54	S108	土師器	縦	(29.6)	16.5	-	砂粒LL少 M S 中	内面: ナラ	内面: ナラ

品目	規格番号	規格番号	種類	寸法 (cm)	高さ (cm)	底面 (cm)	脚 上	成形・調理		特記事項		
								外観	内面			
104	80	110	SD001	紙巻器	杯	(120)	30	(8.4)	砂輪少	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削りなし	外観:茶葉・土産付茶 内面:茶葉・土産付茶 部品:ヘラヨニシ	
104	80	111	SD001	紙巻器	杯	-	-	(9.6)	砂輪LM少 S中	外観:ナデ 内面:ナデ	高台:茶葉在庫25% 内面:後削り	
104	80	112	SD001	紙巻器	杯	(108)	54	(7.0)	砂輪LM少 S中	外観:ナデ 内面:ナデ	高台:茶葉在庫25% 内面:後削り	
104	80	113	SD001	紙巻器	杯	-	-	(7.8)	砂輪少S	外観:ナデ 内面:ナデ	高台:茶葉在庫25% 内面:後削り	
104	80	114	SD001	紙巻器	杯	-	-	(9.2)	砂輪LM少 S中	外観:ナデ 内面:ヨコ削り	底部:ヘラおこし	
104	80	115	SD001	紙巻器	杯	-	-	(10.0)	砂輪少S S多	外観:ナデ 内面:調整不可	高台:0.8cm 内面:開底	
104	80	116	SD001	紙巻器	杯	-	-	(6.2)	砂輪少中	外観:ナデ 内面:ナデ	沈降2角	
104	80	117	SD001	紙巻器	杯	-	-	-	砂輪S中	外観:ナデ 内面:ナデ		
104	80	118	SD002	土切器	土(15.4)	61	-	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ 細粒	横幅2条	
104	80	119	SD002	土切器	高杯	-	35	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ 細粒		
104	80	120	SD002	土切器	柄	141	48	53	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リターン	底部:あ切り	
104	80	121	SD002	土切器	柄	-	13	5.0	粗粒砂やや多	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:粗粒多切り	
104	80	122	SD002	土切器	柄	-	19	61	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー	底部:削り出し茶台	
104	81	123	SD003	土磨器	美	(17.0)	47	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ リンパハンド	高台:ナカツ15度	
104	81	124	SD003	土磨器	美	(121)	57	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リンパハンド	ハケ量9度	
104	81	125	SD003	土磨器	美	(16.5)	74	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ ヨコ削り	ハケ量15度	
104	81	126	SD003	土磨器	美	-	157	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ ヨコ削り	残存率90% ハケ量6度	
104	81	127	SD003	土磨器	美	-	69	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リンパハンド	タクタク3度	
105	81	128	SD003	土磨器	鏡	(14.2)	30	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ		
105	81	129	SD003	土磨器	鏡	(124)	23	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り		
105	81	130	SD003	土磨器	鏡	(130)	30	-	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り		
105	81	131	SD003	土磨器	鏡	-	47	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り	形状:回転系	
105	81	132	SD003	土磨器	鏡	-	49	7.5	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り 剥離	底部:回転ヘラミドナデ	
105	81	133	SD003	土磨器	鏡	-	33	4.8	白色粒多	外観:ナデ 内面:ナデ		
105	81	134	SD003	土磨器	鏡	-	14	(6.8)	細粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系	
105	81	135	SD003	土磨器	鏡	(9.0)	25	4.4	-	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:ヘラ記号?	
105	81	136	SD003	土磨器	鏡	-	87	21	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ		
105	81	137	SD003	土磨器	鏡	-	83	21	42	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	
105	81	138	SD003	土磨器	鏡	(8.1)	20	(5.3)	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ		
105	81	139	SD003	土磨器	鏡	-	19	6.2	細粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系	
105	81	140	SD003	土磨器	鏡	-	20	6.2	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:削り出し高台	
105	81	141	SD003	土磨器	鏡	-	17	6.0	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ 黒色	底部:削り出し高台	
105	81	142	SD003	土磨器	鏡	-	19	6.3	赤色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系	
105	81	143	SD003	土磨器	鏡	-	23	4.7	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系	
105	81	144	SD003	紙巻器	杯	(15.6)	15	-	白色粒やや多	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー 回転ヘラ削り	底部:回転系	
105	81	145	SD003	紙巻器	杯	(127)	15	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー 回転ヘラ削り		
105	81	146	SD003	紙巻器	杯	(15.9)	15	-	細粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー		
105	81	147	SD003	紙巻器	杯	(147)	21	-	白色粒やや多	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー 回転ヘラ削り		
105	81	148	SD003	紙巻器	杯	-	120	4.7	-	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー		
105	81	149	SD003	紙巻器	杯	(111)	34	(8.0)	粗粒砂多	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー	底部:回転ヘラ記号	
105	81	150	SD003	紙巻器	杯	-	15	(8.1)	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー	底部:削り出し高台 回転ヘラ記号	
105	81	151	SD003	紙巻器	杯	-	28	(7.7)	白色粒やや多	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー	底部:削り出し高台 削離	
106	82	152	SF	土磨器	鏡	(28.6)	73	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー	底部:ナカツ12度 ナカツスズ便	
106	77	153	SK	土磨器	鏡	(23.0)	-	-	砂輪少 S M少 S	外観:ナデ 内面:ナデ		
106	82	154	SD001+PS	紙巻器	杯蓋	(144)	13	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー		
106	82	155	SD001+PS	紙巻器	鏡	-	15	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ リローラー		
106	82	156	P20	土磨器	鏡	-	88	(3.3)	白色粒中少	外観:ナデ 内面:ナデ タンク	底部:ナカツ8度	
106	81	157	-	土磨器	鏡	-	99	33	4.2	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系
106	82	158	P112	土磨器	鏡	-	13	3.6	白色粒やや多	外観:ナデ 内面:ナデ	底部:回転系	
106	82	159	P25	土磨器	鏡	-	28	(5.4)	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ リターン	底部:回転系	
106	82	160	P47	土磨器	鏡	-	30	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ	体積率在庫13%	
106	82	161	P1	土磨器	鏡	(113)	15	-	粗粒砂少	外観:ナデ 内面:ナデ		
106	82	162	P54	土磨器	鏡	(26.5)	20	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ リターン		
106	82	163	P53	土磨器	鏡	-	44	(8.7)	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り	底部:回転系	
106	82	164	P53	土磨器	鏡	(20.7)	24	-	白色粒少	外観:ナデ 内面:ナデ ヘラ削り		

固 定 度 数 量 目 番	通 過 部 分 名	種 類	目 標	口 徑 (cm)	部 高 (cm)	深 度 (cm)	地 土	成 形	測 量	特 記 事 項	
										外 面	内 面
106 82 166	P111	上耕器	渠	(21.0)	23	-	赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダヨコハケ	ハケ目7合		
107 82 166	SK01	施肥器	杯	110	-	-		外面:ナダ 内面:ナダヨコナダ			
107 82 167	SK03	土壤器	渠	(13.0)	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 168	SK03	土壤器	渠	(15.0)	-	-					内墨
107 82 169	SK04	土壤器	渠	(13.0)	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 170	SK04	土壤器	渠	-	-	40		外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
107 82 171	SK04	土壤器	机	-	-	52		外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
107 82 172	SK04	土壤器	渠	-	-	-					
107 82 173	SK04	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 174	SK04	土壤器	渠	-	-	-					
107 82 175	SK04	土壤器	渠	-	-	-					
107 82 176	SK04	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 177	SK04	土壤器	杯	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 178	SK04	施肥器	杯	22	-	白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	回転ヘラ削り	つまり残存率100% つまり径30cm		
107 82 179	SK06	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 180	SK06	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 181	SK06	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 182	SK07	施肥器	杯	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 183	SK07	施肥器	杯	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 184	SK08	土壤器	渠	90	22	45	粗粒少 多赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
107 82 185	SK08	土壤器	渠	86	44	-	粗粒多	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
107 82 186	SK08	土壤器	渠	81	19	46	粗粒少 水色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
107 82 187	SK09	土壤器	渠	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 188	SK09	施肥器	平歛	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 189	SK09	施肥器	杯	-	-	-		外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 190	-	上耕器	渠	(23.5)	58	-	白色粘少 赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダヨコハケ	外面:ハケ目7条 内面:ハケ目8条		
107 82 191	-	土壤器	渠	(19.6)	19	-	粗粒少 多赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	口耕:押り出し口耕		
107 82 192	-	土壤器	渠	(29.4)	38	-	粗粒多	外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 193	-	土壤器	渠	(28.4)	30	-	粗粒少 多白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ			
107 82 194	-	土壤器	渠	(15.4)	25	-	白色粘少 多赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダヨコハケ削り	外面:ハケ目10条 内面:ハケ目17条		
107 82 195	-	土壤器	渠	(14.0)	34	-	粗粒少 多白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダヘラ削り			
107 82 196	-	土壤器	渠	(11.5)	37	-	粗粒少 多白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダハケ目 残底	内面:ハケ目17条		
108 82 197	-	上耕器	渠	(33.5)	52	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	外面:ハケ目15条 沈降凹底		
108 79 198	-	上耕器	渠	(13.0)	50.0	-	粗粒少 混粒少 中耕耙込	外面:ナダ 内面:ナダ	外面:ハケ目15条 沈降凹底		
108 82 199	-	土壤器	渠	-	31	3.6	粗粒少 多赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	外面:ハケ目15条		
108 82 200	-	土壤器	渠	-	23	3.9	粗粒多	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:蓄貯底		
108 82 201	-	土壤器	渠	-	22	5.4	白色粘少 多赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
108 82 202	-	土壤器	渠	(13.5)	32	-	粗粒少 多白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	内面:赤耕		
108 82 203	-	土壤器	渠	-	34	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	体耕残存率12% 内面:内耕		
108 82 204	-	土壤器	渠	(10.1)	32	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	廻回耕		
108 82 205	-	土壤器	渠?	(22)	8.0	-	粗粒少 中赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ			
108 82 206	-	土壤器	渠	-	26	(6.1)	粗粒少 混粒少骨片中	外面:ナダ 内面:ナダヘラカギ	内面:内墨		
108 82 207	-	土壤器	渠	(14.8)	36	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	内面:蓄形		
108 82 208	-	土壤器	渠	(14.9)	41	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ			
108 82 209	-	土壤器	渠	(12.6)	31	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ			
108 82 210	-	土壤器	渠	(18)	62	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	残存率60% 底部:回転余切		
108 79 211	-	上耕器	渠	9.4	23	52	粗粒少 雪粉少	外面:ナダ 内面:ナダ	残存率70% 底部:回転余切		
108 82 212	-	土壤器	渠	8.2	20	4.3	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	底部:回転余切		
108 79 213	-	土壤器	渠	10.4	225	57	細粒少中	外面:ナダ 内面:ナダ	残存率85% 底部:回転余切		
108 82 214	-	土壤器	高秆	-	6.9	-	粗粒少 中赤色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ	耕耘率100%		
108 82 215	-	土壤器	渠	(1.9)	(3.7)	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	耕耘:回転余切(蓄形)		
108 82 216	-	土壤器	渠	(1.0)	49	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	耕耘:回転余切		
108 82 217	-	土壤器	杯	(1.5)	14	-	白色粘少	外面:ナダ 内面:ナダ			
108 82 218	-	土壤器	渠	-	38	-	粗粒少	外面:ナダ 内面:ナダ	耕耘率100%		

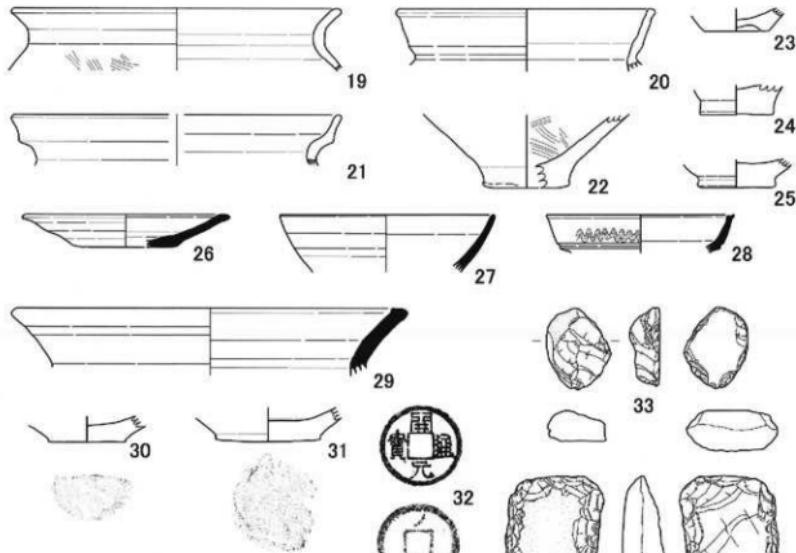
【2地区】
SD01



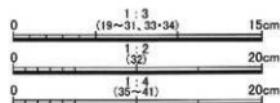
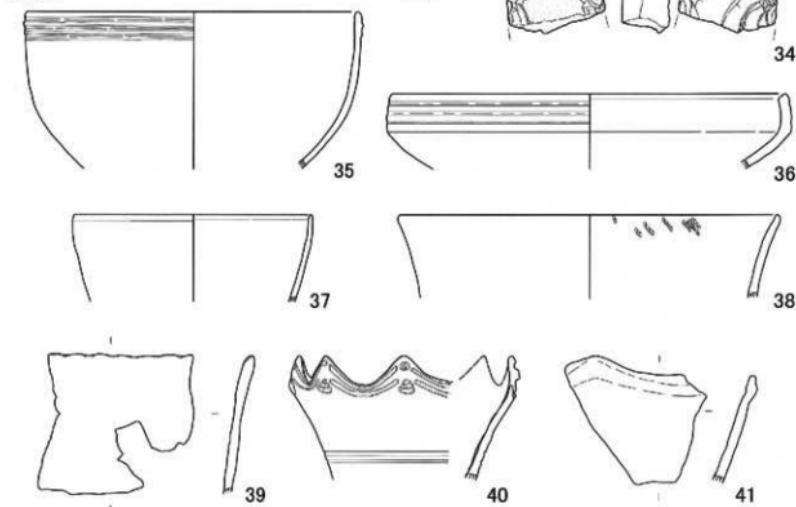
0 1:3 15cm

第109図 高畠遺跡2地区の遺物 (1)

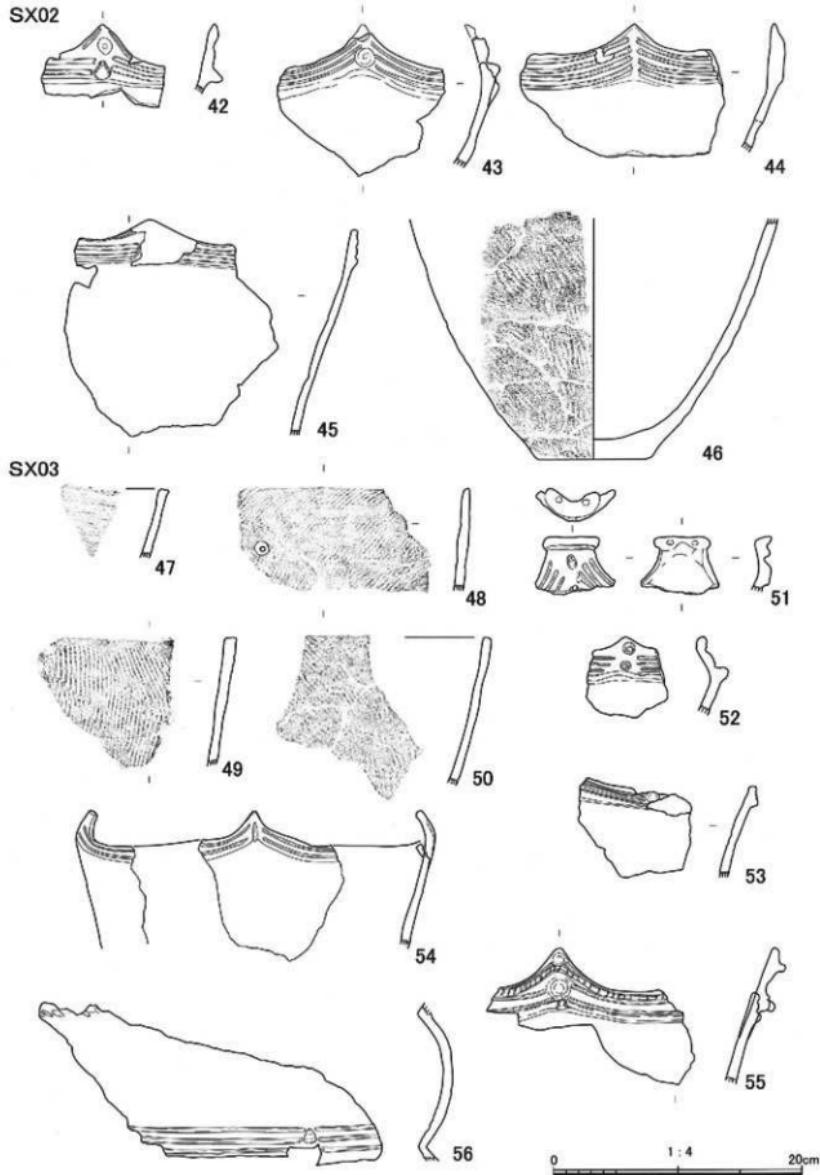
SX01



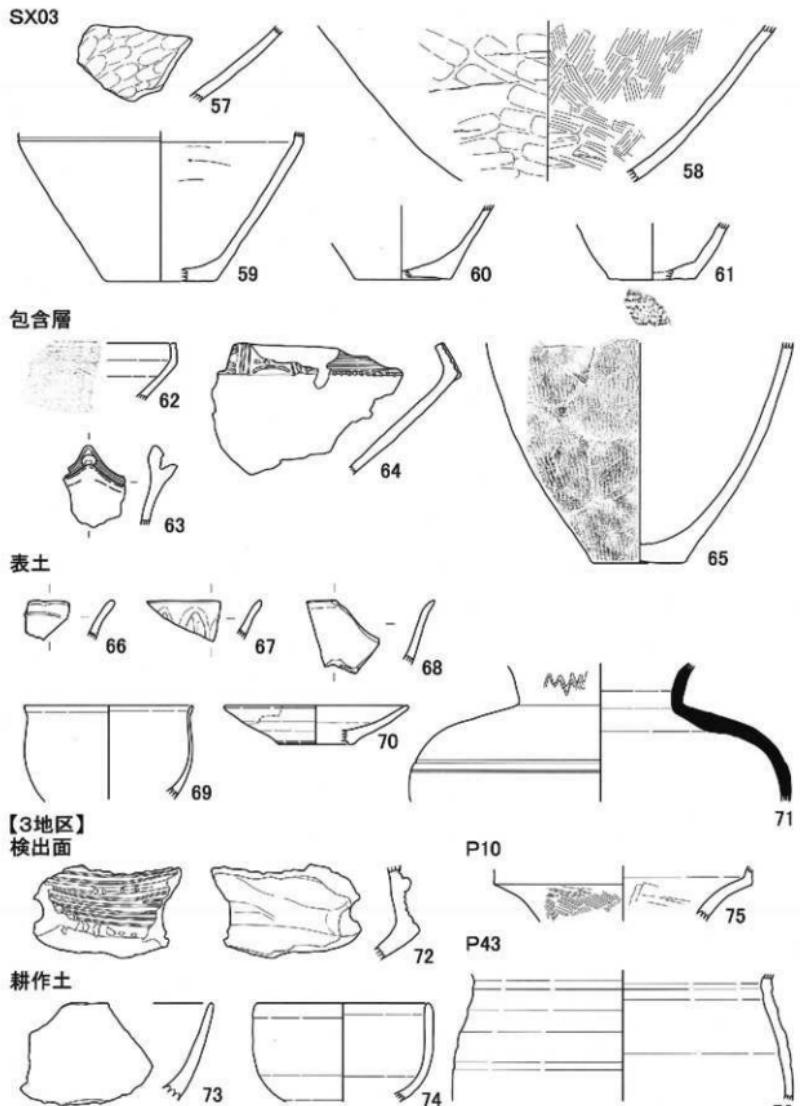
SX02



第110図 高島遺跡2地区の遺物 (2)



第111図 高島遺跡2地区の遺物 (3)



第112図 高畠遺跡2・3地区の遺物



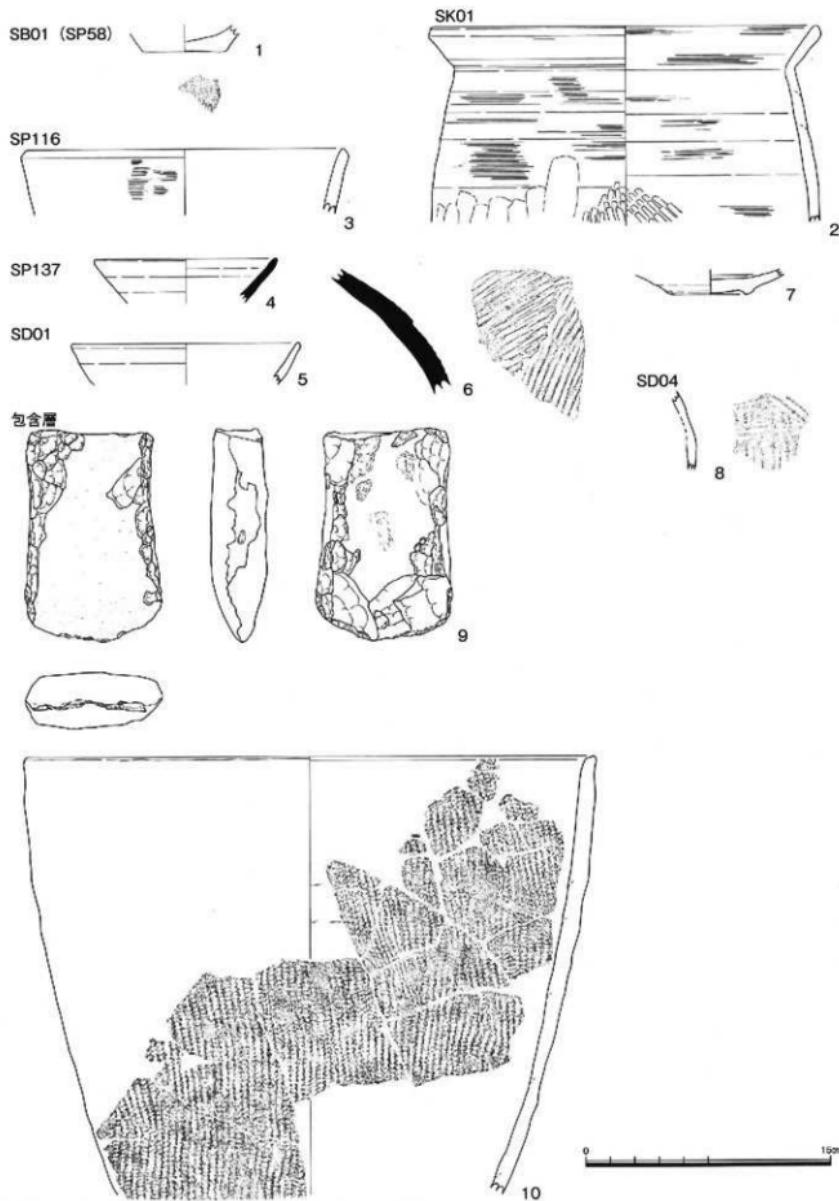
第13表 高畠遺跡2・3地区出土遺物観察表
土器・陶器類

目次	分類	形態	器種	寸法(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	新十	形態・属性(上段:外側・下段:内面)	特記事項
109	83 2	SD02	弥生土器	瓶	-	(27)	7.0	ハケ ハケ	
109	83 3	SD04	弥生土器	壺・甕	-	(17)	5.8	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	
109	83 4	SD04	弥生土器	壺	(116)	(36)	-	褐色粒子を多く含む 褐色粒子を多く含む	
109	83 5	SD04	弥生土器	壺	(147)	(9.0)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	外傷一部スリット
109	83 6	SD04	弥生土器	壺	(127)	(2.5)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	ヨコナマ ヨコナマ
109	83 7	SD04	弥生土器	壺	(206)	(2.0)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	アラ アラ
109	83 8	SD04	弥生土器	壺	(172)	(3.4)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	アラ アラ
109	83 9	SD04	弥生土器	壺	(148)	(7.25)	-	1mm~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	体形外向にスリット有 外葉一部スリット
109	83 10	SD04	弥生土器	壺	(179)	(7.8)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	アラ アラ
109	83 11	SD04	弥生土器	壺	(146)	(8.1)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	アラ アラ
109	83 12	SD04	弥生土器	壺	(178)	(6.3)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	内外両面が、内面は剥が落ちて 内側
109	83 13	SD04	弥生土器	壺	(19.4)	(4.1)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	内側剥離
109	83 14	SD04	弥生土器	壺	-	(29)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	
109	83 15	SD04	弥生土器	壺	100	(6.6)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	ハケ ハケ
109	83 16	SD04	弥生土器	壺	-	(5.7)	8.0	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	ハケ ハケ
109	83 17	SD05	弥生土器	壺	-	(9.1)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む 0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	ハケ ハケ
109	83 18	SD05	二脚器	純	-	(5.0)	(3.2)	-	ナマ ナマ
110	84 19	SX01	绳文土器	壺	(19.6)	(3.8)	-	-	ハケ
110	84 20	SX01	绳文土器	壺	(15.2)	(3.0)	-	-	内側剥離
110	84 21	SX01	绳文土器	壺	-	(19.6)	(3.1)	-	内側剥離
110	84 22	SX01	绳文土器	壺	-	(4.5)	(5.2)	-	底部の、特に底部あり
110	84 23	SX01	绳文土器	壺	-	(1.4)	3.8	-	ナマ
110	84 24	SX01	绳文土器	壺	-	(1.8)	14.4	-	-
110	84 25	SX01	绳文土器	壺	-	(1.7)	4.6	-	-
110	84 26	SX01	绳文土器	壺	(12.0)	(2.0)	-	-	ロクロナマ ロクロナマ
110	84 27	SX01	绳文土器	壺	(12.0)	(3.5)	-	-	-
110	84 28	SX01	绳文土器	ハソウ	(11.4)	(2.3)	-	-	口縁部に液状文あり
110	84 29	SX01	绳文土器	壺	(32.2)	(4.1)	-	-	ロクロナマ ロクロナマ
110	84 30	SX01	上耳器	瓶	-	4.4	(1.6)	-	底部に系状り痕あり
110	84 31	SX01	土器器	瓶	-	(2.1)	6.4	-	底部に舟切り痕あり
110	84 32	SX01	-	深鉢	-	-	-	-	-
110	84 35	SX02	绳文土器	鉢	(26.6)	(12.8)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む	横斜
110	84 36	SX02	绳文土器	深鉢	(31.6)	(6.1)	-	-	ナマ
110	84 37	SX02	绳文土器	深鉢	(19.0)	(7.1)	-	-	ナマ
110	84 38	SX02	绳文土器	深鉢	(30.0)	(6.0)	-	-	ナマ
110	84 39	SX02	绳文土器	深鉢	-	(10.0)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む	横斜RL
110	84 40	SX02	绳文土器	小型深鉢	(17.0)	(10.1)	-	-	内面スリット
110	84 41	SX02	绳文土器	深鉢	-	(8.7)	-	0.1~1mmの底、 褐色粒子を多く含む	外側に部分的に液化物付着
111	85 42	SX02	绳文土器	深鉢	-	(5.6)	-	-	-
111	85 43	SX02	绳文土器	深鉢・盆	-	(1.6)	-	-	-
111	85 44	SX02	绳文土器	深鉢	-	(10.6)	-	0.1~2.5mmの底、 褐色粒子を多く含む	-
111	85 45	SX02	绳文土器	深鉢	-	(16.7)	-	0.1~3mmの底、 褐色粒子を多く含む	-
111	85 46	SX02	绳文土器	深鉢	-	(19.7)	9.0	0.1~3mmの底、 褐色粒子を多く含む	内面に部分的に液化物付着 底部に舟切り痕あり
111	85 47	SX03	绳文土器	深鉢	-	(5.6)	-	-	横斜RL
111	85 48	SX03	绳文土器	深鉢	(28.0)	(8.3)	-	0.1~2mmの底、 褐色粒子を多く含む	横斜LR
111	85 49	SX03	绳文土器	深鉢	-	(4.7)	-	-	横斜RL
111	85 50	SX03	绳文土器	深鉢	-	(12.1)	-	-	横斜RL
111	85 51	SX03	绳文土器	深鉢	-	4.4	-	0.1から3mmの底、 褐色粒子を多く含む	横斜RL
111	85 52	SX03	绳文土器	深鉢	-	(6.3)	-	-	横斜RL
111	85 53	SX03	绳文土器	深鉢	-	(10.4)	-	-	横斜RL
111	85 54	SX03	绳文土器	深鉢	(26.8)	(11.3)	-	-	横斜RL

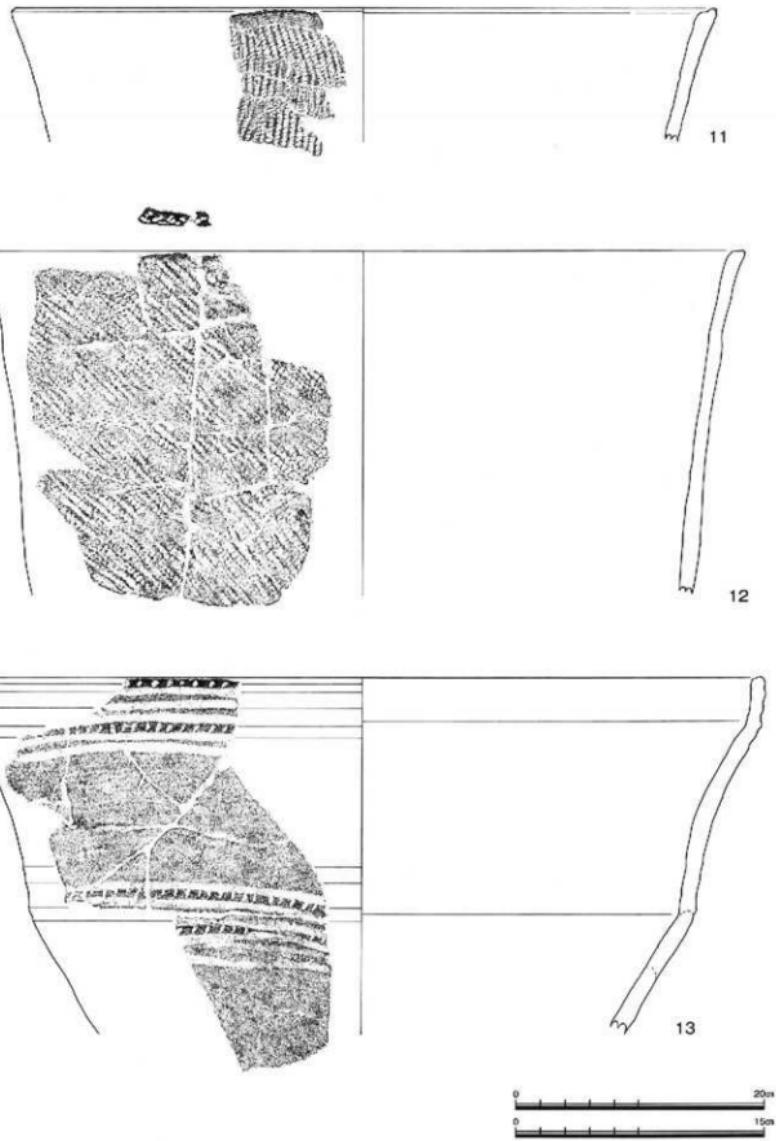
区分	品目	通称番号	種類	基準	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	説明	上	成形・底座	特記事項
111	86 35	SX03	織文土器	漆跡	-	(11.1)	-	強。白色較多く含む			
111	86 36	SX03	織文土器	漆跡	-	(12.9)	-	0.1~2mmの白色粒子を含む			内部面に部分的にスヌ付有
112	86 37	SX03	織文土器	漆跡	-	(6.2)	-	密	ナゲ		
112	86 38	SX03	織文土器	漆跡	-	(15.1)	-	密	ナゲ		
112	86 39	SX03	織文土器	漆跡	-	(12.2)	(9.0)	-	-		底部に若干時代痕残る
112	86 60	SX03	織文土器	漆跡	-	(6.1)	(7.8)	-	ナゲ		スヌ付有
112	86 61	SX03	織文土器	漆跡	-	(4.6)	(7.0)	0.1~1mmの白、灰、黑色粒子を多く含む	ナゲ		底部に網代痕あり
112	86 62	包合層	織文土器	漆跡	-	(4.7)	-	-	-		
112	86 63	包合層	織文土器	漆跡	-	(6.4)	-	0.1~2mmの白、灰、黑色粒子を含む	-		白詰型外に痕跡(あり)
112	86 64	包合層	織文土器	漆跡	-	(12.5)	-	-	ナゲ		
112	86 65	包合層	織文土器	漆跡	-	(18.0)	7.5	1mm~2mmの白、灰、黑色粒子を多く含む	漆文剥		底部に網代痕あり 手内に入人行轍
112	86 66	器上	青磁	漆	-	(2.4)	-	-	-		手内面に漆剥脱
112	86 67	器上	青磁	漆	-	(2.5)	-	-	-		
112	86 68	盛土	白粘	漆	-	(4.0)	-	0.1mm前後の白色粒子含む	漆剥		外面上に網代痕あり
112	86 69	器上	白粘	漆	(10.2)	(5.7)	-	-	漆剥		外曲ビンホール右側
112	86 70	器上	越中漆戸	漆	(11.2)	2.4	(4.6)	-	-		
112	86 71	盛土	漆戸	漆	-	(8.3)	-	-	-		
112	86 72	板状物	織文土器	漆口土器	-	(5.2)	-	密	漆剥		
112	86 73	器作土	漆戸	陶輪余付	-	(5.9)	-	-	ナゲ		
112	86 74	器作土	漆戸	漆戸美濃造	灰丸丸壺	(10.4)	(6.0)	密	ナゲ		
112	86 75	710	器作土器	漆	-	(2.9)	-	強。白色粒子含む	ハゲ		
112	86 76	P13	土器鉢	小葉	-	(7.6)	-	密	ナゲ		

石 製 品

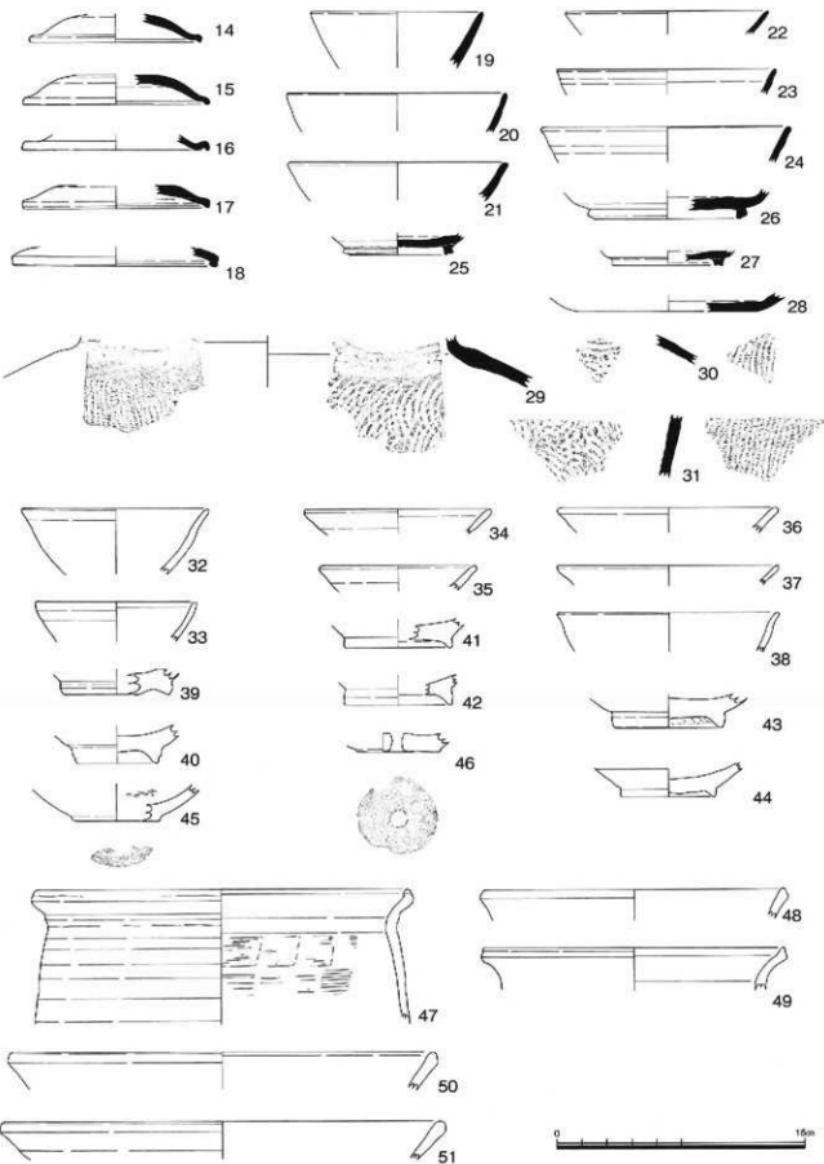
区分	品目	通称番号	種類	基 準	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	説 明	上	下	特記事項
109	83 1	SQ01	石斧	砾石	10.2	2.8	2.5	-	-	-	全面使用
110	84 33	SX01	瓦器	瓦片	5	3.6	1.9	-	-	-	
110	84 34	SX01	石器	石片	8.9	3.5	2.5	-	-	-	



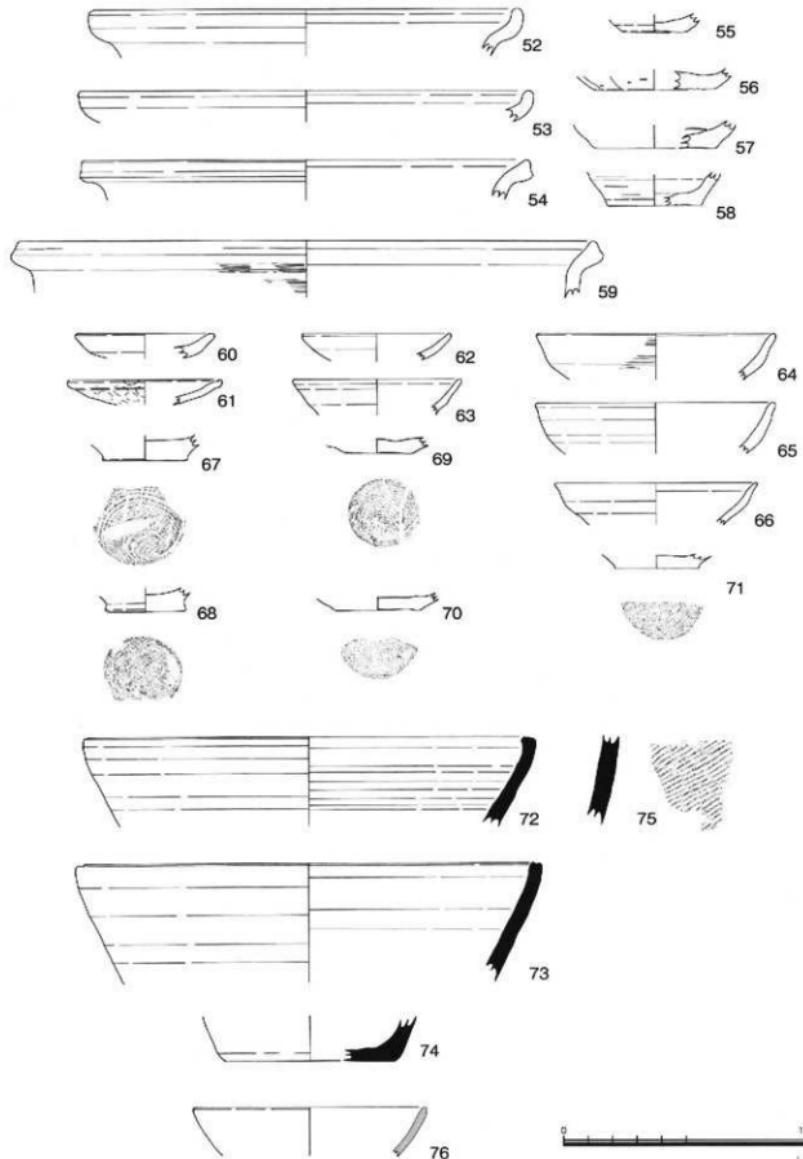
第113図 高畠遺跡4地区の遺物 (1) (S=1/3)



第114図 高島遺跡4地区の遺物 (2) 11 (S=1/4) 12.13 (S=1/3)



第115図 高鳥遺跡4地区の遺物（3）（S=1/3）

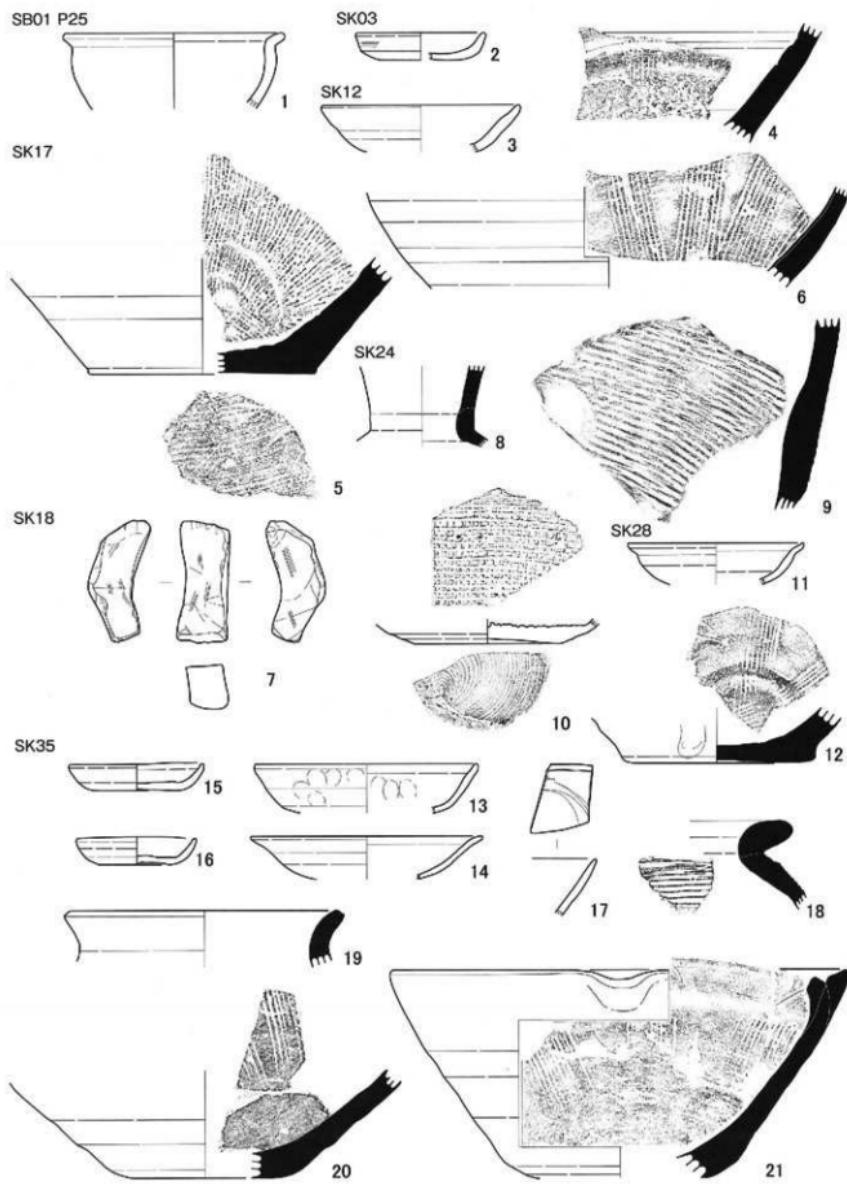


第116図 高島遺跡4地区の遺物(4) (S=1/3)

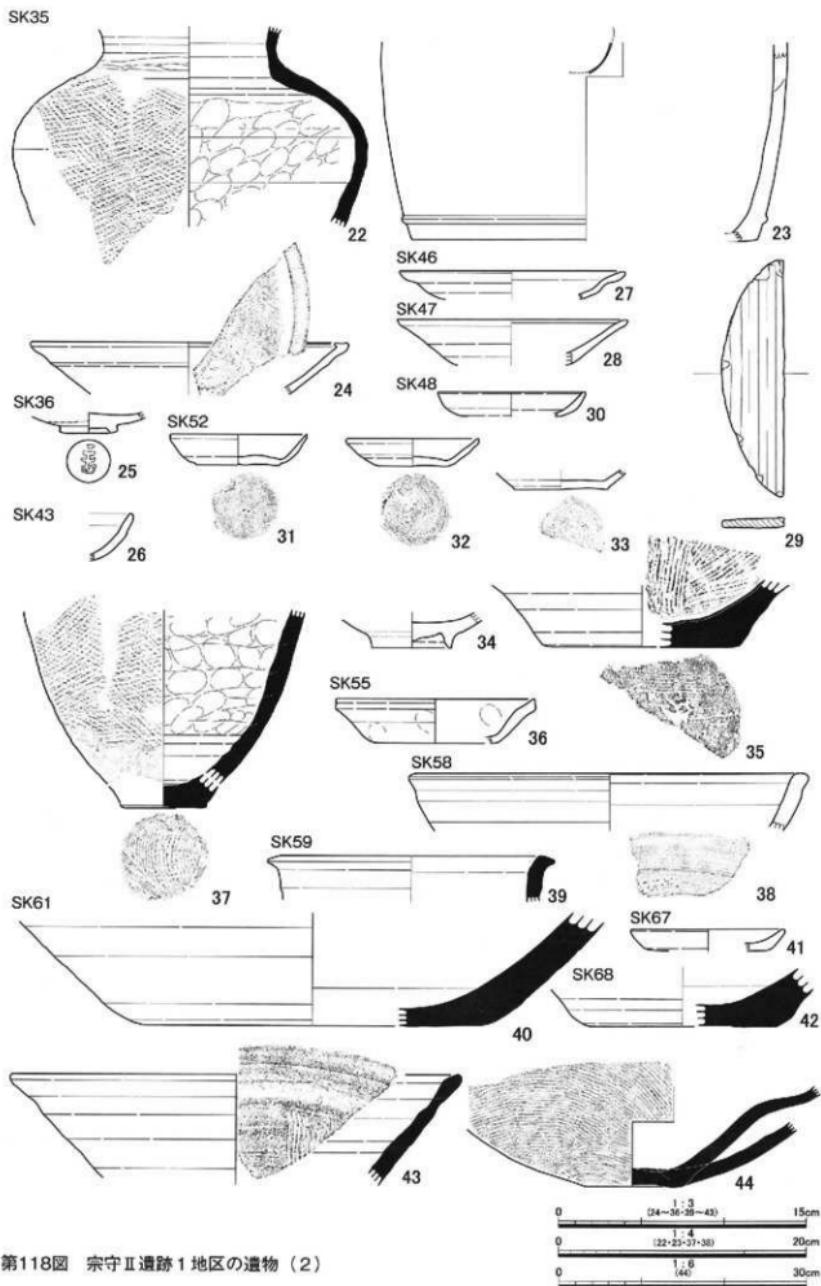
第14表 高畠遺跡4地区出土遺物観察表

品目	記号	遺物番号	種類	器種	口径(cm)	脚間(cm)	底径(cm)	船上	成形・調査	特記事項	
113	87 1	JPS6	土器類	碗	11.6	(5.0)	斜腹部をやや多量含む ガラス質化。	内: 磨耗不均 外: 磨耗不均りか?	外観: 黒斑		
113	87 2	SK01	土器類	碗	(23.5)	(12.2)	砂を多量含む。	内: カキのうナダ、ロクロナダ 外: カキのうナダ、ロクロナダ、ナナ割り	外観: スズ付着		
113	87 3	P116	土器類	甕		(4.0)		内: ハマツ型			
113	87 4	P137	土器類	杯	(11.1)	(2.7)	2mm以上の砂を少量含む 褐色砂を少量含む。	内: ロクロナダ、素面直しい 外: 磨耗、ロクロナダ			
113	87 5	SD01	土器類	杓	(13.9)	(2.5)	褐色砂を少量含む 小粒砂含む。	内: 磨耗の為不明			
113	87 6	SD01	土器類	甕		(7.6)	褐色砂を多量含む。	内: ハマツ型 外: タマリ目、ナナ割り	指標さえ渡し 1ヶ所		
113	87 7	SD01	土器類	甕		(1.5)	(4.4)	白色砂を多量含む。	内: ナダ 外: ナダ、圓輪・ノコリ	割り出し高台	
113	87 8	SD01	土器類	甕		(4.8)		褐色砂を多量含む	内: 磨耗、白粉付 外: 磨耗、白粉付		
113	87 9	包含層	石器	打斧	13.1	8.4	3.5		内: 磨耗、タタキ 外: 磨耗、タタキ		
113	87 10	包含層	陶土器	深鉢	(35.0)	(36.9)		白色砂を多量含む 砂を多量含む。	内: タマリガギ、ナナメ方ギ 外: 磨耗	外観: スズ付着	
114	88 11	包含層	陶土器	深鉢	(37.2)	(11.0)			内: 槌(ギギ)、口縁(氣み、斜溝)	外観: スズ付着	
114	88 12	包含層	陶土器	深鉢	(26.0)	(21.1)		白色砂を多量含む	内: ミガキ		
114	88 13	包含層	陶土器	深鉢	(48.0)	(21.9)		白色砂を多量含む 0.5mm以下の砂を含む 少量鐵砂。	内: ツガギ、ケズリ 外: キナギ、ミガキ、迷路		
115	89 14	包含層	陶器類	甕	(10.9)	(3.85)		0.5mm以下の砂を含む 少量鐵砂。	内: ロクロナダ 外: 間隔・ヘラ切り後ナダ、ロクロナダ		
115	89 15	包含層	陶器類	瓶	(11.8)	(1.9)		1mm以下の砂を含む 0.5mm以下の砂を含む 3mmの小石を含む。	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 16	包含層	陶器類	甕	(11.8)	(1.0)		3mmの小石を含む	内: ロクロナダ		
115	89 17	包含層	陶器類	甕	(11.8)	(1.3)		2mm以下の砂を含む 0.5mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ、頭部後ナダ/ロクロナダ	内田山 墓乱か?	
115	89 18	包含層	陶器類	甕	(12.9)	(1.25)		少く砂を含む	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ、(前段ケ20.0?)		
115	89 19	包含層	陶器類	甕	(10.8)	(3.6)		1~2mmの砂を含む 4mmの小石を含む 少く砂を含む。	内: 全周の砂を含む 外: 砂の為磨耗		
115	89 20	包含層	陶器類	甕	(13.8)	(2.5)		2mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ		
115	89 21	包含層	陶器類	甕	(13.8)	(2.5)		1mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: 磨耗の為磨耗 外: 磨耗の為磨耗		
115	89 22	包含層	陶器類	甕	(12.8)	(1.5)		1mm以上の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 23	包含層	陶器類	甕	(14.0)	(1.6)		1mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 24	包含層	陶器類	甕	(15.0)	(2.3)		1mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 25	包含層	陶器類	甕		(1.4)	(7.0)		内: ロクロナダ		
115	89 26	包含層	陶器類	甕		(1.9)	(10.1)	2mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: 回転・ヘラ切り後ナダ、ロクロナダ		
115	89 27	包含層	陶器類	甕		(0.95)	(7.0)		内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 28	包含層	陶器類	甕		(1.15)	(11.9)	3mm以下の砂を含む 少く砂を含む。	内: ロクロナダ 外: 磨耗の為磨耗 内: 磨耗の為磨耗	生候?	
115	89 29	包含層	陶器類	甕		(3.3)		細粒砂をやや多量含む	内: ナダ、同心円紋		
115	89 30	包含層	陶器類	甕		(1.9)		細粒砂をやや多量含む	内: ナダ		
115	89 31	包含層	陶器類	甕		(4.2)		細粒砂を多量含む	内: タタキ、後カネ付 外: 同心円紋		
115	89 32	包含層	陶器類	甕	(12.0)	(4.2)		砂を含む	内: ロクロナダ (無) 外: ロクロナダ		
115	89 33	包含層	土器類	甕	(12.0)	(2.65)		砂を含む	内: ロクロナダ 外: ロクロナダ		
115	89 34	包含層	土器類	甕	(11.8)	(1.6)		細粒砂を少量含む	内: ナダ		
115	89 35	包含層	土器類	甕	(8.7)	(1.65)		粗粒砂を少量含む	内: ナダ		
115	89 36	包含層	土器類	甕	(14.0)	(2.1)		白色砂を少量含む 白色砂を少量化	内: ナダ 外: ナダ		
115	89 37	包含層	土器類	甕	(14.0)	(1.3)		細粒砂を少量含む	内: ナダ 外: ナダ		
115	89 38	包含層	土器類	甕	(13.9)	(2.3)		細粒砂をやや少量化 ガラス質化含む	内: ナダ 外: ナダ (無)		
115	89 39	包含層	土器類	甕	(1.6)	(6.6)		赤彩砂を少量化 1mm以下の砂を含む 1mm以下の砂を多量含む	内: ナダ (一部ヘタ?) 外: ロクロナダ、粘付多合		
115	89 40	包含層	土器類	甕	(24.5)	5.0			内: ロクロナダ 外: ロクロナダ、粘付多合	殿部・高台部 打ち欠きか?	
115	89 41	包含層	土器類	甕	(1.85)	(6.6)		砂を含む	内: ナダ 外: ナダ		
115	89 42	包含層	土器類	甕	(1.9)	(6.8)		砂を含む	内: ロクロナダ 外: ナダ		
115	89 43	包含層	土器類	甕	(21.5)	(6.7)		粗粒砂を少量化含む	内: ナダ 外: ナダ (無)、泥混え、ナダ		
115	89 44	包含層	土器類	甕	(2.0)	(6.0)		砂を含む	内: ロクロナダ 底: 泥糊		
115	89 45	包含層	土器類	甕	(2.4)	(5.6)		細粒砂を多量含む	内: ナダ 外: ナダ		
115	89 46	包含層	土器類	甕	(1.2)	(5.2)		細粒砂を少量化含む ガラス質化	内: ナダ 外: 細粒条れ、ナダ		
115	90 47	包含層	土器類	甕	(23.4)	(8.65)		粗粒砂を少量化含む 多量鐵砂	内: ロクロナダ、頭部ナダ、体部ナダ 外: 外観的に逆流		
115	90 48	包含層	土器類	甕	(19.0)	(3.95)		粗粒砂を多量含む ガラス質化	内: ナダ 外: ナダ		
115	90 49	包含層	土器類	甕	(19.2)	(2.7)		砂を少量含む	内: ナダ 外: ナダ		
115	90 50	包含層	土器類	甕	(26.6)	(2.4)		中粒砂を少量化含む 白粉砂を少量化含む	内: ナダ 外: ナダ		
115	90 51	包含層	土器類	甕	(22.7)	(2.5)		少量化含む 白粉砂を少量化含む	内: ナダ 外: ナダ		

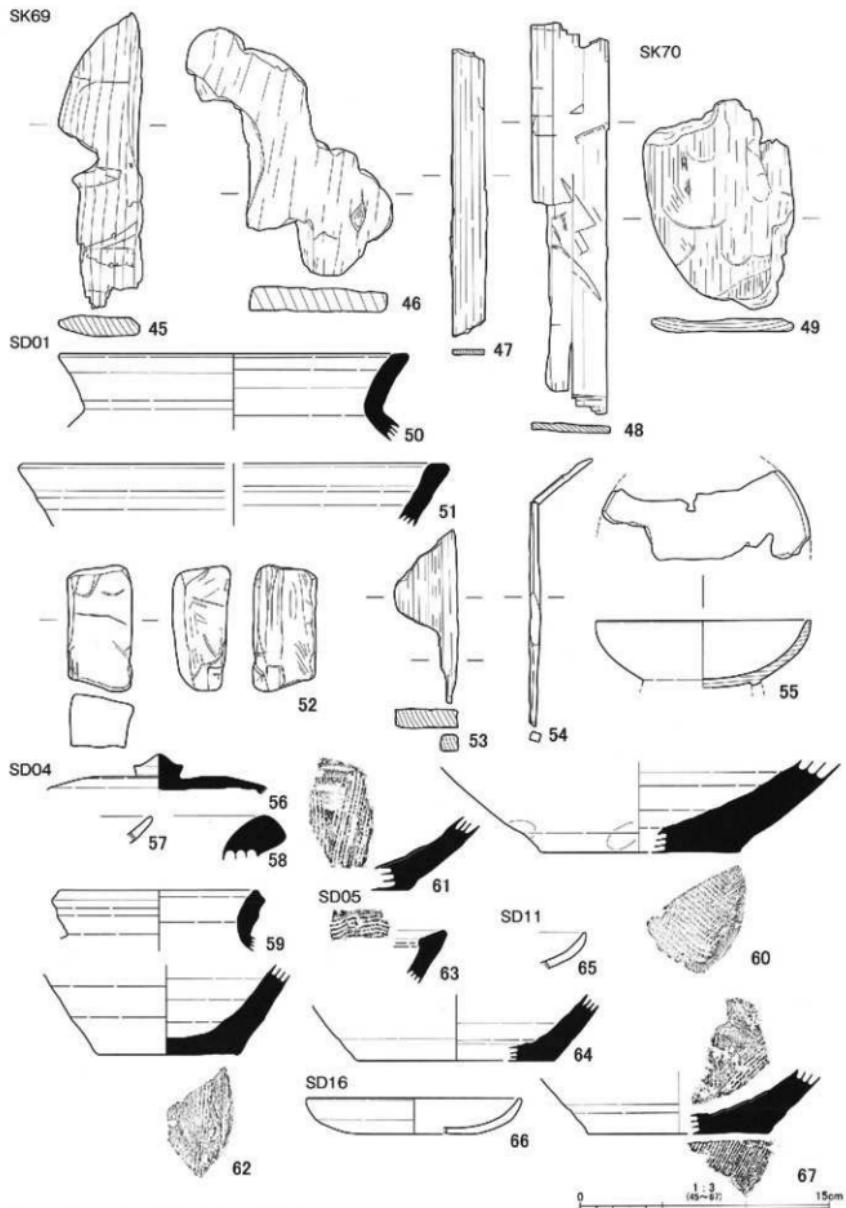
固形量 kg/t	過濾 率%	過濾器番号	機種	容積 cm ³	過濾 時間 min	過濾 速度 cm/min	給上	成形・機器	特記事項
116	90	52	包合器	上細粉	要	(27.2)	(3.0)	過粒粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	53	気泡層	土砂器	要	(28.0)	(2.0)	毛粒粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	54	包合器	土砂器	要	(28.5)	(2.5)	粗粒粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	55	包合器	土砂器	要	(1.2)	42	0.5mm以下の粗粒粉を多量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	56	包合器	土砂器	要	(1.35)	(7.8)	0.5~1.0mmの粗粒粉を多量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	57	包合器	土砂器	要	(10.4)	(1.7)	0.1mmの細粉を含む	内:ナゲ
116	90	58	包合器	上細粉	要	(2.0)	(6.0)	白色粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ 痕:過濾余剰物
116	90	59	包合器	土砂器	要	(36.7)	(3.66)	粗粉・粉を含む	内:ナゲ 外:粗粉~中粉ナゲ、粉形ハケ
116	90	60	包合器	土砂器	目	(9.0)	(1.95)	内粒粉を少量含む	内:ナゲ
116	90	61	包合器	かわらけ	粗明細	(9.8)	(1.6)	0.5mm以下の粗粒粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ、泥混入 痕:過濾液汚不油臭
116	90	62	包合器	土砂器	目	(9.3)	(1.7)	やや粗め、粉・42%い	外:粗ナゲ
116	90	63	包合器	土砂器	目	(10.0)	(2.25)	3mmの小石を含む	内:ロカクナナ 外:ロカクナナ
116	90	64	包合器	土砂器	目	(15.1)	(3.0)	白色粉を微量含む 3mmの小石を含む	内:ロカロナゲ 外:粗ハリない、横ナゲ
116	90	65	包合器	土砂器	目	(15.2)	(3.3)	移位を微量含む	内:ロカロナナ 外:粗ロカロナナ(浮遊)
116	90	66	包合器	土砂器	目	(12.6)	(2.75)	2mmの小石を含む	内:ロカロナゲ 外:ロカロナゲ
116	90	67	包合器	土砂器	目	(1.6)	(5.5)	圓形粉をやや多量含む	内:ナゲ 外:圓形の過濾物
116	90	68	包合器	土砂器	目	(1.5)	(5.2)	圓形粉をやや多量含む 小石を含む	内:圓形の過濾物 外:過濾の過大期 痕:ナゲに毛羽り
116	90	69	包合器	土砂器	目	(9.5)	(4.6)	粗粒粉を多量含む カガス質含む	内:ナゲ 外:カガス質、毛切り網盤
116	90	70	包合器	上細粉	目	(1.1)	(5.4)	粗粒粉を多量含む 水溶性粉を含む	内:粗粉の過大期 外:水溶性の過大期 毛:毛切り網盤
116	90	71	包合器	土砂器	目	(0.9)	(5.4)	粗粒粉を多量含む	内:過濾の為不規則 外:ナゲ、毛切り網盤
116	90	72	包合器	ぬれ粉	すり鉢	(26.0)	(5.8)	粗粒粉を含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	73	包合器	ぬれ粉	すり鉢	(30.0)	(7.7)	0.1~0.3mmの白色粉 を中粒粉含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	74	包合器	ぬれ粉	すり鉢	(13.6)	(2.9)	0.5mmの黒色粉 を中粒粉含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	75	包合器	ぬれ粉	すり鉢	(5.5)		細粒粉を少量含む	内:ナゲ 外:ナゲ
116	90	76	包合器	ぬれ粉	ぬれ粉	(16.0)	(3.1)	0.2mmの白色粉を 少量含む	内・外側:ナゲ



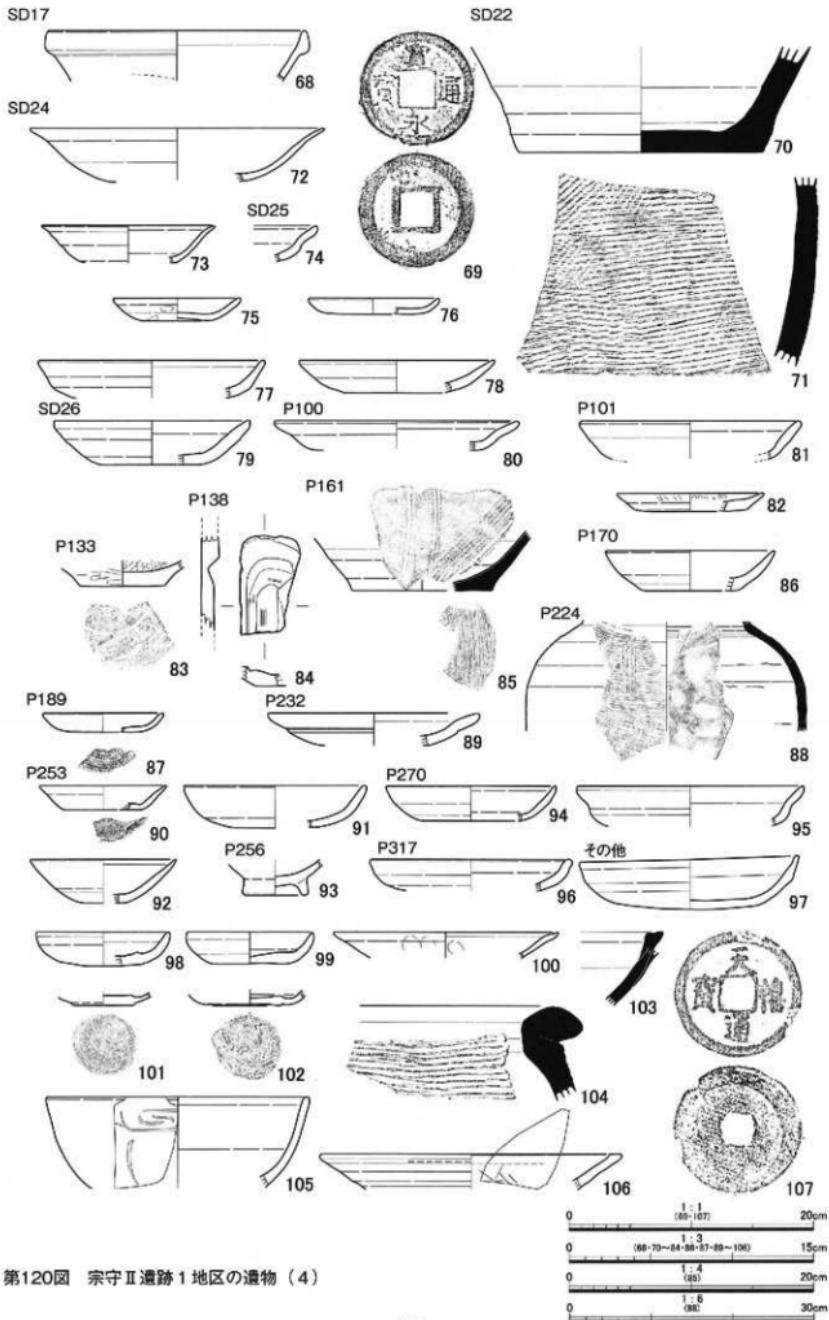
第117図 宗守II遺跡1地区の遺物 (1)



第118図 宗守II遺跡1地区の遺物（2）



第119図 宗守II遺跡1地区の遺物（3）



第120図 宗守II遺跡1地区の遺物(4)

第15表 宗守II遺跡1地区出土遺物観察表

土器・陶器類

区分	目次	通巻番号	種類	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	胎上	成形・調整 (上段: 外面・下段: 内面)	備考項
117	91-1	SH01P25	土器器	小壺	132	-	16	やや粗	クロロナガ	外側張付有、0.3~0.5mm厚あり
117	91-2	SK03	中世土器	壺	80	-	17	ナガ、底付ハケ	内面張付有、墨化、ハケ状工具	
117	91-3	SK12	中世土器	壺	120	-	42.9	やや粗	ナガ	
117	91-4	SK12	陶器	すり鉢	-	-	(7.0)	成形骨創、断面弧	クロロナガ	
117	91-5	SK17	陶器	すり鉢	-	-	(6.2)	密、底付骨創、内包	クロロナガ	錫口(1件付5個)
117	91-6	SK17	陶器	すり鉢	-	-	(7.1)	密、底付骨創、内包	クロロナガ	錫止系泥瓦風
117	91-7	SK21	陶器	壺	138	-	49	やや粗	クロロナガ	底部・錫付有
117	91-8	SK21	陶器	壺	65.0	-	49	密	クロロナガ	自然剥離有
117	91-9	SK24	陶器	壺	-	-	-	やや毛	クラキ	
117	91-10	SK24	陶器	壺	-	9.0	41.5	密	錫付	内包、成形有、錫付有
117	91-11	SK28	中世土器	壺	108	-	42.5	密	ナガ	
117	91-12	SK28	陶器	すり鉢	-	12.2	42.7	密	クロロナガ、錫口、各項有	全周に錫付有
117	91-13	SK35	中世土器	壺	137	-	46(3.0)	密	クロロナガ、錫口、各項有	
117	91-14	SK35	中世土器	壺	141	-	(2.6)	密	ナガ	
117	92-15	SK35	中世土器	壺	83	5.4	1.6	密	クロロナガ、直底有切り	
117	92-16	SK35	中世土器	口	73	43	1.7	密	クロロナガ、直底有切り	灯芯孔有あり
117	92-17	SK36	青磁	碗	-	-	42.6	密	クロロナガ	片切型平花文、暗緑色の施釉
117	92-18	SK35	陶器	壺	-	-	(4.8)	密	クラキ	
117	92-19	SK35	陶器	壺	164	-	42.7	密	ナガ	
117	92-20	SK35	陶器	すり鉢	-	120	46.6	密	ナガ	
117	92-21	SK35	陶器	すり鉢	280	(11.0)	128	海鷺骨付、腹・中腰溝	ナガ	前面に海鷺骨有
118	92-22	SK35	陶器	壺	-	-	46.4	密	クラキ	
118	92-23	SK35	瓦片土器	瓦	-	-	42.0	やや粗、裏面多孔化	クロロナガ	内包裏多孔化有、洗し孔あり
118	92-24	SK35	廐戸类型	瓦	280	(15.0)	-	やや粗、裏面多孔化	クロロナガ	外周に突起有
118	92-25	SK36	白磁	盤	-	-	35	密	クロロナガ	断面に施釉有あり、灰被
118	92-26	SK35	中世土器	壺	-	-	(2.9)	密	クロロナガ	直底有
118	92-27	SK46	中世土器	壺	137	-	(1.8)	密	ナガ	ナガ、底付有
118	92-28	SK47	中世土器	口	140	-	(2.8)	密	ナガ	スズ付有 (内面)
118	92-29	SK48	中世土器	口	90	-	45.5	密、裏面多孔化	クロロナガ	
118	93-31	SK52	中世土器	壺	82	5.0	1.9	密	クロロナガ	灯芯孔有あり
118	93-32	SK52	中世土器	壺	(6.1)	(4.1)	1.7	密	クロロナガ	錫付有
118	93-33	SK52	中世土器	壺	(7.8)	5.6	(1.7)	密	クロロナガ	錫付有、錫付条有り (底部)
118	93-34	SK52	青磁	碗	-	(4.9)	(2.2)	密	クロロナガ	オリーブ緑色施釉、錫付、底出高台
118	93-35	SK52	陶器	すり鉢	-	11.8	3.8	呂、底付有、腹縁有	ナガ	
118	93-36	SK55	中世土器	壺	120	-	(4.7)	密	ナガ	四脚底
118	93-37	SK55	陶器	壺	-	6.8	(16.2)	密、底付有	ナガ	
118	93-38	SK58	陶器	すり鉢	32.4	-	46.7	密	ナガ	
118	93-39	SK59	陶器	壺	-	15.6	-	(2.8)	密	内面穿孔
118	93-40	SK61	陶器	すり鉢	-	30.2	6.9	10mm/7cm~縫隙	ナガ	
118	93-41	SK67	中世土器	口	92	7.6	1.4	やや粗	ナガ	
118	94-42	SK68	陶器	すり鉢	-	11.2	3.6	15mm/1.5cm~縫隙	ナガ	内面穿孔
118	94-43	SK68	陶器	すり鉢	27.4	-	96.8	縫隙、白色絵	ナガ	
118	94-44	SK68	陶器	壺	-	-	(12.0)	密、底付有、中腰	ナガ	全体焼がれあり
119	95-30	SD01	陶器	壺	-	(21.0)	-	46.3	密	ナガ
119	95-51	SD01	陶器	すり鉢	-	(26.4)	-	(3.8)	密	ナガ
119	95-56	SD01	陶器	壺	(32.6)	-	24	密	クロロナガ、コクロケズリ	つまみ最大径30cm
119	95-57	SD04	中世土器	壺	-	-	46.6	密、錫付有、内包	ナガ	
119	95-58	SD04	陶器	壺	-	-	(2.7)	高脚有	ナガ	
119	95-59	SD04	陶器	壺	11.8	-	(3.7)	密	ナガ	自然剥離有
119	95-60	SD04	陶器	すり鉢	-	12.0	3.5	密	ナガ	内面穿孔
119	95-61	SD04	陶器	すり鉢	-	-	-	密	ナガ	
119	95-62	SD04	陶器	壺	14.8	8.5	3.5	密	ナガ	

品種名	学名	花期	株高(cm)	葉幅(cm)	葉形	葉色	輪葉	成形・刈込(三段・外周・下版・内面)		特徴・事項
								上段	中段	
119-95 63 SD05	珠沢	すり鉢	-	-	丸32	黒	ナゲ	ナゲ	ナゲ	上層部に波状文
119-95 64 SD06	珠沢	球	-	11.9	4.0	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
119-95 65 SD11	中良土跡	圓	-	-	純2.2	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
119-95 66 SD16	中良土跡	球	13.0	-	2.2	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
119-95 67 SD16	中良土跡	半球	-	10.8	3.8	青	ナゲ	静止系切り盛	ナゲ	内面削減
120-95 68 SD17	白銀	球	15.6	-	(3.1)	青	ナゲ	ロウソク型	ロウソク型	地盤
120-95 70 SD22	生沢	球	20.6	11.8	6.5	青、穀皮人	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-95 71 SD22	生沢	球	-	-	-	青	ナゲ	タマゴ型、ナゲ	ナゲ	
120-95 72 SD24	中良土跡	圓	19.8	(9.0)	(3.3)	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
130-96 73 SD24	中良土跡	圓	10.6	6.0	(2.3)	(西紅)	ナゲ	ナゲ	ナゲ	成形につき葉被不規
120-96 24 SD25	中良土跡	圓	-	-	純2.2	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 75 SD25	中良土跡	球	7.8	4.2	1.5	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	ナゲ
120-96 76 SD25	中良土跡	圓	7.1	7.1	1.0	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	外側削減、打点油抜
120-96 77 SD25	中良土跡	圓	(13.9)	-	(2.3)	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 78 SD25	中良土跡	圓	12.0	6.0	2.0	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 79 SD26	中良土跡	圓	12.0	-	残(2.7)	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 80 P100	中良土跡	圓	15.0	-	1.8	やや粗	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 81 P101	中良土跡	球	13.2	-	(2.7)	やや粗、穀皮人	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内面削減
120-96 82 P101	中良土跡	球	(8.8)	(6.3)	1.1	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-96 83 P123	中良土跡	圓	-	5.2	(1.6)	やや粗、表面滑な 白毛毛子	ナゲ	斜削去切り盛	ナゲ	
120-96 85 P161	珠沢	すり鉢	-	(11.4)	(4.9)	0.5~1.0mm白色毛	ロウソク型、斜削去切り盛(成形)	ロウソク型、斜削去切り盛(成形)	スヌケ付(内付)、削し目追削無	
120-96 86 P170	中良土跡	圓	10.4	2.43	6.0	毛毛子と斑端の薄色 毛毛子	ナゲ	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	
120-96 87 P189	中良土跡	圓	(7.3)	4.8	1.2	やや粗	ナゲ	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	底部削除無
120-97 88 P224	珠沢	球	-	(12.4)	吉	油抜無	タマキ	タマキ	タマキ	切削
120-97 89 P232	中良土跡	圓	13.0	-	2.0	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 90 P235	中良土跡	圓	7.8	4.6	1.5	青	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	底部削除無	
120-97 91 P233	中良土跡	球	11.2	-	2.6	やや粗、穀皮合行	ナゲ	ナゲ	ナゲ	口輪的保付茎
120-97 92 P233	中良土跡	球	9.0	3.0	2.7	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 93 P256	珠沢	球	-	3.6	純2.2	青	ロウソク型	ロウソク型	ロウソク型	両面に油抜各部あり、買入、粗削高合
120-97 94 P270	中良土跡	圓	10.4	-	純2.1	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	内面削付茎、打点油抜
120-97 95 P270	中良土跡	圓	13.8	-	(2.5)	やや粗、水色毛なし	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 96 P217	中良土跡	圓	12.4	-	純1.9	青、葉裏毛子青毛	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 97 金舟原	中良土跡	圓	13.5	-	3.3	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 98 金舟原	中良土跡	圓	8.2	-	残(2.1)	青	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	
120-97 99 衣面精合	中良土跡	圓	7.7	(4.7)	(2.0)	青	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	
120-97 100 衣面精合	中良土跡	圓	13.8	-	(1.6)	青	ナゲ	ナゲ	ナゲ	
120-97 101 衣面精合	中良土跡	圓	-	3.7	純0.8	青	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	斜削去切り盛
120-97 102 衣面精合	中良土跡	圓	4.3	3.6	0.9	青	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	ロウソク型、斜削去切り盛	斜削去切り盛
120-97 104 衣面精合	珠沢	球	-	(5.8)	油抜無	タマキ	タマキ	タマキ	タマキ	複数茎
120-97 105 衣面精合	青銀	球	16.0	-	(5.3)	青、表面無毛毛子青毛	ロウソク型	ロウソク型	ロウソク型	複数茎子、青毛子
120-97 106 衣面精合	油戸美深	球	18.6	-	純2.2	青	ロウソク型	ロウソク型	ロウソク型	底付

木製品

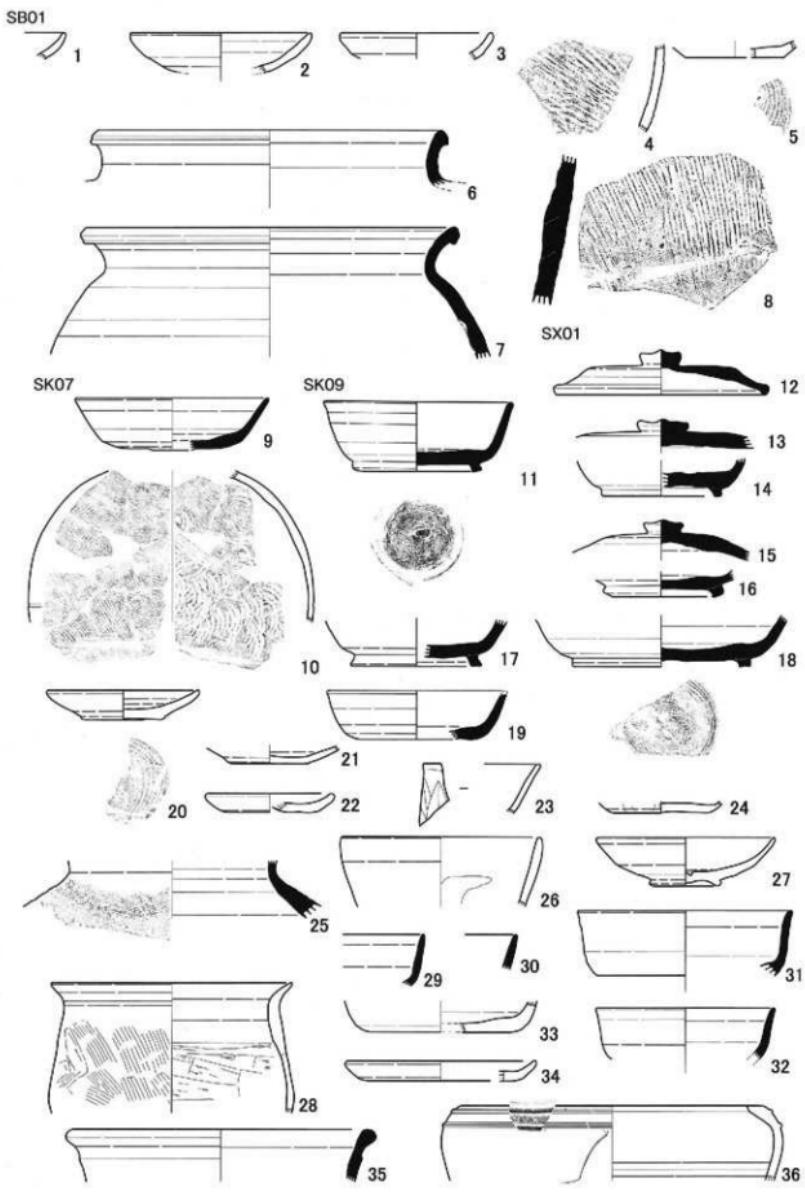
固有番号	登録番号	種類	形状	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特記事項
118 92 29	SK47	木製品	直物	146	(3.8)	0.6	
119 94 45	SK69	木製品	小物	183	4.8	1.2	井戸の枠材か
119 94 46	SK69	木製品	不等	153	8.4	1.3	部材か
119 94 47	SK69	木製品	被	(17.7)	(1.9)	0.3	
119 94 48	SK69	木製品	小物	241	4.3	5.5	施樋か
119 94 49	SK70	木製品	施樋?	129	8.8	0.85	
119 95 53	SD01	木製品	不明	107	3.5	1.1	しゃくし形木製品か
119 95 54	SD01	木製品	管	165	6.5	5.0	
119 95 55	SD01	木製品	漆桶	130	-	4.1	内外無垢、丸込み内芯で支撑

石製品

固有番号	登録番号	種類	形状	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特記事項
117 91 7	SK18	石製品	礫石	100	4.1	3.7	3束使用
119 95 52	SD01	石製品	砾石	77	3.8	3.3	全面使用
120 96 84	P138	石製品	鉢	(6.1)	(3.7)	(1.2)	

金属製品

固有番号	登録番号	種類	形状	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	特記事項
120 95 69	SD17	施貨	古鉢	23	0.7	1.0	重量:3kg、新電水の電水池室
120 97 107	表面磨金	施貨	古鉢	25	0.6	0.1	重量:2kg、「天祐洋宝」1017年御賜物



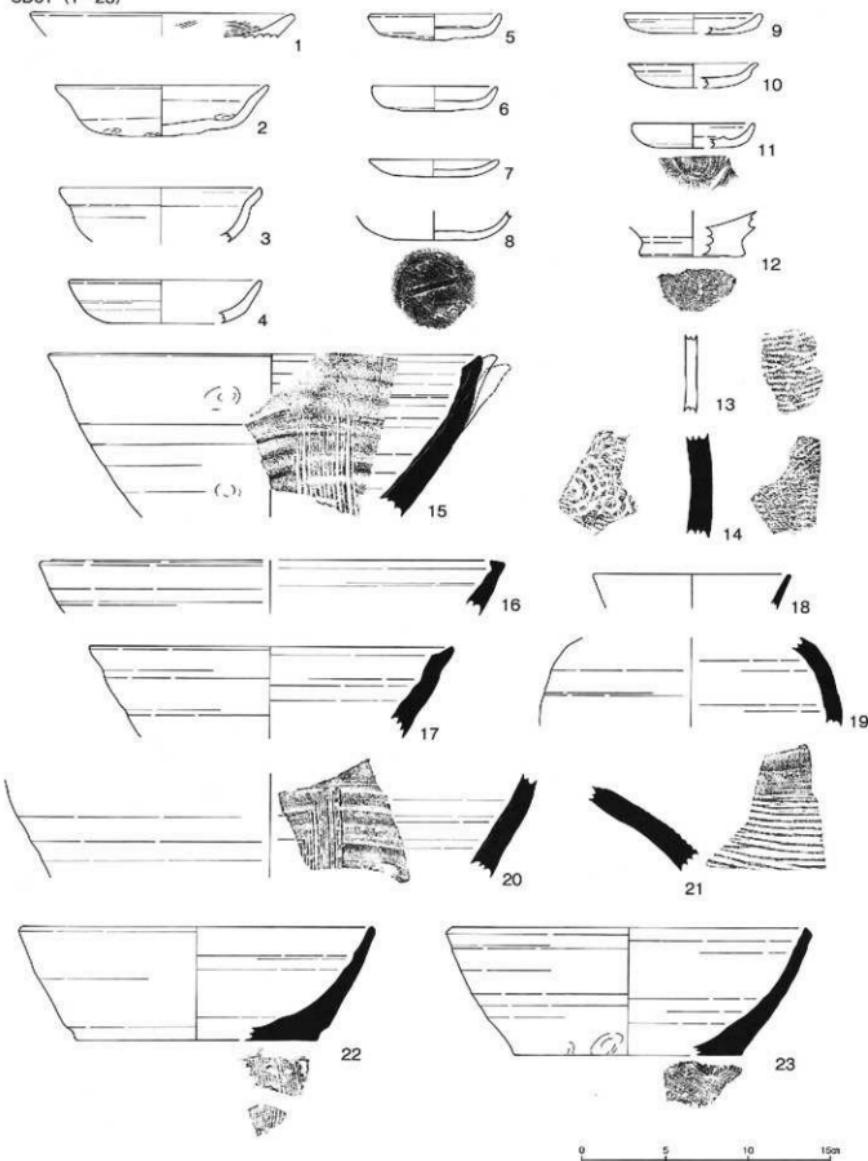
第121図 宗守II遺跡2地区の遺物



第16表 宗守Ⅱ遺跡2地区出土遺物観察表

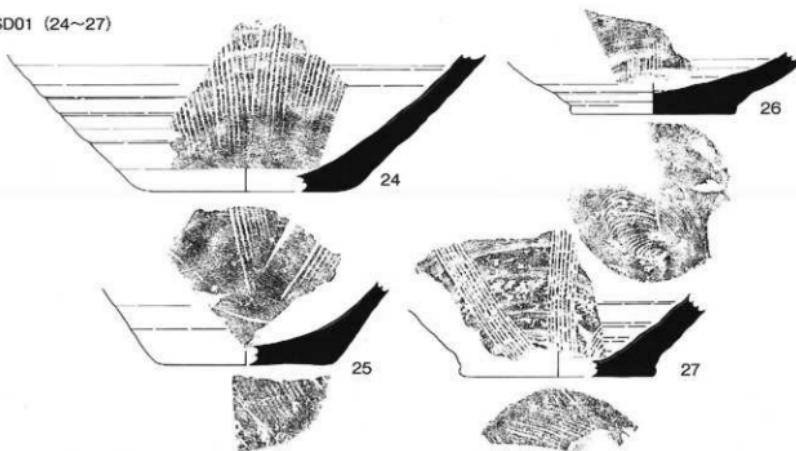
登録番号	器種番号	迷番	基種	口径(cm)	高さ(cm)	変形(cm)	土	成形・調製(上段:外側・下段:内裏)	特記事項
121 98 1	SD01	小鉢上器	皿	-	-	残22	今や堆、底26墨色瓦子食心	タグ ナダ	
121 98 2	SD01/P9	中盤上器	皿	11.0	-	(24)	瓦、3mmの石ハゼ1つ	タグ ナダ	
121 98 3	SD01/P15	中盤上器	皿	(9.0)	-	残16	ナダ	タグ ナダ	
121 98 4	SD01/P15	上鉢器	皿	-	-	(5.4)	ナダ	タグ ナダ	
121 98 5	SD01/P19	中盤上器	皿	-	6.0	残1.0	ナダ	タグ ナダ	
121 98 6	SD01/P20	馬印	皿	21.0	-	(3.1)	青、變形な水口、白灰 瓦子食心	タグ ナダ	11枚埋4、沈縫1本あり
121 98 7	SD01/P20	殊別	皿	22.6	-	7.9	青、白灰瓦	タグ ナダ	
121 98 8	SD01/P20	殊別	皿	-	-	残(9.4)	海綿骨針	タグ ナダ	
121 98 9	SK07	瓦型器	杯	11.8	7.0	3.2	青、變形な水口瓦子食心	タグ ナダ	同軸ハラ切り
121 98 10	SK07	瓦型器	杯	-	-	(16.6)	青	タグ ナダ	タグ ナダ
121 98 11	SK09	中盤上器	瓦	11.4	7.5	4.5	青、約1.5mmの小石含む	タグ ナダ	活け西台、表面に×印の無
121 98 12	黄褐色土	瓦型器	皿	13.2	2.5	2.8	青	タグ ナダ	ロクロケズリ
121 98 13	黄褐色土	瓦型器	皿	3.1	-	残1.8	青	タグ ナダ	ロクロケズリ、ロクロケズリ
121 98 14	黄褐色土	瓦型器	有台杯	-	7.4	残2.3	青	タグ ナダ	貼付青台
121 98 15	SK01黑色土上	瓦型器	皿	24	-	(2.5)	青	タグ ナダ	タグ ナダ
121 99 16	SK01黑色土上	瓦型器	有台杯	-	7.3	残1.7	青、少しあたたかの赤 口、瓦子食心穴化	タグ ナダ	貼付青台
121 99 17	SK01黑色土上	瓦型器	有台杯	-	4.0	残2.8	青	タグ ナダ	貼付青台
121 99 18	SK01黑色土上	瓦型器	有台杯	-	(10.8)	(3.2)	青、変形な白色瓦子食心	タグ ナダ	貼付青台
121 99 19	黑色土上	瓦型器	杯	(11.0)	6.5	(3.0)	青、白色瓦	タグ ナダ	同軸ハラ切り無
121 99 20	SK01黑色土上	中盤上器	皿	9.2	4.6	1.8	青	タグ ナダ	瓦板名假付
121 99 21	SK01黑色土上	中盤上器	皿	-	2.5	1.1	青	タグ ナダ	同軸ハラ切り無
121 99 22	黑色土上	中盤上器	皿	8.0	6.0	1.15	青、變形な白色 瓦子食心	タグ ナダ	外腹、スス材付
121 99 23	黑色土上	青磁	碗	-	-	残4.0	青	タグ ナダ	片側脚脚面分文
121 99 24	SK01黑色土上	白磁	皿	6.0	-	残1.2	青、變形な白色瓦子 食心	タグ ナダ	活け
121 99 25	SK01黑色土上	青磁	碗	-	-	(3.5)	青	タグ ナダ	波紋文
121 99 26	SK01黑色土上	盤小瀬口	天目茶碗	12.0	-	残4.3	青	タグ ナダ	内腹に款様、外口にも少量の鉄跡あり
121 99 27	SK01黑色土上	盤中瀬口	皿	11.0	3.8	3.0	青	タグ ナダ	灰釉、腹凸向内
121 99 28	SK01黑色土上	土器器	小丸	14.8	-	残8.0	青、白色瓦	タグ ナダ	ハケ 同軸ハラ切り
121 99 29	灰面積金	瓦型器	碗	-	-	残3.2	0.5mmの白色瓦	タグ ナダ	内外腹スス材付
121 99 30	灰面積金	瓦型器	碗	-	-	(2.1)	青	タグ ナダ	
121 99 31	灰面積金	瓦型器	碗	13.0	-	(3.1)	20mmの白色瓦	タグ ナダ	外腹、火ぶくれあり、空母
121 99 32	灰面積金	瓦型器	杯	9.0	-	(3.1)	0.5~10mmの白色瓦	タグ ナダ	
121 99 33	灰面積金	瓦型器	杯	-	9.0	(1.9)	0.5~10mmの白色瓦	タグ ナダ	
121 99 34	灰面積金	中盤上器	皿	11.8	9.0	1.2	青	タグ ナダ	
121 99 35	麦査軸	殊別	皿	(9.0)	-	残3.2	青、變形な白色瓦子食心	タグ ナダ	
121 99 36	麦査軸	瓦質土器	瓶	37.2	-	残9.2	青、變形な白色 瓦子食心	タグ ナダ	外側部にもいよいよ スラッシュ(化粧文)あり

SD01 (1~23)

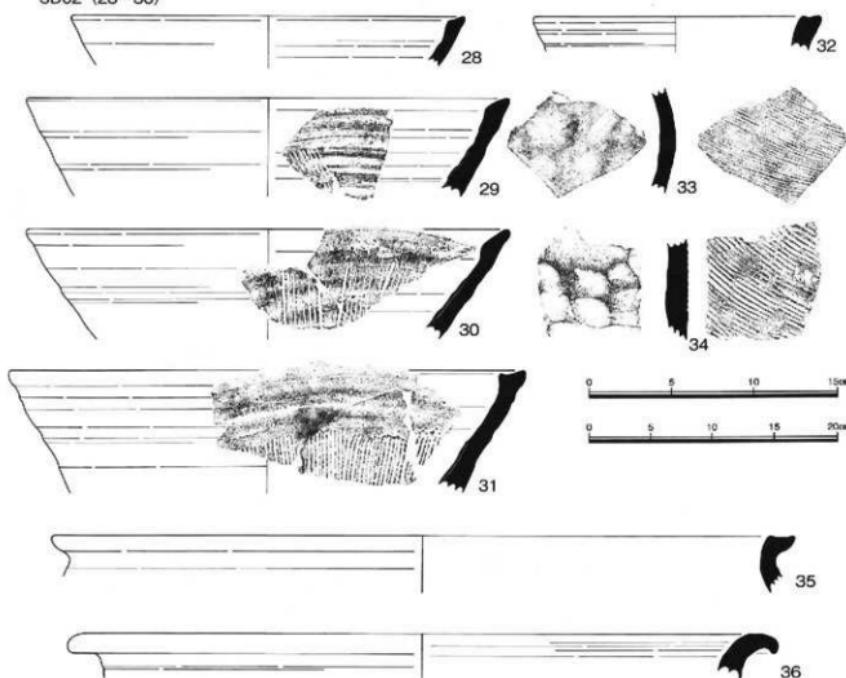


第122図 宗守II遺跡3地区の遺物 (1) (S=1:3)

SD01 (24~27)

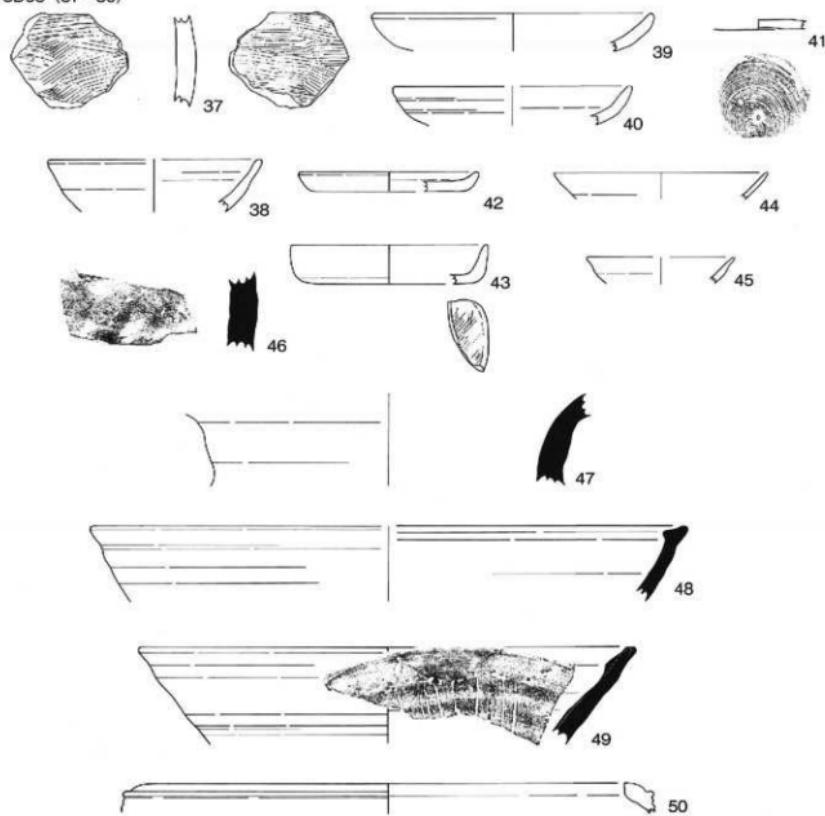


SD02 (28~36)

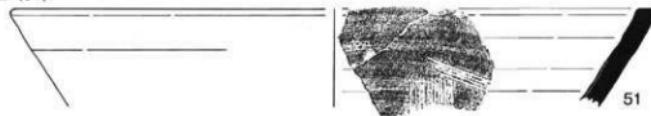


第123図 宗守II遺跡3地区の遺物 (2) (33、34はS=1:4、その他S=1:3)

SD03 (37~50)



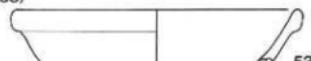
SK02 (51)



SK03 (52)

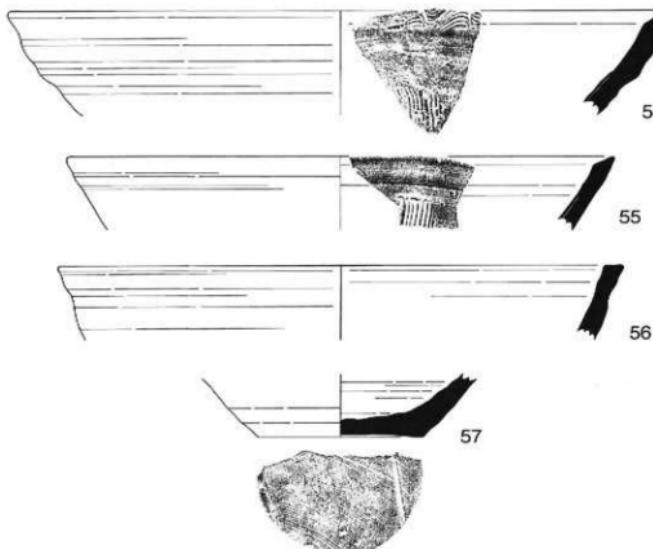


SK04 (53)

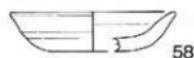


第124図 宗守II遺跡3地区の遺物 (3) (S=1:3)

SK05(54~57)



SK09(58)



SK10(61・62)



SK11(59・60)

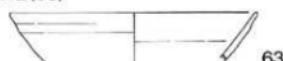


59

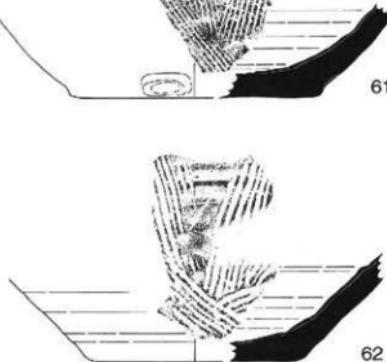


60

SK12(63)



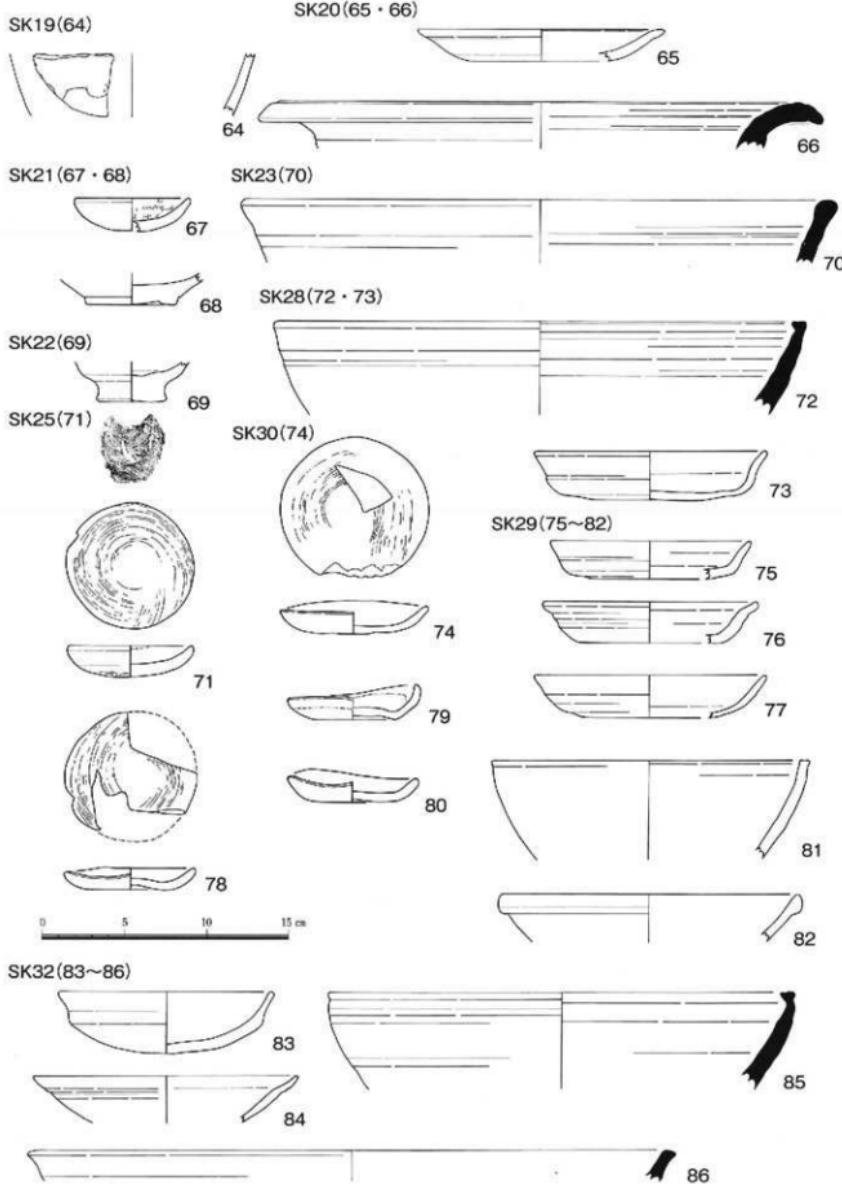
63



62

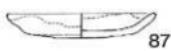
0 5 10 15 cm

第125図 宗守II遺跡3地区の遺物(4) (S = 1 : 3)



第126図 宗守II遺跡3地区の遺物(5) (S = 1 : 3)

SK33(87・88)



87

SK21(89)

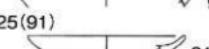


SE01(90)



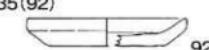
90

P25(91)

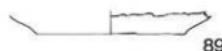


91

P35(92)



92



89

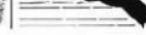


包含層(93~105)



93

94



94

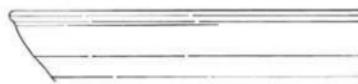
0 5 10 15 cm



100



101



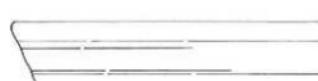
102



103



104

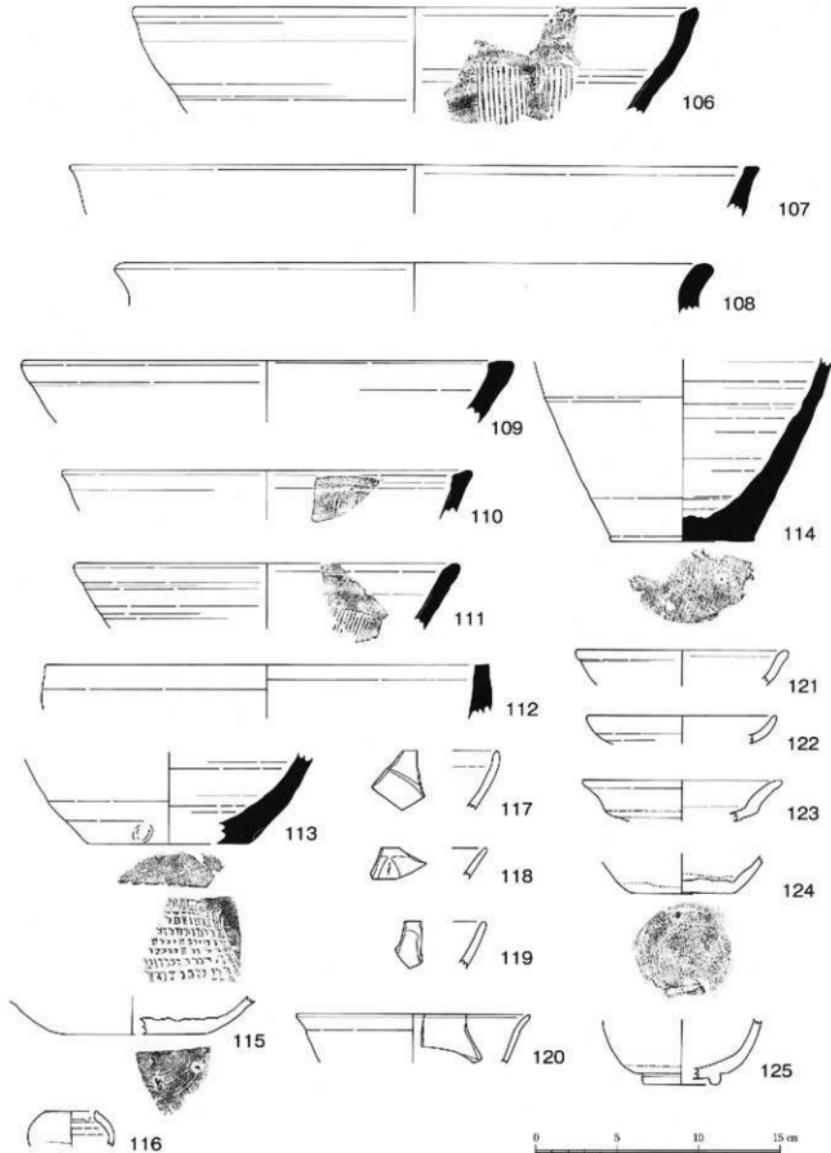


105



第127図 宗守II遺跡3地区の遺物(6) (S = 1 : 3)

包含層(106~125)



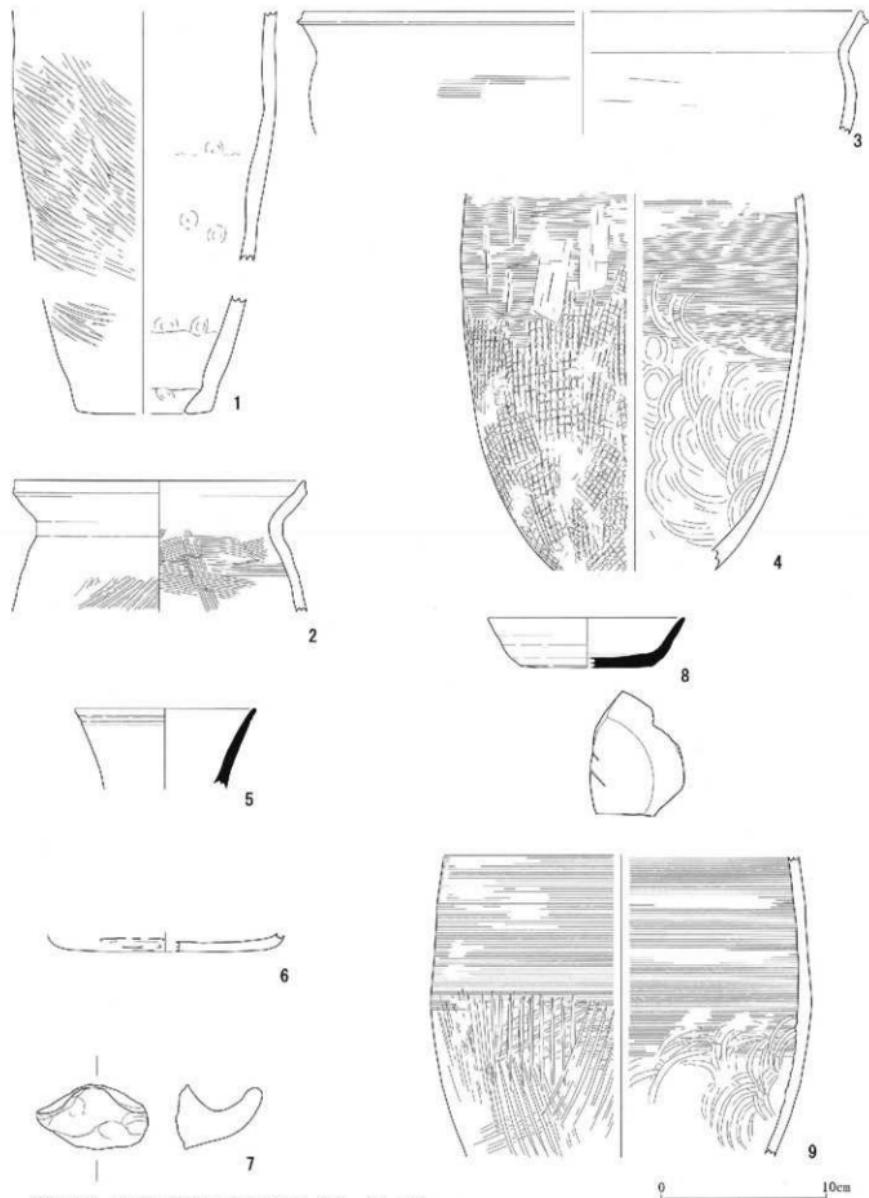
第128図 宗守II遺跡3地区の遺物(7) (S = 1 : 3)

第17表 宗守II遺跡3地区出土遺物観察表

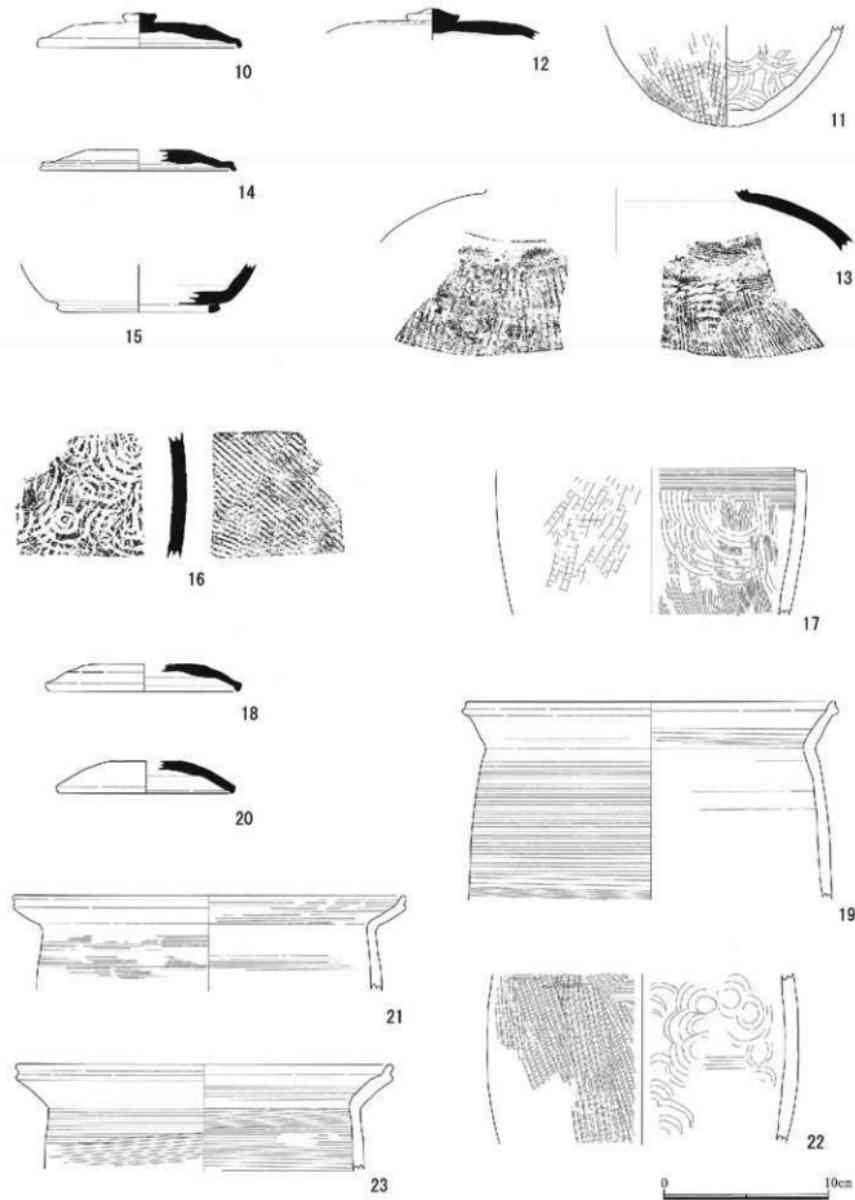
遺物名及其類別 番号	通標合号	種類	器種	口径(cm)	高さ(cm)	底径(cm)	上	成形・調整		特記事項
								外型	内面	
122 100 1	SD01	中世土器器	直口	16.0	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ	ハケ	
122 100 2	SD01	中世土器器	直	12.9	32	8.0	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 3	SD01	中世土器器	口	(12.2)	-	-	海螺合計	外型:ナメ 内面:ナメ	ハス	
122 100 4	SD01	中世土器器	直	(11.2)	(2.6)	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 5	SD01	中世土器器	直	8.0	1.6	6.0	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 6	SD01	中世土器器	直	7.6	1.5	6.0	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 7	SD01	中世土器器	直	(8.0)	(1.5)	(4.6)	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 8	SD01	中世土器器	直	-	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		底部削除余切り
122 100 9	SD01	中世土器器	直	8.4	13	7.2	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 10	SD01	中世土器器	口	(7.8)	(1.5)	(7.0)	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 11	SD01	中世土器器	直	7.4	1.5	6.0	直	外型:ナメ 内面:ナメ		底部削除余切り
122 100 12	SD01	中世土器器	直	-	-	6.1	直	外型:ナメ 内面:ナメ		底部削除余切り
122 100 13	SD01	礎文瓦	深鉢	-	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 14	SD01	須恵器	鏡	-	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
122 100 15	SD01	須恵器	寸り鉢	27.0	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		注口有り
122 100 16	SD01	須恵器	寸り鉢	(28.0)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 17	SD01	須恵器	寸り鉢	(31.8)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 18	SD01	須恵器	杯	(11.8)	-	-	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 19	SD01	須恵器	盤	-	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 20	SD01	須恵器	寸り鉢	-	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 21	SD01	須恵器	兜	-	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
122 100 22	SD01	須恵器	鉢	21.0	7.0	14.6	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		底部削除余切り内面に使用度有り
122 100 23	SD01	須恵器	鉢	(21.2)	(7.8)	(6.9)	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
123 100 24	SD01	須恵器	寸り鉢	-	-	13.4	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	鰐口	内面使用痕
123 100 25	SD01	須恵器	寸り鉢	-	-	(11.2)	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ナリ目	
123 100 26	SD01	須恵器	寸り鉢	-	-	10.2	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ハケ	底部削除余切り内面使用度有り
123 100 27	SD01	須恵器	寸り鉢	-	-	12.2	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	鰐口	底部削除余切り
123 101 28	SD02	須恵器	鉢	(24.4)	-	-	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
123 101 29	SD02	須恵器	寸り鉢	(39.0)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ナリ目	
123 101 30	SD02	須恵器	寸り鉢	(30.0)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ナリ目	
123 101 31	SD02	須恵器	寸り鉢	32.0	-	-	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ナリ目	
123 101 32	SD02	須恵器	直	17.8	-	-	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
123 101 33	SD02	須恵器	直	-	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
123 101 34	SD02	須恵器	直	-	-	-	海螺合計	外型:ナメ 内面:ナメ		
123 101 35	SD02	須恵器	直	(4.6)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
123 101 36	SD02	須恵器	直	(4.4)	-	-	直	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		内外:自然釉
124 101 37	SD03	土器器	直	-	-	-	海螺合計	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 38	SD03	中世土器器	直	(13.0)	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 39	SD03	中世土器器	直	(17.0)	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 40	SD03	中世土器器	直	(14.4)	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 41	SD03	中世土器器	直	-	-	5.6	直	外型:ナメ 内面:ナメ		底部削除余切り
124 101 42	SD03	中世土器器	直	(13.0)	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 43	SD03	中世土器器	口	(12.0)	(2.4)	(0.12)	直	外型:ナメ 内面:ナメ		底部ハケのらナメ
124 101 44	SD03	中世土器器	直	(13.0)	-	-	直	外型:マヌカ 内面:マヌカ		
124 101 45	SD03	中世土器器	直	(9.0)	-	-	直	外型:マヌカ 内面:マヌカ		
124 101 46	SD03	須恵器	直	-	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 101 47	SD03	須恵器	直	-	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
124 101 48	SD03	須恵器	直	(36.0)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ		
124 101 49	SD03	須恵器	寸り鉢	(30.0)	-	-	海螺合計	外型:ロクロナメ 内面:ロクロナメ	ナリ目	注口の一部あり
124 101 50	SD03	須恵器	火鉢	(30.0)	-	-	直	外型:ナメ 内面:ナメ		
124 102 51	NK02	須恵器	寸り鉢	(38.0)	-	-	海螺合計	-		
124 102 52	NK03	中世土器器	直	8.0	14	6.0	直	外型:ナメ 内面:ナメ		

品種名	別名	通称番号	種類	品種	口徑(cm)	筒高(cm)	底径(cm)	耐性	成形・調整	特記事項
122-102 53	SK04	白組	組	組	(17.0)	-	-	耐	-	
123-102 54	SK05	達誠	すり鉢	すり鉢	(40.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	内側に波状紋
123-102 55	SK06	珠洲	すり鉢	すり鉢	(34.0)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 56	SK07	珠洲	すり鉢	すり鉢	(13.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ・すり目	
123-102 57	SK08	珠洲	すり鉢	すり鉢	-	-	10.0	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 58	SK09	中井土器器	組	組	10.0	24	7.0	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 59	SK11	中井土器器	組	組	8.0	21	4.0	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 60	SK11	中井土器器	組	組	10.0	23	5.6	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-61	SK10	珠洲	すり鉢	すり鉢	-	-	13.2	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ・すり目	
123-102 62	SK10	珠洲	すり鉢	すり鉢	-	-	13.0	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ・すり目	
123-102 63	SK12	口組	組	組	(13.0)	-	-	-	-	
123-102 64	SK19	東京集善	美川	美川	-	-	-	密	-	
123-102 65	SK20	中井土器器	組	組	(15.0)	20	8.0	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 66	SK20	珠洲	組	組	(31.0)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 67	SK21	中井土器器	組	組	7.0	20	5.0	密	外側:ナダ 内側:ハサキのちナダ	
123-102 68	SK21	酒井	組	組	-	-	-	密	-	
123-102 69	SK22	中井土器器	組	組	8.8	13~21	5.0	密	外側:ナダ 内側:ナダ	板部同軸丸切り
123-102 70	SK23	珠洲	すり鉢	すり鉢	(30.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 71	SK25	中井土器器	組	組	7.6	19	6.4	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 72	SK26	珠洲	組	組	(32.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 73	SK28	中井土器器	組	組	14.0	30	10.2	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 74	SK30	中井土器器	組	組	8.8	13~21	5.0	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 75	SK29	中井土器器	組	組	12.0	23	10.2	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 76	SK29	中井土器器	組	組	13.0	25	8.8	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 77	SK29	中井土器器	組	組	(14.0)	(26)	(8.6)	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 78	SK29	中井土器器	組	組	8.0	07~13	5.6	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 79	SK29	中井土器器	組	組	7.9	13~21	5.0	密	口唇部:油滑	
123-102 80	SK29	中井土器器	組	組	7.8	11~20	5.3	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 81	SK29	珠洲	組	組	(19.2)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 82	SK29	白追	組	組	(18.0)	-	-	密	-	
123-102 83	SK32	中井土器器	組?	組?	13.0	38	10.0	密	外側:マメツ 内側:ペラ骨き	
123-102 84	SK32	中井土器器	組	組	(16.0)	-	-	密	外側:ナダ 内側:ヘラ削り	
123-102 85	SK32	珠洲	組	組	(28.0)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 86	SK32	珠洲	組	組	(39.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 87	SK33	中井土器器	組	組	9.0	15	6.4	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-102 88	SK33	珠洲	組	組	(29.6)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-102 89	SK37	前川製造	鉢皿	鉢皿	-	9.0	-	密	-	
123-103 90	SK01	中井土器器	組	組	(12.0)	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:マメツ	
123-103 91	P25	中井土器器	組	組	9.6	11	7.6	密	外側:ナダ 内側:マメツ	
123-103 92	P35	中井土器器	組	組	9.6	17	7.2	密	外側:ナダ 内側:ナダ	多色合
123-103 93	珠洲	年B	組	組	10.8	-	-	密	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-103 94	-	珠洲	組	組	-	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ・ハケ	
123-103 95	-	中井土器器	組	組	(15.0)	(38)	(12.0)	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-103 96	-	中井土器器	組	組	(16.0)	(20)	(13.8)	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-103 97	-	中井土器器	組	組	(18.0)	(20)	(11.0)	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-103 98	-	中井土器器	組	組	9.8	20	6.2	密	外側:ナダ 内側:ナダ	
123-103 99	-	珠洲	組	組	(12.6)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-103 100	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(40.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ・すり目	二種類に波状紋
123-103 101	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(44.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	二種類に波状紋
123-103 102	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(38.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-103 103	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(38.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-103 104	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(39.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	
123-103 105	-	珠洲	すり鉢	すり鉢	(39.0)	-	-	耐	外側:ロクロナダ 内側:ロクロナダ	

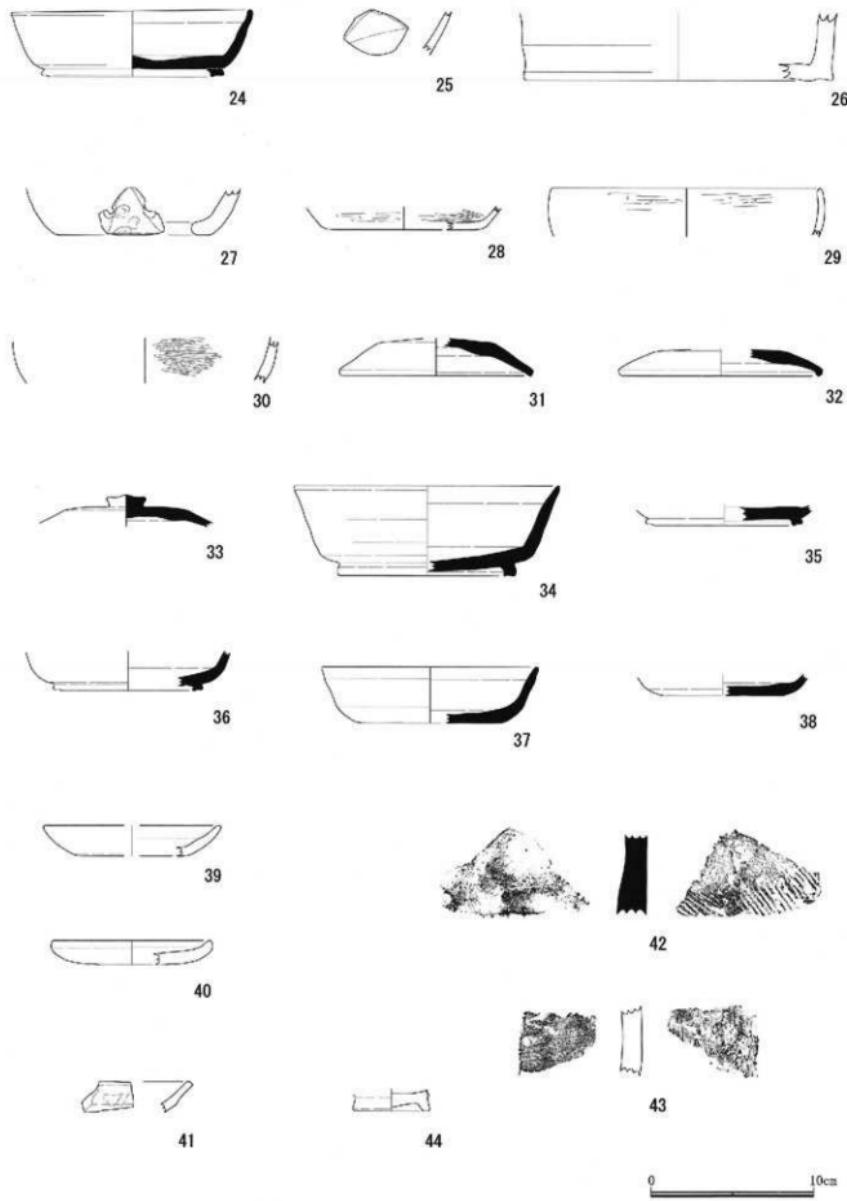
回数	年月日	標本番号	種類	零度	口径 (cm)	芯高 (cm)	底浅 (cm)	記号	成形・調整	特記事項
128	103.106	-	珠浦	ナリヅ	(34.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ・すり目	
128	103.107	-	珠浦	ズ	(42.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.108	-	珠浦	東	(36.0)	-	-	青	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.109	-	珠浦	ズ	(30.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.110	-	珠浦	宇乃舟	(25.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ・すり目	
128	103.111	-	珠浦	ナリヅ	(22.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.112	-	珠浦	ズ	(27.0)	-	-	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.113	-	珠浦	ズ?	-	-	10.2	海綿骨針	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	103.114	-	珠浦	東	-	-	8.8	青	外側: ロクロナダ 内側: ロクロナダ	
128	102.115	-	瀬戸内瀬	乃里	-	-	10.0	青		
128	103.116	-	瀬戸内	茶入れ	(32)	-	-	青	-	
128	103.117	-	青浦	穂	-	-	-	青	-	
128	103.118	-	青浦	穂	-	-	-	青	-	
128	103.119	-	青浦	穂	-	-	-	青	-	
128	103.120	-	白浦	穂	(14.2)	-	-	青	-	
128	103.121	-	青浦	穂	(13.0)	-	-	青	-	
128	103.122	-	瀬戸内	玉	(11.6)	-	-	青	-	
128	103.123	-	瀬戸内	玉	(12.2)	-	-	青	-	
128	103.124	-	上郷浦	夷	-	-	12.2	青	外側: ナダ 内側: ナダ	
128	103.125	-	瀬戸内瀬	天竜	-	-	4.6	青	-	



第129図 宗守II遺跡4地区の遺物 (1) (S=1:3)
1=SIO1 2~4=SIO2 5=SK04 6,7=SK06 8,9=SK10



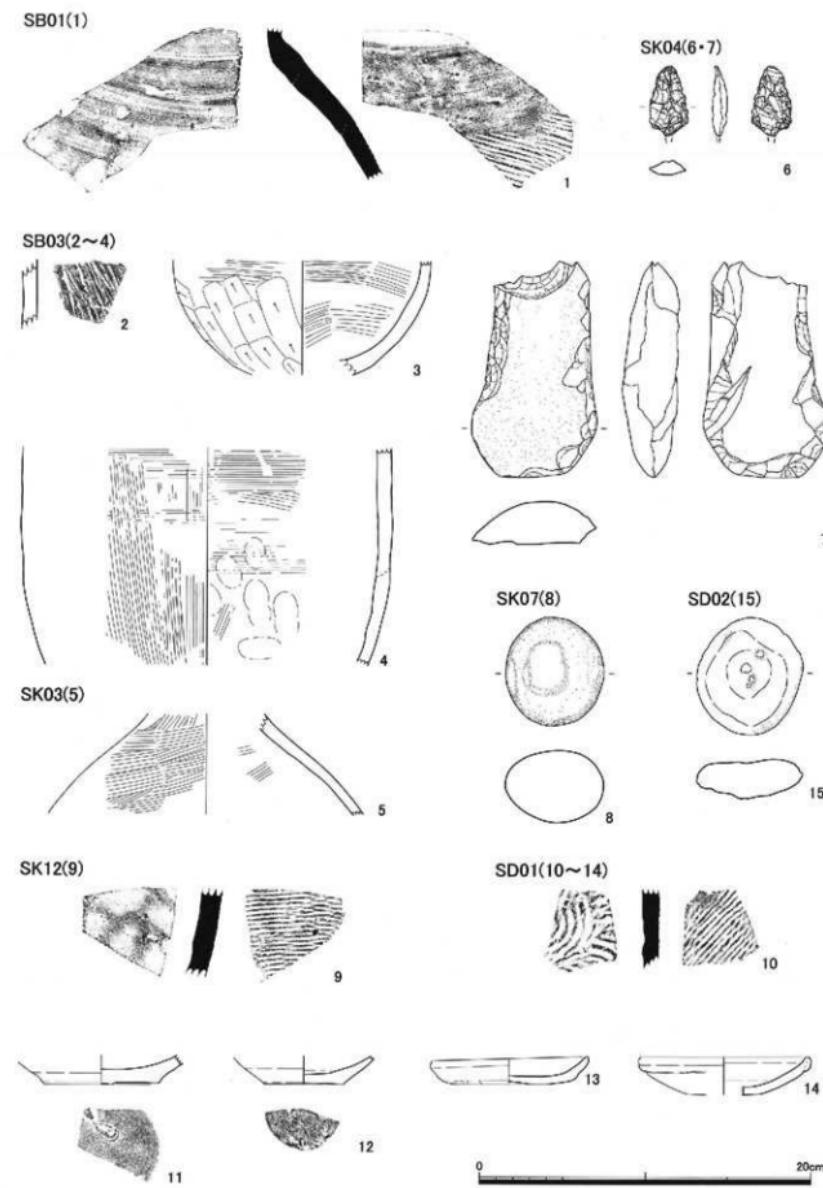
第130図 宗守II遺跡4地区の遺物(2) (S=1:3)
 10,11=SK11 12=SK16 13,14=SB03-P18 15=SB04-P9 16=P13 17=P95 18=P98
 19=P188 20=P190 21,22=P252 23=P265



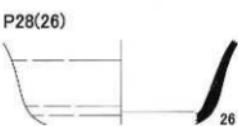
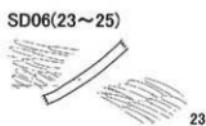
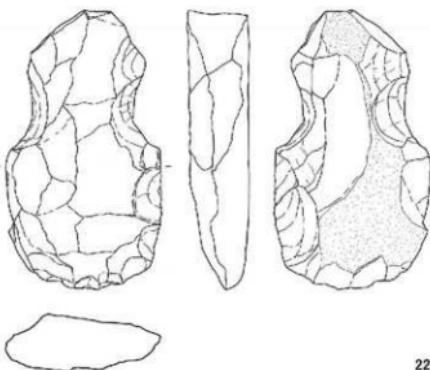
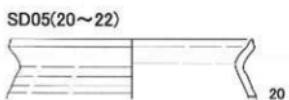
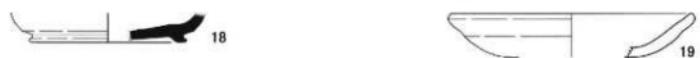
第131図 宗守II遺跡4地区の遺物(3) (S=1:3)
24-SX03 25-SD01 26~44=包含層

第18表 宗守II地区出土遺物観察表

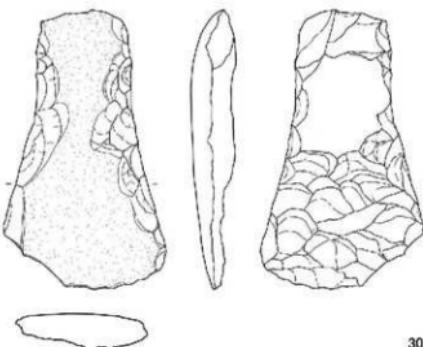
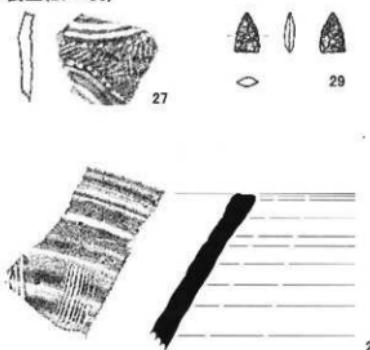
遺物番号	分類	高さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	形状	特記
129 104 1	SD01	土器	灰	-	(8.2)	直
129 104 2	SD02	土器	灰?	(7.6)	-	直
129 104 3	SD03	土器	灰?	(8.2)	-	直
129 104 4	SD02	土器	灰?	(8.2)	-	直
129 105 5	SK06	土器	灰?	(11.0)	-	直
129 105 6	SK06	土器	灰?	-	(14.0)	直
129 105 7	SK06	土器	灰?	-	-	直
129 105 8	SK10	土器	灰?	(12.0)	31 (8.4)	直
129 105 9	SK10	土器	灰?	-	-	直
130 105 10	SK11	土器	灰?	(12.0)	23	直
130 105 11	SK11	土器	灰?	-	-	直
130 105 12	SK16	土器	灰?	-	-	直
130 105 13	SK03-P18	土器	灰?	-	-	直
130 105 14	SK03-P18	土器	灰?	(11.2)	-	直
130 106 15	SH04-P9	土器	灰?	-	(10.0)	直
130 106 16	P13	土器	灰?	-	-	直
130 106 17	T96	土器	灰?	-	-	直
130 106 18	P96	土器	灰?	(11.2)	-	直
130 106 19	P188	土器	灰	(22.6)	-	直
130 106 20	P190	土器	灰?	(10.4)	-	直
130 106 21	P252	土器	灰	(24.0)	-	直
130 106 22	P252	土器	灰	-	-	直
130 106 23	P265	土器	灰	(23.0)	-	直
131 106 24	SX03	土器	有台杯	148	113 (42)	直
131 106 25	SD01	土器	灰?	-	-	直
131 107 26	包含帶	土器	灰?	-	(19.2)	直
131 107 27	包含帶	土器	灰?	-	(9.8)	直
131 107 28	包含帶	土器	灰?	-	(10.6)	直
131 107 29	包含帶	土器	灰?	(16.8)	-	直
131 107 30	包含帶	土器	灰?	-	-	直
131 107 31	包含帶	土器	灰?	(11.0)	-	直
131 107 32	包含帶	土器	灰?	(11.8)	-	直
131 107 33	包含帶	土器	灰?	-	-	直
131 107 34	包含帶	土器	有台杯	(16.4) (5.6) (11.0)	直	直
131 107 35	包含帶	土器	有台杯	-	(9.6)	直
131 107 36	包含帶	土器	有台杯	-	(9.2)	直
131 107 37	包含帶	土器	有台杯	(13.4) (3.6) (9.0)	直	直
131 107 38	包含帶	土器	有台杯	-	(8.0)	直
131 107 39	包含帶	土器	小盤	(11.0) (1.9) (7.2)	直	直
131 107 40	包含帶	土器	小盤	(9.8) (1.5) (6.4)	直	直
131 107 41	包含帶	土器	灰?	-	-	直
131 107 42	包含帶	土器	灰?	-	-	直
131 107 43	包含帶	土器	灰?	-	-	直
131 107 44	包含帶	土器	灰?	-	4.8	直



第132図 宗守II遺跡5地区の遺物 (1) (S=1:3)



表土(27~30)



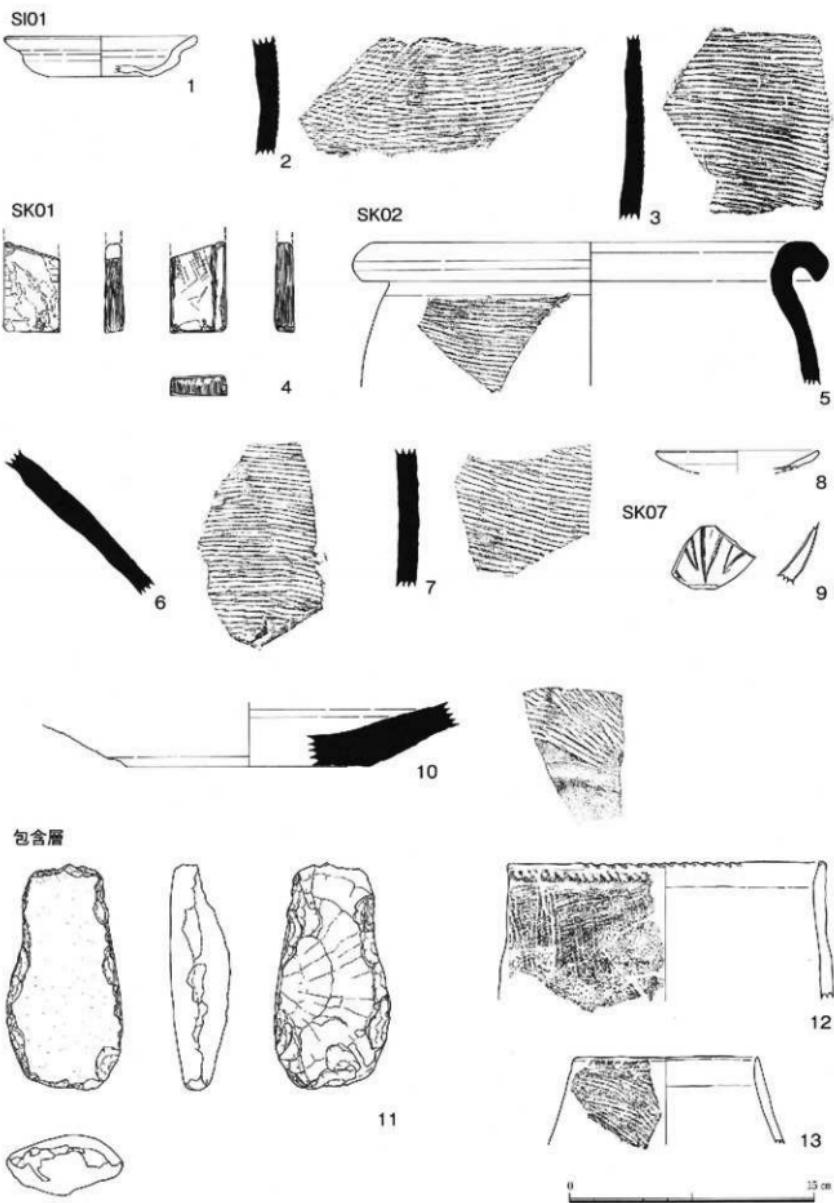
第133図 宗守II遺跡5地区の遺物 (2) (S=1:3)



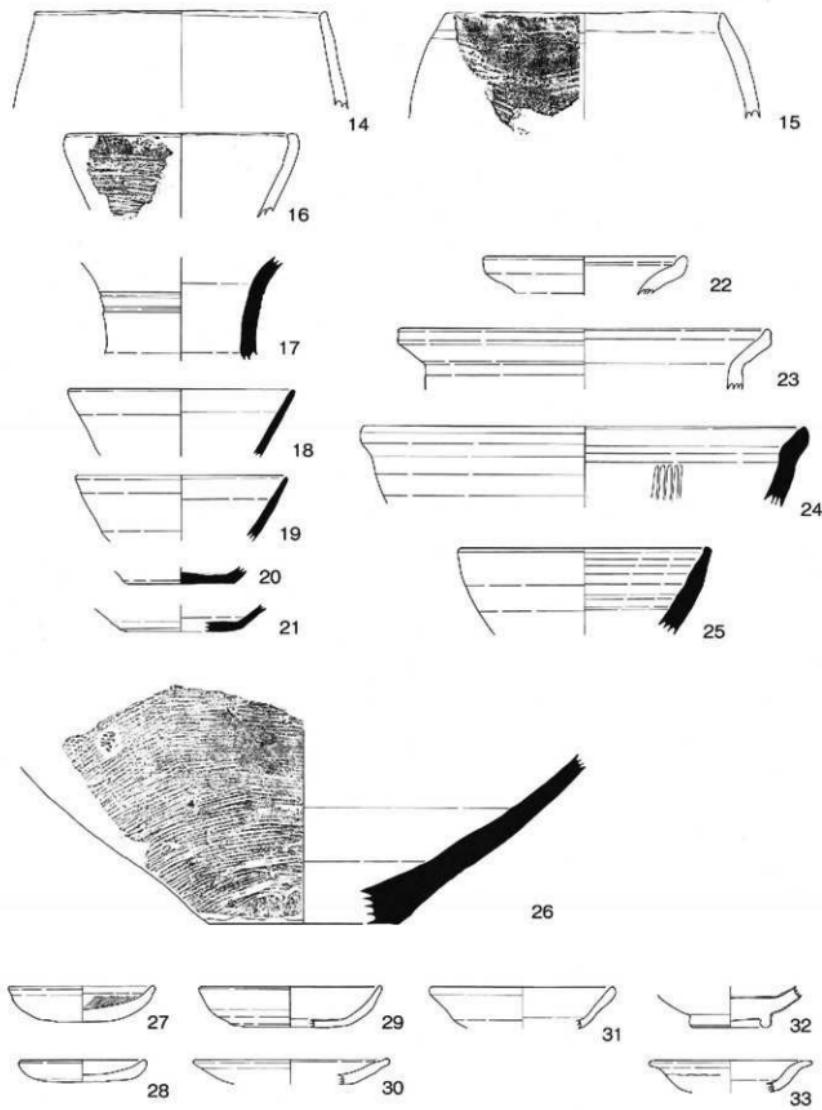
第19表 宗守II遺跡5地区出土遺物観察表

登録番号	種類	器種	口径 (cm)	高さ (cm)	底径 (cm)	材質	成形・削型(上段: 内面下段: 外面)		等記事項
							表面	裏面	
132 108. 1	SD01(P01)	球泡瓶	美	-	(9.4)	-	密、砂粒含む	ヨコナギ、粘土無し	
132 108. 2	SP03(T96)	縄文土器	深鉢	-	(4.8)	-	密、チャート、灰石、 焼付合む	ヨコナギ、下打子タガ	
132 108. 3	SD05(T96)	土器	美	-	(6.1)	-	中	ヨコナギ	
132 108. 4	SD06(T96)	土器	美	-	(13.5)	-	密、チャート、灰石、 焼付合む	ヨコナギ、ヘラケツリ	赤彩あり
132 108. 5	SK03	弦文土器	美	-	(6.2)	-	密、チャート、灰石、 焼付合む	ヨコハケ、西波瓦製	
132 108. 6	SK12	球泡瓶	美	-	(5.5)	-	密、砂粒含む	ヨコハケ、ナメハラゲ、クチハケ	
132 108. 7	SD01	球泡瓶	美	-	(4.9)	-	密、白色砂粒含む	ヨコナギ、下打子タガ	
132 108. 11	SD01	中筒土器	直	-	(1.8)	(6.8)	密	ヨコナギ、下打子切痕	RD頭
132 108. 12	SD01	中筒土器	直	-	(1.8)	(4.8)	密、黄褐色化焼付	ヨコナギ、圓軸系切痕	
132 108. 13	SD01	中筒土器	直	0.5	1.7	8.0	密、石灰含む	ヨコナギ、ナメハラゲ、指印压出	N.B.I頭
132 108. 14	SD01	中筒土器	直	(10.0)	(2.8)	(8.0)	密、白色砂粒・灰英、 焼付合む	ヨコナギ、ナメハラゲ	ND II頭
133 109. 16	SD03	瓶	杯	-	(1.6)	(13.8)	密	ヨコナギ	
133 109. 17	SD03	瓶	杯	(19.2)	(2.4)	-	密、砂粒含む	ヨコナギ	
133 109. 18	SD03	瓶	杯身	-	(1.8)	(9.6)	密	ヨコナギ、倒輪・ヘラ切り	點付高台
133 109. 19	SD03	中筒土器	直	(14.5)	(2.7)	-	密、省削・角内凹合む	ヨコナギ	N.A.T頭
133 109. 20	SD05	土器	直	(14.6)	(3.7)	-	密、角次石含む	ヨコナギ	
133 109. 21	SD05	土器	小筒素	-	(5.8)	6.1	やや密、角次石含む	ヨコナギ、ヘラケツリ、側面ヘラ切り	
133 109. 23	SD06	土器	枕	-	(4.0)	-	やや密、砂粒・灰英含む	ヘラミガキ、ヘラケツリ	
133 109. 24	SD06	土器	枕	-	(1.5)	-	やや密、砂粒含む	ヨコナギ	
133 109. 25	SD06	土器	枕	-	(3.1)	-	密	ヨコナギ	
133 109. 26	P24	須恵器	杯身	-	(5.2)	-	密	ヨコナギ	
133 109. 27	盆合	縄文土器	深鉢	-	(5.5)	-	やや密、砂粒・チャート、 燒付合む	ヨコナギ合、利廢文、縄文、 燒付合む	5.1呈 II式
133 109. 28	盆合	縄文土器	深鉢	-	(9.7)	-	密、砂粒含む	ヨコナギ、加目	部分の尖部は二重に9条

登録番号	遺物番号	種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	右 状	技法の特徴		等記事項
								左 状	技法の特徴	
132 108. 6	SK04	右瓶	(4.5)	2.4	0.9	78	瓶口尖	-	右瓶尖	
132 108. 7	SK04	打製石斧	(13.0)	7.5	3.3	370	鋸刃	-	鋸刃	
132 108. 8	SK07	強石	6.6	6.0	4.6	250	鋸刃	正面に鋸刃 背面に斜打直		
132 108. 15	SD02	正方	7.2	6.4	2.4	150	鋸刃	正面と背面に斜打直		
133 109. 22	SD05	打製石斧	17.2	9.4	3.6	720	鋸刃	-	鋸刃	
133 109. 29	盆合	石器	2.45	1.30	0.6	15	凝灰岩系	-	凝灰岩系	
133 109. 30	強石	打製石斧	17.1	10.0	2.7	380	鋸刃	-	鋸刃	



第134図 宗守II遺跡6地区の遺物(1) (S = 1 / 3)



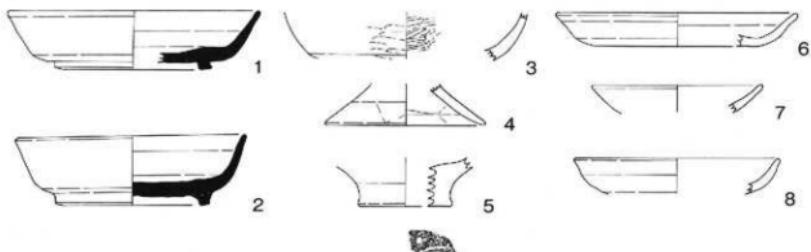
第135図 宗守II遺跡6地区の遺物(2) (S = 1 / 3)

0 15 cm

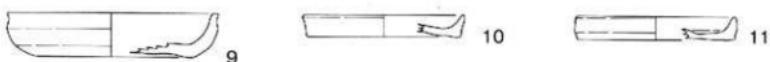
第20表 宗守II遺跡6地区出土遺物観察表

登録番号	遺物番号	種類	器種	寸法	底面	底径	施	成形・調査		特記事項
								内面	外側	
134	110-1	SK01	土師器	直	11.6	35	-	白色板S少	S多	ナゲ ナゲ
134	110-2	SK01	珠渦足	直	-	7.3	-	内包M少	S少	ナゲ ナゲ
134	110-3	SK01	珠渦足	直	-	11.8	-	白色板LL少	S少	ナゲ ナゲ
134	110-4	SK01	瓦蓋	瓦石	10.5	10.4	厚1.15	-	-	-
134	110-5	SK02	瓦蓋	瓦	(27.2)	8.5	-	白色粒S少	-	内面:ロクロナガアカタナ 外側:ロクロナガアカタナ
134	110-6	SK02	瓦蓋	瓦	-	11.7	-	白色板M少	S少	ナゲ ナゲ
134	110-7	SK02	瓦蓋	瓦	-	8.35	-	内包板M少	S少	ナゲ ナゲ
134	110-8	SK02	二頭器	直	10.0	1.45	-	白色板S少	-	ナゲ ナゲ
134	110-9	SK07	青銅器	鉢	-	3.8	-	-	-	施引板
134	110-10	SK07	珠渦足	瓦	-	3.9	(30.0)	圓石粒極少	-	外側:ロクロナガのちナゲ 内面:ロクロナゲ
134	111-11	瓦蓋	瓦蓋	瓦	長13.8	7.05	厚3.7	-	-	底部:ハラ切り?
134	111-12	金合符	編文玉器	環	19.6	8.4	-	砂粒渺少	-	内面:貝殻模 外側:貝殻模 内面:ヘラ切り
134	111-13	金合符	美玉	環	11.3	5.3	-	砂粒渺少	-	内面:ヘラ切り
134	111-14	金合符	端文玉器	環	17.7	5.9	-	砂粒渺少	-	内面:ヘラ切り
135	111-15	金合符	端文玉器	環	16.9	6.4	-	粗粒渺少	-	内面:貝殻模 外側:ヘラ切り
135	111-16	金合符	端文玉器	環	13.9	5.2	-	粗粒渺少	-	内面:貝殻模 外側:ヘラ切り
135	111-17	金合符	端文玉器	環	標高9.3	6.3	-	白色渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ 内面:ヘラ切り
135	111-18	金合符	端文玉器	環	13.8	4.1	-	白色渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	111-19	金合符	端文玉器	環	12.7	4.2	-	白色渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	111-20	金合符	端文玉器	環	-	1.0	6.5	粗粒渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	111-21	金合符	端文玉器	環	-	1.7	7.6	粗粒渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	111-22	金合符	七印器	長柄鏡	12.2	2.4	-	白色渺少	-	内面:ナゲ 外側:ナゲ
135	111-23	金合符	土師器	良硬陶	22.4	3.8	-	粗粒渺や多	-	内面:ナゲヘラ切り ナゲ
135	112-24	瓦蓋	珠渦足	手勺	(27.0)	4.8	-	砂粒L少	S少	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	112-25	瓦蓋	珠渦足	手勺	15.0	5.3	-	砂粒渺少	-	内面:ロクロナガ 外側:ロクロナガ
135	112-26	瓦蓋	珠渦足	手勺	-	10.1	11.6	砂粒渺少	白色S少	内面:ナゲ 外側:ナゲ
135	112-27	瓦蓋	土師器	皿	8.8	2.2	3.8	砂粒渺少	-	内面:ナゲのちハケ削
135	112-28	金合符	土師器	口	8.0	1.4	5.8	砂粒渺少	-	内面:ナゲ
135	112-29	金合符	土師器	皿	11.2	2.5	5.0	粗粒渺少	-	内面:ナゲ 外側:ナゲ 内面:ナゲ
135	112-30	金合符	土師器	皿	12.0	1.6	7	細粒渺少	-	内面:ナゲ 外側:ナゲ
135	112-31	金合符	土師器	皿	11.2	2.5	-	粗粒渺量	-	内面:ナゲ 外側:ナゲ
135	112-32	金合符	青銅器	鉢	-	2.5	5.0	細粒渺少	-	内面:ナゲ 外側:ナゲ
135	112-33	金合符	漆戸美濃	皿	(10.0)	1.95	-	細粒渺M少	S少	外側:ロクロナガ 内面:漆戸美濃

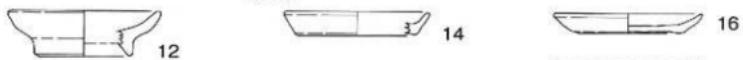
SX01



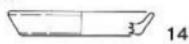
SD07



SP02



SP16



SP15



SP19



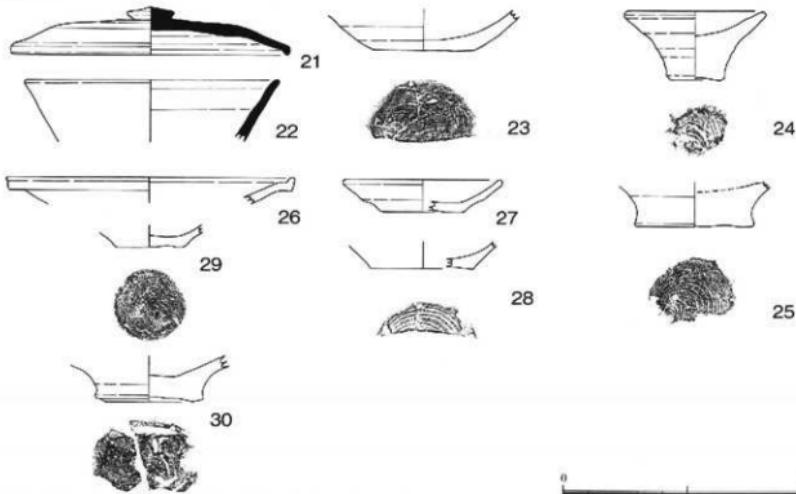
SP69



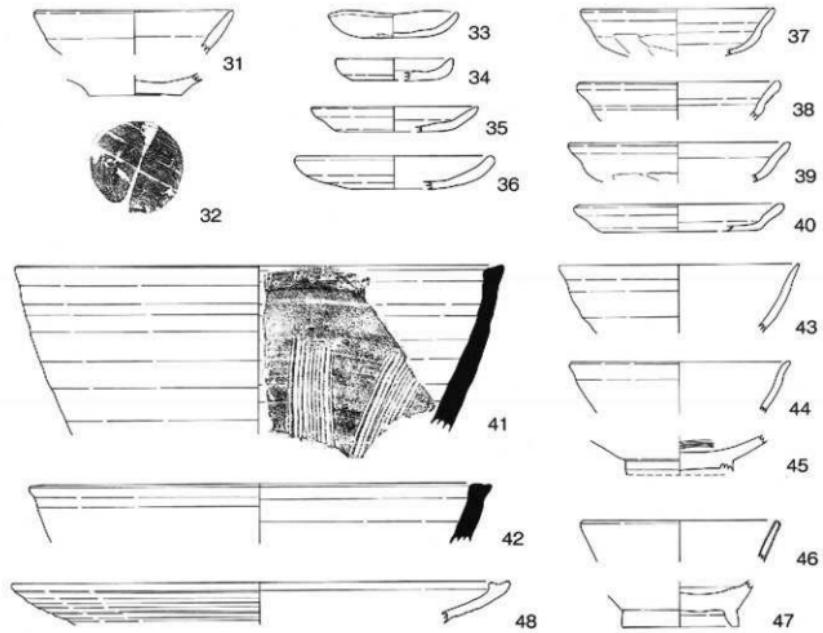
SP95



包含層



第136図 宗守II遺跡7地区の遺物(1) (S = 1 / 3)



第137図 宗守II遺跡7地区の遺物(2) (S = 1 / 3)

0 1 15 cm

第21表 宗守II遺跡7地区出土遺物観察表

区分	部類	遺物番号	種類	基盤	口径(cm)	高さ(cm)	底深(cm)	施土	成形・調整	等記	市場
136	113	1	SX01	鐵鋤頭	PF3	15.1	3.6	9.6	白色粒状や多 孔状		底部: ハラ切り
136	113	2	SX01	灰塵器	46.5	13.7	4.3	9.5	白色粒少	外削: ロクロナダ 内削: ロクロナダ	底部: ハラ切り
136	113	3	SX01	上鉢器	葉	-	2.9	-	褐色少	外削: ヒラ削り 内削: ヒラ削り	底部径14.7cm 体部: 穴率10%
136	113	4	SX01	土鉢器	坪	-	2.5	9.8	褐色粒状や多 孔状	外削: ヒラ削りのちナダ 内削: ヒラ削りのちナダ	
136	113	5	SX01	土鉢器	圓	-	2.9	5.6	褐色粒多	外削: ナダ 内削: ナダ	等記: 同鉢条切り
136	113	6	SX01	土鉢器	圓	14.5	2.0	10.2	褐色少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	7	SX01	土鉢器	圓	10.4	1.7	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	8	SX01	土鉢器	圓	12.6	2.2	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	9	SD07	上鉢器	圓	12.8	2.7	9.6	褐色粒多	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 鋸小ハラ削り
136	113	10	SD07	土鉢器	圓	9.7	1.4	9.3	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り後ナダ
136	113	11	SD07	土鉢器	圓	9.8	1.5	9.6	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り後ナダ
136	113	12	SP02	土鉢器	碗	9.3	2.9	5.9	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	13	SP15	土鉢器	圓	6.8	1.1	5.0	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	14	SP16	土鉢器	圓	8.8	1.4	7.2	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	113	15	SP16	上鉢器	圓	13.4	3.2	8.9	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 鋸小ハラ削り後ナダ
136	113	16	SP16	土鉢器	圓	8.9	1.2	6.9	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り後ナダ
136	113	17	SP16	土鉢器	圓	8.8	1.2	5.8	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ切り後ナダ
136	114	18	SP19	上鉢器	圓	7.9	1.4	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	114	19	SP09	土鉢器	圓	11.9	2.5	-	白色粒多	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	114	20	SP06	土鉢器	圓	9.0	1.3	6.6	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ切り後ナダ
136	114	21	包含層	頭頂器	頭	16.6	2.9	-	白色粒多	外削: ロクタコナダ 内削: ロクタコナダ	底部: 回転ハラ削り
136	114	22	包含層	頭頂器	坪	15.4	3.8	-	白色粒少	外削: ロクタコナダ 内削: ロクタコナダ	底部: ハラ切り
136	114	23	包含層	頭頂器	頭	25	6.2	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ切り
136	114	24	包含層	上鉢器	小圓	8.6	4.2	3.6	白色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り
136	114	25	包含層	土鉢器	圓	-	2.8	7.2	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り
136	114	26	包含層	土鉢器	圓	17.3	1.7	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
136	114	27	包含層	上鉢器	圓	9.4	2.0	5.2	白色粒大	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ切り?
136	114	28	包含層	土鉢器	圓	-	1.7	6.2	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り
136	114	29	包含層	土鉢器	圓	-	1.5	4.3	褐色粒若下多	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 未切り
136	114	30	包含層	上鉢器	圓	-	2.8	6.1	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り
137	114	31	包含層	土鉢器	碗	11.8	2.7	-	白色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	114	32	包含層	土鉢器	碗	-	1.3	5.6	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 同鉢条切り
137	114	33	包含層	土鉢器	圓	7.5	1.5	3.8	白色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: 回転ハラ削り
137	114	34	包含層	土鉢器	圓	(7.0)	-	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	114	35	包含層	土鉢器	圓	9.9	1.5	7.3	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	114	36	包含層	土鉢器	圓	12.0	-	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	114	37	包含層	上鉢器	圓	11.6	2.9	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ削り
137	114	38	包含層	土鉢器	圓	12.1	2.3	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	115	39	包含層	土鉢器	圓	13.3	2.4	-	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	底部: ハラ削り
137	115	40	包含層	上鉢器	圓	12.6	1.7	9.0	褐色粒少	外削: ナダ 内削: ナダ	
137	115	41	包含層	土鉢器	すり鉢	29.4	-	-	褐色粒少	外削: ロクロナダ 内削: ロクロナダ	直径10cm 口径5cm 底径5cm
137	115	42	包含層	深湯盃	すり鉢	(27.0)	-	-	白色粒少	外削: ロクロナダ 内削: ロクロナダ	
137	115	43	包含層	白磁	圓	(14.2)	-	-			
137	115	44	包含層	白磁	圓	(13.0)	-	-			
137	115	45	包含層	白磁	圓	13.3	2.4	-		外削: ハケ目 内削: 土内ハケ目有	ハケ目17半径2.5cm
137	115	46	包含層	青磁	圓	12.0	-	-			
137	115	47	包含層	青磁	圓	-	-	(7.0)			底部内径7.2cm 残存率25%
137	115	48	包含層	青磁	圓	(30.0)	-	-			



①



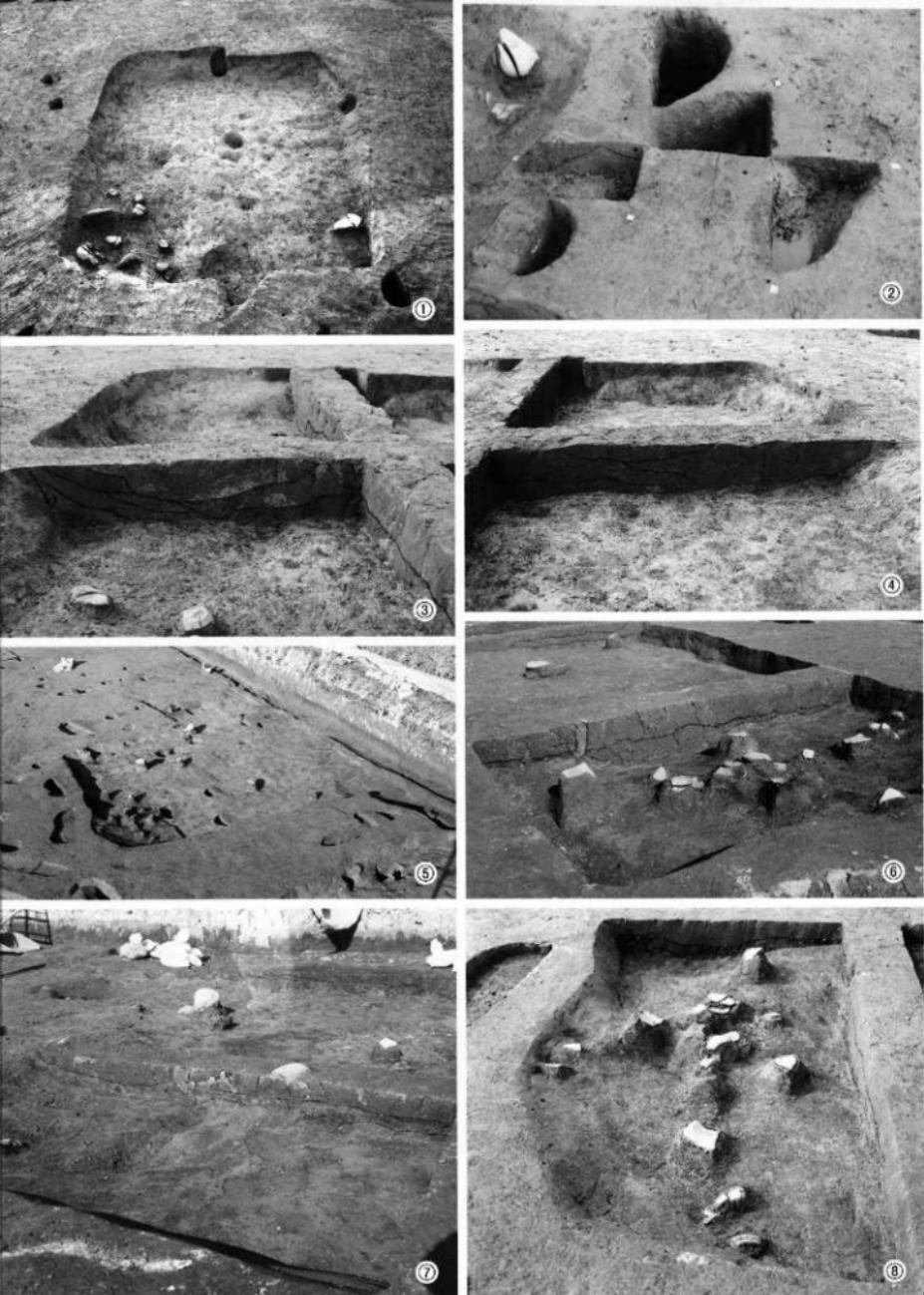
②



③

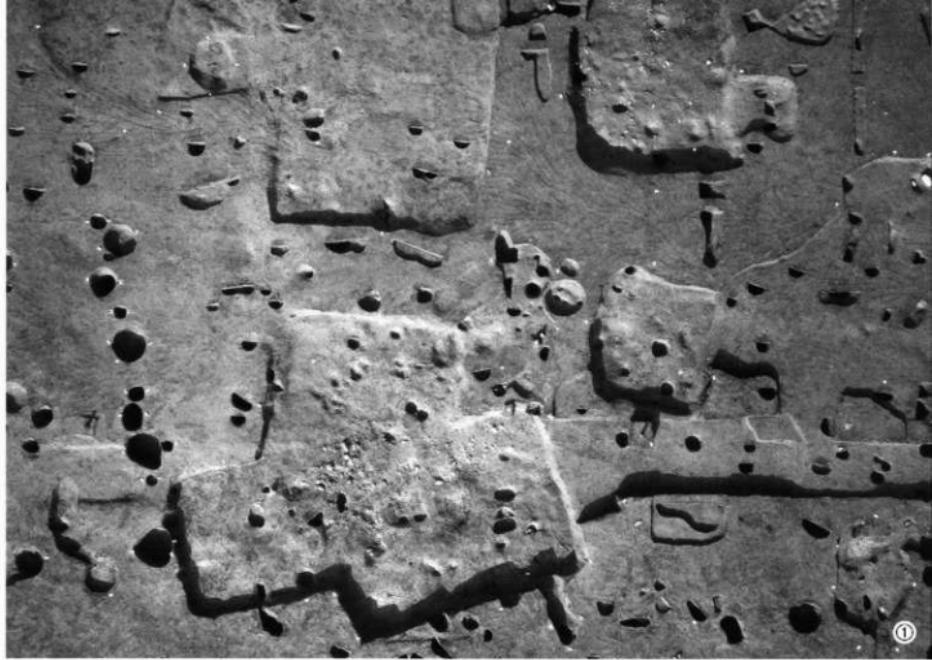
図版1 高島遺跡1地区の遺構 (1)

①調査区全景 (真上から) ②調査区遠景 (南から) ③調査区遠景 (北東から)



図版2 高島遺跡1地区の遺構(2)

①SI01(東から) ②SI01かまど(西から) ③・④SI01土層(東から)
⑤SI02・03(南東から) ⑥・⑦SI02土層(南から) ⑧SI02遺物出土状況



①



②



③



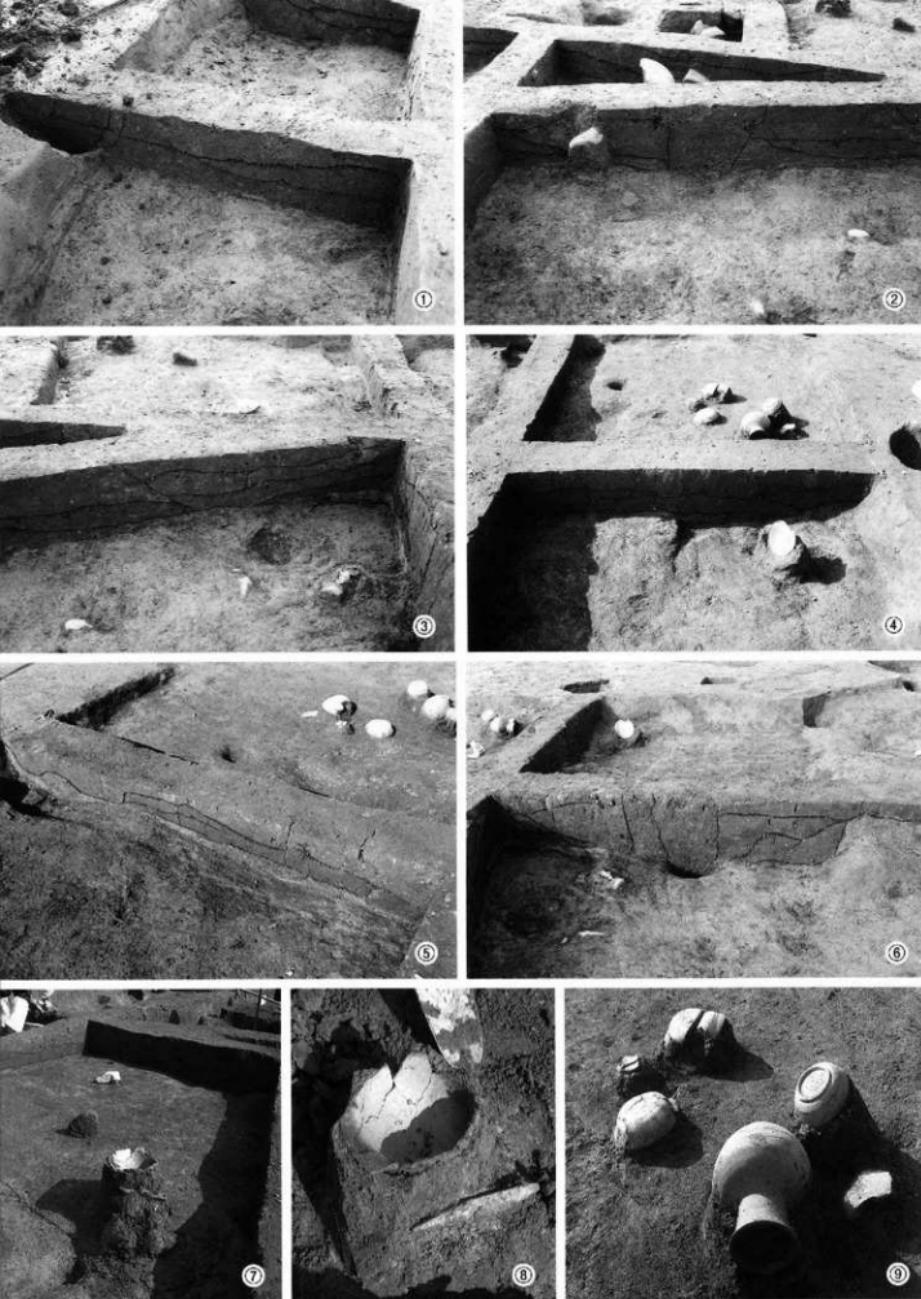
④



⑤

図版3 高畠遺跡1地区の遺構 (3)

①SI02～07, SI12 (真上から) ②～⑥SI04・05土層 (南から)



図版4 高畠遺跡1地区の遺構(4)

- ①・②SI05土層(東から) ③SI05・06土層切りあい状況(東から) ④SI06土層(東から)
- ⑤・⑥SI06土層(南から) ⑦・⑧SI06小型甕、鉄製品出土状況 ⑨SI06遺物出土状況



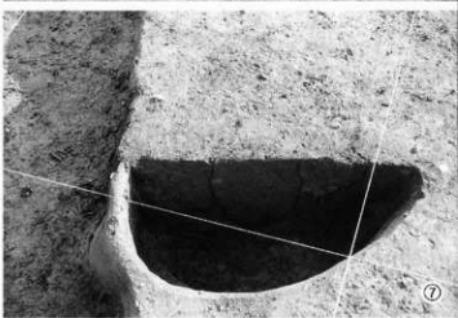
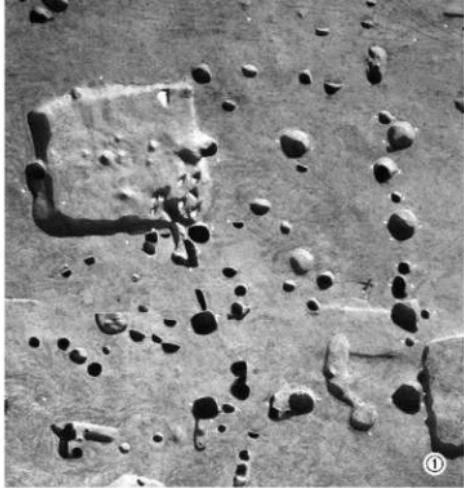
図版5 高畠遺跡1地区の遺構(5)

- ①SI07(南東から) ②SK土層(南から)
③・④SI07土層(南から)
⑤SI07遺物出土状況 ⑥SI08遺物出土状況
⑦SI08土層(南から) ⑧SI08完掘状況



図版6 高畠遺跡1地区の遺構(6)

①SI09(西から) ②SI09遺物出土状況 ③・④SI09土層(南から)
⑤SI12(東から) ⑥SK06土層(南から) ⑦・⑧SI01土層(南東から)



図版7 高畠遺跡1地区の遺構(7)

①SB01・SI01 (真上から) ②SB01P5 (南から) ③SB01P1 (南から) ④SB01P8 (南から)
⑤SB01P2 (南から) ⑥SB01P6 (南から) ⑦SB01P4 (北から) ⑧基本土層



図版8 高島遺跡1地区の遺構 (8)

- ①SF群 (南東から) ②SF群 (北から) ③SF-1断面 (南から) ④SF断面 (南から)
- ⑤SD03 (南東から) ⑥SD02断面 (南から) ⑦SD03断面 (南東から)



①



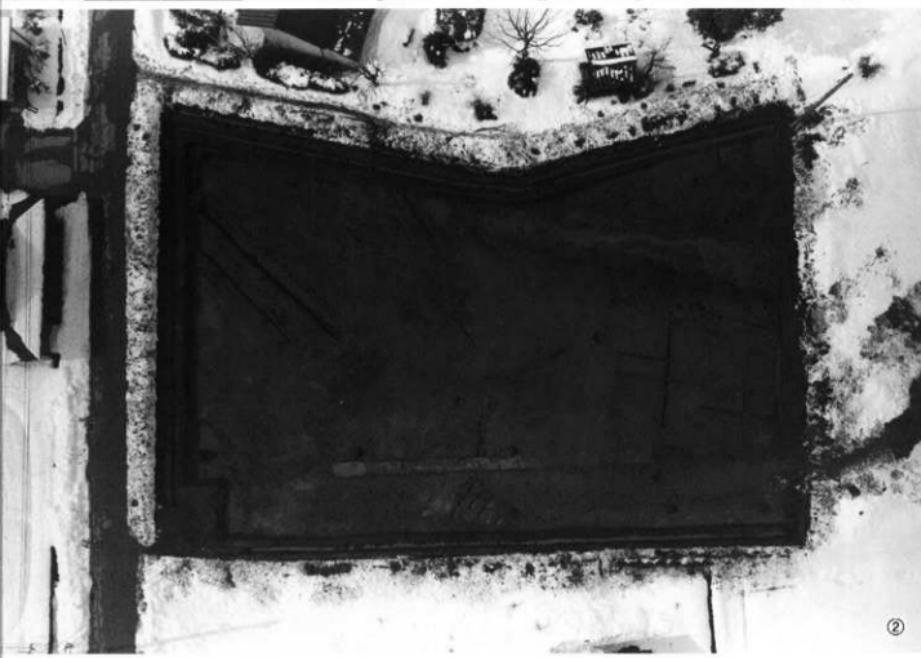
②

図版9 高畠遺跡2・3地区 全景

①調査区遠景(東から) ②調査区遠景(東から)



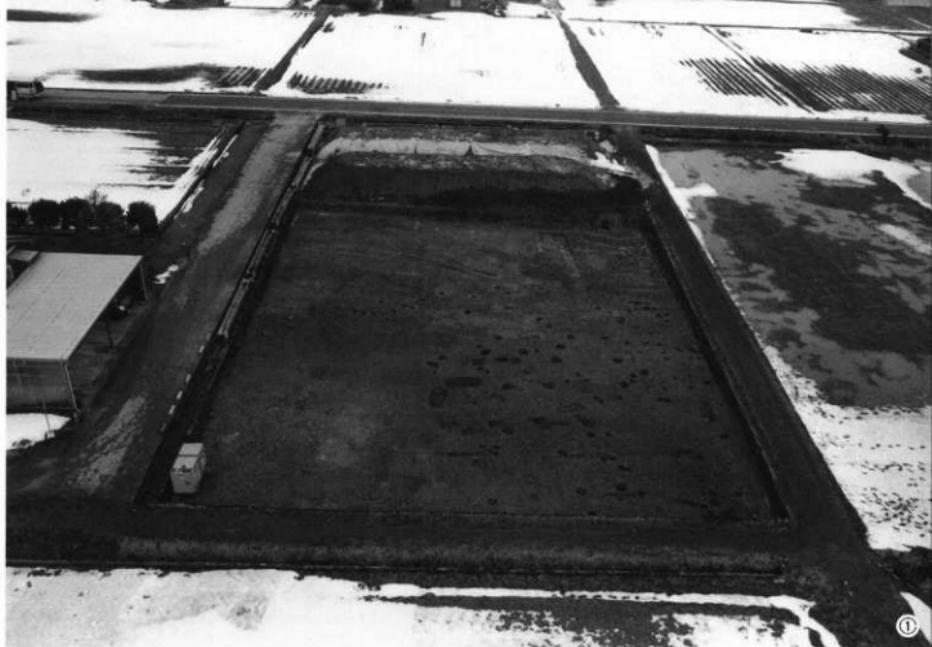
①



②

図版10 高畠遺跡2地区 全景

①調査区遠景（南から） ②調査区全景（真上から）



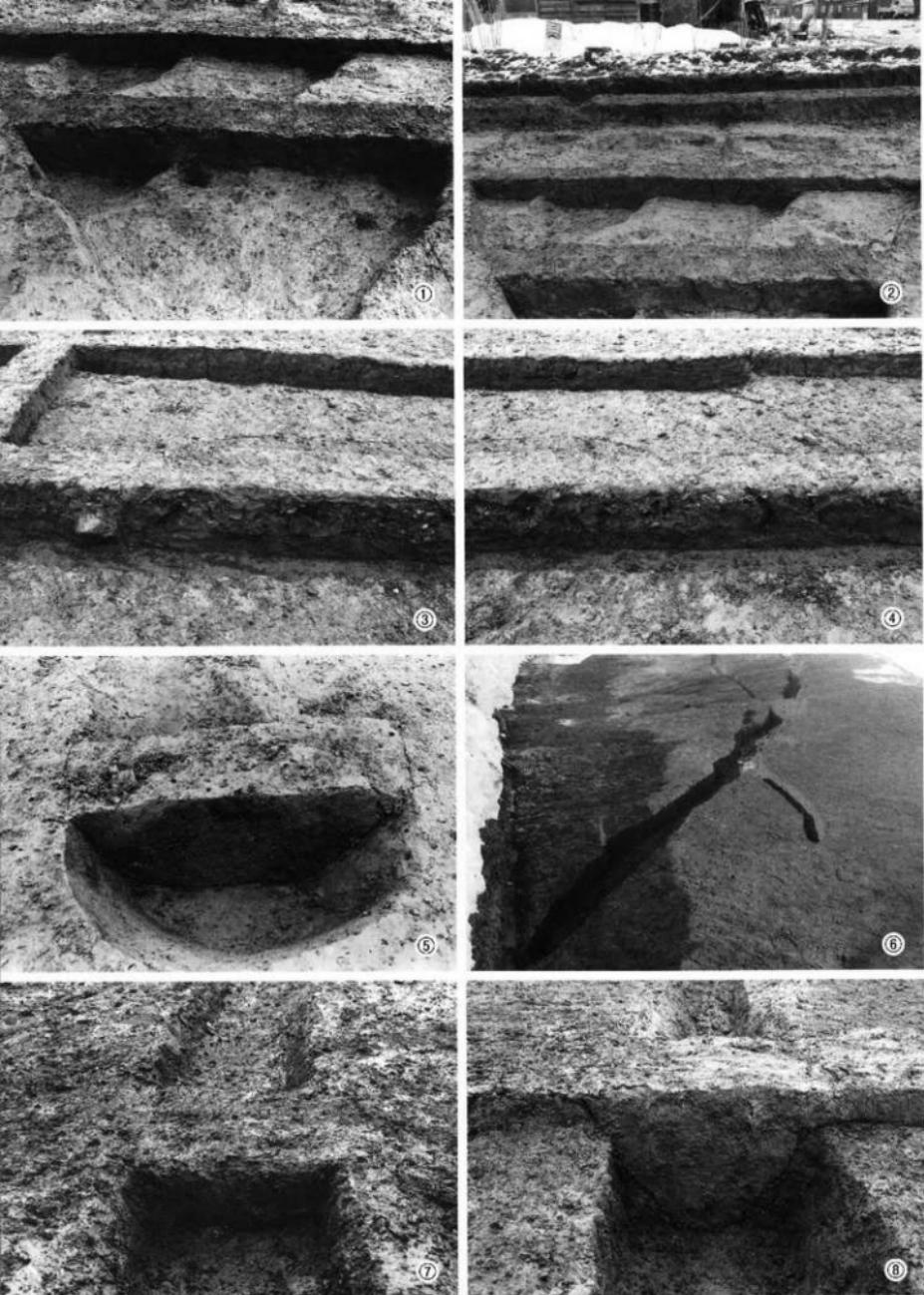
①



②

図版11 高畠遺跡3地区 全景

①調査区遠景（東から） ②調査区全景（真上から）



図版12 高畠遺跡2地区の遺構（1）

①SK01（西から） ②SK01（西から） ③SK02（西から） ④SK02（西から）
⑤SK03（南から） ⑥SD02・03（南東から） ⑦SD02（南から） ⑧SD03（南から）



①



②



③



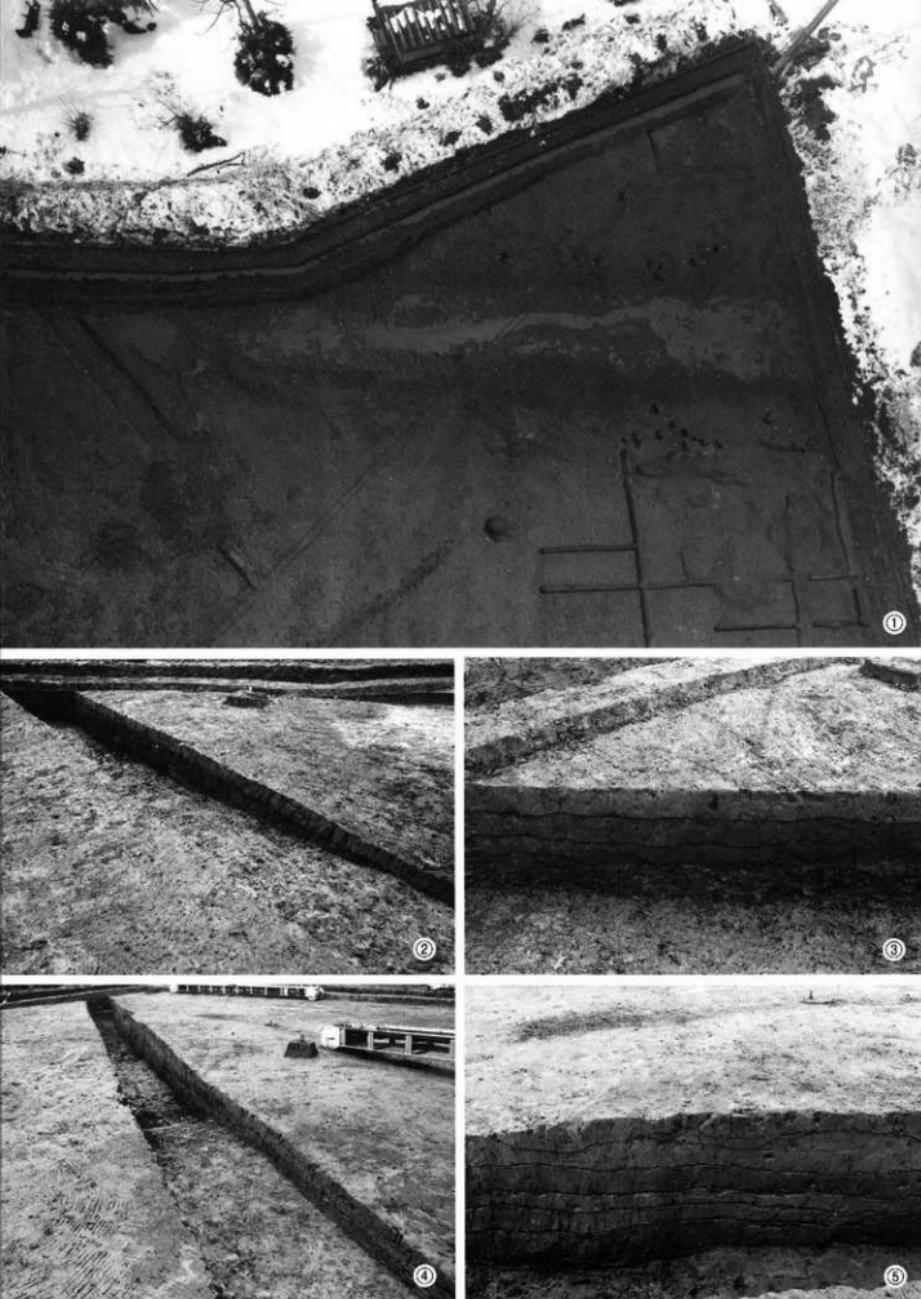
④



⑤

図版13 高畠遺跡2地区の遺構（2）

- ①SD04・SX01（南から） ②SD04北壁（南から） ③SD04 A-A'（南から）
④SD04・SX01 B-B'（北東から） ⑤SD04・SX01 B-B'（東から）



図版14 高畠遺跡2地区の遺構（3）

①SD04・SX01（直上から） ②SX01 C-C'（南東から） ③SX01 C-C'（南東から）
④SX01 D-D'（東から） ⑤SX01 D-D'（東から）



図版15 高畠遺跡2地区の遺構 (4)

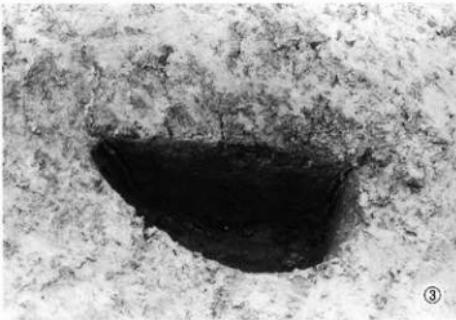
- ①SX01 D-D' (東から) ②SX01 D-D' (東から)
③SX02遺物出土状況 (南西から) ④SX02 (南から) ⑤SX02 (南から)



①



②



③



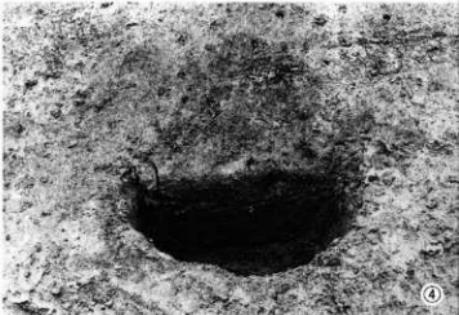
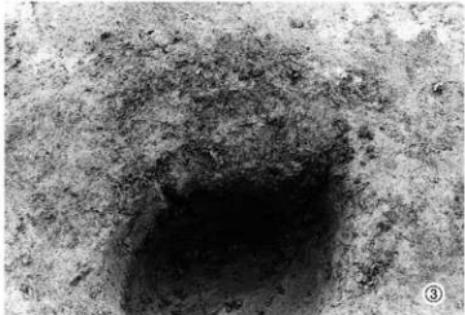
④



⑤

図版16 高畠遺跡2地区の遺構(5)

- ①SX03遺物出土状況(北東から) ②SX03(南から)
③PO2(西から) ④PO3・04(西から) ⑤PO5(南西から)

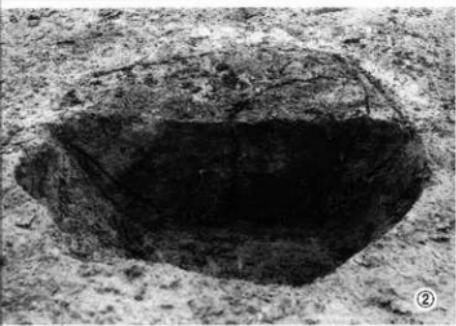


図版17 高畠遺跡2地区の遺構 (6)

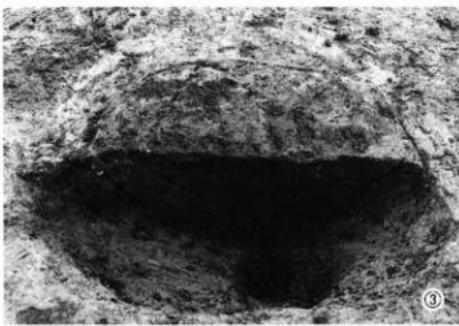
- ①P06 (南西から) ②P07 (西から) ③P08 (西から) ④P09 (西から) ⑤P10 (西から)
⑥P12 (東から) ⑦P13・14 (北から) ⑧P15 (東から)



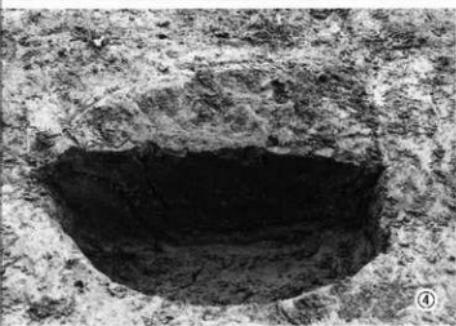
①



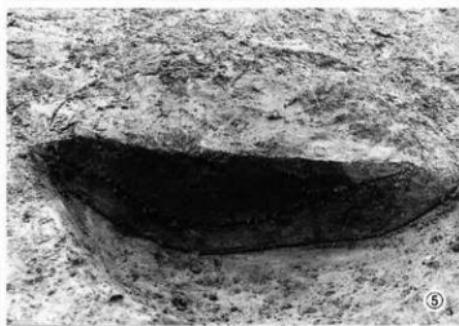
②



③



④



⑤

図版18 高畠遺跡3地区の遺構 (1)

- ①SB01・02・03 (南から) ②SB01 P01 (東から) ③SB01 P02 (東から) ④SB01 P03 (東から)
⑤SB01 P04 (東から)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

図版19 高畠遺跡3地区の遺構(2)

①SB01 P05(南から) ②SB01 P06(西から)

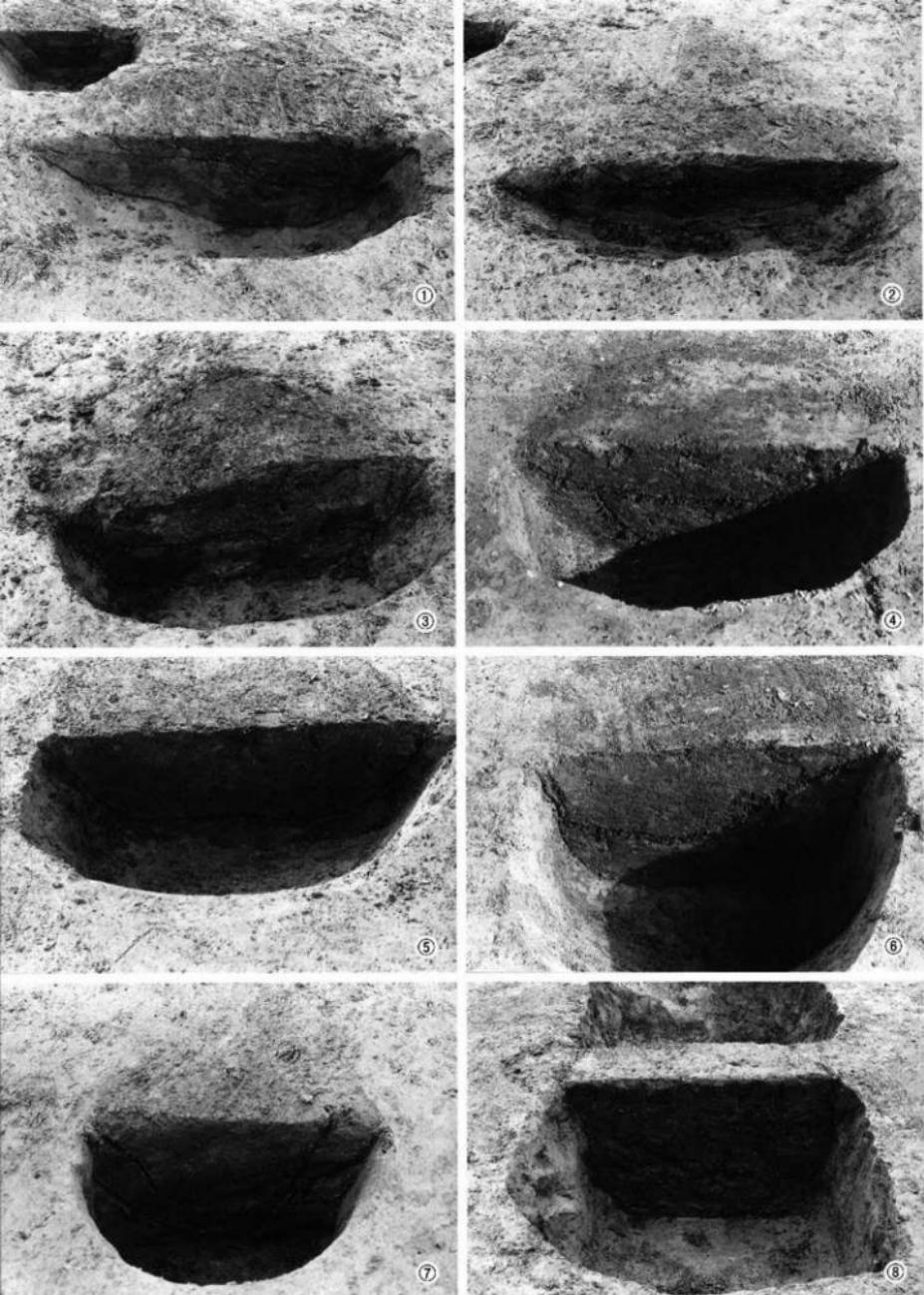
⑤SB01 P09(西から) ⑥SB01 P08(西から)

③SB01 P07(西から)

⑦SB02 P20(西から)

④SB01 P08(西から)

⑧SB02 P21(西から)

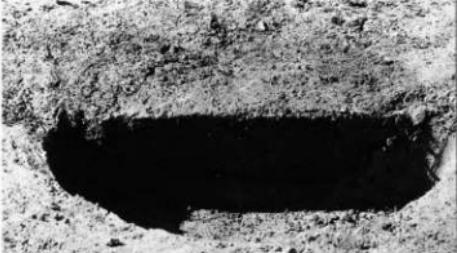


図版20 高島遺跡3地区の遺構(3)

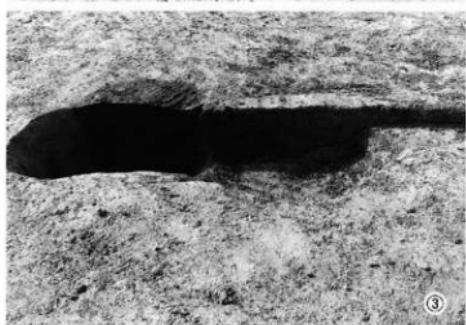
- | | | | |
|----------------|----------------|----------------|----------------|
| ①SB02 P22(西から) | ②SB02 P23(西から) | ③SB02 P24(西から) | ④SB02 P25(西から) |
| ⑤SB02 P26(東から) | ⑥SB02 P27(西から) | ⑦SB02 P28(南から) | ⑩SK02(東から) |



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

図版21 高島遺跡3地区の遺構 (4)

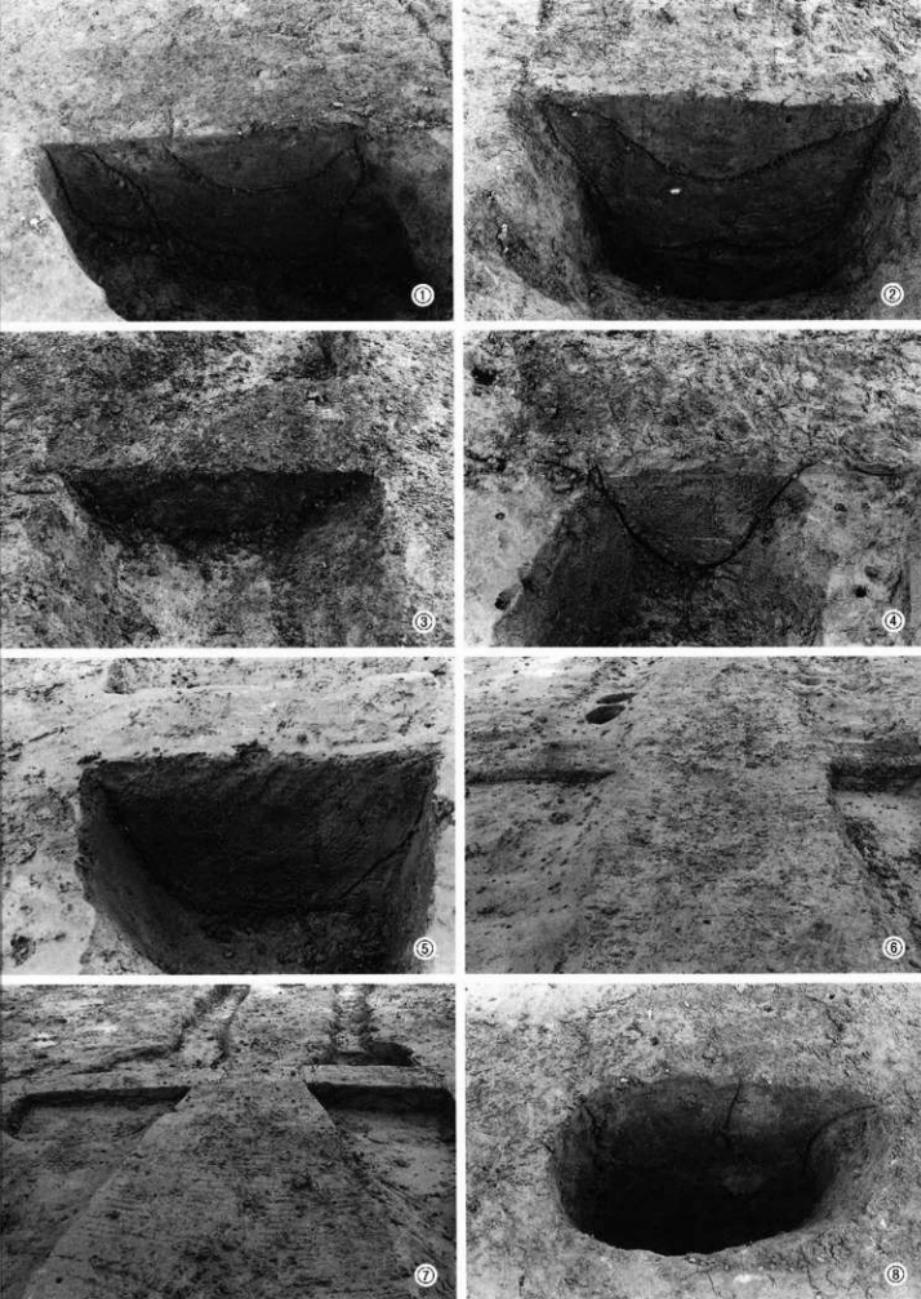
①SB03 P40 (東から) ②SB03 P41 (東から)

④SB03 P43 (南から) ⑤SB03 P44 (西から)

⑥SB03 P47 (南から)

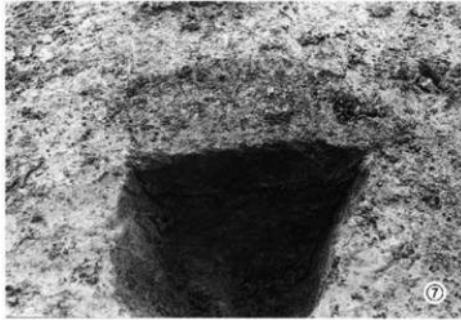
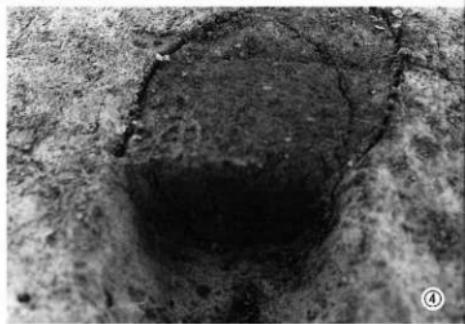
③SB03 P42・SK05 (東から)

⑥SB03 P45 (西から) ⑦SB03 P46 (南から)



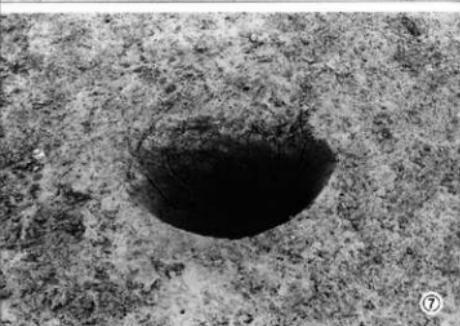
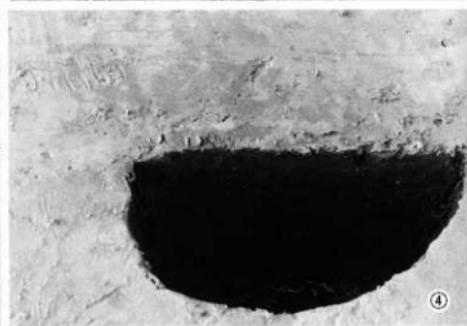
図版22 高畠遺跡3地区の遺構 (5)

- ①SB03 P75 (北西から) ②SD01 (西から) ③SD05 (北から) ④SD09 (南から) ⑤SD10 (南から)
⑥SD11・12 (南から) ⑦SD11・12 (南から) ⑧P10 (北から)



図版23 高畠遺跡3地区の遺構 (6)

- | | | | | |
|------------|------------|------------|------------|------------|
| ①P11 (北から) | ②P12 (西から) | ③P13 (西から) | ④P15 (北から) | ⑤P52 (南から) |
| ⑥P63 (東から) | ⑦P72 (東から) | ⑧P78 (北から) | | |



図版24 高島遺跡3地区の遺構(7)

- ①P82(南東から) ②P84(南東から) ③P86(南から) ④P87(南から) ⑤P88(南から)
⑥P89(南から) ⑦P94(西から) ⑧P95(西から)



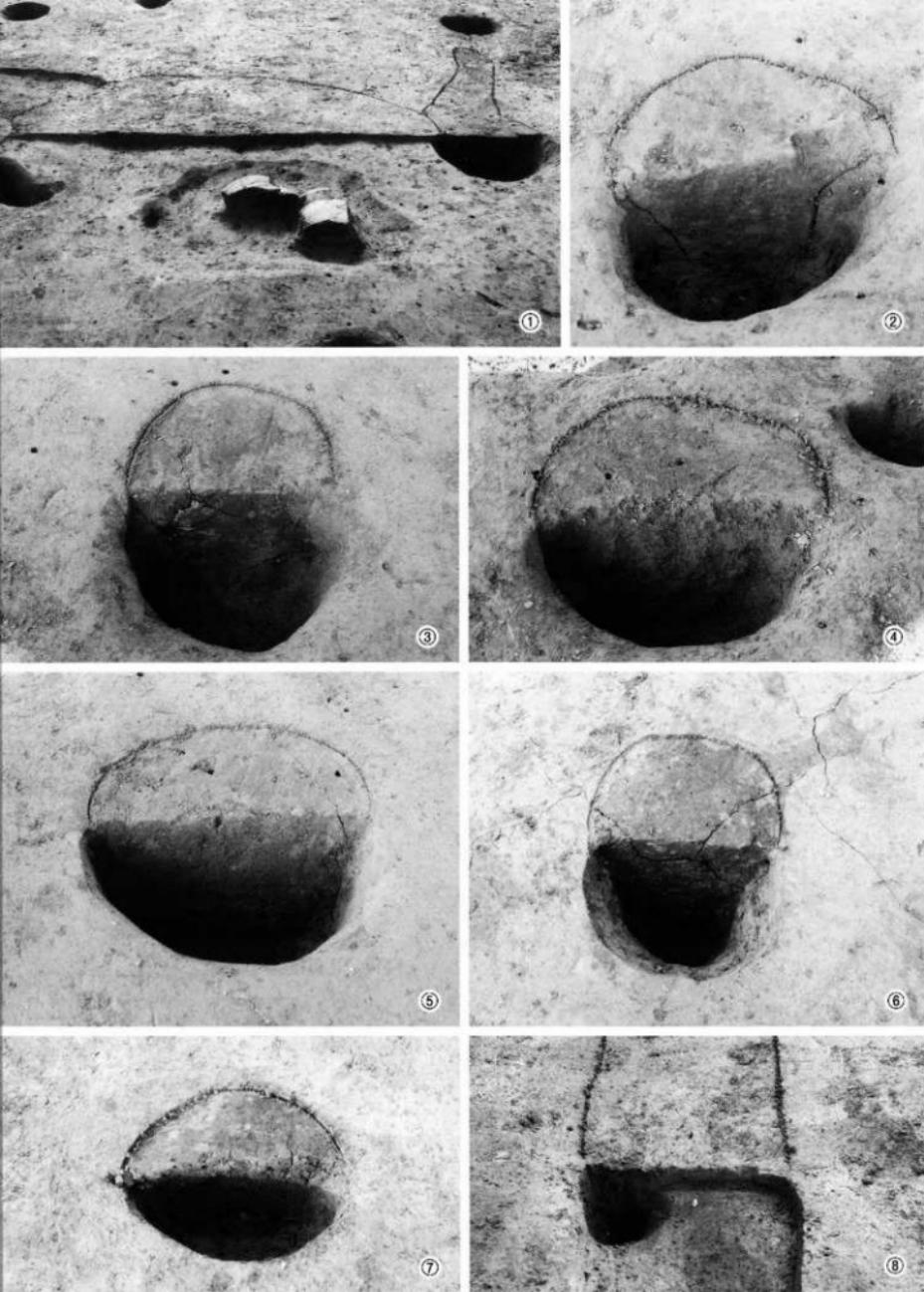
①



②

図版25 高畠遺跡4地区の遺構（1）

①調査区全景（真上から） ②調査区遠景（北から）



図版26 高畠遺跡4地区の遺構(2)

- ①SK01土層 ②SP51土層 ③SP58土層 ④SP67土層
⑤SP73土層 ⑥SP116土層 ⑦SP137土層 ⑧SD04土層

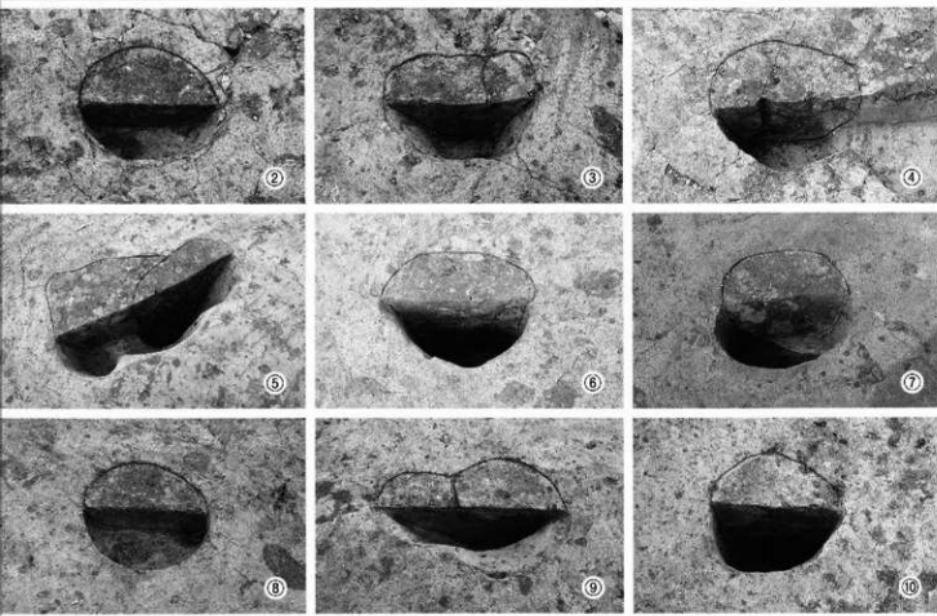


図版27 宗守Ⅱ遺跡1地区 全景

①調査区遠景（北から） ②調査区全景（直上から）



①



④

⑦

⑧

⑩

図版28 宗守II遺跡1地区の遺構(1)

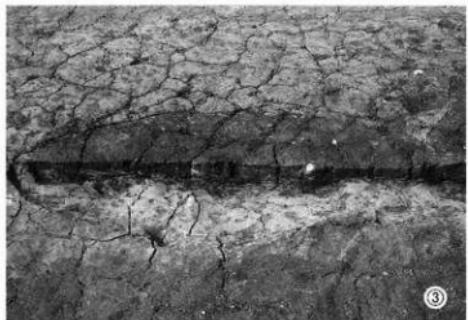
- ①SB01完掘 (真上から) ②P10 (南から) ③P11 (南から) ④P22 (東から) ⑤P23・P24 (東から)
⑥P25 (東から) ⑦P26 (南から) ⑧P27 (南から) ⑨P29・P30 (南から) ⑩P32 (南から)



①



②



③



④



⑤



⑥



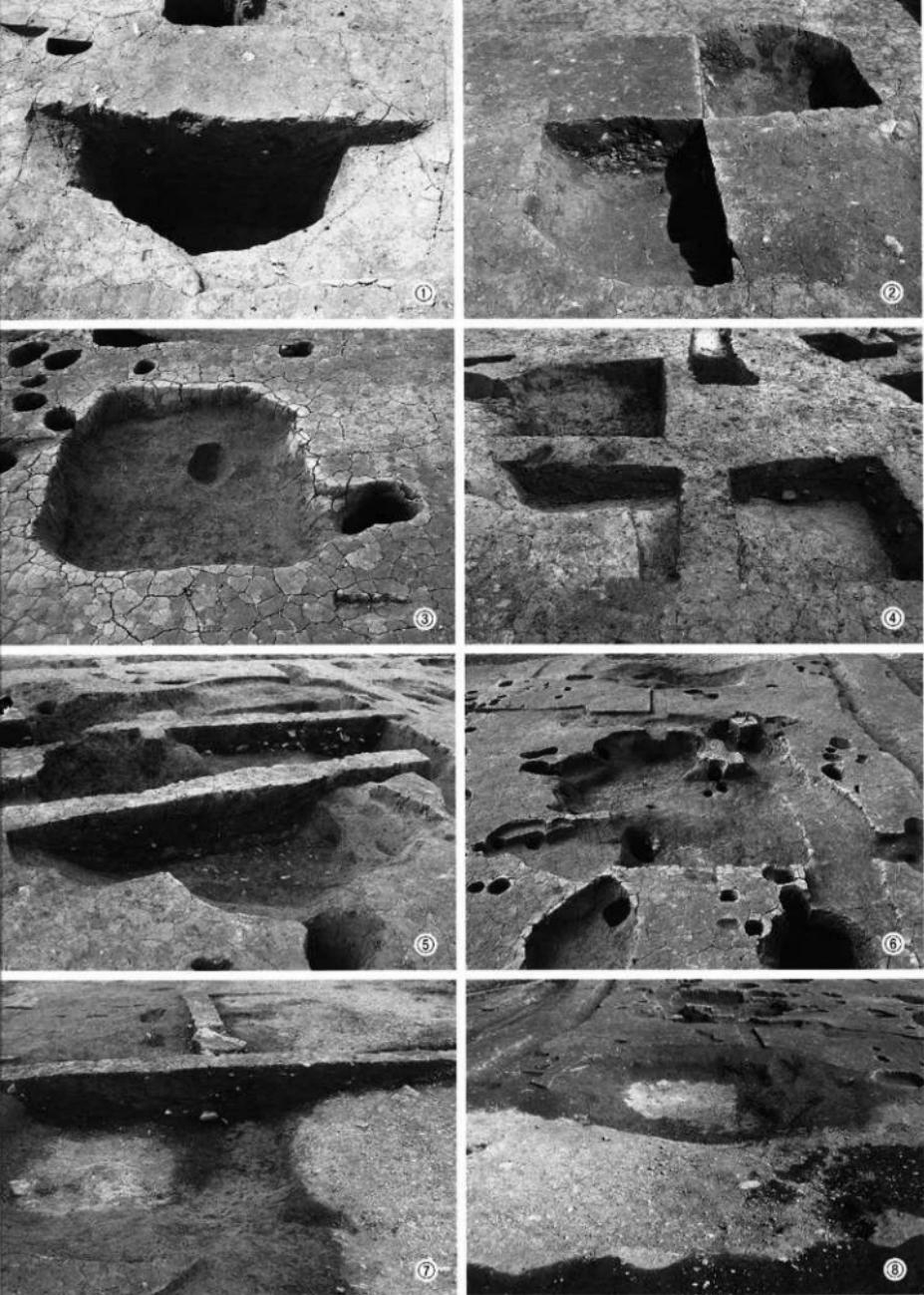
⑦



⑧

図版29 宗守II遺跡1地区の遺構(2)

- ①SK03(東から) ②SK07(南から) ③SK08(南から) ④SK09(南から)
⑤SK11(南から) ⑥SK12(南から) ⑦SK70(東から) ⑧SK12・SK70完掘(西から)



図版30 宗守II遺跡1地区の遺構(3)

- ①SK14(東から) ②SK17(西から) ③SK17完掘(東から) ④SK18・SK19(西から)
⑤SK18・SK19(南から) ⑥SK18・SK19・SK27完掘(東から) ⑦SK24(南から) ⑧SK24完掘(西から)



①



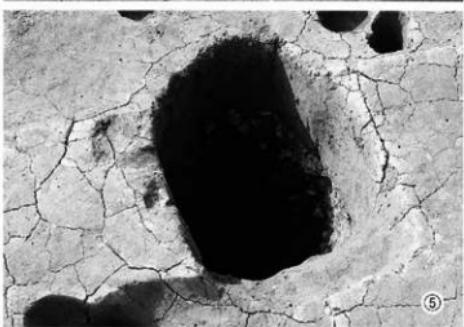
②



③



④



⑤



⑥



⑦

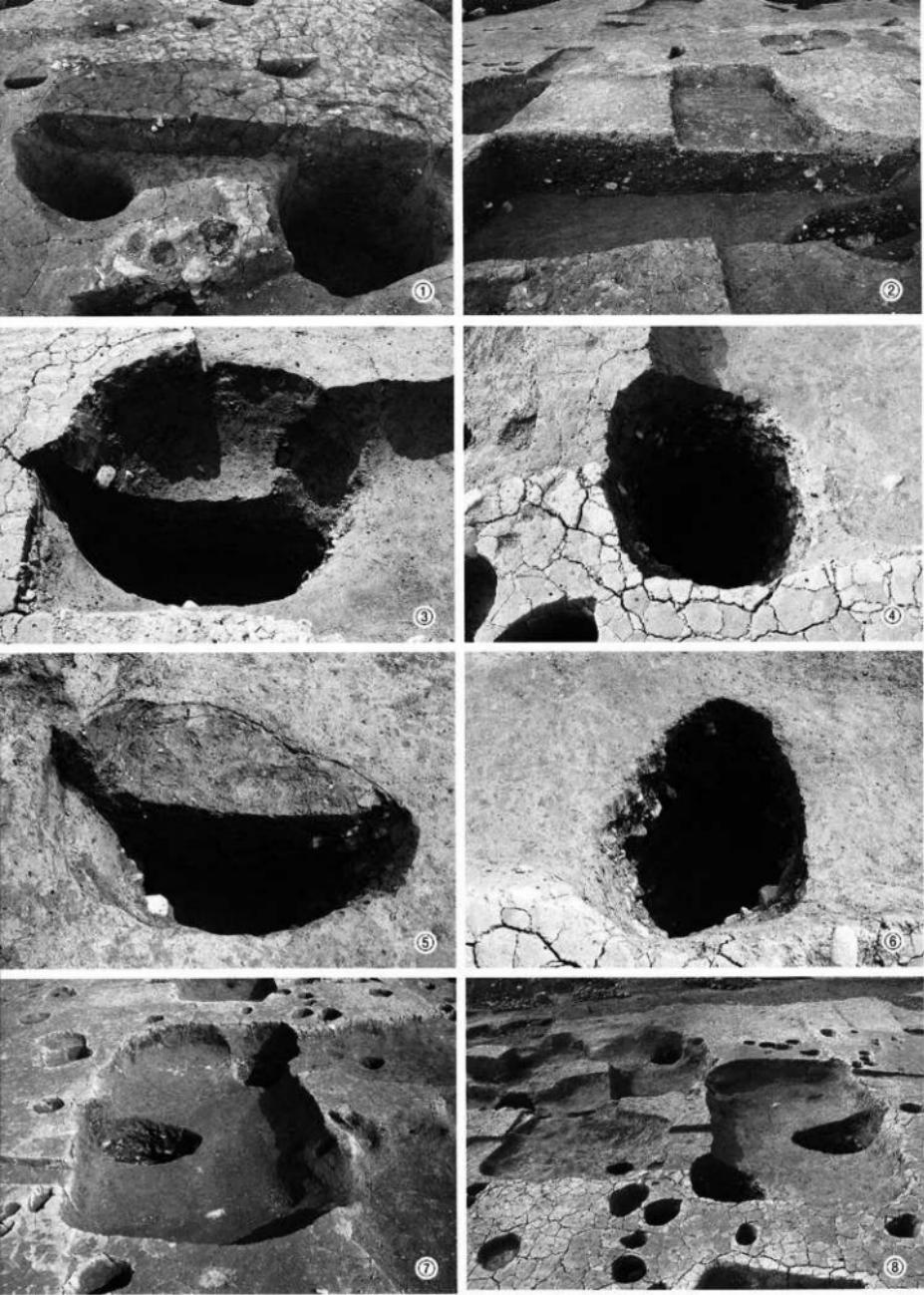


⑧

図版31 宗守Ⅱ遺跡1地区の遺構（4）

①SK25・SK28（西から） ②SK43（南から） ③SK46（北から） ④SK47（北から）

⑤SK47完振（東から） ⑥SK35・SK36・SK38（南から） ⑦SK35（東から） ⑧SK35～SK38・SK39完振（東から）



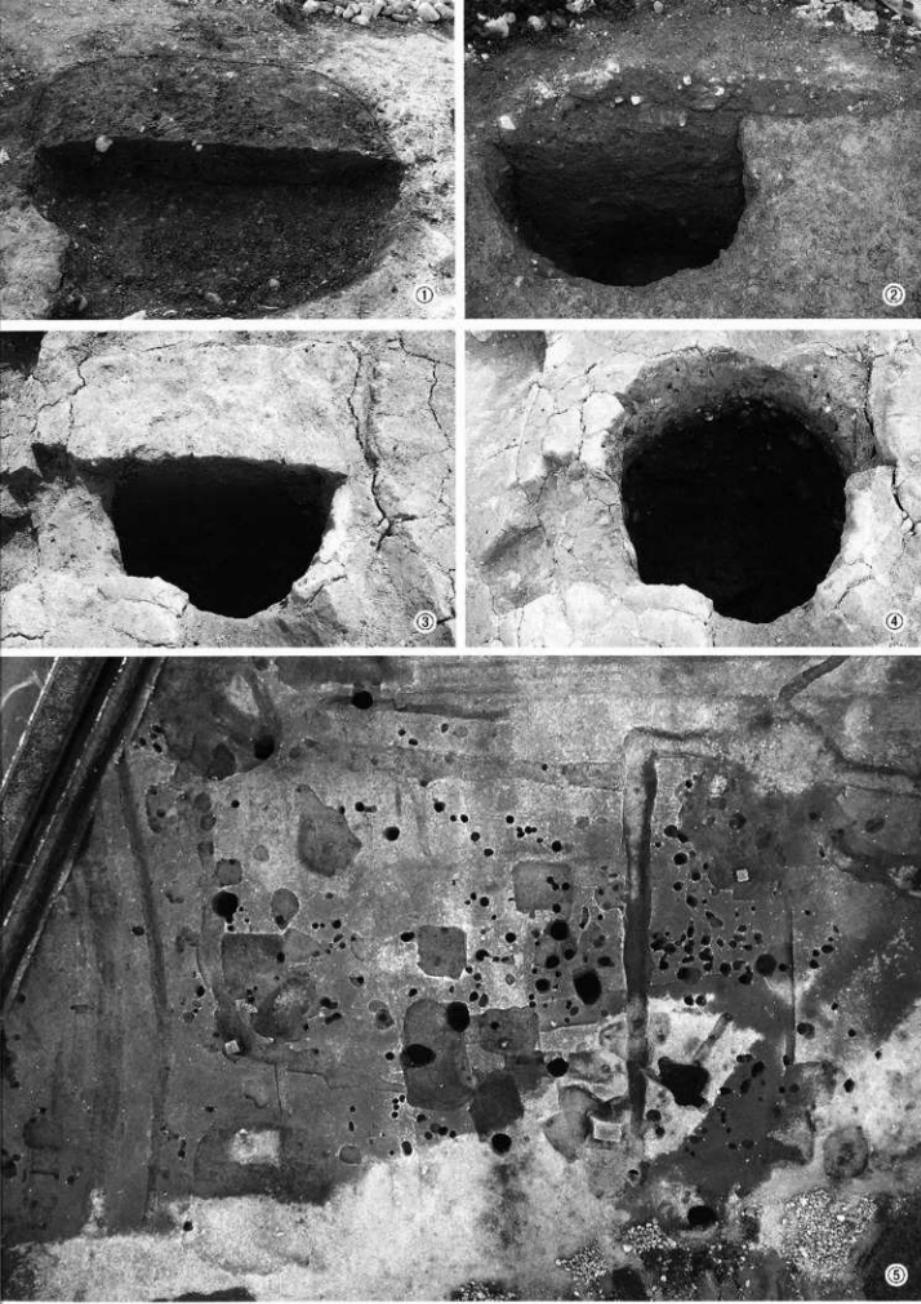
図版32 宗守II遺跡1地区の遺構(5)

- ①SK48・P153(南から) ②SK51(南から) ③SK50(北から) ④SK50完掘(東から)
⑤SK69(西から) ⑥SK69完掘(北から) ⑦SK50・SK51・SK69完掘(西から) ⑧SK51・SK52・SK53完掘(東から)



図版33 宗守II遺跡1地区の遺構(6)

- ①SK52・SK61(南から) ②SK53・SK54(南から) ③SK52・SK53・SK54完掘(東から) ④SK56(東から)
⑤SK55(東から) ⑥SK55完掘(東から) ⑦SK57(西から) ⑧SK58・SK59・SK60(東から)



図版34 宗守II遺跡1地区の遺構(7)

- ①SK67(東から) ②SK68・SK71(東から) ③SK72(北から) ④SK72完掘(北から)
⑤調査区西側実掘(真上 西から)



①



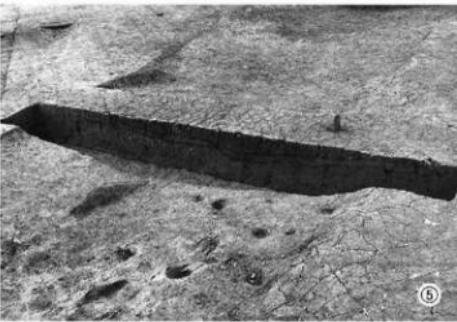
②



③



④



⑤

図版35 宗守II遺跡1地区の遺構 (8)

①SD01・SD02・SD03完掘(東から)

②SD01(南から) ③SD02③(南から)

④SD03(南から)

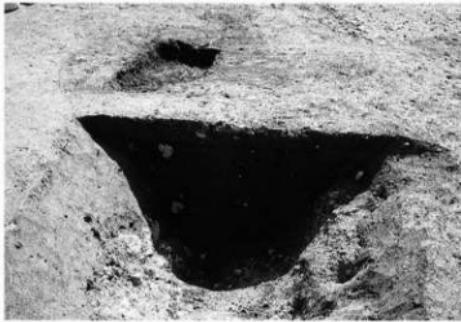
⑤SD03(北東から)



図版36 宗守II遺跡1地区の遺構 (9)

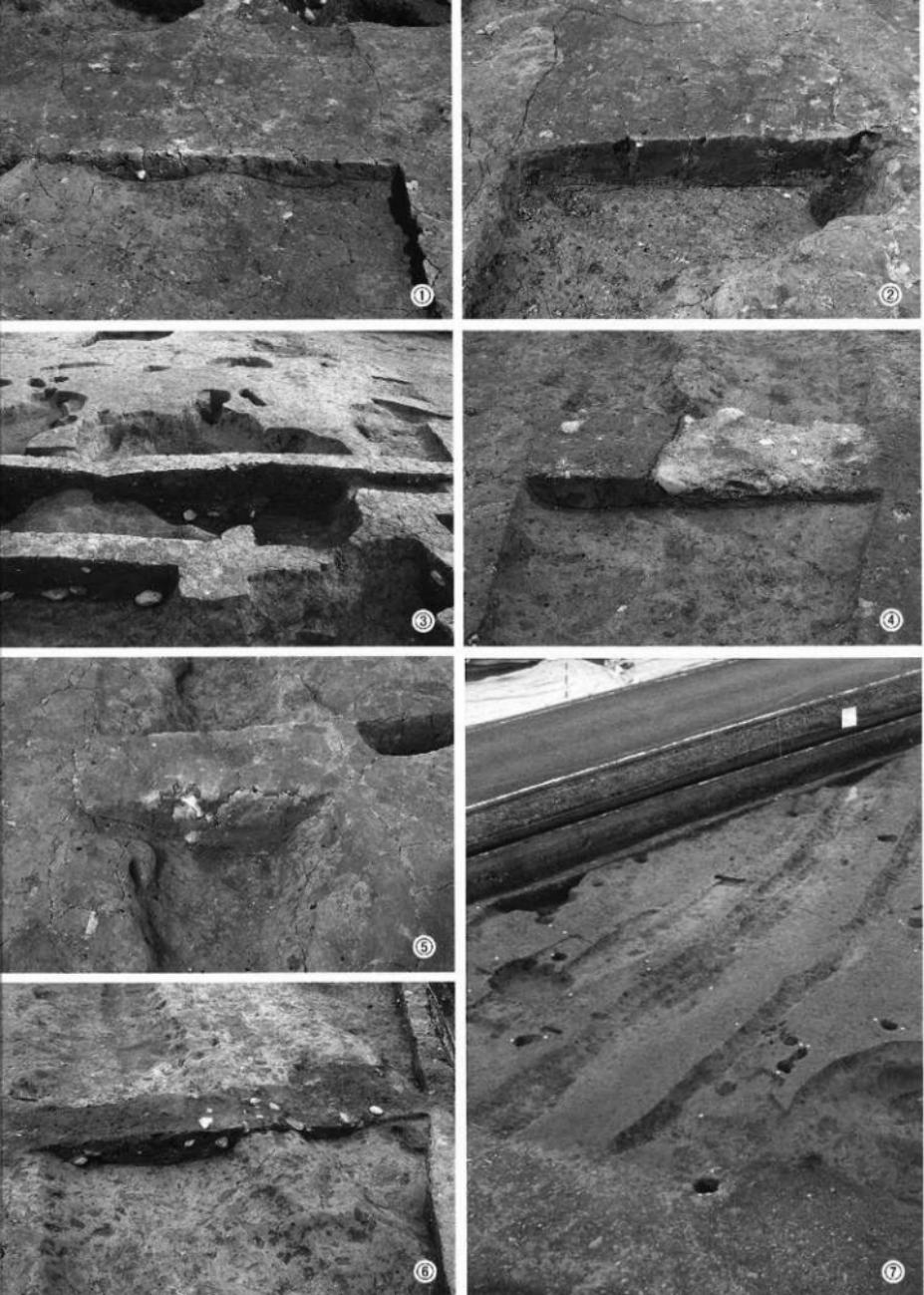
①SR01・02・03・SD04・05・09完掘(東から)

②SR01・02・03・SD09(東から) ③3SR01・SD04(東から) ④SD04・SD05(東から) ⑤SD04(東から)



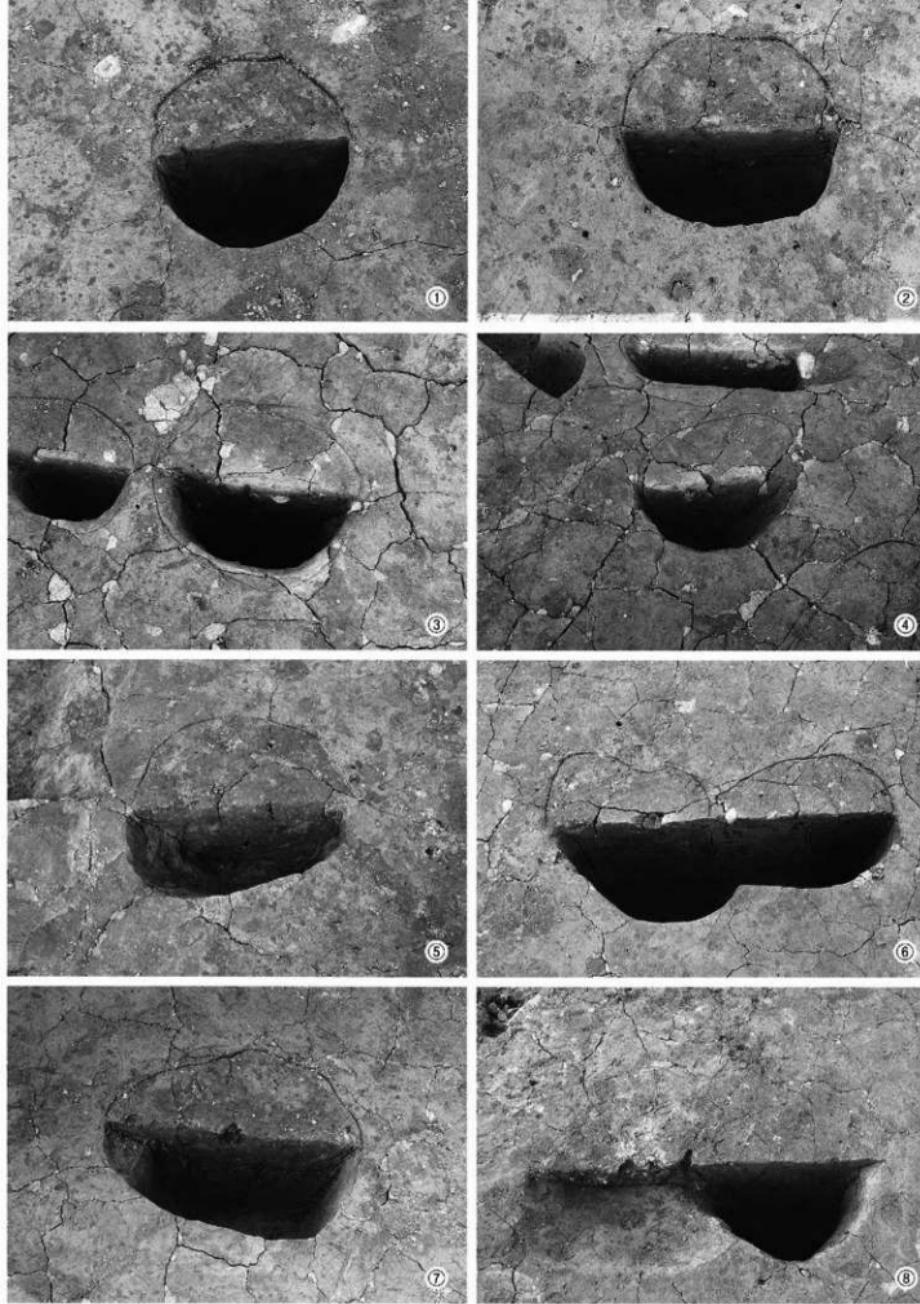
図版37 宗守II遺跡1地区の遺構 (10)

- ①SD11(西から) ②SD24(南から) ③SD25(西から) ④SD25(西から)
⑤SD11・SD25(東から) ⑥SD25(南から) ⑦SD26(北から) ⑧SK62(北から)



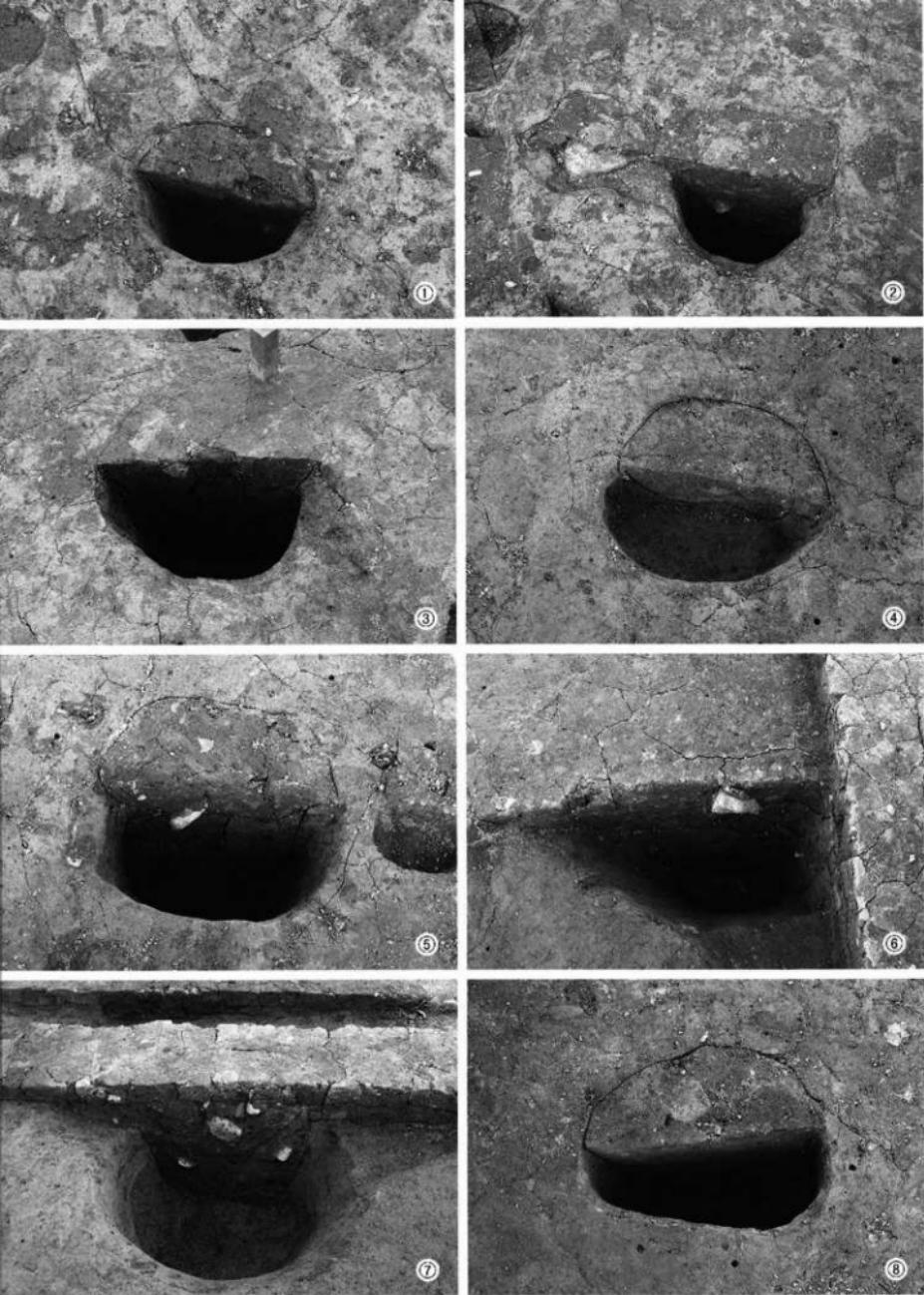
図版38 宗守II遺跡1地区の遺構 (11)

- ①SD12 (西から) ②SD13 (東から) ③SK19・SK27・SD22 (北から) ④SD17・SD21 (西から)
⑤SD14 (東から) ⑥SD16・SD17 (東から) ⑦SD14・SD16・SD17発掘 (西から)



図版39 宗守II遺跡1地区の遺構 (12)

- ①P12 (西から) ②P58 (南から) ③P89 (東から) ④P93 (西から)
⑤P100 (東から) ⑥P108・P109 (東から) ⑦P133 (東から) ⑧P138・P139 (東から)



図版40 宗守II遺跡1地区の遺構 (13)

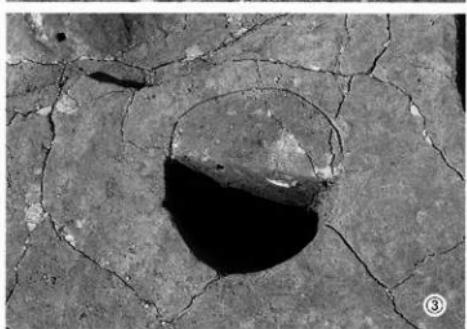
- ①P158 (南から) ②P160・P161 (南から) ③P170 (北から) ④P189 (西から)
⑤P192 (東から) ⑥P224 (西から) ⑦P224 (北から) ⑧P231 (東から)



①



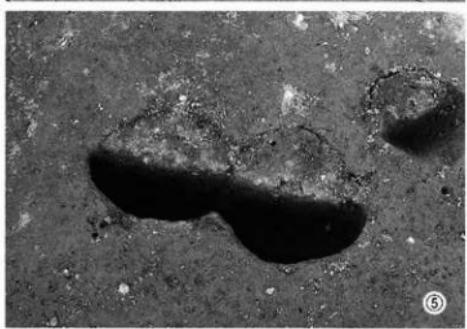
②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧

図版41 宗守II遺跡1地区の遺構 (14)

- ①P232 (東から) ②P235 (南から) ③P253 (南から) ④P255・P256 (東から)
⑤P262・P263 (南から) ⑥P270 (東から) ⑦P284・P285 (南から) ⑧P317 (南から)



①



②

図版42 宗守II遺跡2地区 全景

①調査区遠景（西から） ②調査区全景（真上から）



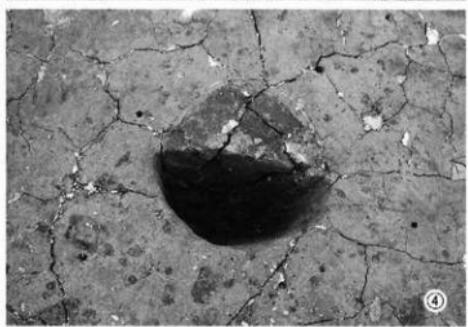
①



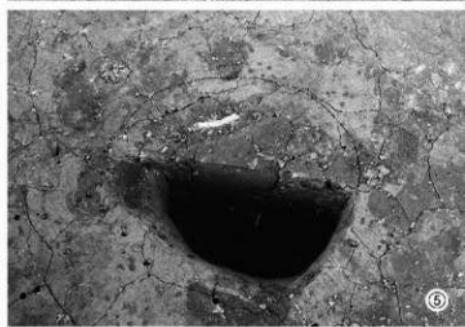
②



③



④

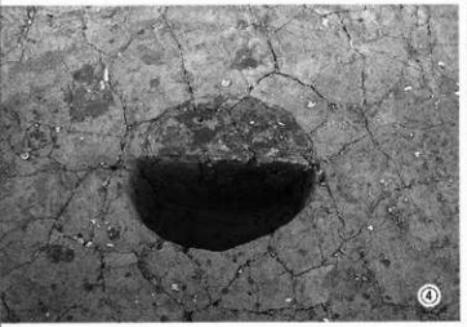
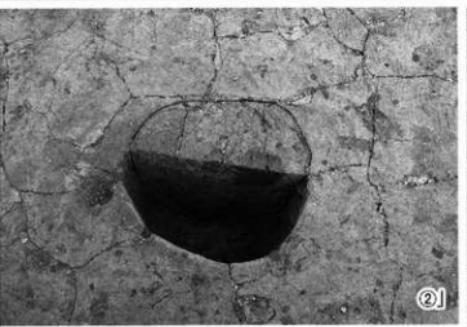


⑤

図版43 宗守Ⅱ遺跡2地区の遺構（1）

①SB01窓掘（東から）

②P3（南から） ③P9（南から） ④P11（南から） ⑤P20（南から）



図版44 宗守II遺跡2地区の遺構(2)

- ①SB02完掘(東から)
- ②P1(南から) ③P4(南から) ④P6(南から) ⑤P12(南から)



①



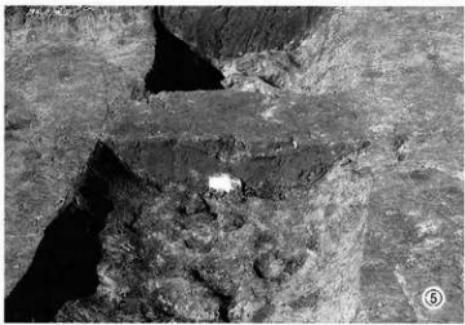
②



③



④



⑤



⑥



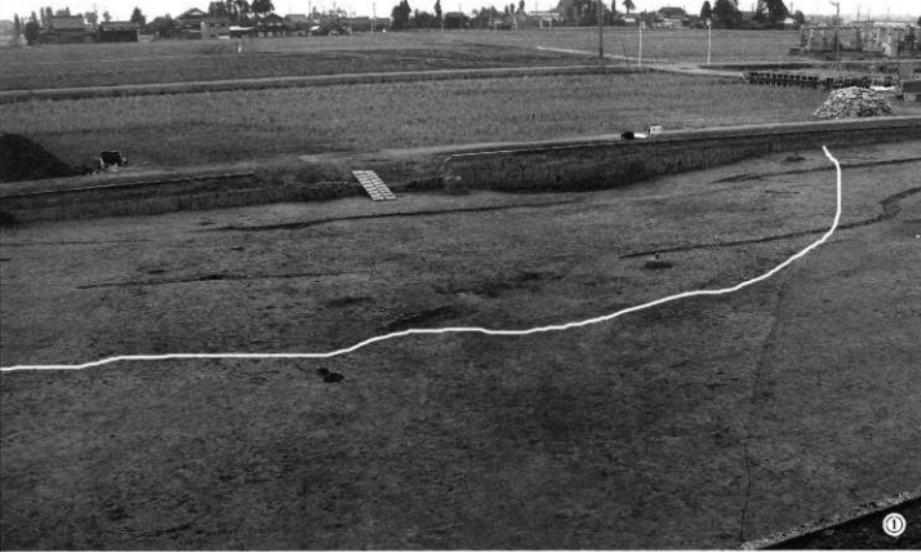
⑦



⑧

図版45 宗守Ⅱ遺跡2地区の遺構（3）

- ①SK07・SK08・SK09（東から） ②SK07・SK08・SK09完掘（東から） ③P53・P54・SK10（西から）
④SK11（北から） ⑤SD01（東から） ⑥SD01（東から） ⑦P42（東から） ⑧P65（南から）



①



②



③



④



⑤

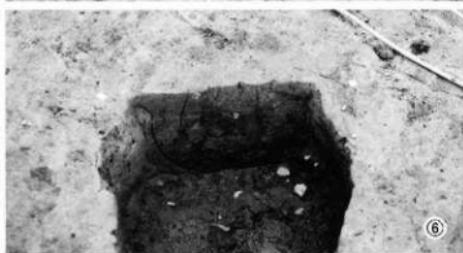
図版46 宗守II遺跡2地区の遺構(4)

①SX01完掘(南西から) ②SX01(南東から) ③SX01(北東から) ④SX01(北から) ⑤SX01(東から)



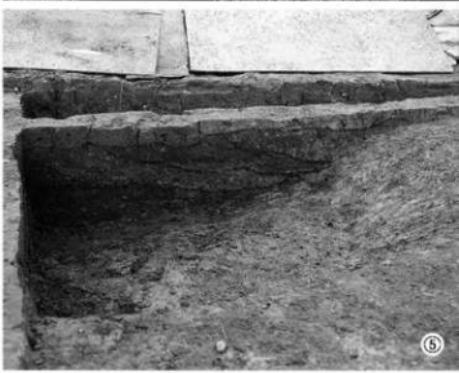
図版47 宗守II遺跡3地区の遺構 (1)

①調査区全景 (真上から) ② (北東から)



図版48 宗守II遺跡3地区の遺構(2)

- ①SB01(真上から) ②SB02(真上から) ③SB01(西から) ④SB01・SB02(西から)
⑤P17(南から) ⑥P36(南から) ⑦P23(南から)

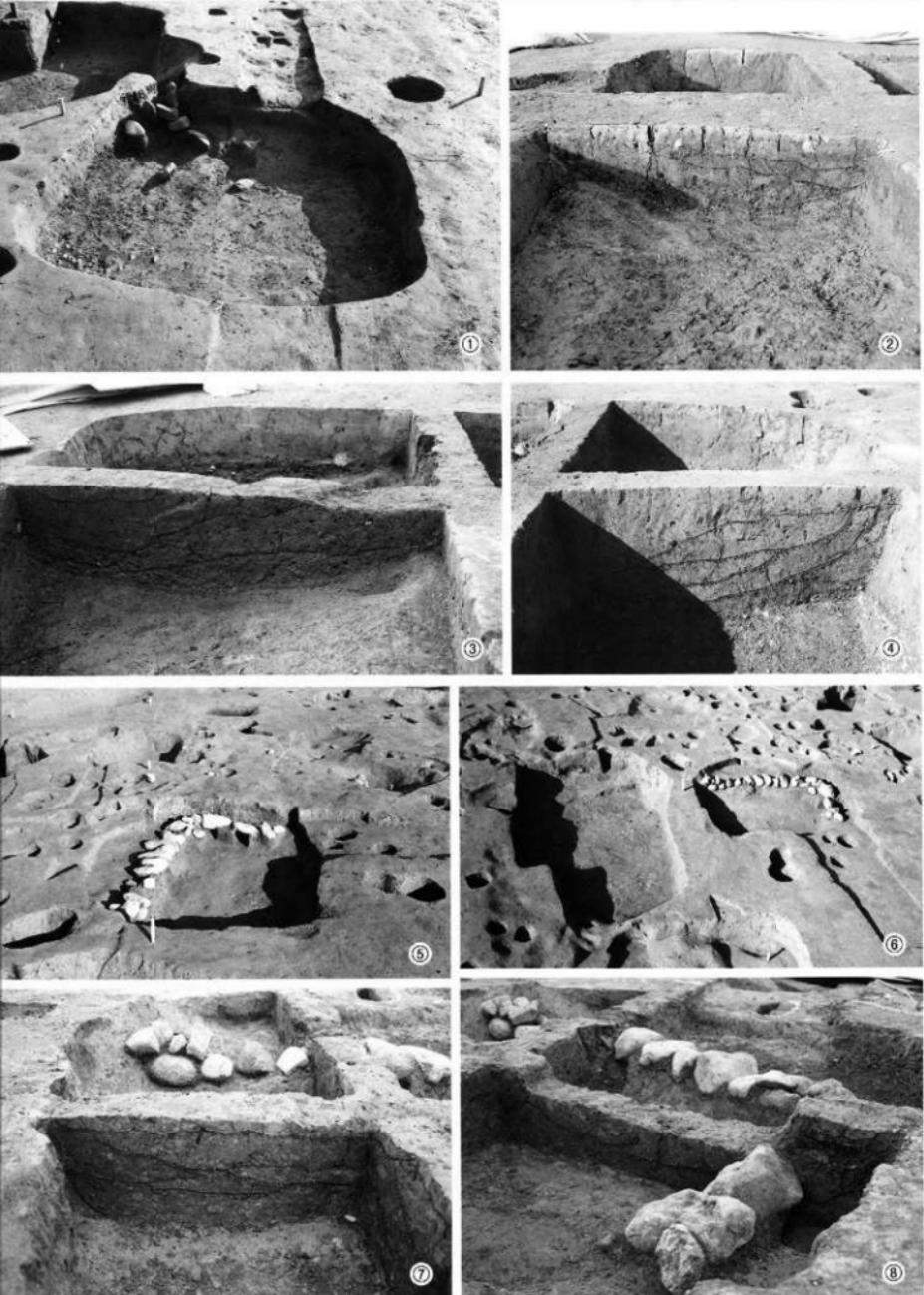


図版49 宗守II遺跡3地区の遺構(3)

①SK01・02(東から)

②・③SK01土層(西から)

④・⑤SK02土層(西から)



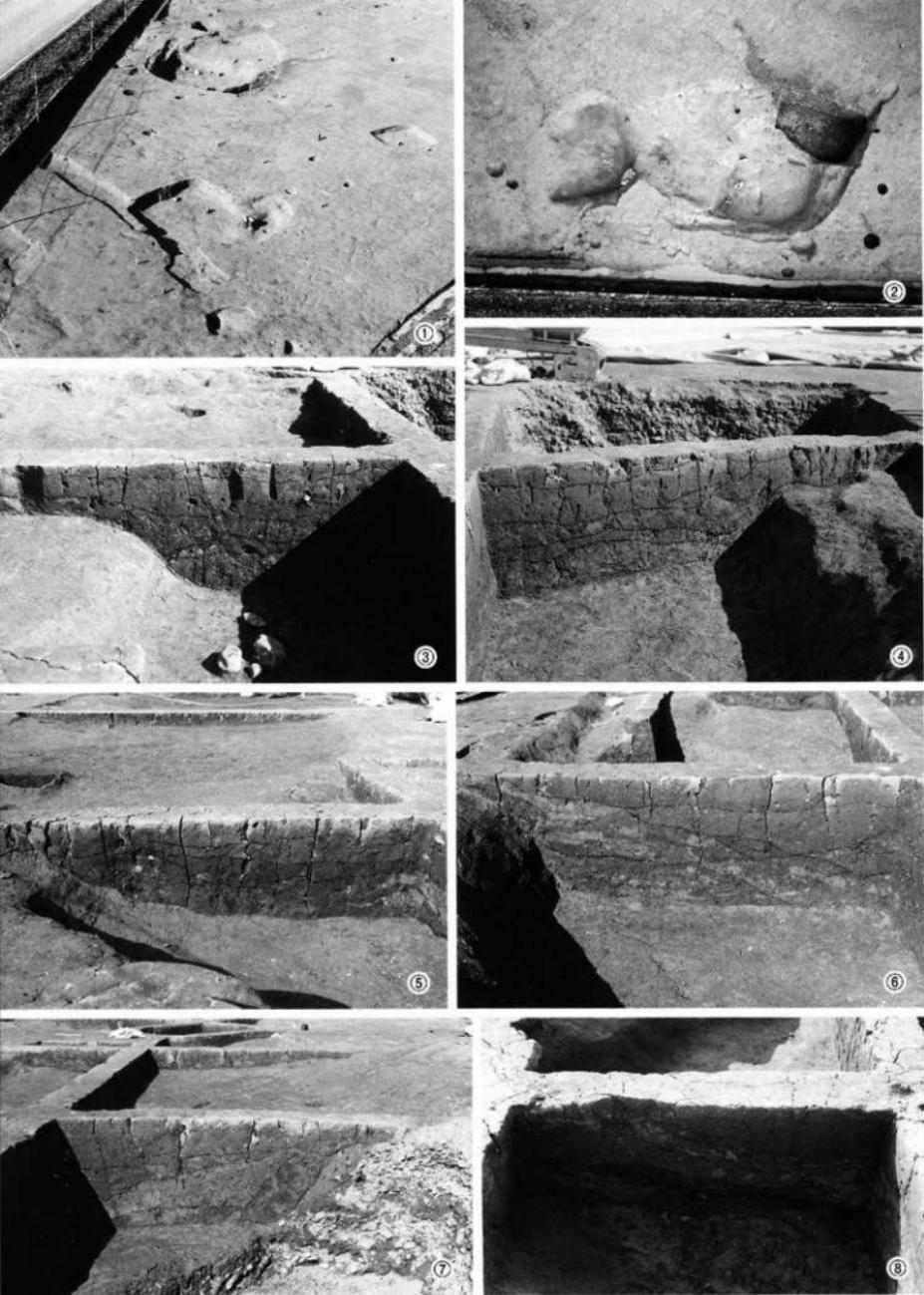
図版50 宗守II遺跡3地区の遺構(4)

①SK03(西から) ②SK03土層(北から) ③・④SK03土層(東から)
 ⑤SK04(南から) ⑥SK04・SK36(東から) ⑦・⑧SK04土層(東から)



図版51 宗守II遺跡3地区の遺構(5)

- ①SK05(南西から) ②SK06土層(西から) ③SK06土層(南から) ④SK11・12・37・01(北東から)
⑤SK11土層(南から) ⑥SK37土層(東から) ⑦SK17・18土層(南から) ⑧SK17土層(南から)



図版52 宗守II遺跡3地区の遺構(6)

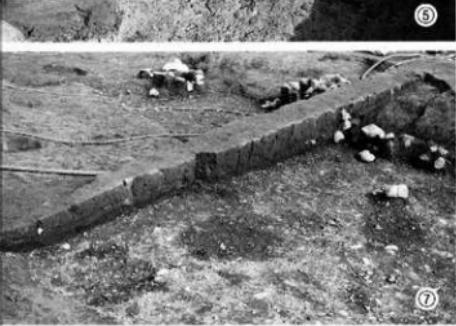
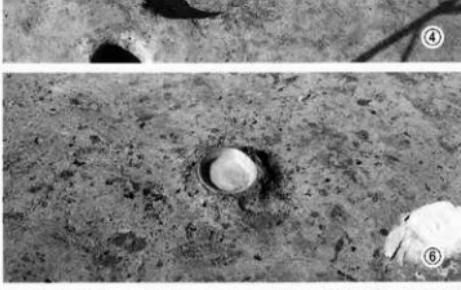
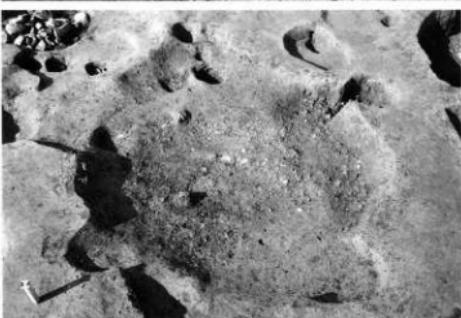
- ①SK17・18・20・21(南東から) ②SK20・21(真上から) ③・④SK20土層(南から)
- ⑤SK21土層(南から) ⑥・⑦SK20土層(東から) ⑧SK21土層(北から)



図版53 宗守II遺跡3地区の遺構(7)

①SK28・29・30(北西から) ②SK28・29・30(真上から) ③SK28土層(東から)

④・⑤SK29土層(東から) ⑥SK20土層(南から) ⑦SK29土層(南から) ⑧SK29中世土器出土状況



図版54 宗守II遺跡3地区の遺構(8)

- ①SK22(東から) ②SK22土層(東から) ③SK22土層(南から) ④SK32土層(東から)
⑤SK25土層(南から) ⑥中世土師器出土状況 ⑦SD03土層(南から) ⑧SD03土層(東から)



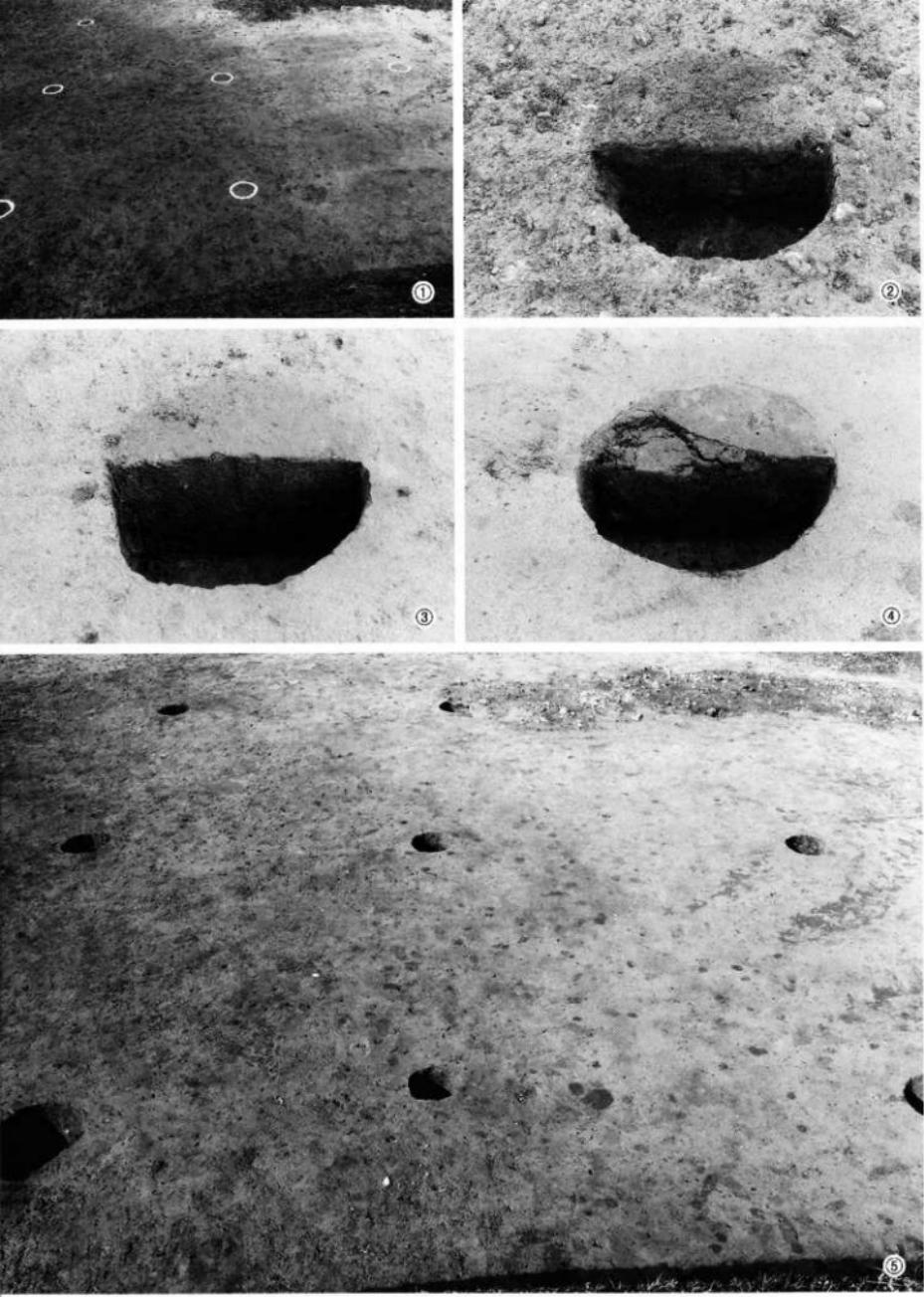
①



②

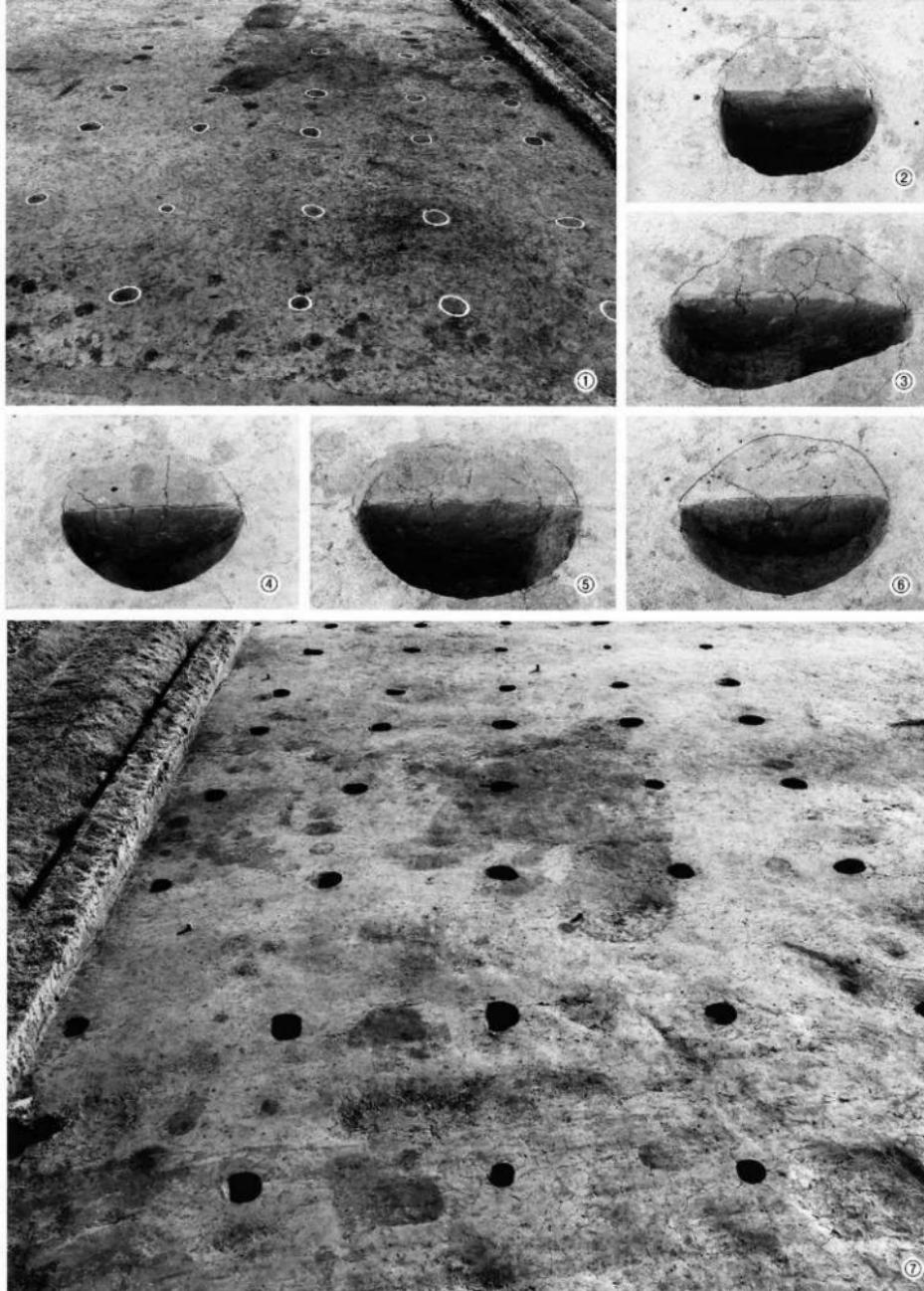
図版55 宗守II遺跡4地区の遺構 (1)

①調査区遠景（東から） ②調査区全景（垂直写真）



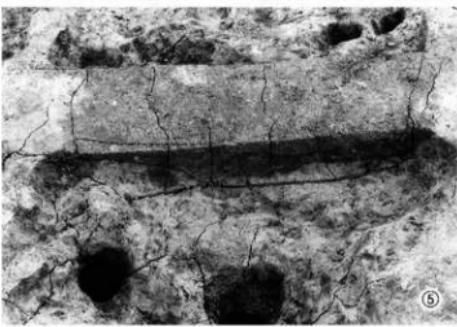
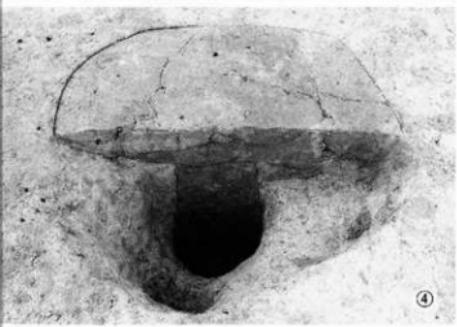
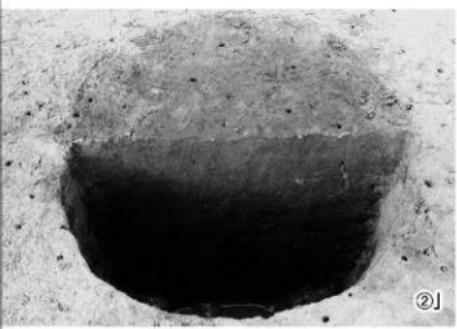
図版56 宗守II遺跡4地区の遺構(2)

①SB01検出状況 ②SB01-P7 ③SB01-P8 ④SB01-P9 ⑤SB01



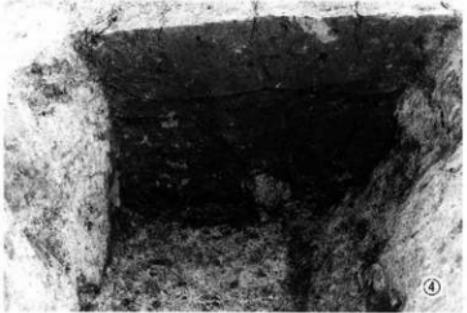
図版57 宗守II遺跡4地区の遺構(3)

①SB02検出状況 ②SB02-P1 ③SB02-P2 ④SB02-P3 ⑤SB02-P4 ⑥SB02-P5 ⑦SB02(北から)



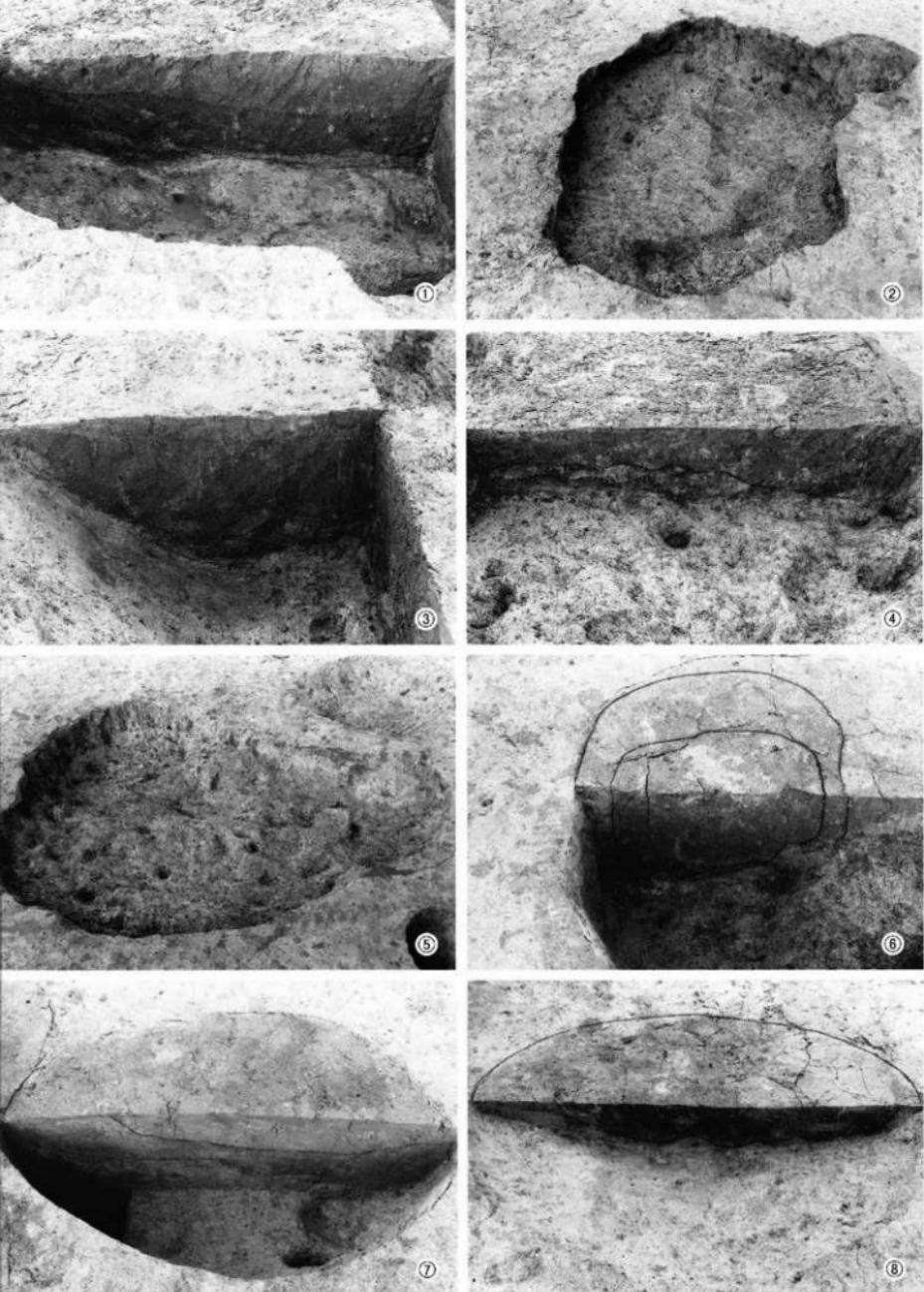
図版58 宗守II遺跡4地区の遺構 (4)

①SB04 ②SB04-P ③SB04-P2 ④SB03-P3 ⑤SX03



図版59 宗守Ⅱ遺跡4地区の遺構 (5)

①SI01 ②SI01断面 ③SI02 ④SD01 (a-a') ⑤SD01 (b-b')



図版60 宗守II遺跡4地区の遺構(6)

①SK09 ②SK09・P342完掘 ③SK14 ④SK17 ⑤SK17完掘 ⑥P312 ⑦P342 ⑧P346



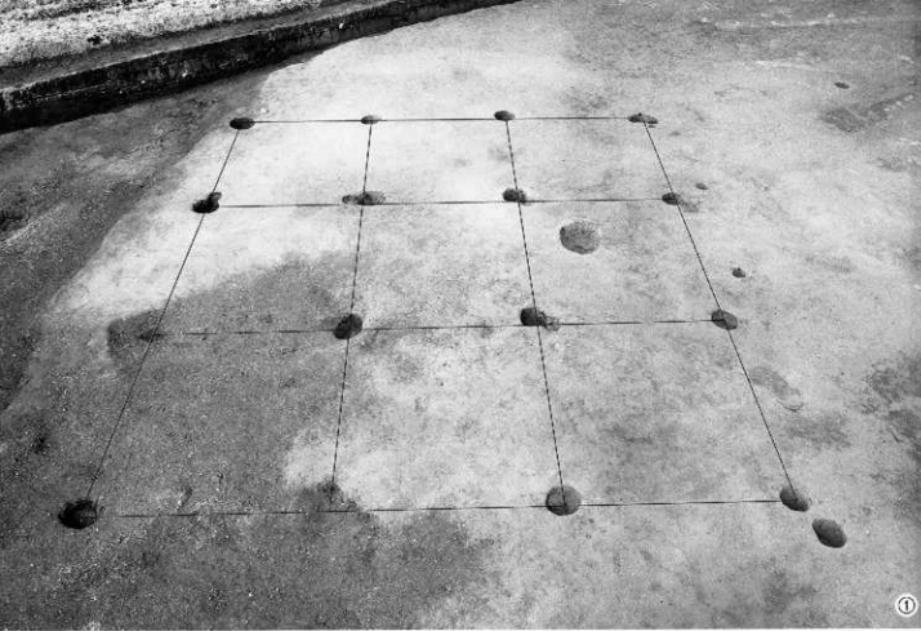
①



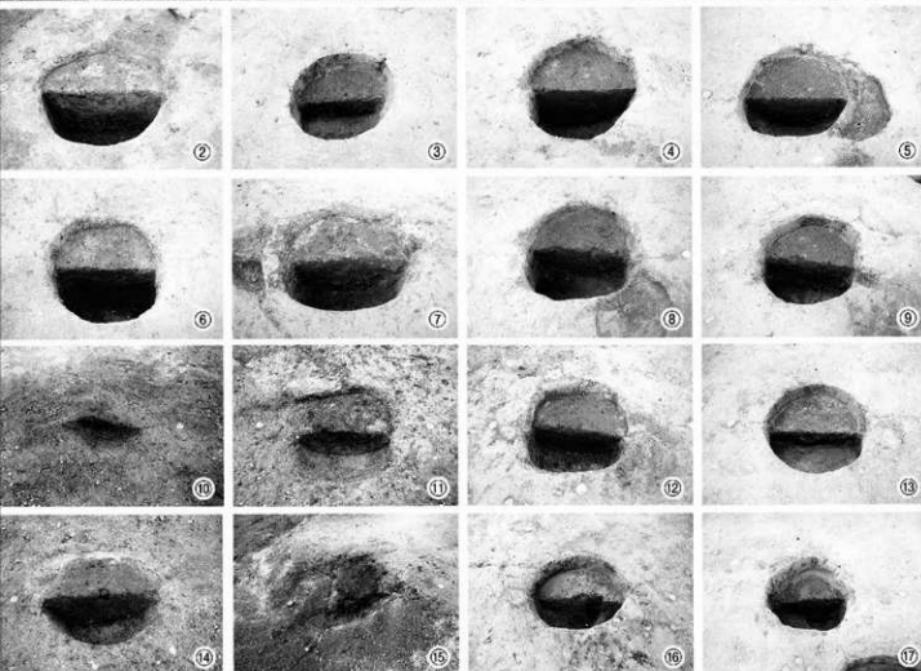
②

図版61 宗守II遺跡5地区の遺構 (1)

①調査区遠景 (北東から) ②調査区全景 (真上から)



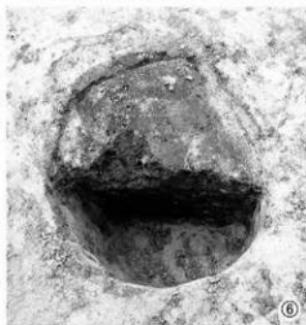
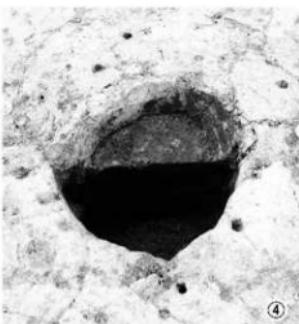
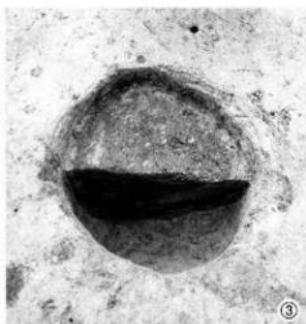
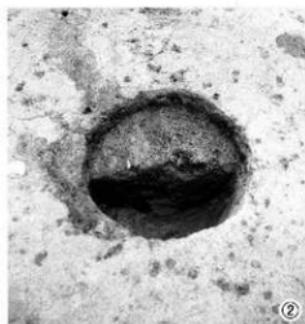
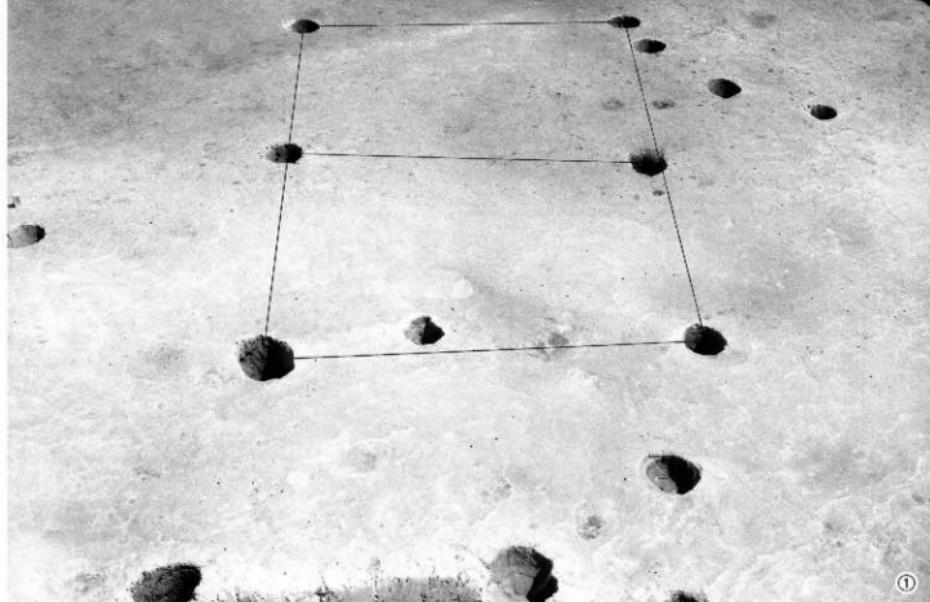
①



⑰

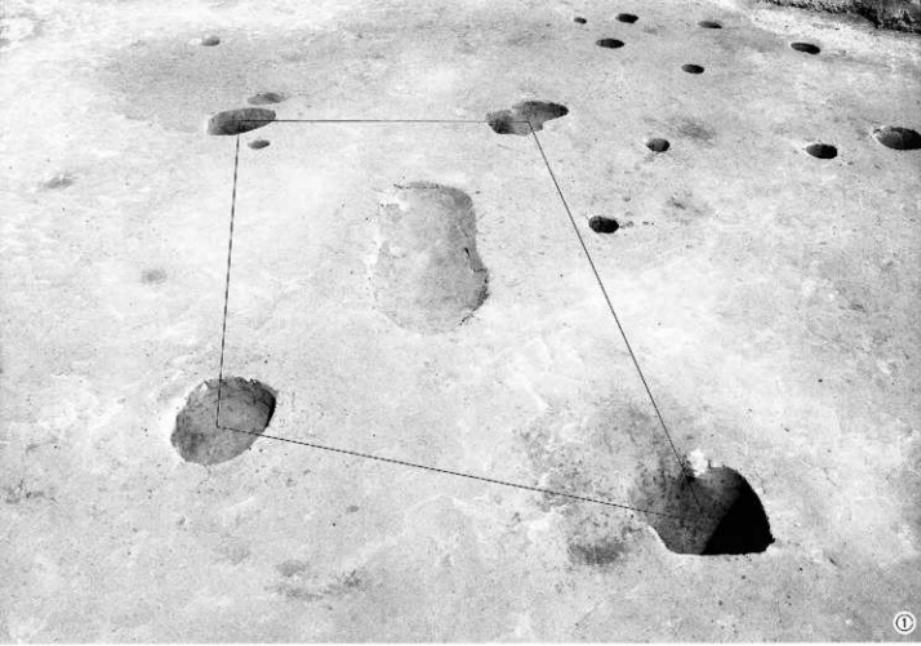
図版62 宗守II遺跡5地区の遺構(2)

- | | | | | |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| ① SB01(南から) | ② P01土層(南から) | ③ P02土層(南から) | ④ P03土層(南から) | ⑤ P04土層(南から) |
| ⑥ P05土層(南から) | ⑦ P06土層(南から) | ⑧ P07土層(南から) | ⑨ P08土層(南から) | ⑩ P09土層(南から) |
| ⑪ P10土層(南から) | ⑫ P11土層(南から) | ⑬ P12土層(南から) | ⑭ P13土層(南から) | ⑮ P14土層(南から) |
| ⑯ P15土層(南から) | ⑰ P16土層(南から) | | | |



図版63 宗守II遺跡5地区の遺構(3)

- ① SB02(南から) ② P54土層(南から) ③ P55土層(南から) ④ P57土層(南から)
⑤ P58土層(南から) ⑥ P59土層(南から) ⑦ P60土層(南から)



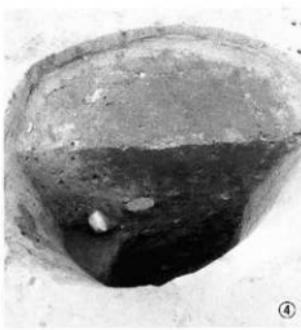
①



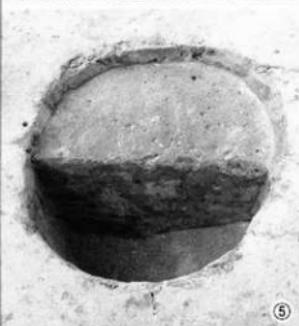
②



③



④



⑤



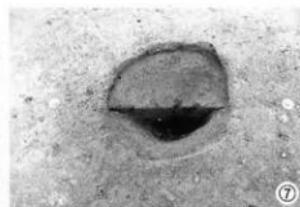
⑥



⑦

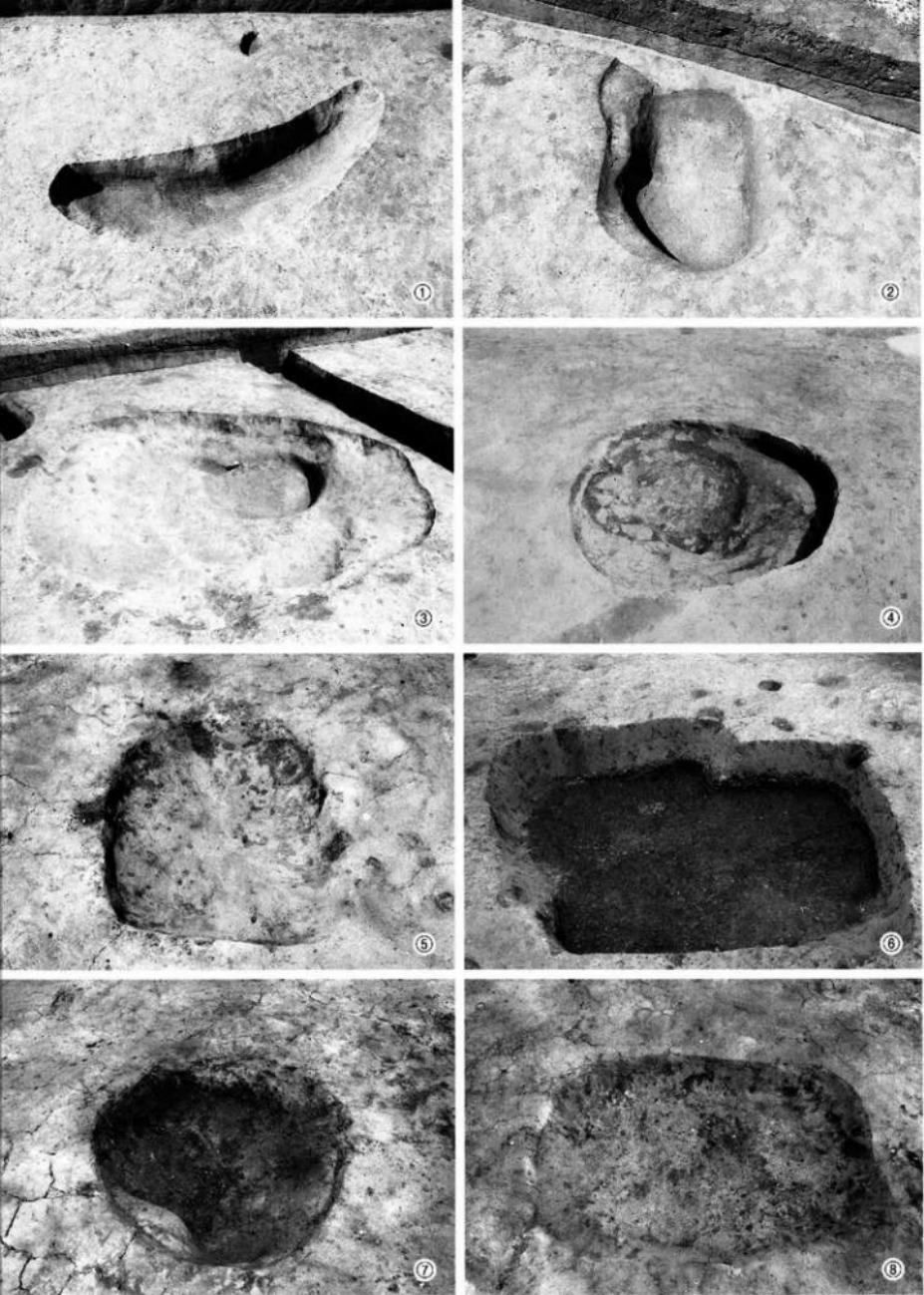
図版64 宗守II遺跡5地区の遺構(4)

- ① SB03(南から) ② SK08(南から) ③ SK08土層(南から) ④ P91土層(南から)
⑤ P93土層(南から) ⑥ P95土層(南から) ⑦ P96土層(南から)



図版65 宗守II遺跡5地区の遺構（5）

- ① SB04（南西から） ② P32土層（南から） ③ P33土層（南から） ④ P34土層（南から） ⑤ P35土層（南から）
⑥ P36土層（南から） ⑦ P37土層（南から） ⑧ P38土層（南から） ⑨ P39土層（南から）



図版66 宗守II遺跡5地区の遺構（6）

- ① SK02 (南から) ② SK03 (南から) ③ SK04 (南から) ④ SK05 (南から)
⑤ SK06 (南から) ⑥ SK07 (南から) ⑦ SK09 (南から) ⑧ SK10 (南から)



①



②



③



④



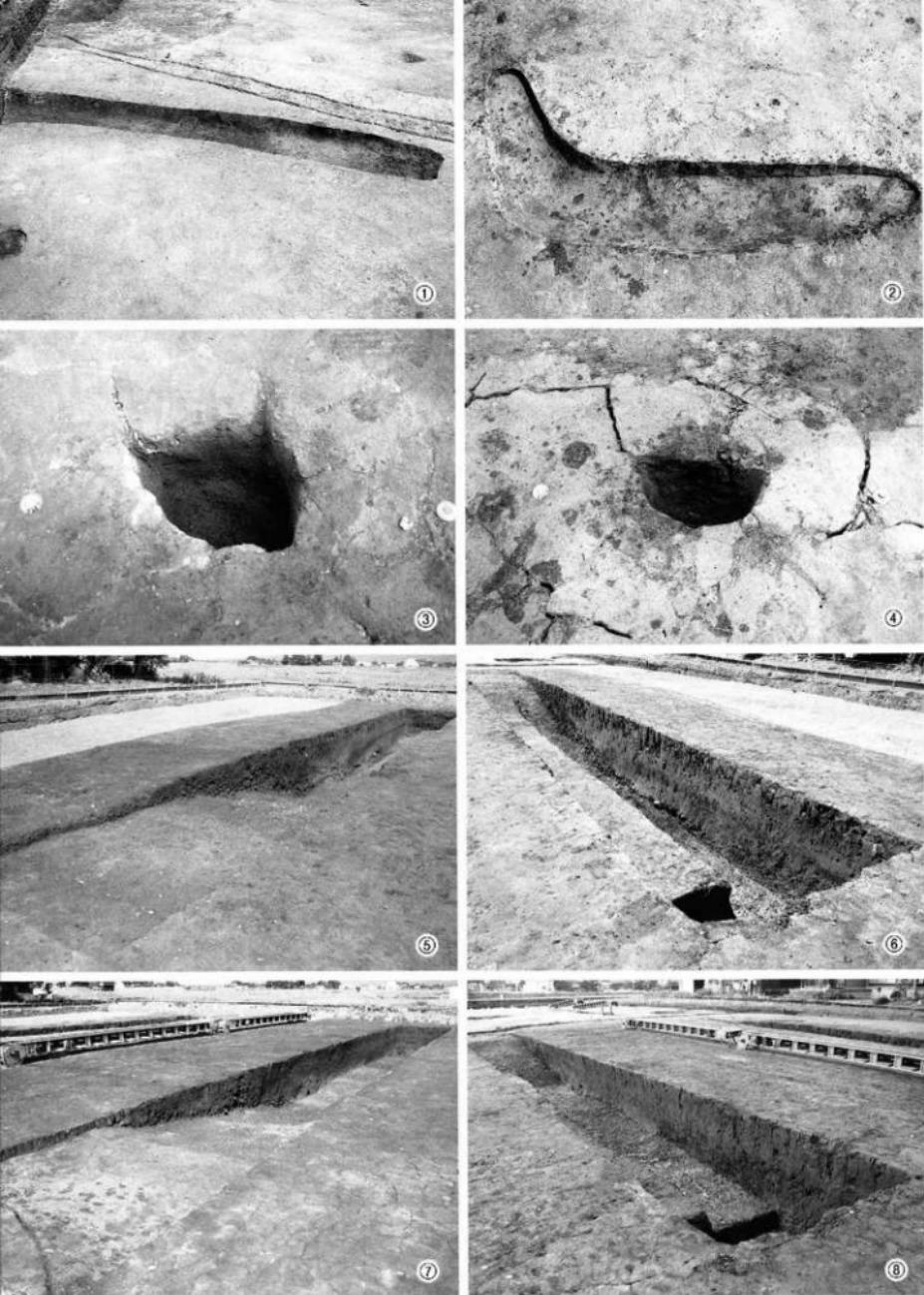
⑤



⑦

図版67 宗守II遺跡5地区の遺構 (7)

- ① SK11 (南から) ② SK12 (北から) ③ SD01・SD02土層 (南から) ④ SD03土層 (南から)
⑤ SD03 (南東から) ⑥ SD04 (東から) ⑦ SD05 (南から)



図版68 宗守II遺跡5地区の遺構(8)

- ①SD06(南から)
- ②SD07(南西から)
- ③P28(南から)
- ④P28土層(南から)
- ⑤トレンチ1(南西から)
- ⑥トレンチ1(南東から)
- ⑦トレンチ2(南西から)
- ⑧トレンチ2(南東から)



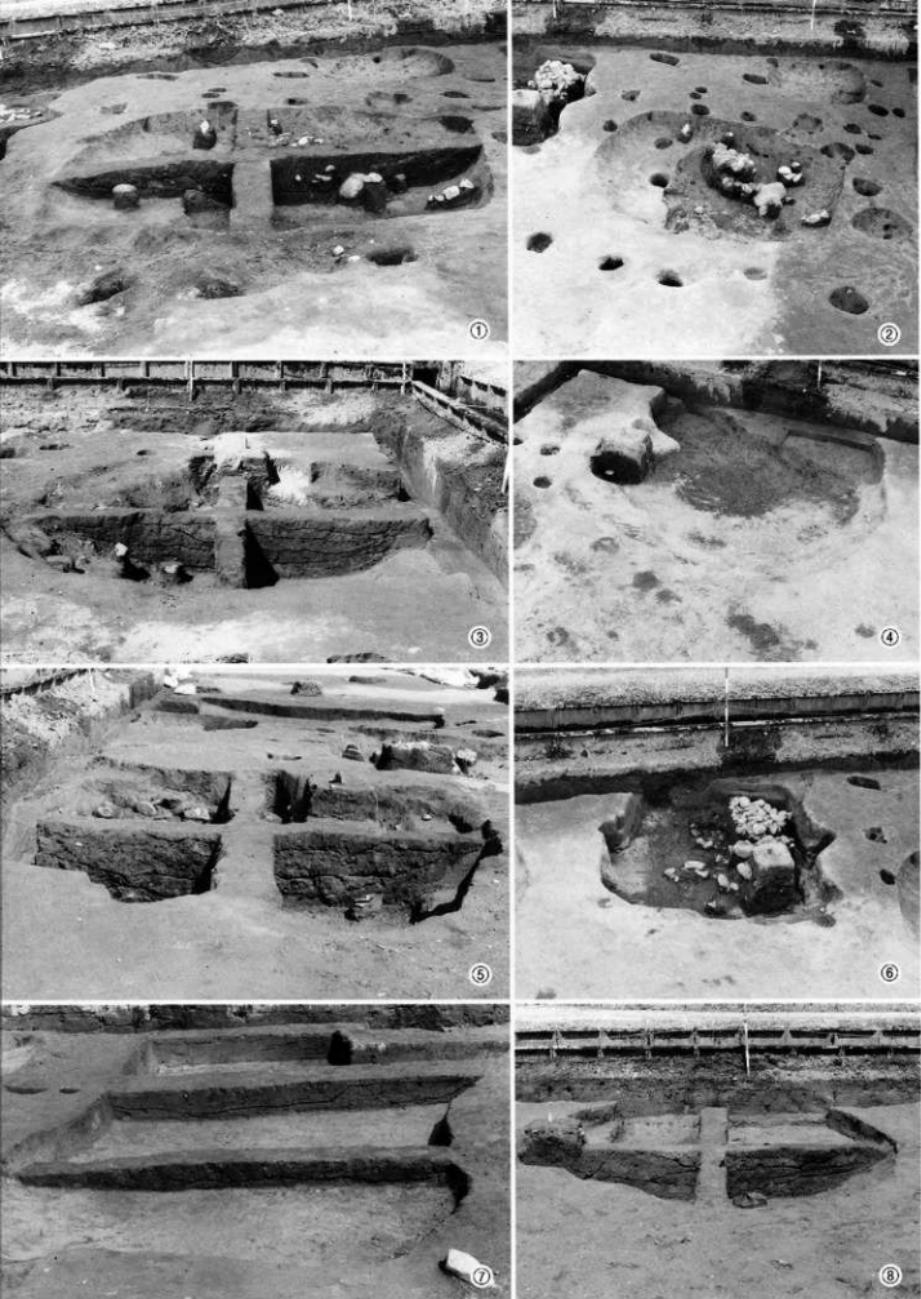
①



②

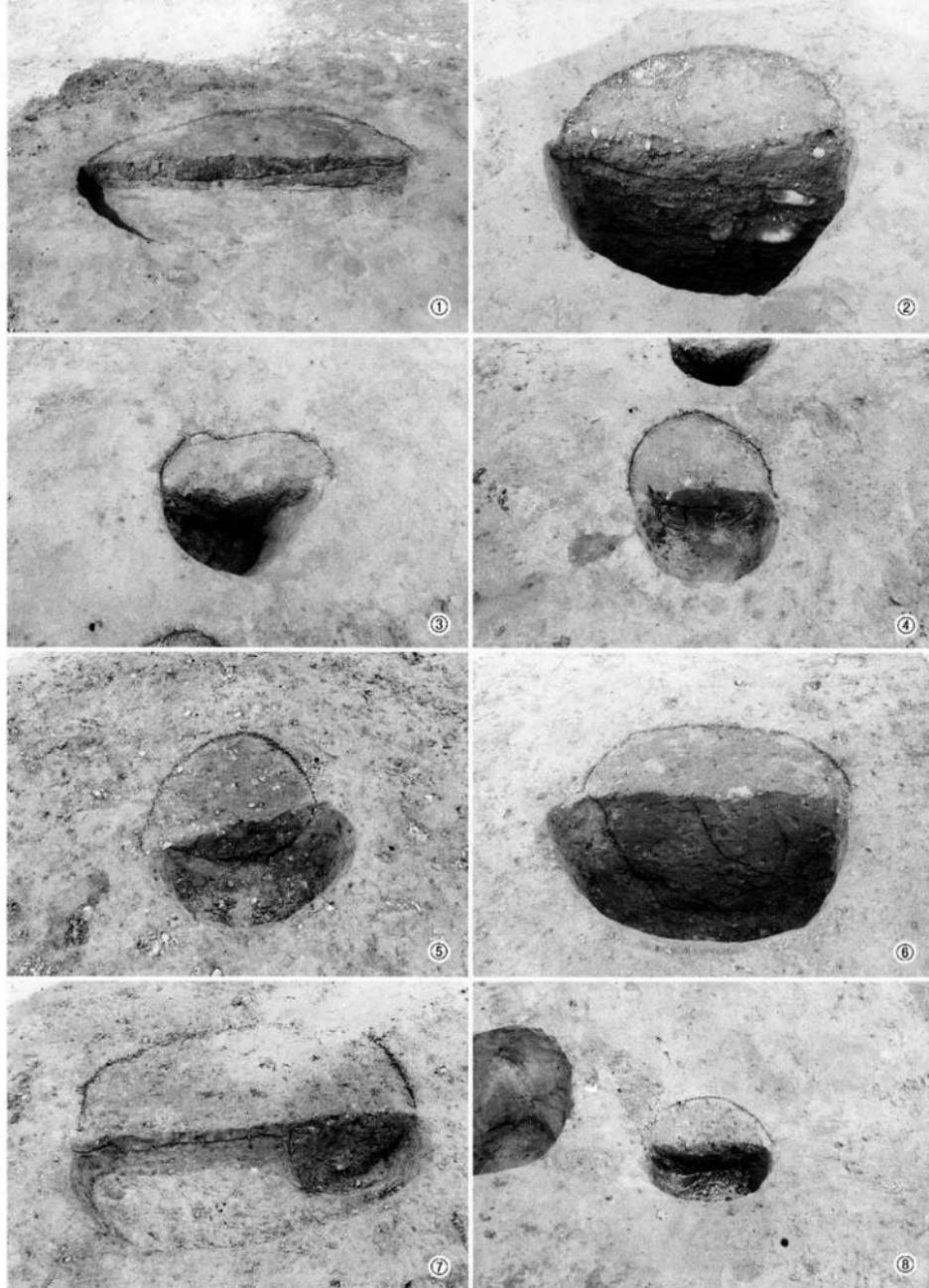
図版69 宗守II遺跡6地区の遺構 (1)

①調査区全景 (真上から) ②調査区遠景 (東から)



図版70 宗守II遺跡6地区の遺構(2)

- ①SI01土層
- ②SI01完掘状況
- ③SK01土層
- ④SK01完掘状況
- ⑤SK02土層
- ⑥SK02完掘状況
- ⑦SX01土層
- ⑧SK03土層



図版71 宗守II遺跡6地区の遺構(3)

- ①SK06土層 ②SE01土層 ③SP28土層 ④SP29土層
⑤SP54土層 ⑥SP56土層 ⑦SP57土層 ⑧SP65土層



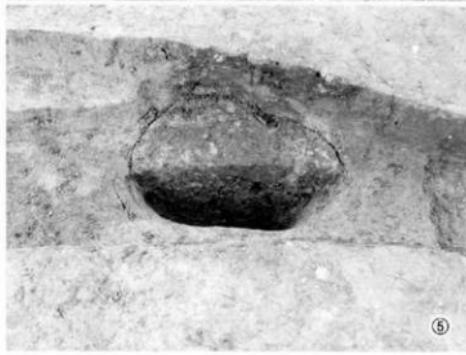
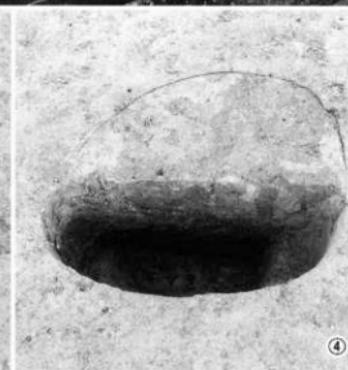
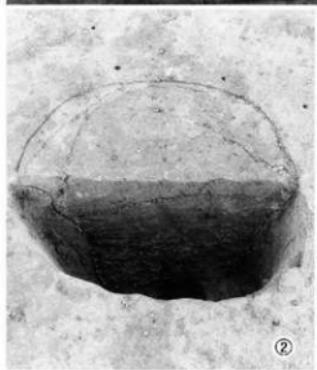
①



②

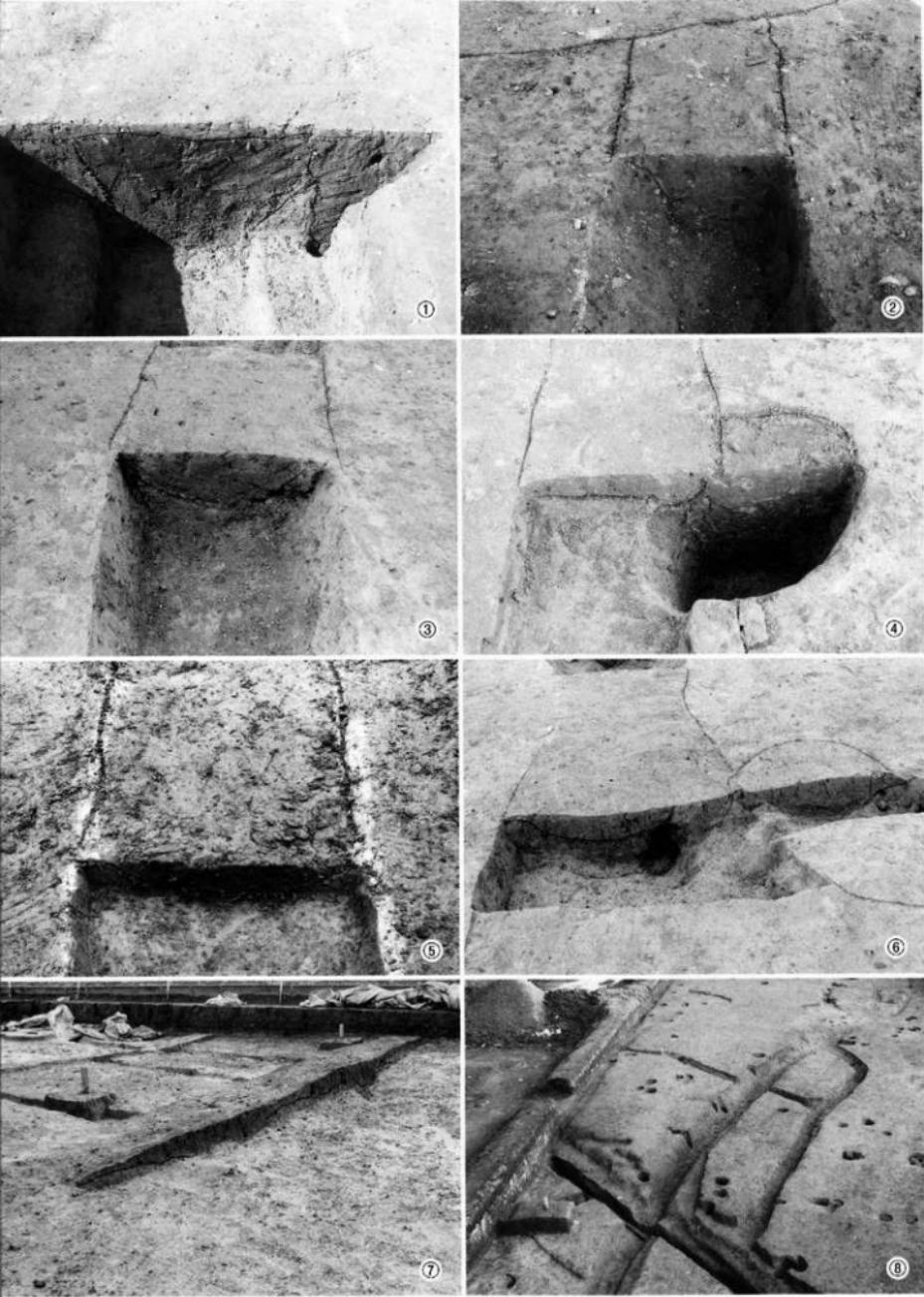
図版72 宗守II遺跡7地区の遺構 (1)

①調査区全景 (真上から) ②調査区遠景 (東から)



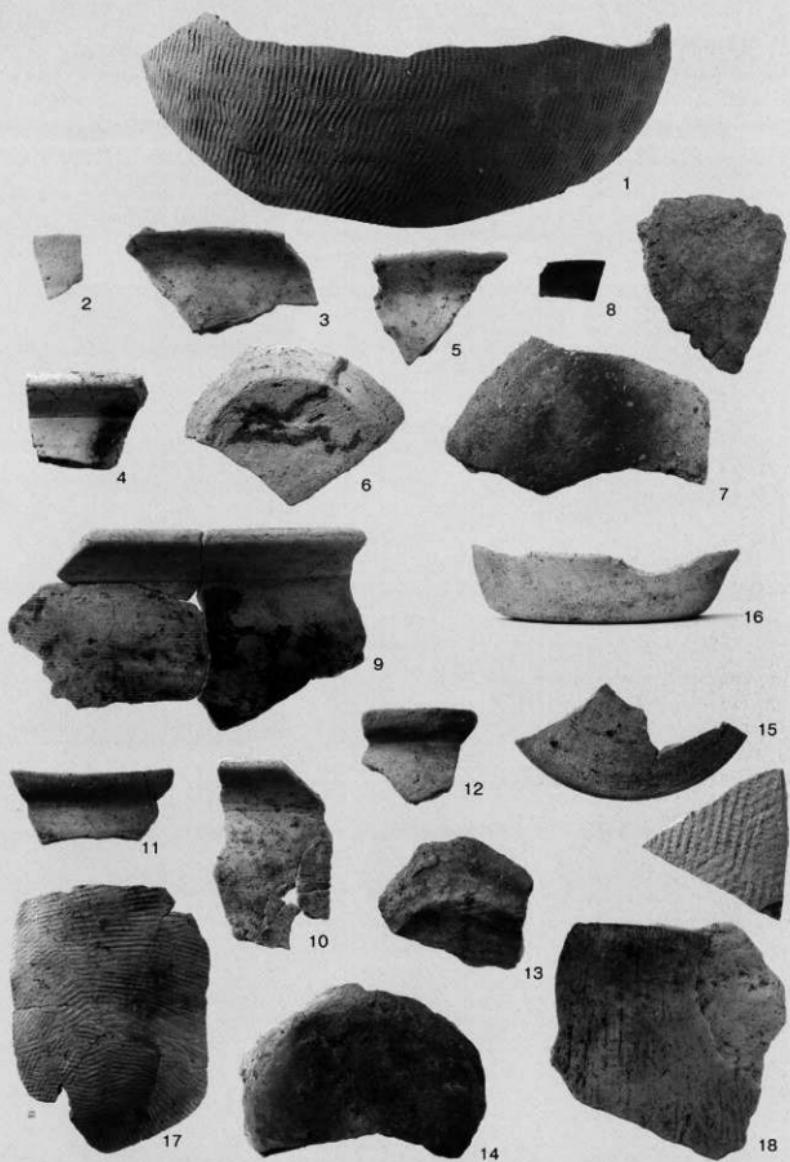
図版73 宗守Ⅱ遺跡7地区の遺構(2)

- ①SB01(南西から) ②SP54土層 ③SP55土層
④SP56土層 ⑤SP57土層 ⑥SP58土層



図版74 宗守II遺跡7地区の遺構 (3)

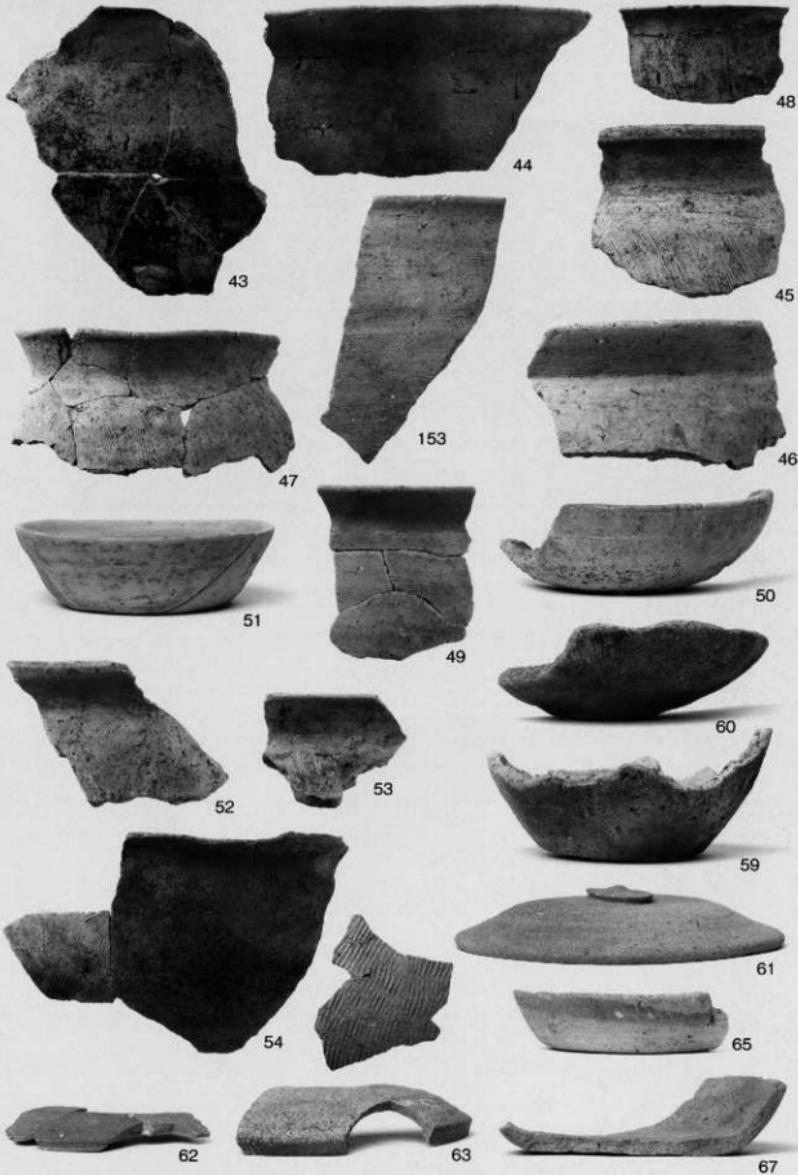
①SD01土層 ②SD02土層 ③SD03土層 ④SD04土層
⑤SD06土層 ⑥SD07土層 ⑦SX01土層 ⑧群穴掘状況



図版75 高島遺跡1地区の遺物(1)



図版76 高畠遺跡1地区の遺物 (2)



図版77 高畠遺跡1地区の遺物 (3)



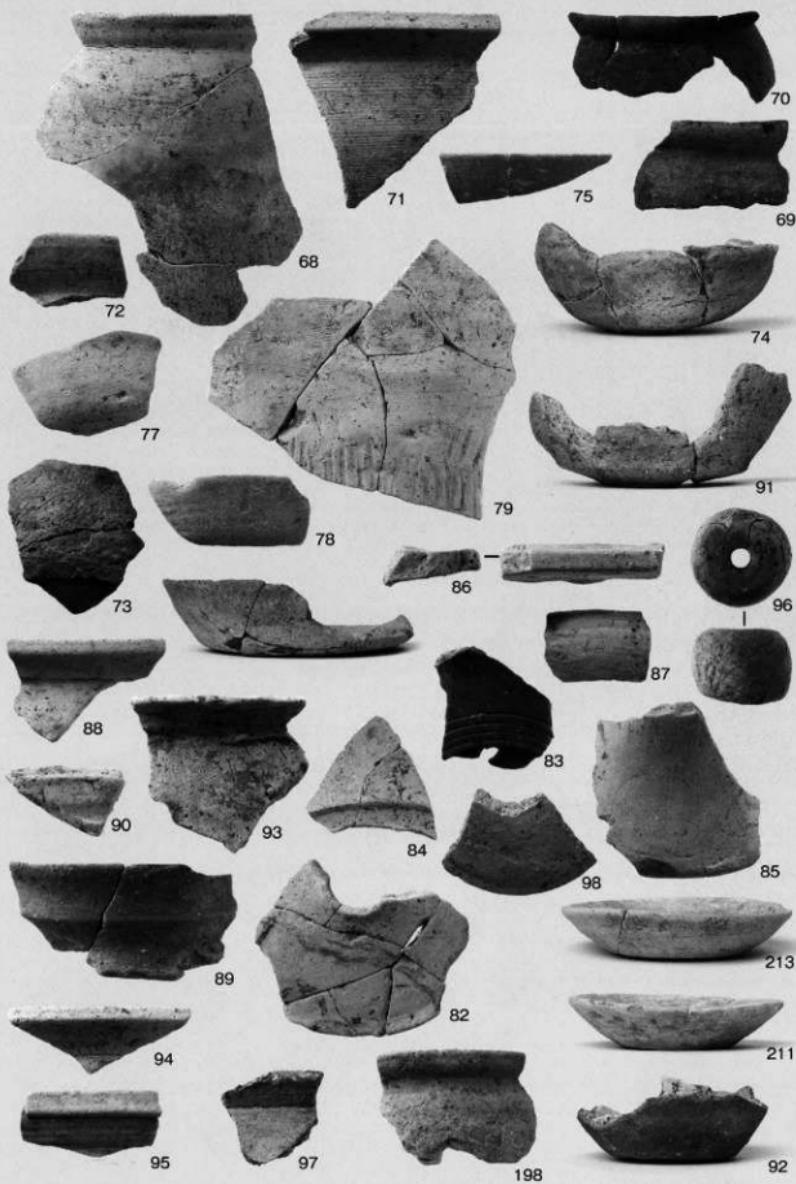
57



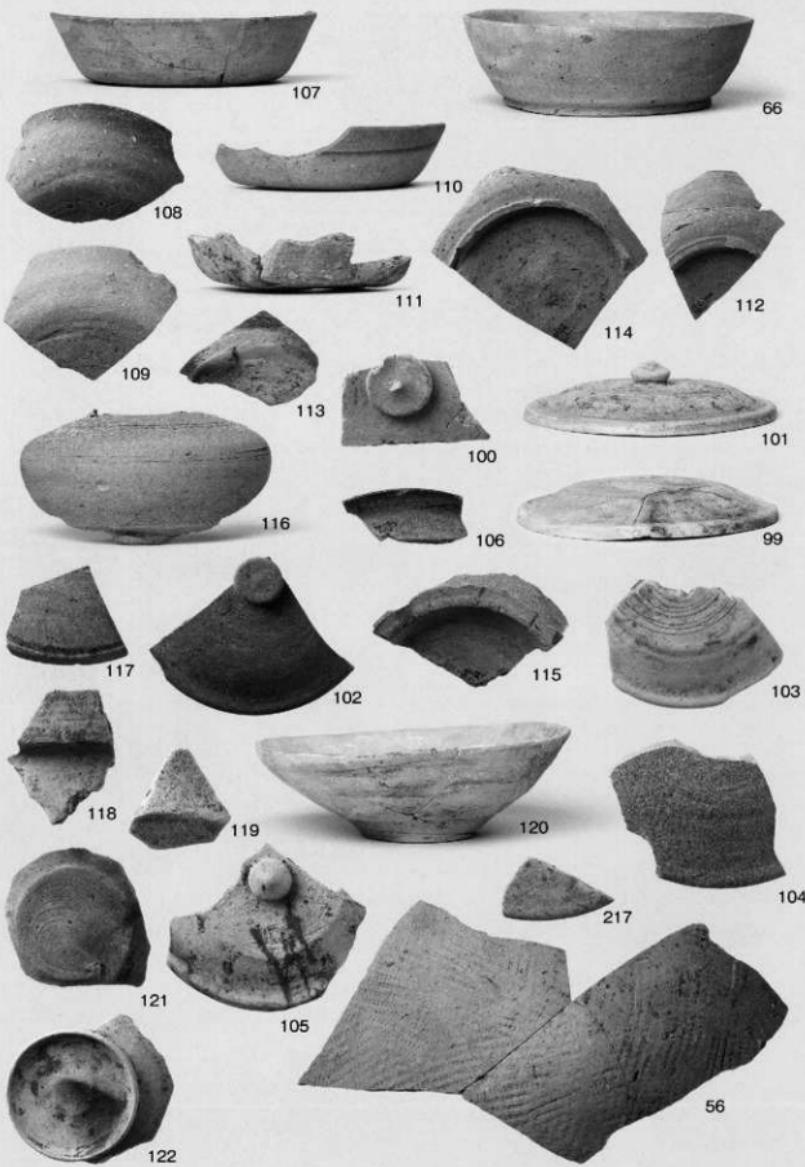
58



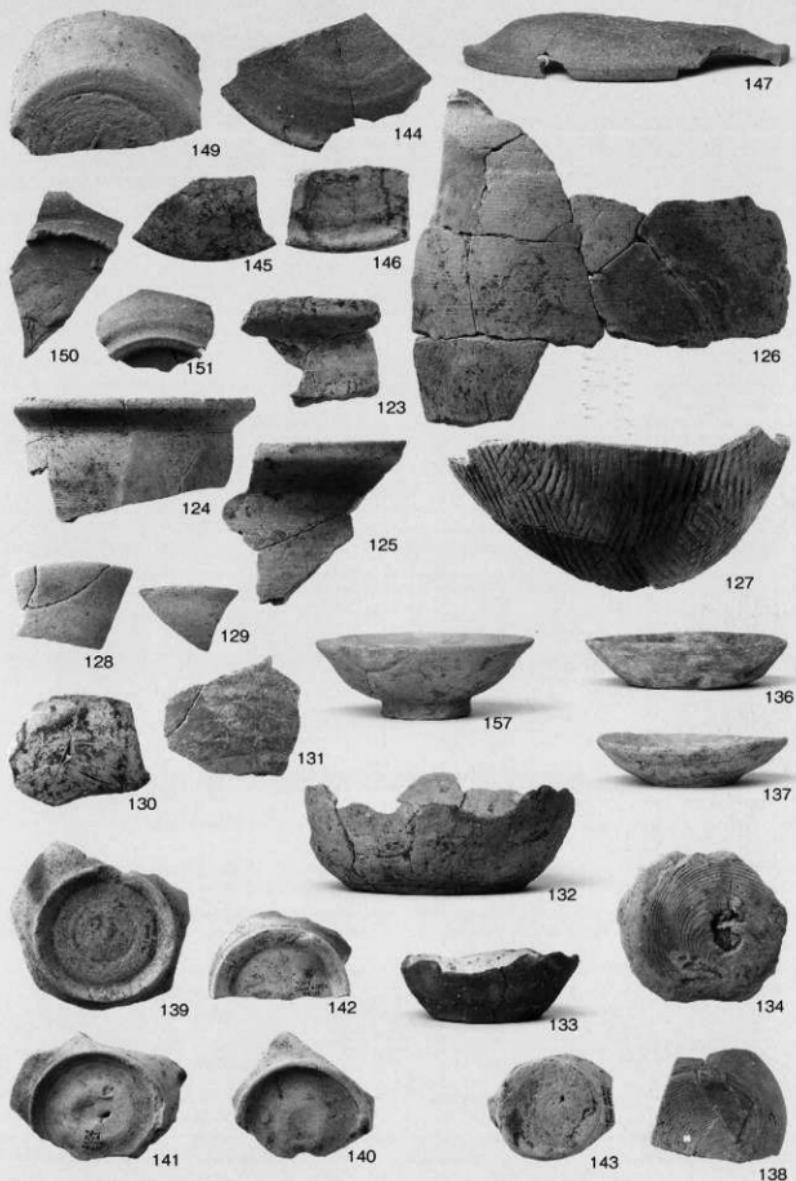
35



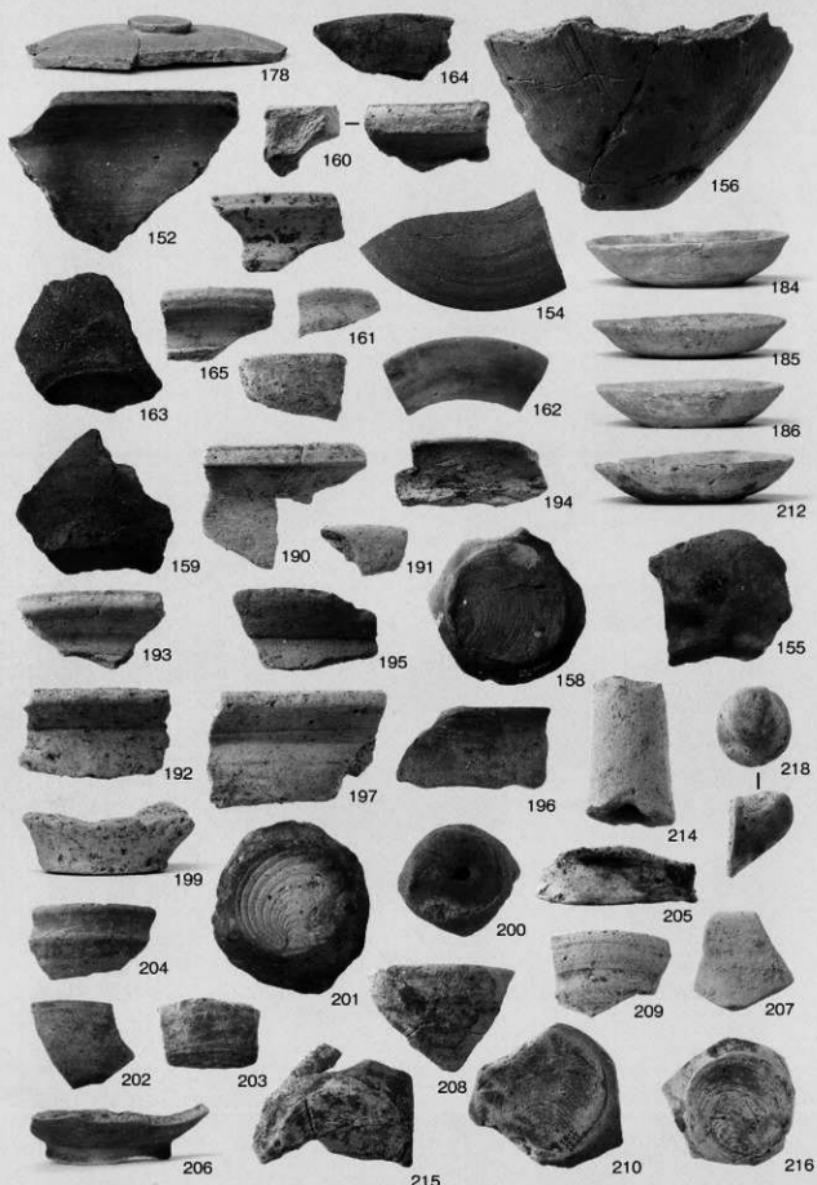
図版79 高畠遺跡1地区の遺物 (5)



図版80 高畠遺跡1地区の遺物 (6)



図版81 高島遺跡1地区の遺物 (7)



図版82 高畠遺跡1地区の遺物 (8)

【2地区】
SD01

SD02



1



2



4

SD04



6



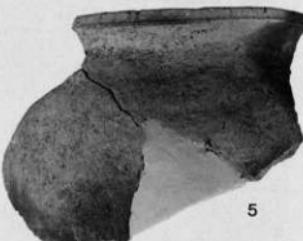
7



8



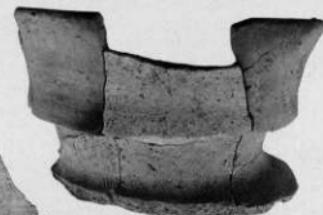
3



5



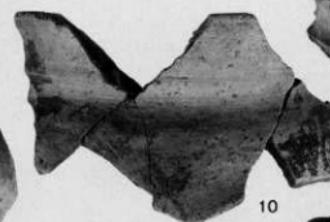
9



11



12



10



13



15



14



17

SD05



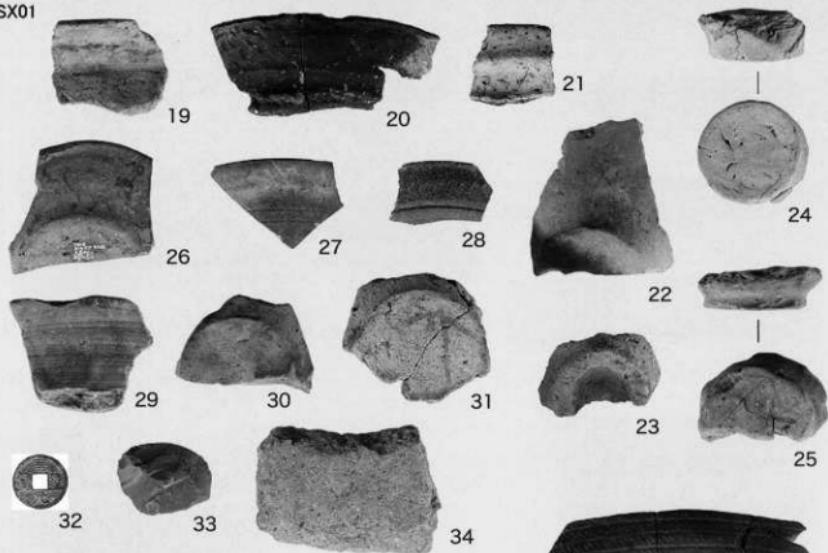
18



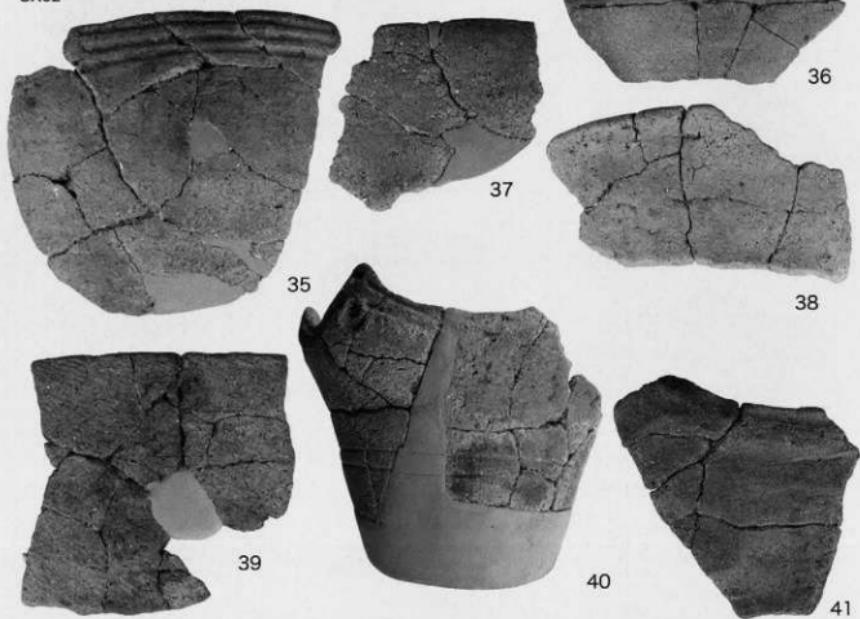
16

図版83 高畠遺跡2地区の遺物 (1)

SX01

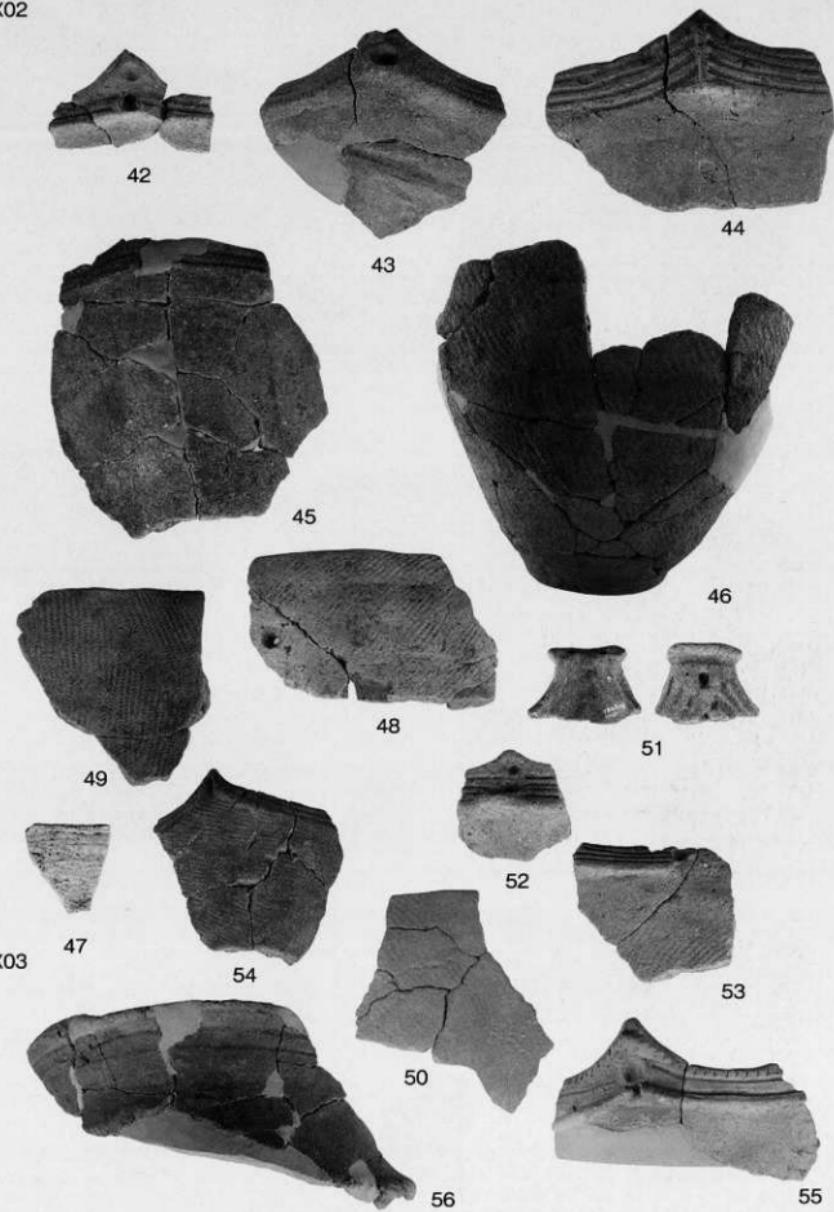


SX02



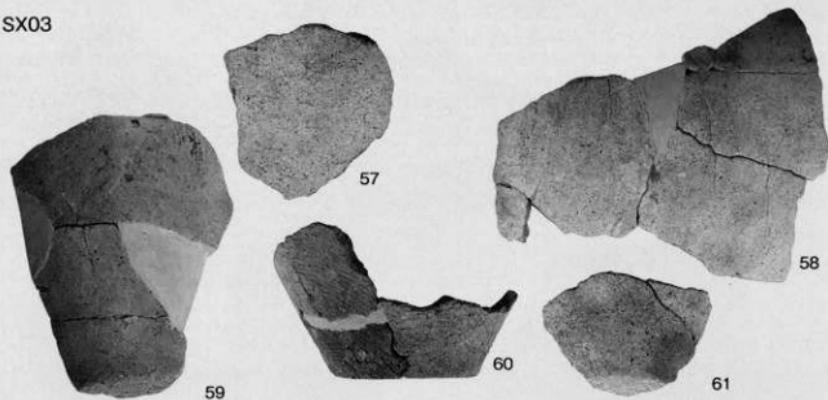
図版84 高畠遺跡2地区の遺物 (2)

SX02

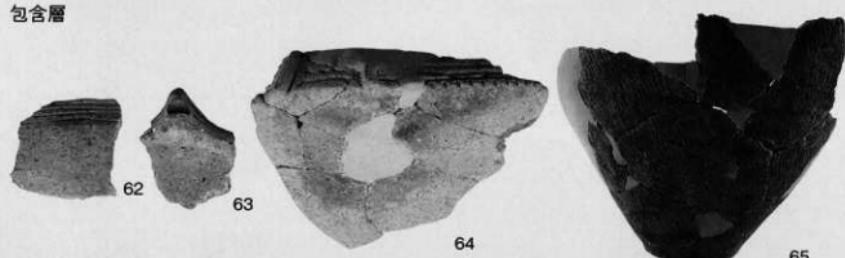


図版85 高畠遺跡2地区の遺物 (3)

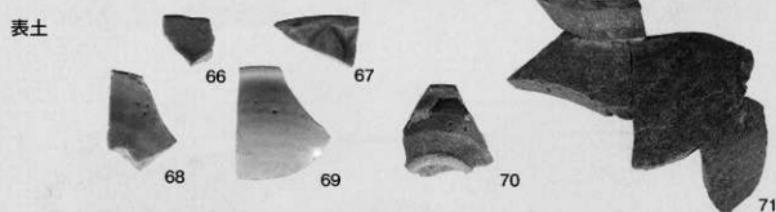
SX03



包含層



表土



【3地区】
検出土



耕作土



図版86 高畠遺跡2・3地区の遺物 (4)

SB01
(SP58)



1

SP116



3

SP137



4

SK01



2

SD01



5



6

SD04



7



8

包含層



9

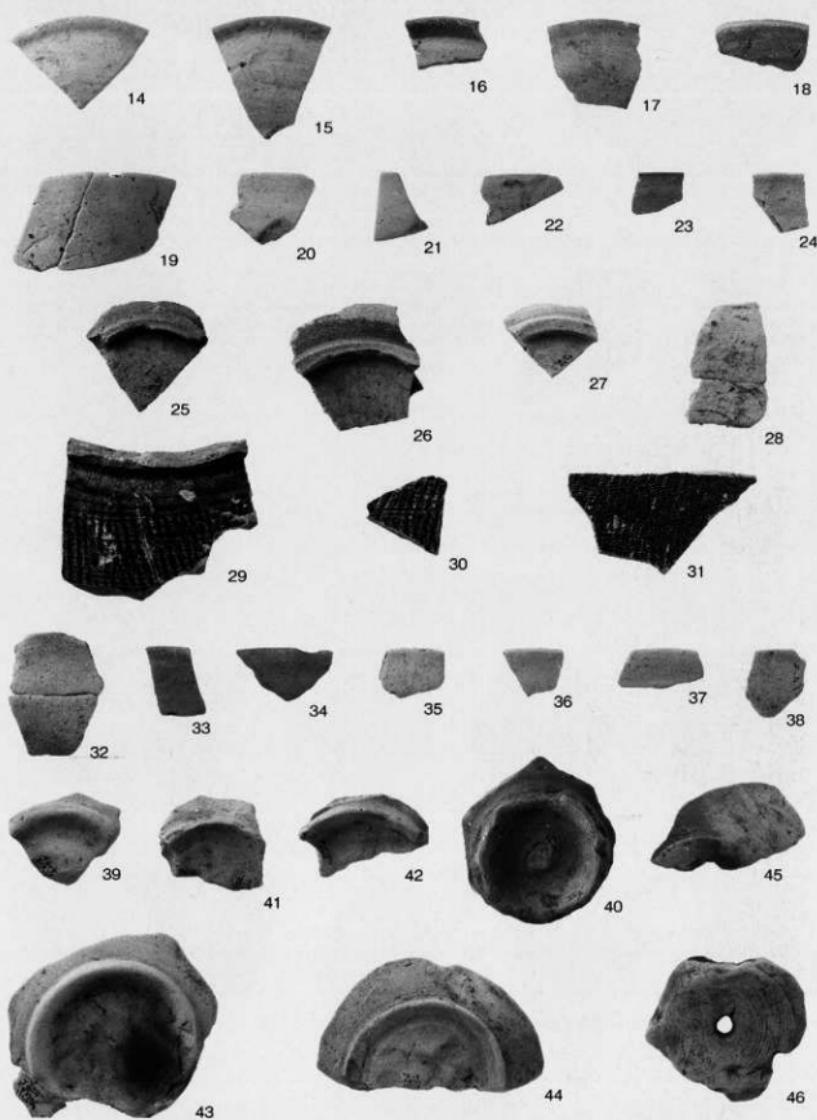


11

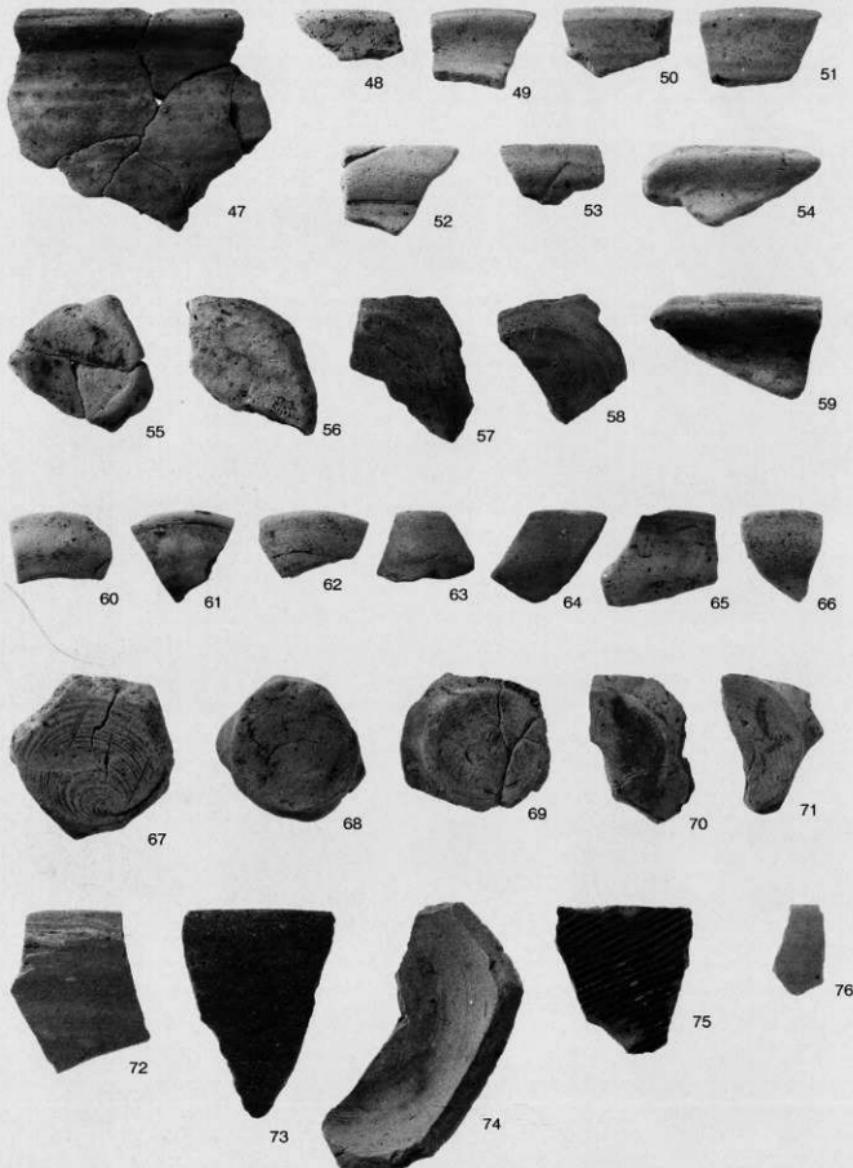
図版87 高畠遺跡4地区の遺物 (1)



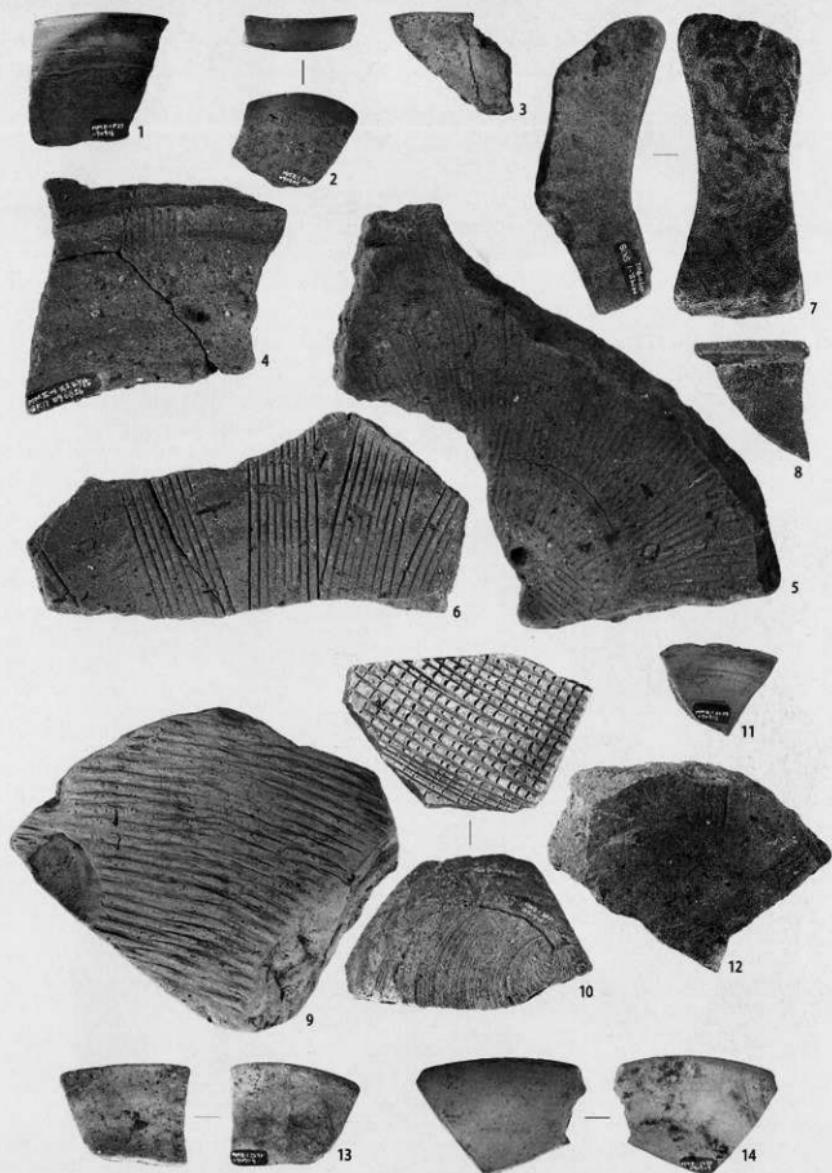
図版88 高畠遺跡4地区の遺物 (2)



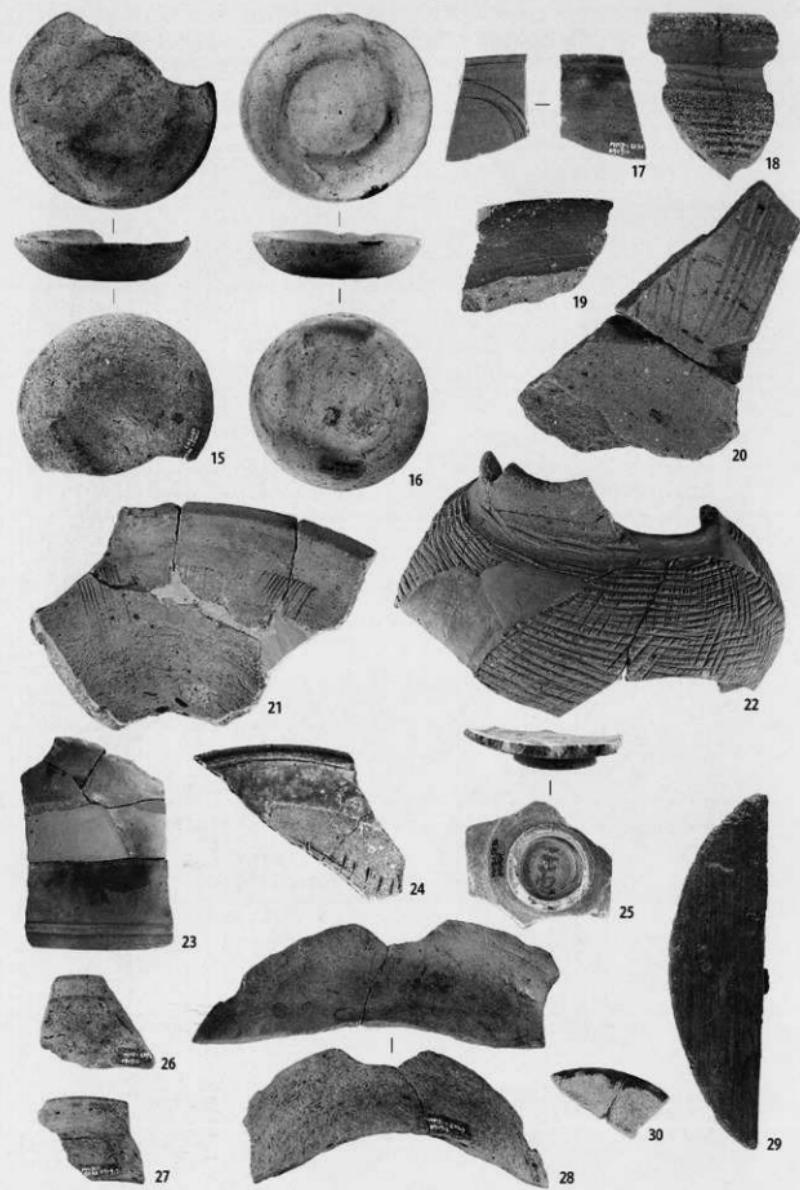
図版89 高畠遺跡4地区の遺物 (3)



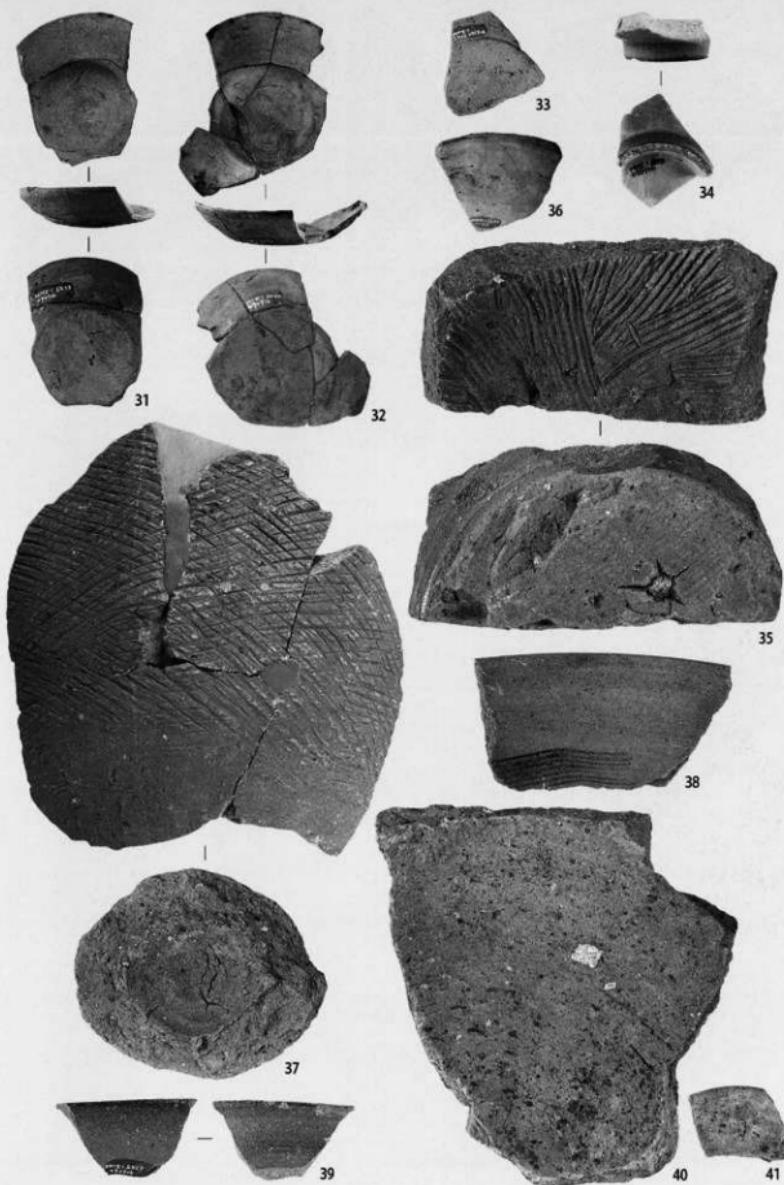
図版90 高畠遺跡4地区の遺物(4)



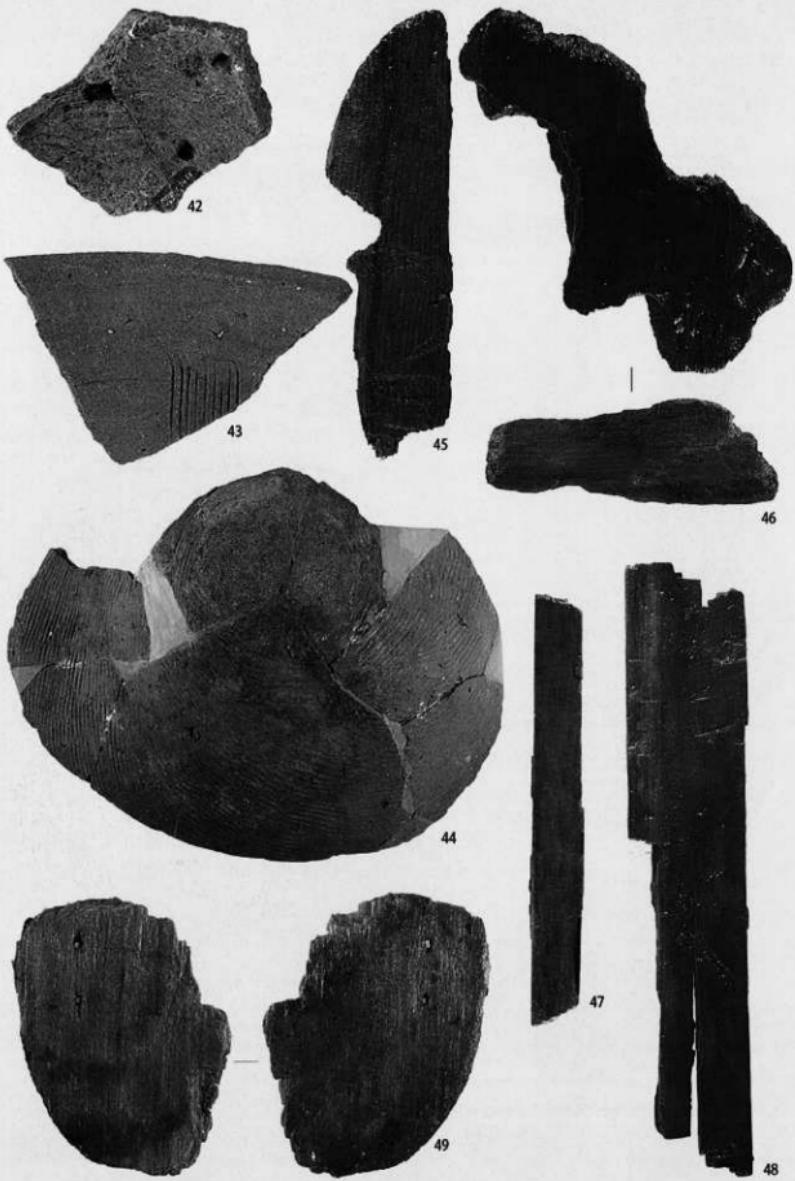
図版91 宗守II遺跡1地区の遺物 (1)



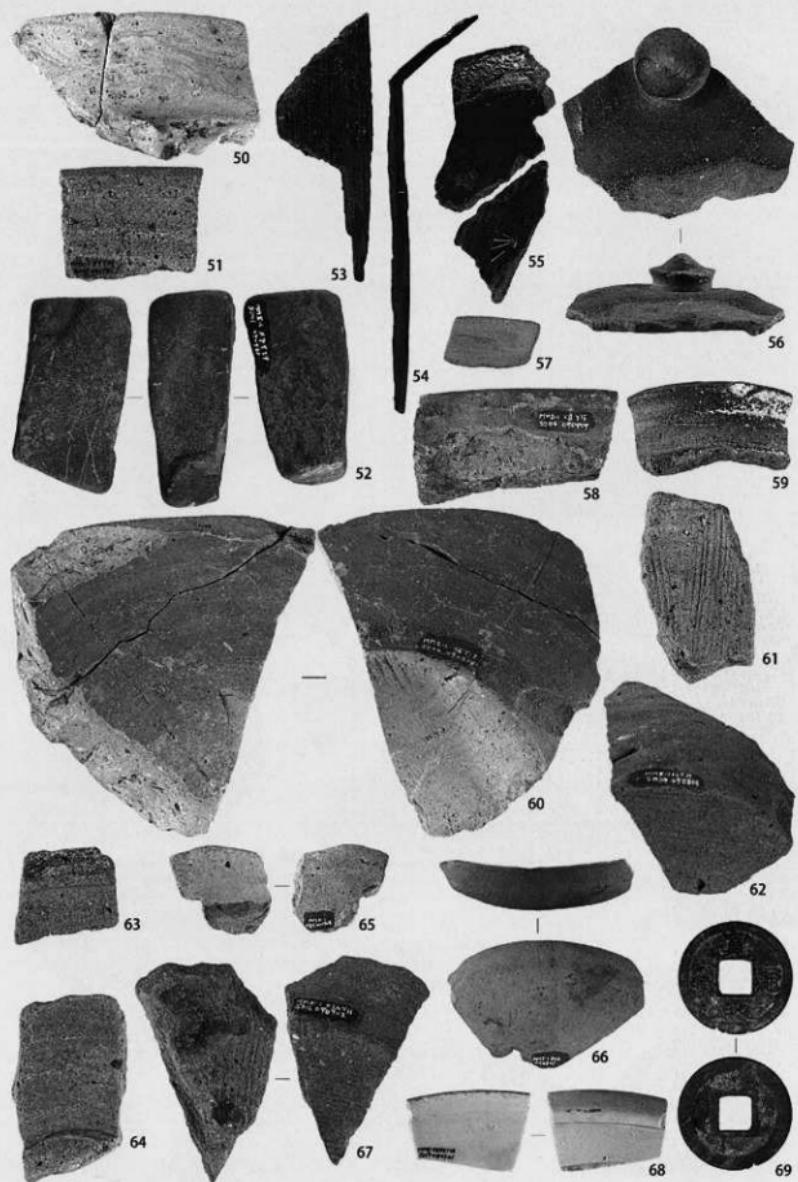
図版92 宗守II遺跡1地区の遺物 (2)



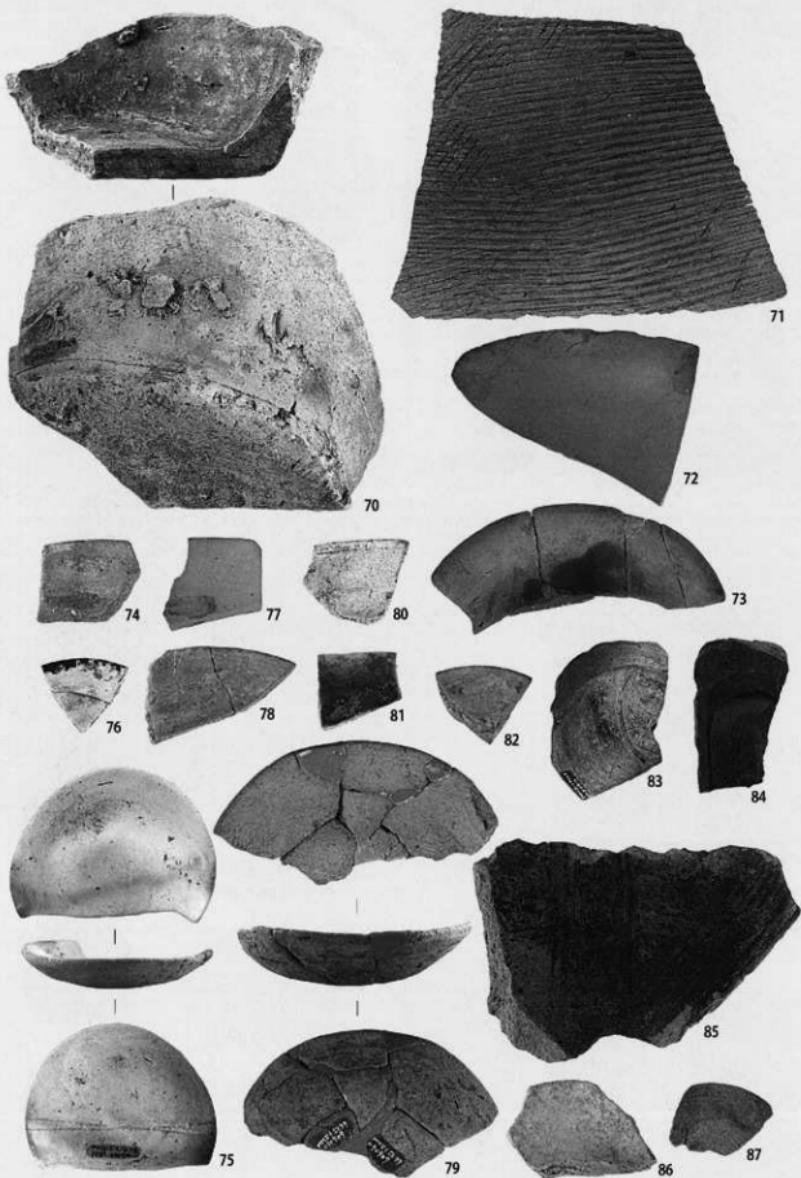
図版93 宗守II遺跡1地区の遺物 (3)



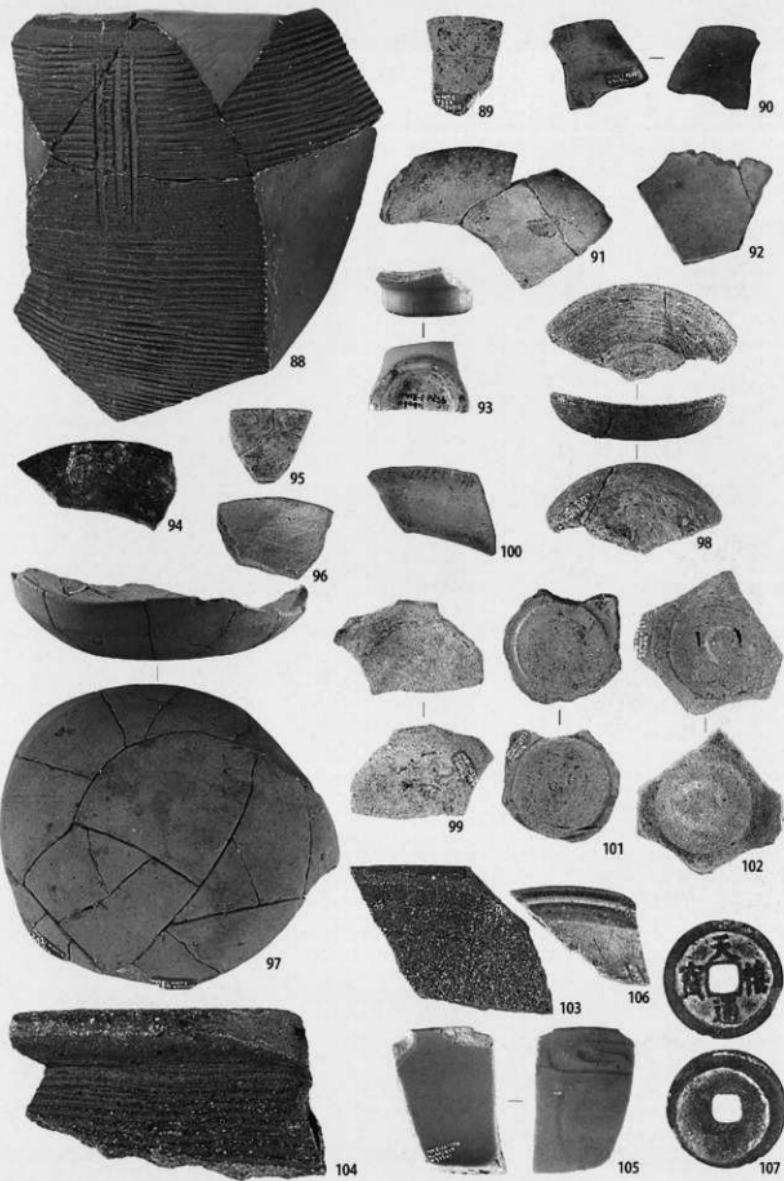
図版94 宗守II遺跡1地区の遺物 (4)



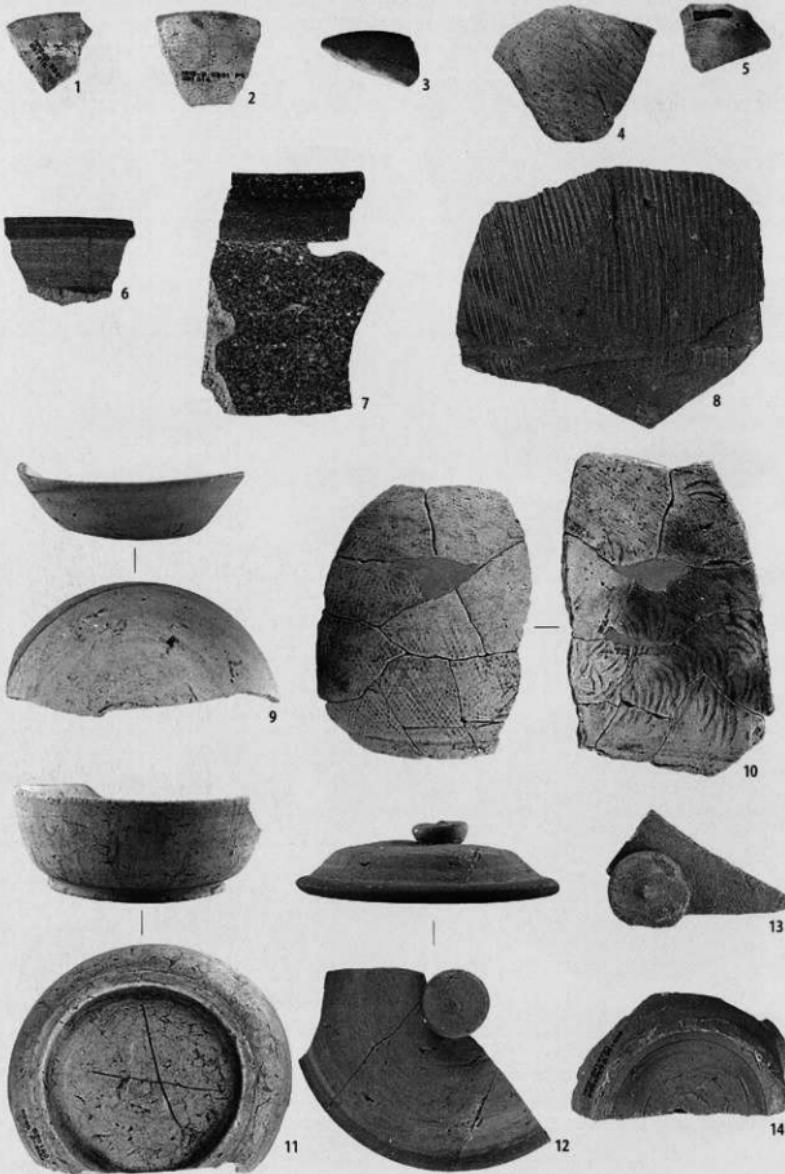
図版95 宗守II遺跡1地区の遺物(5)



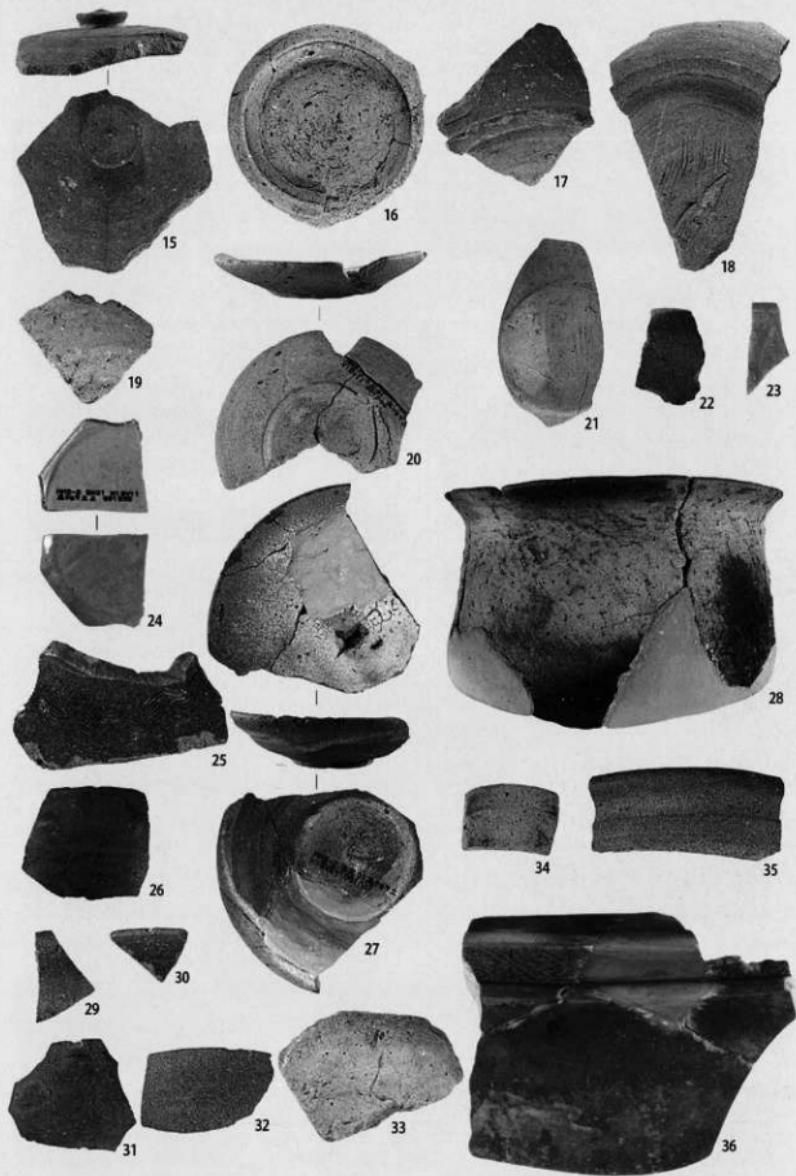
図版96 宗守II遺跡1地区の遺物 (6)



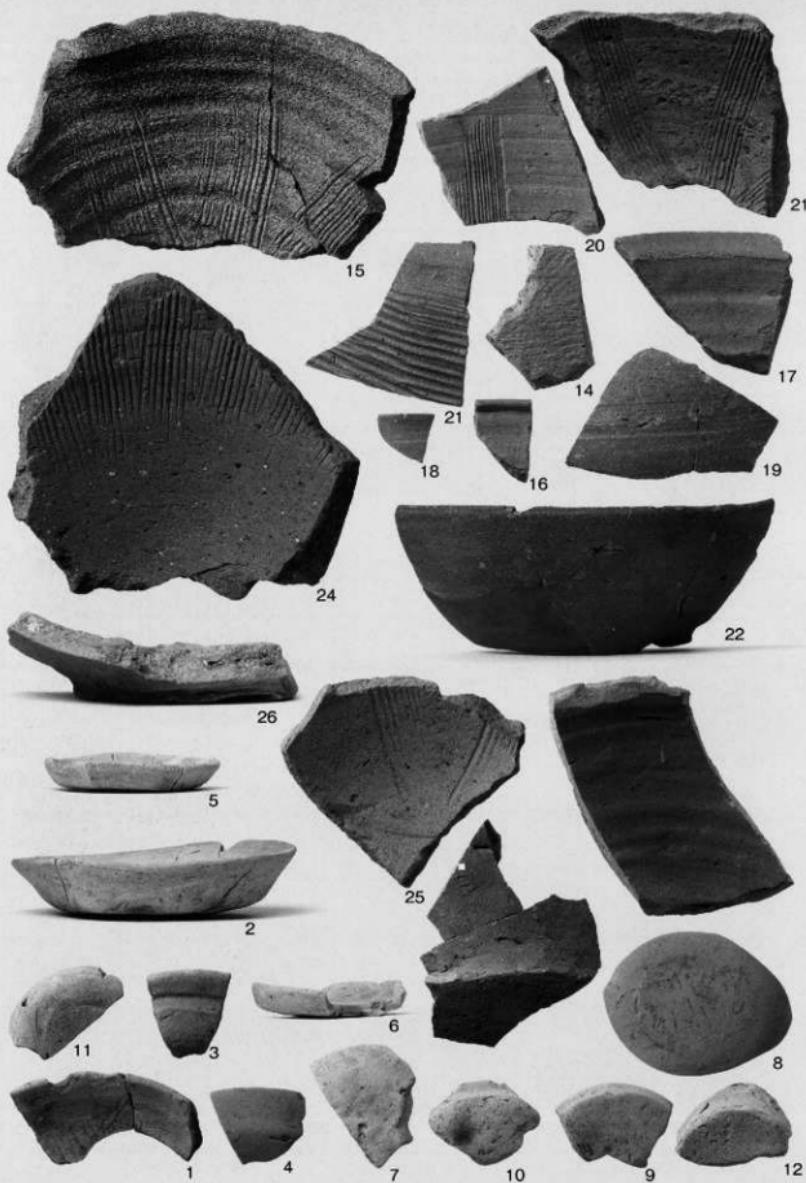
図版97 宗守II遺跡1地区の遺物 (7)



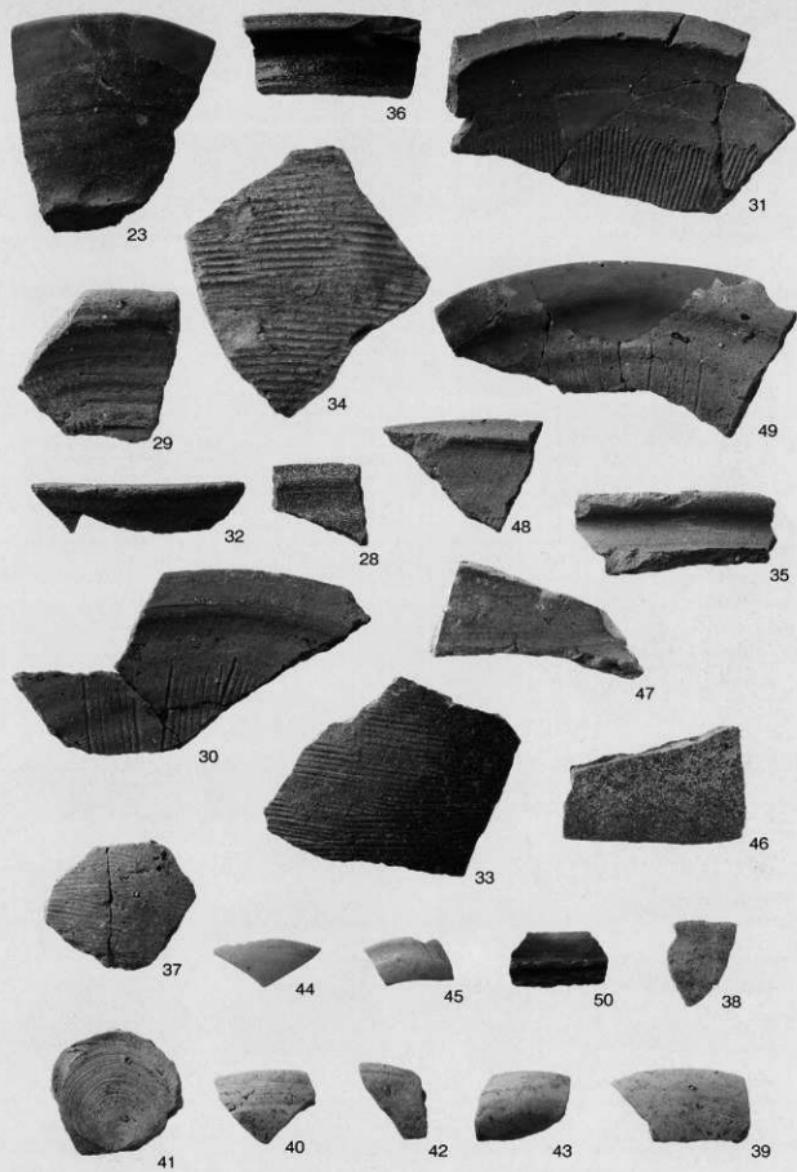
図版98 宗守II遺跡2地区の遺物 (1)



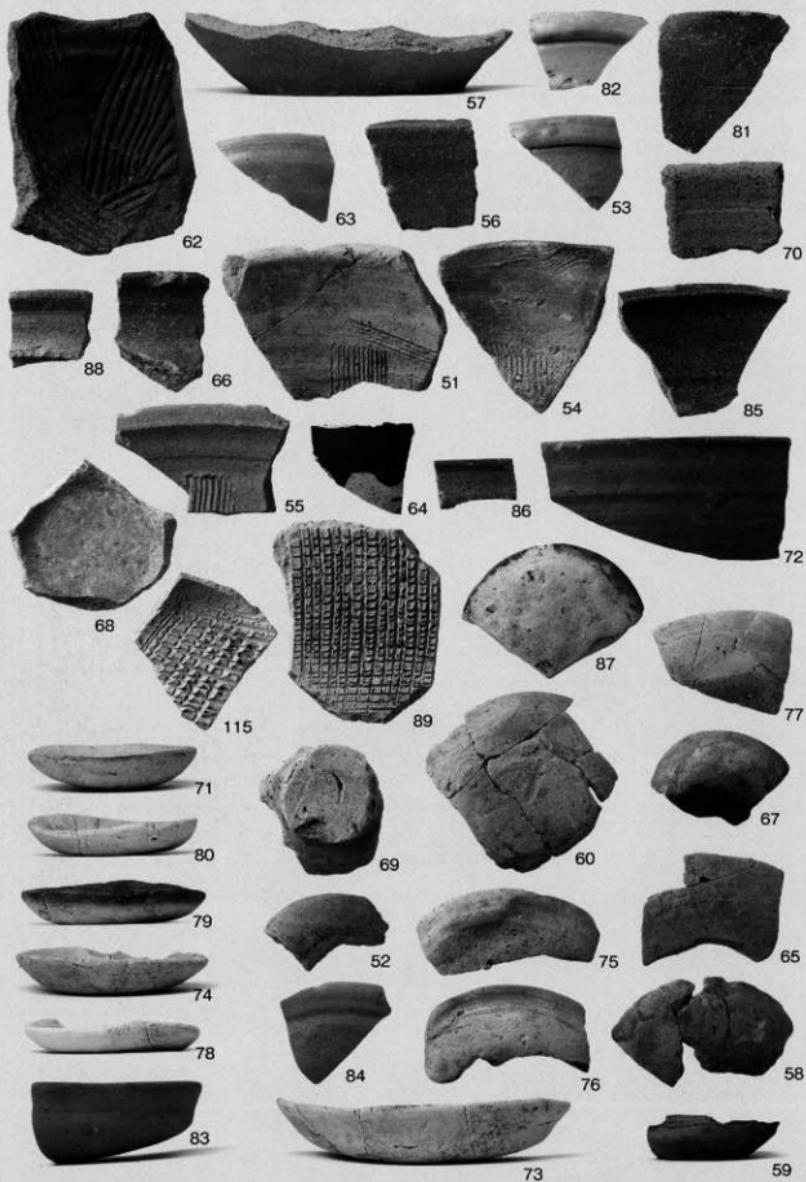
図版99 宗守II遺跡2地区の遺物 (2)



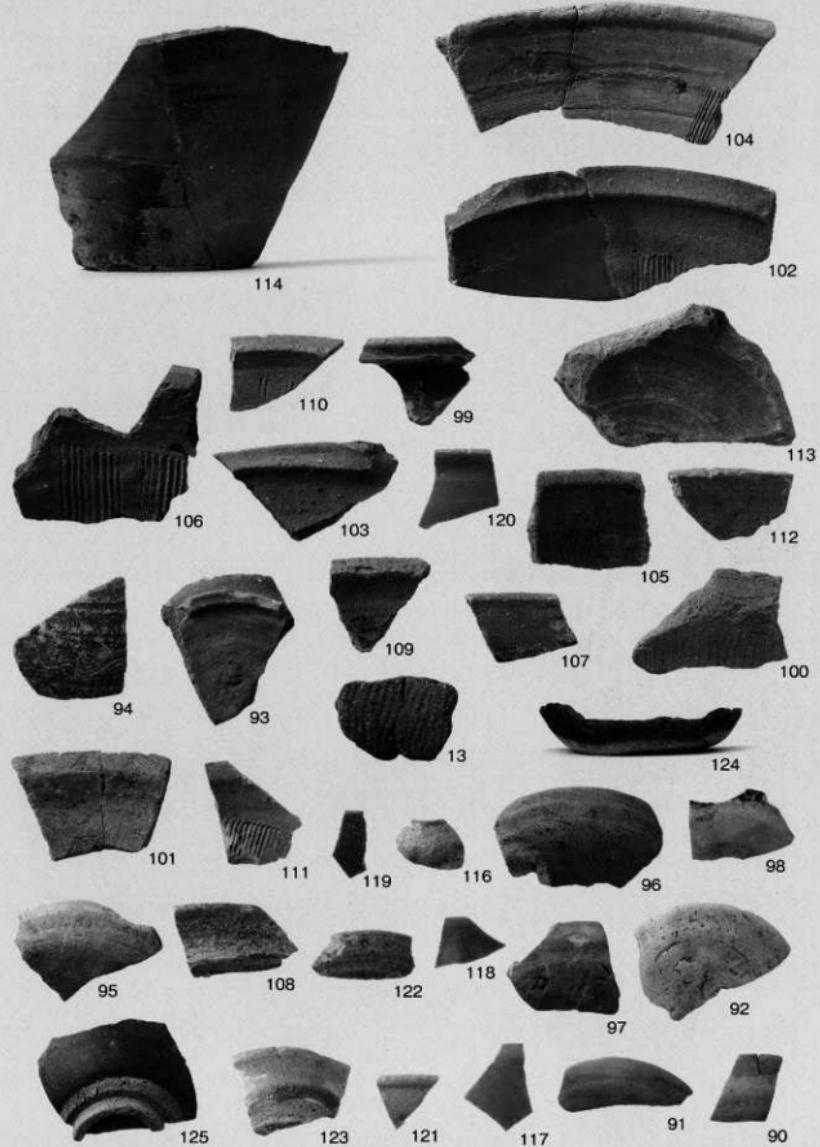
図版100 宗守II遺跡3地区の遺物 (1)



図版101 宗守II遺跡3地区の遺物 (2)



図版102 宗守Ⅱ遺跡3地区の遺物 (3)



図版103 宗守II遺跡3地区の遺物 (4)



1



2



3



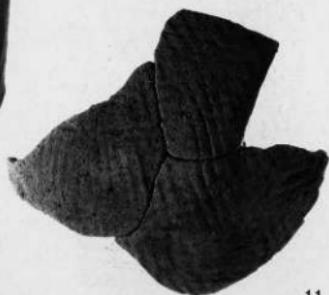
4

図版104 宗守II遺跡4地区の遺物 (1) (S=1 : 2)

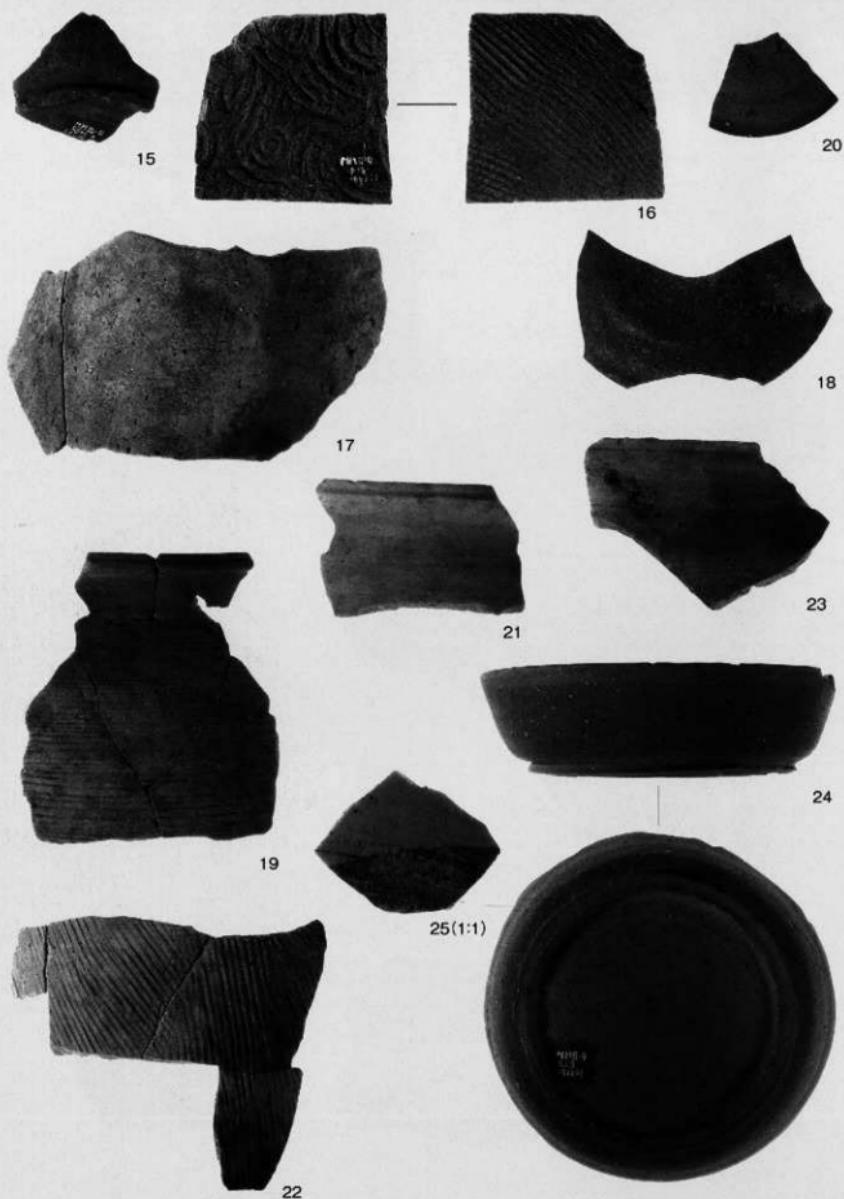


10

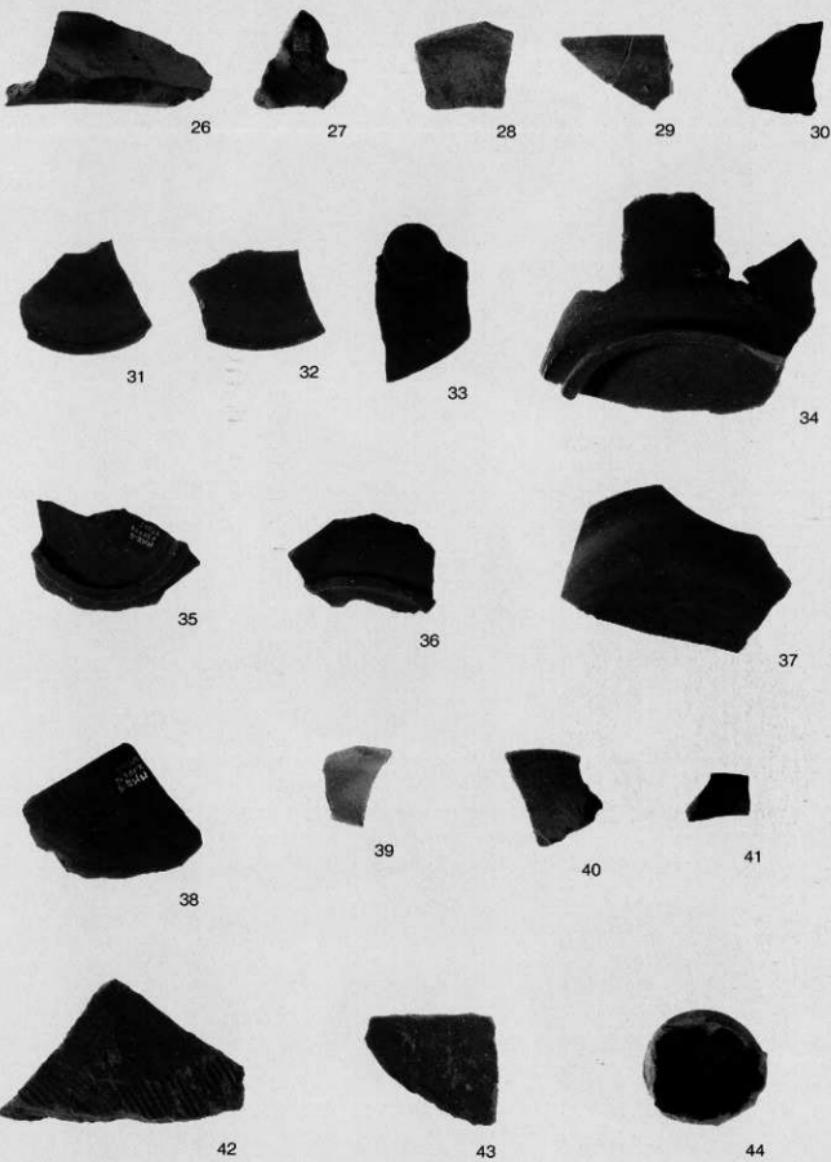
8



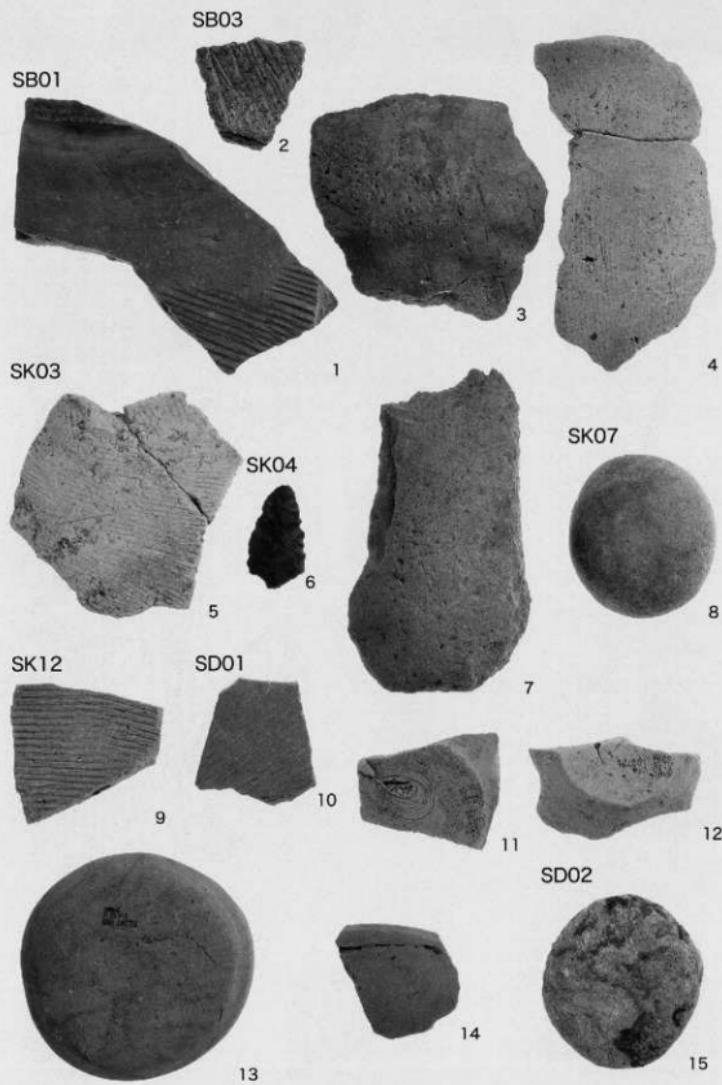
図版105 宗守II遺跡4地区の遺物 (2) (S=1:2)



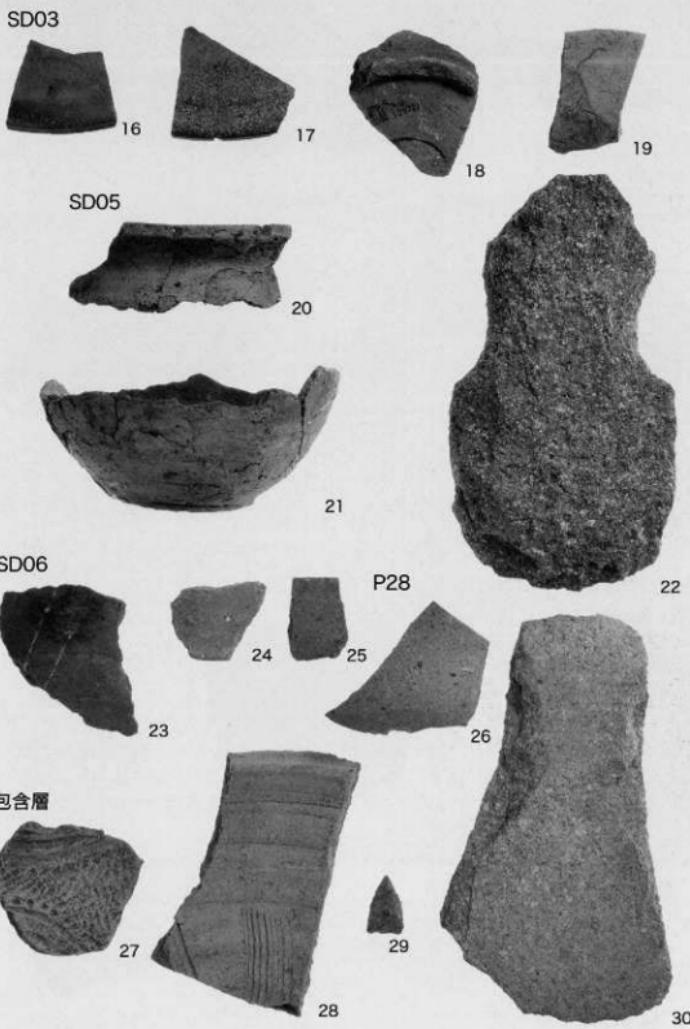
図版106 宗守II遺跡4地区の遺物 (3) (S=1:2)



図版107 宗守II遺跡4地区の遺物(4) (S=1:2)



図版108 宗守II遺跡5地区の遺物 (1) (S=1 : 2)



図版109 宗守II遺跡5地区の遺物 (2) (S=1:2)

SI01



1



2



3

SK01



4

SK02



5



6



7



8



SK07

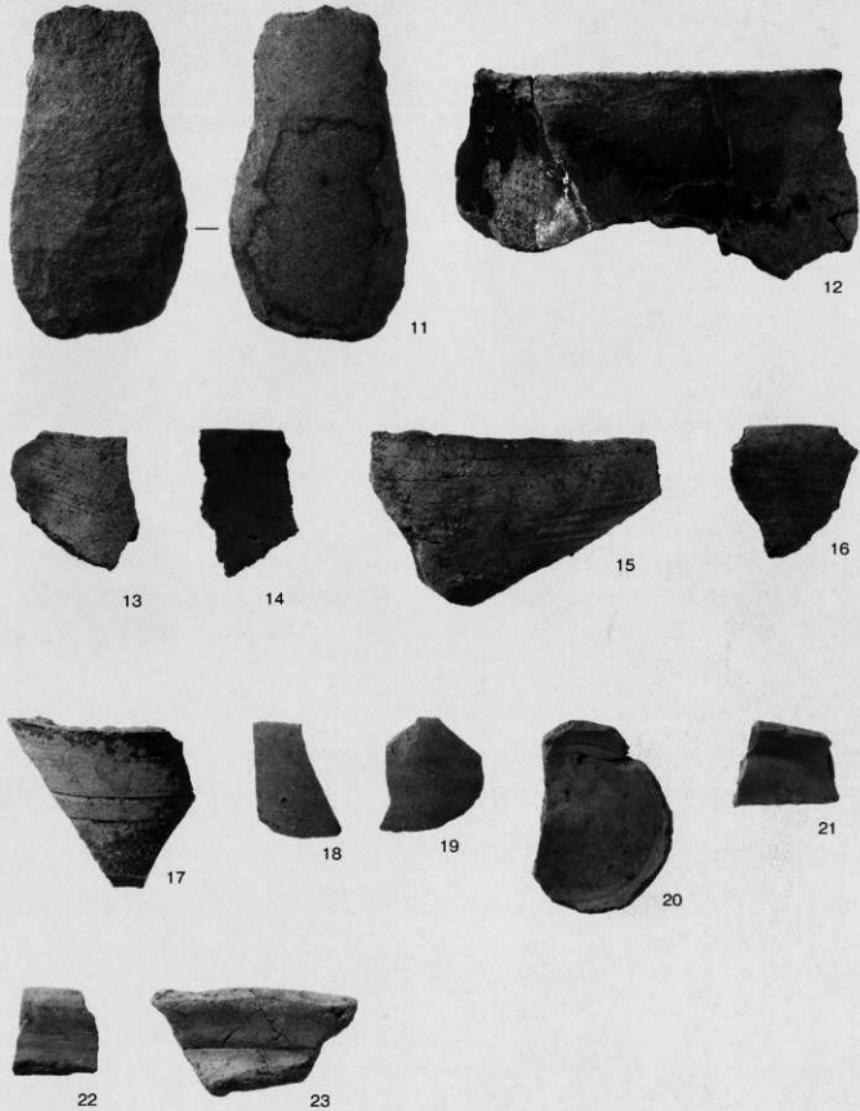
9



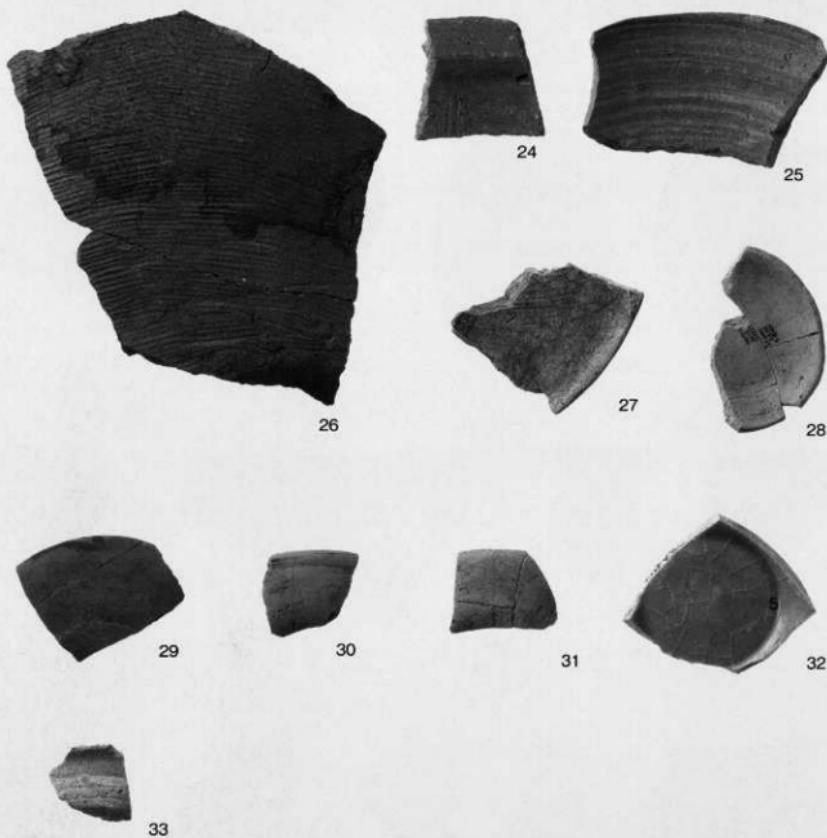
10

図版110 宗守II遺跡6地区の遺物 (1)

包含層



図版111 宗守II遺跡6地区の遺物(2)



図版112 宗守II遺跡6地区の遺物 (3)

SX01



2



1



4



3



6



7



8

SP07



5



9



10



11

SP16



15

SP02



12

SP15



13

SP16



14

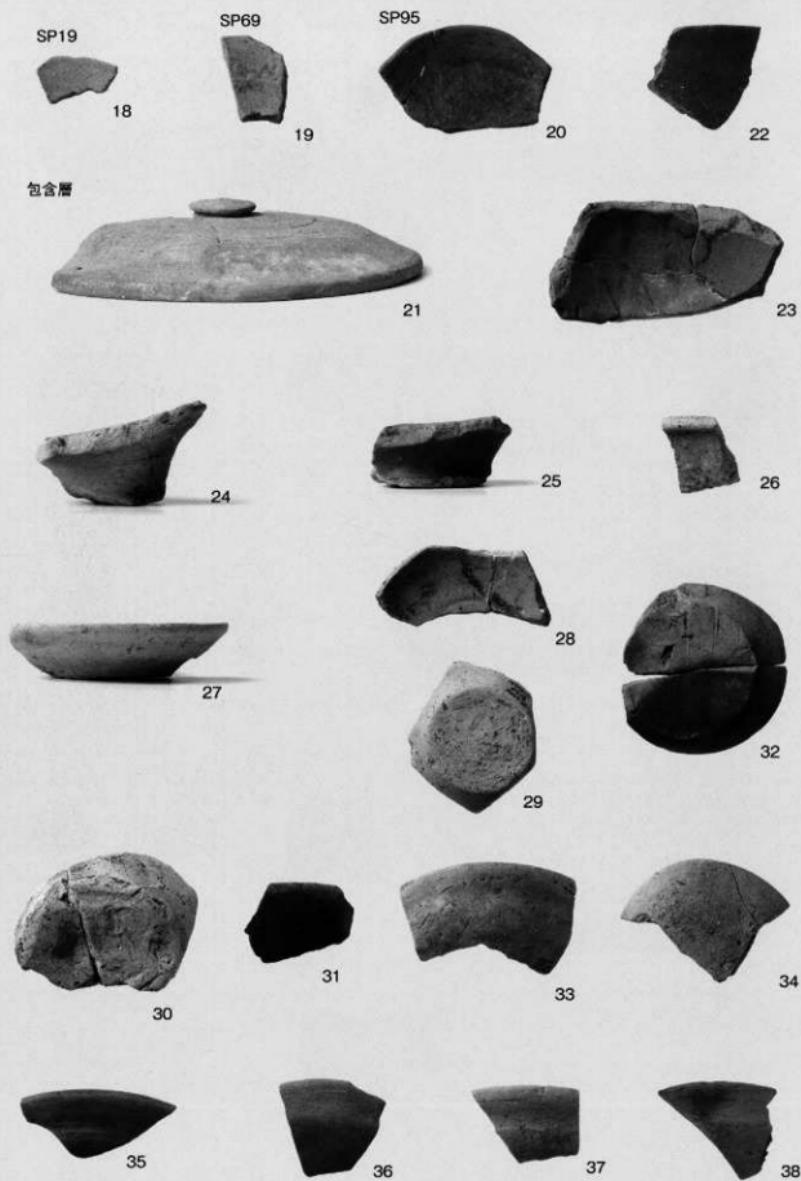


16

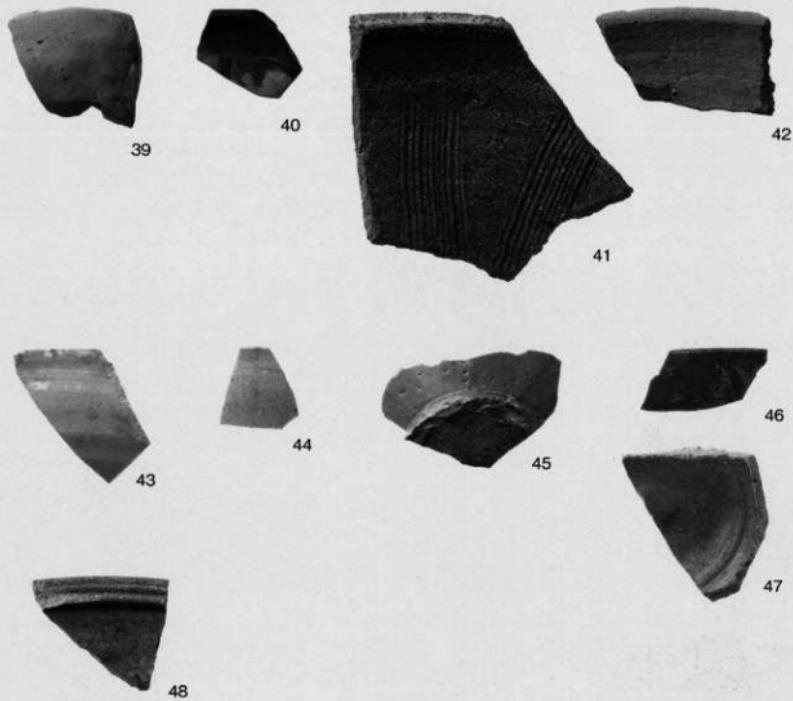


17

図版113 宗守II遺跡7地区の遺物 (1)



図版114 宗守II遺跡7地区の遺物 (2)



図版115 宗守II遺跡7地区の遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんなんとしだかばたけいせきむねもりにいせき けんえいほじょうせいびじぎょうきたやまだちゅうぶひがしちくにともなうまいぞうぶんか ざいほうぞううちはつくつちようさほうこく					
書名	富山県 南砺市 高畠遺跡 宗守II遺跡 一県営は場整備事業北山田中部地区にともなう埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告					
シリーズ名	南砺市埋蔵文化財調査報告書 30					
編著者名	佐藤聖子 宮崎順一郎 小川幹太 吉田寿 宮脇満 内田真一郎					
編集・発行機関	南砺市教育委員会					
所在地	〒932-0292 富山県南砺市井波 520 TEL (0763) 23-2014			南砺市教育委員会		
発行年月日	西暦 2012年3月16日					

所収遺跡名	所在地	コ一ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
高畠遺跡	富山県 なんと 南砺市 地内	16210	580	36° 33' 16"	136° 54' 47"	20080916~20081219 20090924~20100215 20091119~20100215 20110916~20111201	1,470 m ² 1,062 m ² 767 m ² 1,064 m ²	県営は場整備事業
宗守II遺跡	富山県 なんと 南砺市 地内	16210	578	36° 33' 15"	136° 54' 29"	20090713~20090925 20090914~20091104 20090910~20091204 20090903~20091210 20100624~20100831 20100720~20100910 20100921~20101119	2,116 m ² 1,116 m ² 1,450 m ² 2,424 m ² 2,046 m ² 430 m ² 880 m ²	県営は場整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				
高畠遺跡	集落	縄文	土坑	打製石器、縄文土器				
		弥生	穴、溝	弥生土器				
		古代	堅穴住居、掘立柱建物、柱穴、土坑 河跡、溝	須恵器、土師器、鉄製品				
		中世		中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃				
		近世	土坑	近世陶磁器				
宗守II遺跡	集落	縄文	穴	打製石器、縄文土器				
		弥生		弥生土器				
		古代	堅穴住居、掘立柱建物、柱穴、土坑 溝	須恵器、土師器				
		中世	掘立柱建物、溝、柱穴、土坑	中世土師器、珠洲、青磁、白磁、瀬戸美濃、木製品、石製品				
		近世		近世陶磁器、錢貨				

県営ほ場整備事業北山田中部東地区
に伴う埋蔵文化財包藏地の発掘調査報告

富山県南砺市 高畠遺跡 宗守Ⅱ遺跡

平成24年3月

編集 南砺市教育委員会

発行 南砺市教育委員会

印刷 牧印刷株式会社

